

栃木県埋蔵文化財調査報告第 375 集

野高谷薬師堂遺跡

- 宇都宮テクノポリスセンター地区開発に伴う埋蔵文化財発掘調査 -

2015.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

の ご や や く し どう

野高谷薬師堂遺跡

— 宇都宮テクノポリスセンター地区開発に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2015.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

序

野高谷薬師堂遺跡は、栃木県の県央部、宇都宮市東端部に位置しています。宇都宮市は県庁所在地であり、関東平野の中北部に位置しています。市内には鬼怒川、田川、姿川などの河川が南流しており、古くから豊富な水量を利用した農業が盛んに行われていました。また最近では市の東部に大規模な内陸型工業団地が開発され、1984年（昭和59年）には関東地方では唯一「テクノポリス」に地域指定されるなど工業都市としての顔を持つようになり、国内でも有数の地域商工業都市として発展を遂げております。

このたび、独立行政法人都市再生機構が実施する「宇都宮テクノポリスセンター地区」の土地区画整理事業に先立ち、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。

その結果、中世墓地と推定される遺構群や近世の集落跡などが確認され、中世以降の良好な資料を得ることができました。

本報告書は、野高谷薬師堂遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました独立行政法人都市再生機構、宇都宮市教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成27年3月

栃木県教育委員会
教育長 古澤 利通

例 言

- 1 本書は独立行政法人都市再生機構（旧都市基盤整備公団）による宇都宮テクノポリスセンター地区土地区画整理事業に伴い、発掘調査が実施された野高谷薬師堂遺跡（宇都宮市野高谷町 657 他）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は独立行政法人都市再生機構から委託を受け、平成 11 年度～平成 22 年度については宇都宮市教育委員会が実施した。また平成 23 年度～平成 26 年度の整理・報告書作成作業は同機構から委託を受け、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本書の編集は公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターの田代隆及び江原英が行った。編集に当たっては、栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会の他、荒川善夫、江田郁夫、今平利幸、大塚雅之、齋藤弘、鈴木泰浩の各氏にご指導をいただいた。また、陶磁器の分類等は武川夏樹氏に、砥石等の石材については布川嘉英氏にご協力をいただいたほか、陶磁器等について池田敏宏の協力を得た。
- 4 野高谷薬師堂遺跡に関わる発掘調査及び整理報告書作成作業は以下の担当者により実施された。

発掘調査 宇都宮市教育委員会

平成 11 年度	大塚雅之・高野欣哉	平成 11 年 11 月 1 日～2 月 29 日
平成 13 年度	大塚雅之・須田浩太郎	平成 13 年 5 月 1 日～平成 14 年 3 月 15 日
平成 14 年度	大塚雅之・塚田文雄・須田浩太郎	平成 14 年 5 月 13 日～平成 15 年 2 月 6 日
平成 15 年度	塚田文雄・須田浩太郎	平成 15 年 10 月 17 日～平成 16 年 3 月 9 日
平成 16 年度	塚田文雄・須田浩太郎	平成 16 年 7 月 5 日～平成 17 年 3 月 15 日
平成 17 年度	須田浩太郎	平成 17 年 4 月 11 日～平成 18 年 3 月 6 日
平成 18 年度	須田浩太郎	平成 18 年 7 月 4 日～平成 19 年 3 月 15 日
平成 19 年度	須田浩太郎	平成 19 年 7 月 3 日～7 月 29 日、10 月 1 日～ 12 月 27 日、2 月 5 日～2 月 29 日

整理作業 宇都宮市教育委員会

平成 13 年度～平成 22 年度に実施。

整理報告書作成作業 公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター

平成 23 年度～平成 26 年度 田代 隆 江原 英 初山孝行

- 5 発掘調査・整理作業の協力者は以下のとおりである。

（発掘調査）

阿久津宏，阿久津芳一，伊藤啓子，岩本クメ，宇田川美江，近江稔充，近江 操，大塩晴美，梶山カヲル，加藤誠吾，刈部ハキ，河上智晴，川田芳子，日下邊通子，小池徳治，小池幸子，小林 久，小林真希子，斉藤盛夫，酒井利典，坂本一好，坂本トシエ，坂本尹子，菅谷 茂，鈴木 貴，関 明美，高田悦子，田崎洋子，田中大亮，塚田浩平，直井邦夫，直井竣亮，直井マスエ，中村雅子，仲山正夫，長谷川智彦，半田 弘，檜山一雄，桧山ミイ，福島千代子，藤田信雄，藤原明美，古澤武男，古澤千代，古澤マツノ，増渕アイ子，増渕勝二，増渕ノブ，増渕教朗，村上アイ，森島時枝，横堀きみ子，阿久津和宏，大宮司克己，菱沼朋伸，渡辺雅也

（整理作業）

石川篤子，上野とも子，高橋恵子，山形浩子，赤羽直美，鈴木まち代，田中朱美，佐々木啓子，生出栄子，

浜野真知子, 松本れい子, 河上幸子, 黒須博子, 渡辺恵美子, 篠原かほ, 須藤公子, 酒井秀実,
池田ひとみ, 生内千春, 橋本麻美, 白井美智子, 赤羽根潤子, 石田静枝, 高久玲子, 田村範子, 坪山さわ香,
根本明美, 深沢 恵, 和田恵美

- 6 遺跡の概要は一部公表されているが、本書をもって正式報告とする。
- 7 本遺跡の出土遺物、実測図、図版等は宇都宮市教育委員会で保管している。
- 8 遺構の略号は掘立柱柱穴列：SA、掘立柱建物：SB、溝：SD、井戸：SE、竪穴建物：SI、地下式坑・土坑：SK、不明遺構：SX とした。本書では発掘調査時に発番された遺構番号を踏襲した。
- 9 遺跡の測量は日本測地系で実施した。世界測地系での数値は表示していない。テクノポリスセンター地区の座標値は第3図地形と遺跡範囲に、野高谷薬師堂遺跡の座標値は第5図野高谷薬師堂遺跡地区割り図に示した。また、テクノポリスセンター地区では開発区全体にグリッドを設定した。このうち野高谷薬師堂遺跡に関わる部分では東西方向がオ3～ケ4まで、南北方向がD5～I10まで、それぞれ10mのグリッドを設定した。遺物一覧表等ではオ3D5などの表記がされているが、これは東西南北のグリッド番号を組み合わせた表記となっている。
- 10 遺構の縮尺はSA、SBが平面断面とも1/60あるいは1/80、SDが平面図1/120、断面図1/60、SE、SI、SK、SXが平面断面とも1/60で示した。また、溝のうち、遺跡の中心を区画する大区画溝については、第13図1～125に示した位置で断面図を作成し、断面図は1/60で表示した。
なお、各遺構の位置を示す配置図は、DVD所収の全体をブロック分けした1/100全体図及び1/500全体図中に示した。
また、遺物の縮尺は、陶磁器・土師質土器・土器・土製品・板碑・硯・砥石・石鉢・金属製品・木製品1/3、銭貨2/3、石臼・茶臼1/4、内耳土器・五輪塔1/5、縄文時代の石器は2/3、1/3、1/4で表示した。
- 11 遺物番号は掲載遺物に通し番号を発番して管理している。大半が遺構覆土内から出土したもので、確実に遺構に伴うことが判断できるものは少数である。遺物実測図、遺物一覧表、写真図版などの遺物番号はこの通し番号により表示した。

目次

序	
例言	i
目次	iii
第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の経過	9
第3節 調査の方法	9
第2章 遺跡の環境	10
第1節 地理的環境	10
第2節 歴史的環境	12
第3章 確認された遺構	23
第1節 溝	23
第2節 地下式坑	80
第3節 井戸	130
第4節 方形竪穴遺構	162
第5節 掘立柱柱穴列	172
第6節 掘立柱建物跡	177
第7節 土坑	193
第4章 確認された遺物	394
第5章 総括	521

写真図版

(別添 DVD)

遺構配置図
遺構計測表
遺物観察表
土層注記一覧

挿図目次

第 1 図 宇都宮テクノポリスセンター地区の位置 … 1	第 50 図 地下式坑 (4) SK105・203・205・ 211・212・214 ……………92
第 2 図 センター地区の開発区 …………… 2	第 51 図 地下式坑 (5) SK178・179・ 218・235・561 ……………93
第 3 図 地形と遺跡範囲 …………… 3	第 52 図 地下式坑 (6) SK238・240・885 ……………94
第 4 図 野高谷薬師堂遺跡 調査地区の位置 …………… 4	第 53 図 地下式坑 (7) SK221・242・246・ 263・313……………95
第 5 図 野高谷薬師堂遺跡 グリッド図 …………… 5・6	第 54 図 地下式坑 (8) S K 264・265・ 277・338・339……………96
第 6 図 野高谷薬師堂遺跡 種類別遺構分布図 … 7・8	第 55 図 地下式坑 (9) SK368・369・370・ 389・393・430……………97
第 7 図 栃木県地形図 ……………11	第 56 図 地下式坑 (10) S K 391・392・ 490・491……………98
第 8 図 微高地上の地形と宅地・墓地の位置 … 13・14	第 57 図 地下式坑 (11) SK428・433・645 ……………99
第 9 図 野高谷薬師堂遺跡周辺の地形 ……………15	第 58 図 地下式坑 (12) SK489・568・599・ 604・609……………100
第 10 図 米軍航空写真 ……………18	第 59 図 地下式坑 (13) SK500・501・639・ 641 ……………101
第 11 図 周辺の遺跡 ……………20	第 60 図 地下式坑 (14) SK573・610・640・ 646・648・655・686……………102
第 12 図 宝積寺台地と中世城館 ……………22	第 61 図 地下式坑 (15) SK647・648・654・ 658・822・840・851……………103
第 13 図 墓地の区画 溝断面図の位置(1~125)… 27・28	第 62 図 地下式坑 (16) SK688・724・873・ 880・890……………104
第 14 図 SD20・25・26・27・50 交差点の断面図の位置図 ……………29	第 63 図 地下式坑 (17) SK820・821・868・ 870・871……………105
第 15 図 区画溝 (1) ……………30	第 64 図 地下式坑 (18) SK818・877・881・ 869・938……………106
第 16 図 区画溝 (2) ……………31	第 65 図 地下式坑 (19) SK1001・1002・ 1006・1008・1023……………107
第 17 図 区画溝 (3) ……………32	第 66 図 地下式坑 (20) SK1003・1007・ 1058・1066・1067・1068……………108
第 18 図 区画溝 (4) ……………33	第 67 図 地下式坑 (21) SK1022・1069・ 1074・1075・1076……………109
第 19 図 区画溝 (5) ……………34	第 68 図 地下式坑 (22) SK1062・1063・ 1070・1451……………110
第 20 図 区画溝 (6) ……………35	第 69 図 地下式坑 (23) SK1080・1083・ 1084・1093・1096・1097……………111
第 21 図 野高谷薬師堂遺跡 溝の位置図 ……………37	第 70 図 地下式坑 (24) SK1095・1098・ 1111・1124・1132……………112
第 22 図 溝 (1) SD07・08・09・10・14 ……………51	第 71 図 地下式坑 (25) SK1133・1169・ 1176・1194・1255・1277……………113
第 23 図 溝 (2) SD11・16・31 ……………52	第 72 図 地下式坑 (26) SK1190・1269・ 1272・1279・1289……………114
第 24 図 溝 (3) SD13・29 ……………53	第 73 図 地下式坑 (27) SK1325・1345・ 1363・1372・1411・1638……………115
第 25 図 溝 (4) SD18・19・21 ……………54	第 74 図 地下式坑 (28) SK1412・1424・ 1432・1437・1438・1460……………116
第 26 図 溝 (5) SD22・30・51 ……………55	第 75 図 地下式坑 (29) SK1439・1468・ 1469・1473・1479・1480……………117
第 27 図 溝 (6) SD12・51 ……………56	第 76 図 地下式坑 (30) SK1483・1484・ 1485・1486・1491・1498……………118
第 28 図 溝 (7) SD20・26・27 ……………57	第 77 図 地下式坑 (31) SK1519・1520・
第 29 図 溝 (8) SD33・34・39 ……………58	
第 30 図 溝 (9) SD36 ……………59	
第 31 図 溝 (10) SD37・38 ……………60	
第 32 図 溝 (11) SD40・58 ……………61	
第 33 図 溝 (12) SD41・45 ……………62	
第 34 図 溝 (13) SD43・47 ……………63	
第 35 図 溝 (14) SD44・48 ……………64	
第 36 図 溝 (15) SD26・50・53・54・55……………65	
第 37 図 溝 (16) SD56・57 ……………66	
第 38 図 溝 (17) SD59・60・65・66……………67	
第 39 図 溝 (18) SD61・62・63・64……………68	
第 40 図 溝 (19) SD01・69・70……………69	
第 41 図 溝 (20) SD71・72……………70	
第 42 図 溝 (21) SD73・74……………71	
第 43 図 溝 (22) SD75・5021……………72	
第 44 図 溝 (23) SD5002・5003・5014……………73	
第 45 図 溝 (24) SD5002・5015・5031・ 5032・5101・5106・5147……………76	
第 46 図 溝 (25) SD5043・5088……………79	
第 47 図 地下式坑 (1) SK06・07・20・ 23・24・25……………89	
第 48 図 地下式坑 (2) SK11・1078・1079……………90	
第 49 図 地下式坑 (3) SK27・80・97・ 138・155・201……………91	

第 78 图	1644・1758・1794 …………… 119 地下式坑 (32) SK1929・1938・ 1941・1956・1957 …………… 120	第 108 图	井戸 (21) SE152・155・158・159・ 160・162・167・168 …………… 157
第 79 图	地下式坑 (33) SK1958・1960・ 1963・1965・1967 …………… 121	第 109 图	井戸 (22) SE153・156 …………… 158
第 80 图	地下式坑 (34) SK1421・1966・1968・ 1969・1973・1974・3142 …………… 122	第 110 图	井戸 (23) SE161・163・164・166 …… 159
第 81 图	地下式坑 (35) SK3162・3543・ 3544・3548 …………… 123	第 111 图	井戸 (24) SE165 …………… 160
第 82 图	地下式坑 (36) SK3550・3589・ 3735 …………… 124	第 112 图	井戸 (25) SE5091・5185 …………… 161
第 83 图	地下式坑 (37) SK3555・3556 …………… 125	第 113 图	竖穴遺構 (1) SK95・236・572・ 637・2168・2181 …………… 165
第 84 图	地下式坑 (38) SK3556・3557・ 3558 …………… 126	第 114 图	竖穴遺構 (2) SK2034・2175 …………… 166
第 85 图	地下式坑 (39) SK3578・3647 …………… 127	第 115 图	竖穴遺構 (3) SK2178・2196・ 2212・2213・2235 …………… 167
第 86 图	地下式坑 (40) SK3645・3650 …………… 128	第 116 图	竖穴遺構 (4) SK2359・2361・ 2363・2412 …………… 168
第 87 图	地下式坑 (41) SK3681・3682・ 3686 …………… 129	第 117 图	竖穴遺構 (5) SK3601・3604・ 3621 …………… 169
第 88 图	井戸 (1) SE01・02・03・04・05・ 09・10 …………… 137	第 118 图	竖穴遺構 (6) SK3615・3617・ 3618 …………… 170
第 89 图	井戸 (2) SE06・07・08・11・12・ 14・18 …………… 138	第 119 图	竖穴遺構 (7) SK3623 …………… 171
第 90 图	井戸 (3) SE13・102 …………… 139	第 120 图	掘立柱柱穴列 (1) SA07・5149 …………… 173
第 91 图	井戸 (4) SE15・16・17・19・20・ 21 …………… 140	第 121 图	掘立柱柱穴列 (2) SA5157・5176・5177・ 5178 …………… 174
第 92 图	井戸 (5) SE22・23・24・25・26・ 27・28・29・30 …………… 141	第 122 图	掘立柱柱穴列 (3) SA5038・5039・ 5040・5041・5045 …………… 175・176
第 93 图	井戸 (6) SE31・32・33・34・38・ 39・60 …………… 142	第 123 图	掘立柱建物跡 (1) SB01・02・03 …… 180
第 94 图	井戸 (7) SE37・128 …………… 143	第 124 图	掘立柱建物跡 (2) SB03・05 …………… 181
第 95 图	井戸 (8) SE40・41・42・44 …………… 144	第 125 图	掘立柱建物跡 (3) SB04 …………… 182
第 96 图	井戸 (9) SE19・43・45・46・50・ 51・52・53・54・56 …………… 145	第 126 图	掘立柱建物跡 (4) SB06 …………… 183
第 97 图	井戸 (10) SE57・58・59・61・62・ 64・66 …………… 146	第 127 图	掘立柱建物跡 (5) SB08・5152 …………… 184
第 98 图	井戸 (11) SE65・67・68・69・70・ 71・72・74・76 …………… 147	第 128 图	掘立柱建物跡 (6) SB5135 …………… 185
第 99 图	井戸 (12) SE73・75・78・79・80・ 81・82 …………… 148	第 129 图	掘立柱建物跡 (7) SB5150 …………… 186
第 100 图	井戸 (13) SE83・84・85・86・87・ 88・89・90・92・95 …………… 149	第 130 图	掘立柱建物跡 (8) SB5151 …………… 187
第 101 图	井戸 (14) SE91・93・94・96・97・ 98・99・100 …………… 150	第 131 图	掘立柱建物跡 (9) SB5153・5159 …… 188
第 102 图	井戸 (15) SE101・103・104・105・ 106・107・108・109・112・114・ 115・116 …………… 151	第 132 图	掘立柱建物跡 (10) SB5160・ 5161・5164 …………… 189
第 103 图	井戸 (16) SE117・118・119・120・ 121・122・123・124 …………… 152	第 133 图	掘立柱建物跡 (11) SB5165・5166 …… 190
第 104 图	井戸 (17) SE125・126・127・129・ 130・131・132 …………… 153	第 134 图	掘立柱建物跡 (12) SB5168・5169 …… 191
第 105 图	井戸 (18) SE133・134・135・136・ 137・138・139・140 …………… 154	第 135 图	掘立柱建物跡 (13) SB5172 …………… 192
第 106 图	井戸 (19) SE141・142・143・144・ 145・146・147・148・150 …………… 155	第 136 图	土坑 (1) SK01～04・08・10・ 12～16・18・19・21・28～30 …… 200
第 107 图	井戸 (20) SE149・151・154・157 …… 156	第 137 图	土坑 (2) SK17・22・26・32・33・ 41・42・156～158・262・306・ 386～388・401～403・579・ 581・944 …………… 201
		第 138 图	土坑 (3) SK34～39・43・44・ 60・65・104・139・329 …………… 202
		第 139 图	土坑 (4) SK40・45～47・49～ 57・64 …………… 203
		第 140 图	土坑 (5) SK48・49・58・59・ 61～63・66～68・73～76・ 81・249～254 …………… 204
		第 141 图	土坑 (6) SK69～72・77・79・ 82～85・87～90・94・159・ 261・382・383 …………… 205
		第 142 图	土坑 (7) SK78・86・93・96・ 98～101・106～108・119・

	320・323・345・396・397・ 584・934.....	206		539・559・560・887・895	222
第 143 图	土坑 (8) SK102・103・109・ 110・112~114・116~118・ 120~123・136・143・144・ 151・375.....	207	第 159 图	土坑 (24) SK528・530~537・ 540~554・564・894	223
第 144 图	土坑 (9) SK124・126~134・ 140~142・145~149・154・ 161・162・330・366	208	第 160 图	土坑 (25) SK555~557・562・563・ 567・574~577・583・585・587・ 588・714~716	224
第 145 图	土坑 (10) SK135・152・153・ 163~167・173・174・336・ 353・361・381・712・841・843	209	第 161 图	土坑 (26) SK586・589・591~598・ 600・602・603・607・733・735・ 964	225
第 146 图	土坑 (11) SK168・170~172・ 180~195・327	210	第 162 图	土坑 (27) SK605・606・608・614~ 624・626・627・633~835・900・ 958	226
第 147 图	土坑 (12) SK196~200・202・ 204・207~209・213・215~217・ 219・223・234・442・444・445・ 477~479	211	第 163 图	土坑 (28) SK628~632・635・ 636・638・642~644・649・ 651・1041	227
第 148 图	土坑 (13) SK220・222・224・225・ 231・232・244・259・260・268・ 271・650・755~757・762・771	212	第 164 图	土坑 (29) SK652・659・665~671・ 679・770・773~775	228
第 149 图	土坑 (14) SK233・255~257・275・ 276・278・279・290・291・297・ 298・300・653・656・657・799・ 867・919・962・963	213	第 165 图	土坑 (30) SK672~678・680~684・ 687・689~691	229
第 150 图	土坑 (15) SK266・267・272・274・ 280~285・292・293・299・302・ 569・570・913・914・918・959・ 960・979~981・983	214	第 166 图	土坑 (31) SK692~704・706	230
第 151 图	土坑 (16) SK286~288・289・ 294~296・301・303~305・307・ 309・331~334・399・590・660・ 945・946・953~955・732.....	215	第 167 图	土坑 (32) SK705・708~711・713・ 717・719・721~723・725~728・ 731・866.....	231
第 152 图	土坑 (17) SK312・314~319・324・ 325・328・335・337・340~342・ 344・346・474・475・685・1647.....	216	第 168 图	土坑 (33) SK729・730・734・ 736~738・740~744・747・748・ 750・1608・1634・1646	232
第 153 图	土坑 (18) SK347~352・357~ 360・364・365・367・371~374・ 394・398・400・414・417・418・ 482・1870	217	第 169 图	土坑 (34) SK751~754・758~761・ 763・766~769・772・777・778・ 782	233
第 154 图	土坑 (19) SK377~380・395・ 404~413・416・419・483・485・ 838・839.....	218	第 170 图	土坑 (35) SK776・779~781・ 783~791・872・930・933.....	234
第 155 图	土坑 (20) SK415・420~427・429・ 431・432・439~441・450・473・ 497・764.....	219	第 171 图	土坑 (36) SK792~798・800~806...	235
第 156 图	土坑 (21) SK443・446~449・451・ 468・470・471・476・480・481・ 486~488・495・521~523・849・ 1650	220	第 172 图	土坑 (37) SK807~816・824・ 826・834・836.....	236
第 157 图	土坑 (22) SK452~467・469・472・ 496・498・499・511・512・515・ 516・612・886.....	221	第 173 图	土坑 (38) 827~833・837・ 841~848・850・857・982.....	237
第 158 图	土坑 (23) SK502~510・513・514・ 516~519・524~527・529・538・		第 174 图	土坑 (39) SK852~856・ 858~865・875・882・1592	238
			第 175 图	土坑 (40) SK876・878・879・ 883・884・888・889・891~893・ 896~899・901・902・904~909・ 1587・1611	239
			第 176 图	土坑 (41) SK915・920~929・ 935~937・941~943・948・ 949	240
			第 177 图	土坑 (42) SK950~952・956・957・ 966~971・974~978・984~987・ 1443	241
			第 178 图	土坑 (43) SK988~992・994~ 1000・1005・1009~1011・ 1027・1248・1249・1285~ 1287	242
			第 179 图	土坑 (44) SK1012~1016・1018~ 1021・1025・1026・1031~1034・ 1038・1039・1043・1482	243

第 180 图	土坑 (45) SK1028・1029・1035・ 1037・1040・1044・1045・1056・ 1057・1060・1071・1072・1251・ 1283・1572	244	第 197 图	土坑 (62) SK1388～1391・1393・ 1394・1401～1406・1426・1428・ 1463・1465	261
第 181 图	土坑 (46) SK1046～1055・1064・ 1065・1070・1082・1085～1087・ 1090・1104・1136・1177・1181・ 1184	245	第 198 图	土坑 (63) SK1407～1410・1413・ 1415・1416・1418・1419・1422・ 1423・1429・1455・1626	262
第 182 图	土坑 (47) SK1094・1099～1103・ 1105～1108・1110・1112・1118・ 1119・1182・1183・1185・1229・ 1524	246	第 199 图	土坑 (64) SK1430・1431・1435・ 1436・1441・1442・1444・1452・ 1454・1455・1458・1459・1464・ 1472・1476・1478・1488・1489・ 1845・1846	263
第 183 图	土坑 (48) SK1113～1117・1121～ 1123・1125～1129・1131・1134・ 1143・1178・1228	247	第 200 图	土坑 (65) SK1490・1492～1496・ 1499～1504	264
第 184 图	土坑 (49) SK1135・1137～1142・ 1144・1146～1149・1151・1152・ 1154・1513・1525・1570・1571	248	第 201 图	土坑 (66) SK1505・1507～1509・ 1514・1517・1518・1526・1531・ 1532・1534・1541・1582	265
第 185 图	土坑 (50) SK1153・1155～1162・ 1165・1170～1173・1204	249	第 202 图	土坑 (67) SK1529・1530・1533・ 1535～1540・1542・1543・ 1586	266
第 186 图	土坑 (51) SK1163・1164・1166～ 1168・1174・1175・1179・1180・ 1200・1203・1205・1206・1290・ 1594	250	第 203 图	土坑 (68) SK1544～1550・1553～ 1558・1588	267
第 187 图	土坑 (52) SK1186～1193・1207～ 1209・1214・1215・1296・1297・ 1477	251	第 204 图	土坑 (69) SK1551・1552・1559・ 1561～1569・1573・1574	268
第 188 图	土坑 (53) SK1195・1196・1198・ 1199・1201・1202・1216～ 1220・1224～1227・1302・ 1466・1467	252	第 205 图	土坑 (70) SK1575～1580・1583・ 1589・1591・1600・1601・1603	269
第 189 图	土坑 (54) SK1210～1213・ 1221～1223・1230～1240・ 1304～1306	253	第 206 图	土坑 (71) SK1596～1598・1602・ 1604・1606・1607・1609・1610・ 1613～1616・1621～1625	270
第 190 图	土坑 (55) SK1241・1243～1247・ 1250・1252・1253・1263・1267・ 1446・1453・1521・1619	254	第 207 图	土坑 (72) SK1627～1633・1635・ 1636・1641・1642・1645・1648・ 1649・1651～1653	271
第 191 图	土坑 (56) SK1270・1273～1276・ 1281・1282・1288・1291～1295・ 1301・1461・1462・1475	255	第 208 图	土坑 (73) SK1639・1640・1654～ 1666・1669・1670・1672・1673・ 3541	272
第 192 图	土坑 (57) SK1298～1300・ 1303・1307～1319・1456・ 1457・1474	256	第 209 图	土坑 (74) SK1671・1674～1686・ 1689・1817・1818	273
第 193 图	土坑 (58) SK1320～1323・1326～ 1336・1343	257	第 210 图	土坑 (75) SK1687・1688・1690～ 1702・1787・1788・1822～1824・ 3049・3050	274
第 194 图	土坑 (59) SK1337～1342・1344・ 1347～1350・1352～1355・1361・ 1618	258	第 211 图	土坑 (76) SK1703～1717・1721・ 1773・1819・1820・3009	275
第 195 图	土坑 (60) SK1356・1358～1360・ 1362・1364～1370・1377・ 1379・1380・1440・1447～ 1449・1470	259	第 212 图	土坑 (77) SK1718～1720・1722～ 1729・1735～1737・1759・ 1762・1764・1776・1780・ 1827～1829	276
第 196 图	土坑 (61) SK1374～1376・1378・ 1381～1386・1395～1400・1425・ 1471・1497・1620	260	第 213 图	土坑 (78) SK1730～1734・1738～ 1748・1771・3129	277
			第 214 图	土坑 (79) SK1749～1753・1755～ 1757・1760・1761・1765～1770・ 1772	278
			第 215 图	土坑 (80) SK1774・1777～ 1779・1781～1786・1789～ 1793・1798	279
			第 216 图	土坑 (81) SK1796・1797・1799～ 1806・3511・3517・3527・3540	

	3542・3545	280		2234・2237～2245・2250	303
第 217 图	土坑 (82) SK1807～1816・1821・ 1825・1826・1831・1832・1834～ 1839・1847・1848	281	第 240 图	土坑 (105) SK2252・2254～ 2272	304
第 218 图	土坑 (83) SK1840～1844・1853～ 1860・1862～1869・1871	282	第 241 图	土坑 (106) SK2274～2283・2293・ 2299	305
第 219 图	土坑 (84) SK1872～1890	283	第 242 图	土坑 (107) SK2284～2292・ 2294・2295・2297・2298・ 2300～2303	306
第 220 图	土坑 (85) SK1891～1897・1900～ 1904・1906・1907・1910	284	第 243 图	土坑 (108) SK2304～2312・ 2314・2315・2317～2321・ 2326・2327	307
第 221 图	土坑 (86) SK1905・1908・1909・ 1911～1920・1932・1961	285	第 244 图	土坑 (109) SK2322～2325・2328～ 2333・2335・2336・2338	308
第 222 图	土坑 (87) SK1921～1928・1930・ 1931・1934・1943・1944	286	第 245 图	土坑 (110) SK2334・2337・2339・ 2343～2345・2348・2353・2355・ 2390・2416	309
第 223 图	土坑 (88) SK1933・1935～1937・ 1939・1940・1942・1945～1949・ 1952～1955・1970	287	第 246 图	土坑 (111) SK2340～2342・2346・ 2347・2349・2351・2352・2354・ 2356～2358・2362・2365・2366・ 2368・2369	310
第 224 图	土坑 (89) SK1950・1959・1962・ 1964・1971・1972・1975～1984・ 1986・1987	288	第 247 图	土坑 (112) SK2364・2367・2371～ 2375・2378・2379・2382・2383・ 2385～2387	311
第 225 图	土坑 (90) SK1988～1999・2001	289	第 248 图	土坑 (113) SK2377・2384・ 2388・2389・2391～2399・ 2409・2413	312
第 226 图	土坑 (91) SK2002～2015・2022・ 2023	290	第 249 图	土坑 (114) SK2400～2404・2406・ 2408・2411・2415・2417・2419・ 2420	313
第 227 图	土坑 (92) SK2016～2019・2021・ 2025～2027・2029・2030・2032・ 2035・2037・2051・2085・2103・ 2104	291	第 250 图	土坑 (115) SK2418・2421・2428・ 2429・2500～2507	314
第 228 图	土坑 (93) SK2036・2038～2041・ 2043～2050・2052・2105・2313・ 2769・2771・2772	292	第 251 图	土坑 (116) SK2508～2522	315
第 229 图	土坑 (94) SK2042・2053～2061・ 2063～2065・2068・2069・2071・ 2100	293	第 252 图	土坑 (117) SK2523～2532・2535・ 2537・2539・2542～2545	316
第 230 图	土坑 (95) SK2066・2067・2072～ 2084・2086・2092	294	第 253 图	土坑 (118) SK2533・2534・2538・ 2540・2541・2546～2551・2555・ 2556・2559・2561・2620・2714	317
第 231 图	土坑 (96) SK2087～2091・ 2093～2099・2101・2102・ 2106～2108	295	第 254 图	土坑 (119) SK2552～2554・2558・ 2562～2568・2626	318
第 232 图	土坑 (97) SK2109～2117・2119～ 2123・2125・2143	296	第 255 图	土坑 (120) SK2569～2582・2585・ 2586・2588	319
第 233 图	土坑 (98) SK2124・2126・2128～ 2132・2134～2139・2146・2147・ 2316	297	第 256 图	土坑 (121) SK2583・2584・2587・ 2589～2598	320
第 234 图	土坑 (99) SK2141・2142・2144・ 2145・2148～2156	298	第 257 图	土坑 (122) SK2599～2602・2604～ 2613・2656・2723	321
第 235 图	土坑 (100) SK2157～2167・2169・ 2170・2182	299	第 258 图	土坑 (123) SK2615～2619・2621～ 2625・2627～2630	322
第 236 图	土坑 (101) SK2171～2174・2176・ 2177・2180・2183～2188・2209・ 2247・2248・2251・2253	300	第 259 图	土坑 (124) SK2631～2641・2644・ 2645	323
第 237 图	土坑 (102) SK2189～2192・2194・ 2197～2204・2206・2207	301	第 260 图	土坑 (125) SK2642・2646～2655・ 2658～2660	324
第 238 图	土坑 (103) SK2205・2208・2210・ 2211・2214～2225・2229～ 2231	302	第 261 图	土坑 (126) SK2661～2680	325
第 239 图	土坑 (104) SK2226～2228・2232～ 2234・2237～2245・2250	303	第 262 图	土坑 (127) SK2681～2683・2685～ 2692・2695～2697	326
			第 263 图	土坑 (128) SK2693・2694・2698～	

2709・2711～2713	327	3131・3133～3138・3150	350
第264图 土坑(129) SK2710・2715～2722・2724～2732・2852・4087	328	第287图 土坑(152) SK3139～3141・3144～3148・3151・3154～3161・3164・3165	351
第265图 土坑(130) SK2733～2743・2750～2755	329	第288图 土坑(153) SK3166～3180・3182	352
第266图 土坑(131) SK2756・2758～2768・2770・2774～2781	330	第289图 土坑(154) SK3181・3183～3188・3191・3192・3208・3209	353
第267图 土坑(132) SK2773・2782～2795・3344～3346・3349・3350	331	第290图 土坑(155) SK3189・3190・3193～3201・3204・3206・3210～3213・3215	354
第268图 土坑(133) SK2796～2802・2804・2809～2816・2952～2954・2858	332	第291图 土坑(156) SK3214・3216～3224・3230～3235・3242・3245・3261	355
第269图 土坑(134) SK2803・2805～2808・2818・2822・2824～2833・2851・2857～2960・2969	333	第292图 土坑(157) SK3225～3229・3236～3241・3243・3244・3246～3254・3262	356
第270图 土坑(135) SK2817～2821・2823・2834～2840・2843～2845・2851・2853・2855	334	第293图 土坑(158) SK3255～3260・3263～3265・3267～3271・3275	357
第271图 土坑(136) SK2841・2842・2846～2850・2854・2856・2857・2860・2861・2866	335	第294图 土坑(159) SK3272・3274・3276～3283・3285・3286・3288～3290	358
第272图 土坑(137) SK2862・2863・2867～2876・2878・2880	336	第295图 土坑(160) SK3291～3302・3321	359
第273图 土坑(138) SK2877・2879・2881～2890	337	第296图 土坑(161) SK3303～3317	360
第274图 土坑(139) SK2891～2901・2903・2905・2930・2932	338	第297图 土坑(162) SK3318～3320・3322～3335	361
第275图 土坑(140) SK2902・2904・2906～2917	339	第298图 土坑(163) SK3336～3343・3347・3348・3500～3506・3745	362
第276图 土坑(141) SK2918～2929・2931・2933～2937	340	第299图 土坑(164) SK3506～3510・3512～3516・3520～3522	363
第277图 土坑(142) SK2938～2951・2956・2970・4092	341	第300图 土坑(165) SK3523～3526・3529～3539・3546・3547・3549・3551・3552	364
第278图 土坑(143) SK2955・2961～2968・2972～2978	342	第301图 土坑(166) SK3553・3559・3560・3562～3567・3569・3572・3573・3577・3590・3610・3656・3672	365
第279图 土坑(144) SK2979～2981・2983・2985～2992・2998～3000・3002・3005・4000・4001・4020・4069	343	第302图 土坑(167) SK3569～3571・3575・3576・3580～3588・3606・3610・3611・3652・3655	366
第280图 土坑(145) SK1730・2993～2997・3003・3004・3006～3008・3011～3015・3064～3066・3069・3129・3207	344	第303图 土坑(168) SK3591～3594・3596～3600・3602・3603・3605・3607・3609・3613・3614・3616・3651・3653・3657・3711	367
第281图 土坑(146) SK3016～3021・3023～3033・3048・3202	345	第304图 土坑(169) SK3620・3622・3624～3626・3628・3634～3636・3639・3643・3658・3659・3662・3664・3668・3669・3700・3716	368
第282图 土坑(147) SK3035～3047・3051・3053～3057・3062・3063・3067・3149	346	第305图 土坑(170) SK3630・3632・3636・3649・3663・3679・3680・3684・3688・3689・3691～3693・3717～3719・3733	369
第283图 土坑(148) SK3058～3061・3070～3084・3086・3153	347	第306图 土坑(171) SK3595・3675・3677・3694～3696・3701～3703	370
第284图 土坑(149) SK3085・3087～3097・3099・3100・3116・3163	348	第307图 土坑(172) SK3704～3710・3712・3720・3722～3724・3726～3729・3731	371
第285图 土坑(150) SK3098・3101・3102・3104～3114・3117・3118・3128・3132・3205	349		
第286图 土坑(151) SK3119～3127・3130・			

第 308 図	土坑 (173) SK3730・3732・3734・ 3738～3744・4002～4006・ 4009・4011・4021・4027・ 4045・4052 ……………	372	5143・5145・5154～5156・5162・ 5167 ……………	392	
第 309 図	土坑 (174) SK4007・4008・4017・ 4018・4026・4034・4036～4039・ 4043・4046・4050・4051・4053・ 4058～4060・4072・4088 ……………	373	第 329 図	土坑 (194) SK5163・5173～5175・ 5179・5180・5182～5184・5186・ 5231 ……………	393
第 310 図	土坑 (175) SK4010・4012～4016・ 4019・4021～4025・4044・4047～ 4049・4054・4071・4073・4074・ 4077 ……………	374	第 330 図	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器 ……	409
第 311 図	土坑 (176) SK4028～4033・4035・ 4040～4042・4055～4057・4061～ 4067 ……………	375	第 331 図	縄文時代石器 (1) 石鏃・石錐・ 有舌尖頭器・石核・石錘・打製石斧 ……	410
第 312 図	土坑 (177) SK4070・4075～4086・ 4089～4091 ……………	376	第 332 図	縄文時代石器 (2) 打製石斧・独鈷石 ……	411
第 313 図	土坑 (178) SK4094～4108・4111・ 4113 ……………	377	第 333 図	縄文時代石器 (3) 磨石・凹石 ……………	412
第 314 図	土坑 (179) SK4110・4112・4114～ 4121・4123・4125・4127・4128・ 4137～4139 ……………	378	第 334 図	縄文時代石器 (4) 石皿・石棒 ……………	413
第 315 図	土坑 (180) SK4130～4136・4140～ 4144・4146～4150 ……………	379	第 335 図	陶磁器 (1) ……………	414
第 316 図	土坑 (181) SK4145・4151～4168 ……	380	第 336 図	陶磁器 (2) ……………	415
第 317 図	土坑 (182) SK4169～4180・4185・ 4187～4189 ……………	381	第 337 図	陶磁器 (3) ……………	416
第 318 図	土坑 (183) SK4181～4184・4186・ 4190～4200 ……………	382	第 338 図	陶磁器 (4) ……………	417
第 319 図	土坑 (184) SK4201～4203・ 4205～4219 ……………	383	第 339 図	陶磁器 (5) ……………	418
第 320 図	土坑 (185) SK4220～4225・ 4233・4236～4239・5004～ 5006 ……………	384	第 340 図	陶磁器 (6) ……………	419
第 321 図	土坑 (186) SK4226～4232・ 4234・4235・5007～5013・ 5016・5017 ……………	385	第 341 図	陶磁器 (7) ……………	420
第 322 図	土坑 (187) SK5014・5019・5020・ 5022～5027・5029・5030・5111・ 5112 ……………	386	第 342 図	陶磁器 (8) ……………	421
第 323 図	土坑 (188) SK5033・5034・ 5036・5042・5047～5049・ 5051・5052・5056・5059～ 5063・5172・5181 ……………	387	第 343 図	陶磁器 (9) ……………	422
第 324 図	土坑 (189) SK5055・5064・5065・ 5067～5072・5074～5080 ……………	388	第 344 図	かわらけ (1) ……………	423
第 325 図	土坑 (190) SK5073・5081～ 5087・5089・5090・5092～ 5095・5108 ……………	389	第 345 図	かわらけ (2) ……………	424
第 326 図	土坑 (191) SK5096～5100・5103～ 5105・5107・5109・5110・5113～ 5115・5127 ……………	390	第 346 図	かわらけ (3) ……………	425
第 327 図	土坑 (192) SK5116～5126・5128～ 5132・5138 ……………	391	第 347 図	かわらけ (4) ……………	426
第 328 図	土坑 (193) SK5136・5137・5139～ 5143・5145・5154～5156・5162・ 5167 ……………	392	第 348 図	かわらけ (5) ……………	427
			第 349 図	かわらけ (6) ……………	428
			第 350 図	かわらけ (7) ……………	429
			第 351 図	かわらけ (8) ……………	430
			第 352 図	かわらけ (9) ……………	431
			第 353 図	かわらけ (10) ……………	432
			第 354 図	かわらけ (11) ……………	433
			第 355 図	かわらけ (12) ……………	434
			第 356 図	かわらけ (13) ……………	435
			第 357 図	かわらけ (14) ……………	436
			第 358 図	内耳土器 (1) ……………	437
			第 359 図	内耳土器 (2) ……………	438
			第 360 図	内耳土器 (3) ……………	439
			第 361 図	内耳土器 (4) ……………	440
			第 362 図	内耳土器 (5) ……………	441
			第 363 図	内耳土器 (6) ……………	442
			第 364 図	内耳土器 (7) ……………	443
			第 365 図	甕 ……………	444
			第 366 図	すり鉢 (1) ……………	445
			第 367 図	すり鉢 (2) ……………	446
			第 368 図	すり鉢 (3) ……………	447
			第 369 図	火鉢 (1) ……………	448
			第 370 図	火鉢 (2)・香炉 ……………	449
			第 371 図	土製品 ……………	450
			第 372 図	砥石 (1) ……………	451
			第 373 図	砥石 (2) ……………	452
			第 374 図	砥石 (3) ……………	453
			第 375 図	砥石 (4) ……………	454
			第 376 図	砥石 (5) ……………	455
			第 377 図	砥石 (6) ……………	456
			第 378 図	砥石 (7) ……………	457

第 379 図	砥石 (8)	458	第 428 図	遺構別伴出遺物 2 SD02 (2)	507
第 380 図	砥石 (9)	459	第 429 図	遺構別伴出遺物 3 SD03・SD12・ SD18・SD20	508
第 381 図	砥石 (10)	460	第 430 図	遺構別伴出遺物 4 SD20・SD41	509
第 382 図	砥石 (11)	461	第 431 図	遺構別伴出遺物 5 SD41・SD46・ SD51・SD59・SD60・SD5002・ SD5043	510
第 383 図	砥石 (12)	462	第 432 図	遺構別伴出遺物 6 SD5003・SD5021・ SD5031・SD5032・SD5043・ SE04	511
第 384 図	砥石 (13)	463	第 433 図	遺構別伴出遺物 7 SE05・SE06・ SE13・SE15・SE16・SE33・SE44・ SE56・SE58・SE81・SE115・ SE119	512
第 385 図	砥石 (14)	464	第 434 図	遺構別伴出遺物 8 SE128・SE141・ SE143・SE144・SE149	513
第 386 図	砥石 (15)	465	第 435 図	遺構別伴出遺物 9 SE164・SE165・ SE5091・SK35	514
第 387 図	砥石 (16)	466	第 436 図	遺構別伴出遺物 10 SK77・SK80・ SK83・SK87・SK97・SK102・ SK105・SK178・SK201・SK203・ SK218	515
第 388 図	砥石 (17)	467	第 437 図	遺構別伴出遺物 11 SK235・SK242・ SK313・SK339・SK370・SK389・ SK391・SK428・SK486・SK500・ SK609	516
第 389 図	砥石 (18)	468	第 438 図	遺構別伴出遺物 12 SK641・SK658・ SK686・SK724・SK851・SK868・ SK870・SK871・SK873・SK877・ SK881・SK890・SK1070・ SK1095	517
第 390 図	砥石 (19)	469	第 439 図	遺構別伴出遺物 13 SK1096・SK1097・ SK1124・SK1190・SK1194・SK1236・ SK1279・SK1313・SK1325・SK1412・ SK1460	518
第 391 図	砥石 (20)	470	第 440 図	遺構別伴出遺物 14 SK1473・SK1485・ SK1518・SK1519・SK1712・SK1758・ SK1938・SK1965・SK1973・SK3555・ SK3578・SK3686・SK3744	519
第 392 図	砥石 (21)	471	第 441 図	遺構別伴出遺物 15 SK4025・ SK5019	520
第 393 図	砥石 (22)	472	第 442 図	不明土器	520
第 394 図	砥石 (23)	473	第 443 図	野高谷地区の小字名称	522
第 395 図	砥石 (24)	474	第 444 図	遺構分布と小字	523
第 396 図	石臼・茶臼 (1)	475	第 445 図	出土かわらけの分類・変遷案	525
第 397 図	石臼・茶臼 (2)	476	第 446 図	区画溝の変遷図	527
第 398 図	石臼・茶臼 (3)	477	第 447 図	薬師堂と墓地	529
第 399 図	石臼・茶臼 (4)	478	第 448 図	墓域ブロック及び施設想定案	531
第 400 図	石臼・茶臼 (5)・硯	479			
第 401 図	石製鉢 (1)	480			
第 402 図	石製鉢 (2)	481			
第 403 図	五輪塔 (1)	482			
第 404 図	五輪塔 (2)	483			
第 405 図	五輪塔 (3)	484			
第 406 図	五輪塔 (4)	485			
第 407 図	五輪塔 (5)	486			
第 408 図	五輪塔 (6)	487			
第 409 図	五輪塔 (7)	488			
第 410 図	五輪塔 (8)	489			
第 411 図	五輪塔 (9)	490			
第 412 図	五輪塔 (10)	491			
第 413 図	五輪塔 (11)	492			
第 414 図	五輪塔 (12)・板碑	493			
第 415 図	五輪塔 (13)	494			
第 416 図	五輪塔 (14)	495			
第 417 図	銭貨 (1)	496			
第 418 図	銭貨 (2)	497			
第 419 図	銭貨 (3)	498			
第 420 図	銭貨 (4)	499			
第 421 図	銭貨 (5)	500			
第 422 図	銭貨 (6)	501			
第 423 図	鉄製品・鉄釘	502			
第 424 図	鉄滓	503			
第 425 図	銅製品	504			
第 426 図	木・竹製品	505			
第 427 図	遺構別伴出遺物 1 SD02 (1)	506			

表目次

第 1 表	野高谷薬師堂周辺遺跡一覧表	21	第 2 表	溝一覧表	48～50
-------	---------------------	----	-------	------------	-------

第 3 表 地下式坑一覧表	85～88	第 17 表 香炉一覧表	(DVD 所収)
第 4 表 井戸一覧表	134～136	第 18 表 土製品一覧表	(DVD 所収)
第 5 表 竪穴遺構一覧表	164	第 19 表 砥石一覧表	(DVD 所収)
第 6 表 掘立柱柱穴一覧表	173	第 20 表 石臼一覧表	(DVD 所収)
第 7 表 掘立柱建物跡一覧表	179	第 21 表 硯一覧表	(DVD 所収)
第 8 表 土坑一覧表	(DVD 所収)	第 22 表 石製鉢一覧表	(DVD 所収)
第 9 表 中世以前の土器類一覧表	(DVD 所収)	第 23 表 石塔類一覧表	(DVD 所収)
第 10 表 石器一覧表	(DVD 所収)	第 24 表 銭貨一覧表	(DVD 所収)
第 11 表 陶磁器一覧表	(DVD 所収)	第 25 表 鉄製品一覧表	(DVD 所収)
第 12 表 かわらけ一覧表	(DVD 所収)	第 26 表 鉄釘一覧表	(DVD 所収)
第 13 表 内耳土器一覧表	(DVD 所収)	第 27 表 鉄滓一覧表	(DVD 所収)
第 14 表 甕一覧表	(DVD 所収)	第 28 表 銅製品一覧表	(DVD 所収)
第 15 表 すり鉢一覧表	(DVD 所収)	第 29 表 木製品一覧表	(DVD 所収)
第 16 表 火鉢一覧表	(DVD 所収)		

写真図版目次

写真図版 1 航空写真 宇都宮テクノポリスセンター地区垂直航空写真(開発前)	SD 46 五輪塔、かわらけ出土状態
写真図版 2 航空写真 宇都宮テクノポリスセンター地区航空写真(南から) 遺跡北西部 4 区 - 1・2・3 航空写真(東から)	SD 56 完掘
写真図版 3 航空写真 薬師堂西側の調査区 1 区 2 区 4 区(東から) 薬師堂西側の調査区 1 区 2 区 4 区(北から)	写真図版 8 溝 SD 71・72 完掘 SD 73・74 完掘 SD 5002 完掘 SD 5003 完掘 SD 5003 伏錠出土状態 SD 5003 すり鉢出土状態 SD 5003・5054 断面 SD 5032 完掘
写真図版 4 航空写真 1 区垂直写真 1 区 2 区 - 3 SD02 南辺(南から) 6 区 -6 SD02 南東コーナー(北から) 遺跡北端部 3 区(南から) 3 区 - 1 調査区	写真図版 9 地下式坑 SK 06 完掘 SK 07 完掘 SK 11 断面 SK 11 完掘 SK 20 完掘 SK 23 完掘 SK 24 完掘 SK 25 完掘
写真図版 5 航空写真 3 区 - 2 調査区 4 区 - 2・3 垂直航空写真 4 区 - 7 垂直写真 2 5 区 - 2(南から) 5 区 - 2 垂直写真 7 区 薬師堂南東部 撤去前の薬師堂と墓地 薬師堂跡地と SD 02	写真図版 10 地下式坑 SK 27 完掘 SK 97 完掘 SK 155 完掘 SK 155 断面 SK 178・179・561 完掘 SK 178・179 断面 SK 179 埋没状況 SK 201 断面
写真図版 6 溝 SD 02 南辺完掘 SD 02 南東コーナー・SD 01 完掘 SD 02 東辺と薬師堂跡地 SD 02 五輪塔出土状態 SD 03 完掘	写真図版 11 地下式坑 SK 205 完掘 SK 205 断面 SK 211 完掘 SK 211 断面 SK 218 完掘 SK 221 断面
写真図版 7 溝 SD 27 北辺・SK 3269 完掘 SD 27・SD 28 交差点 SD 20・26・27 交点の完掘 SD 40 完掘 SD 41 完掘 SD 27(左)・SD 46(右、SD 02) 完掘	

SK 235 完掘
 SK 235 内耳土器出土状態
 写真図版 12 地下式坑
 SK 238・240・885 完掘
 SK 238・SE 128 断面
 SK 240 断面
 SK 242 完掘
 SK 264・SE 15 完掘
 SK 264 断面
 SK 265 完掘
 SK 277・SE 19 完掘
 写真図版 13 地下式坑
 SK 313 完掘
 SK 338 完掘
 SK 339 完掘
 SK 368 完掘
 SK 370 遺物出土状態
 SK 392 完掘
 SK 428・645 断面
 SK 430 完掘
 写真図版 14 地下式坑
 SK 433 断面
 SK 489 完掘
 SK 490・520 完掘
 SK 491 完掘
 SK 568 完掘
 SK 573 完掘
 SK 599 完掘
 SK 604 完掘
 写真図版 15 地下式坑
 SK 609 完掘
 SK 610 完掘
 SK 639 完掘
 SK 640 断面
 SK 640 完掘
 SK 641 完掘
 SK 641 遺物出土状態
 SK 645 完掘
 写真図版 16 地下式坑
 SK 647 断面
 SK 647 完掘
 SK 648 完掘
 SK 654 完掘
 SK 654 入り口部開口状態
 SK 655 入り口部開口状態
 SK 655 天井崩落状態
 SK 658 完掘
 写真図版 17 地下式坑
 SK 686 完掘
 SK 724 遺物出土状態
 SK 818 完掘
 SK 822 完掘
 SK 851 断面
 SK 851 完掘
 SK 868 遺物出土状態
 SK 868 遺物出土状態
 写真図版 18 地下式坑
 SK 868 錢貨出土状態
 SK 869 完掘
 SK 870・871 遺物出土状態
 SK 873 埋没状態
 SK 877 断面
 SK 880 断面
 SK 881 断面
 SK 885 断面
 写真図版 19 地下式坑
 SK 938 完掘
 SK 1001 完掘
 SK 1002 完掘
 SK 1004 完掘
 SK 1006 断面
 SK 1006 完掘
 SK 1007 断面
 SK 1007 完掘
 写真図版 20 地下式坑
 SK 1008 完掘
 SK 1022 完掘
 SK 1023 完掘
 SK 1058 完掘
 SK 1058 断面
 SK 1062 完掘
 SK 1063 完掘
 SK 1066 完掘
 写真図版 21 地下式坑
 SK 1066 断面
 SK 1067 完掘
 SK 1068 完掘
 SK 1069 完掘
 SK 1070 完掘・1451 入り口部
 SK 1070 完掘
 SK 1078 完掘
 SK 1080 完掘
 写真図版 22 地下式坑
 SK 1083 完掘
 SK 1084 完掘
 SK 1093 断面
 SK 1093 完掘
 SK 1095 完掘
 SK 1097 断面
 SK 1097 骨出土状態
 SK 1098 断面
 写真図版 23 地下式坑
 SK 1111 完掘
 SK 1124 完掘
 SK 1124 内耳土器出土状態
 SK 1132 完掘
 SK 1133 完掘
 SK 1169 完掘
 SK 1176 完掘
 SK 1190 完掘

写真図版 24 地下式坑

SK 1194 完掘
SK 1255 完掘
SK 1269・1272 完掘
SK 1277 完掘
SK 1279 完掘
SK 1289 完掘
SK 1325 断面
SK 1345 断面

写真図版 25 地下式坑

SK 1363 完掘
SK 1372 完掘
SK 1411・1412 完掘
SK 1421 完掘
SK 1432 完掘
SK 1437 完掘
SK 1438 完掘
SK 1439 断面

写真図版 26 地下式坑

SK 1451 断面
SK 1460 完掘
SK 1468 完掘
SK 1469 完掘
SK 1469 天井部遺存状態
SK 1473 完掘
SK 1479 完掘
SK 1480 完掘

写真図版 27 地下式坑

SK 1483 断面
SK 1483 完掘
SK 1484 完掘
SK 1485 完掘
SK 1485 かわらけ出土状態
SK 1486 完掘
SK 1491 完掘
SK 1498 完掘

写真図版 28 地下式坑

SK 1519 完掘
SK 1638 完掘
SK 1644 完掘
SK 1758 完掘
SK 1794 断面
SK 1929 完掘
SK 1938 完掘
SK 1938 かわらけ出土状態

写真図版 29 地下式坑

SK 1941 完掘
SK 1941 かわらけ出土状態
SK 1956 鉄製鍬出土状態
SK 1956 鉄製鍬出土状態
SK 1957 完掘
SK 1958 完掘
SK 1960 遺物出土状態
SK 1960 断面

写真図版 30 地下式坑

SK 1960 内耳土器出土状態

SK 1963 完掘
SK 1965 完掘
SK 1965 断面
SK 1967 完掘
SK 1968・1969 完掘
SK 1973・1974 完掘
SK 1973 かわらけ出土状態

写真図版 31 地下式坑

SK 3142 断面
SK 3162・SE 132 完掘
SK 3543 完掘
SK 3544・SE 81 完掘
SK 3548 完掘
SK 3550 完掘
SK 3555・3556・3558 完掘
SK 3557 断面

写真図版 32 地下式坑

SK 3578 完掘
SK 3578 石臼、かわらけ出土状態
SK 3589 完掘
SK 3647・3650 完掘
SK 3681 完掘
SK 3581 調査風景
SK 3686 完掘
SK 3686

写真図版 33 井戸

SE 02
SE 03 完掘
SE 05 遺物出土状態
SE 06
SE 07・SK 362 断面
SE 10
SE 12 断面
SE 13

写真図版 34 井戸

SE 20
SE 22
SE 24
SE 25
SE 26
SE 34 断面
SE 43・SK 494
SE 44 遺物出土状態

写真図版 35 井戸

SE 57 断面
SE 62
SE 66
SE 67
SE 69
SE 71
SE 73
SE 74

写真図版 36 井戸

SE 75

SE 76	SK 572 完掘
SE 78	SK 572 断面
SE 79	SK 637 完掘
SE 80	SK 2034 完掘
SE 82	SK 2168 完掘
SE 83	SK 2175 完掘
SE 85	写真図版 43 竪穴遺構
写真図版 37 井戸	SK 2178 完掘
SE 93	SK 2181 完掘
SE 94	SK 2196 完掘
SE 97	SK 2212 完掘
SE 100	SK 2212 断面
SE 101	SK 2213 完掘
SE 106	SK 2235 完掘
SE 107	SK 2359・2361 完掘
SE 108	写真図版 44 竪穴遺構
写真図版 38 井戸	SK 2359 完掘
SE 112	SK 2361 完掘
SE 115 断面	SK 2363 完掘
SE 118 断面	SK 2412 完掘
SE 118	SK 3601
SE 119	SK 3604 完掘
SE 120	SK 3615・3617 断面
SE 123	SK 3615・3617・3618 完掘
SE 125・SK 224	写真図版 45 掘立柱建物
写真図版 39 井戸	SA 07 完掘
SE 126 断面	SA 5038・5039・5040・5041 完掘
SE 131	SB 01 完掘
SE 132・SK 3162	SB 02 完掘
SE 135	SB 03 完掘
SE 136	SB 04 完掘
SE 138・SD27	SB 05 完掘
SE 139	写真図版 46 土坑
SE 140	SK 01 断面
写真図版 40 井戸	SK 04 人骨出土状態
SE 141・SK 3215	SK 26・42 完掘
SE 142	SK 44 完掘
SE 143	SK 69 完掘
SE 144	SK 74・75 完掘
SE 146・147	SK 102 完掘
SE 149・SK 3558	SK 292 完掘
SE 151	写真図版 47 土坑
SE 154	SK 359・360 完掘
写真図版 41 井戸	SK 407 完掘
SE 155	SK 486 遺物出土状態・断面
SE 156・SK 1967・1972	SK 517 完掘
SE 164・SK 2981・2983	SK 526・529 完掘
SE 165	SK 601・770 完掘
SE 165 底面竹出土状態	SK 743・744 完掘
SE 166 断面	SK 808・809 完掘
SE 166	写真図版 48 土坑
SE 185	SK 1140・1141 完掘
写真図版 42 竪穴遺構	SK 1155 完掘
SK 95 完掘	SK 1165～1168 完掘
SK 236 完掘	SK 1172 完掘

SK 1186 ~ 1189 完掘
 SK 1245 完掘
 SK 1174・1175・1281・1282 完掘
 SK 1643 煙管出土状態
 写真図版 49 土坑
 SK 1655・1656 完掘
 SK 1727・1728 完掘
 SK 1925・1926 完掘
 SK 1939・1940 完掘
 SK 1945・1946 完掘
 SK 1975 完掘
 SK 2282 ~ 2288 完掘
 SK 2418 完掘
 写真図版 50 土坑
 SK 2500・2501 完掘
 SK 2500 人骨と杭出土状態
 SK 2530・2531 完掘
 SK 2571 断面
 SK 2574 完掘
 SK 2592 完掘
 SK 2599 完掘
 SK 2599 遺物出土状態
 写真図版 51 土坑
 SK 2599 遺物出土状態
 SK 2610・2611 完掘
 SK 2727 人骨出土状態
 SK 2805 ~ 2808 完掘
 SK 2810・2811 完掘
 SK 2817 ~ 2823 完掘
 SK2822 ~ 2830 完掘
 SK2891 ~ 2893 完掘
 写真図版 52 土坑
 SK 2922・2923 完掘
 SK 2822 人骨出土状態
 SK 2923 人骨出土状態
 SK 2989 完掘
 SK 3024・3025・3070 完掘
 SK 3073 ~ 3076・3144・3211・3212 完掘
 SK 3119 ~ 3125 完掘
 SK 3191 断面
 写真図版 53 土坑
 SK 3208・3209 完掘
 SK 3210 完掘
 SK 3220・3221・3261 完掘
 SK 3223 完掘
 SK3226 ~ 3229 完掘
 SK3232 ~ 3235 完掘
 SK 3252・3253 完掘
 SK 3253 ~ 3256 完掘
 写真図版 54 土坑
 SK 3256 断面
 SK 3314 完掘
 SK 3529 ~ 3532・3539 完掘
 SK 1639・1640・3541 完掘
 SK 3552 完掘
 SK 3559 ~ 3561・3567・3578・3609 完掘
 SK 3593 完掘
 SK 3593 かわらけ出土状態
 写真図版 55 土坑
 SK 3595 完掘
 SK 3625 ~ 3628 完掘
 SK 3630 ~ 3632・3635・3649 完掘
 SK 3684 完掘
 SK 3589 人骨出土状態
 SK 3589 人骨出土状態
 SK 3726 完掘
 SK 3727・SE159 完掘
 写真図版 56 土坑
 SK 4025 炭化材出土状態
 SK 4025 炭化材出土状態
 SK 4025 鉄釘出土状態
 SK 4025 土製品出土状態
 SK 4025 板材出土状態
 SK 4025 板材出土状態
 SK 4027 人骨出土状態
 SK 4029 人骨出土状態
 写真図版 57 土坑
 SK 4034 人骨出土状態
 SK 4053 人骨出土状態
 SK 4058 人骨出土状態
 SK 4059 人骨出土状態
 SK 4060 人骨出土状態
 SK 4064 人骨出土状態
 SK 4075・4076 完掘
 SK 4161 ~ 4164 完掘
 写真図版 58 土坑
 SK 4176・4177 完掘
 SK 4199・4200 完掘
 SK 4223・4236・4237 完掘
 SK 5006・5010 完掘
 SK 5022・5023 断面
 SK 5051・5052 完掘
 SK 5107 完掘
 SK 5020・5111・5112 完掘
 写真図版 59 陶磁器 1
 写真図版 60 陶磁器 2
 写真図版 61 かわらけ・内耳土器・すり鉢・
 香炉・鉄製品
 写真図版 62 土製品・木製品・銅製品・石製品

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経過

宇都宮テクノポリスセンター地区土地区画整理事業は栃木県宇都宮市の東端部（第1図 宇都宮テクノポリスセンター地区の位置）、野高谷町、刈沼町を中心とする178ヘクタールの土地区画整理事業である。当該事業は清原工業団地や芳賀工業団地など周辺の工業団地との職住接近を目的とし（第2図 テクノポリスセンター地区の開発区）、良好な新市街地形成を目指して、住宅・都市整備公団（現 独立行政法人都市再生機構）が開発を実施した。開発地内には、ゆとりと質の高い生活空間を備えた住宅地、公園、道路などが一体的に整備され、さらに「とちぎ産業創造プラザ」が設置され、各工業団地や大学などとの連携が計られ、「産・学・住・遊」など多彩な機能の充実が計られている。

同地区の埋蔵文化財発掘調査に至る経過を簡単に述べると、開発に先立って、平成2年7月11日付け、し22-13で住宅・都市整備公団（現 独立行政法人都市再生機構）首都圏都市開発本部長から栃木県教育委員会教育長あて、宇都宮テクノポリスセンター地区土地区画整理予定地における埋蔵文化財包蔵地の有無について照会があった。

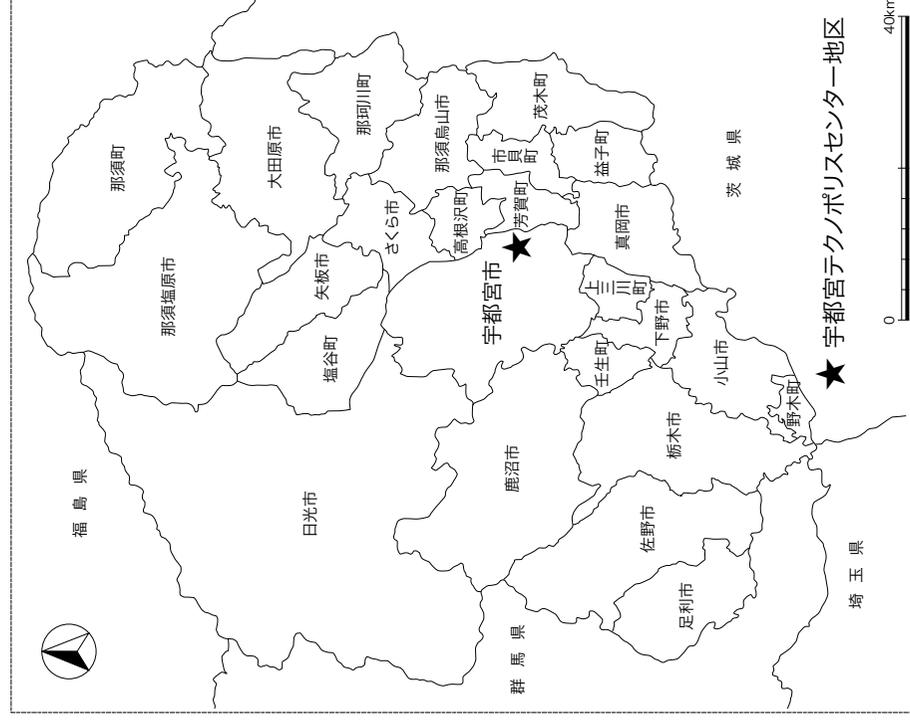
これを受けて、栃木県教育委員会は、平成2年7月30日文化373-1号で、現在周知の埋蔵文化財包蔵地

が3カ所あり、その他にも存在する可能性があるので、約10ヘクタールの範囲の確認調査が必要と回答した。

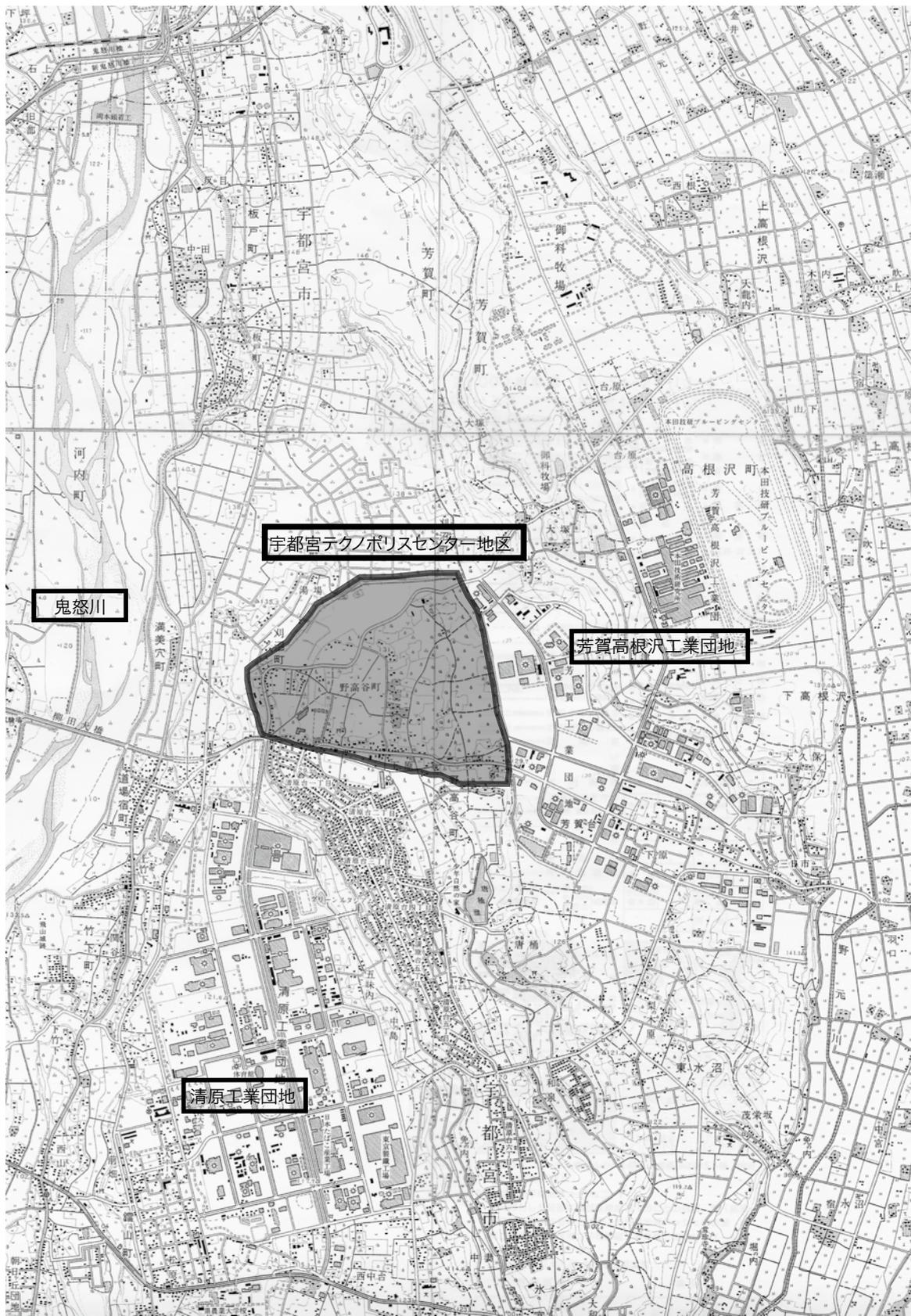
平成3年3月19日付けで、栃木県知事、宇都宮市長、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部長の3者による宇都宮テクノポリスセンター地区土地区画整理事業（仮称）に関する覚え書きが交わされた。開発総面積は178ヘクタールとされた。

平成6年8月にセンター地区についての分布調査が、県教育委員会、宇都宮市教育委員会、住宅・都市整備公団、（財）栃木県文化振興事業団（現（公財）とちぎ未来づくり財団）埋蔵文化財センターの4者により実施された。この結果、遺跡8カ所、面積267,000㎡、及び試掘が必要な地点7カ所、面積95,500㎡であることが判明した。

その後、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部長から、栃木県教育委員

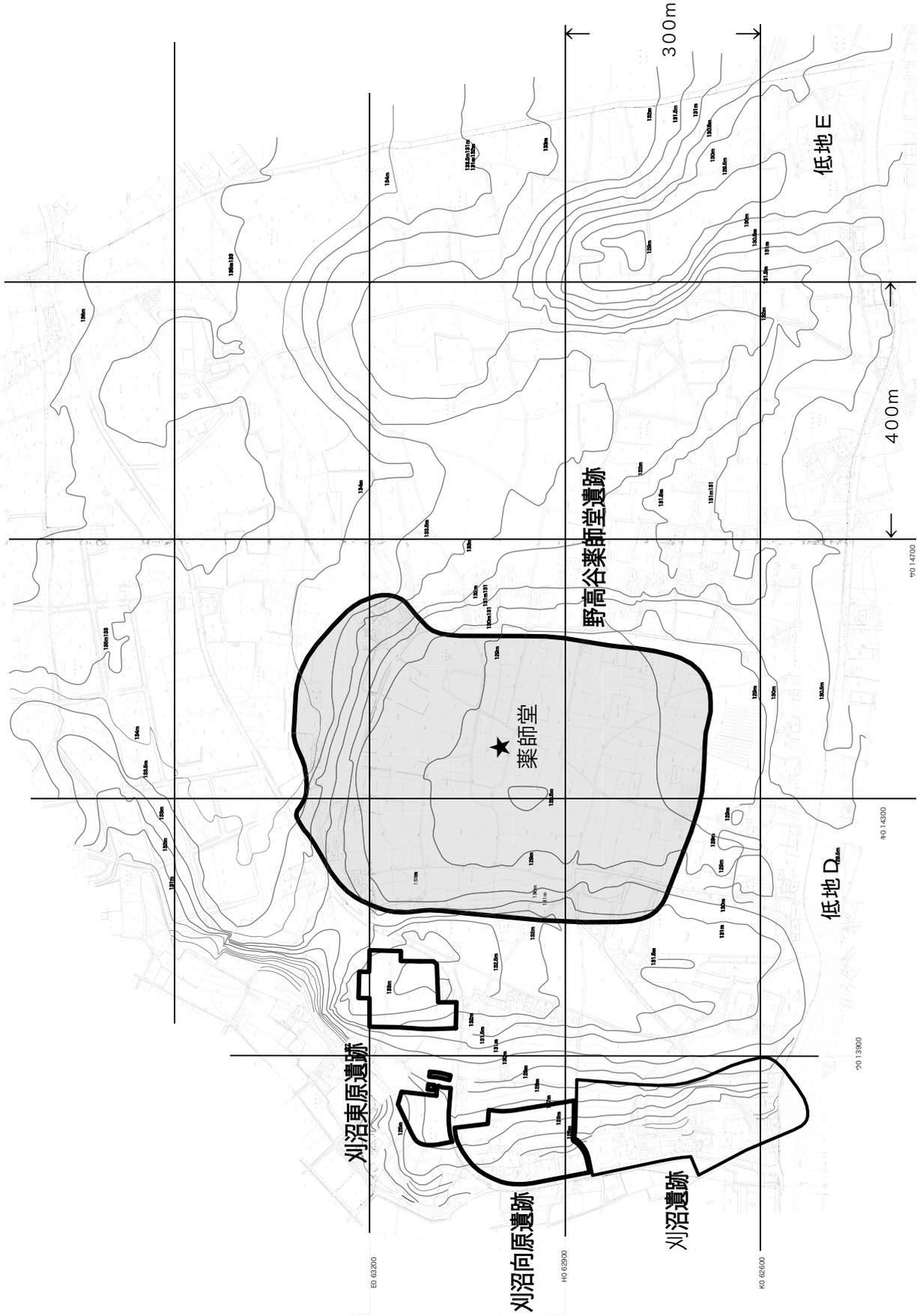


第1図 宇都宮テクノポリスセンター地区の位置



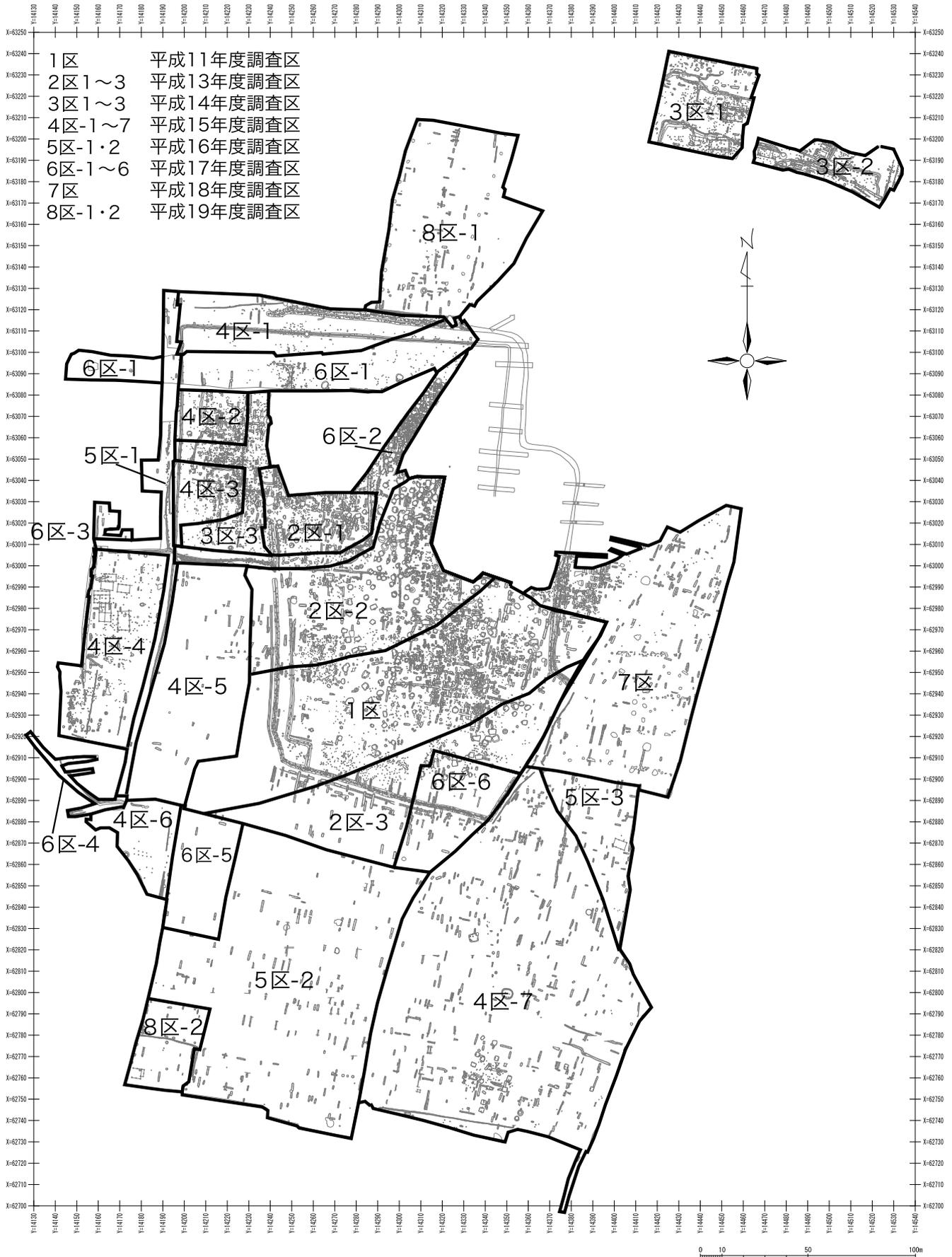
第2図 宇都宮テクノポリスセンター地区の開発区

(国土地理院 1/25000 宇都宮東部・祖母井・宝積寺・仁井田)

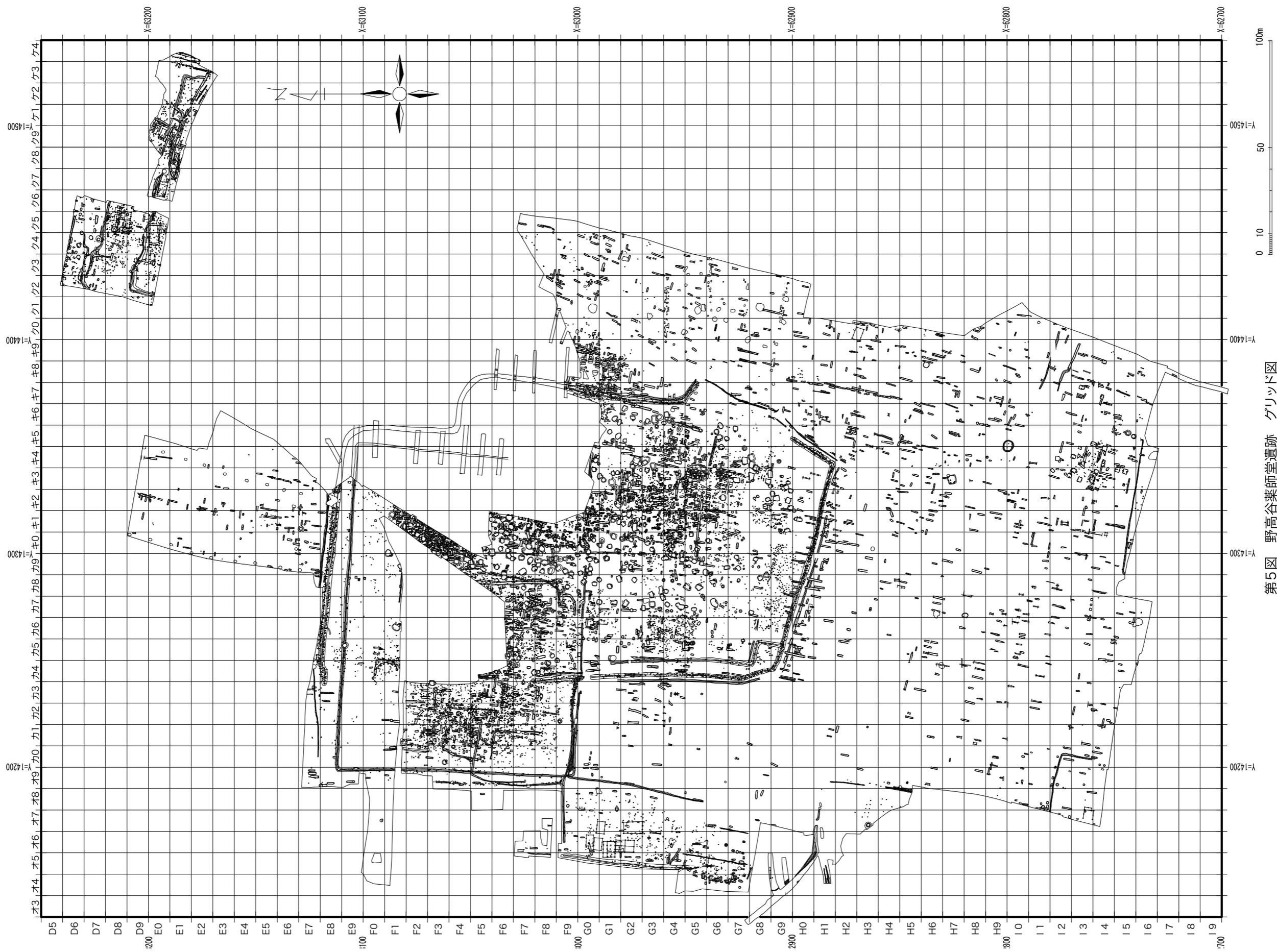


第3図 地形と遺跡範囲

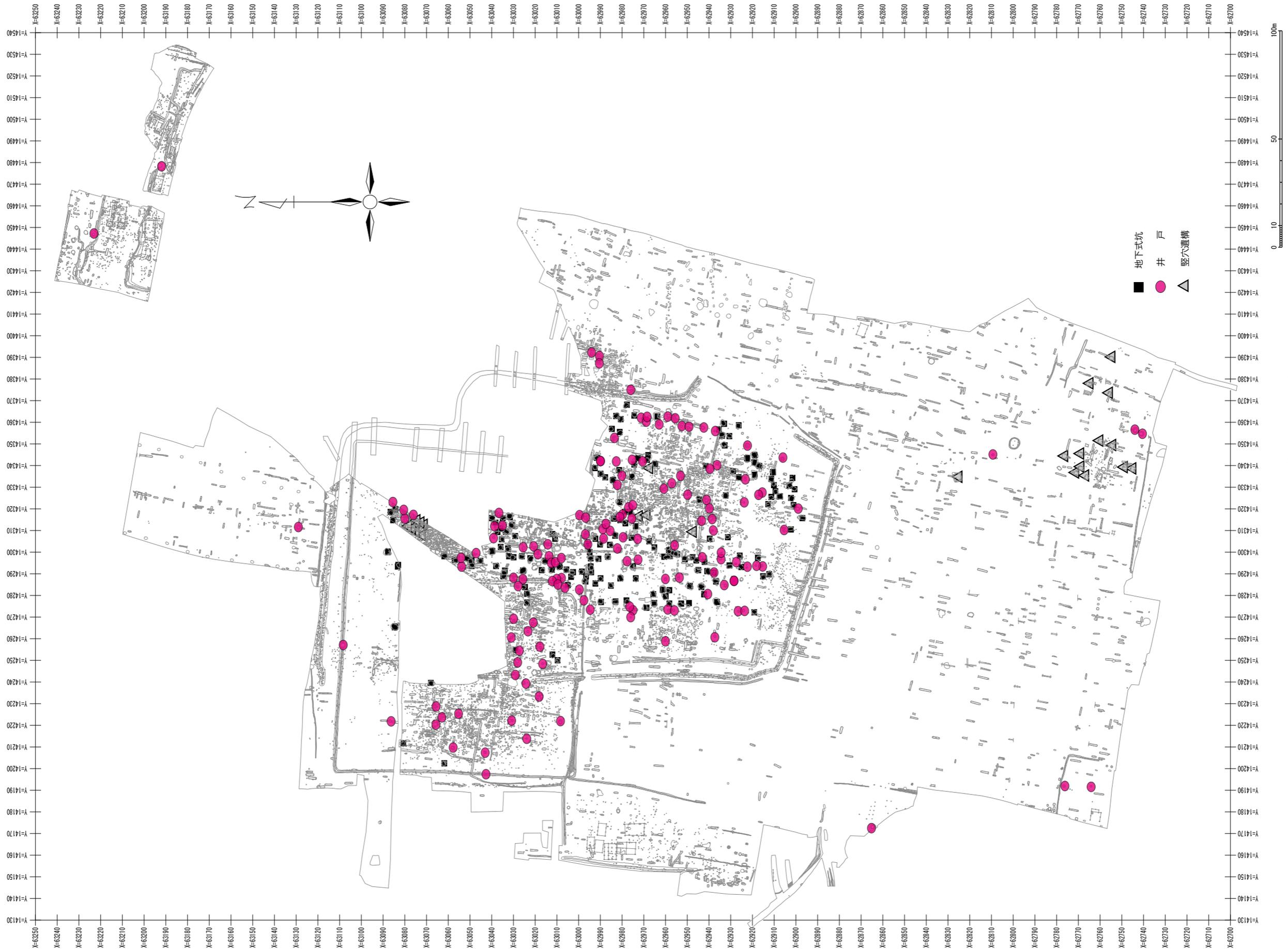
第1章 調査の経緯



第4図 野高谷薬師堂遺跡 調査地区の位置



第5図 野高谷薬師堂遺跡 グリッド図



第6図 野高谷薬師堂遺跡 種類別遺構分布図

会教育長に当該地区の埋蔵文化財発掘調査実施の依頼があった。これを受けて、平成7年9月1日付けで、住宅・都市整備公団と(財)栃木県文化振興事業団が「宇都宮テクノポリスセンター地区埋蔵文化財発掘調査」の委託契約を締結し、確認調査が開始されることとなった。確認調査は平成7年9月25日～平成8年3月15日の期間実施された。この確認調査の結果、刈沼東原遺跡、刈沼向原遺跡、刈沼遺跡、野高谷薬師堂遺跡の4遺跡が記録保存調査の対象とされることが決定された(第3図 地形と遺跡範囲)。さらに協議の結果、当該地区の発掘調査は宇都宮市教育委員会が担当することとなった。

第2節 調査の経過

当該地区の発掘調査は平成8年以降順次実施された。平成8年度に刈沼東原遺跡、平成9・10年度以降は刈沼遺跡・刈沼向原遺跡の発掘調査が実施された。また、野高谷薬師堂遺跡の発掘調査は工事の進捗に併せて、平成11年度、平成13～19年度にわたって断続的に実施された。各年度の調査面積は下記の通りである。また、各調査区の位置は第4図の「野高谷薬師堂遺跡調査地区」の位置に示した。

平成11年度	1区	22,000 m ²	
平成13年度	2区1～3	15,000 m ²	
平成14年度	3区	16,800 m ²	
平成15年度	4区1～7	14,100 m ²	
平成16年度	5区1・2	16,050 m ²	
平成17年度	6区1～6	9,830 m ²	
平成18年度	7区	3,925 m ²	
平成19年度	8区1・2	7,150 m ²	計 104,855 m ²

4つの遺跡のうち、刈沼東原遺跡の発掘調査報告書は宇都宮市教育委員会により作成された(宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第51集 刈沼東原遺跡 平成17年3月)。

また、残りの野高谷薬師堂遺跡、刈沼遺跡・刈沼向原遺跡の整理・報告書作成については、平成23年度以降実施されることとなったが、これについては栃木県教育委員会と宇都宮市教育委員会との協議の結果、(公財)とちぎ未来づくり財団が実施することとなり、同財団の埋蔵文化財センターで作業をおこなうこととなった。

第3節 調査の方法

開発区全体に10m×10mのグリッドを設置した。東西方向は西端を起点に、ア0、ア1・・・ア9、イ0、イ1・・・の順にグリッド番号を発番し、南北方向は北端を起点に、A0、A1・・・A9、B0、B1の順に発番した。グリッド名は両者を組み合わせて、ア9D5、キ2F7のように表記した。第2～8表遺構一覧表のグリッド番号はこの表記によって遺構の位置を示している。野高谷薬師堂遺跡の場合は第5図に示すように北西隅がオ3D5(Y=14,130、X=63,250)、南東隅がケ4I9(Y=14,540、X=62,700)の範囲内に位置している。XYの座標値はいずれも日本測地系の数字である。

野高谷薬師堂遺跡で確認された遺構は、溝、地下式坑、井戸、竪穴遺構、土坑、掘立柱柱穴列、掘立柱建物などである。調査の結果、溝80条、地下式坑198基、井戸159基、竪穴遺構24基、土坑3,491基、掘

立柱柱穴列 11 基、掘立柱建物 21 棟が確認された。

こうした地下式坑、井戸、竪穴遺構の分布を模式的に表示したのが第6図で、地下式坑は中央部の区画溝の内側に展開し、区画溝の外側では確認されない。また、地下式坑の周囲にはたくさんの井戸が確認されており、さらに少数の竪穴遺構も存在する。区画溝の外側、調査区南東隅には竪穴遺構 12 基が集中することも確認されている。掘立柱建物は調査区北東部と調査区西部で確認されている。区画溝の内側でもピット状の掘り込みは多数認められるが、調査時に建物などは復元できなかった。

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

栃木県は、関東平野の北端に位置し、北は福島県、東は茨城県、西は群馬県と接し、南は埼玉県とわずかに接している。県都宇都宮市は、県中央部のやや南寄りに位置している。宇都宮テクノポリスセンター地区は、この宇都宮市の北東部、清原地区の刈沼町と野高谷町にかけて所在する。当該地区は宇都宮市の中心部から東へ約 9km、JR 宇都宮線宇都宮駅から東へ約 7km に位置しており、東に約 1 km で芳賀町に至る（第2図 宇都宮テクノポリスセンター地区の開発区）。

野高谷薬師堂遺跡は鬼怒川左岸の宝積寺台地西端部に立地する（第7図 栃木県地形図）。宝積寺台地はさくら市勝山から茨城県筑西市まで南北に延びる台地で、東を五行川、西を鬼怒川により画されている。野高谷薬師堂遺跡は標高 129 m～133 m にあり、遺跡の西側は、西へ傾斜する緩傾斜面が約 300 m 程続いた後、約 20m の比高差をもつ急斜面で落ち込み、刈沼地区の集落に至る。刈沼遺跡・刈沼向原遺跡は、この緩斜面部に立地している。野高谷薬師堂遺跡周辺の地形を詳細に見てゆくと、野高谷薬師堂遺跡に当たる部分が平面馬蹄形の窪地となっていることがわかる。調査前のフィールドワークでは、窪地の中心に、薬師堂と呼ばれる小さなお堂と周辺に墓地があるだけという、荒涼とした風景が印象的であった（第8図 微高地状の地形と宅地・墓地の位置）。

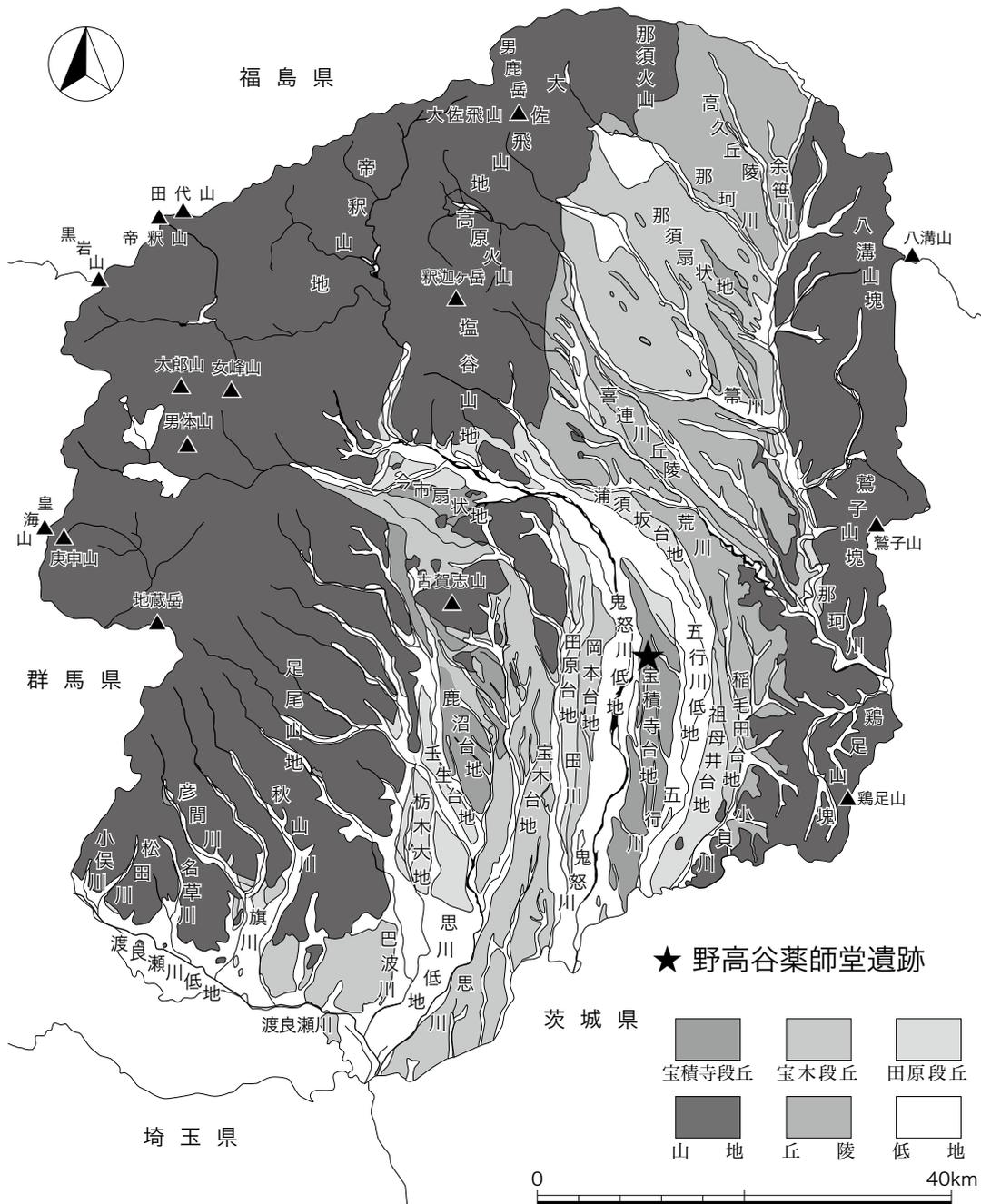
発掘調査以前には、台地上にスリバチ状の窪地があるというその特異な有り様から、人為的な整地作業の結果ではないかと推定された。しかし、発掘調査の結果、窪地外縁から窪地底面には連続するローム層の堆積が確認された。このため、この地形は人為的な整地ではなく、自然堆積の結果であることが判明した。

さらに周辺の地形を詳細に見てゆくと（第9図 野高谷薬師堂遺跡周辺の地形）、窪地は南方向に延びて、低地Dとなり、さらに宝積寺台地を南北方向に開析して五行川低地に伸びる低地Cに合流することが観察された。すなわち、この窪地は古い時期に形成された低地Dが、洪積世以降に埋没した痕跡と考えられる。低地Dは比較的浅い開析谷であったため、周辺との高低差の少ない窪地となったものと思われる。

さらに発掘調査開始前（平成6年以前）の地図（第8図 微高地状の地形と宅地・墓地の位置）を見てゆくと、スリバチ状の窪地の西・北・東の周縁部は窪地に沿った微高地となっていることがわかる。微高地の標高は 130 m から 133 m で、窪地中央部が 128.5 m であるので、両者には 1.5～4.5 m の比高差が認められる。窪地と微高地がどのような関係で形成されたのかは不明であるが、窪地の開析と埋没に伴う現象と思われる。

また、第8図は微高地と平成6年頃の宅地、墓地の分布を示している。これによると主要地方道宇都宮一

茂木線の沿線と、主要地方道宇都宮一向田線の沿線に住宅地が形成されていることがわかる。これは当然、道路の利便性によるものと思われる。また、これら道路沿いの住宅地とは別に、前述の微高地上にも、住宅地が展開することもわかる。微高地上の宅地は、高燥な環境を求めた結果と推定されるが、微高地の平面形状に沿って、馬蹄形状に展開することが特徴的である。このことは、昭和21年～24年に撮影された、米軍航空写真（第10図）でみるとより鮮明である。この写真では、主要地方道宇都宮一向田線はまだ存在しない（向田給部宇都宮線が付け替えられて、昭和55年に宇都宮一向田線が開通する）。この時点では、向田給部宇都宮線の沿線に住宅地はほとんど形成されておらず、馬蹄形の微高地上の北、東、南側に宅地が展開する様子がよくわかる。



第7図 栃木県地形図

一方、微高地上とは反対に、スリパチ状の窪地には宅地が認められず、中央部に薬師堂と墓地、周辺は畑地、田地などが存在するという対照的なあり方を示している。

また発掘調査の結果では、一番北側の調査区において、近世以降の集落と推定される掘立柱建物跡と井戸などが確認されている(第6図北東の調査区)。また、同図の西端部でも数棟の掘立柱建物跡が確認されている。これらの掘立柱建物跡は微高地上に形成されているが、窪地部分ではこうした掘立柱建物跡は確認されていない。こうした状況は平成6年ころの土地利用状況と同様であり、微高地上は居住地、窪地は墓地及び農耕地という土地の使い分けが近世以降、現代まで行われていたことを推定させる。

野高谷薬師堂遺跡では古代以前の遺物はごく少量確認されているのみで、遺構は殆ど認められなかった。北西側には比較的規模の大きな古墳時代集落跡である刈沼東原遺跡、さらにその南側には縄文時代晩期集落や古墳時代前期方形周溝遺構群の確認された刈沼遺跡、刈沼向原遺跡が存在するなど、北側、西側の台地縁辺部には各時代の集落等が営まれている。これに対して、野高谷薬師堂遺跡では中世以降の墓地と近世以降の集落が主に確認されている。

第2節 歴史的環境

本遺跡に関わる歴史的環境・周辺の遺跡については、同じテクノポリスセンター地区内の遺跡発掘調査報告である『刈沼東原遺跡』(宇都宮市教育委員会2005)で触れられている。ここでは、この刈沼東原遺跡報告書中の歴史的環境の項に一部加筆して転載した。とりわけ本遺跡との関わりも推測される中近世の城館跡関係については補足することとした。第1表の周辺の遺跡一覧表についても同書から転載した。

第11図及び第1表からもわかるように、鬼怒川東方の宝積寺台地上には、多数の遺跡が存在する。以下、時代ごとに周辺遺跡について概観してみる。

縄文時代

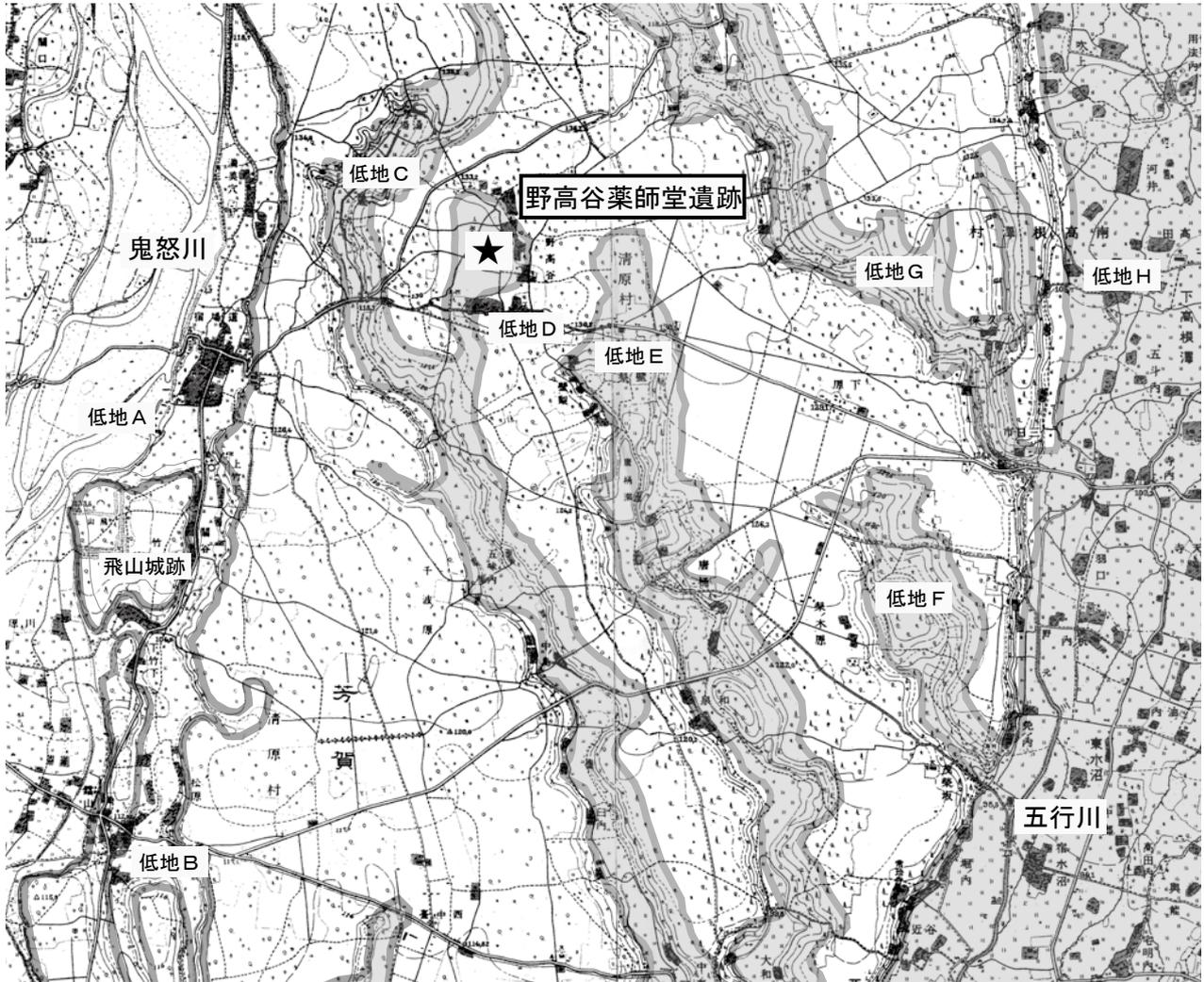
本遺跡周辺においては、刈沼遺跡、向原遺跡、刈沼・向原遺跡、鎮守林西遺跡、野高谷北台遺跡、竹下遺跡、千波ヶ原遺跡、板戸不動山遺跡が存在する。刈沼遺跡、刈沼・向原遺跡も本遺跡と同様に宇都宮テクノポリスセンター地区開発に伴い埋蔵文化財調査を行った。刈沼遺跡では、平成10年度の1次調査で、縄文時代晩期の竪穴住居跡や環状盛土遺構の痕跡が確認された。同じく縄文時代晩期の刈沼・向原遺跡では竪穴住居跡や溝が確認され、遮光器土偶や石斧、石錘などが出土している。

古墳時代

古墳時代の古墳としては、満美穴古墳群、大塚古墳、竹下浅間山古墳、五味内古墳、不動山古墳群、板戸愛宕塚古墳群、日陰坂上古墳群などがある。その中で、竹下浅間山古墳は、7世紀に築かれた前方後円墳で、墳丘は失われていたが、昭和48年に農地造成中に発見され、発掘調査が行われた。その結果、頭椎太刀・鉾・馬具類などが出土している。また、また、不動山古墳群では、平成14年度に最終処分場建設に伴う発掘調査において、3基の円墳が確認されている。いずれも台地の南側斜面付近に位置する、横穴式石室を主体部とする円墳である。遺物は耳環、長頸壺が数点出土しており、これらの遺物から古墳時代終末期の古墳と考えられる。テクノポリスセンター地区内に所在する刈沼遺跡では古墳時代前期の方形周溝墓7基が確認され、刈沼東原遺跡では5世紀末～7世紀後葉の竪穴住居跡が61軒確認されている。



第8図 微高地状の地形と宅地・墓地の位置



低地・開析谷

宇都宮東部と祖母井（昭和22年 1/25000）を合成

第9図 野高谷薬師堂遺跡周辺の地形

古代

上野遺跡・釜根遺跡・日枝神社南遺跡では、幅8～15mの2～3本の平行する溝が確認された。これらの土中からは、古代の土器が出土し、また、各遺跡間とも同様の断面形状であることから、直線的に繋がると考えられ、古代の東山道跡と推定されている。

中世

宝積寺台地とその両側を南流する鬼怒川、五行川沿岸には近隣の飛山城跡、同慶寺館跡、淡路城跡をはじめ宇都宮氏、芳賀氏に関連する多数の城館跡が存在する。このため、当遺跡に関連すると思われる15世紀から16世紀前後の社会的な状況に触れ、周辺の土地の支配関係と併せて城館跡を確認してみたい。

まず宇都宮氏と芳賀氏の関係では、芳賀氏が宇都宮氏の重臣であることは知られている。特に15世紀後半から16世紀初頭にかけては、宇都宮家当主等綱・明綱・正綱の重臣として宇都宮氏の実権を握り絶大な影響力を持つようになる。続いて次の当主に成綱を擁立するが、永世九年（1512年）成綱は芳賀氏の影響力を排除するため芳賀高勝を討つ。しかし成綱は大永三年（1523年）猿山合戦において結城政朝に敗れ宇都宮城

を没落すると、芳賀高勝の弟高経一派が宇都宮城を占拠することとなった。成綱後、忠綱の復位は実現せず、宇都宮家の家督は忠綱の弟興綱、つづいて俊綱（尚綱）へと継承される。この間宇都宮家の実権は芳賀高経が持っていたようである。天文八年(1539年)当主俊綱は壬生氏と結び芳賀高経を生害するという事件が起き、これを契機に「宇都宮俊綱家中取乱」という内訌へと発展したとされる。その後天文十八年(1549年)俊綱は早乙女坂合戦において那須高資と戦い敗死する。俊綱の遺児伊勢寿丸(広綱)は芳賀高定の居城真岡に逃れ、宇都宮城は芳賀高経の子高照、つづいて壬生綱雄が在城した。このため宇都宮家中は、当主広綱派と壬生氏をはじめとする一族派に分裂している。弘治三年(1557年)頃に広綱が宇都宮への帰城をはたし、家中も再編され家宰を芳賀高継がつとめるが、天正12年(1584年)に益子氏と武力衝突が起きるなど家中の混乱は続いていたようである。また、広綱、次の国綱の代には上杉氏に従い、上杉謙信の死後は常陸佐竹氏と共に小田原北条氏の北進に対抗するも豊臣秀吉の天下統一を迎え、「破却令」の対象となり廃城となった。

次に、遺跡周辺の城館跡を確認しておく(第12 図宝積寺台地と中世城館)。

鬼怒川左岸の宝積寺台地上に立地する城館跡

飛山城跡は現竹下町に所在するが、「昭和の大合併」以前は清原村として芳賀郡に属していた。城は鬼怒川左岸の比高約20mを測る河岸段丘上に造られた平城で、東と南側は二重の堀で、西から北側は鬼怒川を天然の要害として守られている。芳賀高俊により永仁年間(1293～1298年)に築城、あわせて同慶寺も建立したと伝えられる。南北朝の内乱・暦応4年(1341年)に一時落城するも、豊臣秀吉による天正18年(1590年)の宇都宮仕置で破却の対象となり廃城となるまで存続したことが発掘調査の結果から判明した。調査では掘立柱建物跡、竪穴建物跡、木橋跡等が確認され、城の構造・変遷が明らかにされている。平成7年の調査では「烽家」(トブヒヤ)と書かれた墨書土器が出土し、東国において古代の「のろし」が存在したことを証明した。現在は国指定史跡として、建物跡の復元も含めた整備が行われ活用されている。

同慶寺館跡は、飛山城跡から北東約700mに位置する。芳賀高俊が飛山城を築くと、子孫長久のため伽藍を建立して菩提寺としたと伝えられ、寺領は広大で七堂伽藍の備わった大寺院であったとも言われる。境内を囲む各所には二重の空堀・土塁と井戸も一部残っており、飛山城の支城説、飛山城以前の芳賀高俊の居館説などがある。

淡路城跡は現刈沼町に所在し、野高谷薬師堂遺跡に最も近接する。舌状台地上に立地し、二重の堀を持っていたとされる。現在外堀は消滅し、東西20m、南北115m規模のカギ型の土塁と内堀(幅4m、深さ2.5m)が残存する。戦国時代、宇都宮氏の家臣直井淡路守の居城とも伝えられるが、詳細は不明である。

上籠谷城跡は鬼怒川左岸の低地に面する舌状台地上先端に立地する。土塁・堀跡が存在したとされるが、現在は確認できない。築城時期等は不明だが、中世の範疇と考えられる。城跡の西方約200mの付近から開墾時に多数の五輪塔が出土したと言われている。

籠谷城跡は江川左岸の台地上に築かれた平山城であるが、昭和45年頃の土取り等で湮滅している。天正年間(1573～1592年)宇都宮氏家臣籠谷伊勢守政高の築城であるが、主家の滅亡と共に廃城となったとされる。

中村城跡は鬼怒川左岸の真岡台地(宝積寺台地)に立地する。保元元年(1156年)または平治年間(1159～1160年)、奥州伊達氏の祖中村常陸介朝宗の築城とされる。中村氏は、南北朝の内乱・康永2年(1343年)の頃宇都宮氏の家臣となるも、天文13年(1544年)水谷氏に攻められ、中村城も廃城となったとされる。規模は南北486m、東西414mの南北にやや長い方形で、周囲には幅約8m・深さ5～9mの堀が巡る。

宝積寺台地東端から五行川・野元川沿岸に立地する城館跡

水沼城跡は野元川左岸の低地に築かれたと考えられるが、現在は水田となり確認できない。天文・永禄年

間（1532～1570年）に頼母玄蕃頭の築城と伝えられる。しかし宇都宮氏に滅ぼされ、その後は宇都宮氏家臣の水沼五郎が在城したが、文禄年間（1592～1596年）のころ廃城したとされる。

舟戸城跡は野元川右岸の宝積寺台地で、台地東端の南へ延びる舌状台地上に立地する。応永年間（1394～1428年）水沼勝侶の築城とする説、天文年間（1532～1555年）水沼五郎の築城説がある。城の規模は南北約550m、東西約130mで、城の西側と南側には堀が残る。

高橋城跡は五行川左岸の低地に築かれたと考えられるが、現在は消滅しているようである。延文年間（1356～1361年）宇都宮氏家臣高橋刑部左衛門尉義通の築城で、主家の滅亡と共に廃城になったとされる。

御前城跡は式内社大前神社の南西、五行川と穴川に挟まれた低台地上に位置する。別名芳賀古城とも言われ、御前、馬場内などの地名も残る。承保3年（1076年）芳賀高澄が築き、天正5年（1577年）真岡城（芳賀城）が築かれることにより廃城となった。規模は南北約200m、東西約290mとされる。2004年に堀の一部が調査され、上幅7.2m・下幅3.8m・深さ0.6～1.3mの水堀が確認された。

真岡城跡は行屋川右岸の比高約13mの台地上に立地する。別名芳賀城・舞が丘城とも言われ、城内、外堀、水手、馬乗馬場、根堀などの地名も残る。貞治年間（1362～1368年）ごろに芳賀高貞の築城説、1532年の芳賀高経築城説、天正5年（1577年）の芳賀高継築城説があり、これらの中で築城、改築を考える説もある。慶長2年（1597年）に宇都宮家と共に改易の後、数氏の統治があり、奉行屋敷が置かれた時期もあったとされる。城の規模は南北360m、東西228mで、台地北端から本丸・二の丸・三の丸からなり、五行川を外堀とし行屋川を掘って内堀としている。平成19,21,24年度に学校校舎建設や公園整備に伴って発掘調査が行われており、堀跡や掘立柱建物跡などが確認されている。

八木岡城跡は五行川右岸の微高地上に立地する。永仁年間（1293～1298年）に芳賀高房が築城し、暦応2年（1339年）に一時落城するも、水谷氏に領地を奪われ廃城となる天文14年（1545年）まで存続した。城の規模は南北100m、東西150m、城の東側に五行川が流れ、西側には堀と土塁が残る。平成13～18年度に城跡の北西部が下陰遺跡として北関東自動車道建設に伴う調査が行われ、方形竪穴建物跡や多数の土坑・溝跡が確認された。報告書では、城・館・市の機能が一体となった遺跡群であることが示されている。

鬼怒川右岸の低地に立地する城館跡

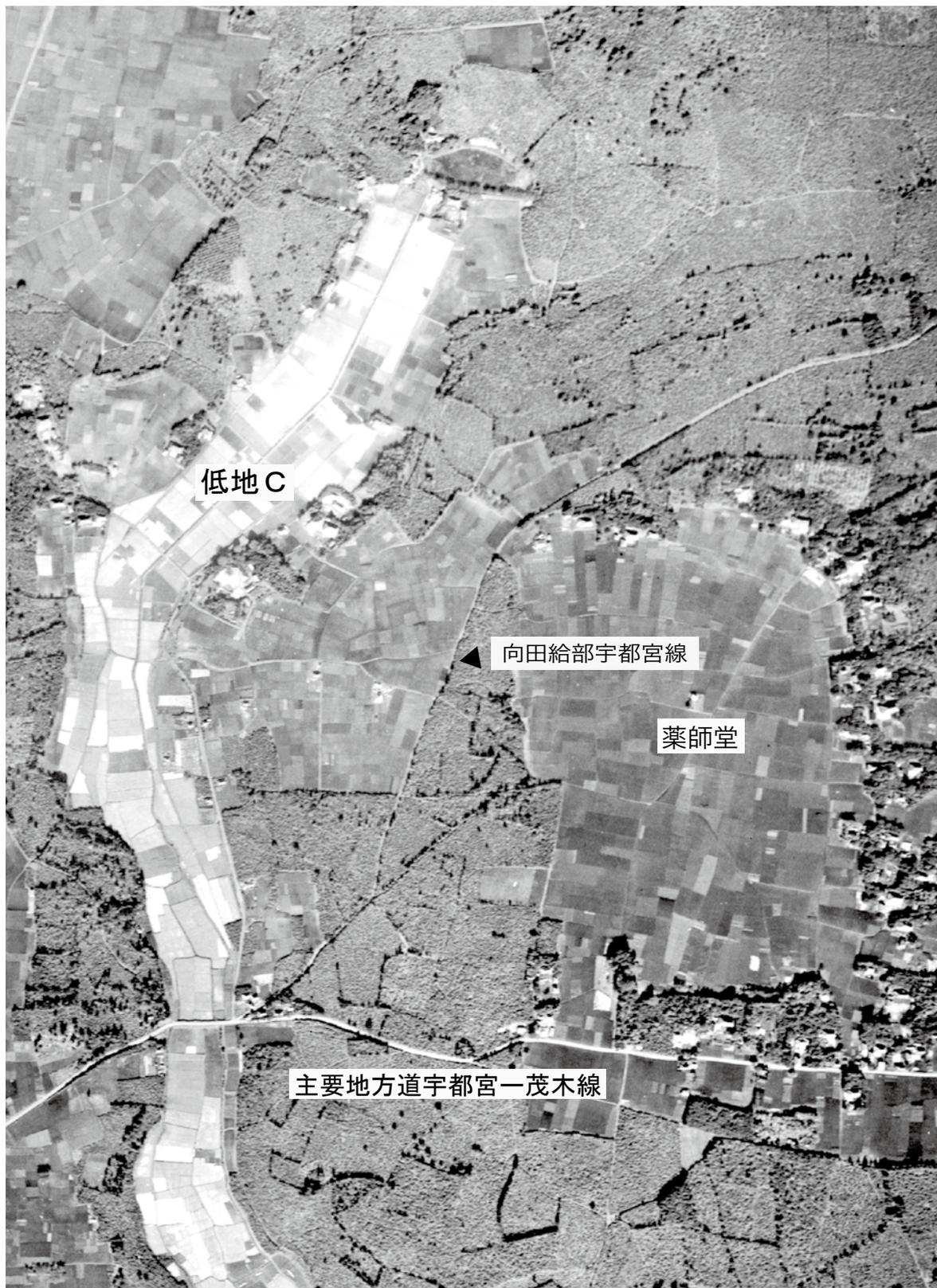
平出城跡は鬼怒川右岸の低地に立地する。承元3年（1209年）宇都宮家の家臣、鈴木八郎重定の築城とされる。周辺には御城・中城・北（城）・東門・バンバ・立堀などの屋号が残る。平成21・22年度に県道整備に伴う調査が行われ、城の東側を区画する溝と掘立柱建物跡、方形竪穴、地下式坑、井戸跡等の遺構が確認されると共に、15～16世紀代の青磁・白磁・かわらけ等の遺物が出土した。これらの調査により、城域は南北400m以上、東西約350mの広範囲と推定された。

石井城跡は鬼怒川右岸の低地に立地する。現在、土塁、堀等を確認することはできないが、古城内・蔵ノ内・馬場先・堀之内等の地名が残る。築城時期等は不明だが、中世の範疇と考えられる。

桑島城跡は鬼怒川右岸の低地で、河道に近接して築かれた。現在は主郭が位置する宅地周囲で土塁が一部確認されると共に、中丸・西門・宿等の地名が残る。石井城と同じく築城時期等は不明である。

刑部城跡は鬼怒川右岸の低地に立地する。応永年間（1394～1428年）宇都宮氏の家臣、刑部良業の築城とされる。現在も刑部氏子孫宅周囲に土塁・堀が残り、城の規模は南北95m、東西42mである。子孫宅の屋号が御城で、西側の屋号が西城と呼ばれるため、城域も広範囲に及ぶことが予測される。

高島館跡は鬼怒川右岸の微高地上にあり、台地西側には江川が南流する。宇都宮氏の家臣、高島右京守の築城とされ、城域も方約120mと推定される。平成14年度に北関東自動車道建設に伴う調査が行われ、館



第10図 米軍航空写真（昭和21年～24年）

跡南側は旧河道を堀として利用していたことが確認されると共に、16世紀代と考えられる磁器片（明代・染付）の出土が認められた。

上館跡は鬼怒川右岸の微高地上に立地する。南北約93mの範囲の中に、一辺約50mの方形区画が確認される。構築時期等は不明である。

中館跡は鬼怒川右岸の微高地上に立地する。城域は方約100m以上と推定され、北側部分には二重の土塁と堀が確認される。構築時期等は南北朝前後の時期とも推定される。

以上の他、第12図の範囲外となるが、平出城跡の北4kmの地点にある岡本城跡について、史跡整備に伴う調査が近年進められ、城の構造・変遷が明らかとなってきている。また宇都宮氏の居城宇都宮城跡についても市街地内の開発に伴う調査が断続的に行われ、城跡の内容が明らかにされつつある。

これら城館跡の分布から、戦国期頃の鬼怒川右岸の低地に立地する城館跡は宇都宮氏とその南部は横田氏（上三川氏・今泉氏）に関連するものであるが、鬼怒川左岸から五行川・野元川沿岸に立地する城館跡は宇都宮氏の勢力圏と芳賀氏の勢力圏の境界ないし結節点に位置する城館跡と言える。この間、民衆の住む集落は、台地上への移動や集村化の動きがみられるとも考えられているが、発掘調査の事例は稀で、実態は不明である。

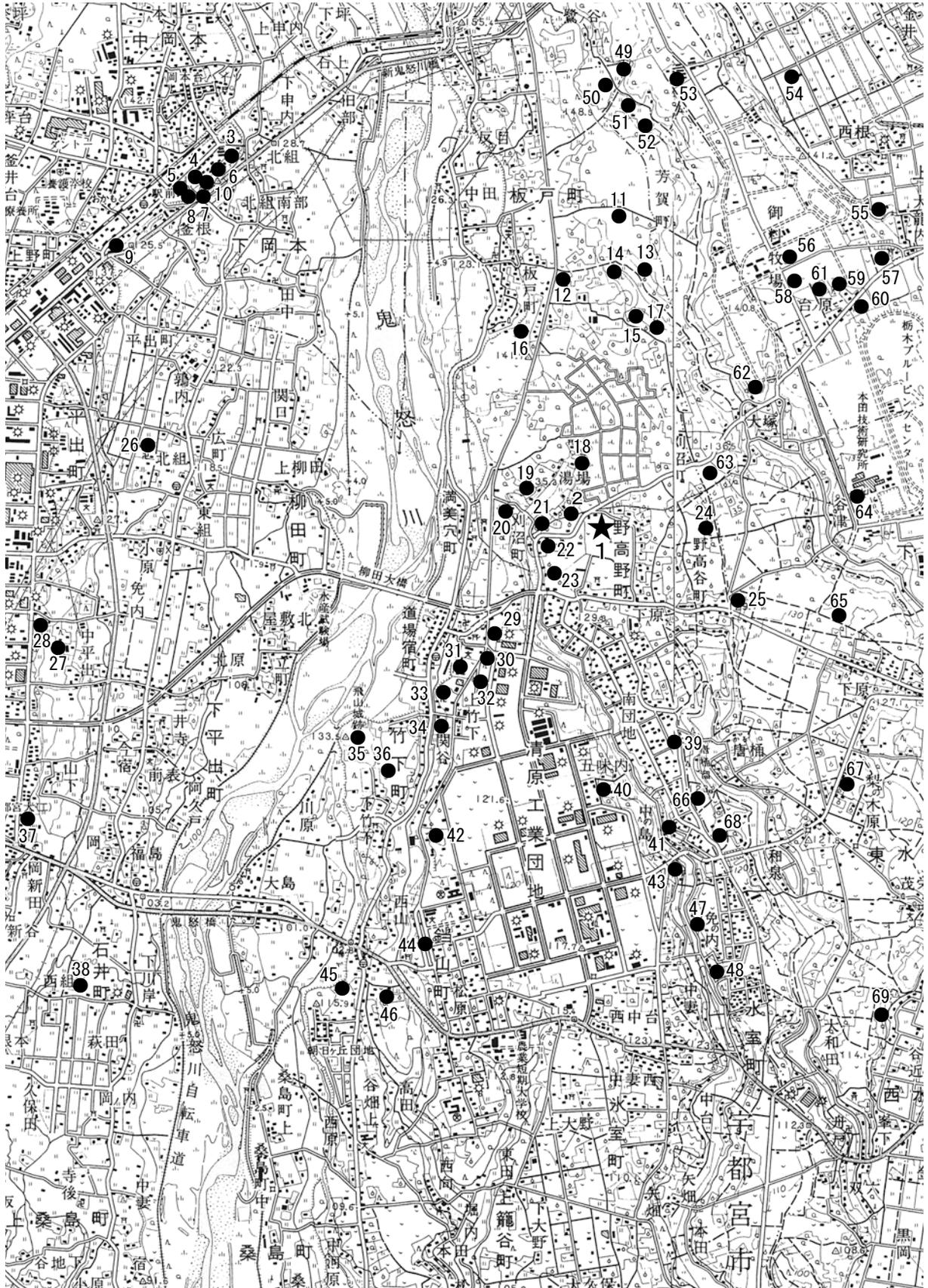
なお注意すべき寺院として、鬼怒川左岸の現道場宿交差点南東に近接して位置する大乘寺がある。大乘寺は前記した淡路城の城主直井淡路守が文禄元年（1592年）に創建したとも伝えられるが、創建年代が遡る可能性もある。

近世以降

近世に入ると、寛文四年（1664年）奥平美作守知行目録（『続々群書類聚』第九所収「寛文印知集」）に野高谷・道場宿・竹下・鑑山・氷室・上籠谷・刈沼新田・刈沼・板戸・西高椅郷の地名がみられ、本遺跡周辺は宇都宮藩領であったことが分かる。他に野高谷の地は、宇都宮方面から向田・烏山方面に向かう道と宇都宮方面から祖母井・茂木方面に向かう道が交差する交通の要所に位置していたとも言える。

近世に入ると舟運が発達するが、本遺跡周辺の鬼怒川東岸では北から板戸河岸、道場宿河岸、鑑山河岸が位置している。前記した道が鬼怒川にさしかかる所では、元禄3年（1690年）に道場宿河岸が幕府公認の河岸となる。河岸の開設時期については近世初頭ともいわれるが、戦国期末の可能性も考えられるようである。また鑑山の河岸は元禄3年には公認されていないが、天和元年（1681年）以前には開設されていたようで、清原地区は物資流通の拠点として賑わったと言われる。一方『宇都宮市史』によれば、宇都宮藩内で18世紀後半に、飢饉・流行病、また潰退転（耕作地の放棄）による急激な人口減少が起きたとされ、本遺跡の内容・歴史的環境を考える上で注視される。

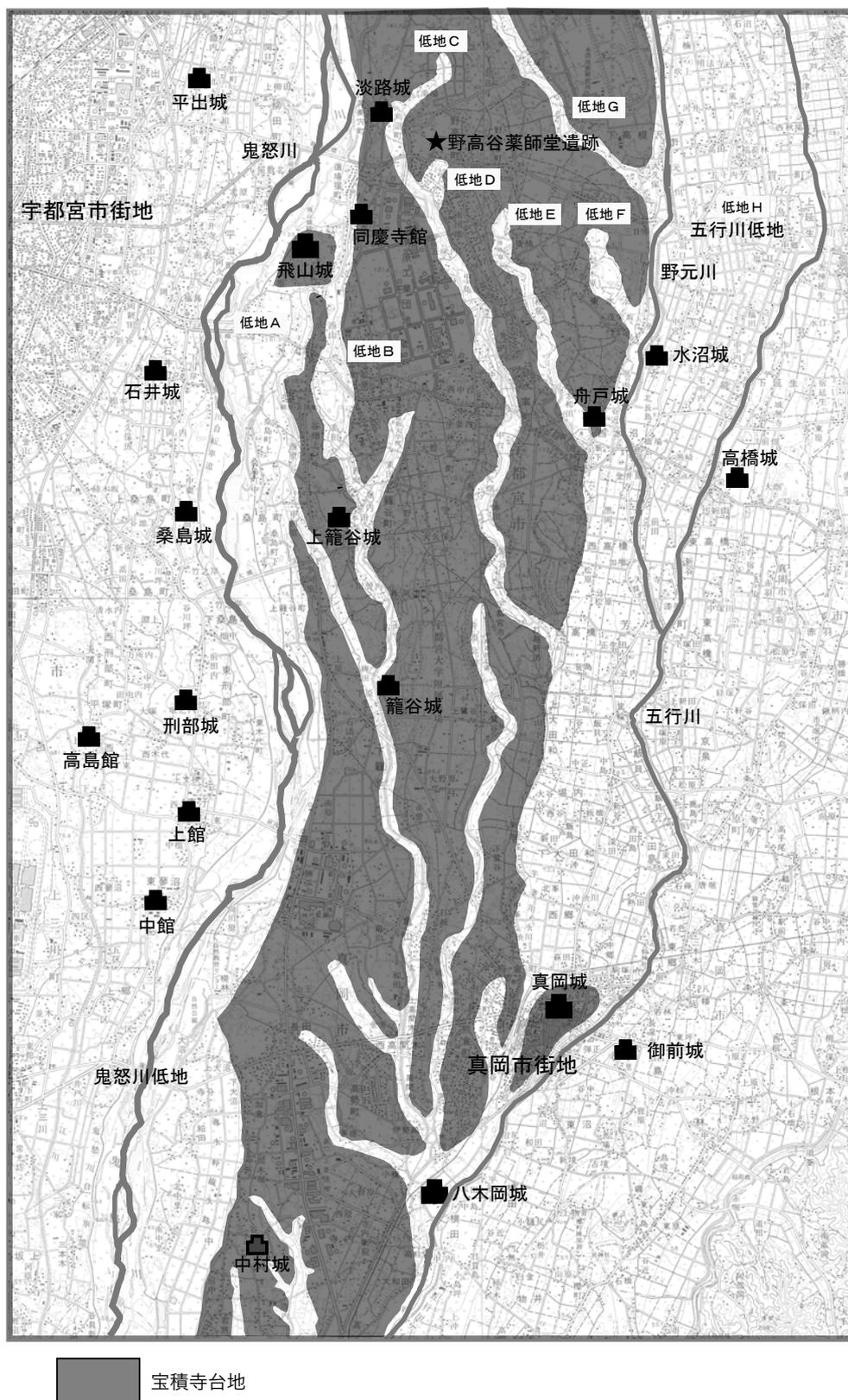
近代になると1889年（明治22年）4月1日の町村制施行により、竹下村、鑑山村、上籠谷村、氷室村、刈沼村、刈沼新田、野高谷村、板戸村、道場宿村が合併し芳賀郡清原村が成立する。さらに、清原村は1954年に宇都宮市との合併により宇都宮市に編入され清原町となった。1970年代以降、開発が進み、清原工業団地を中心として、多くの企業が進出している。近年、遺跡一帯は、独立行政法人都市再生機構の「宇都宮テクノポリスセンター地区」として開発が進み、センター地区東側の芳賀工業団地、南側の清原工業団地と連携した高度技術産業集積活性化計画の拠点となる街づくりが進んでいる。



第11図 周辺の遺跡

第1表 野高谷薬師堂周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	所在地	種別	時期(型式)	備考
1	野高谷薬師堂遺跡	野高谷町 657 他	墓地	中世・近世	
2	刈沼東原遺跡	刈沼町東沢 344-1 他	集落跡	古墳	
3	岡本小学校遺跡	下岡本町	散布地	縄文(後期)	
4	第二公園内古墳群	下岡本町	古墳	古墳	円墳(供養塚)
5	第二公園南遺跡	下岡本町		縄文(加曾利 E)	
6	日枝神社南遺跡	下岡本町	散布地	先縄文	
7	日枝神社南古墳	下岡本町	古墳	古墳	円墳
8	第二公園古墳群	下岡本町			
9	第一公園東遺跡	下岡本町		縄文(加曾利 E)	
10	古坂峯高塚	板戸町 1711 他	高塚	江戸	
11	中丸遺跡	板戸町 3420 他	古墳	縄文	
12	板戸愛宕塚古墳群	板戸町 2215 他	古墳	古墳	円墳 2
13	山田遺跡	板戸町 3463 他	集落跡	縄文・古墳	
14	不動上供養塚	板戸町 3620-1	供養塚	江戸	
15	不動山古墳群	板戸町 3630 他	古墳	古墳	円墳 2
16	日陰坂上古墳群	板戸町 1839 他	古墳	古墳	円墳 2
17	不動遺跡	板戸町 3660 他	集落跡	縄文	
18	刈沼池前遺跡	野高谷・刈沼	散布地	縄文・古墳時代以降	
19	鎮守林西遺跡	刈沼町 552-1 他	集落跡	縄文・奈良	
20	淡路城跡	刈沼町 469 他	城館跡	室町	
21	向原遺跡	刈沼町 298-4 他	集落跡	奈良・平安	
22	刈沼向原遺跡	刈沼町 268-11 他	集落跡	縄文・古墳	
23	刈沼遺跡	刈沼町 482-1 他	集落跡	縄文・古墳	
24	野高谷東原遺跡	野高谷町 1066 他	集落跡	古墳	
25	野高谷北台遺跡	野高谷町 1135 他	集落跡	縄文・古墳	
26	平出城跡	平出町 1512 他	城館跡	室町	
27	免の内台古墳	平出町 4106 他	古墳	古墳	円墳
28	上野遺跡	平出町 411 他	道路跡	奈良・平安	
29	大塚古墳	大塚西	古墳	古墳	
30	大塚古墳	道場宿町	集落跡	奈良	新規命名
31	山之内遺跡	竹下町字山之内 885 他	集落跡	奈良・平安	
32	どどづか高塚	道場宿町 27 他	高塚	江戸	
33	同慶寺館跡	竹下町 1107 他	城館跡	室町	
34	竹下浅間山古墳	竹下町 1100-5 他	城館跡	古墳	前方後円墳 市指定
35	飛山城跡	竹下町 393-6 他	城館跡	室町	
36	竹下遺跡	竹下町 712 他	集落跡	縄文・古墳	
37	山下台高塚群	下平出町 1019-1 他	高塚	江戸	円形高塚 2
38	石井城跡	石井町 1721 他	城館跡	室町	
39	五味内古墳	氷室町五味内	古墳	古墳	
40	五味内遺跡	氷室町五味内	集落跡	奈良	
41	氷室中ノ島北遺跡	氷室町字中島 973-7 他	集落跡	奈良・平安	
42	千波ヶ原遺跡	竹下町 1412 他	集落跡	縄文・古墳	
43	氷室中ノ島遺跡	氷室町 1781-1 他	集落跡	縄文・奈良	
44	鑑山東原遺跡	鑑山町 191-1 他	集落跡	縄文・奈良	
45	草倉坂下遺跡	鑑山町草倉坂下 672 他	集落跡	縄文	
46	根本内遺跡	鑑山町字根本内 617 他	集落跡	奈良・平安	
47	白内遺跡	氷室町 705-8 他	集落跡	縄文・奈良	
48	免の内遺跡	氷室町 1012-1 他	集落跡	縄文・古墳	
49	鷺ノ谷庚申塚	宝積寺字鷺ノ谷	塚	中世・近世	
50	鷺ノ谷 A 遺跡	宝積寺字鷺ノ谷	散布地	中世・近世	板碑
51	鷺ノ谷弁天塚	宝積寺字鷺ノ谷	塚	中世・近世	頂部に弁天様の詞
52	鷺ノ谷 B 遺跡	宝積寺字鷺ノ谷	散布地	縄文・古墳・中世・近世	内耳土器
53	台の原 A 遺跡	上高根沢台の原	散布地	縄文	打斧・磨石 旧名：台の原遺跡
54	一斗内遺跡	石末字一斗内他	散布地	縄文(中～後)・奈良	
55	西根遺跡	上高根沢字西根・大童内他	散布地	旧石器・縄文(前～後)	西根 A、十九夜坂入口遺跡を含む
56	台の原 D 遺跡	上高根沢台の原	散布地	縄文・中世・近世	
57	井戸山塚古墳	上高根沢台の原	古墳	古墳	滅失 平成 5 年確認調査
58	台の原古墳群	上高根沢台の原	古墳	古墳	8 基牧場造成時に滅失
59	井戸山古墳	上高根沢台の原	古墳	古墳	開田時に滅失
60	上の原 A 遺跡	上高根沢上の原	散布地	縄文・中世・近世	内耳土器
61	台の原 E 遺跡	上高根沢台の原	散布地	縄文	
62	不動塚古墳群	下高根沢字大塚不動山	古墳	古墳	円墳 3 旧名：大塚古墳群
63	大塚遺跡	下高根沢字大塚	集落跡	縄文	
64	箸塚遺跡	下高根沢字箸塚	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	
65	下原遺跡	下高根沢字下原	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	
66	後久保遺跡	東水沼字後久保・古留 2930	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	
67	梨の木原遺跡	東水沼字梨の木原	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	
68	後久保古墳	東水沼字後久保・古留 2944	古墳	古墳	前方後円墳
69	谷近台古墳群	西水沼字谷近台	古墳	古墳	円墳 6 市町村番号 325/ 谷近台遺跡



第12図 宝積寺台地と中世城館

第3章 確認された遺構

野高谷薬師堂遺跡では、溝 80 条、地下式抗 198 基、井戸 159 基、竪穴遺構 24 基、土坑 3491 基、掘立柱建物跡 21 棟、掘立柱柱穴列 11 基が認められた。本報告書掲載に際して、検討により調査時と遺構の種別を変更したものがあつた。また調査時時点の遺構番号を一部変更している。上記遺構以外にも多くのピットがあり、調査時点で遺構番号を付しているものもあるが、本報告では原則として番号を付しての詳細図を示し得ず、100 分の 1 全体図に上端のみ示すこととした。ピットについては、掘立柱建物跡等の建物跡の柱穴となる可能性の高いものも多いことが想定されるが、調査時点で掘立柱建物跡や柱穴列と判断し得なかつたものは、この扱いとせざるを得なかつた。また調査時或いはその後の検討で「攪乱」と判断したものも、この上端線のみ図示としている。

調査が複数年に亘っているが、調査時と調査場所の対応は第 4 図に示した。以下では調査区毎や遺構の時期毎の掲載・記述としない。遺構の時期は中世～近世を基本としつつ他時期の遺構もあるが、明瞭に区分しがたい遺構も多い。つまり以下の掲載・説明では、まず遺構遺物に分け、遺構については原則遺構の種別毎・遺構番号順に示す（本章）。遺物については各種類別に分類後、遺構番号順で通し番号を付し、この順で示すことにする（第 4 章）。遺構・遺物の対応については第 427～441 図に示した。また遺憾ながら遺物の出土位置について、記録を確認できないものも多く、原則として出土位置記録の掲載を見送っている。

全体図については、100 分の 1 の区画割り図、同じく 500 分の 1 区画割り図を DVD 所収データにて示す。各遺構の位置については、遺構一覧表にこの区分図での位置を示す。調査時点ではグリッドを設定しているが（第 5 図）、煩雑になることもあり、本文・挿図いずれにもこのグリッドは示していない。また土層説明についても挿図中ではなく、別途示している。

第1節 溝

第1項 区画溝

本節では溝について示すが、まず区画溝についてこの項で示す。本遺跡では調査時より推定した墓域の区画溝として SD01 以下 15 条の溝がある。平面形状として、10m 以上の長く伸びる溝であること、概ね直線的な平面形状または 90 度近く屈曲して更に伸びる L 字状またはコの字状であること、断面の形状や深さも一定していること等の特徴がある。他の遺構分布とも併せての区分ではあるが、これらのある一定空間を区画する目的的な遺構として「区画溝」と呼称し以下説明する。

区画溝：SD01,02,27,46（遺構図第 13,17～19 図、写真図版 6～8）

調査時点より判断していた本遺跡の中心墓域を区画する溝である。

大きく見ると、主に SD27 で構成される北側のコの字状～長方形の区画と、この南側で SD01,02 から構成される台形状の区画とがある。

全体形状

SD01・02 の溝両者は概ね併走するが、南辺では SD01 が途切れている部分も多く、また東辺では両者の溝間の距離がやや離れる場所があること、西辺や東辺で長さが異なる（北端部の位置が異なる）こと等、完全な平行関係には無い。

面的に調査した範囲の SD01,02 で扱った形態からすれば、北側が開くコの字状を呈する。但し東辺の北側

はトレンチ調査の結果から、より北側に続くことが推定され、更に調査区北端で確認されたSD46に繋がることが推定できる。溝の幅・断面形態、深さ等も対応することから、この推定の蓋然性は高い。このSD46の更に北側にはやや細く浅い溝SD73,74 或いはSD47が確認されており、SD01,02の関係と対応するようにも見える。

ともあれSD02～SD46の溝は大きく空間を区画する溝と捉えることができ、またこの区画内外で地下式抗等他の遺構の分布・粗密の差異も顕著に確認できることから、本遺跡を特徴付ける遺構と言える。

仮に南側のSD01,02を付した範囲で捉えた場合、SD01,02の東西幅は134 m、南北125 m、西側の狭い部分＝西辺の長さ110 m、南東側の区画が開放される北東－南西軸の部分80 m、となる。SD46も含めた全体の大きさを示せば、南北軸最大で230 m、東西軸では最大で187 mとなる。この場合の区画は南北に長い長方形～台形状の区画となるが、西辺の北二分の一近くが途切れている。また南東側が南東方面に向かって突出するような形状で、ここではSD02が途切れていることも特徴である。SD01も途切れるが、この延長上で同形態のSD71,72が位置し、これが途切れる一方の端部近くまで伸びている。

南辺は北辺と並行せず、東側がより南に傾斜するような形状である(N-73° -W)。先ほどの長軸数値はこの南東端からSD46までの垂線推定長で、西側の長軸数値は212 mとなる。短軸長も計測場所で異なるが、溝上端部間の数値は東西175 mとなる。ちなみに軸を無視して南辺の屈曲する部分間の長さを示せば102 m、西辺の確認されている溝長さは112 m、東辺北側の確認されている長さ81 m、南東辺の長さ23 mである。SD02西辺の軸は北側がN-3° -W、南側がN-16° -Eで長さ136 m、南辺の軸はN-73° -Wで104 m、東辺の軸は北側がN-16° -E、南側がN-4° -Eで南東屈曲部までの確認されている長さは58 mとなる。SD01西辺の角度はN-1° -E、南東辺は北側がN-46° -E、南側がN-34° -E、北側SD01屈曲部より南ではN-53° -W、これより北ではSD02とほぼ平行でN-4° -Eである。

SD02の形状

溝の上端から底面までの深さは40～140 cmだが、100～120 cm程度のところが多い。断面形は葉研～逆台形～逆三角形で、底面(下端)の幅は20 cm程度のところと50 cm程度のところがある。西辺北側は断面逆三角形の部分が目立ち、一方東辺では壁の傾斜もやや緩やかで、断面逆台形～湾曲するU字状の部分が目立つ。

上端幅は110～285 cm程度まであり、180～240 cm程度の部分が多い。西辺北側がやや狭く、東辺北側が広い傾向にある。表土よりの断面観察記録をなし得たところでは、当然ながら広い上端幅が確認される。なお、軸方向上で途切れる部分の壁についても、概ね他の壁部分(軸直交部分)と同程度～やや急な傾斜で立ち上がる形態である。

SD02溝の確認はローム面であるが、調査区壁での断面観察等からすれば、より上位の層準(ローム面より80 cm程度上位)より掘り込んでいることが確認される(第18図右上80ラインでのセクション)。

なおSD01と切り合うところがあり、それらではSD01の方が新しいという土層観察所見が確認される(91～93,80ライン)。

また、SD02西辺北側では東側に50 cm程度の距離をおいてSD13が並走している。この付近で地下式坑や井戸跡がややまとまることも注意される。SD13の更に東で5 mを超える長さのSK1186等も溝の一部となる可能性があり、この想定からすればこの位置・方向がSD03の延長上にあることも注意する必要があるかもしれない。

SD02 覆土

覆土には壁面の崩落或いは掘りあげ土再流入？に関わるローム粒子・ブロック、今市パミス（IP）、七本桜パミスのブロック・粒（SP）等が入り、原則として自然堆積と捉えられる。確実な人為堆積の所見部分はない。掘り返しの疑いがある場所も殆ど見られない（74 ラインの堆積記録のみやや気がかりなところか）。また砂層の堆積部分も無く、水が流れ、或いは常時滞水するような溝ではないと判断できる。また覆土観察の所見からは溝の外側に土塁があったとの所見はなく、その推定も困難である。また、東辺での第 19 図 93 - 98 ライン辺りで複雑な土層堆積の記録となっているが、その要因は不明である。

SD02 溝底面・壁面のピット

なお SD02 溝底面にはピットが連続的に穿たれており（第 18 図 83 ラインセクション、写真 6-1 等）、調査時には溝と同時期或いは前の時期に柵列があった可能性が考えられた。この土層記録を見る限りでは、柵列→溝という前後関係で捉えることは困難で、むしろ 14 層や 25 層を杭・柵柱のような材の痕跡と捉えることもできるように思える。また 71 ラインの断面でもピットの壁面延長が覆土分層ラインに繋がっており、同時或いは溝→ピットの可能性さえ窺わせる。その一方で 72 ラインや 76 ラインでの土層記録からは、ピット→溝の可能性も否定できないことを示している。また平面的には、溝の底面（平坦面）での確認だけでなく、むしろ溝の底面から上端へと傾斜する壁面でのピット確認例・確認部分も多い。

SD01 の形状

SD01 の深さは 10 ～ 55 cm 程度まであり、40 ～ 50 cm 程度のところが多い。SD02 同様、ローム面より上位から掘り込んでいるようで、本来的な深さはこの数値（50 ～ 80 cm 程度）を加える必要がある。この SD01 の断面形も均一ではないが、逆三角形～逆台形状のところが多い。いずれもローム漸移層～ローム面上位の今市七本桜軽石を含む層（SP 層・IP 層）、さらに深いところでは KP 層を掘り込んでいるところもあるようだ。

SD01 南東コーナー～北東へ向かう部分については詳細図を示している（旧遺構番号 SD67、第 40 図）。ここでは SK1992,1994 より溝の方が新しいことが示される。

なお SD02 西辺の東側では後述する SD03 が 5 m 程度の距離をおいて並走している。但し SD02 南西コーナーがやや北西－南南東軸の直線部分を有するのに対して、SD03 ではクランク状の部分を経て SD02 に接している。

なお覆土等で SD02 と大きく変わるところはない。詳細な記録をとり得ていないが、SD02 と異なり、底面壁面でのピットは極めて少ない。全体を見渡すと、東辺での SD01 溝のみ壁面・底面～上端面にも多くのピットがあり、とりわけやや南側に多い。この溝から離れた位置ではこのようなピット群・列は見られないことから、SD02 同様、溝と同時期または以前の時期のピット（柵列）となろう。整理時の所見ではあるが、途切れた部分の延長上で柵列・ピット列を確認できず、溝内部に限定的であることから、同時期の可能性が高いように思われる。整然とした、等間隔のピット列ではなく、また深さもさほど深い例が見られないことも気がかりではあるが、柵・掘立柱塀・生け垣のような施設の存在を考慮する必要があるかもしれない。

なお、SD01,02 の溝と重複する他の遺構はきわめて少なく、とりわけ井戸や地下式坑との重複は限定的である。言い換えれば、区画内に密集する地下式坑・長方形土坑・井戸等の遺構とはある一定の距離がある＝空間がある、という事象は注目すべきであろう。但し東辺の北側、現薬師堂に近い位置の SD01,02 北側には方形土坑が多く重複している（写真図版 5-8）。ここでは幾つかの土層観察・所見から溝より新しいことが確認されており、区画溝機能停止後の遺構群と捉えることができよう。

また重複する区画溝遺構としてSD02西辺の北側で、SD21,20,26がある。両者はほぼ直交するが、とりわけSD21は大きく区画する溝SD27南辺の延長上に位置していることは注意される。

SD01,02の出土遺物（第427,428図）

SD02からは比較的多くの遺物が出土しており、詳細な記述及び検討が必要であるが、確実な出土位置を示し得ないものも多く検討には至らない。SD02覆土上位から五輪塔の出土が確認される（第19図セクション93ライン）。SD02の遺物については第427,428図にまとめた。かわらけ及び五輪塔の出土が目立っている。大きな区画溝遺構であることから、もとより遺構共伴とは言いがたいが、おおよその年代幅を示している。五輪塔の出土事例を詳細に検討する必要はあるが、覆土上位での出土例が目立っていたようであり、多くは覆土形成時に流入または廃棄した遺物と考えられよう。陶磁器では111～118があり、17世紀代の瀬戸美濃系碗から18世紀後半～19世紀代と推定される瀬戸美濃系小碗までである。かわらけや内耳土器も大きさ・形態等バラエティがあり、覆土形成時期について一定幅の時間幅を考える必要があるとそうである。他に注目すべき遺物として、輪宝墨書土器、香炉、石鉢等がある。

SD46

SD46は上端幅220～335cm、下端幅20～90cm、深さ130～150cm程度、断面形は逆三角形～逆台形状を呈する。多くが断面逆台形状でSD02同様比較的均一的な形態といえる。覆土の堆積は、やや複雑な堆積を観察できる部分が多いが、壁外両側からの、壁際の土層→内側・上位の土層堆積、という堆積が一般的な堆積パターンと言えそうである。全体の平面形状はほぼ直線的であるが（N-85°-W）、西端近くがやや屈曲し軸が変わっている（N-9°-E）。直接の距離は遠く交わらないが、このSD46の主軸とSD27西辺の軸とは約75°の角度をなしている。東は調査区外となり、全体形状は判然とし得ないが、SD02の項でも触れたように、確認トレンチ調査の結果から、SD02東辺に繋がる可能性が考えられる。このSD46の北側にSD73,74が、南側にSD27がほぼ併走している（N-83°-W）。両者の距離は5～8mで、東へ向かうに従いこの間の距離は狭くなる傾向にある。

またSD46の北側にあるSD73,74も2m程度の間をおいて概ね平行する。第42図に詳細図を示したが、断面では重複図示しているものもある。このSD73,74は2本の溝としているが、重複する部分もあり、そこでの土層観察からはSD73→SD74の関係が捉えられている。またSK4131等幾つかの土坑と重複するが、溝の方が新しい。

SD46は上端幅40～70cm、下端幅20cm程度、深さ12～22cm、SD74は上端20～60cm、下端10～30cm程度である。SD73,74の西側は調査区外となるが、延長上にあつてSD46の北側3m程のところ併走するSD47が同一の溝と判断される。但し上端幅30cm程度、深さも5～10cmと浅い。SD73,74は東西で44m程、SD47は43m程の確認、この間の未調査区部分は36m程となる。SD47はSD46の西端よりさらに西側に延びるが、SD27に近づきながらその南西コーナー付近まで延びている。SD47の詳細図は第34図に示した。上端幅40～50cm程度、深さ15cm程度の浅い溝だが、概ね直線的で周囲に展開する遺構や重複する遺構が少ないことが確認される。

SD46で注目されるのは、底面から壁面にかけてかなり密なピットが認められることである。細かく見ると、北側上端付近で東西の密集列、下端から南側上端へ至る壁面へ移行するあたりで東西の密集列があり、更に場所によっては底面から北側上端へ少しかかる辺りで列を見いだすこともできる。つまり、SD02同様の溝ーピットの関係が観察され、必ずしも整然とはしていないものの、「柵」或いは「塀」等に関わるピット群と



第13図 墓地の区画溝 断面図の位置 (1～125)

の推定ができようか。断面9ライン、12,13ライン等でこのピットにかかる部分の土層を示すが、ピット群・溝両者を明瞭な新旧関係で捉えることはできず、むしろ同時と考えた方が整合的である。ピットの形態は種々あるようで、深さも10 cm程度のものからやや深い40～50 cm程度のものまで認められる。なおSD01と同様に、外側の浅い溝SD73,74の方に溝内のピットがない(第42図)点は、SD01,02の関係と対応する事象と言えるかもしれない。

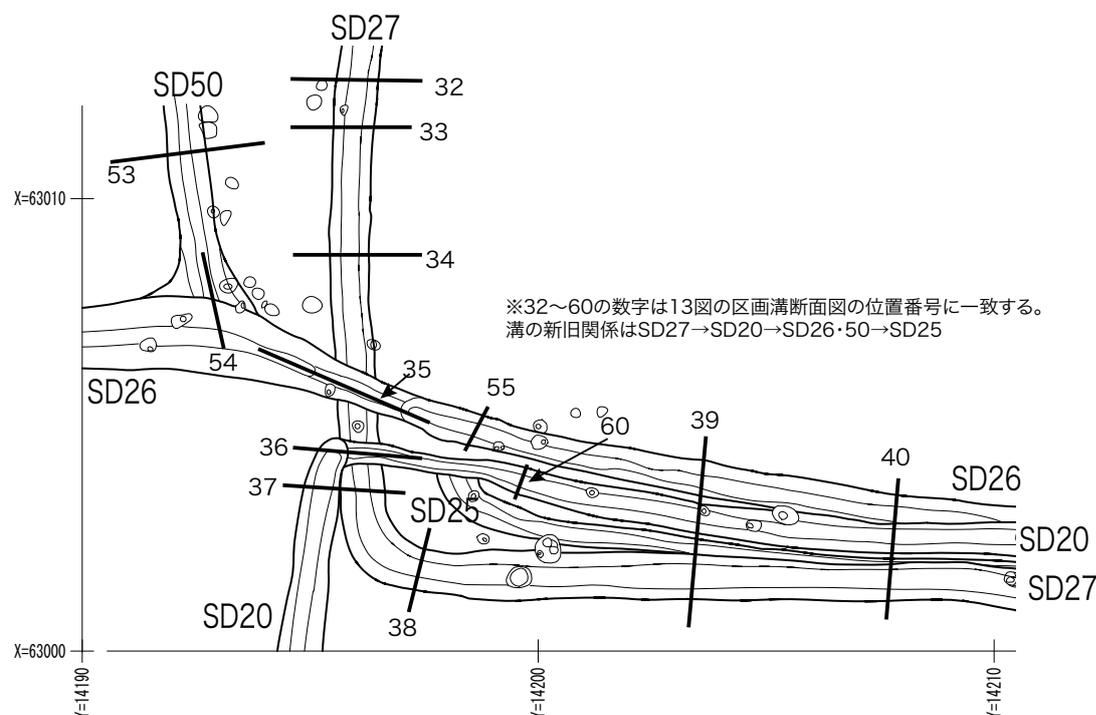
SD46出土遺物については、第431図で示したように、陶磁器、かわらけ、五輪塔空風輪等が出土している。五輪塔では覆土の下位から出土している例もある(写真図版7-7)。瀬戸美濃系の碗で17世紀頃と推定される陶磁器の出土、やや古い様相を示すかわらけの出土等、SD02同様、一定の時間幅を推定できそうである。

SD27

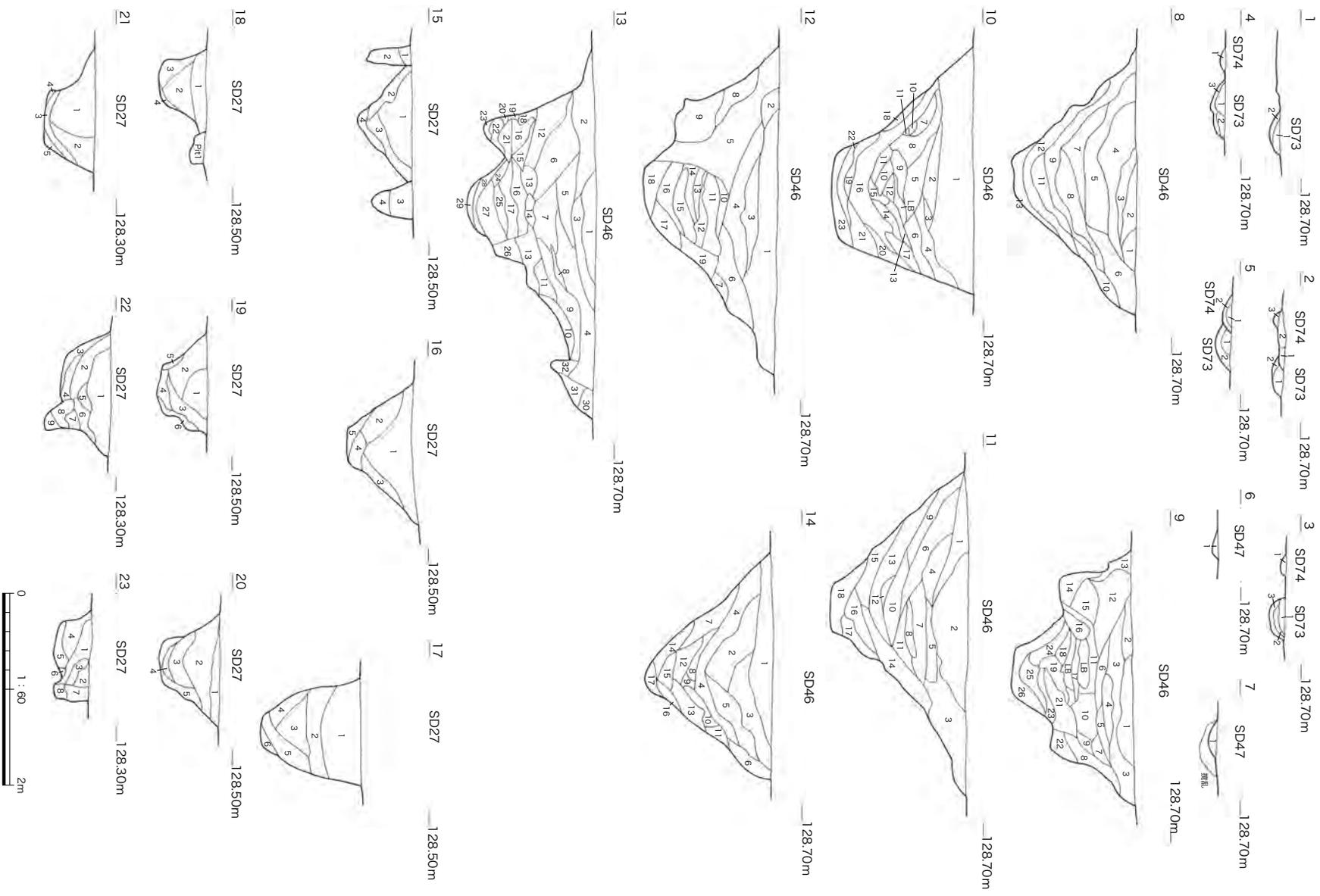
SD27は、遺跡中央～北側を大きくとり囲むように配されている溝である。北辺の確認されている範囲で東西137 m、これからほぼ直角に折れ曲がり直線的に南北に延びる「西辺」が南北110 m、更にこの南端から東方にほぼ直角に曲がり東西39 mほど続く。ここでSD27の端部となるが、7 mほどにおいて東延長上に同方向軸のSD21がある。いったん途切れてSD21に繋がるという表現もできようか。北辺の軸はN-86°-W、南辺の軸はN-86°-W(但し南西コーナー近くはN-88°-W)、西辺の軸はN-4°-E(北側はN-0°)で、北辺と西辺の軸角度は86°、西辺と南辺の軸角度は90°となっており、おおよそ座標に沿うような整ったコの字状を呈していると言えよう。また北辺東端より東は調査区外となるが、確認トレンチ調査の推定からは、南側に屈曲し、110 m程の東辺が推定される。この推定からの北辺長さは154 mで、東辺とはほぼ直角をなしている。これを長方形区画として計測すれば、東西154 m、南北112 mの区画、ということになる。

溝の上端幅は75～150 cm、下端幅20～70 cm、深さ18～105 cm、断面形は逆台形状部分が多いが、壁の傾斜が丸みを帯びているところやU字状のところ等もある。北辺が深く幅も長い傾向にあり、西辺も南に

(→P34)

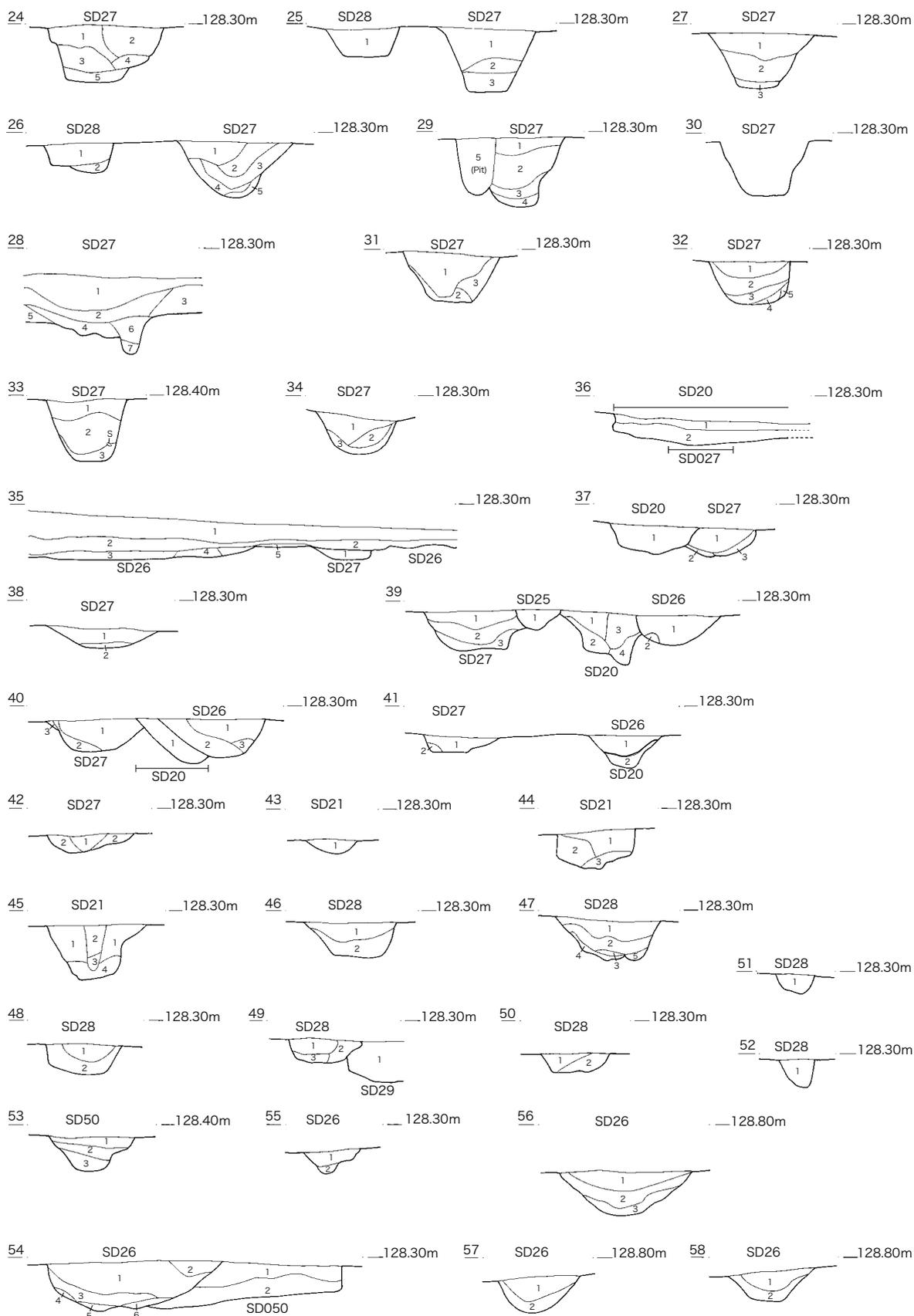


第14図 SD20・25・26・27・50交差点の断面図の位置



第15図 区画溝(1)

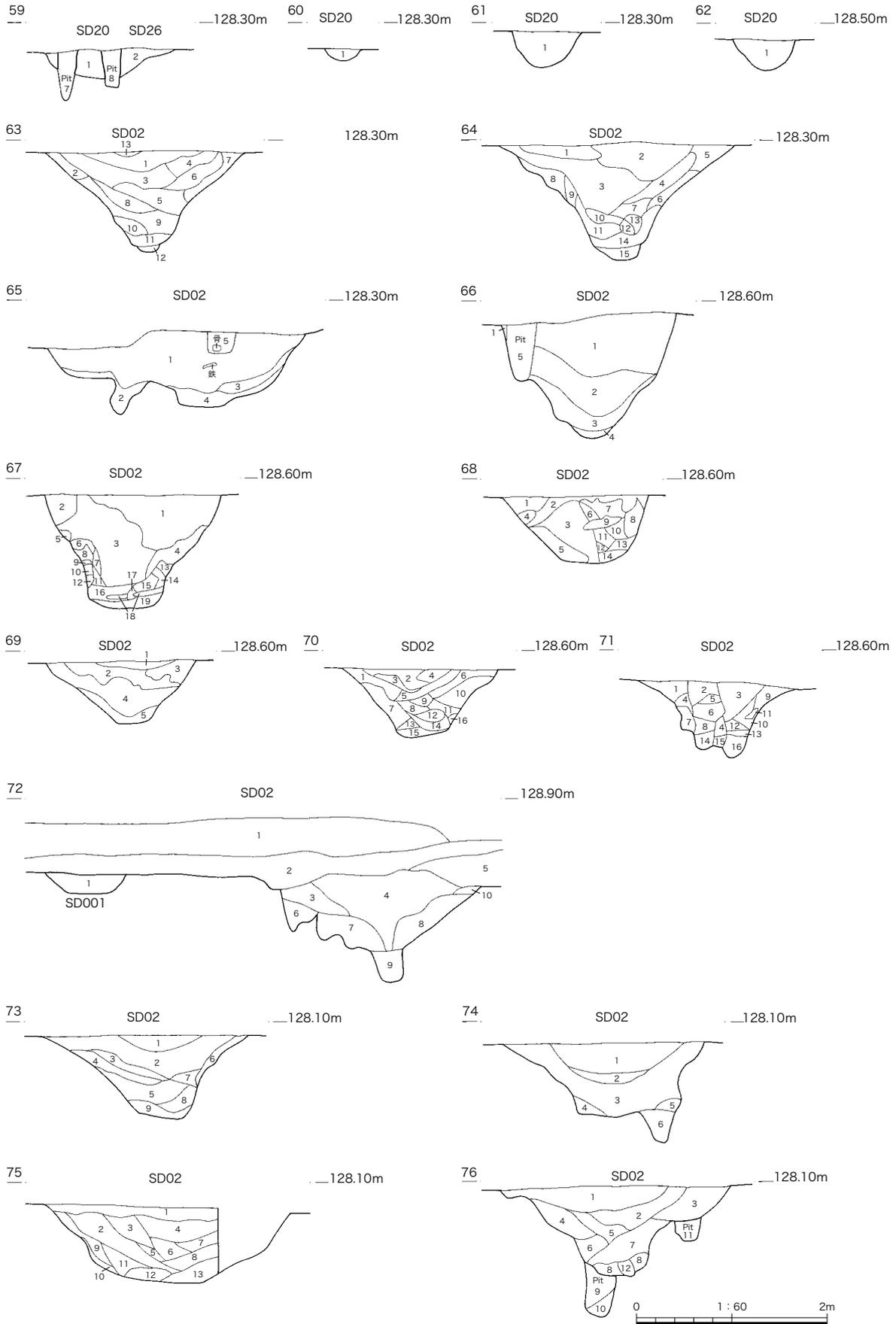
(各断面図の左上の番号は第13図 墓地を区画する溝平面図の番号に一致する)



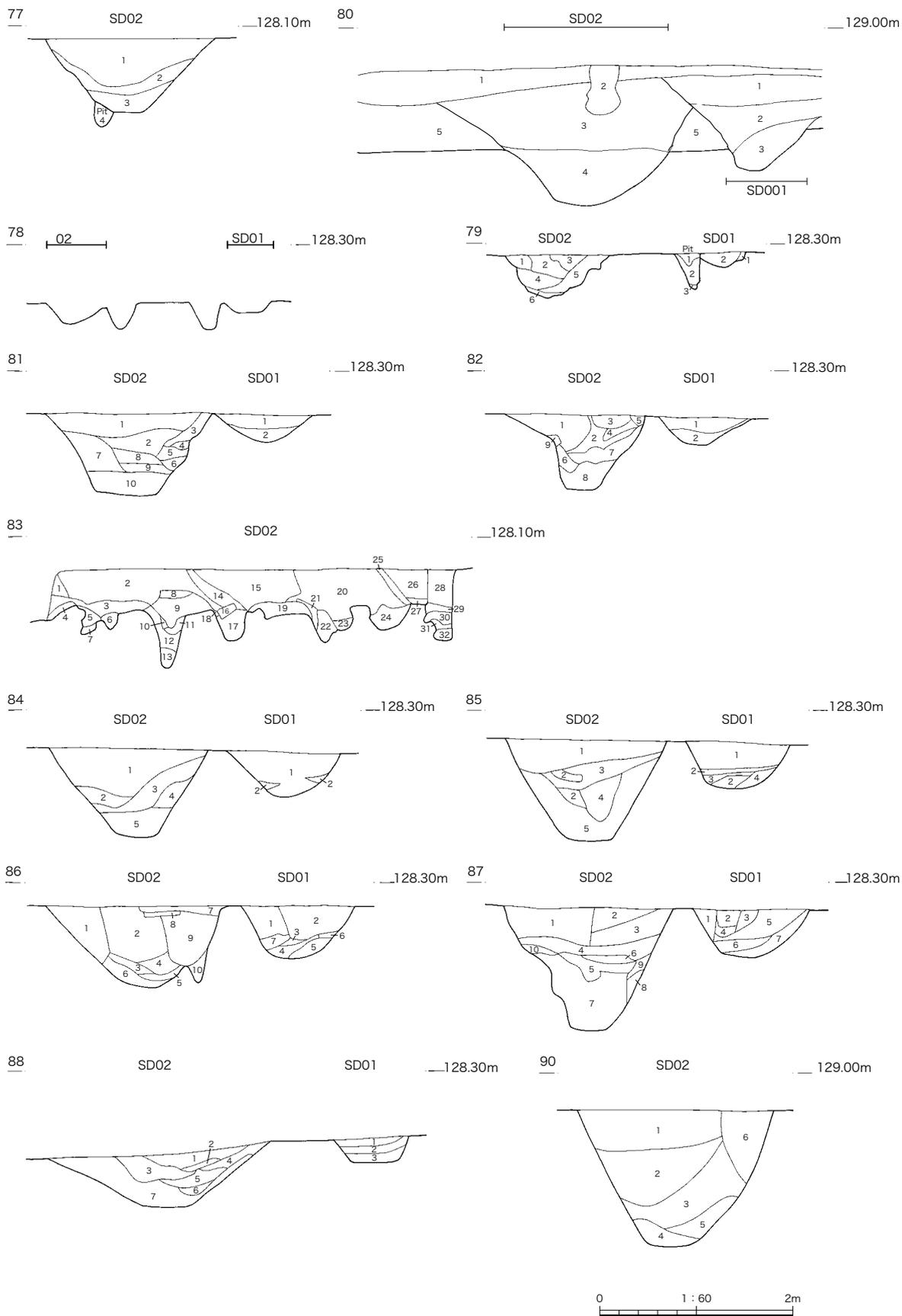
第16図 区画溝 (2)

(各断面図の左上の番号は第13図 墓地を区画する溝平面図の番号に一致する)

第3章 確認された遺構

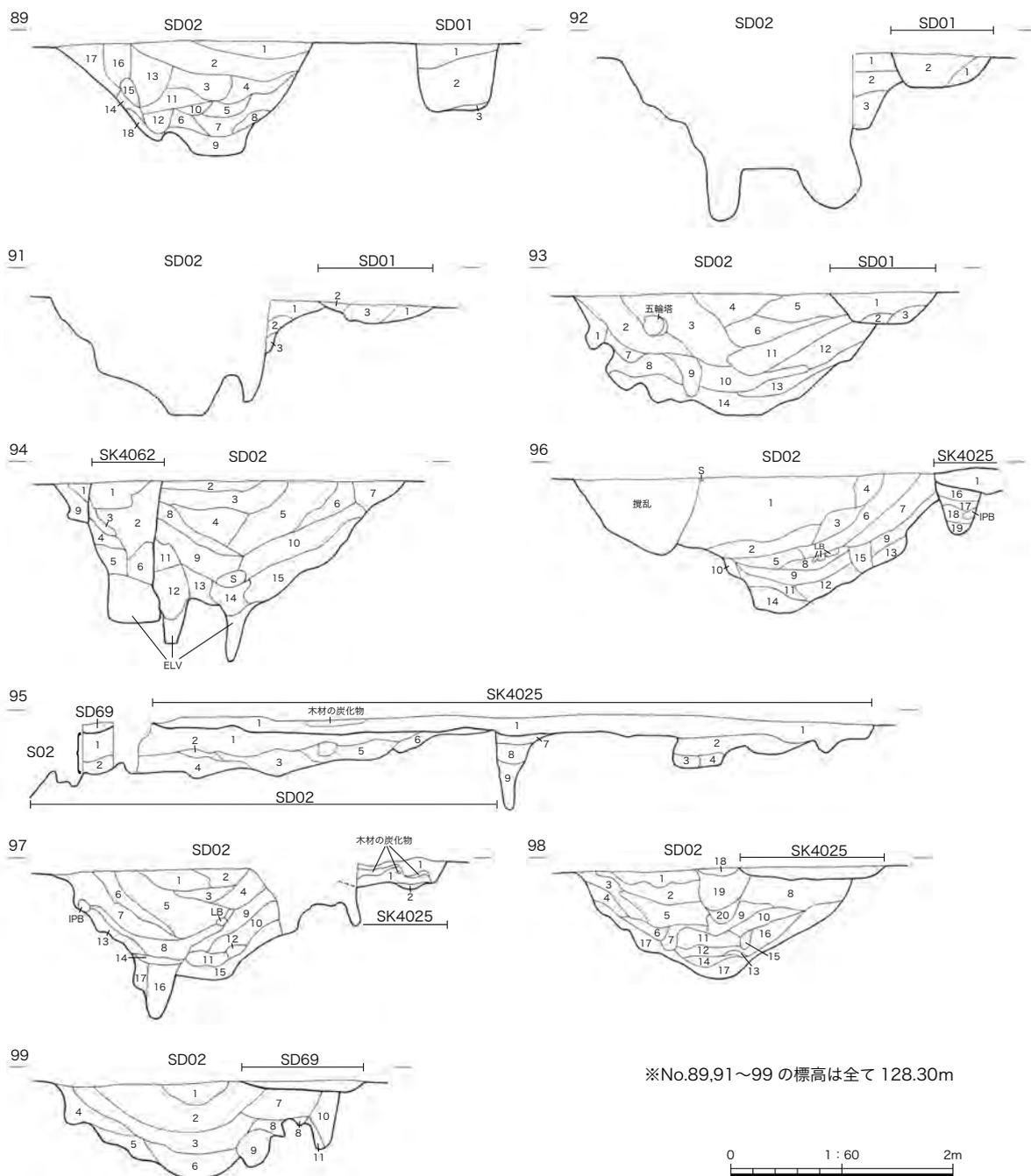


第17図 区画溝(3)
 (各断面図の左上の番号は第13図 墓地を区画する溝平面図の番号に一致する)



第18図 区画溝 (4)

(各断面図の左上の番号は第13図 墓地を区画する溝平面図の番号に一致する)

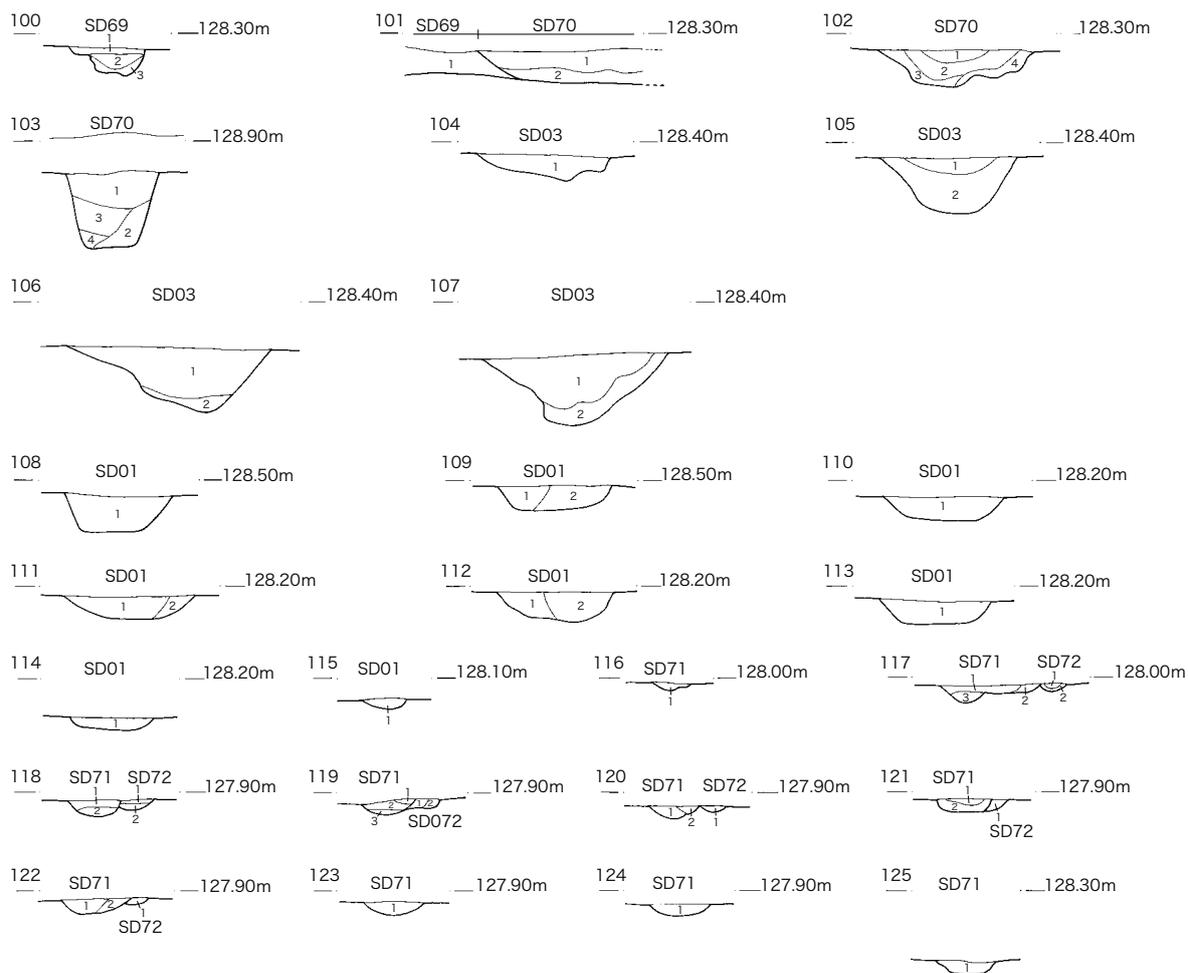


第19図 区画溝 (5)

(各断面図の左上の番号は第13図 墓地を区画する溝平面図の番号に一致する)

向かうに従い浅く上端幅も短くなる傾向にあり、この傾向は南辺でより顕著となる。西辺南側では70～90cm程度の上端幅。南辺東側では上端幅80～90cm、深さ20cm程度の溝となる。覆土は2～6層程度に分層され、原則として壁際→内側・上位への自然堆積パターンを示している。ちなみに延長上にあつて同一時期構築の溝となる可能性があるSD21の覆土との対比について、記録上から判断することは難しいものの、概ね類似する暗褐色土を基本としているようである。

南西コーナー付近でSD50,26,20等と重複関係にある。ここでは複数の溝が交差するが、SD27→SD20→SD26、



第 20 図 区画溝 (6)
 (各断面図の左上の番号は第 13 図 墓地を区画する溝平面図の番号に一致する)

SD20,27 → SD25、の関係が捉えられている。つまりコの字状の溝 SD27 のコーナー付近に、これをまたぎ西辺に直交し南辺の北側で沿うような形状の SD26 が作られる、との所見である。やや北側で SD27 と交差する SD28 との新旧関係は不明である。

遺物では、内耳土器、かわらけ等の出土があるが、図示し得たのは砥石 1040 のみである。

SD20,26 (第 13,14,16,28 図、写真図版 7)

SD20 は、L 字状に屈曲部がある溝で、SD27 におおよそ平行する北辺と西辺からなり、西辺は SD27 の西辺延長上のラインとなる (N-8° -E)。但し南に向かうに従いやや西に振れる形で、これをもって軸を計測すれば、N-15° -E となる。北辺の軸は N-86° -W で、SD27 とはわずかだがずれる＝両者の距離が離れるところがある。

SD20 北辺の東端は SD02 と重なるが、新旧関係は明らかではない。但し SD02 より東には延びていないことから、T 字状の交差部を設けた＝同時期もしくは SD02 が痕跡となっていた時点で、ここまででとめて区画端部としている、と推定することができるかもしれない。この SD20 の東側部分では 150 cm 程度の上端

幅が確認されており、幅が広がっていることも注意される。併せて溝内或いは上端付近でピットが多数認められていることも注意される。

北辺中央やや西側では、SD26 と重複し、一体の溝のようになる。土層断面からは SD26 の方が新しいという新旧関係であるが、SD20 の溝をそのまま継承し或いは更新している可能性がある。或いは SD02 まで続く溝部分を SD26 とした方が良いかもしれない。

SD25 との新旧では、SD25 の方が新しいが、SD25 自体東側では SD27 と合流（言い方を変えれば西側で分岐）し、また SD25 の西側コーナー部より北側は不鮮明であり、SD25 の形態・全形は不明とせざるを得ない。

北辺の SD20,26 いずれも、75～150 cm 程度の上端幅、20～30 cm 程度の下端幅、概ね断面逆台形状を呈している。深さ 23～47 cm 程度、SD20 は 20～52 cm、総じてやや SD20 の方がやや深い傾向にあるが、概ね同じ形態といえる。覆土についてもローム粒や今市・七本桜のパミスを含む暗褐色土を基本としており、堆積パターンを含め大きな差異は無い。なお 45 ラインの土層観察・記録からは SD20 延長上にある溝 SD021 覆土を掘り込むピットが認められる。また 59 ラインでも SD20 を掘り込むピットがある。SD20 西辺では上端幅 60～90 cm、深さ 40～60 cm 程度である。

西辺南辺の L 字状となる SD27 を L 字状で 90° 時計回り回転させた北辺西辺からなる SD20 が切る。更に、東西方向のみの SD26 がこれを切る形である。SD25 も SD27 や SD20 を切るが、SD26 との関係は不明で、ややアップの図及びセクション補足を第 28 図に示す。SK1790 や SK1791 はこれらより古い土坑、またこの図の H-H' ラインでピットが SD20 覆土を切る観察記録が示される。但し「杭」や「柱」状のものが覆土形成時にも残っていたとすれば、必ずしも新旧関係で捉えなくても良いかもしれない。

SD20,26 も途中合流・分岐状であるが、SD20 が北西コーナーから折れて南へ向かい西辺を構成するのに対して、SD26 はこの交差点部でやや北側を通り、そのまま西側へ東西方向の辺を伸ばす形態となっている（N-88° -E）。またこの交差点部では SD50 と T 字状に交差・分岐しているが、この部分の溝幅が 160 cm 程度と広がっている。更に西側では上端幅 90 cm 程度、下端幅 30 cm 程度で、断面 U 字状～逆台形状を呈している。

SD20 の遺物は比較的多く第 429,430 図にまとめた。陶磁器・かわらけは少なく五輪塔の出土が顕著である。陶磁器 120 は 17 世紀後半と推定される天目茶碗。五輪塔は空風輪～地輪までがそれぞれ 4～5 個出土しており、種別等の偏りは無い。

SD50（第 14,16,36 図）

SD50 は、SD26 から分岐する（或いは T 字状に交差・接する）溝で、南北方向（N-5° -W）に延びる。北へ向かうに従い東に振れて（弧状を為し）、北端近くでは N-4° -E 程度に触れる形となる。上端幅 40～90 cm、下端幅 20～30 cm 程度である。上端幅は南へ向かうに従い広く、深さも増すようである。南北の長さは 29.5 m、深さ 35～40 cm、断面逆台形状を為す。SD27 におおよそ並行するが、両者の間は 2.5～4.5 m と距離を有する（やや曲線的になる）ところがある。

北側では SD28 とも並行し、北へ向かうに従い両者の間隔が狭くなり、接することはないものの、SD50 の延長軸上にこの SD28 が位置するようになる。或いは、SD50 延長上には SK3503,3504,3505,3506 等の長方形土坑があり、とりわけ SK3506 はやや短いながら（約 12 m）、大区画溝 SD27 と平行する溝とも捉えられる遺構であり、SD050 との関係を考えることも可能である。またこれら遺構との間にピットが南北方向で並んでいること、このピット列が SD50 範囲内（とりわけ北側）に続いていることも注意すべきかもしれない。SD50 範囲内の溝底面～壁面、或いはほぼ上端の位置でピットが一定数確認されていることも問題とならうか。



第21図 野高谷薬師堂遺跡 溝の位置図

SD26 と SD50 との関係については第 36 図に示した。ここでの土層観察から、SD50 → SD26 が確認される。なお遺物の出土は殆ど無い。

SD28 (第 16,21 図)

SD28 は SD27 西辺の外側 (西側) で南北に近い角度で走り、北で折れ曲がり東側に延びていく、いわば西辺と北辺からなる L 字状の形態である。折れ曲がるコーナー部分が SD27 の西辺と重なるが、明瞭な新旧関係は捉えられていない。上端幅は 30 ～ 80 cm、下端幅は 20 ～ 60 cm、深さ 20 ～ 35 cm 程度である。覆土は暗褐色土を基本とし、溝内で大きな差異を示さないようである。

北辺側が幅広く深いのにに対して西辺では幅狭で浅い。また北辺はほぼ直線的 (軸は N-79° -W)、西辺はコーナー部でやや曲がり南へ向かうとほぼ直線的で SD27 とおおよそ並行する角度になる (N-24° -E ～南側では N-0°)。西辺の南側は SD27 と SD50 の中間にあって、南端は途切れるようである。西辺の長さ 26 m、北辺の長さ 25 m である。また北辺の軸角度は、SD34 北辺と約 6m の距離をおいてほぼ同じ角度で平行している。北西コーナーより 6m 程東側で SK3061 等の幾つかの土坑と重なるが、更にこの北側延長には北北東 - 南南西の方向の溝 SD29 が位置している。この SD29 は本報告掲載上「区画溝」としての区分をしていないが、この溝の東西で遺構分布密度が明らかに異なることから、「区画」と捉えた方が良いであろう。上端幅 70 ～ 120 cm で、北側はやや幅広で不整な形状となり、東へ折れ曲がり程なく不明瞭となる。内部の土坑群という視点で観察すれば、SD34 や SD30 に加え、SK3156 等の長い軸の土坑を含め考え、一辺 22 ～ 23m の方形区画と考えることもできよう。この場合この内側は長方形土坑が主となり、これ以外はピット群と 3 基の井戸のみで、地下式坑が確認されない点も注目される。

遺物の出土は少なく、かわらけ等の出土はあるが、図示遺物は無い。

SD03,71,72 (第 13,20,41 図、写真図版 8)

SD03 は、SD02 の内側で、SD02 西辺にほぼ平行している溝である。SD03 の上端幅は 90 ～ 200 cm、SD02 とは 5 ～ 6 m の距離をおいて並走する。この両溝間の空間には遺構が少ないことが確認される。数少ない遺構 SK1225 や SK794 は 4.5 m 程度の長さを有しており、溝に近い形状とも言える。SD03 の西辺は、67 m 程ほぼ直線的だが (N-11° -E ～ N-0°)、南端はクランク状に 2 箇所折れ曲がり、南端が SD02 南辺に接する。新旧関係は捉えていないが、この SD03 溝が SD02 を超えて南に延びる状況は確認されていない。このクランク部分は一辺 11 ～ 13 m で、ここでの上端幅 200 cm 程度、西辺とはほぼ直角、更に直角に曲がる。曲がった東西方向の溝部分に平行して北側には SD05 が位置している。SD03 は、西辺北側では深さも 20 ～ 30 cm 程度と浅いが、南では 50 ～ 60 cm 程度と深く断面逆三角形～逆台形状となる。覆土は暗褐色土を基本とし、ロームや今市パミス等の粒・粒子が少ない傾向にある。溝底面はハードローム面で、掘りこみは明瞭である。SD05 は 10.5 m、5m 離れて 5.5m の確認で、上端幅 40 ～ 60 cm、東端付近より東にはピットの密集地帯が広がる。言い方変えれば、SD05 の延長上 15 ～ 35 m 程度の位置にピット列が位置している。

SD03 は、SD02 と異なり、溝内部にピットが少ない。但し南側～クランク状部分ではやや多く認められる。また西辺北端から 30 m ほど南の位置で 2 ～ 3 個 1 対のピット列が 5 m ほどおいて並んでいる。「橋」や「門」状の施設痕跡の可能性もあろうか。この西側に長方形土坑～溝が位置している点も注意される。

SD02 の項でも触れたように SD02 南東側の区画がオープンになっており、ここに SD67=SD01,SD71,SD72 が位置している。SD71 と SD72 は重複並走し、北端から 7 m 程のところで合流、この北側は SD071 単独の溝と捉えられる。118 ～ 122 ラインの土層観察・記録からは SD072 → SD071 の関係を捉えている。覆土

はいずれも黒褐色土～暗褐色土できわめて大きな差異は無いようである。SD071の上端幅30～65cm程度、SD072は15～25cm程度の上端幅、深さはいずれも7～15cm程度である。壁の傾斜は緩やかだが、底面はローム面で掘りこみは明瞭である。南北端の長さは32mで、ほぼ中間の位置が若干弧状となり軸が変わる(北側はN-31°-E、南側はN-18°-W)。この32m部分から4m程をおいて南端部分があり、ここではL字状に折れ曲がっている。この南端は概ね同じ軸方向で南側に位置するSD01と比較的近い位置まで延びているが、それでも5.5m程の「溝が途切れる出入り口状のオープンな部分」がある。但しこれを補うような位置となる、オープンな部分の西側にSK1997,SK1989があり、関連があるかもしれない。或いは東側の土坑扱いとしたSK4120,4123も軸方向が並行しており、関連があろうか。

またSD071北端も途切れており、この辺とほぼ直交する溝SD01,02の端部とは4m程の距離がある。なおこのSD071,072の東西両側は遺構分布が希薄であり(SD02南東コーナーから、SD20東辺南端部までの72～73m程、幅5～6m程の範囲)、これについても有意味な空間域として考える必要があるかもしれない。なお第20図に平断面の詳細図を示している。断面は第20図掲載と同じラインもある。

SD03は比較的多くの遺物が出土している(第429図)。720の甕、575～580のかわらけ、火鉢、この遺跡では数少ない板碑が出土している点も注意されよう。SD71から内耳土器・かわらけの出土があるが図示し得る遺物は無い。

なお、区画溝の総合的な検討については、他遺構との関係も含め後述する。

第2項 その他の溝

前項で示した区画溝以外の溝について扱う。先にも触れたように、位置・全体規模・幅・深さ等を勘案してはいるものの、あくまで便宜的な区分であり、ここで示す溝についても「区画溝」と考えるべき例もある。つまり、ここで示す溝について建物域・墓域を区画する機能、用排水、耕作に関わる溝、道路側溝、長方形土坑が連続して溝状になったもの、等各種の機能が想定される。総じてこれらの溝内からの出土遺物は少なく、時期判断は困難である。以下これらの溝65条について示す。

SD7,8 (第22図)

SD02台形区画内南東に位置する。SD08→SD07の関係が捉えられている。SE01,SK693等と重複するが、新旧関係は不明である。軸はSD08がN-18°-E、SD07がN-16°-E、北側はN-8°-W。SD07は南端が途切れる。SD08の西側に長方形土坑群が位置しているが、これら土坑群の軸方向とSD08の軸が概ね揃っている。またSD08の南延長上に東端部がある長細い土坑SK040がSD08とほぼ直角の軸方向であり、関連する可能性がある。

SD10,14 (第22図)

SD02区画内の中央北寄りに位置する。遺構図第22図では分割したが、SD10,14両者は同軸上でしかもSD10の南端がSD14の北端に近接している(厳密には5cm程の距離がある)。上端幅60～90cm程で、掘りこみは浅い。軸はN-4°-Wで、北側延長上に位置する東西方向の区画溝SD21とほぼ直交する角度である。地下式抗と重複する。SD10,SD14とも遺物の出土は無い。

SD11,16,17 (第23図)

SD02区画の北辺というより、SD27区画の南東という位置にある。SD11は断面逆台形状、壁が垂直に近くさほど幅が無い割には深さのある溝と言える。軸はN-1°-Wで、SD27区画溝東西辺の延長であるSD21(延長ライン)とは概ね直交する角度である。SD16はこのSD11の北側でやや弧状を呈する形態が特徴的な溝。長さ6.5mの浅い溝で、他の遺構と並行するような関係は無いように見えるものの、11m東にあるSD051が同方向と言えるかもしれない。SD11セクションからは、溝を切る土坑と、溝より古い土坑両者のあることが分かる。

SD17は上端幅60cm程度、長さ10m程確認されている直線的な溝がある。SD11やSD12と概ね同じ軸方向(N-2°-W)である。これらSD11,12,16の東側では長方形土坑・土坑が群在するのに対して、西側SD12までの空間では地下式抗以外遺構分布がやや薄い点は注目されよう。或いは南北に並ぶ列状とも観察される地下式抗群との関係を捉えた方が良いかもしれない。

SD12,51 (第26,27図)

SD27区画内中央やや東寄りで南北方向に縦断するような溝である。南北40.5m程確認され、北側は調査区外に続く。軸はN-3°-Wだが北端近くはN-2°-E、南側延長上に位置するSD21とは直角に近い角度(やや鋭角)を為す。150～200cm程度の上端幅、30～80cm程度の深さを有しており、掘りこみも明瞭である。場所によっては壁の傾斜も比較的あって、断面逆台形状を呈している。SD12を斜めに横切り、部分的に一部並走するSD51は、SD12より新しい。覆土は厚いところで7層程度まで分層されているが、いずれも自然堆積と観察されている。溝底面から壁面にかけて幾つかのピットが認められるが、溝との関係は不明である。但し1/100全体図で示されるように、SD51と重なり或いは並走しあう辺りのピット群は、一定間隔で列状・直線状に並ぶようにも観察されることから、溝と新旧関係にある建物跡の可能性もある。また調査区外に近い位置の溝北端付近でもピットが多くあり、これらは土層観察から覆土を切って作られている例が示される。ここでも溝の東西にピットが集中しており、溝→建物跡という関係を判断することができよう。一方で建物跡に帰属させることが困難なピットもあることから、SD02のように、溝に伴う例があるかもしれない。なお既に示したように、東側でSD12に並行する(軸が概ね同じ)溝として、SD11,17があり、この間の空間には地下式抗以外の遺構が希薄な傾向にある。土坑SK1508等との重複もある。

SD51は主に50～100cm程度の上端幅の溝で、既述のように、南側4m程東西方向に走り、北東方向に向きを変え更に北方向、北北東方向(N-9°-E)に走る溝である。北端は地下式坑SK1345と重複しここで途切れるが、或いはこの更に北側にある細長い土坑SK3541やSK1645が関連する可能性がある。直線的ではないが、SD51掘いで捉えた限りで30mの長さがあり、深さも40～50cm程度の部分もあることが確認される。幾つかの井戸や土坑・ピットと重複するが、SE145より古いこと等を除けば新旧関係は明らかではない。

SD12,SD51とも遺物が出土している(第429図)。SD51からはかわらけが出土している(第431図)。

SD31 (第23図)

SD27区画の南西、区画溝SD20から6.3mほど離れた位置に南端があり、直交に近い角度で南北方向(N-10°-E)に8m近く認められる。東側及び西側で東西軸方向にピットが並ぶことが関係するかもしれない。また北端の東9.5m程の位置に南端がある溝SD34の東辺が概ね同方向(同軸)であることも注意される。

SD13,29,40,58 (第24,32図)

SD27区画の南西にあってSD02の西辺北方の内側で、ほぼこれに並行する溝である。南端は東西方向の区画溝SD21に接する。上端幅50～60cm程度で北側がやや西に振れ曲がる形状である。南へ向かうに従い深くなる傾向にある。SK1412,1415,1455土坑より新しい。

SD29(第24図)はSD27区画内の西方にあり、南半分は区画溝SD27に概ね並行するが北側はやや東に振れ、北端は折れ曲がって東に向かう。南端はSK1809,1812等の遺構と重複し、判然としなくなるが、SD28と接し或いは更に南側にあるSK3061とも繋がる可能性もある。SD28とはおおよそ直交し、或いはSD28の南側で東西方向の区画溝SD34と関わる可能性もある。この溝の西側は遺構分布が希薄だが、東側は長方形土坑やピット群があること、この群がSD30範囲まで続き、その推定からは東西23m程の「区画」という想定ができるかもしれない。

このSD29の北にはSD40,58(第32図)がある。両者は重複する新旧の溝で捉えている(SD40→SD58)。未調査区を挟んでSD40は南側で3mを超える上端幅となり、覆土の明瞭な差異は認められないものの同一の遺構として良いかの判断も難しい。SD40の軸はN-6°-E、SD58の軸はN-4°-W、SD40の北端近くは両者はほぼ平行する。またEラインの断面では底面～壁面にかけて、かなり凹凸があることが示され、平面図の溝南端に示されているようなピット群が伴う或いは重なっている可能性もある。

SD21 (第25図)

SD02区画の北側、SD27区画の南辺に位置する溝である。SD21は区画溝の項でも少し触れたように、SD27の延長上にある溝で、形態としても類似している。西端はSD02に接し、ここから25m程でいったん途切れ、1.8m程おいて、10.8m+14.5m程続く。西側の軸はN-88°-W、東側の軸はN-86°-Wとなる。幾つかの土坑・井戸・地下式坑と重複し、SK1789,1062より新しい。溝範囲内にあるピットとの関係も不明だが、これと対応するかのように北側で溝に沿って(溝上端から0.5～1m程度の位置に)ピットが一定間隔で並んでおり、「柵列」「塀」等の施設が伴っていた可能性があろう。

SD18,19 (第25図)

SD21の東端から更に東側延長上にある東西方向溝で、SD19→SD18の関係である。調査区外にかかる位置だが、一部やや立ち上がる形態となっており、ここで途切れ、或いは北側に折れ曲がっていく可能性もあるか。SD21東端とは41m程の距離があり、その間で対応する遺構が無いこと、軸もやや異なる(N-78°-E、SD19はN-85°-W)等、SD21との関連を肯定できない部分もある。北側は調査区外となる。

SD30 (第26図)

SD27区画内の西側で南北方向に走る長さ14mの溝である。幅40～50cmだが南へ向かうに従い幅狭くなる。SK1707,3021,3020より新しい。既述のように西側SD29と概ね同方向でほかの東西方向区画溝等と組み合わせ「区画」を構成する可能性がある。

SD22は東西方向～弧状のカーブを経て南北方向へとC字状となる溝で、北端はSD51の西端と近い位置にある。南側の東西方向部分は、SD21とほぼ並行し、距離的にも3m程の間があるに過ぎない。つまり、弧状のやや不整な形態ではあるものの、SD51やSD21と関わる「区画溝」の可能性が推定される。或いは西側に展開するピット群(列)との関係があるかもしれない。

SD33,34 (第29図)

SD27区画の南西側に位置する。SD34はL字形で13m程の北辺と22m程の東辺よりなる。両辺はほぼ直角をなす。上端幅30～90cm。SD34東辺南端近くで、0.8～0.9mの距離をおいた西側にSD34が並行している。長さは4.2m程で、30～40cm程度の上端幅である。幾つかの長方形土坑や攪乱穴?が重なっており、土層断面から新旧関係が把握できる例もある(SK3028→SD34)。L字の内側(溝の南西側)で東辺と並行する幾つかの長方形土坑がある。この東辺は、大きくはSD27(N-4°-E～N-0°)区画と近い軸方向だが(N-1～4°-E)、やや東に振れた方向であり、その意味ではSD28北辺とSD34が並行することの方が注目すべき視点となる。また、SD34北東コーナー付近やや南よりの地点から東側にかけてかなり多くのピットからなるピット群がある。このピット群はSD34溝東辺より西側まで及んでいることが観察され、別時期の可能性の方が高いかもしれない。

SD39,41,43,44,45 (第29,33,34,35図)

SD27区画外西側にあつて、SD39,SD41は調査区内では最も西側で確認された南北方向溝である。SD39は南北11m、SD41は南北63mである。SD39は60cm程度の上端幅部分が多いがSD41は上端幅100～200cmのところが多い。SD41は直線的だがやや弧状に湾曲する。SD41は比較的多くの遺物が出土している(第430図・431図)。とりわけ17～18世紀の陶磁器類が多く出土しており、出土位置等の検証が必要ではあるが、調査時の所見でもある近世の溝と捉えて良いであろう。この溝の東側にSB01～SB04、SB5172等の掘立柱建物跡が認められており、溝との関連を推定することができよう。SD39付近は未調査区が多く、他の遺構群との関係は不明な点が多い。

SD41の断面形態は、逆三角形に近く、下端幅は20cm程度と狭い。深さは50～90cm程度。SD41内部には幾つかのピットがある。部分的に並ぶかのようなところ、ややピットが多いところもあるが、総じて散漫でありSD02のような状況ではない。またSD41南端ではこれより古い溝SD45が重複しているが、SD45が北側は不鮮明で、両者の時期差がどの程度かは不明である。

SD41南端近くで南東側にはSD43,44がある。両者は並行する軸方向で、大きくはSD41とも同方向である。SD43は上端ラインがやや不整だが、概ね直線的で軸はN-9°-E、上端幅30～50cm程度である。長さは30.5m、深さは10cm程度と浅い。第34図に詳細図を示している。

SD44はSD43の更に東に位置する。両者は14m程度の距離をおいてほぼ並行するが、SD44は長さ13.5mと短い(軸はN-11°-E)。但し北側延長上に3m程離れてSK3260が位置しており、関連があるかもしれない。SD43,44間のゾーンには、遺構がやや少ないが、南側に浅い円形土坑及び方形で中央にピットがある土坑が幾つか見られる。また、SD44の西側は長方形土坑が比較的多く認められるが、この東側では少ないという傾向を捉えることができる。

SD36,37,38 (第30,31図)

調査区の南端近くに位置する溝である。SD36は上端幅15～35cm程度、深さは20～30cm程度のところが多いが、部分によっては60cm程度の深いところがある。東西64m程度の長さがあり西端は南に屈曲、東端は北に向かって屈曲している。軸はN-81°-Wで、かなり離れるもののSD02の方向ともやや近い。またこの北側に展開する遺構群の遺構軸が、この溝の東西方向に直交または並行するものが多いことは、遺構が希薄であるとはいえ、注意すべき点であろう。とりわけ溝東寄り溝から北20～30m程度のところで方形竪穴やピット群等が比較的まとまっている点は注意される。

SD37,38 はやはり調査区南東にある溝でいずれも上端幅 80～100 cm 程度である。SD37 は若干クランク状の屈曲部があるが、東西 25 m 程度、SD38 は 28 m 程度の長さがある。SD38 東端は不明瞭となる。周辺の遺構ではやや長めの細長い土坑が目立ち、これらがこの SD37,38 の軸方向とほぼ直交している点は注目される。とりわけ、SK2742,2177,2186 と南南西方向に続く土坑群があり、散漫だがこれらの延長に並行する土坑が幾つか確認される。形態的には土坑墓と捉えるのは難しいように思える。またこの SD37,38 の西側延長上がしばらく遺構の無い空白地帯となっており、空閑地或いは道路状の空間を考えることも不可能ではない。更に推定すれば、この溝自体が道路側溝の可能性もあろうか。この遺跡としてはメインの遺構群から離れた地点であり、遺物の出土も少ないゾーンであるが、「区画溝」外を考える上では注目すべき地点であろう。

SD48 (第 35 図)

調査区南西に位置する溝である。L 字状に屈曲し、約 28 m の北辺と約 14 m の東辺からなる。北辺西側は調査区外、両辺は直角に近い角度、北辺の軸は N-11° -E で、かなり離れるが SD37,38 や SD02 南辺とも概ね近い角度である。調査区南東の SD36 はこの角度よりやや西に振れるが、おおよその対応は見てもらっても良いかもしれない。SD02 区画より南側は長方形～溝状の土坑が比較的多く分布しているが、これらがこの SD48 の東辺と概ね同方向・同角度である点も注意される。また L 字状に囲まれた範囲の内外での遺構分布については、やや溝から離れて掘立柱建物跡 SB08 及び井戸 SE167,168 があること、SD48 の溝北辺に沿うように円形～方形の土坑・ピットが幾つか見られる点注意されよう。これらのことから、SD48 を「屋敷地」区画の溝と積極的に評価することも可能かもしれない。上端幅は 50～70 cm、深さは 10～20 cm 程度である。

SD53,54 (第 36 図)

SD27 区画中央やや東寄りにある。やや細かく見れば、南北方向の区画溝 SD12 と SD17 の間にある。間に攪乱が入り別番号扱いとした SK3546 とは一連の遺構になる可能性もある。SK3546 は西側で地下式抗 SK1638 と重複する。SD53,54 の東端は途切れており溝の全体形状は不明、また軸方向も同方向の遺構は少ないが、敢えて考えれば SD52 と直角に近い角度と言えようか。土層観察及び平面形態から SD53,54 を 2 条の溝の新旧関係としている。

SD55 (第 36 図)

SD27 区画の中央、ピットがきわめて多く集中する区域に位置している。第 36 図に詳細図を示したが南側で重複する SK3555 は地下式抗、北側では井戸 SE150 と重複する（井戸より新）。またここでのセクションからピットよりも古いことが確認される。溝内に幾つかあるピットとの関係についても参考とできようか。溝自体は概ね直線的で、西側にある SD12 と概ね並行、すぐ東側にあつてやはり並行する SK1643,1641 等も関係するかもしれない。溝自体は上端幅 60～140 cm、深さは 15 cm 程度の浅い溝である。遺物として第 340 図に示した陶磁器（天目茶碗）が出土しており、概ね遺構の時期を示している。

SD56,57,58 (第 32,37 図)

SD27 区画内の北側に位置する。SD56 はやや中央より、SD57 はやや西より SD58 は北西コーナーに近い位置である。長さ 14m の直線的な東西方向溝で、南端が調査区外のため判断難しいが、この溝の北側で遺構が少ない（北東にピット群、東に地下式坑 1 基がある）点は注意される。SD57 は L 字状に屈曲部があり、8m の北辺と 11 m の東辺からなる。詳細図に示したように溝内に比較的多くのピットがあるが、これは遺構

外の西側・東側にも続いており、何らかの建物跡があった可能性を窺わせる。確認し得た土層断面観察からは、すべて溝→ピットの新旧関係である。溝自体は浅く幅広の溝で、上端幅 150～240 cm と大きな区画溝以外では少ない幅広の溝である。

SD59,60,61,65,66 (第 38,39 図)

SD59,60 は調査区南西のトレンチ状調査区で確認された溝である。調査区最も西側の南北方向区画溝 SD04 より南側になる。断面観察では SD59 を切って SD60 が作られていることが示されるが、平面的には未調査区が間に入ることもあり両者の関係は不鮮明である。全体形状を大きく捉えれば、25 m 程の北西 - 南東方向溝に 2 箇所の屈曲コーナー部がある溝といえるが、屈曲部はいずれも鈍角をなし、南側は概ね東西方向の溝となる。この延長方向に SD61 (第 39 図) がある。上端幅 60～70 cm 程度の浅い溝で軸は N-82° -W である。この SD60 内側にある遺構としては SA07 ピット列があるが、これもトレンチ状調査区内ということもあり、関連を捉えるのは難しい。セクションでは上端幅 2m 程度、深さ 40～50 cm だが、平面記録では上端幅 40 cm 程度である。SD59,60 では陶磁器、かわらけ等の遺物が出土している。第 431 図に示しているが、SD60 はほぼ近代のもの、SD59 は近世後半となりそうである。このトレンチ状調査区自体、現道であった部分であり、概ね並行する溝 SD59 は現在の地割りに関わる或いは継承されている溝と言えよう。

SD65,66 は更にこれら SD59,60 より南側に位置する溝で、4m 程度の長さが確認されている 2 本並行する溝である。軸は N-81° -E で、この軸に並行直交する遺構は少なくとも周囲では見当たらない。SD66 は、上端幅があるところでは断面 V 字状を呈している点、特徴的である。

SD62,63,64 (第 39 図)

遺跡中心の区画域からは離れた位置にある。SD64 が最も長く、途中不明な部分を含むが南北 38.6 m に亘っている。この溝の南側で東側に隣接するように SD63,62 がある。いずれも確認面の問題もあるが、北端は不鮮明である。3 者の溝の関係は、SD63 → 64 → 62 とまとめられる。この溝群の軸はおおよそ N-9° -W で、先に示した SD60 東側及び SD61 の方向と概ね直角を為す。但し SD64 北端と SD61 東端との間は 13 m 程の距離がある。仮にこれらで L 字状の区画を考えれば、その内側・南西側には、SE144 及び遺構名を付していないピット群 (列) が位置していることが分かる。一方この外側 (東側及び北側) の遺構分布は希薄である。SD02 南西コーナー付近までは無遺構地帯といっても良いような状況である。なお SD63 から「永楽通宝」が出土しており、区画溝方面の遺物群とおおよそ対応する時期と言えり可能性がある。

SD69,70 (第 40 図)

SD02 東辺の北端に位置する。現薬師堂にも近い位置にあたる。SD70 は L 字状に屈曲するコーナー部のみ確認されている溝で、SD69 はこれと SD02 の間で確認された小さな溝である。SD02 → SD69 → SD70 の関係を示し得る。SD70 南辺の軸方向は N-72° -E で、この方向がこの南側約 20～25 m 四方の中で展開している長方形土坑の軸と直交又は並行しているものが多いことが確認され、注意すべき点となる。但し確認されている範囲も狭いことから、「区画溝」とまで判断して良いかは難しい。SD70 自体は北側ではやや深く壁の傾斜も比較的急であるが、南側ではやや浅く壁の傾斜も緩くなっている。

SD75 (第 43 図)

南側の台形区画のほぼ中央に位置する。概ね東西方向で長さ 11 m の確認である。東側延長で 1.2 m 程間を

において位置しているSK077（長さ5m）は形態的にも同じであり、SD75 扱いとして良いかもしれない。幾つかの土坑と重複し、溝より古い土坑もあるが（SK320）、土坑との重複の中には、土坑覆土を切って溝が作られている例もあるようだ。

この溝の軸方向はN-83° -Wで、SK077より更に東16mのところにあるSK040（長さ13.8m）も同軸の延長上にある。一方西側では7m程離れたところにある南北方向溝SK204（長さ5.5m）がこれに直交する。溝の北側でも同方向の土坑SK250,256がある。また溝の南北を見渡すと、この溝の軸方向に直交する軸の長方形土坑が目立っている。更に、10m程南側には同方向の軸も想定し得るピット群（恐らく建物跡となる）が観察される。検証不十分ながら、この想定が許されるならば、SD75を大区画内の更に小さく区画する溝と捉えることができるかもしれない。

北調査区の溝

5000番台を付した溝についてここで扱う。

北側の調査区内、広く区画するような溝として、SD5002,5003がある（第44図）。この溝の北側に5021,5015 或いは掘立柱建物跡があり、一方5003の南側（内側）にSA5178やSD5147等の遺構がある。

SD5003,5002（第44図）

10m程の東辺、屈曲部北東コーナーを経て17mの東西方向直線溝、ここからクランク状になる形態の溝である。5m程の北東-南西方向部分を経て、20m程のほぼ直線的な東西方向溝、更にやや南にカーブを描いて8m程で終息する、という形態である。東西方向部分（=北辺）の軸はN-74° -W、東辺の軸はN-4° -Eとなる。上端幅は90～170cm程度で120～140cm程度のところが主体か。下端幅も場所により異なり20cm程度のところから1mを超える部分までである。深さは50～70cm程度のところが多い。断面形態も場所により異なるが、逆台形状を呈しているところが多い。東辺南端はSD5002に接しており、分岐しているとも言える形態だが、土層観察からはSD5002→SD5003が捉えられている。

溝の東端近くで溝南側に3列の柵列SA5176,5177,5178がある（第121図）。他に幾つかの土坑があるが、溝と並行または直交する軸方向の例が多く、関連を窺わせる。一方、重複する遺構との関係では、新旧が捉えられているものもある（SD5003→SK5014,5024等）。

北東側台形状に張り出す部分の内側（南側）で溝に沿ってピット列がある。0.8～1m程の間隔で14m程の長さで並んでおり、接続する東辺や西辺にも対応するピットがあることから、この溝に付随する柵列等の施設痕跡の可能性が高い。不鮮明だがより西側に続いているようにも観察される。

SD5002は深さ10～25cmと浅く、上端幅も70～120cmとSD5003よりやや小規模である。18m程の長さで西端が途切れるが、SD5054が延長上に位置している。軸はN-59° -W。SD5002の南側に位置するSD5147も概ね同じ方向の溝で長さ8.8m、SD5002とは0.8～1.2m程の間がある。上端幅45cm程度、深さ10cm程度である（第45図）。

SD5054（第44図）

SD5003の西側屈曲部のすぐ南側にあり、長さ6.4m程確認され、西端はSK5014と重複している。上端幅80cm程度、深さ20cm程度、SD5003とも接する位置にあるが、関係は不明である。SD5002東端ではSA5038が重複しているが、この両者の関係も不明である。

SD5003からは中央付近で北へ分岐するようにSD5050が位置している。長さ3m程度で、両端にピット

が重なる。SD5003との関係は不明だが、クランク状に短く北東へ向かうラインの軸とほぼ方向が一致しており、関係性を窺わせる。

遺物はSD5003からすり鉢、伏鉢等の遺物が出土している（第432図）。他にも17～19世紀代の陶磁器類、すり鉢等の出土があり、時期幅がある。他の遺物も含め考え調査所見同様、近世の溝と考えて良いだろう。SD5002からは陶磁器187（17世紀）が出土している。

SD5021（第43図）

SD5003の北側約4mの位置でほぼ並行している。長さ約14mの確認で、軸方向はN-71°-Wである。西側が狭くなる。東端はSD5015,SD5101の南端と1.5m程の近い位置になるが、攪乱穴が入る。いずれも80～90cmの上端幅、深さ15～20cmの溝で、SD5015は北側調査区外に続く（第45図）。SD5021の延長でSD5003が屈曲してクランク状に張り出す部分の溝があり、SD5050等も含め、「区画」を考えていく必要がある。溝北側のSB5159,5160掘立柱建物跡（いずれも1間×2間建物跡 第131,132図）の軸も概ね同じであることも注目される。遺物としては17～18世紀の瀬戸美濃系碗が出土している（第341図）。

SD5031,5032,5106,5015,5101（第45図）

SD5031,5032は北側調査区の中央近くに位置する溝で、ほぼ直線的なSD5032、これに重なりながらやや弧状で北側に走る溝がSD5031である。いずれも60～100cm程度の上端幅、深さは18～70cm程度である。南側にSB5168,5169が重なる（第45,134図）。これら建物跡とSD5032溝とは重複関係にあり同時存在を考えるのは難しいが、SD5031とは軸方向も揃っており、関連を考えても良いかもしれない。なおSD5031のMラインセクションではSK5182と重複しているが、記録・調査時所見ではこの土坑重複部もSD5031の土層とされている。この場合土坑SK5182→溝SD5031となる。判然としない部分が残っていることから更なる検討が必要となるが、ここでは当初の記録のまま示す。

SD5032は北側調査区内では南西に位置し、大きくはL字状に展開する溝である。東辺12m程は直線的な南北方向だが、屈曲部を経た東西方向は曲線的になり、東へ向かうに従い細くまた途中途切れる。更に東へ続き未調査区外へ延びる。東西は38m程の確認。上端幅は70cm程度～300cm近いところまでである。深さも10～120cm程度まであり、東側は狭く浅い。断面形態も不整で場所により異なる。覆土の堆積も西側ではやや複雑かつ多層に分層されている。CラインやDラインのセクションでは東側（内側）からの土層堆積（自然堆積状）→最後に上位～外側（西・北側）に厚く1層が堆積するという特徴が見られる。2層以下の層ではローム主体或いはロームブロックが多く含まれている層（Cライン5,10,11,15層等）もあり、壁の崩落以外の要因（たとえば内側にローム土が積まれていた状況）等を考えた方が良いかもしれない。なおFラインやGライン付近で南側に短く派生的に延びる掘り込みがあるが、SD5032本体との関係は不明である。

いったん途切れた部分より東側では溝内～上端付近に一定数のピットがある。SB5153もここに重なり、他の建物跡重複の可能性等も考えられるところである。また、SD5032は東西6.5m程の未調査区を越えて、東側のSD5002に繋がる可能性もあるが判然としない。この溝SD5032に囲まれた範囲にはSB5150,5152,5166等の掘立柱建物跡があり、関連を窺わせるが、或いはより北側のSD5043ぐらまでの範囲を含め考えた方が良いかもしれない。この空間にもSB5135や未明名のピット群等があることも確認される。この件のSD5043もSD5032と概ね同方向であることも注意される。なおSD5031,5032いずれよりも、出土した遺物では17～18世紀の陶磁器が目立っている。

SD5043,5106 (第45,46図)

北側調査区の中でも北西の区域に位置する。SD5043は東側20m程はほぼ直線的に推移するが(N-76°-W)、それより西16m程は曲線的なクランクを描くような形態である。上端幅も東側では90～110cm程度と一定し断面も逆台形状を基本としているが、屈曲部より東では幅広くなると共に断面形態・壁の傾斜等も異なる傾向にある。西端から9m程のところ南北方向の溝SD5088と重複するが、SD5043の方が新しい。SD5088は上端幅50～90cm、深さ20cm程度の溝。溝の南側では東西方向軸の長方形土坑が一定数あるほか、建物跡想定も可能なピット群が認められる。東側ではSB5157,5165等の掘立柱建物跡が認められ、溝と軸方向が一致するものも確認できる(SB5135等)。溝内で確認されたピットについても、これらのピット群と関係があるかもしれない。溝北側で井戸1基もある。SD5043からはすり鉢・陶磁器等の出土がある。206の陶磁器は瀬戸美濃系の天目茶碗で17世紀と推定されるものである。

SD5106はSD5043の北側に位置する溝で、大きくは22m程の東西方向部分と西側で南西方向に膨らみながら延びる部分とからなる。前者でも途中クランク状に屈曲する。深さは10cm程度と浅く、断面も壁の傾斜が緩い皿状のようである。東側では北5.5m程北で、東西方向に長く延びる土坑SK5139、SK5179等があり、この間には小さめの方形土坑、円形土坑、ピット列等が確認される。南側のSD5043とは50cm～250cm程の距離がある。SD5106からは陶磁器207,208の出土がある(第341図)。いずれも瀬戸美濃系18世紀の所産と推定されるものであり、本遺構の時期を概ね示しているように思える。

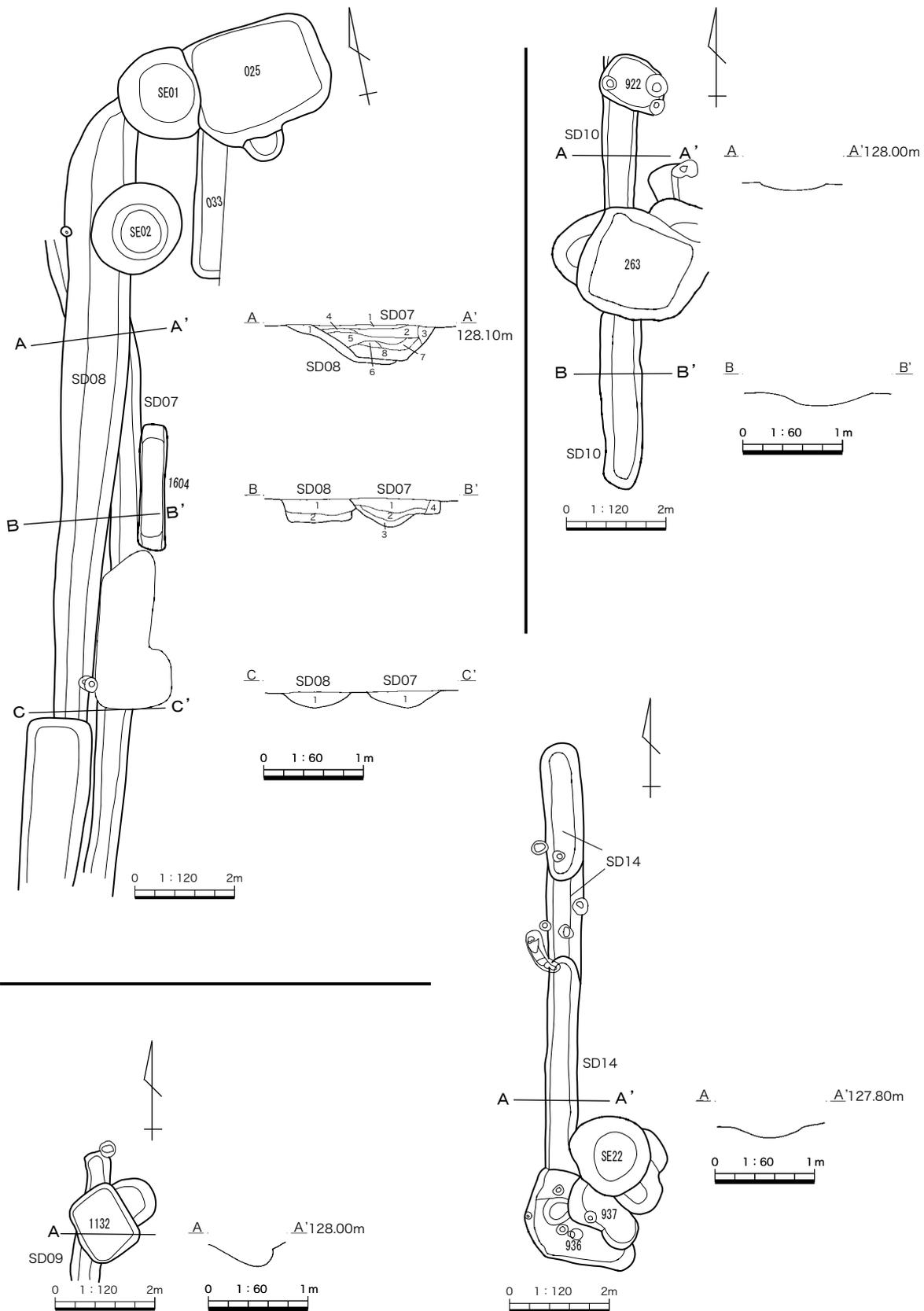
第2表 溝一覧表

遺構番号	遺構名	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	出土遺物種類	全体図での位置	図番号
SD-01	溝	0.33～0.95	0.15～0.93	0.09～0.28	内耳土器 かわらけ 陶磁器五輪塔	1/500 2-Ⓑ 1/100 E G-Ⓓ(Ⓔ)(Ⓕ)	13・18・19・ 20・21・40
SD-02	溝	0.60～3.78	0.31～1.50	0.24～2.03	輪宝墨書土器 内耳土器 かわらけ 陶磁器 香炉 硯 鉄製品(鎌等) 鉄滓 鉄釘 煙管 古銭 砥石 石製鉢 石臼 五輪塔 縄文土器 須恵器 木片 石皿 磨石 打製石斧 独鈷石	1/500 2-Ⓑ 1/100 C-Ⓕ 1/100 E 1/100 G-Ⓓ(Ⓔ)(Ⓕ)	13・17・18・ 19・21
SD-03	溝	1.24～1.28	0.40～0.50	0.44～0.55	内耳土器 かわらけ 甕 陶磁器 火鉢 砥石 石鏃 板碑 鉄滓	1/500 2-ⒷE	13・20・21
SD-07	溝	(1.10)～(1.16)	0.17～0.42	0.29～0.37	内耳土器 かわらけ 砥石 鉄滓	1/100 G-Ⓑ(Ⓒ)	21・22
SD-08	溝	(0.69)	(0.65)	0.24		1/100 G-Ⓑ(Ⓒ)	21・22
SD-09	溝			—		1/100 D-Ⓒ	21・22
SD-10	溝			—		1/100 F-Ⓐ	21・22
SD-11	溝	(0.70)～1.12	(0.60)～0.62	0.30	内耳土器 かわらけ 石核	1/100 D-Ⓒ 1/100 F-Ⓐ	21・23
SD-12	溝	0.73～2.55	0.32～1.50	0.27～0.82	砥石 鉄滓 鉄釘 鉄製品 古銭 内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 D-Ⓑ(Ⓒ)	21・27
SD-13	溝	0.50～0.58	0.39～0.42	0.17～0.20		1/100 C-Ⓕ 1/100 E	21・24
SD-14	溝			—		1/100 F-Ⓐ	21・22
SD-16	溝			—		1/100 D-Ⓑ(Ⓒ)	21・23
SD-17	溝			—		1/100 D-Ⓑ	

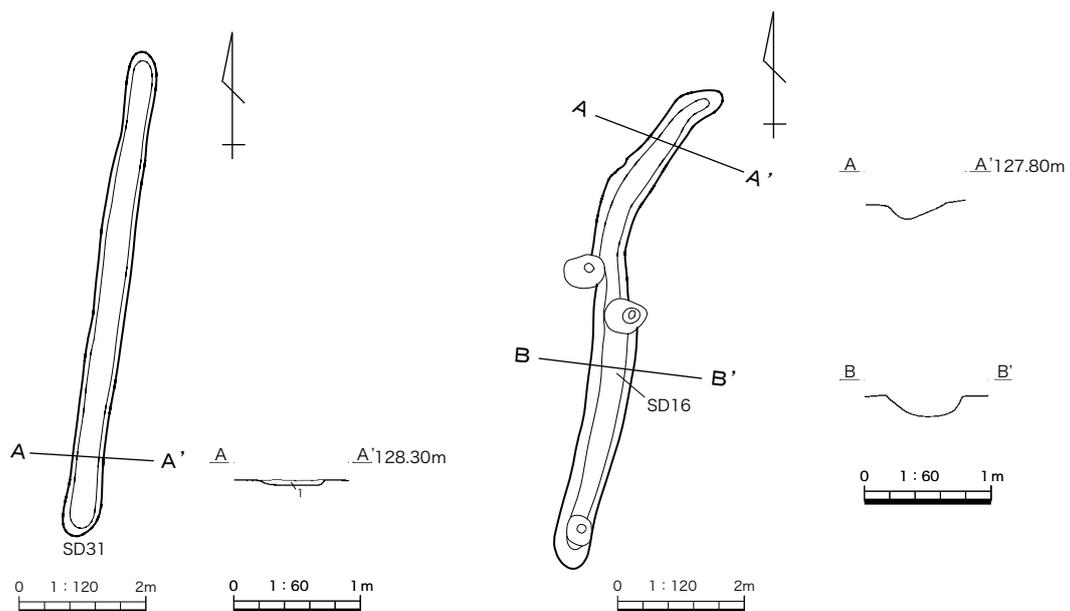
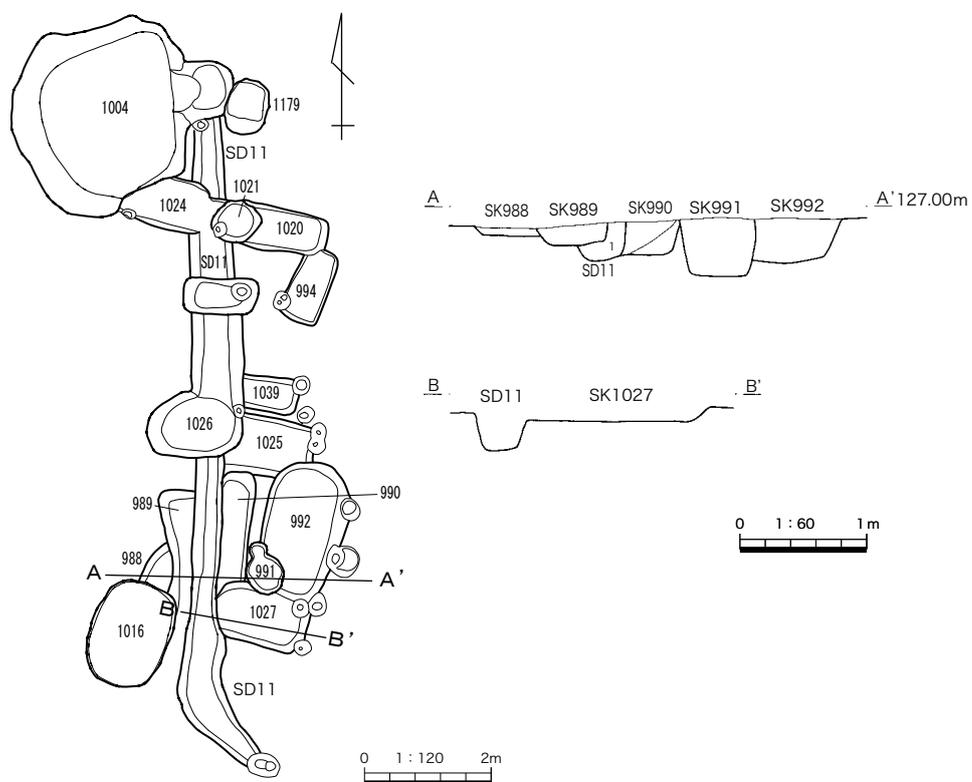
SD-18	溝	0.63 ~ 0.67	0.33 ~ 0.48	0.12 ~ 0.17	内耳土器 かわらけ 陶磁器 土馬 砥石 鉄製品 石核	1/100 F-④ 1/100 G-①	21・25
SD-19	溝	(0.39)	(0.22)	0.12		1/100 F-④	21・25
SD-20	溝	0.38 ~ (1.18)	0.24 ~ 0.83	0.12 ~ 0.45	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石 五輪塔 鉄釘 すり鉢 煙管 石製鉢	1/500 2-① 1/100 C-③	13・14・16・ 21・28
SD-21	溝	0.40 ~ (1.23)	0.27 ~ 0.60	(0.15) ~ 0.62	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 E 1/100 F-①	16・21・25
SD-22	溝	2.00	1.20	0.36		1/100 D-①③	21・26
SD-25	溝	0.52	0.19	0.22		1/100 C-③	14・16
SD-26	溝	0.67 ~ 2.95	0.40 ~ 2.20	0.32 ~ 0.50	内耳土器 陶磁器 石製鉢	1/100 C-③④	13・14・16・ 21・28・36
SD-27	溝	0.66 ~ 1.78	0.32 ~ 1.75	0.38 ~ (1.12)	内耳土器 陶磁器 石鏃 打製 石斧 かわらけ 砥石 須恵器	1/500 1 1/100 C-①②③④⑤	13・14・15・ 16・21・28
SD-28	溝	0.30 ~ 1.27	0.27 ~ 0.73	0.20 ~ 0.56	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 C-②③	16・21
SD-29	溝	0.52 ~ (2.27)	0.32 ~ 1.17	0.06 ~ (0.70)		1/100 C-①②	16・21・24
SD-30	溝	0.40 ~ 0.89	0.20 ~ 0.37	0.23 ~ 0.37		1/100 C-⑤	21・26
SD-31	溝	0.44	0.30	(0.22)	内耳土器 砥石	1/100 C-⑥	21・23
SD-33	溝	(0.51)	—	0.63		1/100 C-③	21・29
SD-34	溝	0.18 ~ 0.75	0.15 ~ 0.55	0.04 ~ 0.20	内耳土器 陶磁器 砥石	1/100 C-②③	21・29
SD-36	溝	0.45 ~ 1.30	0.20 ~ 0.42	0.13 ~ 0.73		1/500 3-②④	21・30
SD-37	溝	0.40 ~ 0.87	0.21 ~ 0.38	0.06 ~ 0.19		1/500 3-④	21・31
SD-38	溝	0.36 ~ 0.65	0.20 ~ 0.35	0.15 ~ 0.23		1/500 3-④	21・31
SD-39	溝	0.54 ~ 0.68	0.18 ~ 0.20	0.15 ~ 0.25		1/500 2-①	21・29
SD-40	溝	1.02 ~ 3.24	0.77 ~ 2.67	0.33 ~ 1.05	砥石	1/100 C-①	21・32
SD-41	溝	0.54 ~ 2.38	0.30 ~ 1.76	0.41 ~ (1.30)	内耳土器 かわらけ 甕 陶磁器 すり鉢 火鉢 古銭 青銅 品 鉄製品 鉄滓 鉄釘 砥石 石製鉢 石鏃 打製石斧 縄 文土器 須恵器	1/500 2-①	21・33
SD-43	溝	(0.39)	(0.25)	0.10		1/500 2-①	21・34
SD-44	溝	0.61	0.38	0.15	内耳土器	1/500 2-①	21・35
SD-45	溝	1.23 ~ 3.14	0.60 ~ 1.80	0.30 ~ 1.13		1/500 2-①	21・33
SD-46	溝	2.37 ~ 3.70	0.37 ~ 1.34	1.31 ~ 1.60	内耳土器 かわらけ 陶磁器 すり鉢 砥石 五輪塔 鉄釘 石鏃	1/500 1	13・15・21
SD-47	溝	0.38	0.19	0.06		1/500 1	13・21・34
SD-48	溝	0.59	0.31	0.16	陶磁器	1/500 3-②	21・35
SD-50	溝	0.87 ~ 1.79	0.35 ~ 1.78	0.35 ~ 0.48	鉄釘	1/100 C-③	14・16・21・ 36
SD-51	溝	0.83 ~ 2.07	0.29 ~ 1.45	0.29 ~ 0.50	内耳土器 かわらけ 陶磁器 すり鉢 砥石	1/100 D-②③	21・26・27
SD-53	溝	0.49	0.25	0.23		1/100 D-②	21・36
SD-54	溝	0.52	0.26	0.14		1/100 D-②	21・36
SD-55	溝	0.71	0.32	0.10	内耳土器 陶磁器(天目) 砥石	1/100 B-②	21・36
SD-56	溝	0.42 ~ 0.54	0.22 ~ 0.29	0.14 ~ 0.25		1/100 B-①	21・37

第3章 確認された遺構

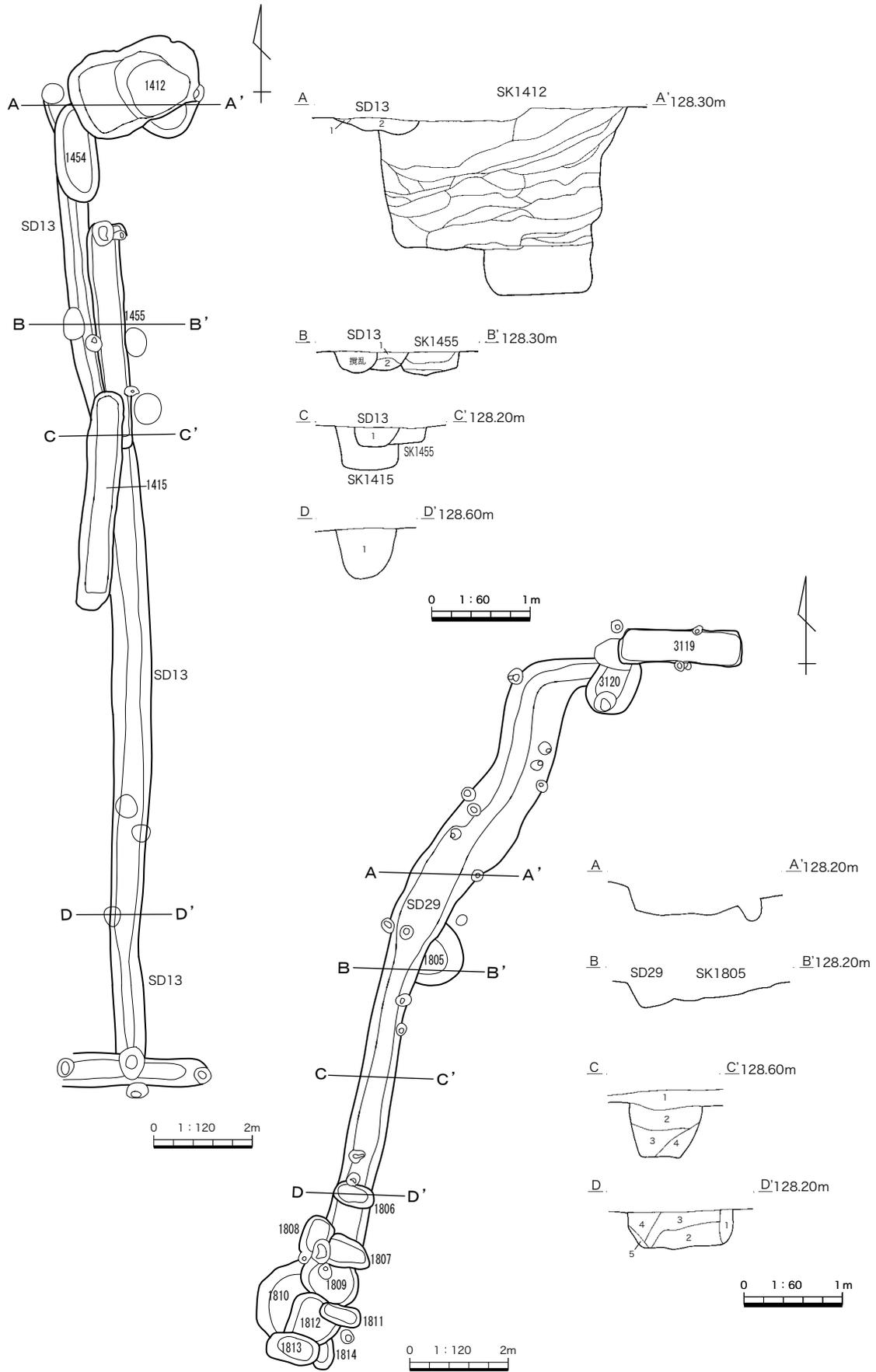
SD-57	溝	1.36～2.96	0.45～2.00	0.13～0.25		1/100 C-④	21・37
SD-58	溝	(0.64)	0.40	0.17		1/100 C-①	21・32
SD-59	溝	0.46～1.82	0.25～0.97	0.35～0.83	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石	1/500 2-①	21・38
SD-60	溝	0.63～1.70	0.32～0.75	0.18～0.50	内耳土器 陶磁器 砥石	1/500 2-①	21・38
SD-61	溝	0.60～0.81	0.39～0.55	0.08～0.10		1/500 2-①	21・39
SD-62	溝	0.40～1.44	0.23～0.75	0.08～0.53		1/500 3-①	21・39
SD-63	溝	0.25～(1.00)	0.23～(0.94)	0.03～(0.65)	古銭	1/500 3-①	21・39
SD-64	溝	0.36～0.45	0.20～0.21	0.05～0.13	高坏	1/500 2-① 1/500 3-①	21・39
SD-65	溝	0.57	0.31	0.05		1/500 2-①	21・38
SD-66	溝	0.14	0.14	0.30	陶磁器	1/500 2-①	21・38
SD-69	溝	0.80～1.36	0.32～0.80	0.24～0.77	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 G-④	19・20・21・40
SD-70	溝	1.08～1.65	0.63～1.36	0.30～0.59	内耳土器 陶磁器	1/100 G-④	20・21・40
SD-71	溝	0.32～0.80	0.18～0.62	0.06～0.23	内耳土器 かわらけ	1/500 2-② 1/100 G-⑤	20・21・41
SD-72	溝	0.18～0.26	0.08～0.15	0.03～0.09		1/500 2-② 1/100 G-⑤	13・20・21・41
SD-73	溝	0.47～0.59	0.45	0.08～0.18	火鉢	1/500 1	13・15・21・42
SD-74	溝	0.20～0.59	0.11～0.49	0.05～0.13		1/500 1	13・15・21・42
SD-75	溝	(17.94)	0.72	0.57	内耳土器 かわらけ 石臼 打製石斧	1/100 F-②⑤	21・43
SD-5002	溝	0.56～1.12	0.27～0.95	0.12～0.49	内耳土器 かわらけ 陶磁器 すり鉢	1/100 A-②	21・44
SD-5003	溝	0.67～2.07	0.48～1.00	0.29～0.77	内耳土器 かわらけ 甕 陶磁器 すり鉢 火鉢 砥石 硯 石臼 鉄釘 鉄製品 青銅品 (伏鐘等) 磨石	1/100 A-②	21・44
SD-5015	溝	0.78	0.43	0.20		1/100 A-②	21・45
SD-5021	溝	0.62	0.45	0.16	内耳土器 陶磁器 砥石 鉄滓	1/100 A-②	21・43
SD-5031	溝	0.90～0.93	0.46～0.75	0.22～0.43	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石 打製石斧	1/100 A-②	21・45
SD-5032	溝	0.75～2.68	0.25～1.45	0.10～1.17	内耳土器 かわらけ 甕 陶磁器 すり鉢 火鉢 砥石 鉄製品	1/100 A-①②	21・45
SD-5043	溝	1.43～2.03	0.70～1.07	0.25～0.38	内耳土器 陶磁器 すり鉢 鉄製品 青銅品 (かんざし)	1/100 A-①	21・46
SD-5050	溝	0.33～0.70	0.19～0.40	—		1/100 A-②	44
SD-5054	溝	1.25	0.60	0.30	内耳土器 陶磁器 すり鉢	1/100 A-②	21・44
SD-5088	溝	0.25～0.74	0.38	0.25～0.28		1/100 A-①	21・46
SD-5101	溝	0.50～0.90	0.30～0.65	—		1/100 A-②	21・45
SD-5106	溝	1.53	1.18	0.12	内耳土器 陶磁器 すり鉢 砥石 鉄釘 鉄製品	1/100 A-①	21・45
SD-5147	溝	0.45～0.60	0.20～0.30	—		1/100 A-②	45
SD-5148	溝	0.6～0.9	0.30～0.41	—		1/100 A-①	45



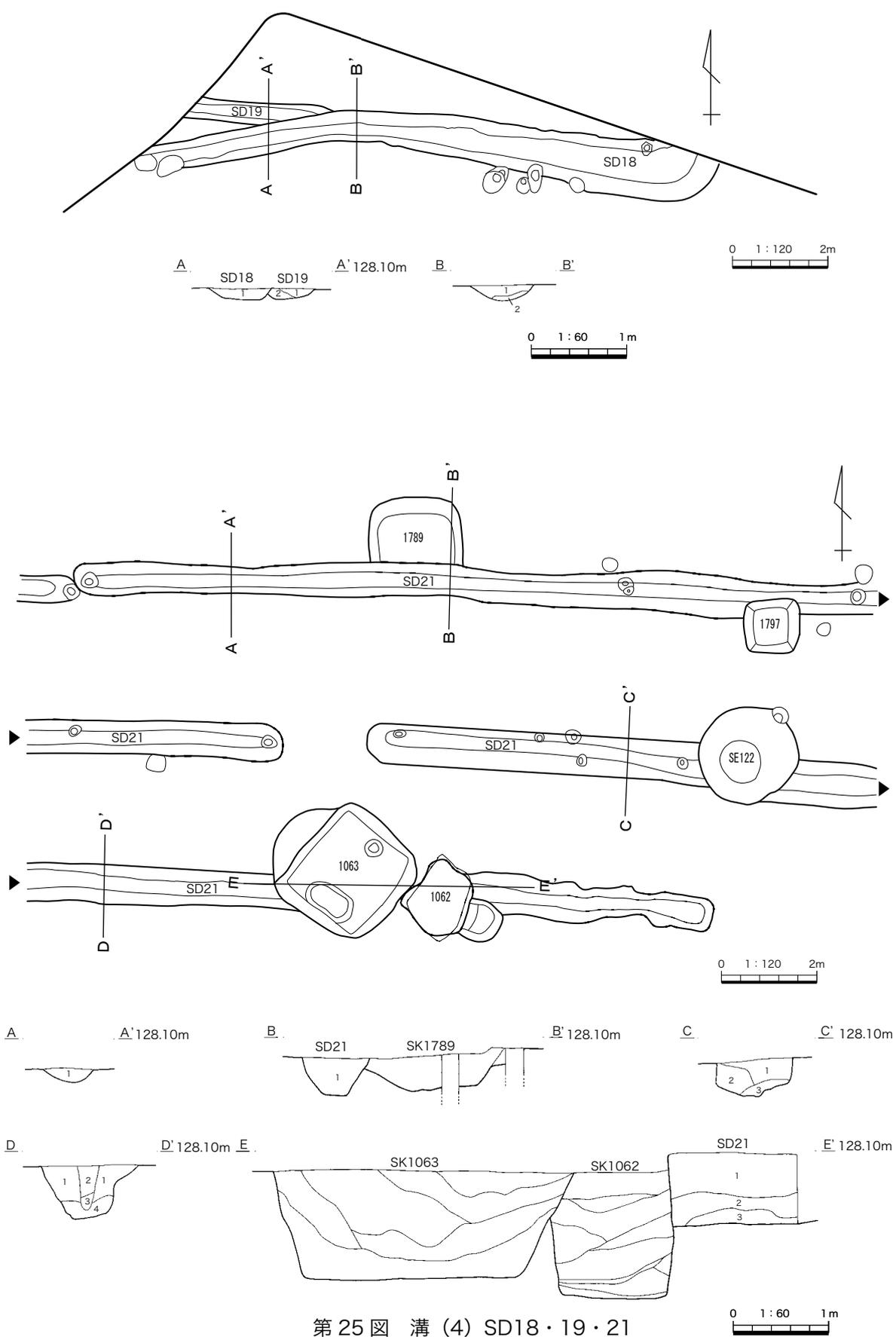
第22図 溝(1) SD07・08・09・10・14



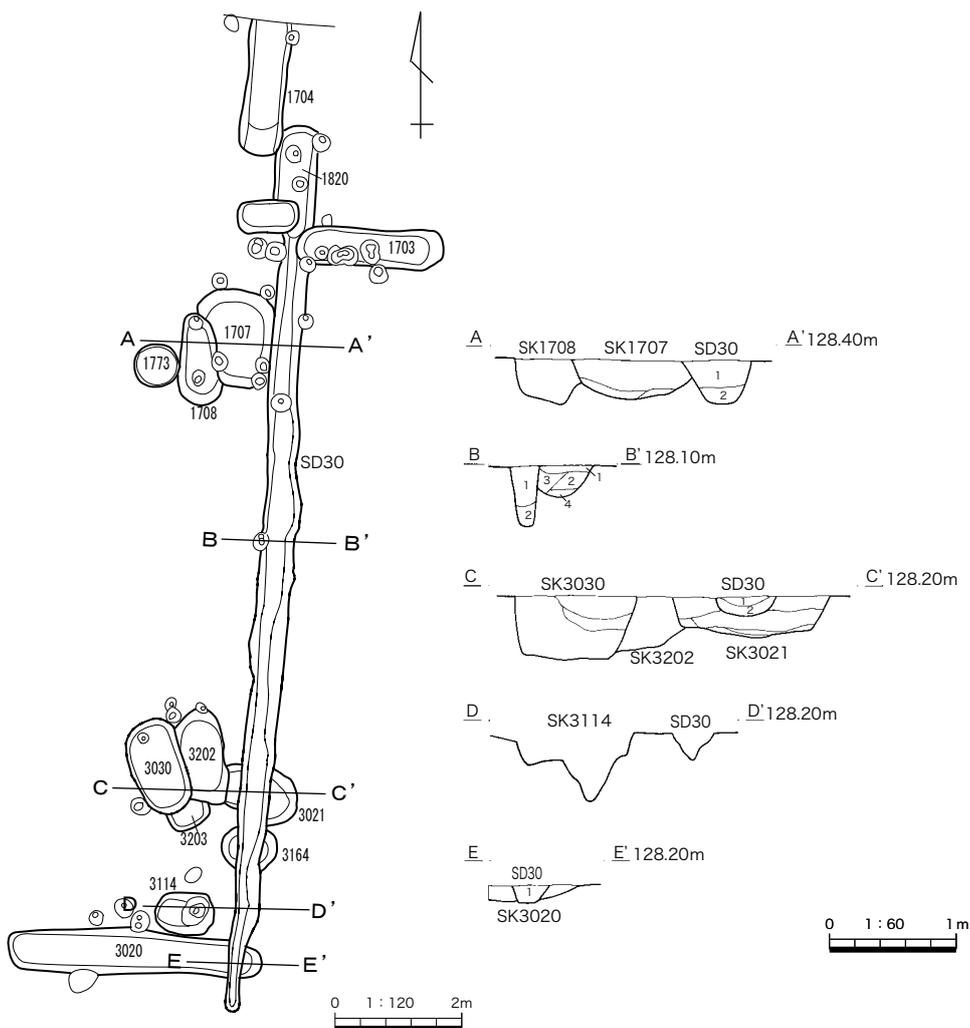
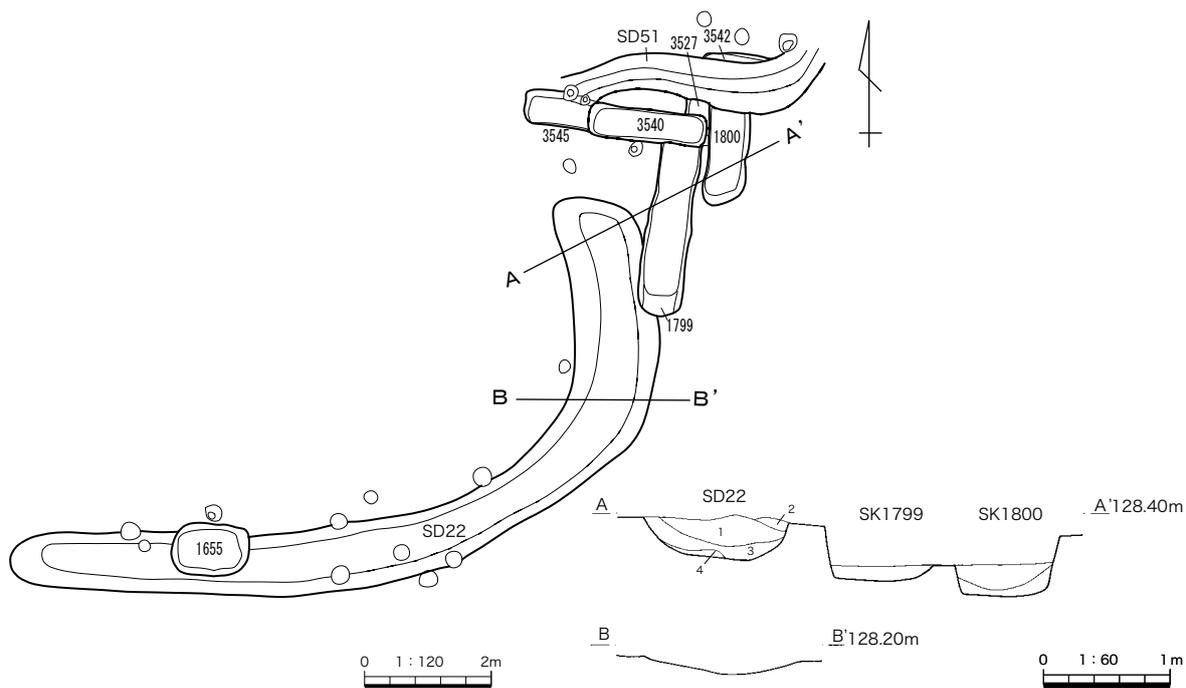
第23図 溝(2) SD11・16・31



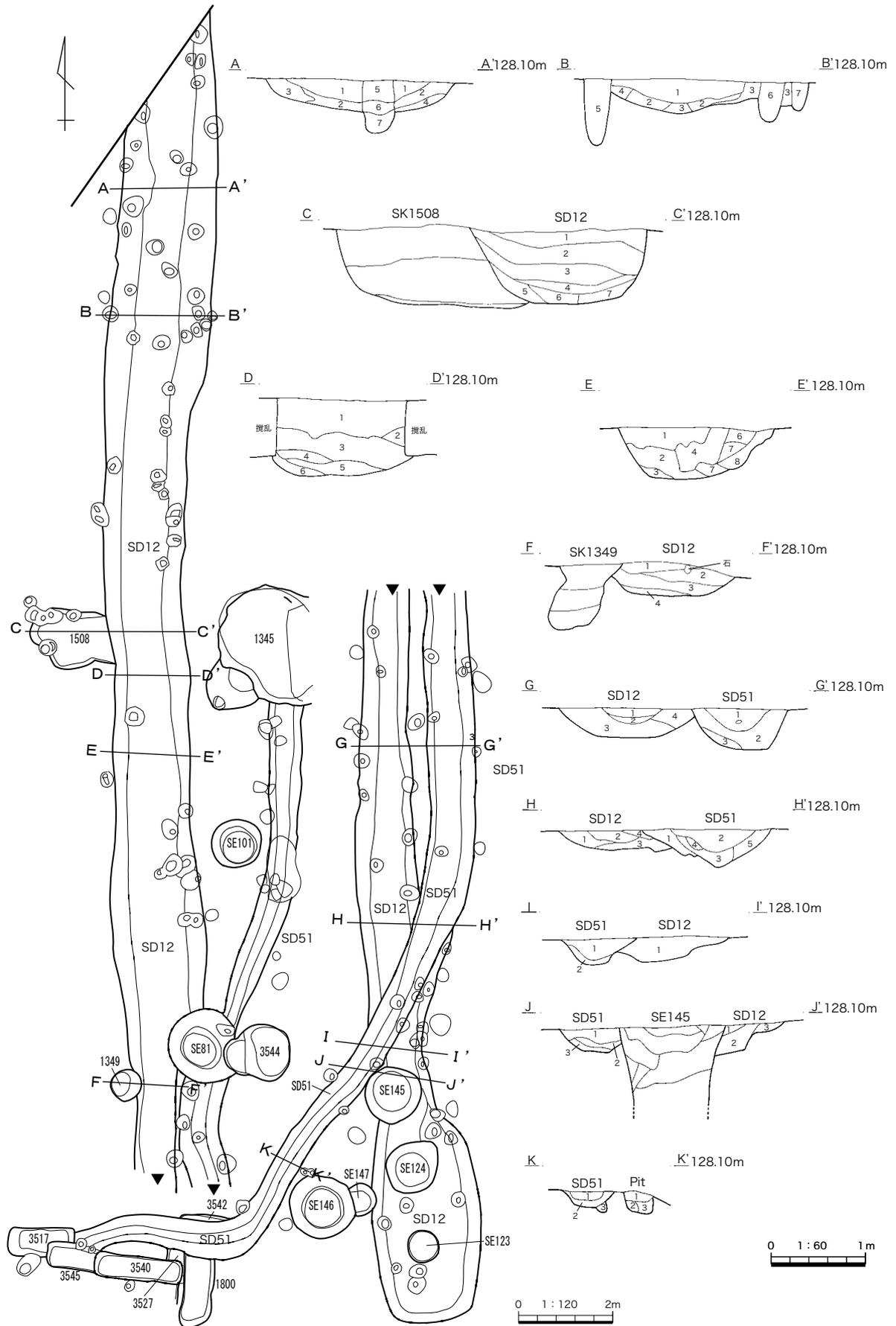
第24図 溝 (3) SD13・29



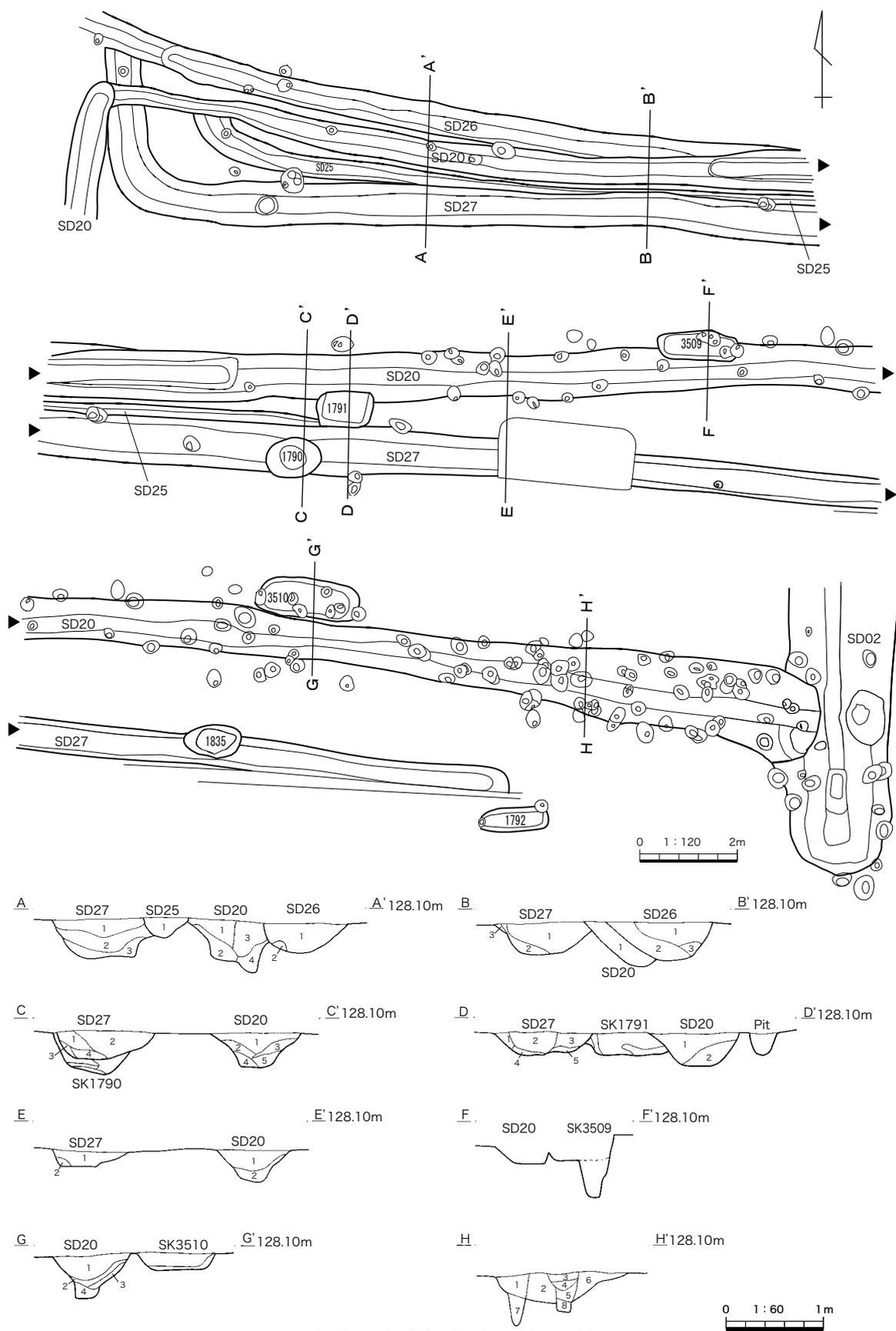
第25図 溝(4) SD18・19・21



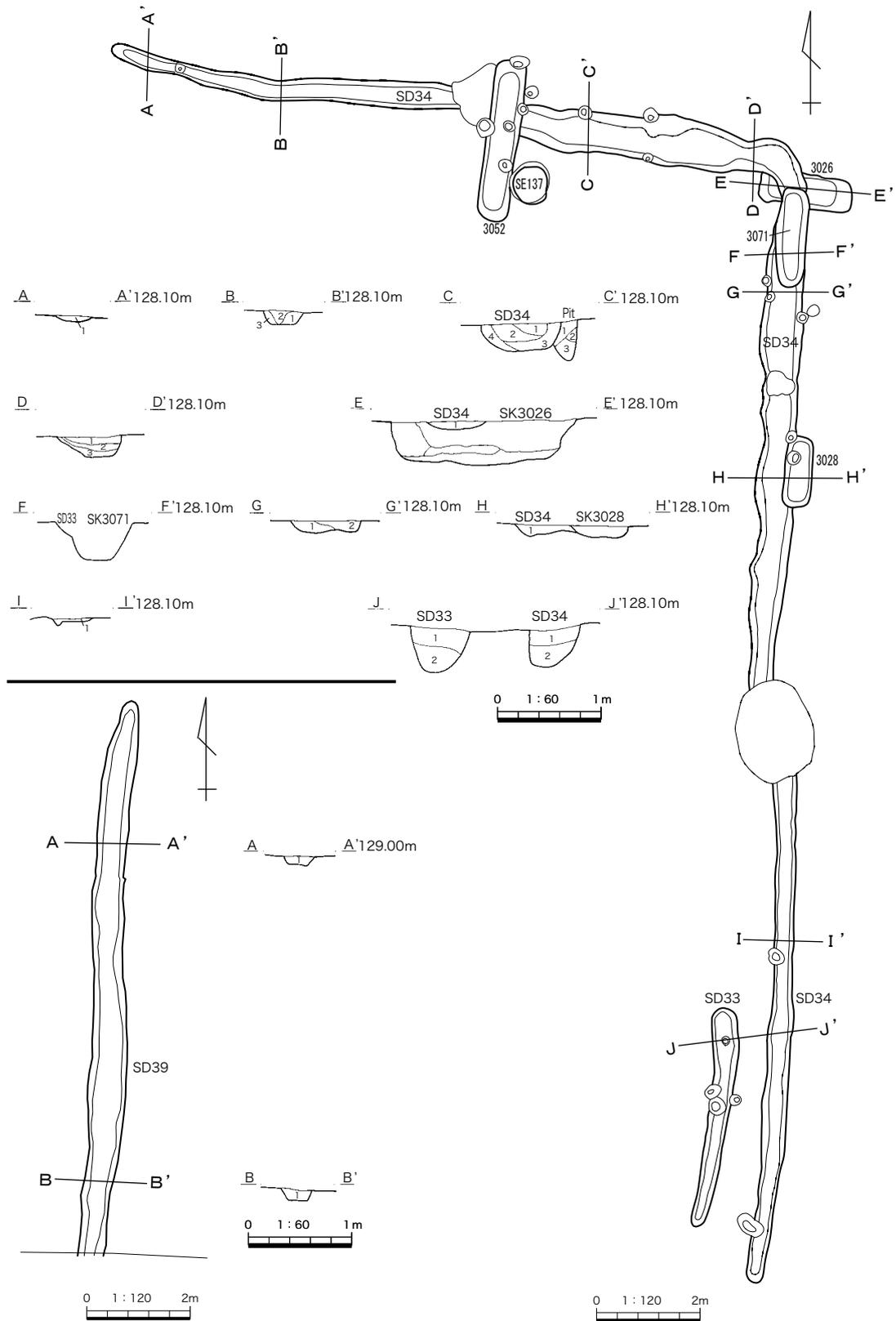
第26図 溝(5) SD22・30・51



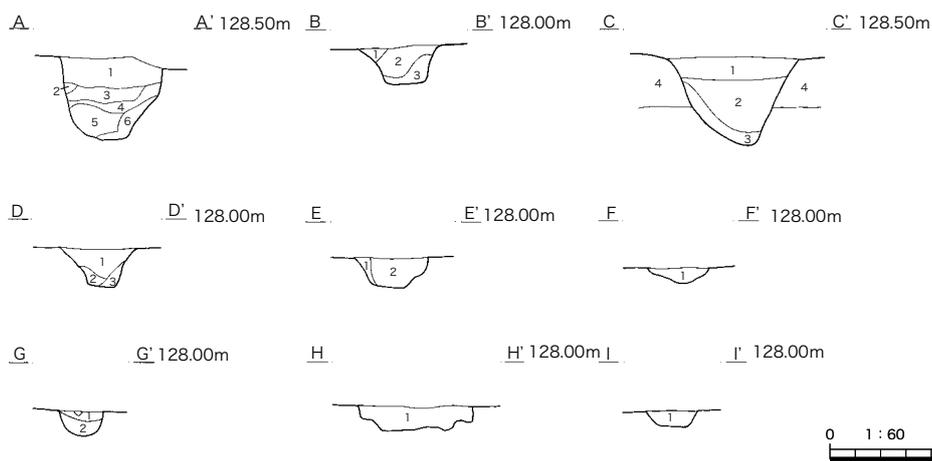
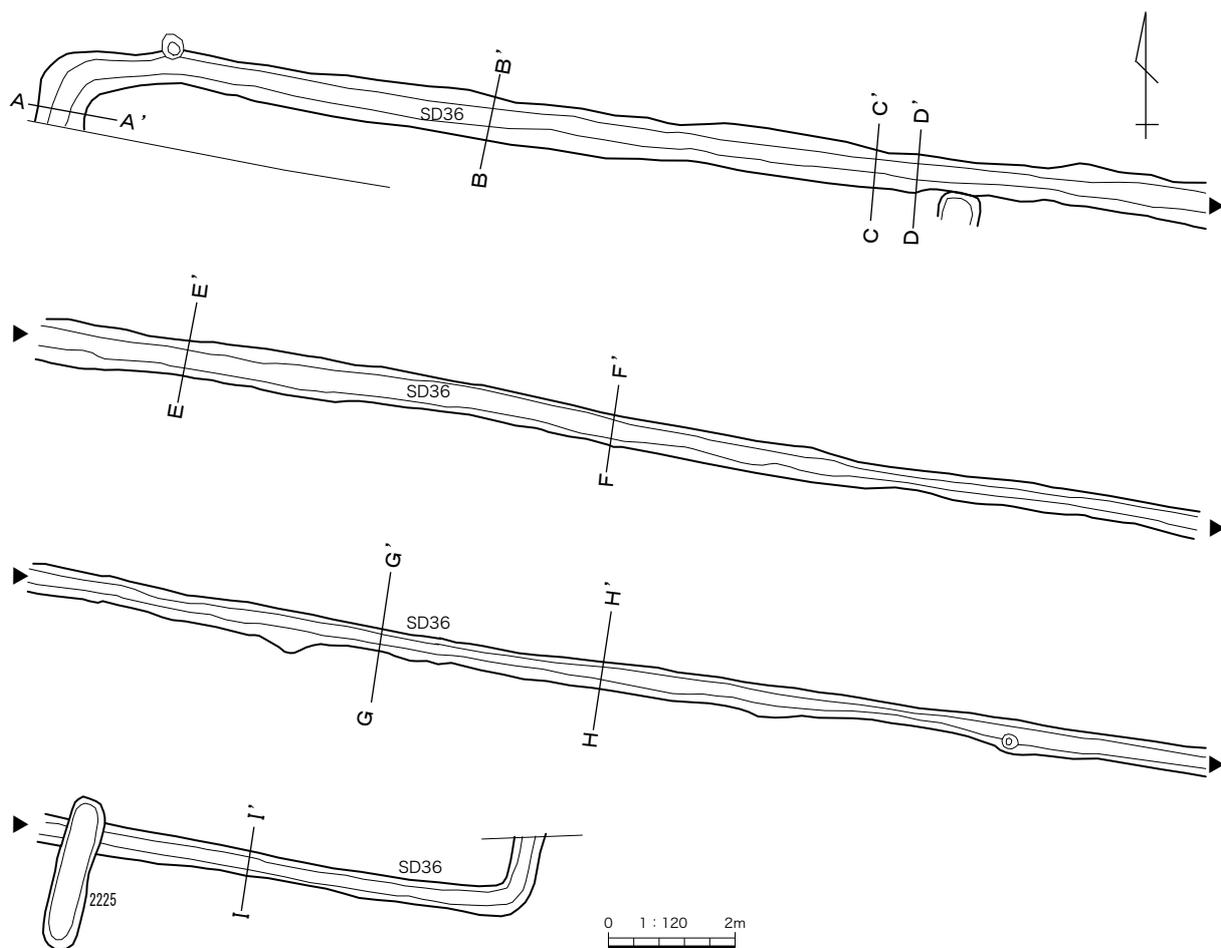
第27図 溝(6) SD12・51



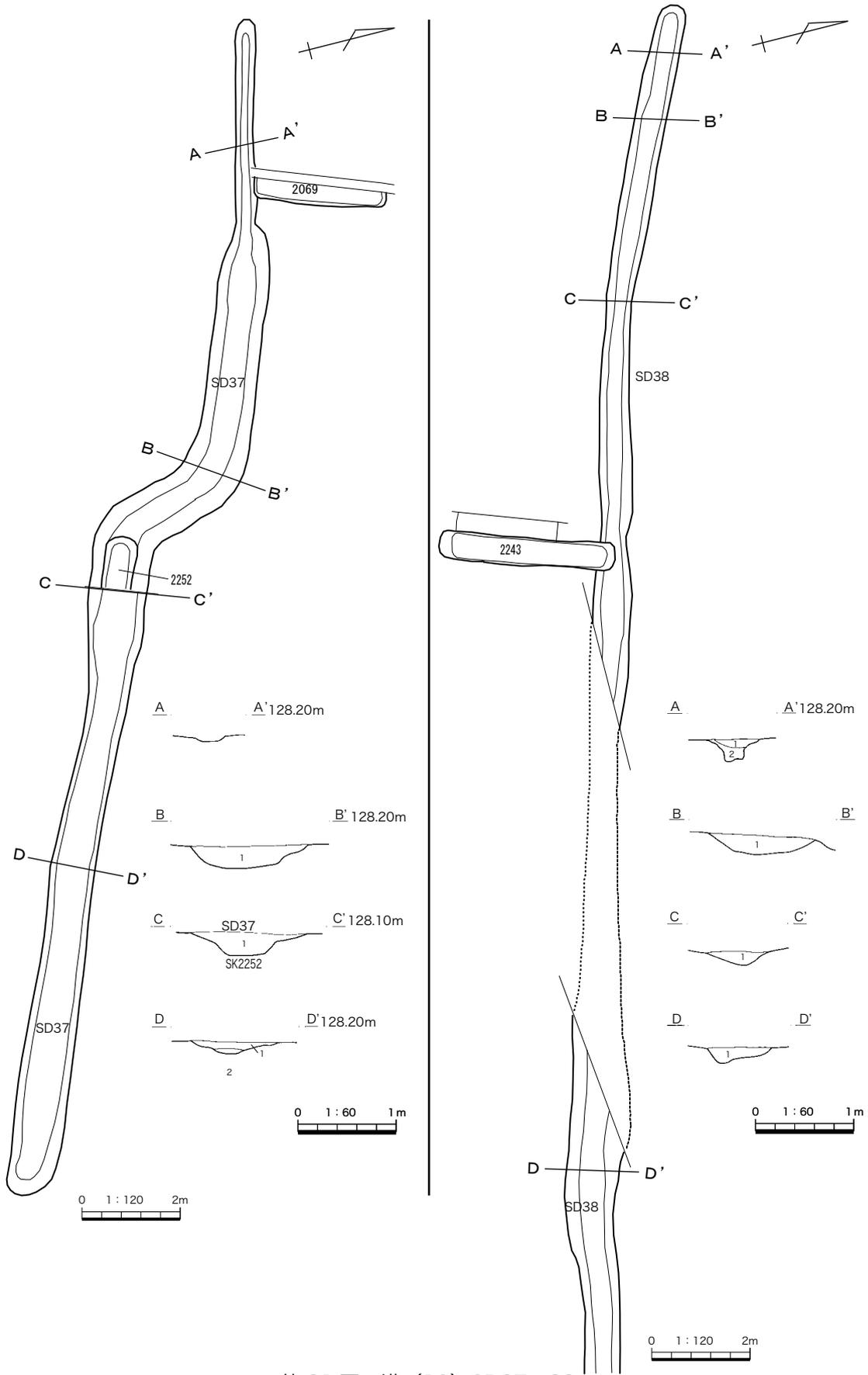
第28図 溝(7) SD20・26・27



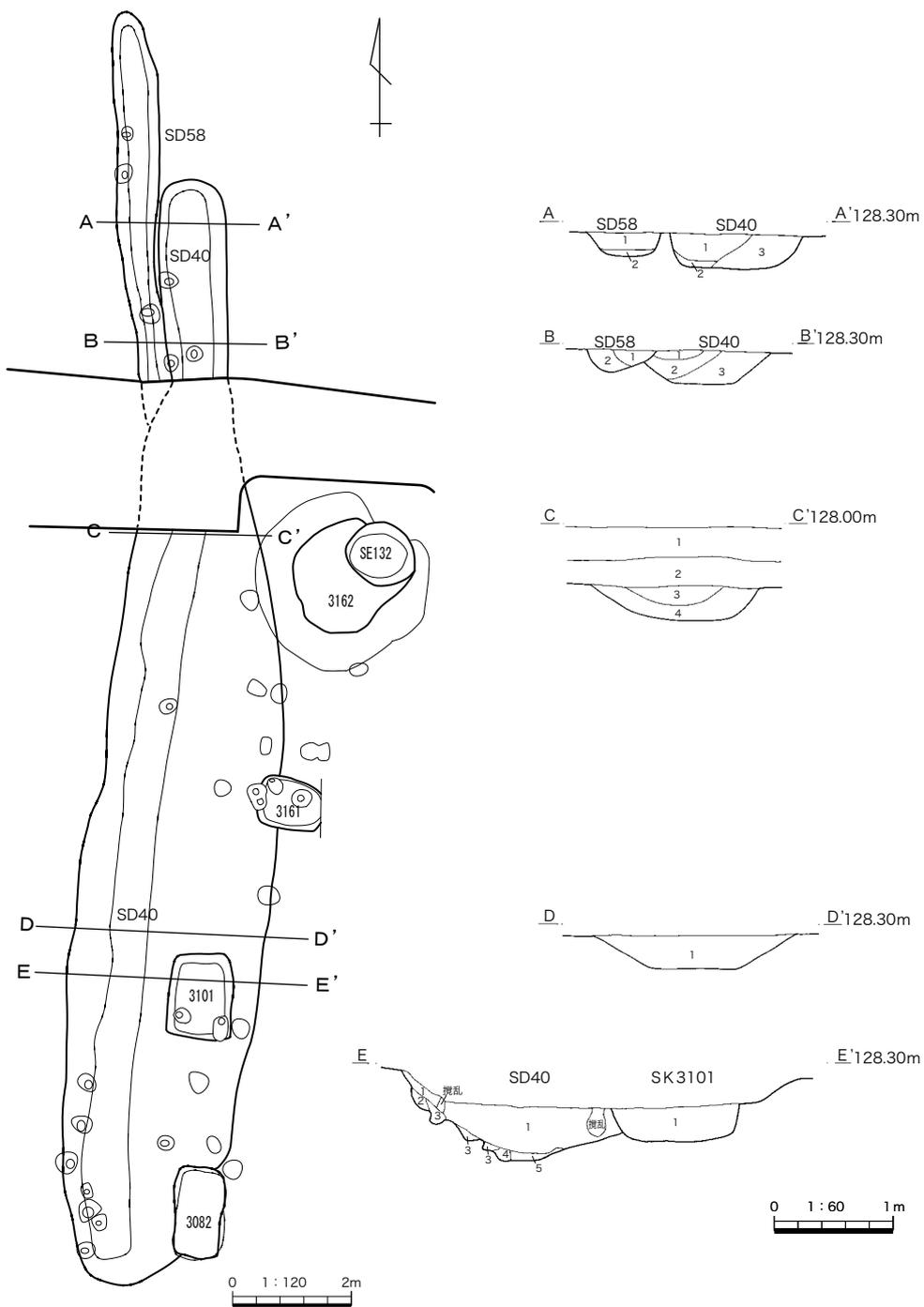
第29図 溝(8) SD33・34・39



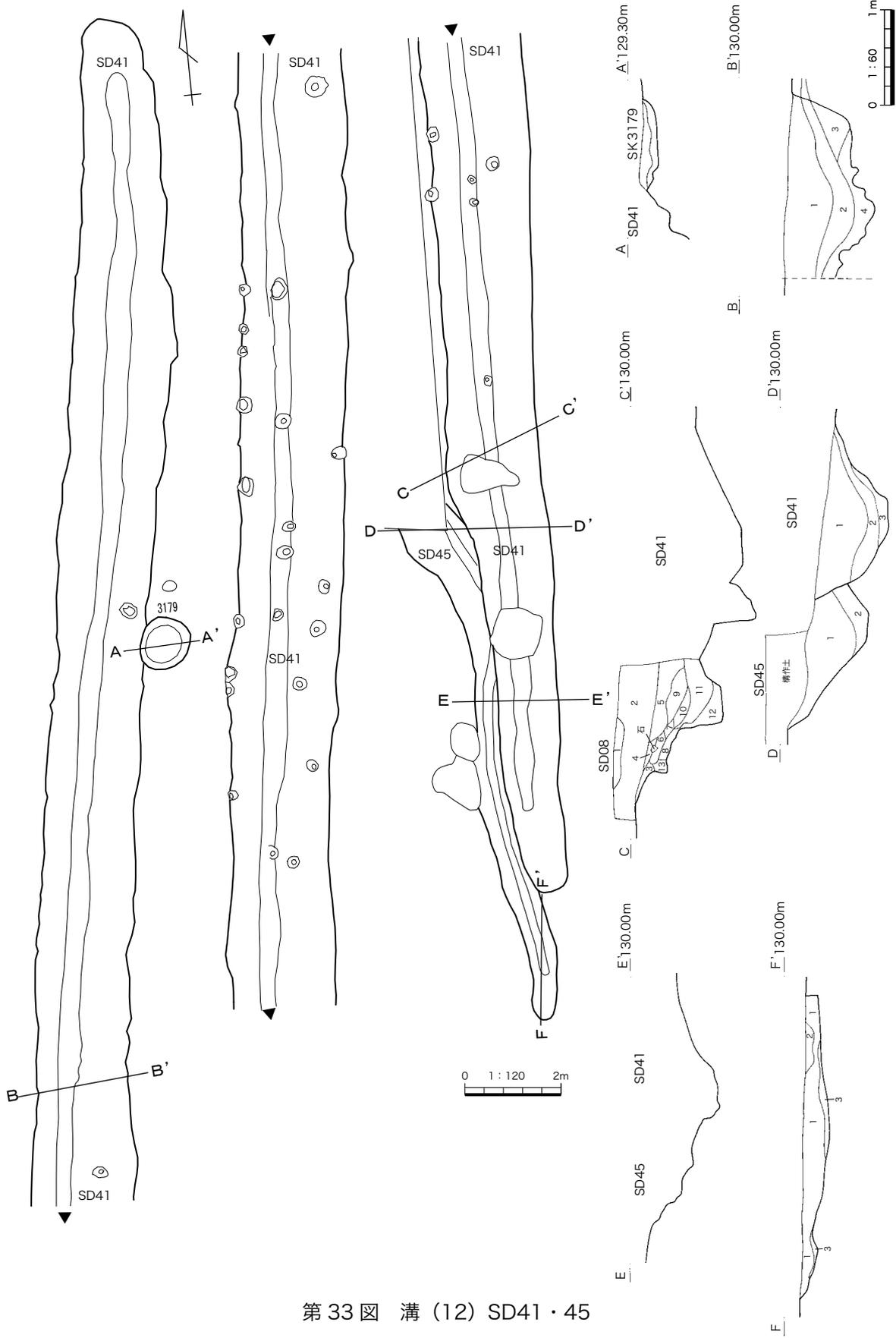
第30図 溝(9) SD36



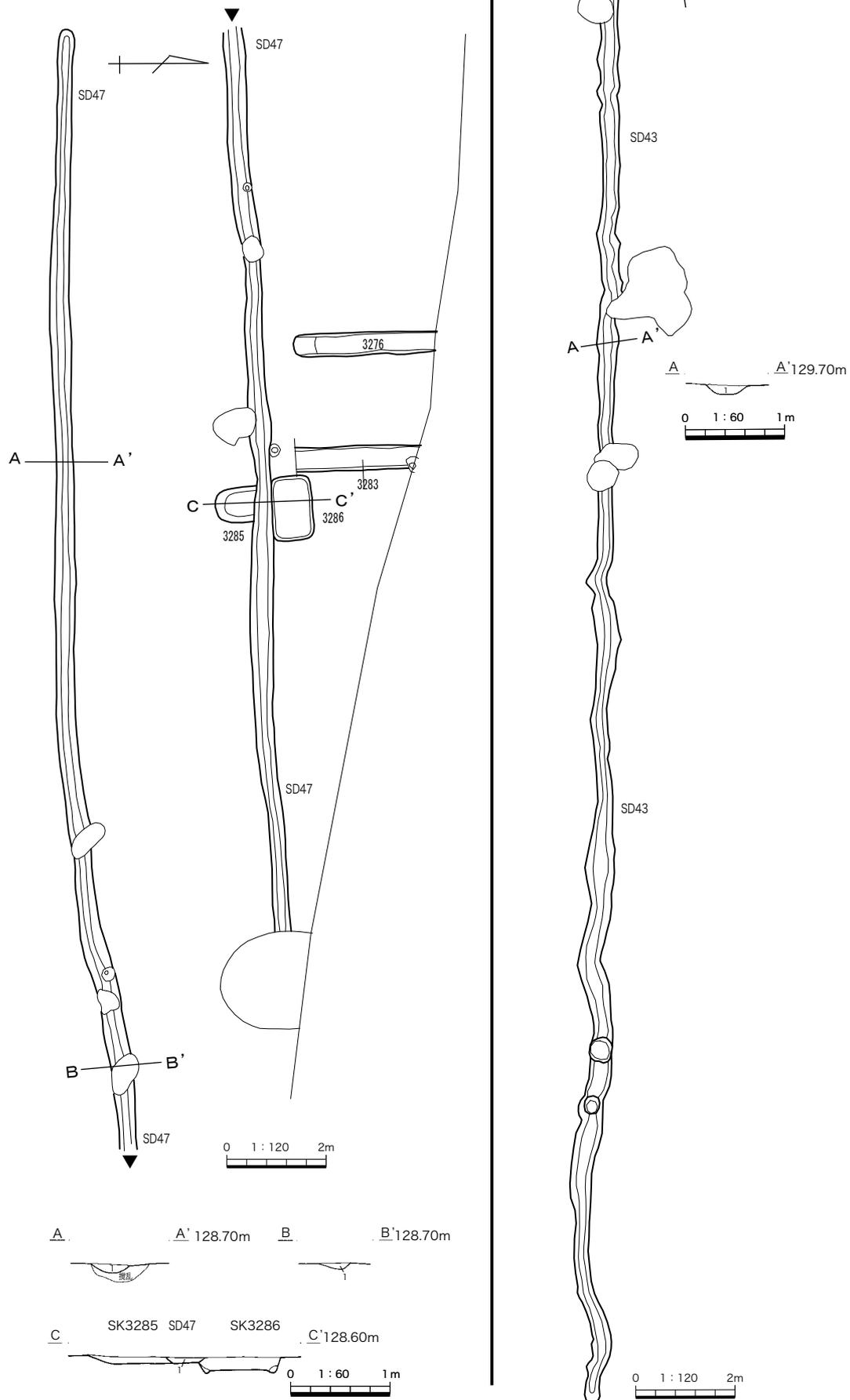
第31図 溝(10) SD37・38



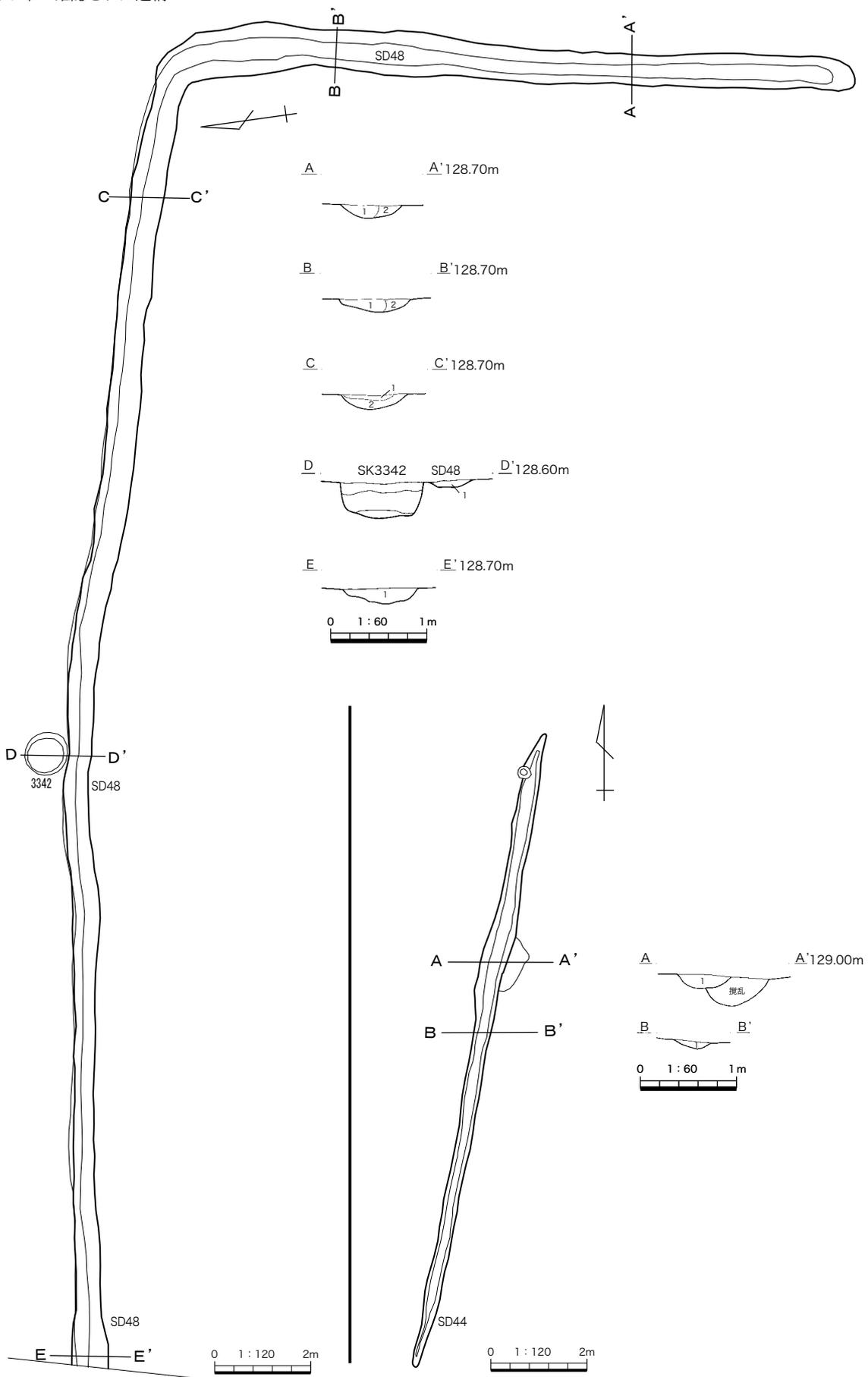
第32図 溝(11) SD40・58



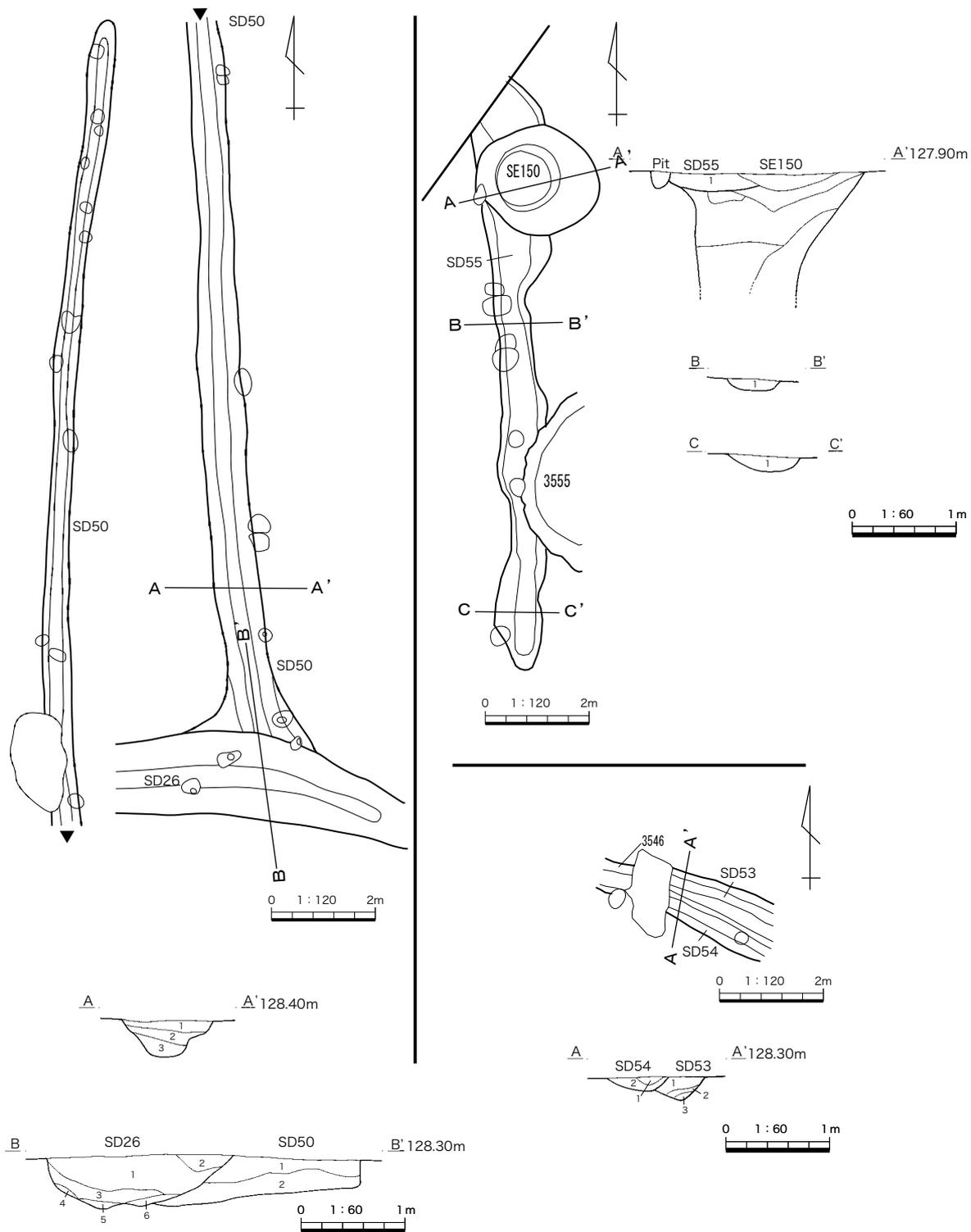
第33図 溝(12)SD41・45



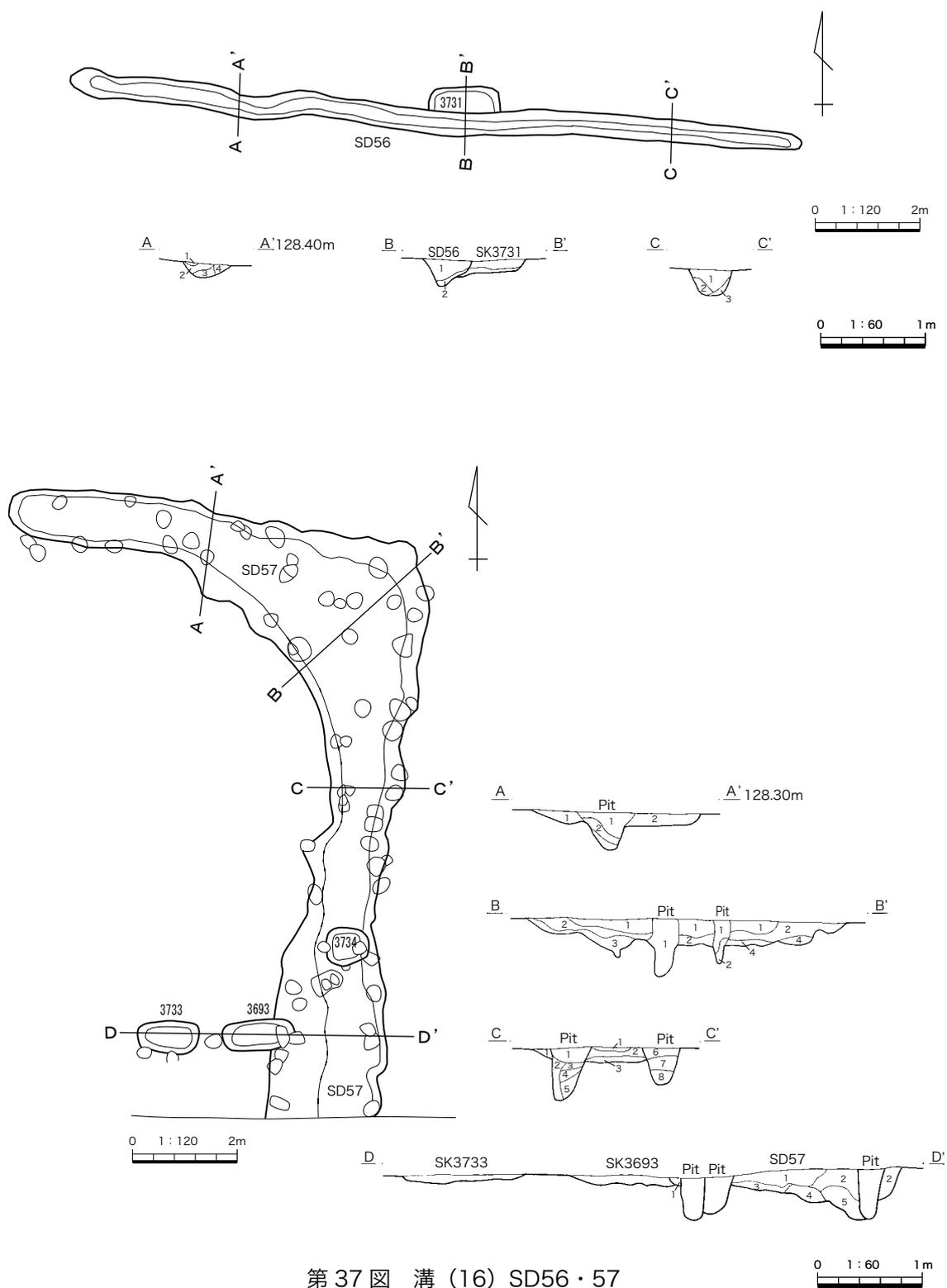
第34図 溝(13) SD43・47



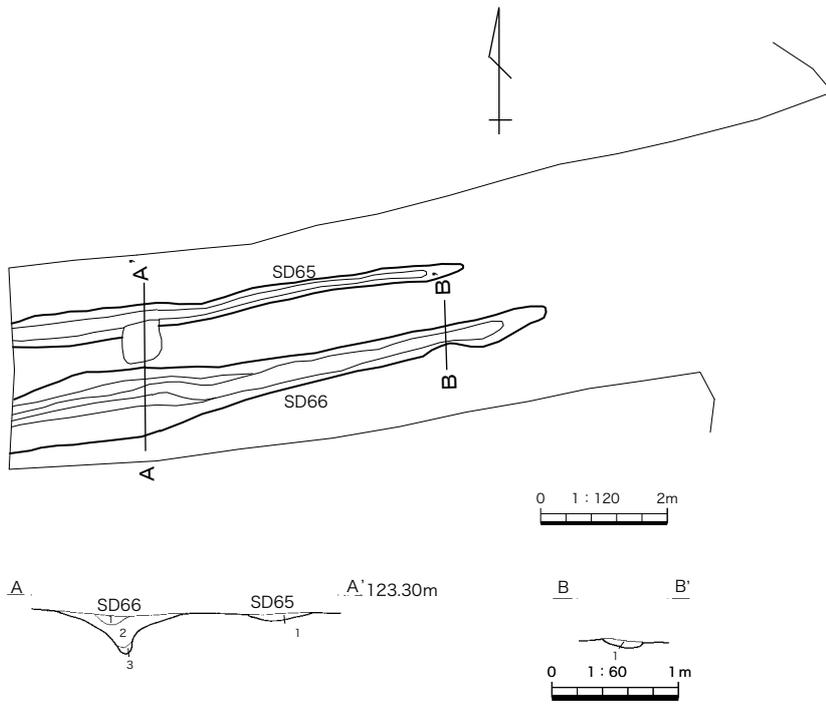
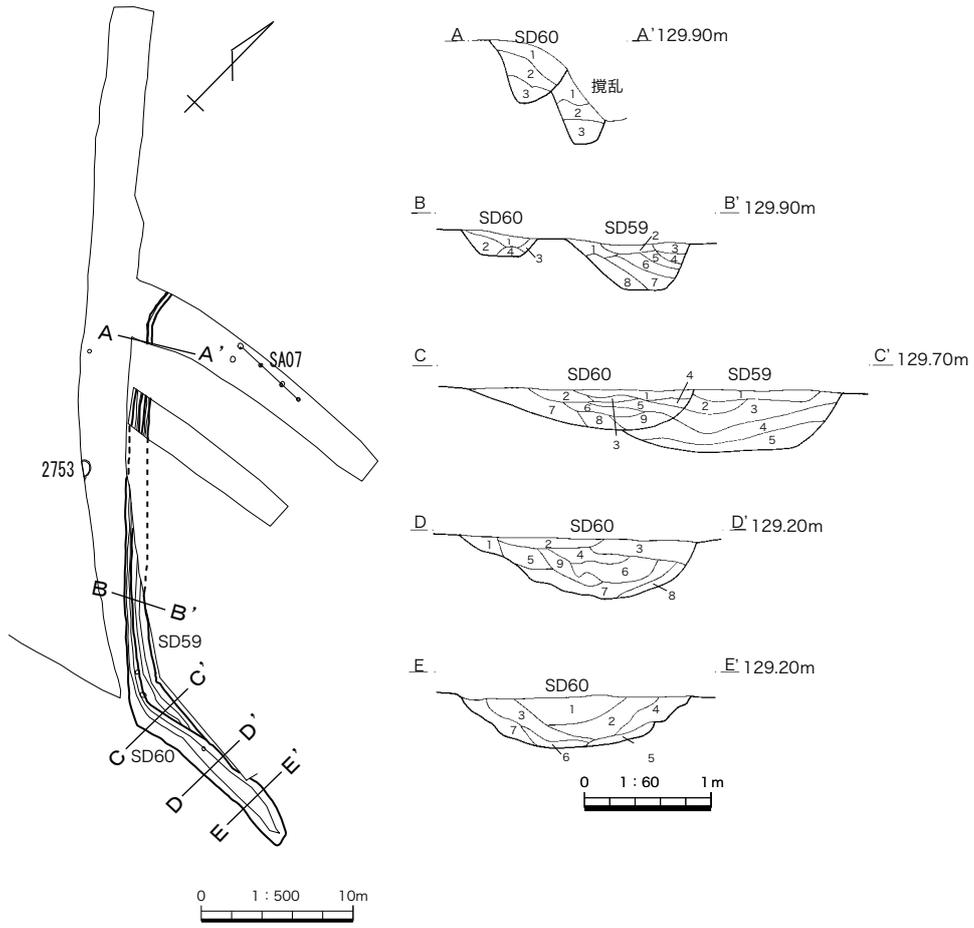
第35図 溝(14) SD44・48



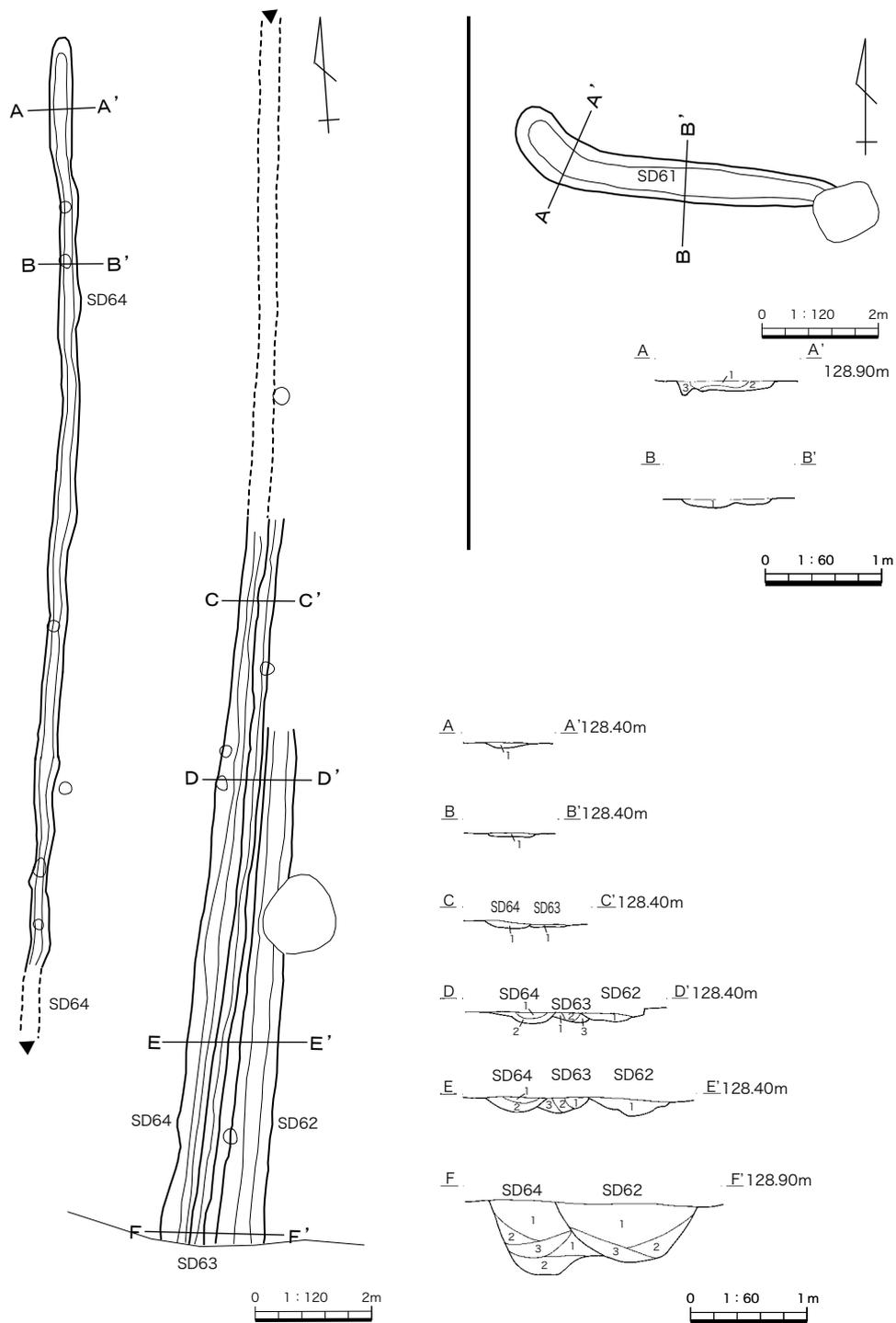
第36図 溝 (15) SD26・50・53・54・55



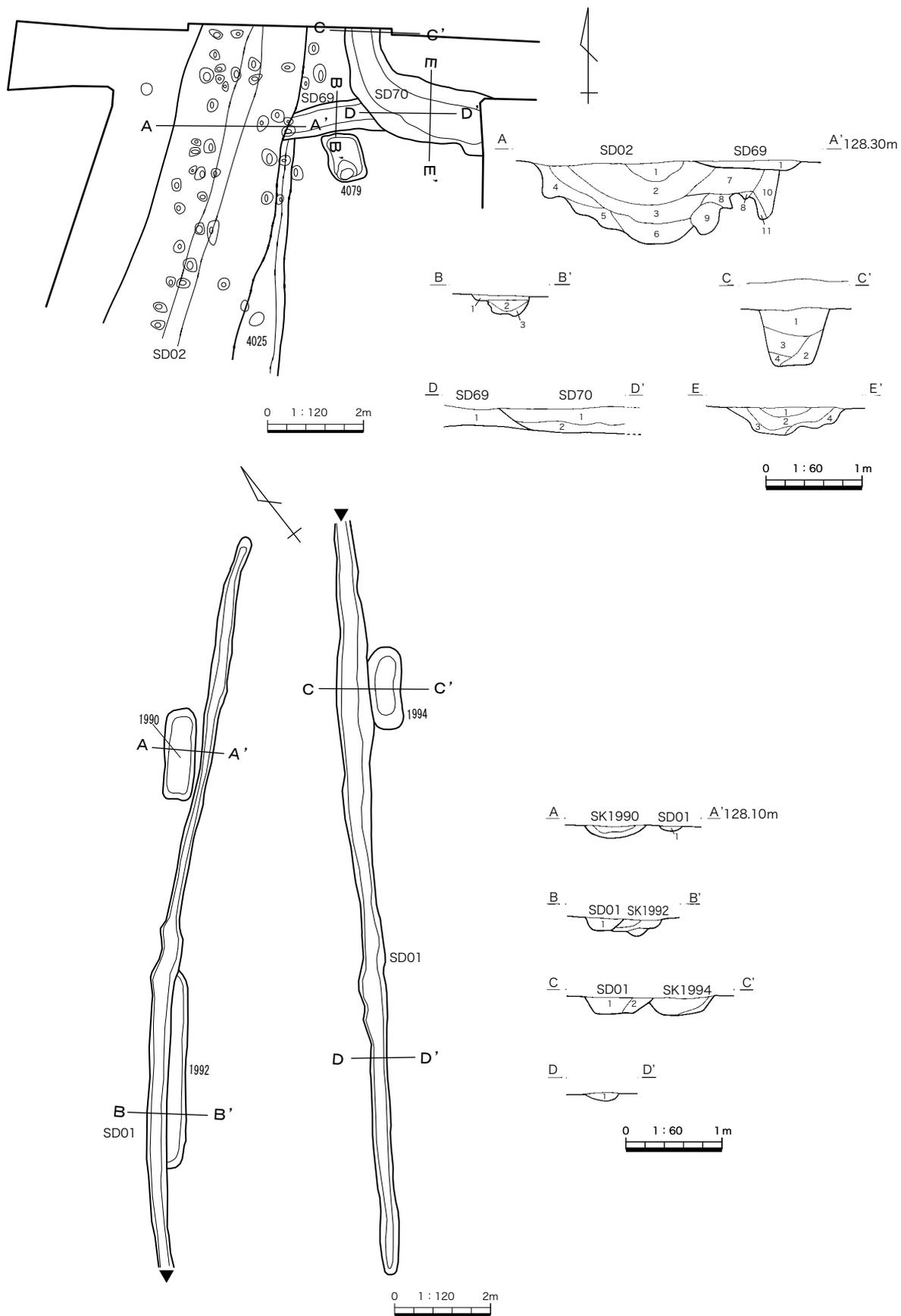
第37図 溝(16) SD56・57



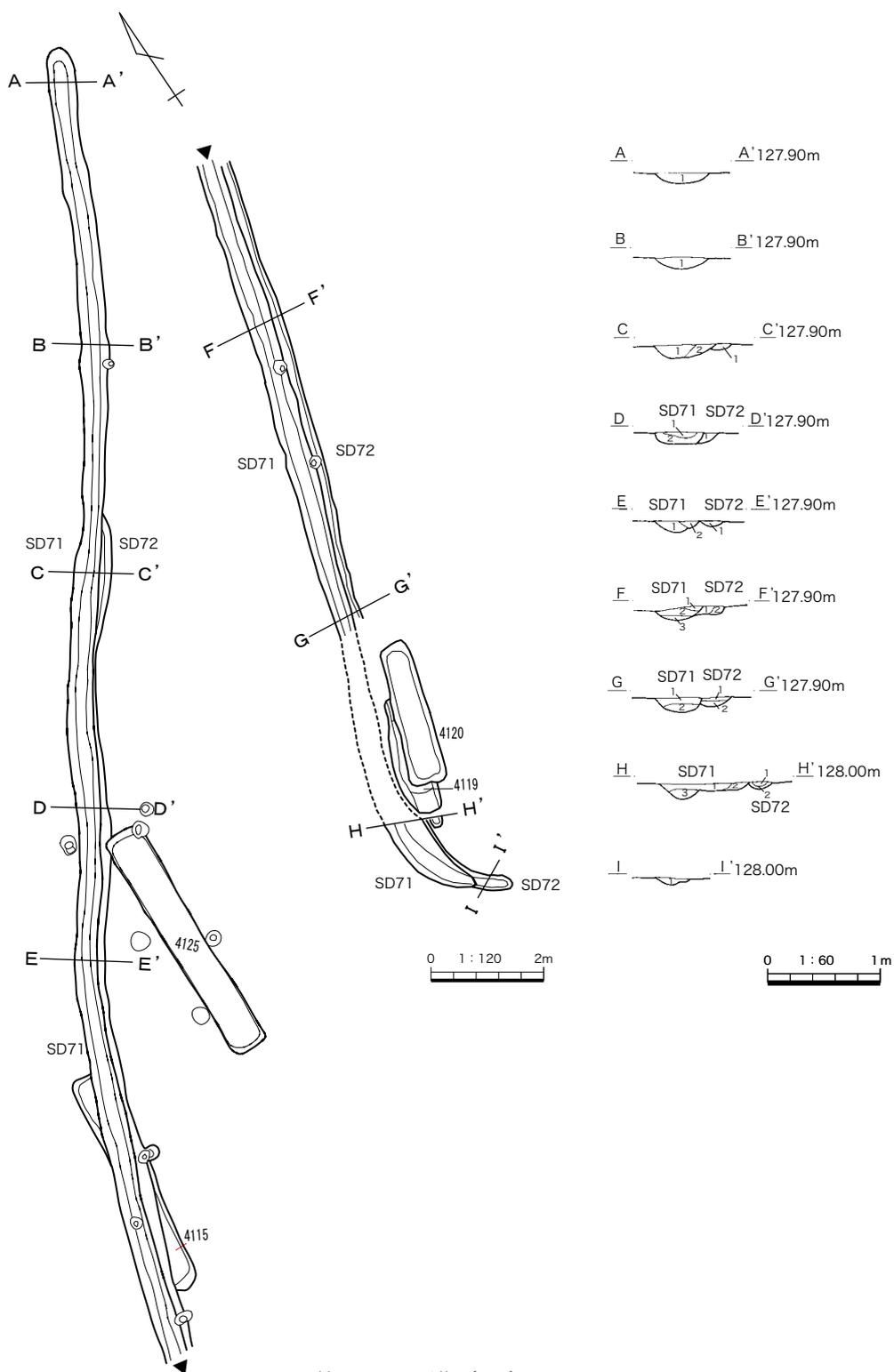
第38図 溝(17) SD59・60・65・66



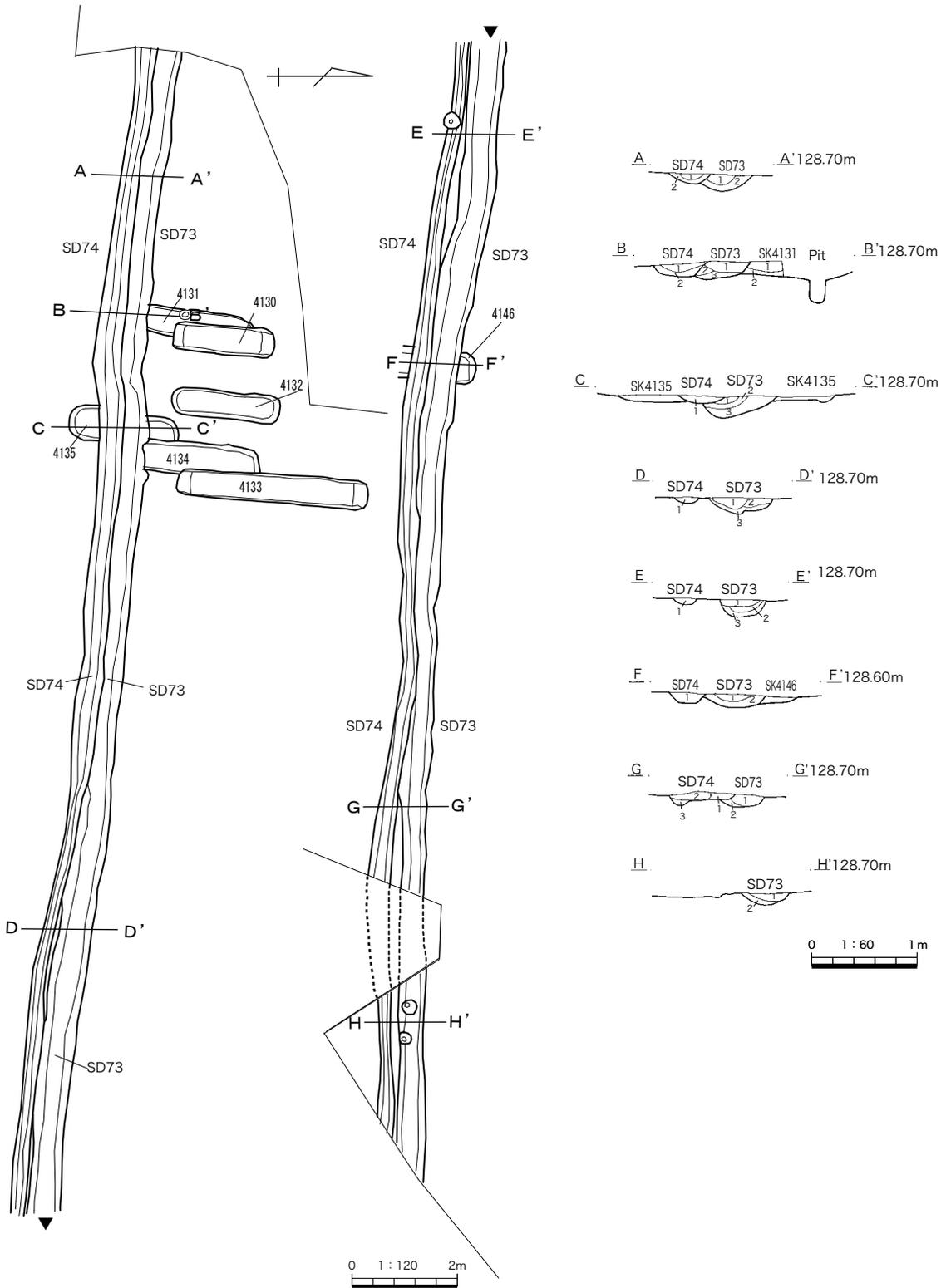
第39図 溝 (18) SD61・62・63・64



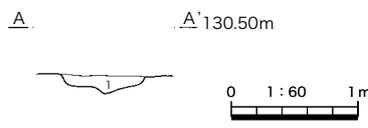
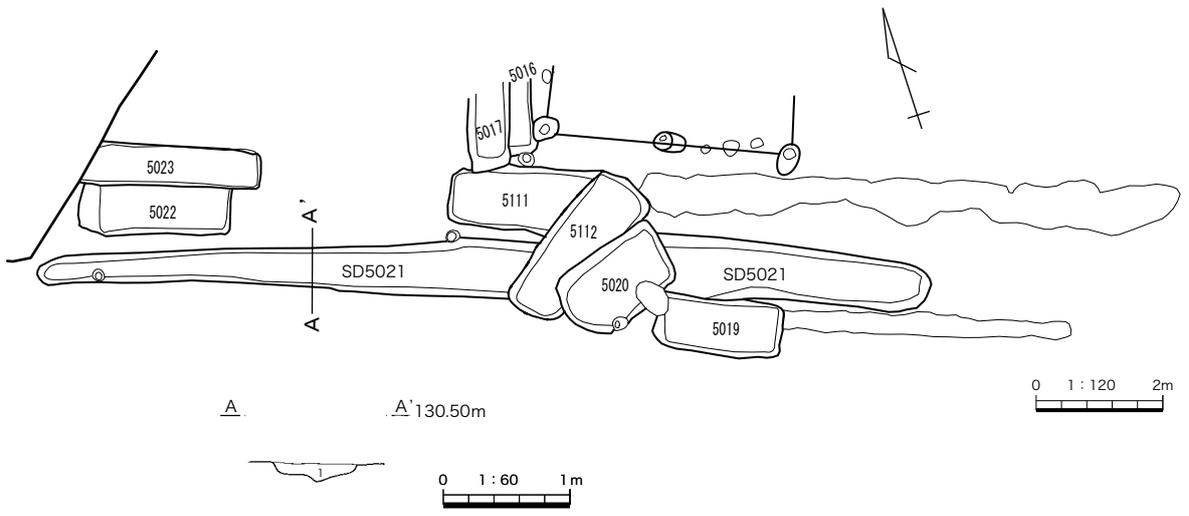
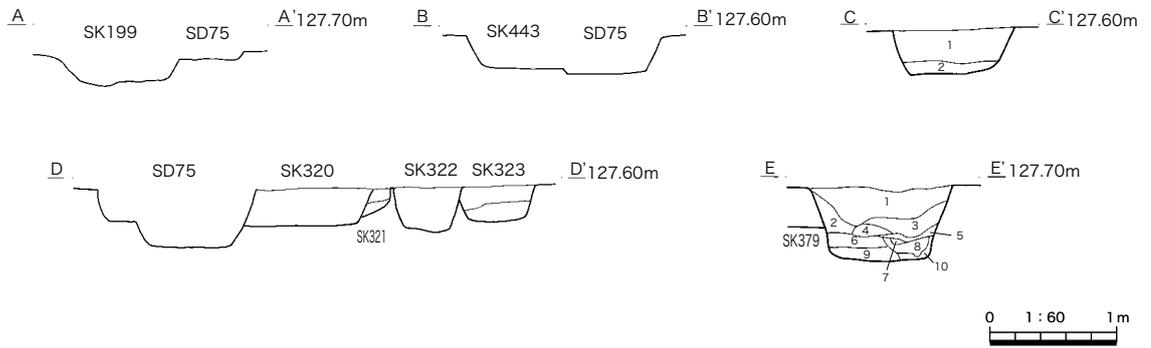
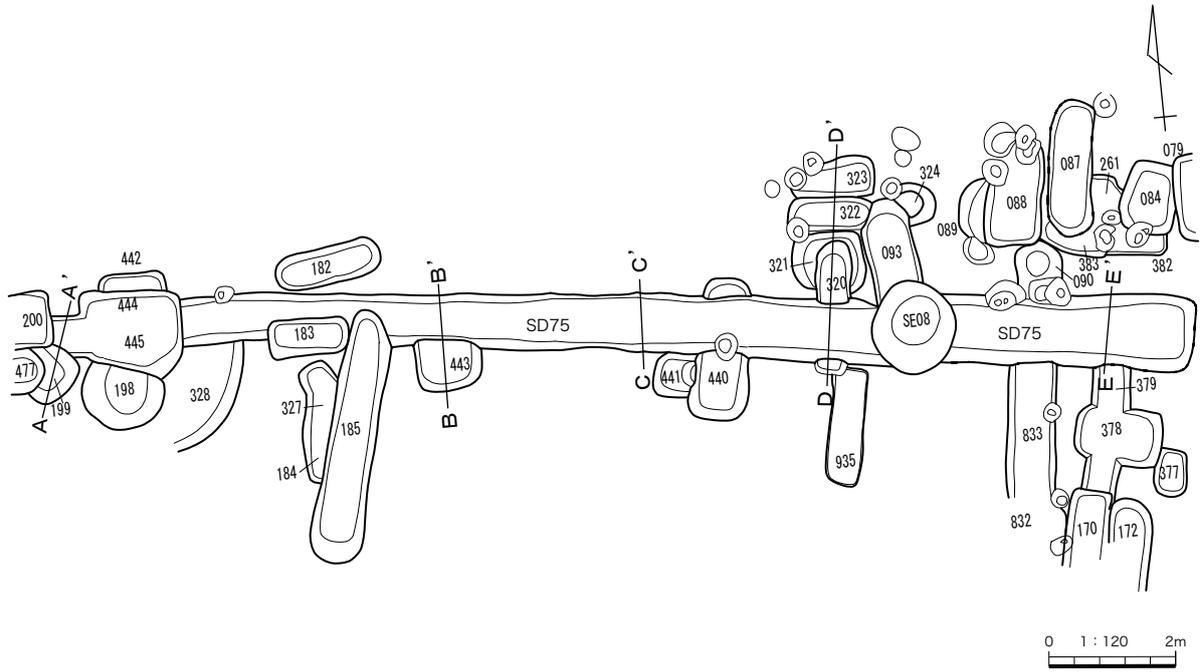
第40図 溝(19) SD01・69・70



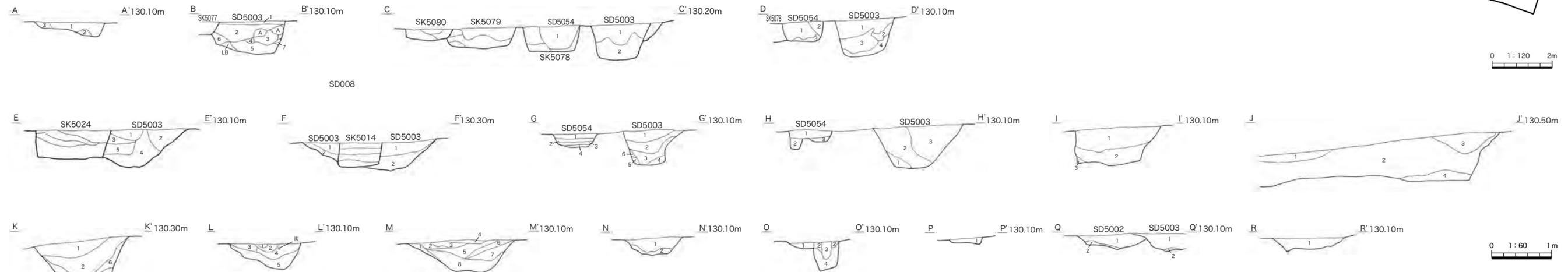
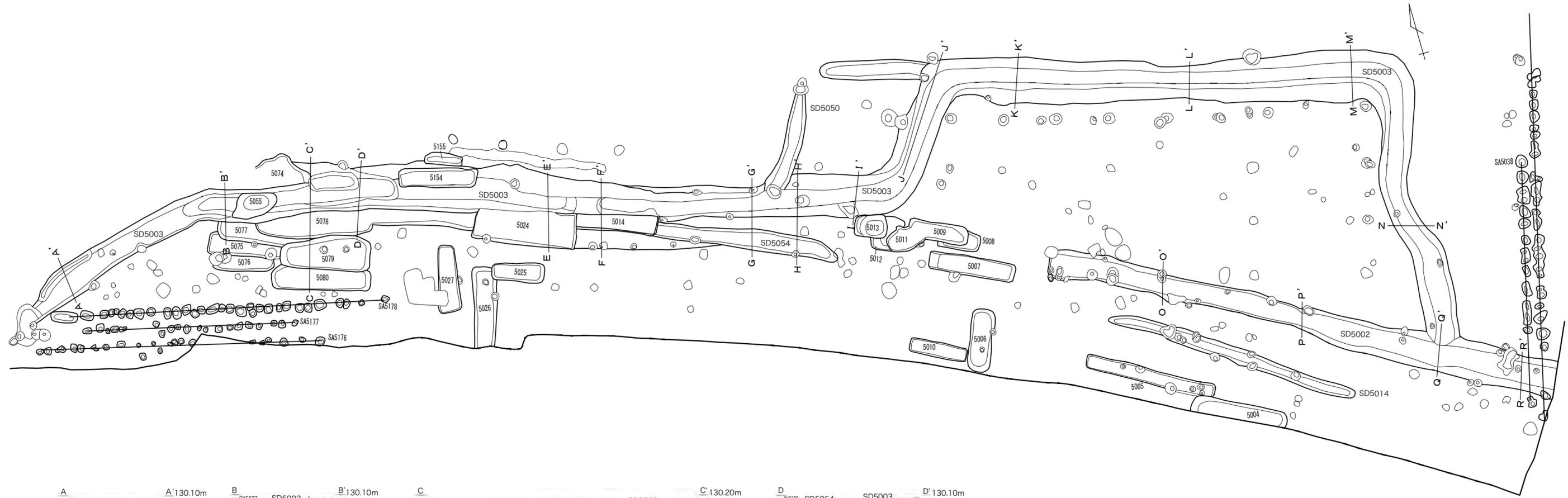
第41図 溝(20) SD71・72



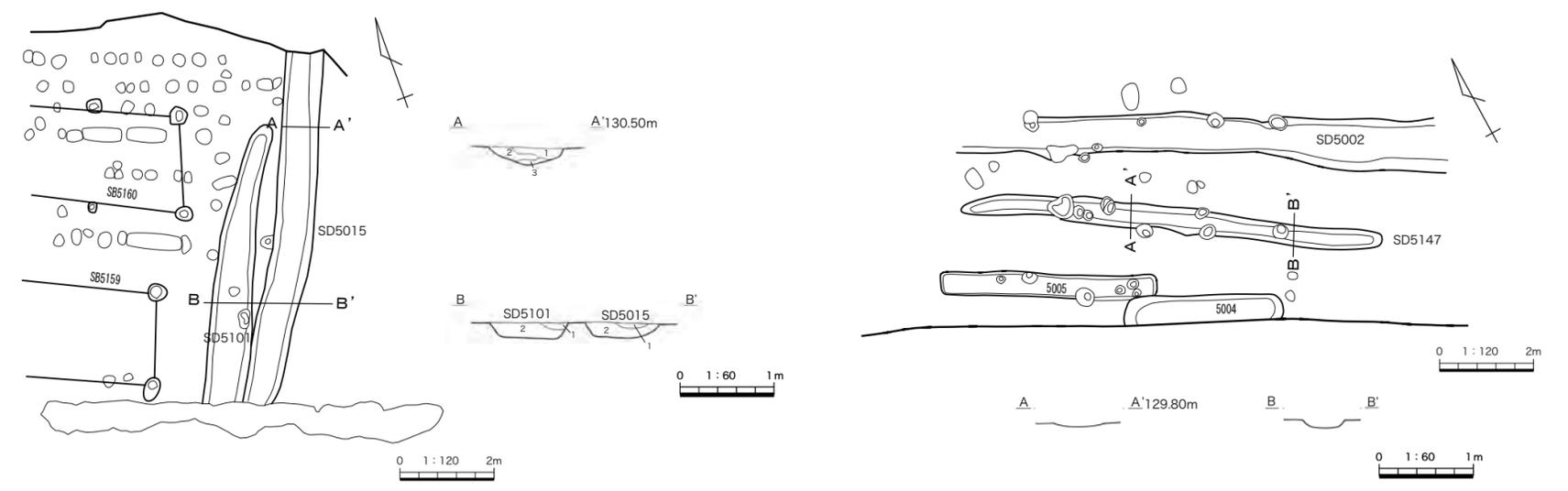
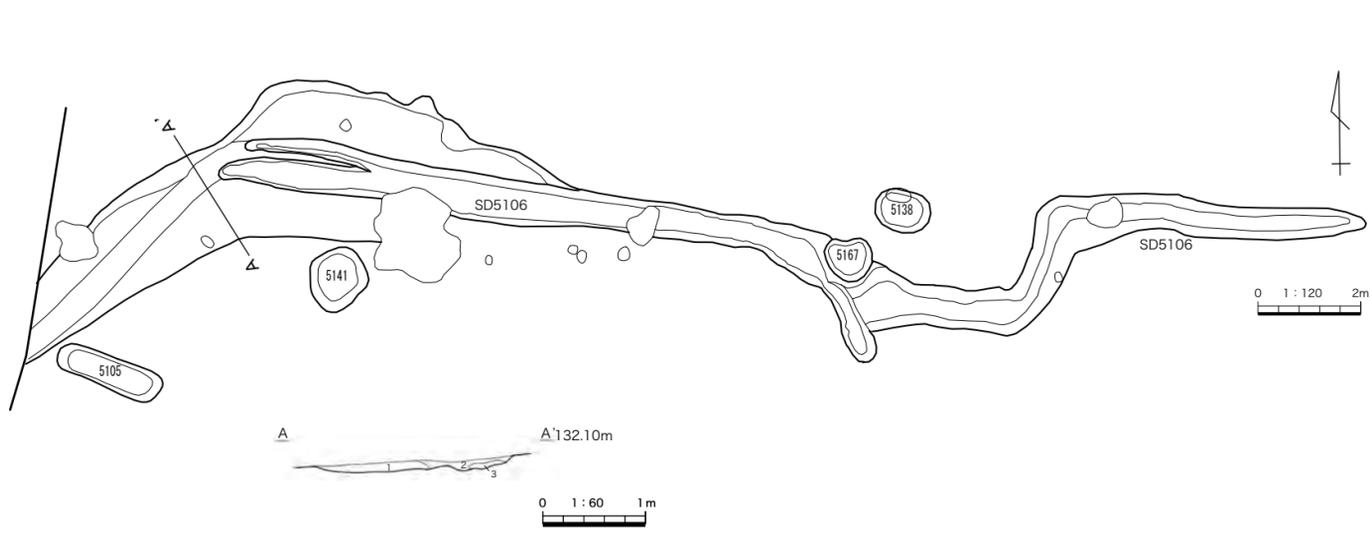
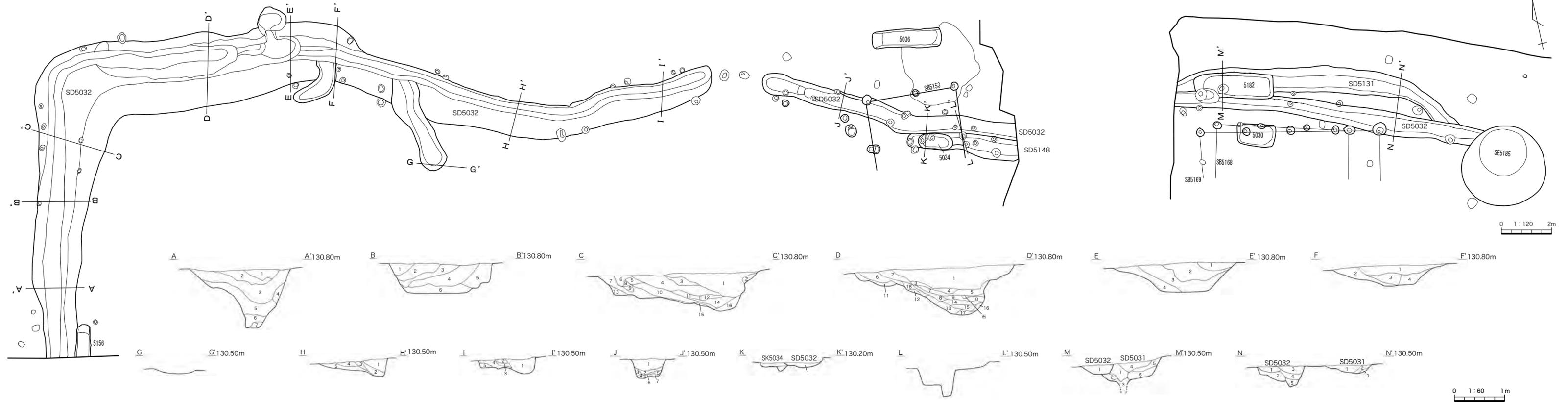
第42図 溝(21) SD73・74



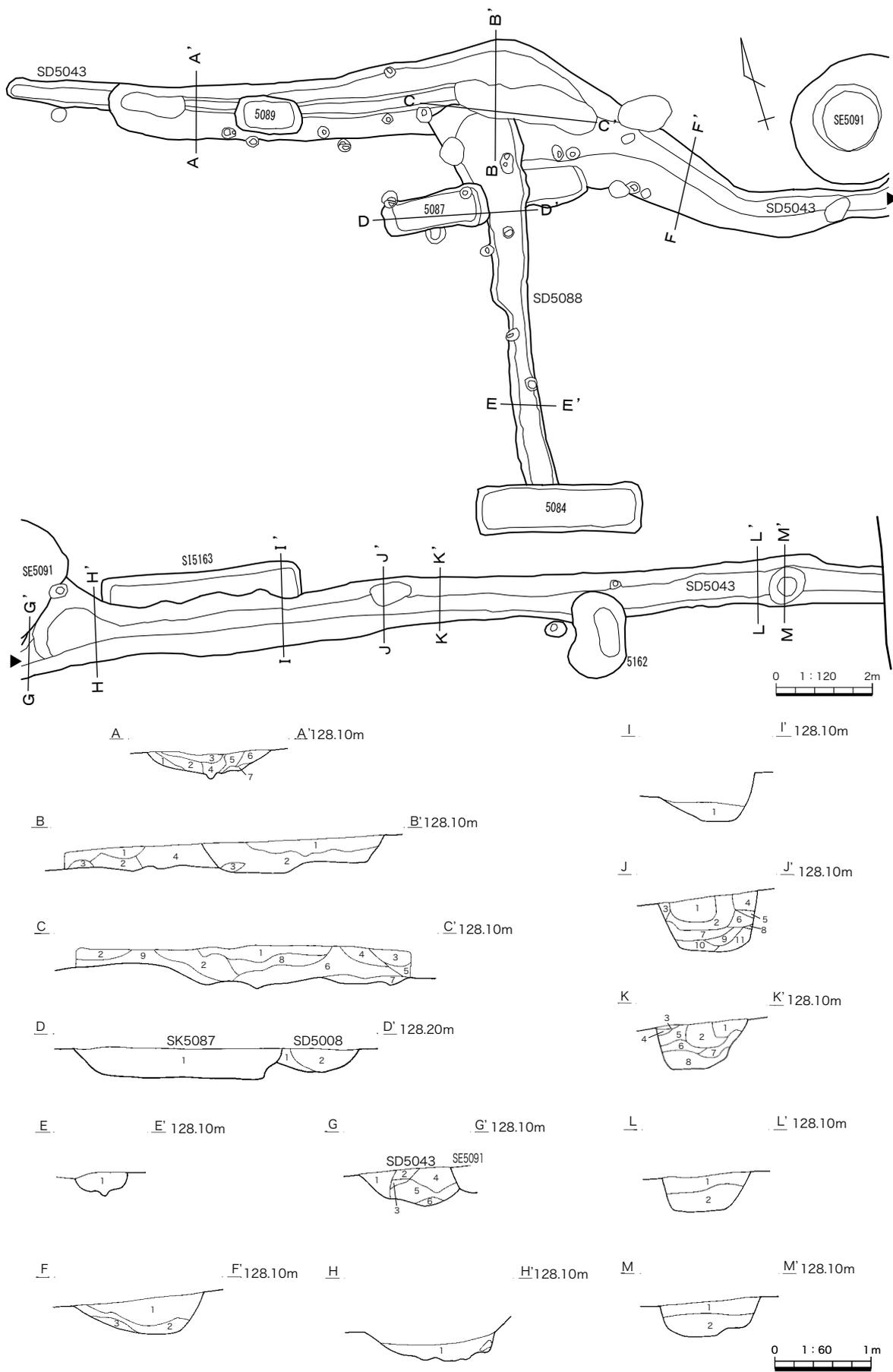
第43図 溝(22) SD75・5021



第44圖 溝(23) SD5002・5003・5050・5054・5147



第45図 溝 (24) SD5002・5015・5031・5032・5101・5106・5147・5148



第46図 溝 (25) SD5043・5088

第2節 地下式坑

本遺跡で確認された地下式坑は総数 198 基である。いずれも遺跡中央の SD27 区画・SD02 区画の内部に限られ、この外側に位置する地下式坑は無い。形態的には一律に捉えがたいが、やや不整な形態、1 m を超える深さ、長短径も 1 m を超える大きさ、天井崩落土と推定される覆土を有すること等の特徴から、方形竪穴や土坑一般とは区別される。分布を大きく捉えると、SD02 区画内に集中すると言えるが（第 6 図）、その中でも分布に粗密が認められる。SD27 区画内では中央域に集中するが、縁辺にも散漫ながら分布が確認される。SD02 区画内では、中央やや東寄りにある長方形土坑集中域に隣接する西側・北側及び南東側で地下式坑が多い。以下、1/100 全体図を観察しながら、他の遺構との関連にも注意して地下式坑の分布を見ていく。

100 分の 1 全体図 B,C

SD27 区画北東側のピットや方形竪穴がやや集中するところは地下式坑がやや少ない。SK3645,3650,3647 等は南側に長方形土坑集中の区域があり、これら長方形土坑より古い。規模的にはやや小さめで、形態としては不整形円形、入り口が南側という傾向があろうか。

この遺構集中域の南側にも SK3589,3578,3558 等の地下式坑がある。やや大きめで比較的整った長方形土坑が主となり、入り口が東側を向くという傾向がある。トレンチ状の調査区のため判断難しいが、10m×20m 程度と推定されるピット集中域・土坑集中域で地下式坑が確認されないことは注目されよう。

SD27 方形区画の北西側については、地下式坑分布は比較的散漫である。数基がまとまるような「単位」部分も見出すことはできない。SD27 区画南西の SD02 西辺北端近くの東側で SK1411,1412,1460,1473 がある。不整な形態が多いようにも観察されるが判然としない。SK1412 は 2 基重複の可能性がある。SD27 区画西側には散漫ながら幾つかの地下式坑がある。SK3142,1758,3162 等で、やや大きめの不整形円形例である。他の遺構が少ない空閑地に位置しているとも言えよう。SD27 区画内の西側には長方形土坑が集中する区域（大きく捉えて 60m×50m 程度）があり、この内部に地下式坑がほぼ見られない点は注目される。

100 分の 1 全体図 D

SD27 区画南東側は、地下式坑が極めて多く集中する部分である。とりわけ SD12 の東側に多く、有意なまとまりと見られる。更に細かくこの中を見ると、SD16,17,11 と SD12 との間の東西幅 12 m 程度の区域に 2 列が並ぶように位置している。また SD17 辺りからは、南北 12 m 程度の幅で、東西帯状の区域内に地下式坑が集中している。つまり溝の項でも記したように、ある一定範囲の外側を囲むような L 字状ゾーンに地下式坑が集中し、特にこの西側区域では長方形土坑が少ない、という傾向が観察されるのである。北辺側では長方形土坑群となりこれらと重複するが、土層断面記録で確認できるものでは地下式坑→長方形土坑の関係を示すものが多い。この地下式坑集中区域では、地下式坑同士の重複例もあるが（第 48 図 SK1078,1079 例等）、密集集中の割には重複が少ない。つまり、重複を避けるように、或いは計画的な配置のもと作られていった可能性を窺わせる。ある一定区域内における近い位置、近い軸方向、類似する形態という相関関係も抽出できる（SK1004,1070,1007 の三者の関係等）。また、同じく SK3543,1424,1076 等も長辺側に入り口、長楕円～そら豆状の形態、1～1.5 m 程度の深さ等の共通点が挙げられる。一方例えば SD12 西側の長方形土坑が集中する区域では、地下式坑は希薄である。この区域にある地下式坑 SK1190 は長方形土坑より古いことが示される。いずれにしてもこの地下式坑集中域について、形態・軸方向等、本来詳細な検討が必要であり、ここでは検討の必要性のみ明記しておきたい。

100分の1全体図 E,F = SD02 台形区画西側～中央部

SD02 から一定の距離を置いた東側から地下式坑の集中する区域がある。つまり SD02 西辺に接する東西幅 25 m の範囲には地下式坑がほぼ存在しない。この空白域の東側で列状に近く並ぶ 8 m + 30 m ほどの範囲が第一の地下式坑集中域である。更にこのうち三分の一程度北側の部分では、東方向にこの分布が伸びている。或いは SD02 西辺中央東側で付近の 20 m × 25 m 程度の方形土坑及びピット集中域「02 区画内西側土坑集中ブロック」があり、これに隣接する東側での地下式坑集中と言える。また、SD02 区画内には、ほぼ中央～東より位置する 50 × 55 m 程度の長方形土坑集中域「02 区画内中央土坑集中ブロック」があり、この北側及び西側の隣接区域に地下式坑が集中する帯状区域がある、と捉えることもできよう。

それぞれの地下式坑集中域における、形態的特徴や軸方向等について、遺憾ながら詳細に検討し得ないが、幾つかの気づいた点・注意点について触れる。第一に、北側の SD027 区画内の集中域同様、地下式坑同士の重複が殆ど見られず、重複を避けるかのように、一定の距離を持って分布している、という点が気付かされる。SD02 区画内西側土坑集中ブロック東の地下式坑集中域では、SK221,1176 等のように、やや小さめの長方形地下式坑が目立つようにも見られる。そして西側に入り口を有する地下式坑が SK105,1176,1084,1096,1095,1093 と並んでいるようにも観察される。

次に SD02 区画中央土坑集中ブロック西側の地下式坑について確認すると、土坑群に隣接するところでは東側（土坑群側）に入り口部を有する例が多いことが観察される。また SK178,179,561,490,520 は小さめの土坑が連続的に重複している（第 51 図）。ここでは SK178 → SK179 が確認されており、SK561 → SK179 も推定されることから、二つの地下式坑の間に新たに（やや時間を置いて）SK179 が作られた、ということが判断される。この重複する 5 基の地下式坑が小さめの不整形円形であることも注目される。

SK639,646,647,648 の集中域では、長軸が短辺の 2 倍近い長方形の SK646 とやや長軸側が短いものの、四隅がやや張出気味になる SK647（第 61 図）等、共通する形態例が近い位置にある。

目を転じて SD02 区画内中央土坑集中ブロックの北側～北西側を観察する。ここでは SK491,338,339,277,645,500 と西北西～東南東の方向で地下式坑が並んでいる状況を観察できる。このうち SK491 以下の 3 基は、北東入り口で形態が類似する方形の地下式坑である。更にこの列の北西側で、東西方向に並びながら群在する一群がある。それは SK1063,821,820,818,263,264,610 等から構成される一群で、入り口方向の偏位は判断難しいが、形態的には方形基調であり、類似度があると言えるかもしれない。先に示した西北西～東南東方向の並ぶ一群も含め、南北方向の区画溝 SD10,14 及び東西方向の区画溝 SD21 と地下式坑とが重複している点も注意される。

また SD02 区画内中央土坑集中ブロックの北～北東側では、SK830,881,877,1498 と弧状に並ぶ地下式坑群が確認される。入り口は不定だが大きく浅めで不整な形態という類似が見い出せる。一方 SD02 区画内中央長方形土坑集中域の内部を見ると、中心的位置にほぼ地下式坑は無いものの、その縁辺に幾つかが確認される（SK489,686,433）。これらは長方形土坑と重複している例も多いが、概ね地下式坑→長方形土坑の関係が捉えられる。もちろん、すべての関係について地下式坑→長方形土坑ということはできず、また長方形土坑集中域内にあるピット群についても注目する必要がある。なおこれまで触れてこなかった井戸についても、地下式坑同様、この長方形土坑集中域に隣接するやや外側に多い傾向がある。但し地下式坑ほど排他的な関係では無さそうで、少なめながら区域内部にも認められる点は注意されよう。

100分の1全体図 G = SD02 台形区画東側

ここは SD02 東辺に近い位置で、SD02 区画内中央長方形土坑集中域の東側にあたる。

まず長方形土坑集中域の区画に関わるようなSD40があり、この南東側に地下式坑（SK1479,1480,1483,1484,1485）がある。SK1486を含め6基の集中域と捉えられる。西～北西側に入り口があり、小さめの方形～楕円形の形態が目立っている。SK1485はかわらけがまとまって出土した地下式坑である（写真図版27-5）。この北の20m四方程度の長方形土坑集中域に地下式坑は殆ど無く、このゾーンの北東でSK025,1491,392,391,248と5基の地下式坑がまとまる。形態の類似性について判断は難しいが、入り口は西～南側を向く傾向にある。この集中部の西10m程度、地下式坑の無いゾーン（長方形土坑は少なめで建物跡を復元できそうなピット群がある）を挟んで西側にややまとまる区域がある。SK573,240,885,238,368の地下式坑5基で、不整ながら大きく深さもあるSK238,240の2基を含んでいる点注目される。この2基は井戸と重複しこれに切られている。両集中域の北側SD02にも近いところにSK024,138,020,027,023,242の6基集中部分がある。南～西側に入り口部を有し、楕円～長方形の形態を呈しているものが目立つ。やや浅いものが多く、特にSK024は地下式坑としたものの問題が残る。この区域の北側は程なく調査区外となるが、その間にピットの集中域が観察される。

500分の1全体図②＝SD02台形区画南側

ここは遺構がやや少なくなる場所であるが、一定数地下式坑が分布している。まず南東側15×25m程度の範囲に地下式坑の集中域がある。ここではピット群や井戸、土坑等も分布しており、完全に排他的な関係とは言いがたいものの、それらの遺構との重複例が少ないことは意図的な配置を窺わせる。形態の類似等を見いだすのは難しいが、SK1941,1957,1965等やや小さめの方形～長方形例が目立っている。SK724,871については、その北側のSK869,870,868と近い関係にあり、ここで一つのまとまり・ブロックを捉えた方が良さかもしれない。またこの区域の地下式坑群は北側に入り口を有するものが多い。SK1973,1958はすぐ北にピット列があり、この列方向がSD02南辺と平行すること、この東延長上がSD02のみならずSD01,071の溝が途切れる部分に対応している点は注目されよう。以上の他をみると、SD02区画内の南側は比較的散漫で分布の特徴を見いだすには至らない（SK1439,1437,1498,369）。SK1437,1498の南側にはピット列があり、これより南側（SD02南辺から13m程度の帯状範囲西側）には地下式坑・井戸の分布が無いことは注意して良いだろう。同様に既述したSD02西辺の東25m程度の帯状範囲や、SD02南東辺・SD072から西15m程度の帯状範囲内に地下式坑が作られていないことも注意すべき事象であろう。

形態概要

規模としては、長軸長1～1.5m程度の小さい例もあるが、2～3m程度の地下式坑が多い。中には長軸4mを超える例もある。深さは1m程度のものから2m程度のものが多く、中には2mを超える深い例も少数ある。底面は概ね平坦を為し、壁は垂直に近い立ち上がりを示すものが多い。オーバーハングして底面或いは壁中位が拡がり袋状を呈する例も比較的多く認められる（SK080, SK235, SK641, SK1058）。

掘り込みはローム面（恐らくその上位から）で、壁面に漸移層～今市パミス含む層～ハードローム層が確認される（写真図版22 SK1095等）。つまりローム面より上位（漸移層～黒色土？）からハードローム層（黒色帯下のロームが多いか）まで掘り込み、ハードロームを底面としていることが確認される。

多くの地下式坑で確認される入り口部について若干記す。まず長方形のものは、長辺中央に入り口部分を有するのが基本のようである。SK1096は長方形の短辺側に入り口部を有する比較的珍しい例である。入り口部分そのものを観察すると、本体主体部に向かって緩やかな傾斜を持つ例、主体部との間に明瞭な段差がある例（第86図SK3645等）、入り口部分内で段差を有している例（第87図SK3681,3686）等がある。第80図SK1969や同図SK1974、第74図SK1438は入り口部分の底面は浅めで、入口部と主体部底面との間

が60cm程度の段差となっている。このような例は比較的多い(第65図SK1001、第63図SK821)。他に2段以上の階段状段差が設けられる例(第80図SK3142、第77図SK1644)もある。

全体の平面形態の区分(基本的に上端の形態)について、それぞれの代表例を示しておく。

比較的整った方形の例：SK263, SK338, SK339, SK369, SK641, SK822, SK821, SK1067, SK1063, SK1124, SK1194, SK1190, SK1363, SK1479, SK1484, SK1486, SK1498

整った長方形の例：SK06, SK11, SK27, SK205, SK277, SK370, SK430, SK433, SK640, SK870, SK869, SK1069, SK1272, SK1929, SK1969, SK3550, SK3578

円形のもの：SK024, SK155, SK890

楕円形～不整楕円形の例：SK020, SK138, SK218, SK3686

不整形の例：SK238, SK1001, SK1469, SK3544(円形に近い。壁中位で広がる形態で井戸と重複)

複室構造?：SK391・SK625

それぞれの形態毎の分布や時期との相関関係等の検討は遺憾ながら為し得ないが、既述のようにある一定区域内に類似する形態のものがまとまる傾向が捉えられる点は注意しておく。なお整った方形でやや浅いものについて、方形竪穴との区別がやや難しい例もある(SK1063)。

遺構の重複についてみると、地下式坑同士が重複する例は少なく(第57図SK428とSK645)、長方形土坑や井戸との重複例が目立つ。地下式坑のほぼ中央に井戸が作られる例(SK264→SE15、第54図)、2基の地下式坑間に井戸が作られる例(第52図、SK885,238→SE128例)等がある。

次に覆土について少し触れる。SK688(第62図)、SK873(第62図)は空洞に近い状態が残っていた例で、崩落土の塊が明瞭に認められた。SK873は崩落土もあるが、天井遺存も確認されている(写真図版18-4)。SK655(第60図)も空洞部分が確認された例(写真図版16-7)である。このSK655は入り口竪坑部分が円筒形状でこの底面と主体部側との間には段差がある。

覆土の堆積で、入り口部からの土の流入と天井崩落を示す例が幾つかある(第62図SK873、第65図SK1001、第76図SK1485、第78図SK1938、第81図SK3543)。一方、底面上にローム・今市パミス層が一定の厚さで比較的そのまま天井が落ちたような崩落状態を示す例もある(SK1097,1098)。SK1093のように、厚いロームがそのまま落ちたような状況の例(写真図版22-3、第69図セクション1層部分)、ほぼロームで充填されているかのような例(写真図版12-3、SK240)も確認される。また逆にローム土が少ない例もある(写真図版27-1、SK1483、SK1794写真図版28-5等)。

他の形態的特徴として、ピットを有するものがある(SK212, SK1484)。SK1938(第78図)は6基のピットがあり、断面で示されているピットについては10cm程度と浅い。この他にも底面や壁面?上端近くでピット状の掘り込み、浅い落ち込み等を確認できる例もあるが、深さ等不明なものも多く検討には至らない。地下式坑遺構図中に図示した中にも地下式坑に伴わないピットがあるかもしれない。

第68図SK1070-SK1451は、入り口部の掘り込みとは独立的な横穴部分を経由しての別部屋部分(SK1451)を確認することができた例である(写真図版26-1)。比較的狭い横穴状開口部で連絡されているということもでき、この連絡部分が両者の底面より高い位置にある。

SK203(第50図)はコーナー部分が若干下がる例。SK1473(第75図)も北西コーナー4分の1程が若干下がっている。

不整形のSK1469は壁が大きくオーバーハングして上端形態の2倍近くの底面がある。SK1460は底面の一短辺側の一定幅部分が一段下がる。覆土・土層断面記録からは、別遺構の重複とは考えにくく、伴う部分

と考えられる。第85図のSK3578、第86図SK3645は長方形土坑との重複が顕著である。SK3578では地下式坑→ピット・長方形土坑の関係が示される（ピットが比較的深いことも注意）。

遺物の出土事例

地下式坑よりの出土遺物は、他の遺構と比較すると比較的多いが、図示し得た遺物は必ずしも多くはない。種別では内耳土器、かわらけ、砥石が目立ち、砥石や古銭、鉄製品等の例がある。

注目される事例としてSK1485（第76図、不整楕円形、SD02区画内南東入り口近く）の底面近くからかわらけの一括集中的に出土した例が挙げられる（写真図版27-4,5）。この他にもかわらけが数点まとまって出土している土坑としてSK370,389,428,724,870,871,1279,1460,1473等がある。SK428（第57図）では他にも陶磁器やすり鉢、火鉢が出土している（第437図）。SK724（第62図）では石製鉢が出土、SK1190（第72図）では数点のかわらけと内耳土器とが出土している（第439図）。SK1460（第74図）では数点のかわらけと共に陶磁器70が出土している。但し、この陶磁器青磁破片は13～14世紀代と推定されるもので、かわらけの時期とは齟齬がある。SK1412（第74図）は甕とかかわらけとが共に出土している例。SK870,871（第63図、写真図版18-3、SD02区画南東端近く）はかわらけが数点まとまって出土している例だが、写真で示したように、遺物は覆土上位での出土が主体であり、遺物の一括性や遺構の時期判断の上では検討が必要となろう。SK218（第51図、SD02区画南西）は内耳土器がややまとまって出土している土坑で、かわらけや陶磁器も出土している。但し陶磁器は17世紀後半と推定され、これも共伴と言えるかは判断が難しい。SK235（第51図、SD02区画内中央長方形土坑集中域西側隣接部分）も同様で、内耳土器とかかわらけ、陶磁器の出土がある（写真図版11-8、第437図）。SK609（第58図）は浅めの内耳土器と小さめでロクロ目を残すようなかわらけが出土している。SK868（第63図）は絹銭（第417図、開元通宝、永楽通宝、洪武通宝）と内耳土器、かわらけ（第346図321）が出土している。このSK868については写真で出土状況を示しているように、覆土上位でややまとまって遺物が出土した（写真図版17-7,8）。絹銭は他の遺物とはやや離れた位置から横位状態で出土した。地下式坑自体の位置はSD02区画の南東で、地下式坑・ピット等がやや集中する区域の東端に位置している。

SK1097（第69図、SD27区画内南東、SD12南端のすぐ南東に位置）は内耳土器、五輪塔、砥石、かわらけ（図示6点）等と共に人骨が出土している（写真図版22-7）。注目される事例だが、覆土上位での出土のようである。SK686（第60図）は砥石が4点まとまって出土した例である。

以下遺物の種別毎に少し補足する。陶磁器では第335図に示したものの内、遺物番号59,60,63,65,66,68～74,76が地下式坑出土である。明らかに古いものや近世の例があり、遺構共伴遺物として良いかは検討が必要である。かわらけ（第344～356図）では複数出土している例も比較的あり（SK178,370,389等）、それらでは、形態・つくりが類似しているものも見られる（SK370,877,1460等）。一方で、複数点出土しているながら、形態や作り等の点でややバラエティを示している例もある（SK87,1190等）。内耳土器の出土も比較的目立ち、ある程度の遺存状態を示しているものも多い（SK235,641,868,1124等）。甕では719がSK1412地下式坑出土である。すり鉢733,734、火鉢の756,759、香炉722が地下式坑出土である。個別に示さないが砥石の出土事例も多い。五輪塔は以上までの遺物とは異なり、地下式坑出土例はかなり限定される。第410図の1559がSK3681,1560がSK1097,1558がSK870の出土である。溝や井戸出土に比べて圧倒的に五輪塔出土事例が少ないことは注意される。古銭は先のSK868出土例等一定量の出土が確認されているが、他の土坑や溝出土事例も比較的多く、地下式坑との相関関係は不明である。鉄製品ではSK1956底面から1782の鍬先が出土している（写真図版29-3,4）。

第3表 地下式坑一覧表

遺構番号	遺構種類	グリッド	長軸	短軸	深さ	出土遺物	全体図での位置	図番号
SK-06	地下式坑	カ9F9	3.46	2.98	1.30	内耳土器 かわらけ	1/100 D-③	47
SK-07	地下式坑	カ9F8	3.58	2.32	1.25	内耳土器 かわらけ 砥石 鉄製品 磨石	1/100 D-③	47
SK-11	地下式坑	カ9F9	2.34	1.84	1.47		1/100 D-③	48・90
SK-20	地下式坑	キ6G1	2.98	2.04	1.30	内耳土器 かわらけ	1/100 G-①	47
SK-23	地下式坑	キ6G2	3.16	2.38	0.96	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石	1/100 G-②	47
SK-24	地下式坑	キ5G1	2.30	2.14	0.46		1/100 G-①	47
SK-25	地下式坑	キ6G4	2.82	2.04	0.60		1/100 G-②	47
SK-27	地下式坑	キ6G1	3.05	2.38	1.30	内耳土器	1/100 G-①	49
SK-80	地下式坑	カ9G5	2.12	1.75	1.31	内耳土器 かわらけ	1/100 F-②	49
SK-97	地下式坑	カ9G4	2.24	1.92	1.43	内耳土器 かわらけ 石製鉢	1/100 F-②	49
SK-105	地下式坑	カ7G4	(3.09)	2.40	1.42	内耳土器 かわらけ 石臼 石製鉢	1/100 E	50
SK-138	地下式坑	キ5G1	3.12	2.52	1.27	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 G-①	49
SK-155	地下式坑	キ2G6	2.88	2.64	1.34	内耳土器 かわらけ 鉄滓	1/100 F-⑤	49
SK-178	地下式坑	カ9G4	2.24	1.98	1.48	内耳土器 かわらけ 陶磁器 石臼 茶臼	1/100 F-②	51
SK-179	地下式坑	キ0G4	(2.02)	(1.30)	1.52	内耳土器	1/100 F-②	51
SK-201	地下式坑	カ9G5	2.36	2.18	1.29	内耳土器 かわらけ 砥石 石臼	1/100 F-②	49
SK-203	地下式坑	カ9G5	2.00	1.74	1.27	内耳土器 かわらけ 石臼	1/100 F-②	50
SK-205	地下式坑	カ9G6	2.89	1.94	0.92	内耳土器	1/100 F-③	50
SK-211	地下式坑	カ8G5	3.74	2.97	1.03		1/100 F-②	50
SK-212	地下式坑	カ8G5	3.74	2.56	1.36	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 F-②	50
SK-214	地下式坑	カ7G4	2.10	(1.40)	1.34	内耳土器 かわらけ 土製品 砥石 鉄滓	1/100 E	50
SK-218	地下式坑	カ7G6	4.76	2.58	2.00	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石 鉄滓 石臼	1/100 E	51
SK-221	地下式坑	カ7G5	2.57	1.80	0.12	内耳土器 かわらけ	1/100 E	53
SK-235	地下式坑	キ0G3	3.02	2.00	1.65	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石 鉄滓 磨石	1/100 F-②	51
SK-238	地下式坑	キ4G2	4.12	3.60	2.60	内耳土器 かわらけ 鉄釘 鉄滓 石棒	1/100 G-②	52・94
SK-240	地下式坑	キ4G3	4.48	2.64	1.06	内耳土器 かわらけ 陶磁器 鉄滓 石臼	1/100 G-②	52・94
SK-242	地下式坑	キ6G2	2.32	1.98	1.08	内耳土器 かわらけ 石臼	1/100 G-②	53
SK-246	地下式坑	キ6G3	2.32	(1.93)	1.43		1/100 G-②	53・92
SK-263	地下式坑	キ0G0	2.62	2.45	1.12		1/100 F-①	53
SK-264	地下式坑	キ0G0	2.89	2.24	2.07		1/100 F-①	54・91
SK-265	地下式坑	キ0G0	2.20	1.97	1.43	内耳土器 かわらけ	1/100 F-①	54
SK-277	地下式坑	キ1G1	2.64	1.82	1.09	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 F-④	54・96
SK-313	地下式坑	キ1G1	2.45	2.02	0.89	内耳土器 かわらけ	1/100 F-④	53
SK-338	地下式坑	キ0G1	2.20	2.18	0.72	内耳土器 かわらけ	1/100 F-①	54
SK-339	地下式坑	キ0G1	3.60	2.63	1.35	内耳土器 かわらけ	1/100 F-①	54
SK-368	地下式坑	キ4G2	2.74	(2.48)	1.04	内耳土器 かわらけ	1/100 F-④	55
SK-369	地下式坑	カ9G8	2.06	1.68	1.36		1/500 2-②	55
SK-370	地下式坑	カ9G7	2.38	1.92	1.02	内耳土器 かわらけ	1/100 F-③	55
SK-389	地下式坑	キ4G0	2.50	1.90	1.01	内耳土器 かわらけ 石臼 鉄釘	1/100 G-①	55
SK-391	地下式坑	キ6G3	4.60	2.28	1.95	内耳土器 かわらけ 砥石 石臼	1/100 G-②	56
SK-392	地下式坑	キ6G3	3.04	3.00	1.14	内耳土器 かわらけ 石臼	1/100 G-②	56
SK-393	地下式坑	キ3G6	(1.25)	(0.81)	1.15		1/100 F-⑤	55・93
SK-428	地下式坑	キ1G2	3.38	2.82	1.08	内耳土器 かわらけ 陶磁器 鉢 すり鉢 火鉢 砥石 石臼 石塔 鉄製品 鉄滓	1/100 F-④	57・95
SK-430	地下式坑	キ1G2	2.20	1.66	1.30	内耳土器 かわらけ 古銭 砥石	1/100 F-④	55
SK-433	地下式坑	キ1G2	3.90	2.20	1.09	内耳土器	1/100 F-④	57
SK-489	地下式坑	キ2G5	3.65	2.32	1.29	内耳土器 かわらけ	1/100 F-⑤	58
SK-490	地下式坑	カ9G4	3.11	2.09	1.30	内耳土器	1/100 F-②	56

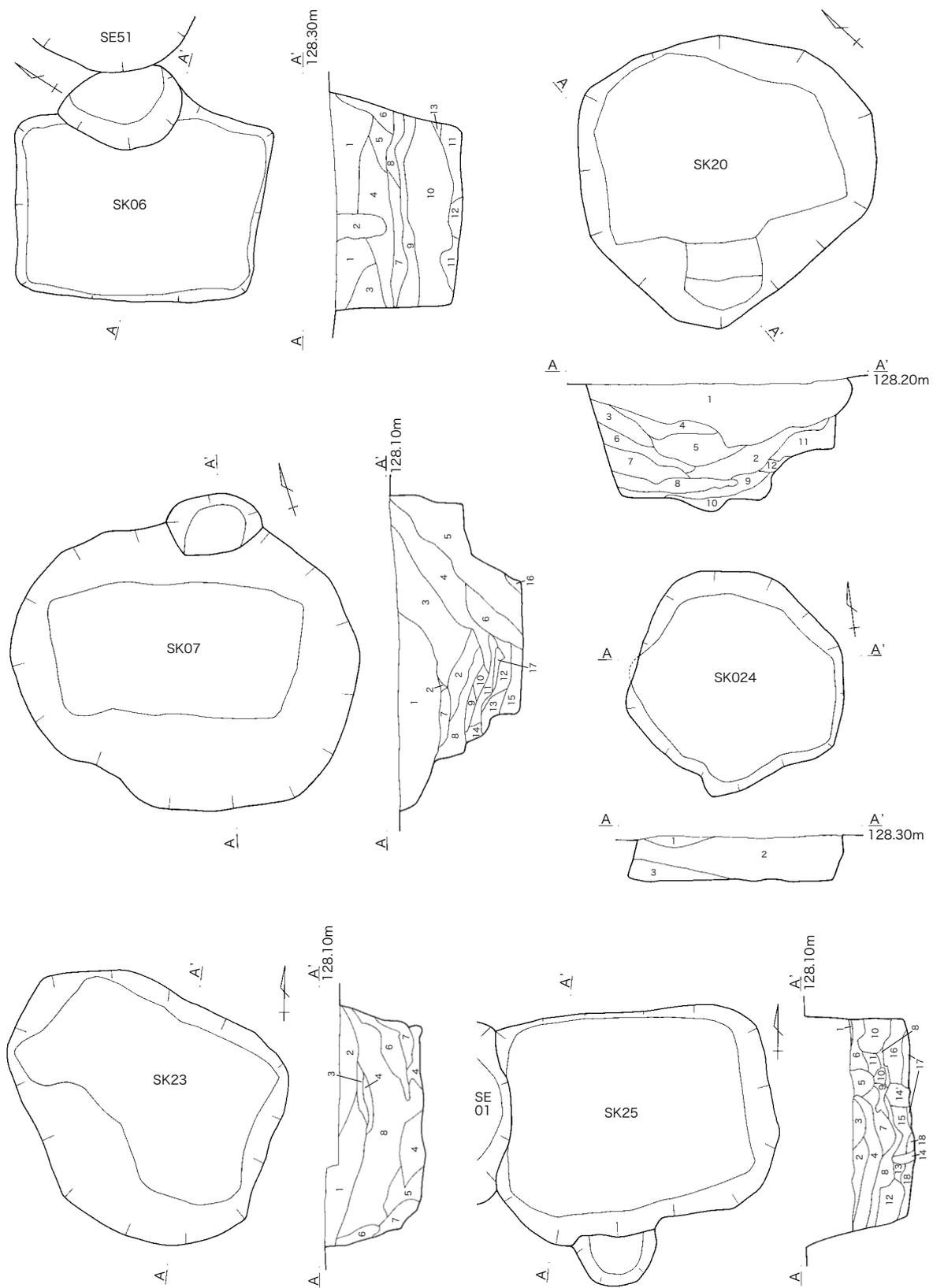
第3章 確認された遺構

SK-491	地下式坑	カ9G1	2.50	2.06	1.32	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 F-(A)	56
SK-500	地下式坑	キ2G1	3.60	1.94	0.95	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石 鉄滓 古銭 茶臼	1/100 F-(D)	59
SK-501	地下式坑	キ2G1	(1.52)	(1.23)	1.43		1/100 F-(D)	59
SK-520	地下式坑	カ9G4	2.46	(1.87)	0.31		1/100 F-(B)	56
SK-561	地下式坑	キ0G4	(2.53)	(1.90)	1.25		1/100 F-(B)	51
SK-568	地下式坑	カ9G5	2.90	2.14	1.12	内耳土器 かわらけ 砥石 鉄 製品 鉄滓 古銭	1/100 F-(B)	58
SK-573	地下式坑	キ4G3	3.22	2.32	1.28		1/100 F-(E) 1/100 G-(B)	60
SK-599	地下式坑	キ0G2	2.46	2.06	0.77		1/100 F-(A)	58
SK-604	地下式坑	キ0G3	2.17	2.02	0.20		1/100 F-(B)	58
SK-609	地下式坑	キ0G1	2.66	2.12	1.46	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 F-(A)	58
SK-610	地下式坑	カ9G0	2.70	2.16	1.50		1/100 F-(A)	60
SK-639	地下式坑	カ8G4	2.12	2.08	0.97	鉄滓	1/100 F-(B)	59
SK-640	地下式坑	カ7G4	2.38	2.17	0.79	かわらけ	1/100 E	60
SK-641	地下式坑	カ8G2	2.38	2.20	1.15	内耳土器 かわらけ	1/100 F-(A)	59
SK-645	地下式坑	キ1G2	2.88	1.93	1.81	内耳土器 かわらけ	1/100 F-(D)	57・95
SK-646	地下式坑	カ8G3	3.74	2.28	1.05		1/100 F-(B)	60
SK-647	地下式坑	カ8G3	2.95	2.38	0.99		1/100 E 1/100 F-(B)	61
SK-648	地下式坑	カ7G3	3.00	2.43	1.18		1/100 E 1/100 F-(B)	61
SK-654	地下式坑	キ0G6	2.08	1.96	1.01	内耳土器 かわらけ	1/100 F-(C)	61
SK-655	地下式坑	キ0G6	2.20	1.78	0.48		1/100 F-(C)	60
SK-658	地下式坑	カ9G2	2.47	1.89	1.51	内耳土器 かわらけ 石製鉢	1/100 F-(A)	61
SK-686	地下式坑	キ3G5	2.95	2.40	0.30	内耳土器 かわらけ 砥石 鉄 製品	1/100 F-(E) 1/1001/100 G-(C)	60
SK-688	地下式坑	キ3G2	2.72	2.14	2.82	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 F-(D)	62
SK-724	地下式坑	キ3G8	3.42	2.26	1.10	内耳土器 かわらけ 砥石 石 製鉢	1/100 F-(F) 1/500 2-(B)	62・99
SK-818	地下式坑	カ9G0	2.76	2.02	1.57		1/100 F-(A)	64
SK-820	地下式坑	カ9G0	2.65	2.07	1.15		1/100 F-(A)	63
SK-821	地下式坑	カ9G0	2.96	1.97	1.46		1/100 F-(A)	63
SK-822	地下式坑	カ9G0	2.58	1.94	1.10	内耳土器	1/100 F-(A)	61
SK-851	地下式坑	キ3G7	3.00	2.26	1.30	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 F-(F)	61
SK-868	地下式坑	キ4G8	3.51	3.05	1.07	内耳土器 かわらけ 砥石 古 銭	1/100 G-(C)	63
SK-869	地下式坑	キ4G7	3.43	2.58	1.58		1/100 G-(C)	64
SK-870	地下式坑	キ4G8	3.45	2.51	0.74	内耳土器 かわらけ 砥石 石 製鉢	1/100 G-(C)	63
SK-871	地下式坑	キ3G8	2.80	2.45	0.78	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石	1/500 2-(B)	63
SK-873	地下式坑	キ3G7	2.17	1.86	0.82	内耳土器 かわらけ 石臼	1/100 F-(F)	62
SK-877	地下式坑	キ3G1	2.77	2.64	1.01	内耳土器 かわらけ	1/100 F-(D)	62
SK-880	地下式坑	キ3G1	3.84	3.30	1.11	内耳土器 かわらけ 砥石 古 銭	1/100 F-(D)	62
SK-881	地下式坑	キ3G1	2.31	2.24	1.06	内耳土器 かわらけ 鉄釘	1/100 F-(D)	64
SK-885	地下式坑	キ4G3	2.92	2.31	1.96		1/100 G-(B)	94
SK-890	地下式坑	キ3G1	2.04	2.00	1.30	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石 鉄滓	1/100 F-(D)	62
SK-938	地下式坑	カ8G6	3.12	(2.00)	0.96	内耳土器	1/100 F-(C)	64
SK-1001	地下式坑	カ9F7	3.90	2.48	1.58	内耳土器 かわらけ 古銭 砥 石	1/100 D-(C)	65
SK-1002	地下式坑	カ9F7	2.95	2.90	1.06	内耳土器 かわらけ 砥石 鉄 滓	1/100 D-(B)	65
SK-1004	地下式坑	キ0F8	3.00	2.70	1.57	内耳土器 かわらけ すり鉢 土器 砥石 鉄滓	1/100 D-(C)	66
SK-1006	地下式坑	キ1F6	(3.26)	2.30	1.40	内耳土器 かわらけ 陶磁器 石皿	1/100 D-(B)	65
SK-1007	地下式坑	キ0F7	3.04	2.52	1.34	内耳土器 かわらけ 土器 鉄 製品 青銅品	1/100 D-(C)	66
SK-1008	地下式坑	キ1F6	2.74	2.26	0.96	内耳土器 かわらけ	1/100 D-(B)	65
SK-1022	地下式坑	キ1F6	2.98	2.53	1.21	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 D-(B)	67

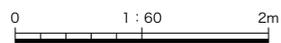
SK-1023	地下式坑	キ0F6	2.16	1.73	1.18	内耳土器 かわらけ 砥石 石臼	1/100 D-③	65
SK-1058	地下式坑	キ0F6	2.22	2.00	1.33	内耳土器 かわらけ	1/100 D-③	66
SK-1062	地下式坑	カ8G0	1.84	1.28	1.34	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 F-①	68
SK-1063	地下式坑	カ8G0	2.54	2.30	1.16	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 F-①	68
SK-1066	地下式坑	カ8G0	2.17	2.16	1.21	内耳土器	1/100 F-①	66
SK-1067	地下式坑	カ8G0	(2.11)	2.06	1.32	内耳土器	1/100 F-①	66
SK-1068	地下式坑	カ8G1	2.47	2.12	0.98		1/100 F-①	66
SK-1069	地下式坑	カ8G1	3.37	2.02	1.50		1/100 F-①	67
SK-1070	地下式坑	キ0F8	3.16	2.46	1.62	内耳土器 かわらけ すり鉢	1/100 D-③	68・181
SK-1074	地下式坑	カ9F8	3.38	2.59	—	内耳土器 砥石	1/100 D-③	67
SK-1075	地下式坑	カ9F8	(1.88)	2.08	—	内耳土器	1/100 D-③	67
SK-1076	地下式坑	カ9F8	3.78	2.32	—	内耳土器	1/100 D-③	67
SK-1078	地下式坑	カ9F8	2.93	2.32	2.08		1/100 D-③	90
SK-1079	地下式坑	カ9F8	3.03	(2.08)	1.43	内耳土器 かわらけ	1/100 D-③	90
SK-1080	地下式坑	カ9G0	1.92	1.74	1.43	内耳土器 かわらけ	1/1001/100 D-③ 1/100 F-①	69
SK-1083	地下式坑	カ7G3	2.62	2.35	1.15	内耳土器 かわらけ 古銭	1/100 E	69
SK-1084	地下式坑	カ7G3	3.32	2.84	1.27	内耳土器 かわらけ すり鉢	1/100 E	69
SK-1093	地下式坑	カ7G1	2.95	2.64	1.52	内耳土器 かわらけ	1/100 E	69
SK-1095	地下式坑	カ7G1	3.09	2.14	1.43	内耳土器 かわらけ 砥石 鉄製品 五輪塔	1/100 E	70
SK-1096	地下式坑	カ7G2	3.26	2.57	1.36	内耳土器 かわらけ 香炉 砥石 石製鉢	1/100 E	69
SK-1097	地下式坑	カ9F9	2.56	2.32	1.69	内耳土器 かわらけ (有孔) 砥石 五輪塔 石臼 人骨	1/100 D-③	69
SK-1098	地下式坑	カ9F9	2.69	2.35	1.54	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 D-③	70
SK-1111	地下式坑	キ1F7	2.16	1.84	1.34	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 D-③	70
SK-1124	地下式坑	キ0F7	2.32	2.30	1.60	内耳土器 かわらけ 陶磁器 硯 砥石	1/100 D-③	70
SK-1132	地下式坑	カ9F9	1.73	1.00	1.76		1/100 D-③	70
SK-1133	地下式坑	カ9F9	1.44	1.10	1.51		1/100 D-③	71
SK-1169	地下式坑	カ5G3	2.12	1.66	1.01	内耳土器 かわらけ すり鉢	1/100 E	71
SK-1176	地下式坑	カ7G3	2.01	1.87	1.23		1/100 E	71
SK-1190	地下式坑	カ8F7	2.68	2.21	1.30	内耳土器 かわらけ すり鉢 砥石 古銭	1/100 D-③	72
SK-1194	地下式坑	カ7F7	2.32	1.72	1.16	内耳土器 かわらけ すり鉢 鉄製品 打製石斧	1/100 D-①	71
SK-1255	地下式坑	キ1F6	2.52	1.80	1.20	内耳土器	1/100 D-③	71
SK-1269	地下式坑	キ1F6	2.93	2.44	1.12	内耳土器	1/100 D-③	72
SK-1272	地下式坑	キ0F6	2.61	1.70	1.10	かわらけ	1/100 D-③	72
SK-1277	地下式坑	キ0F6	2.30	1.46	1.10	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 D-③	71
SK-1279	地下式坑	カ9F6	2.78	2.00	1.00	内耳土器 かわらけ 砥石 鉄釘	1/100 D-③	72
SK-1284	地下式坑	カ7G5	2.20	1.60	—	内耳土器	1/100 E 1/100 F-③	101
SK-1289	地下式坑	キ0F6	2.02	1.82	1.22	内耳土器 かわらけ	1/100 D-③	72
SK-1325	地下式坑	カ8F7	2.42	2.02	1.26	かわらけ (有孔)	1/100 D-③	73
SK-1345	地下式坑	カ8F6	(2.68)	2.04	1.61	内耳土器 かわらけ 陶磁器 すり鉢 砥石	1/100 D-③	73
SK-1363	地下式坑	カ5F7	2.39	2.02	1.04	内耳土器 かわらけ 陶磁器 土器 (有孔) 砥石	1/100 D-①	73・99
SK-1372	地下式坑	カ5F7	1.92	1.86	1.25		1/100 D-①	73
SK-1411	地下式坑	カ4F7	2.80	2.50	1.24	内耳土器 かわらけ すり鉢 砥石	1/100 C-⑤	73
SK-1412	地下式坑	カ4F8	2.66	1.60	1.91	内耳土器 かわらけ 土器 (大甕) 砥石 磨石	1/100 C-⑤	74
SK-1421	地下式坑	カ9F6	2.17	2.06	1.27		1/100 D-③	80
SK-1424	地下式坑	カ9F7	2.98	1.86	1.41	内耳土器	1/100 D-③	74
SK-1432	地下式坑	カ9G5	3.32	2.42	1.19	内耳土器 かわらけ 鉄滓	1/100 F-③	74
SK-1433	地下式坑	カ9G6	2.30	1.85	0.90	内耳土器 かわらけ	1/100 F-③	102
SK-1437	地下式坑	カ8G8	2.63	2.55	1.19	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/500 2-③	74
SK-1438	地下式坑	カ9G8	2.18	2.14	1.43	内耳土器	1/500 2-③	74
SK-1439	地下式坑	カ7G8	2.37	1.88	1.24		1/500 2-③	75

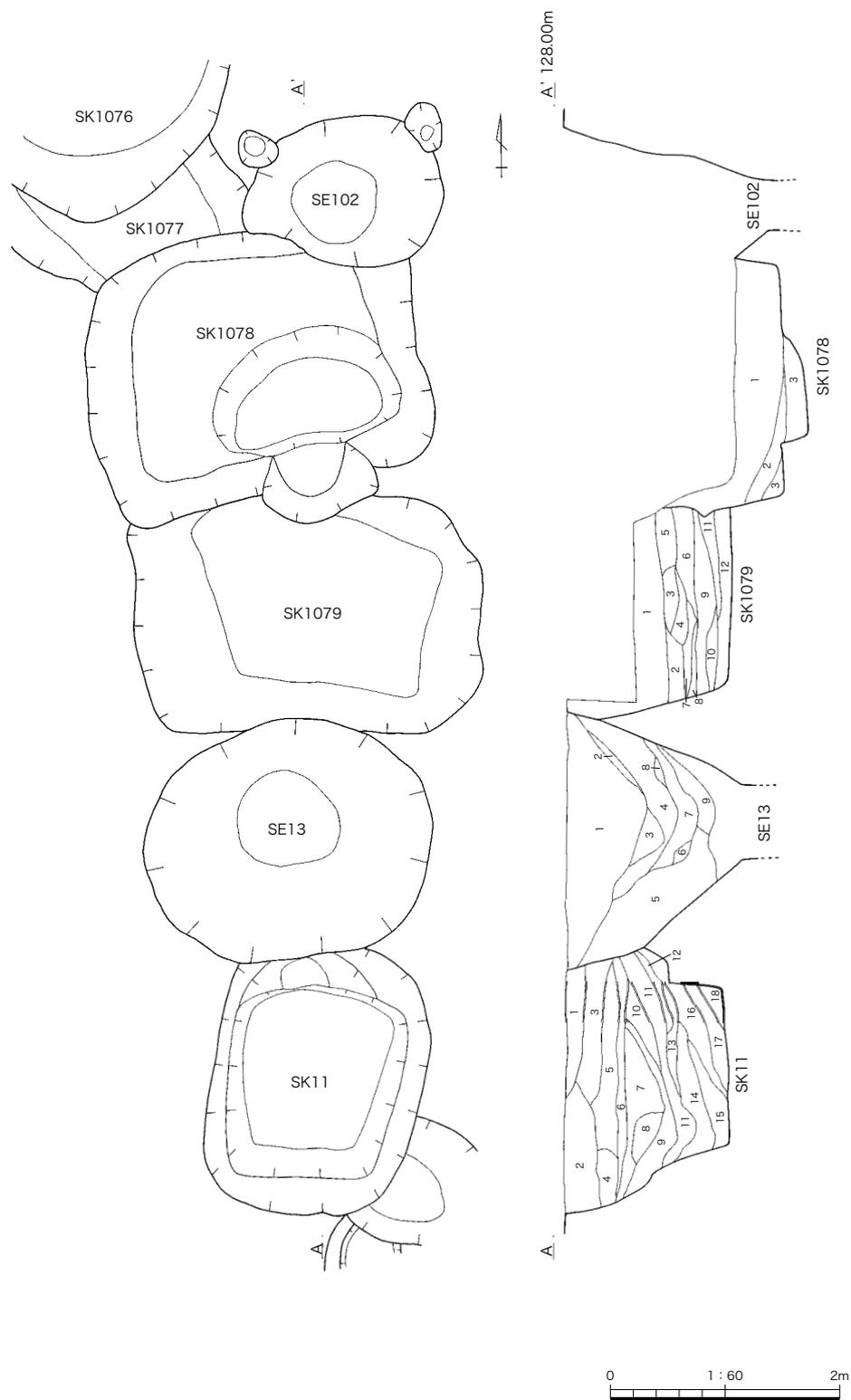
第3章 確認された遺構

SK-1451	地下式坑	カ9F8	1.84	1.67	1.29		1/100 D-©	68
SK-1460	地下式坑	カ4F8	2.87	2.18	1.51	内耳土器 かわらけ (有孔) 陶磁器 砥石 鉄滓	1/100 C-⑥	74
SK-1468	地下式坑	カ5F8	2.17	1.67	1.29	内耳土器	1/100 D-④	75
SK-1469	地下式坑	カ9G7	2.24	2.10	1.34		1/100 F-©	75
SK-1473	地下式坑	カ4F9	2.20	1.85	1.43	かわらけ 鉄製品	1/100 C-⑥ 1/100 D-④	75
SK-1479	地下式坑	キ4G6	2.81	2.51	1.17		1/100 G-©	75
SK-1480	地下式坑	キ5G6	2.42	1.94	1.11	内耳土器	1/100 G-©	75
SK-1483	地下式坑	キ5G6	2.64	2.22	1.03	内耳土器 かわらけ	1/100 G-©	76
SK-1484	地下式坑	キ5G6	2.69	2.42	1.06	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 G-©	76
SK-1485	地下式坑	キ5G6	3.03	2.07	1.12	内耳土器 かわらけ すり鉢	1/100 G-©	76
SK-1486	地下式坑	キ5G7	2.44	2.25	1.40	内耳土器 砥石	1/100 G-©	76
SK-1491	地下式坑	キ6G4	2.06	1.50	1.32		1/100 G-⑥	76
SK-1498	地下式坑	キ3G0	2.06	2.03	0.75	内耳土器 かわらけ	1/100 F-④ 1/100 G-④	76
SK-1515	地下式坑	カ8F9	(2.44)	(1.27)	1.58	内耳土器	1/100 D-©	70
SK-1519	地下式坑	キ1F6	2.84	2.20	1.11	内耳土器 土器 砥石 石臼	1/100 D-⑥	77
SK-1520	地下式坑	カ9F8	(2.25)	2.15	1.31		1/100 D-©	77
SK-1638	地下式坑	カ9F6	(2.60)	2.50	1.44	内耳土器	1/100 D-⑥	73
SK-1644	地下式坑	カ9F5	2.65	2.06	1.38	内耳土器 石臼	1/100 D-⑥	77
SK-1758	地下式坑	カ3F3	2.27	2.19	2.94	内耳土器 かわらけ 砥石 石臼	1/100 C-④	77
SK-1794	地下式坑	カ8F9	1.88	1.66	1.26	内耳土器 かわらけ 石製鉢	1/100 D-©	77
SK-1929	地下式坑	キ1G9	2.58	1.94	1.03	内耳土器 土器	1/500 2-⑥	78
SK-1938	地下式坑	キ2G8	2.59	(1.84)	0.98	内耳土器 かわらけ 陶磁器 石臼	1/500 2-⑥	78
SK-1941	地下式坑	キ2G8	2.12	1.97	0.91	かわらけ	1/500 2-⑥	78
SK-1956	地下式坑	キ2G9	2.92	2.62	1.20	内耳土器 かわらけ 陶磁器 鉄製品	1/500 2-⑥	78
SK-1957	地下式坑	キ3G9	2.71	2.15	1.07	内耳土器	1/500 2-⑥	78
SK-1958	地下式坑	キ3G8	3.31	2.06	0.97	陶磁器 土器 砥石	1/500 2-⑥	79
SK-1960	地下式坑	キ2G9	2.46	1.96	0.95	内耳土器 かわらけ	1/500 2-⑥	79
SK-1963	地下式坑	キ3G9	2.02	1.35	1.11		1/500 2-⑥	79
SK-1965	地下式坑	キ2G9	2.63	2.14	1.09	内耳土器 かわらけ	1/500 2-⑥	79
SK-1966	地下式坑	キ2G9	2.30	1.87	1.11		1/500 2-⑥	80
SK-1967	地下式坑	キ2G9	2.45	1.94	1.15	内耳土器 かわらけ	1/500 2-⑥	79・109
SK-1968	地下式坑	キ1H0	(1.38)	1.82	0.85	かわらけ	1/500 2-⑥	80
SK-1969	地下式坑	キ1H0	2.72	1.63	1.05	内耳土器	1/500 2-⑥	80
SK-1973	地下式坑	キ3G8	1.90	1.46	1.09	内耳土器 かわらけ	1/500 2-⑥	80
SK-1974	地下式坑	キ3G8	2.40	2.10	1.02	内耳土器 かわらけ	1/500 2-⑥	80
SK-3142	地下式坑	カ0F3	2.27	1.74	0.96	かわらけ	1/100 C-④	80
SK-3162	地下式坑	カ1F1	1.87	(1.20)	1.55		1/100 C-④	81・104
SK-3543	地下式坑	カ9F7	3.64	3.32	1.77	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 D-⑥	81
SK-3544	地下式坑	カ8F7	1.22	0.83	1.55		1/100 D-⑥	81・99
SK-3548	地下式坑	カ9F6	2.46	2.44	1.35	内耳土器	1/100 D-⑥	81
SK-3550	地下式坑	キ0F6	3.50	3.30	1.21	内耳土器 かわらけ 砥石 石臼	1/100 D-⑥	82
SK-3555	地下式坑	カ9F5	3.00	1.98	0.78	内耳土器 かわらけ 陶磁器 火鉢 砥石	1/100 D-⑥	83
SK-3556	地下式坑	カ9F5	2.33	2.10	1.04	内耳土器 かわらけ 石臼	1/100 B-⑥ 1/100 D-⑥	83・107
SK-3557	地下式坑	カ9F5	1.40	0.81	0.89	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 D-⑥	84
SK-3558	地下式坑	カ9F4	(3.46)	2.50	1.03	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 B-⑥	83・107
SK-3578	地下式坑	カ9F4	2.60	(2.10)	0.96	内耳土器 かわらけ 砥石 石臼	1/100 B-⑥	85
SK-3589	地下式坑	カ9F3	(3.24)	(2.90)	1.18	内耳土器 かわらけ	1/100 B-⑥	82
SK-3645	地下式坑	キ1F1	(3.57)	2.48	1.76	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 B-④	86
SK-3647	地下式坑	キ2F1	2.28	1.88	1.25		1/100 B-④	85
SK-3650	地下式坑	キ1F1	2.52	2.77	1.07		1/100 B-④	86
SK-3681	地下式坑	カ9F1	3.31	3.30	1.78	内耳土器 かわらけ 砥石 五輪塔	1/100 B-④	87
SK-3682	地下式坑	カ9F1	2.64	(1.50)	1.36		1/100 B-④	87
SK-3686	地下式坑	カ6F1	3.84	3.06	1.90	内耳土器 かわらけ	1/100 B-④	87
SK-3735	地下式坑	カ9F3	—	1.24	1.24		1/100 B-⑥	82

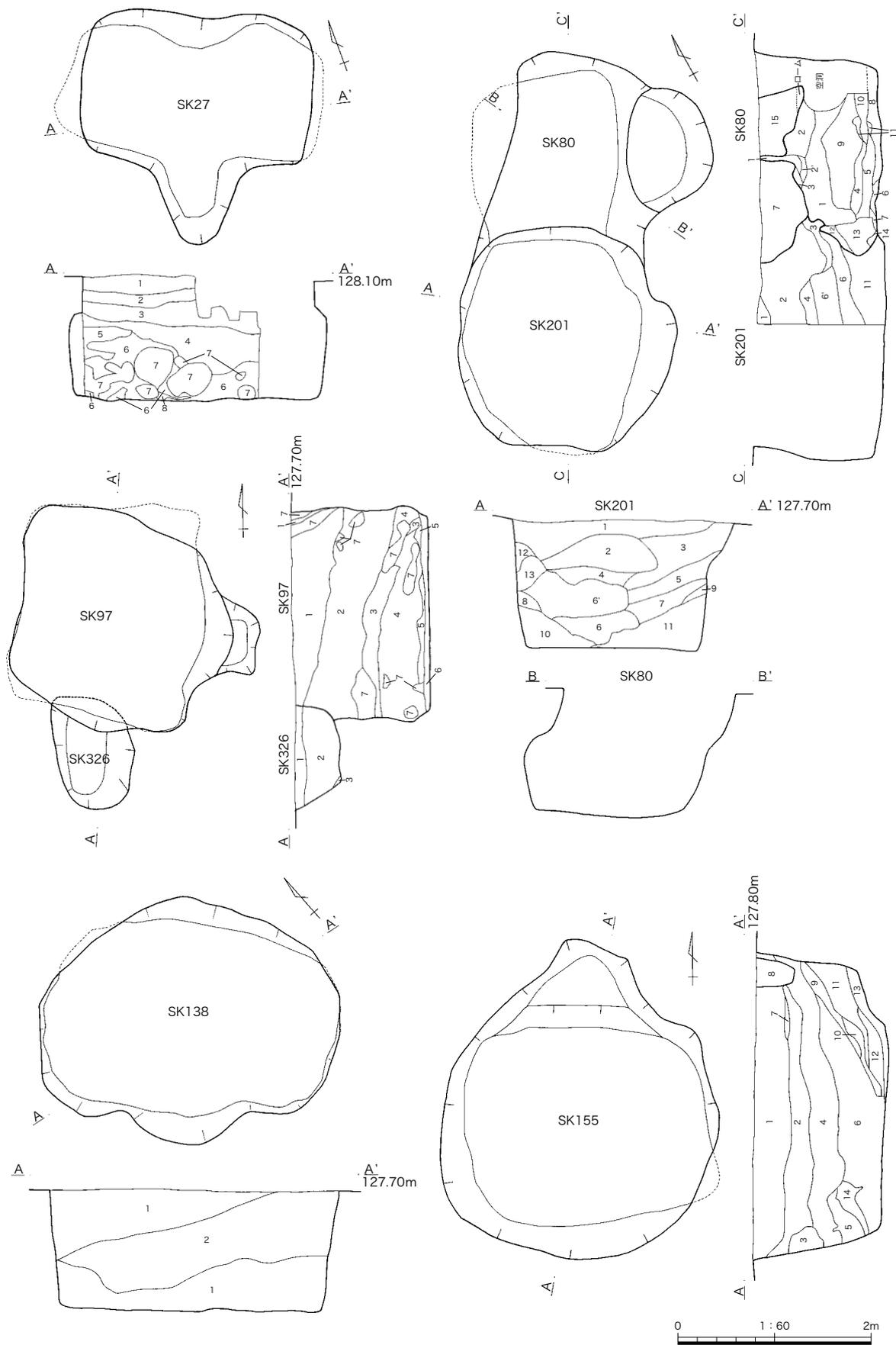


第47図 地下式坑 (1) SK06・07・20・23・24・25

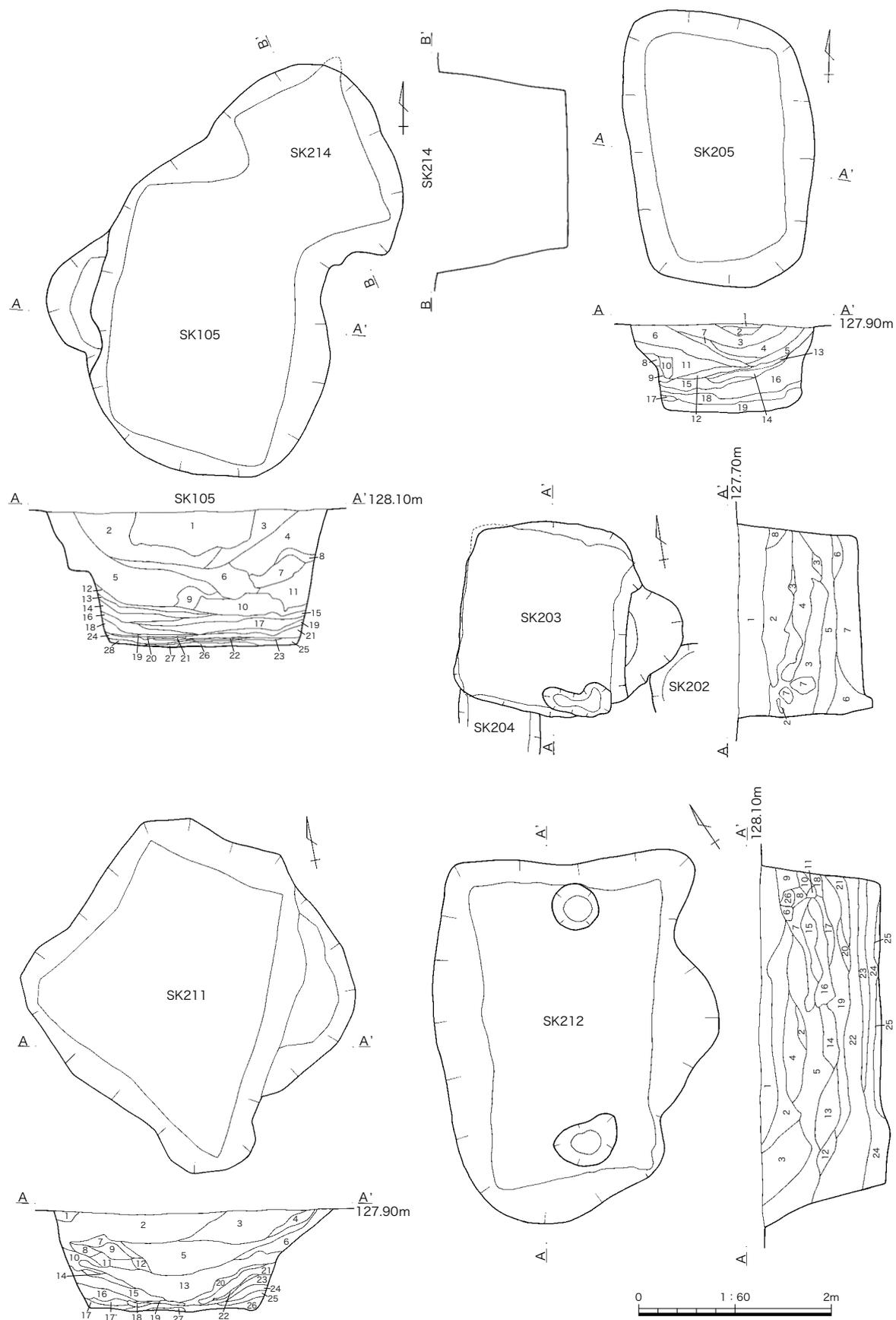




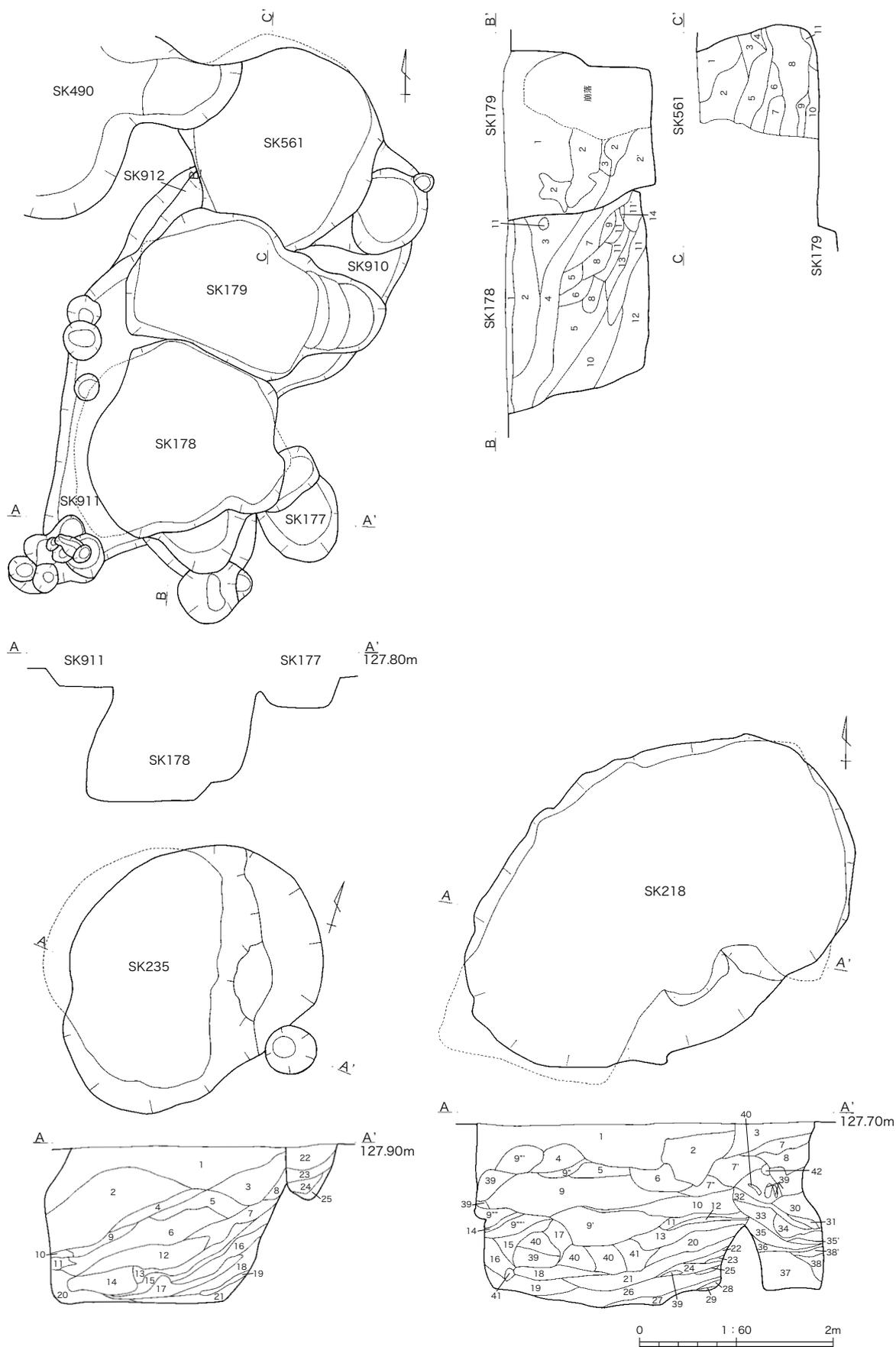
第48図 地下式坑 (2) SK11・1078・1079



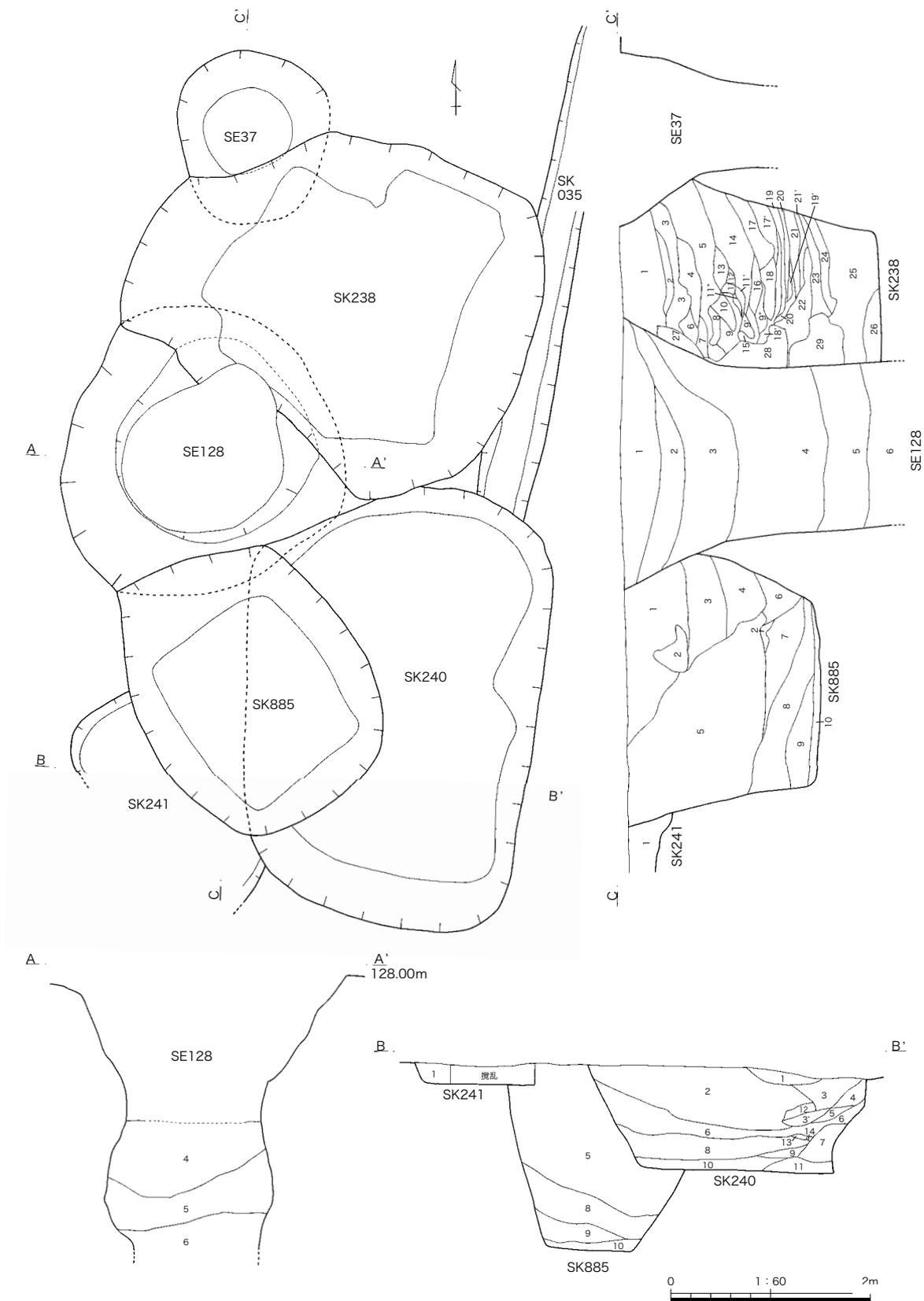
第49図 地下式坑 (3) SK27・80・97・138・155・201



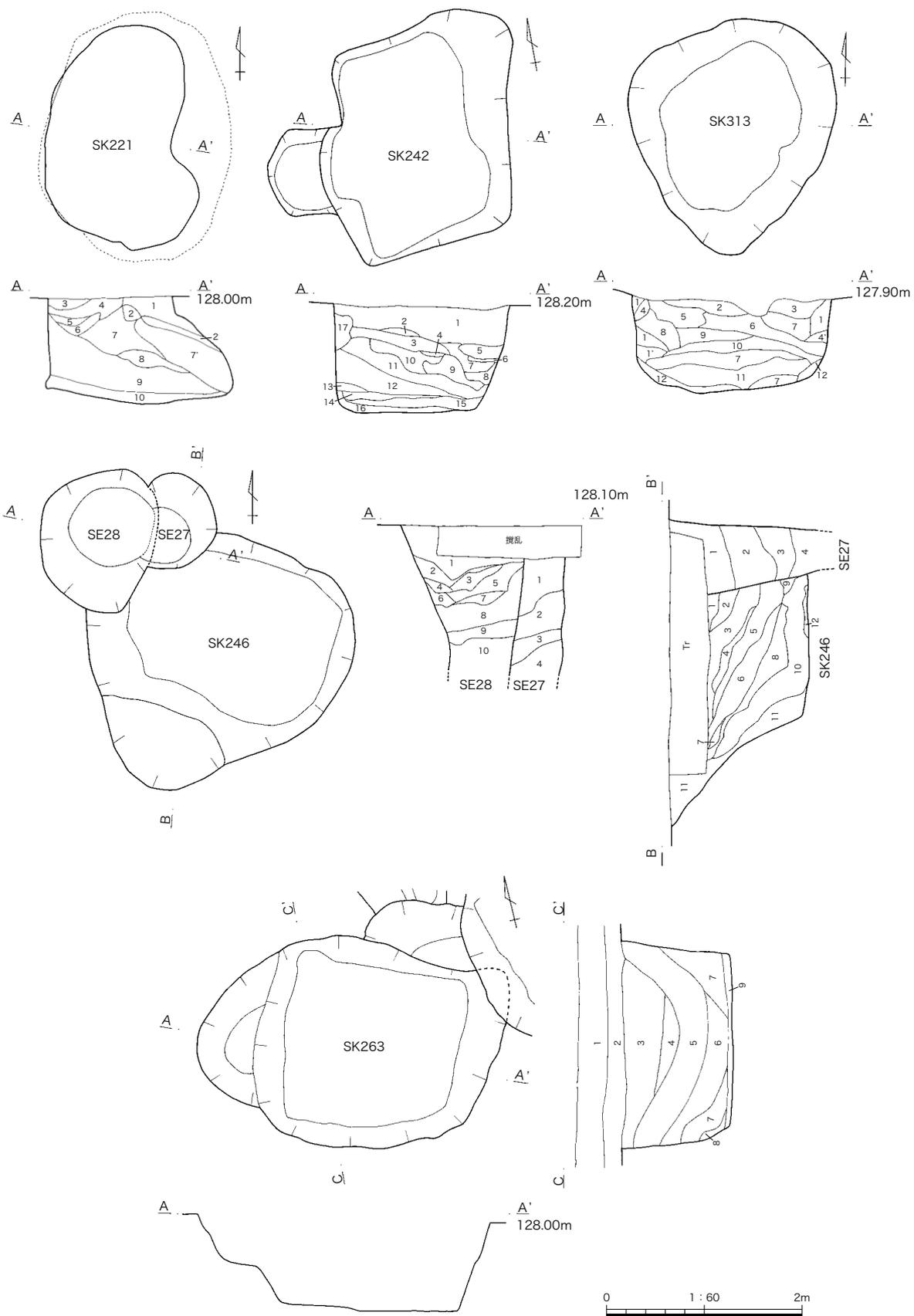
第50図 地下式坑(4) SK105・203・205・211・212・214



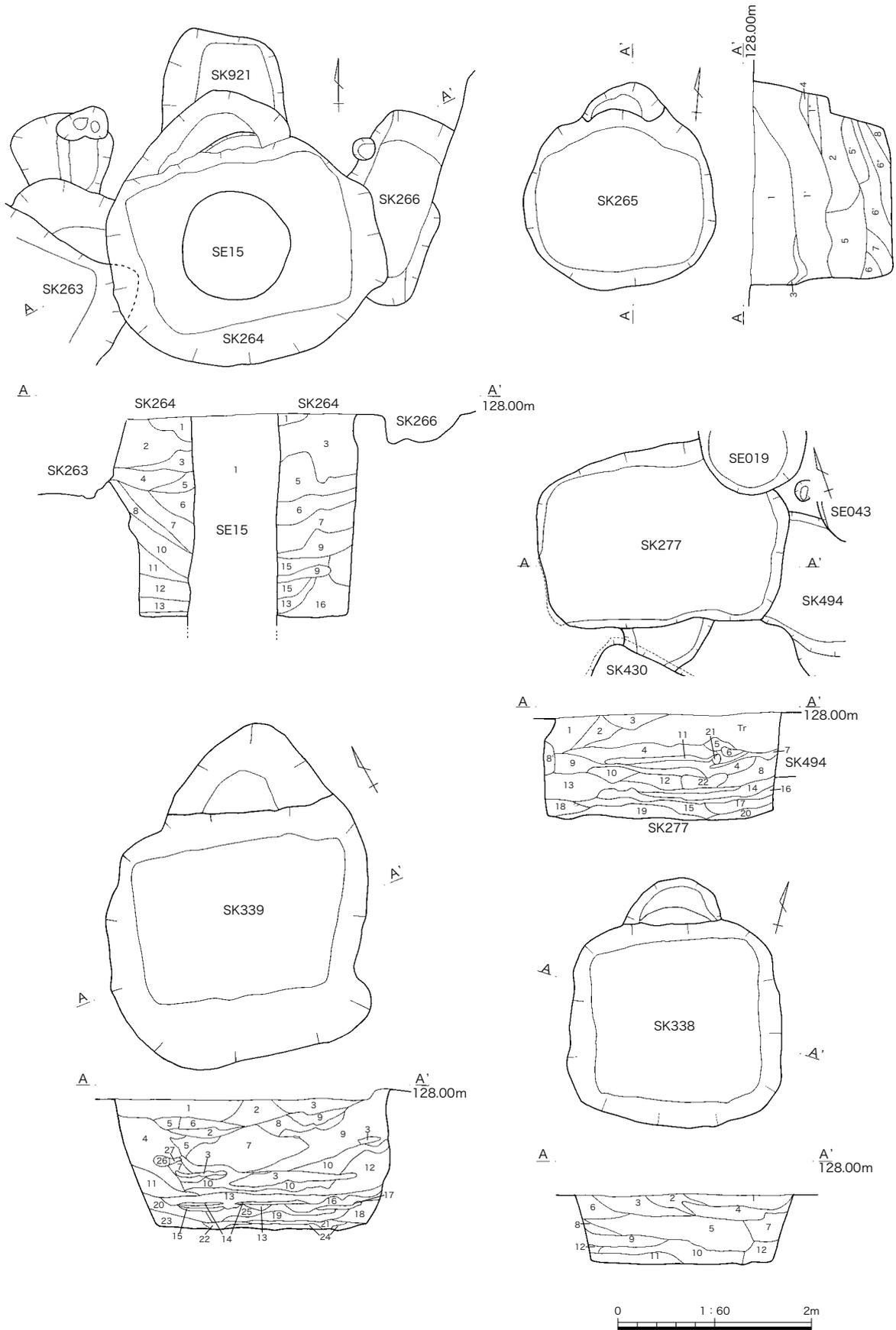
第51図 地下式坑 (5) SK178・179・218・235・561



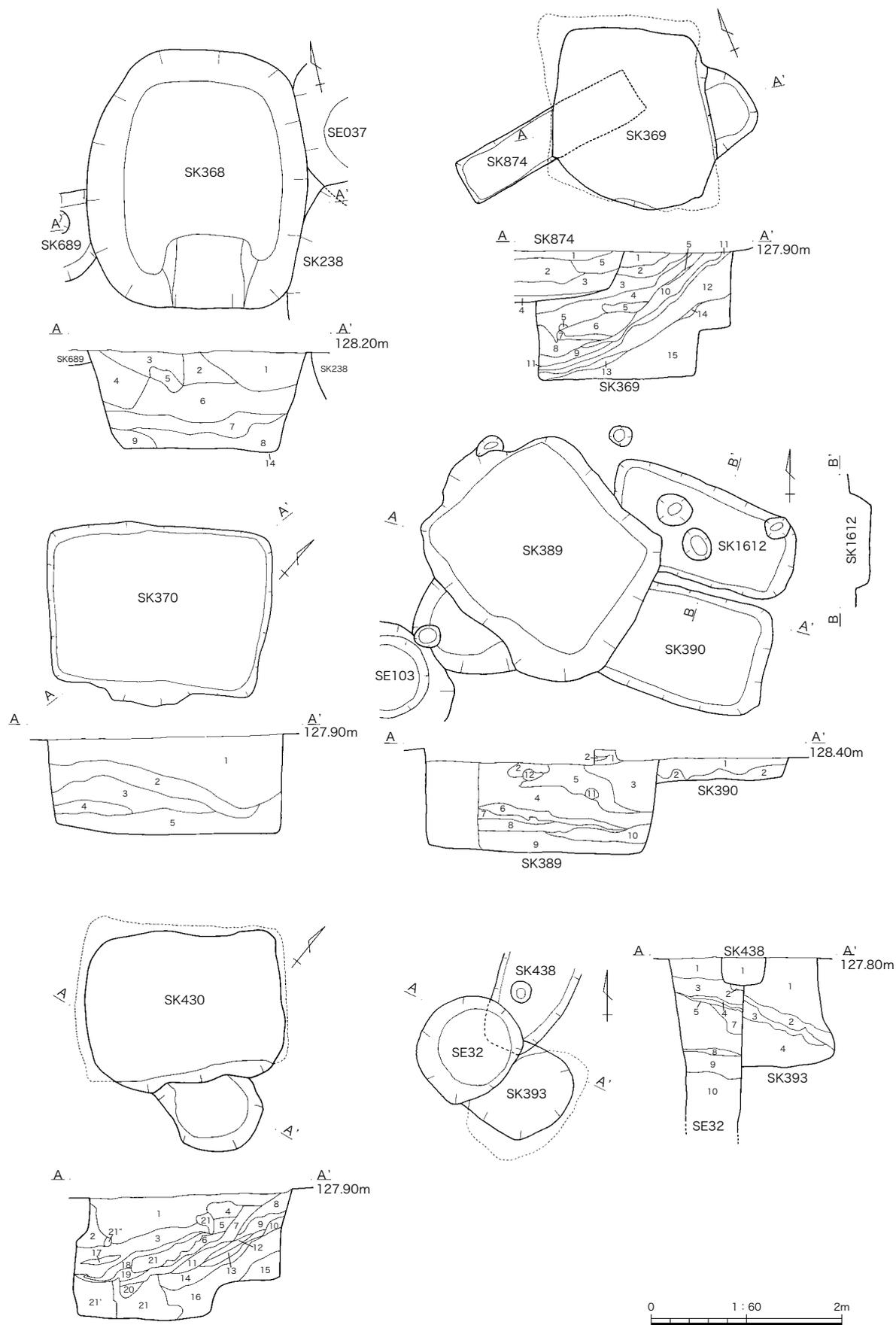
第52図 地下式坑(6) SK238・240・885



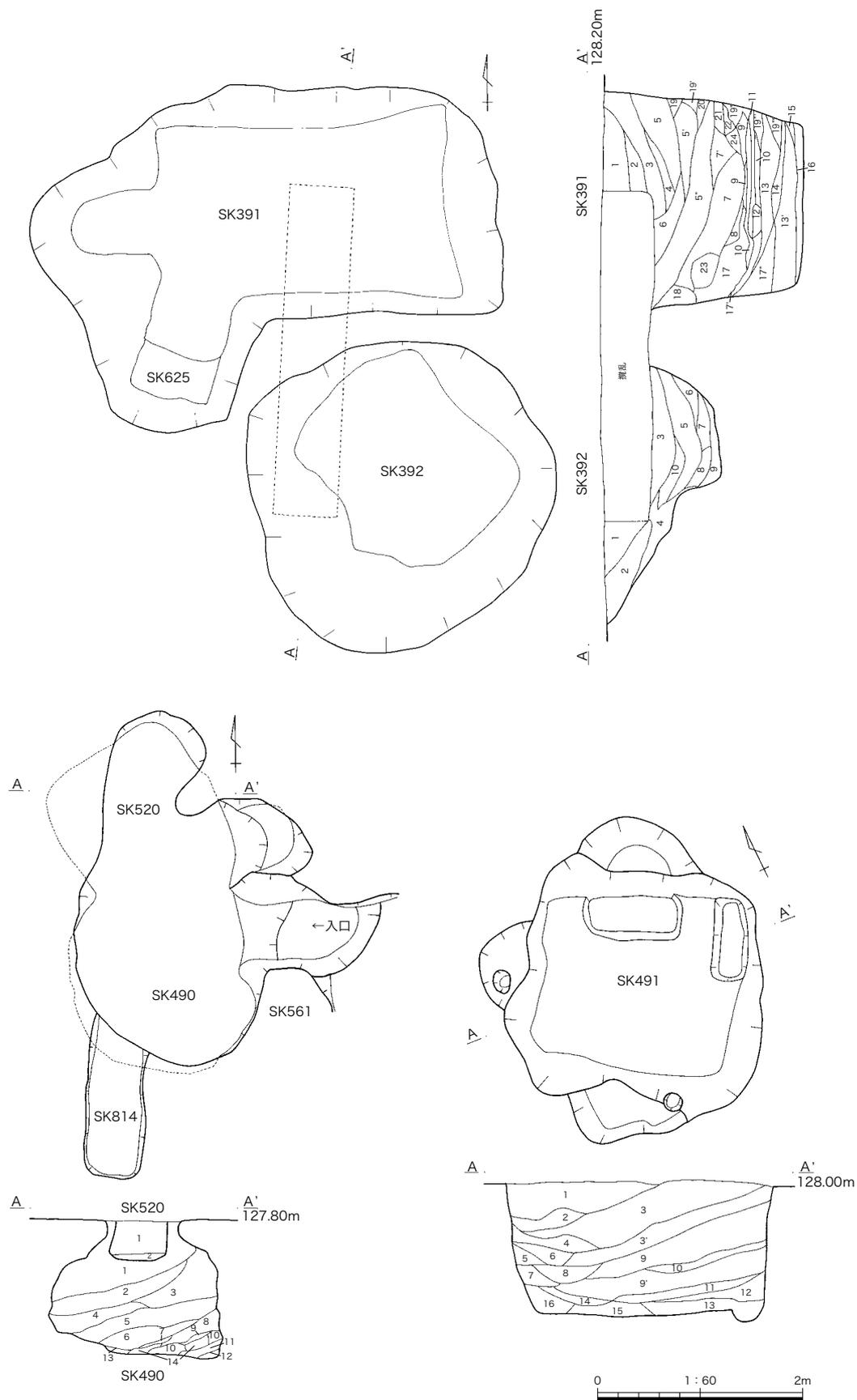
第 53 図 地下式坑 (7) SK221・242・246・263・313



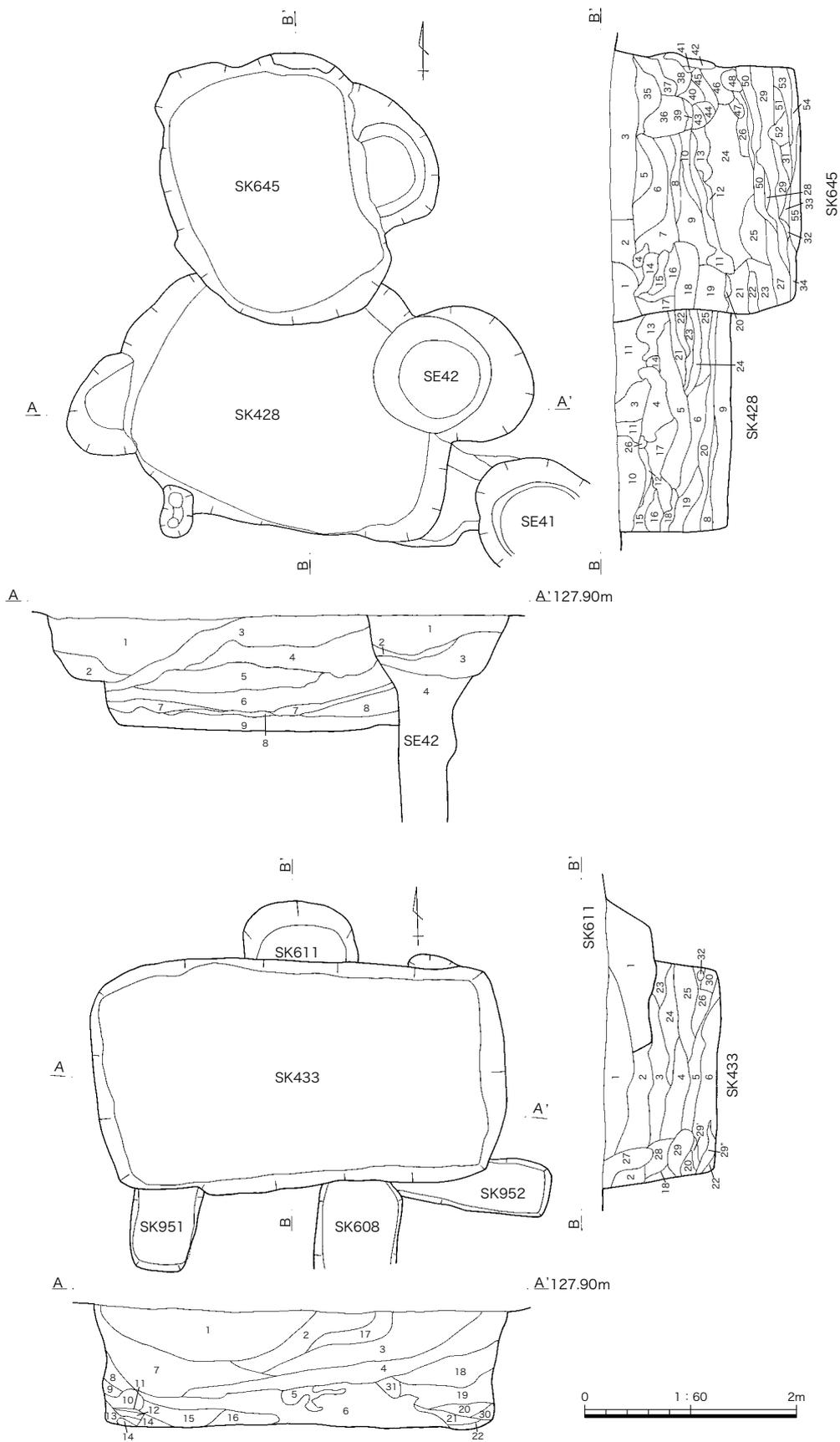
第54図 地下式坑 (8) SK264・265・277・338・339



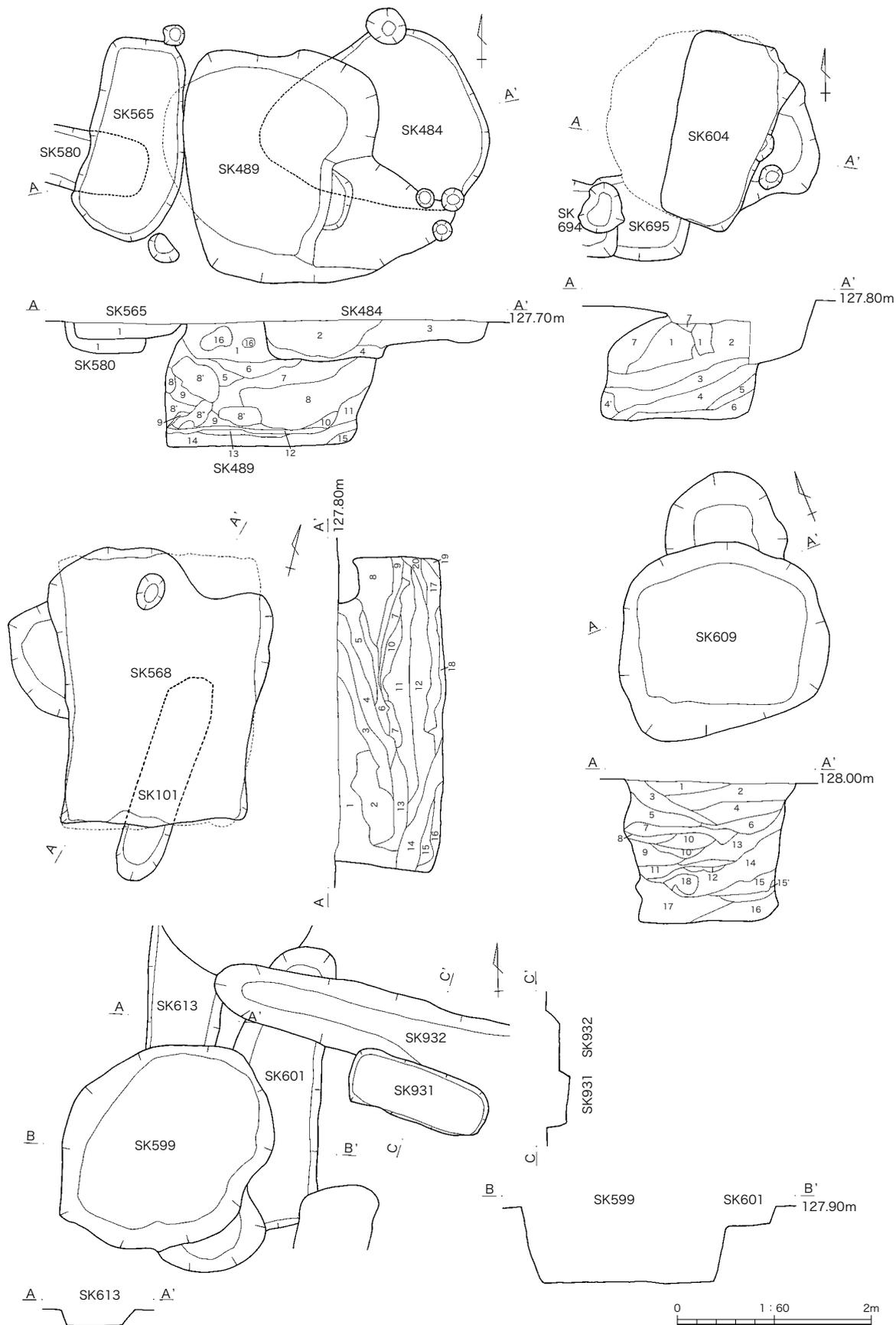
第55図 地下式坑 (9) SK368・369・370・389・393・430



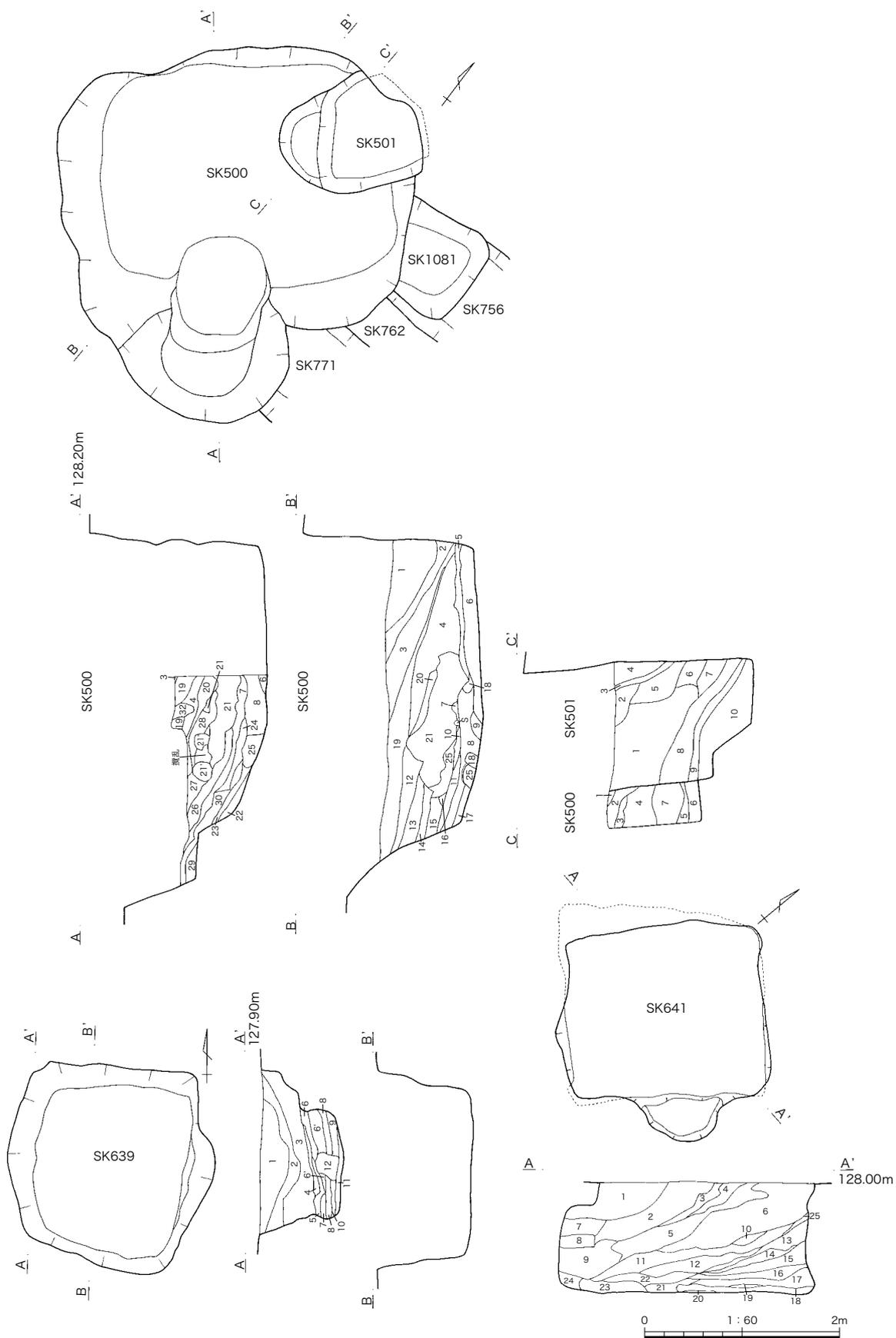
第56図 地下式坑 (10) SK391・392・490・491



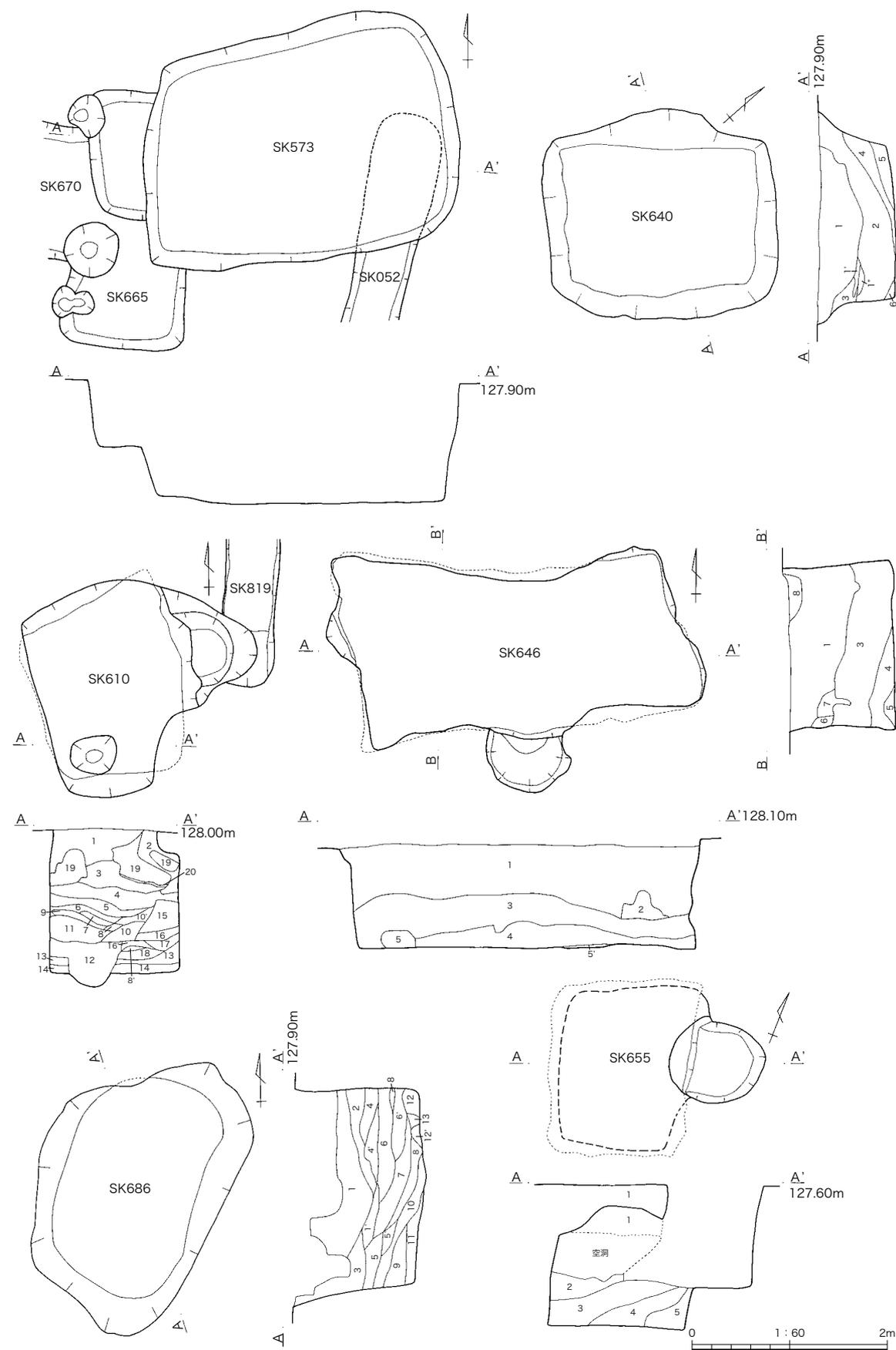
第 57 図 地下式坑 (11) SK428・433・645



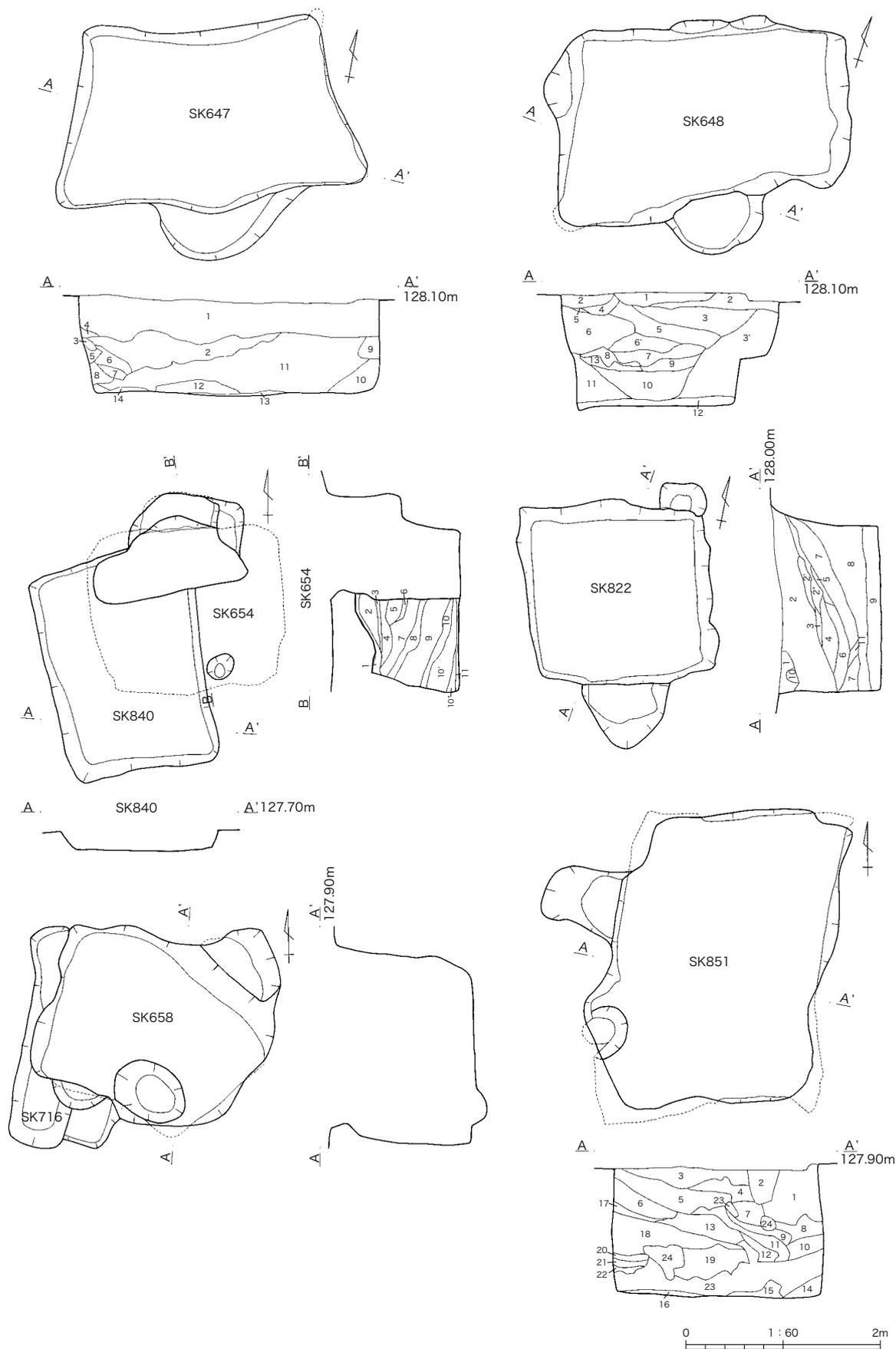
第58図 地下式坑 (12) SK489・568・599・604・609



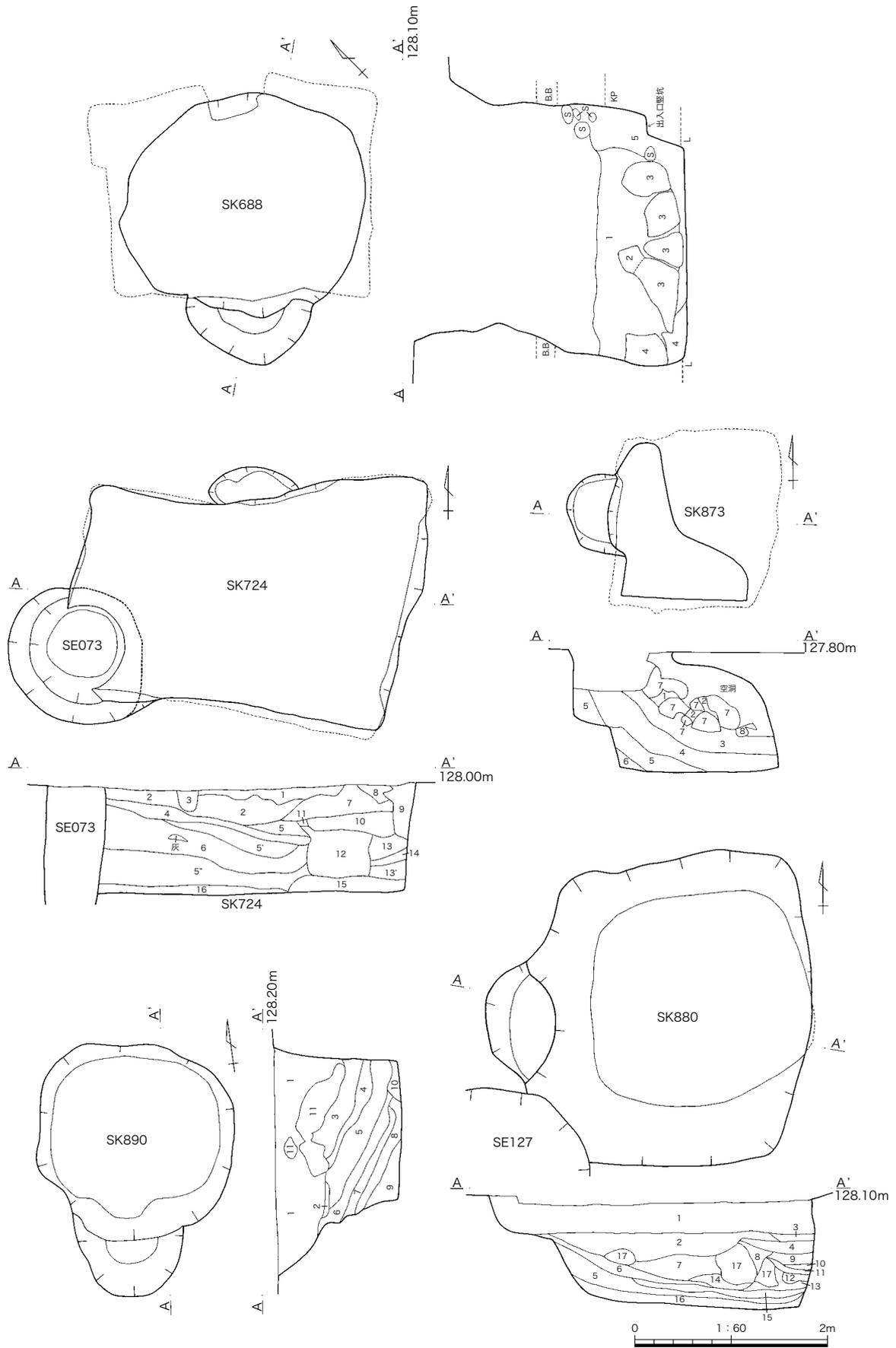
第59圖 地下式坑 (13) SK500・501・639・641



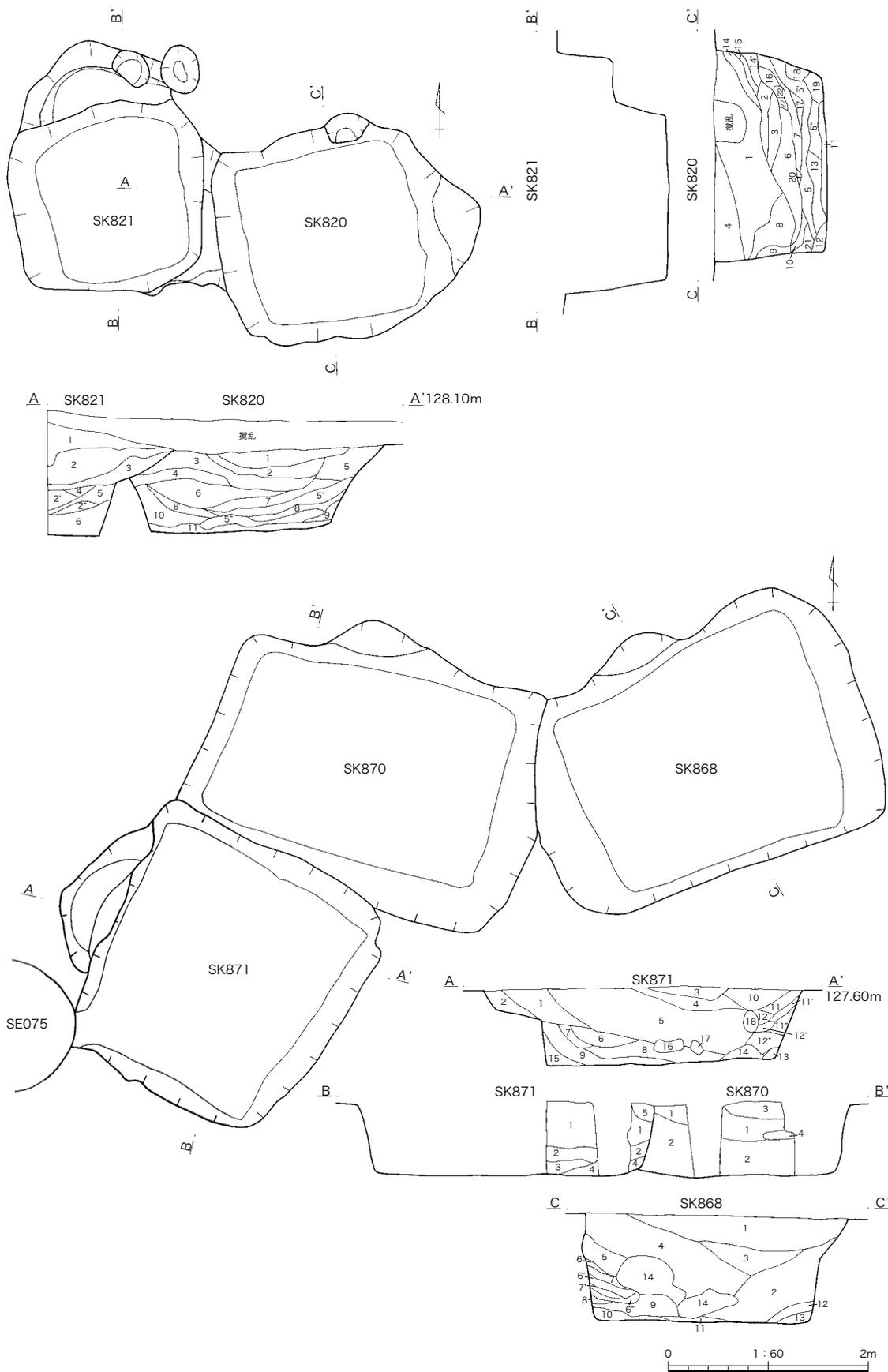
第60図 地下式坑 (14) SK573・610・640・646・648・655・686



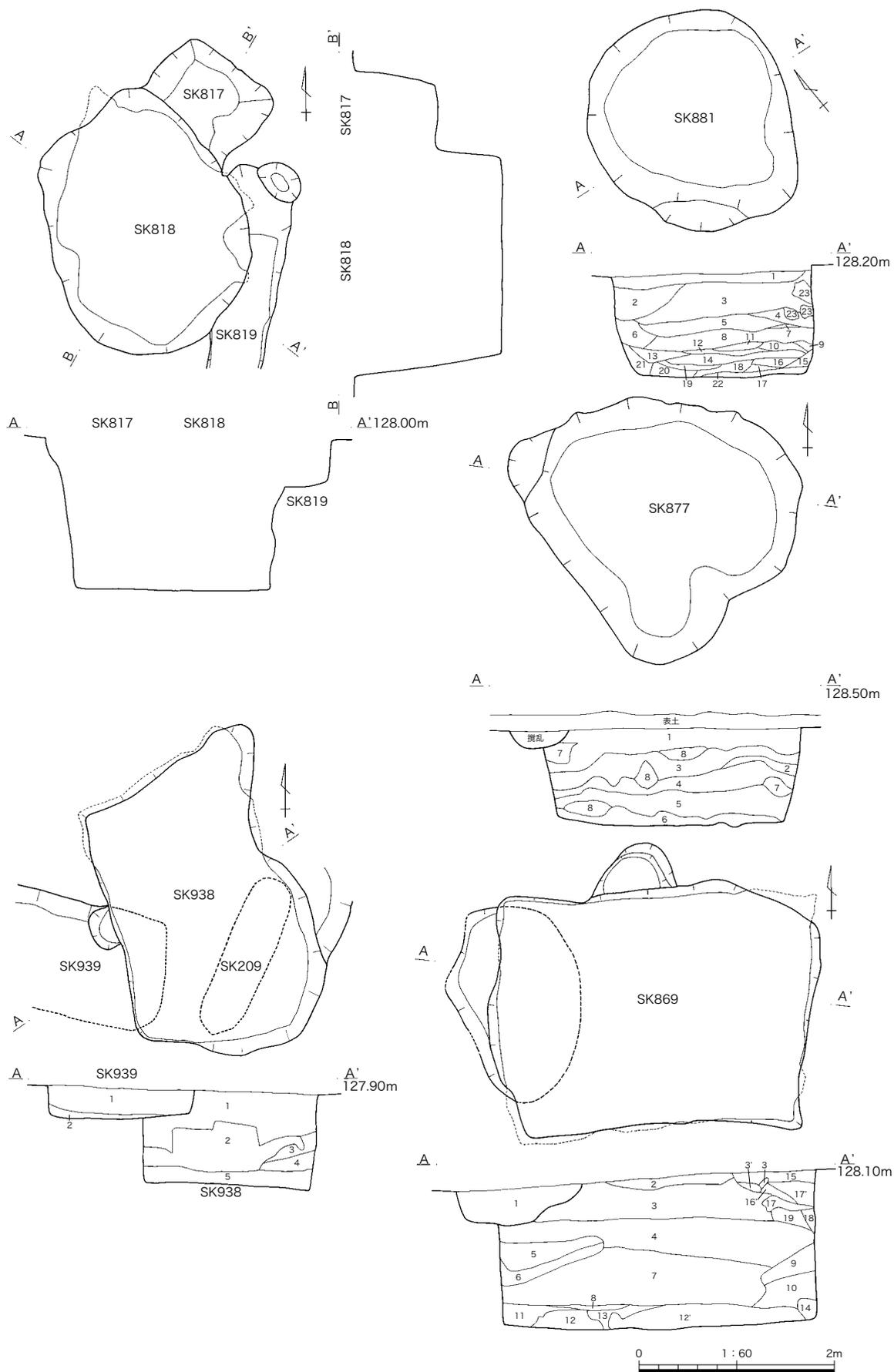
第 61 図 地下式坑 (15) SK647・648・654・658・822・840・851



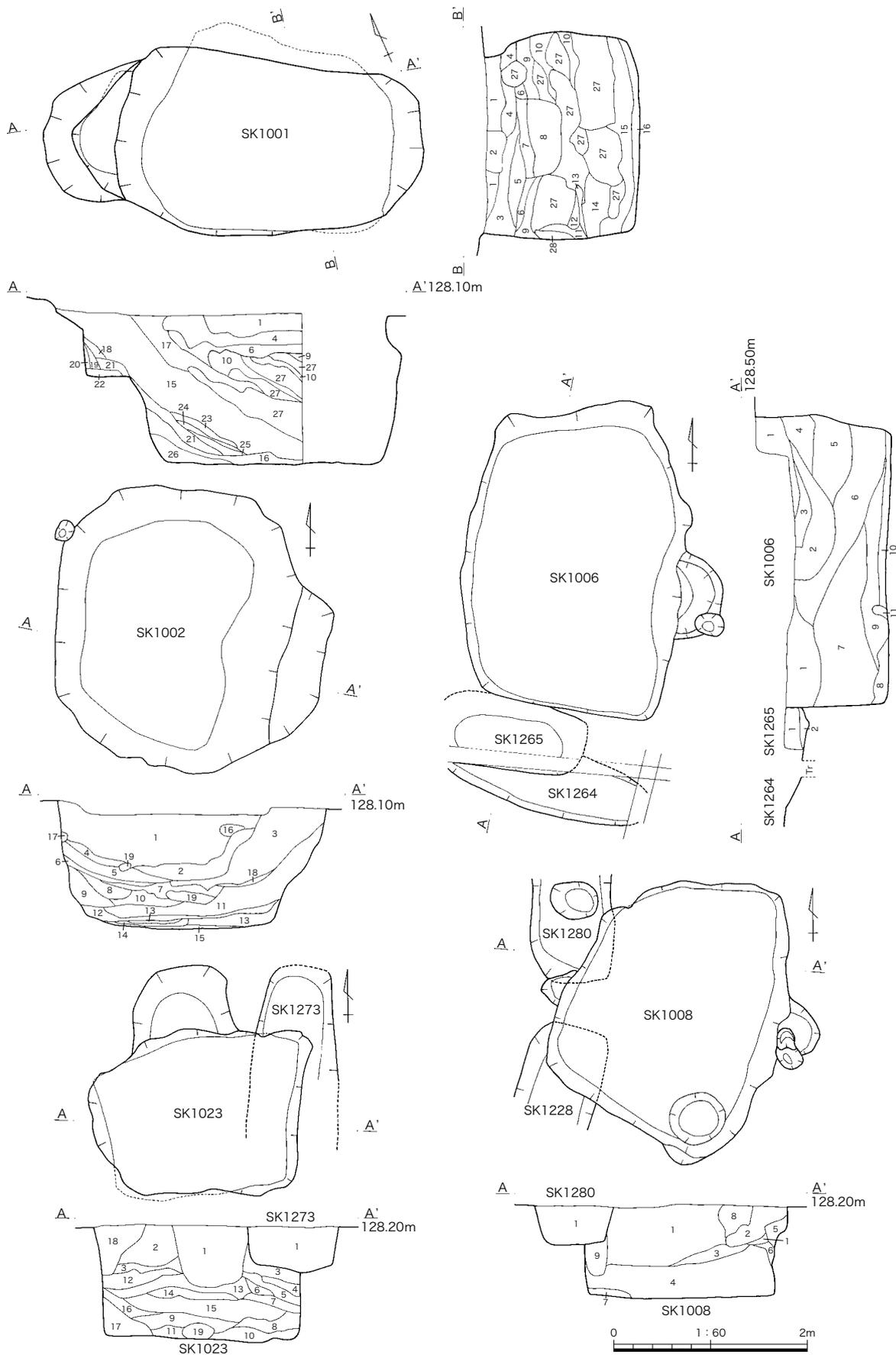
第62図 地下式坑 (16) SK688・724・873・880・890



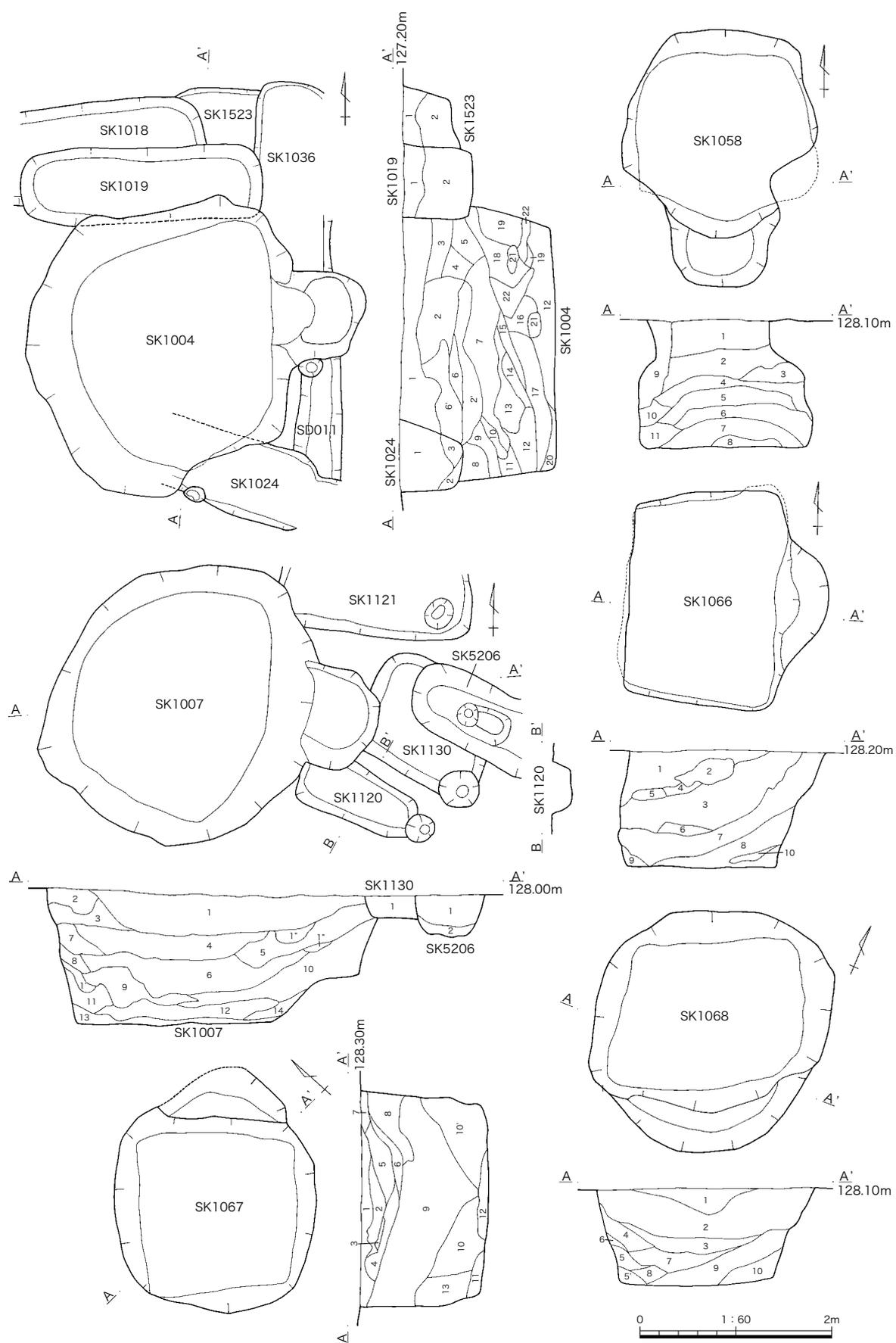
第 63 図 地下式坑 (17) SK820・821・868・870・871



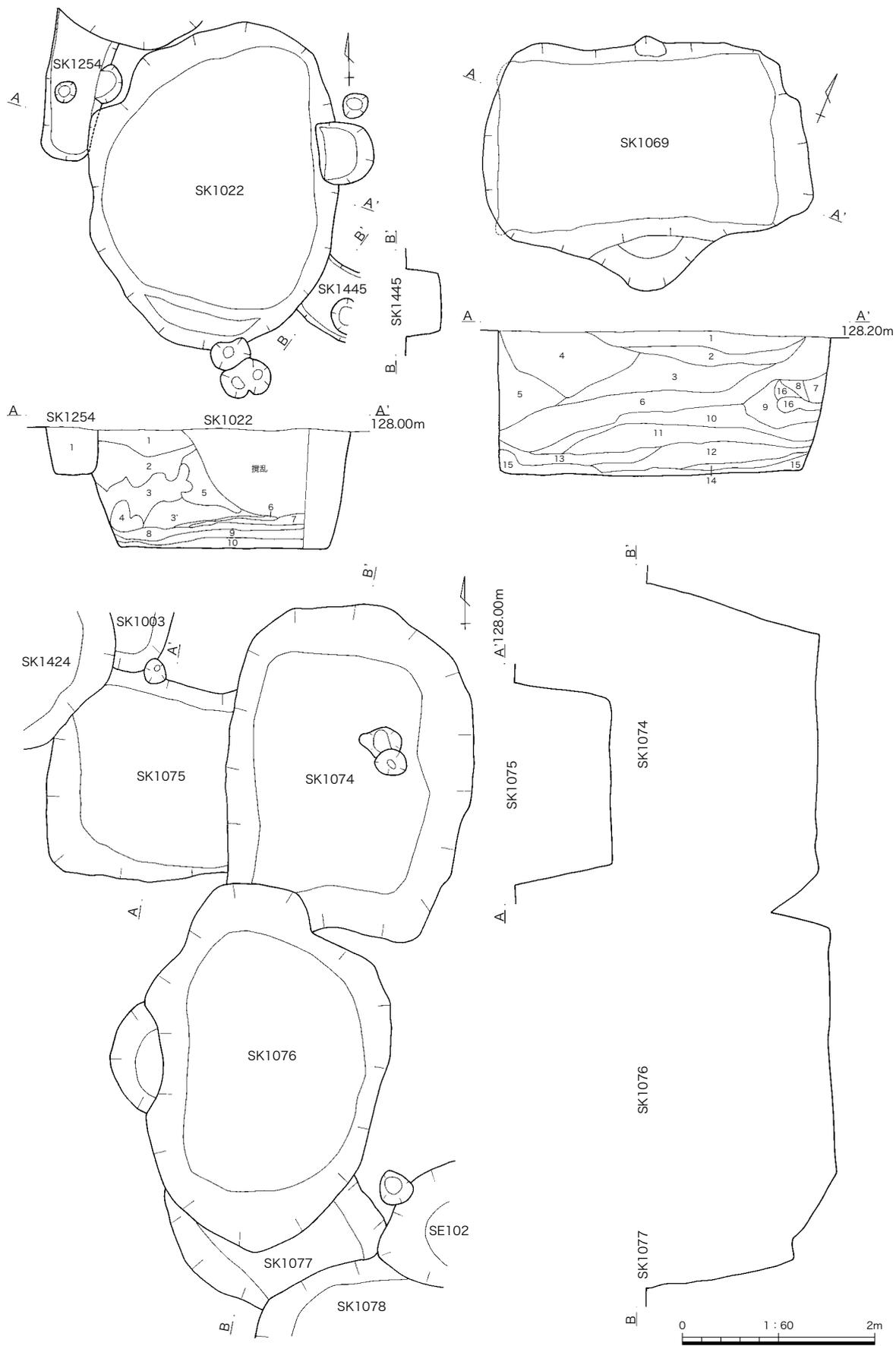
第64図 地下式坑 (18) SK818・877・881・869・938



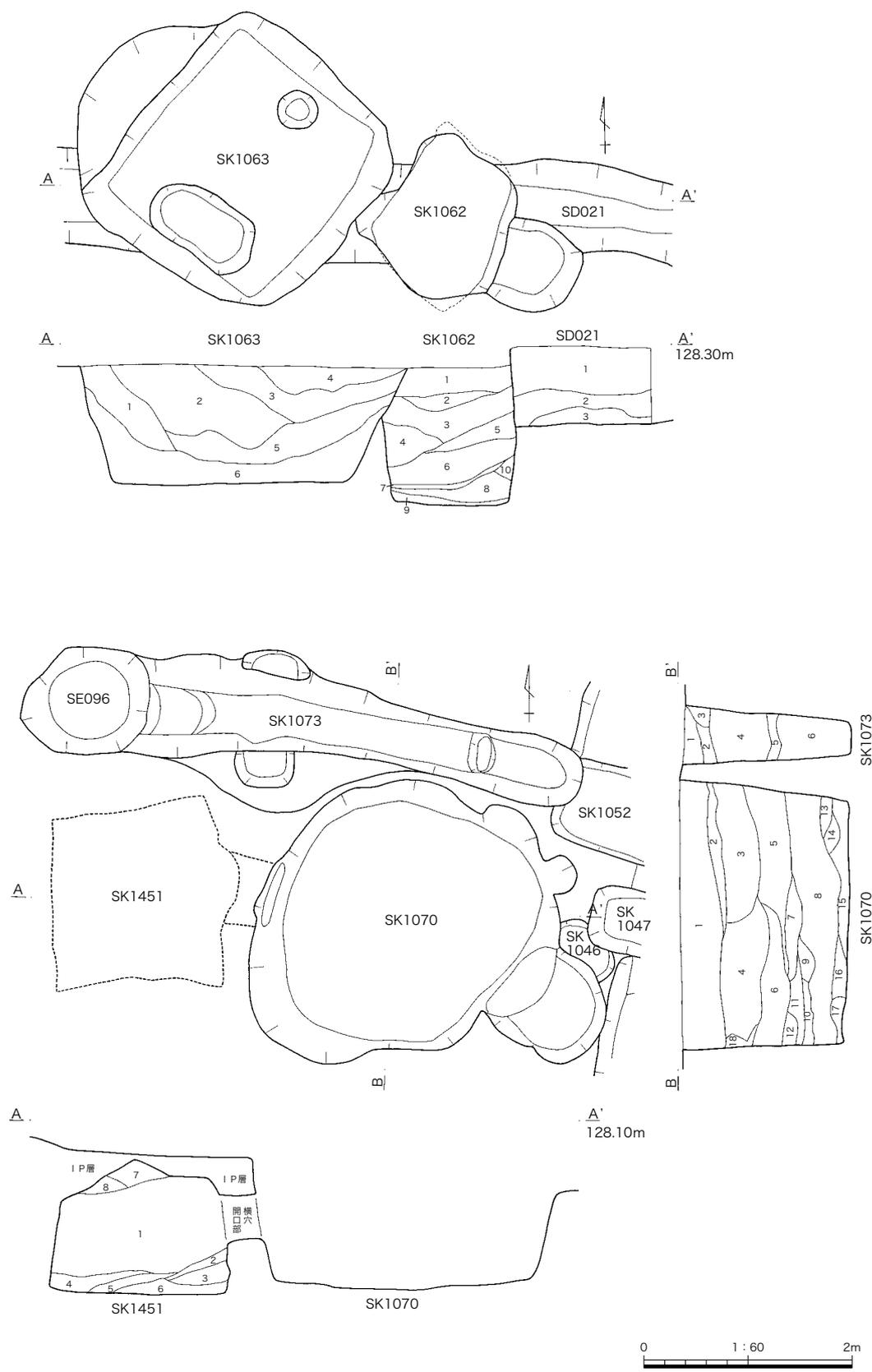
第 65 圖 地下式坑 (19) SK1001 · 1002 · 1006 · 1008 · 1023



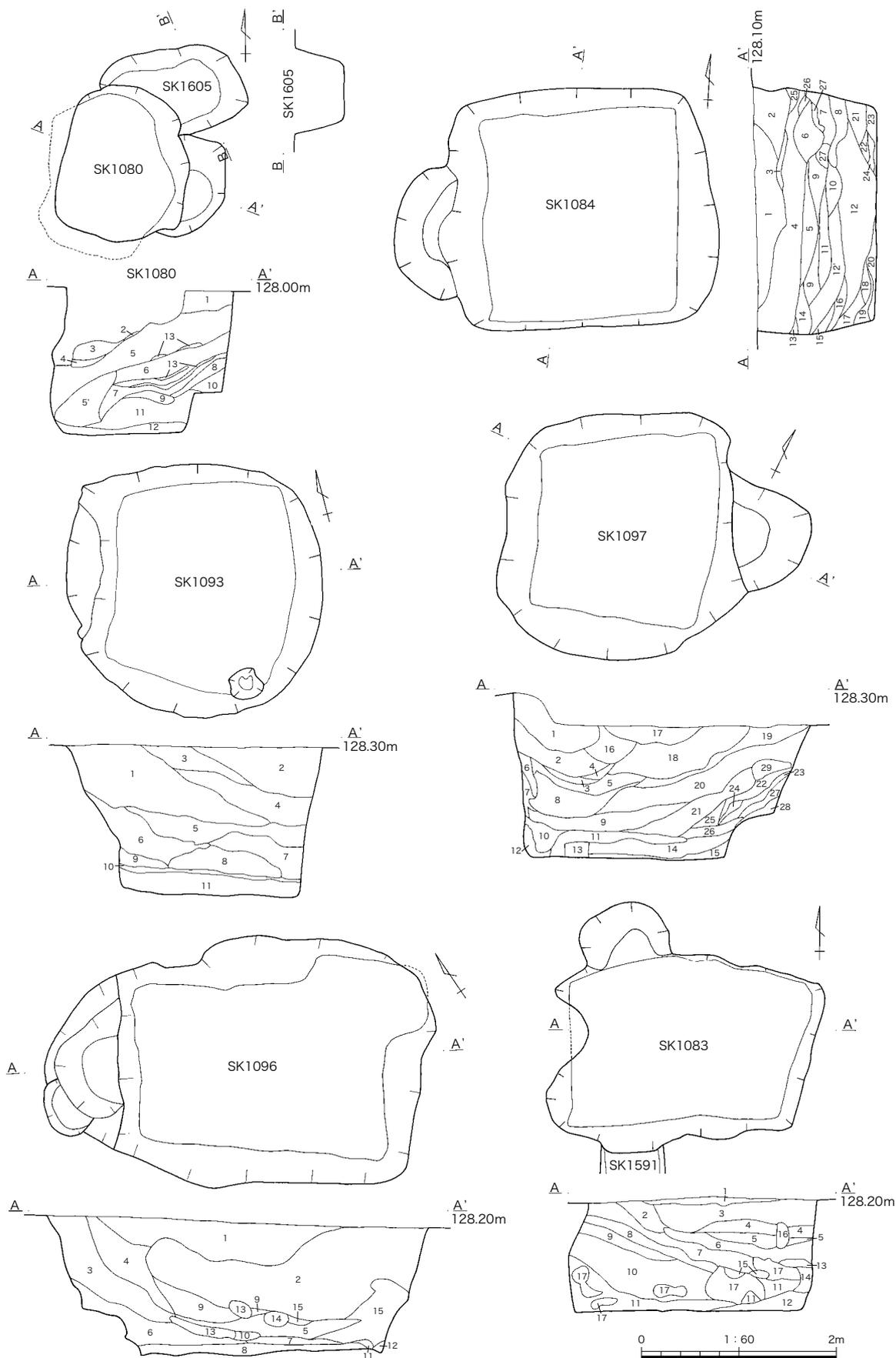
第66図 地下式坑 (20) SK1003・1004・1007・1058・1066・1067・1068



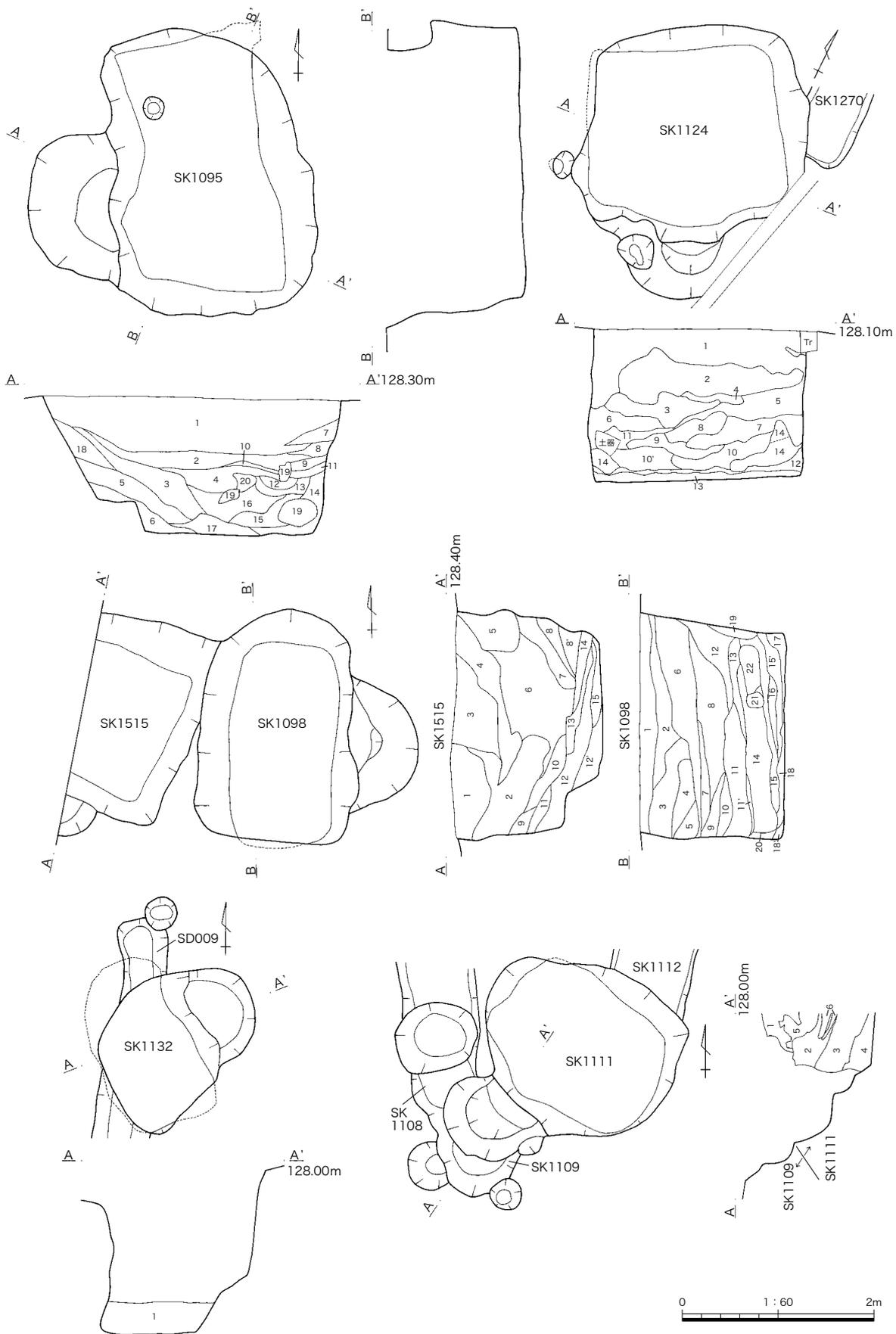
第 67 図 地下式坑 (21) SK1022・1069・1074・1075・1076



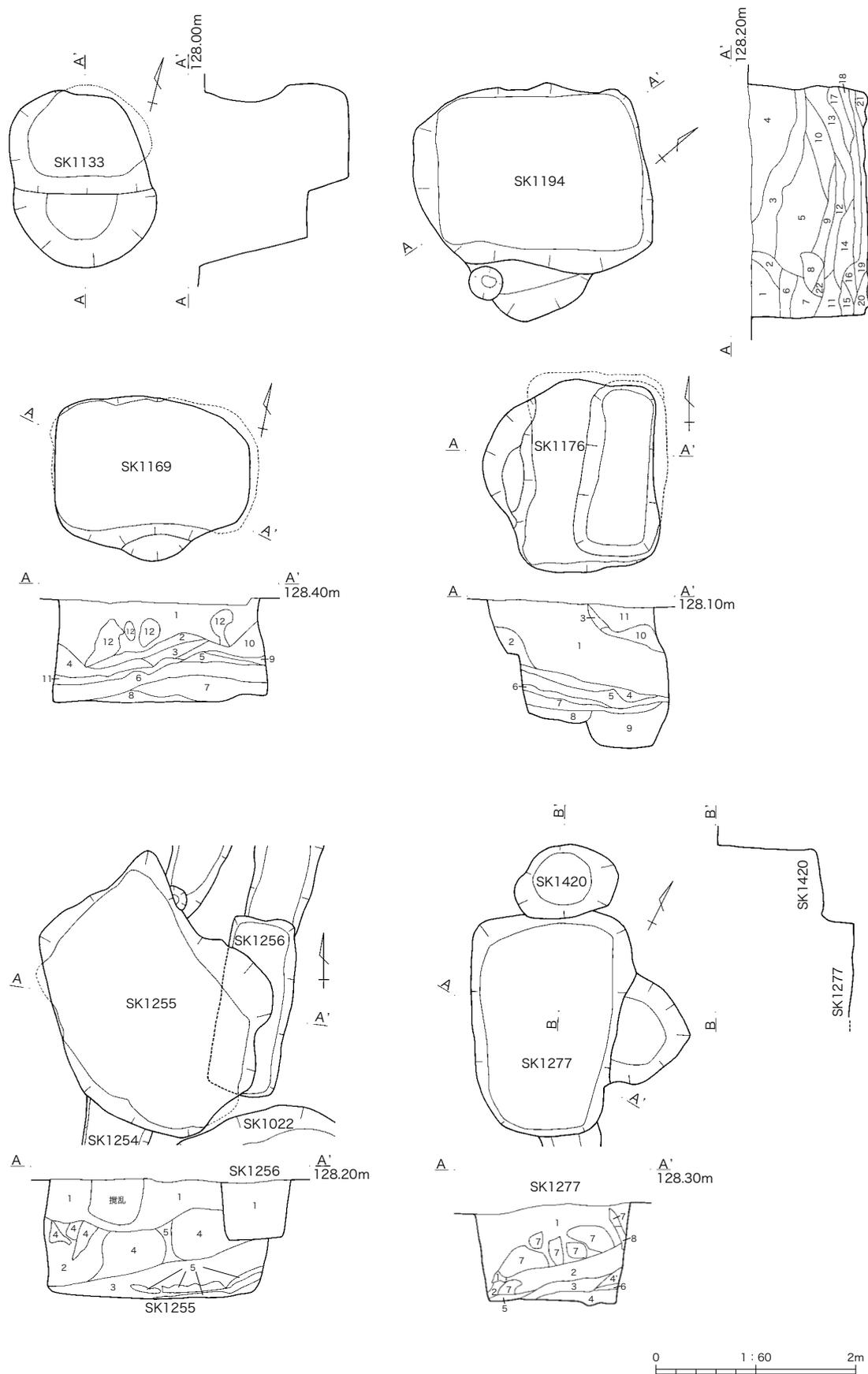
第68図 地下式坑 (22) SK1062・1063・1070・1451



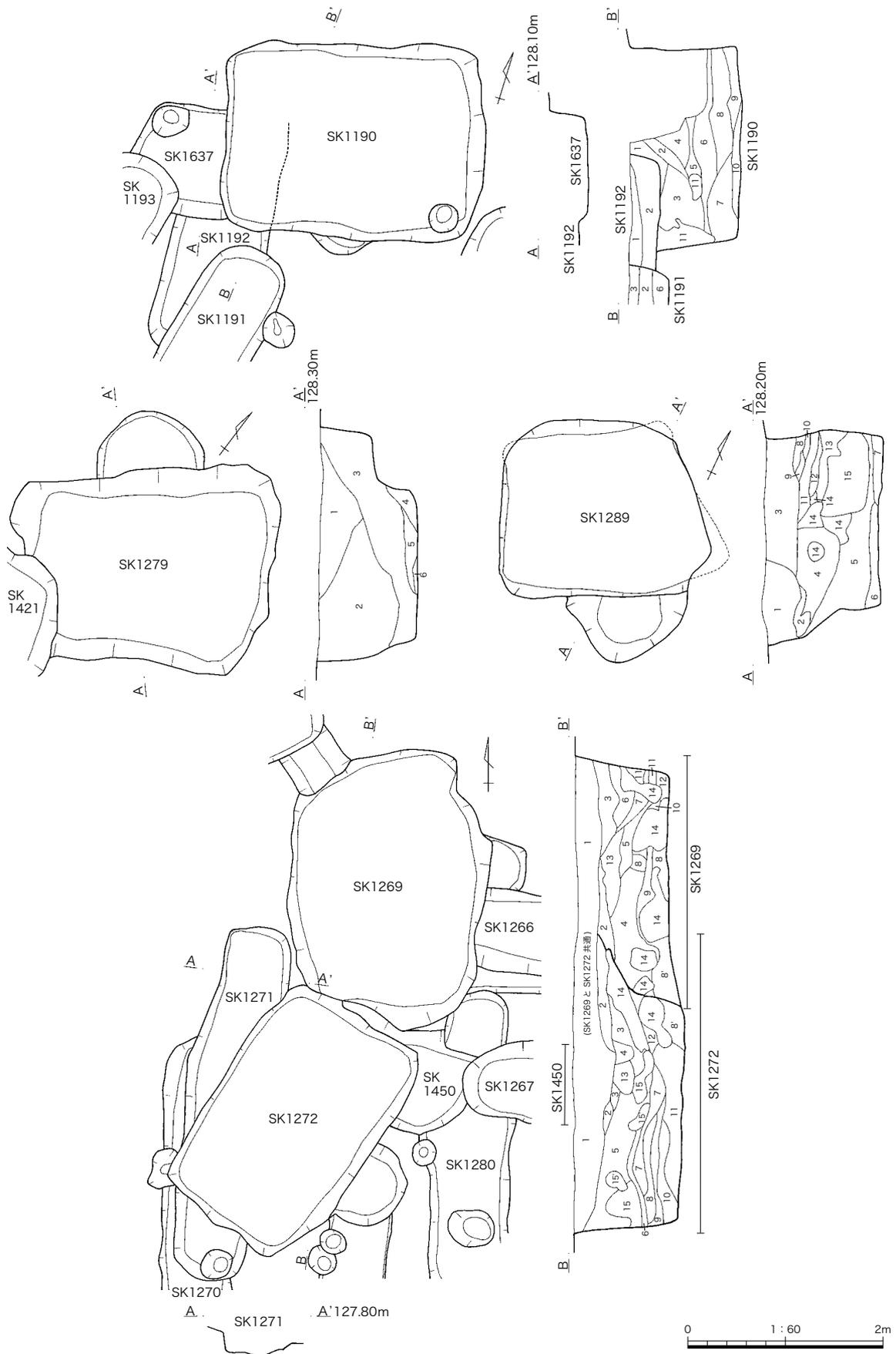
第 69 図 地下式坑 (23) SK1080・1083・1084・1093・1096・1097



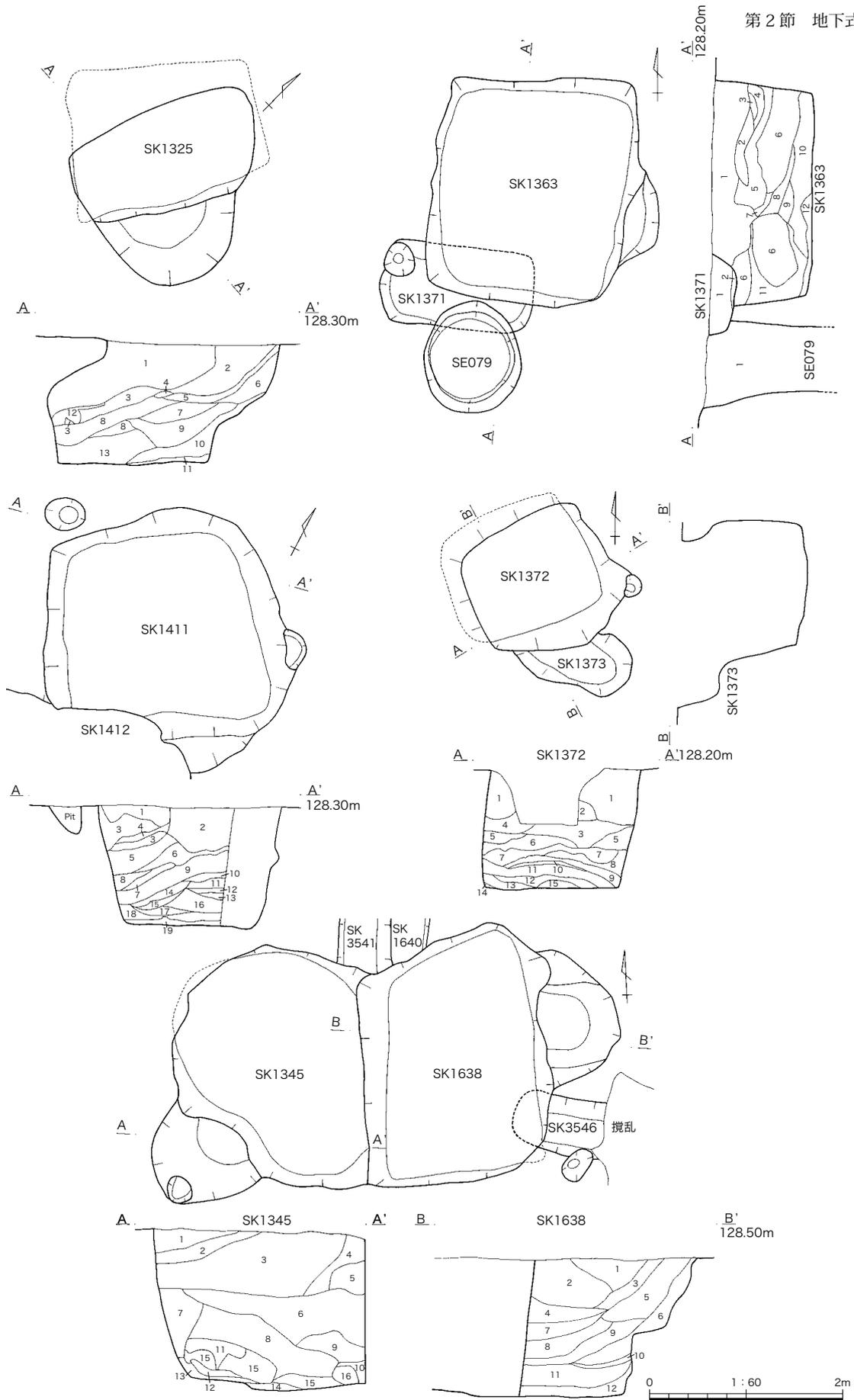
第70図 地下式坑 (24) SK1095・1098・1111・1124・1132



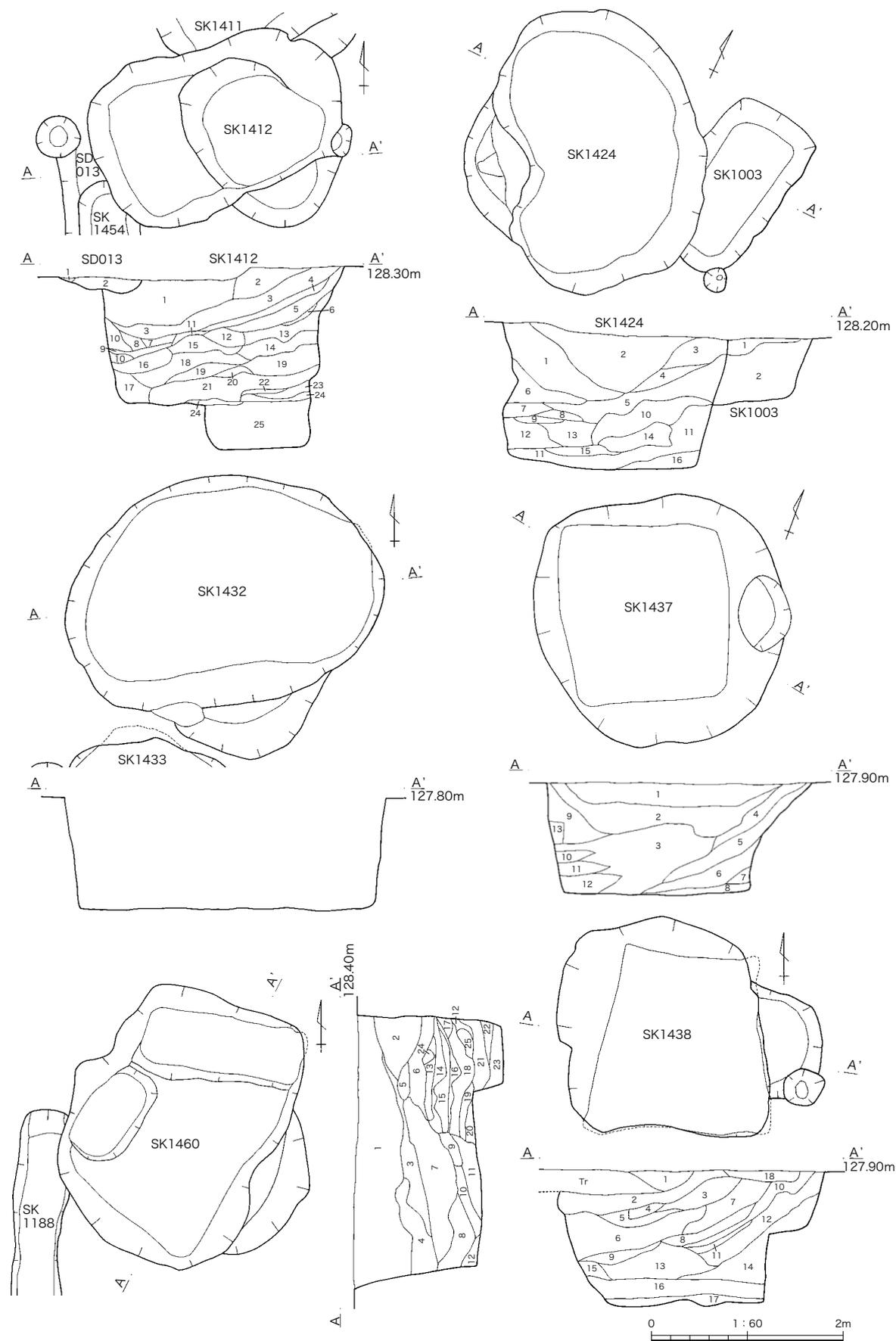
第71圖 地下式坑 (25) SK1133・1169・1176・1194・1255・1277



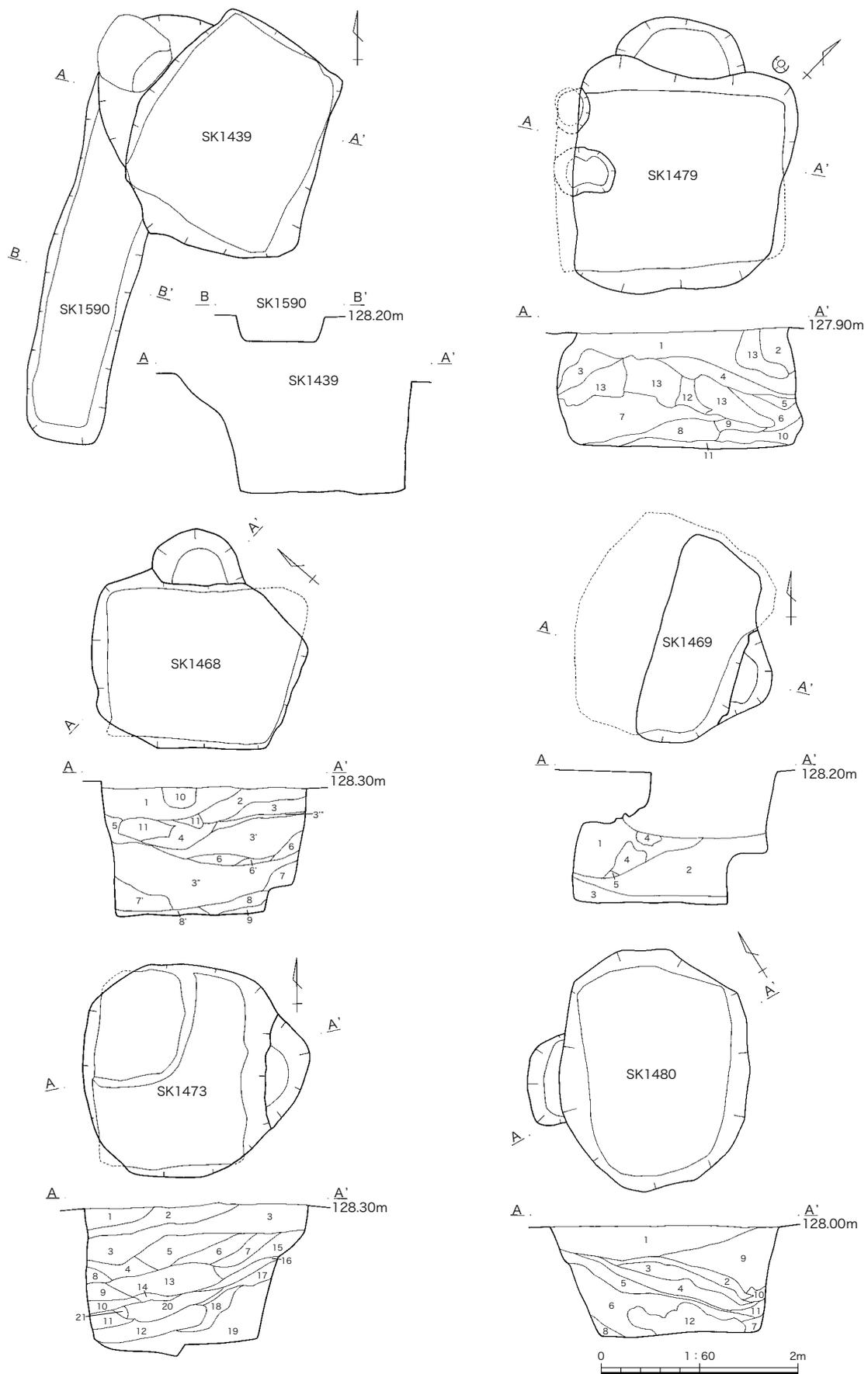
第72図 地下式坑 (26) SK1190・1269・1272・1279・1289



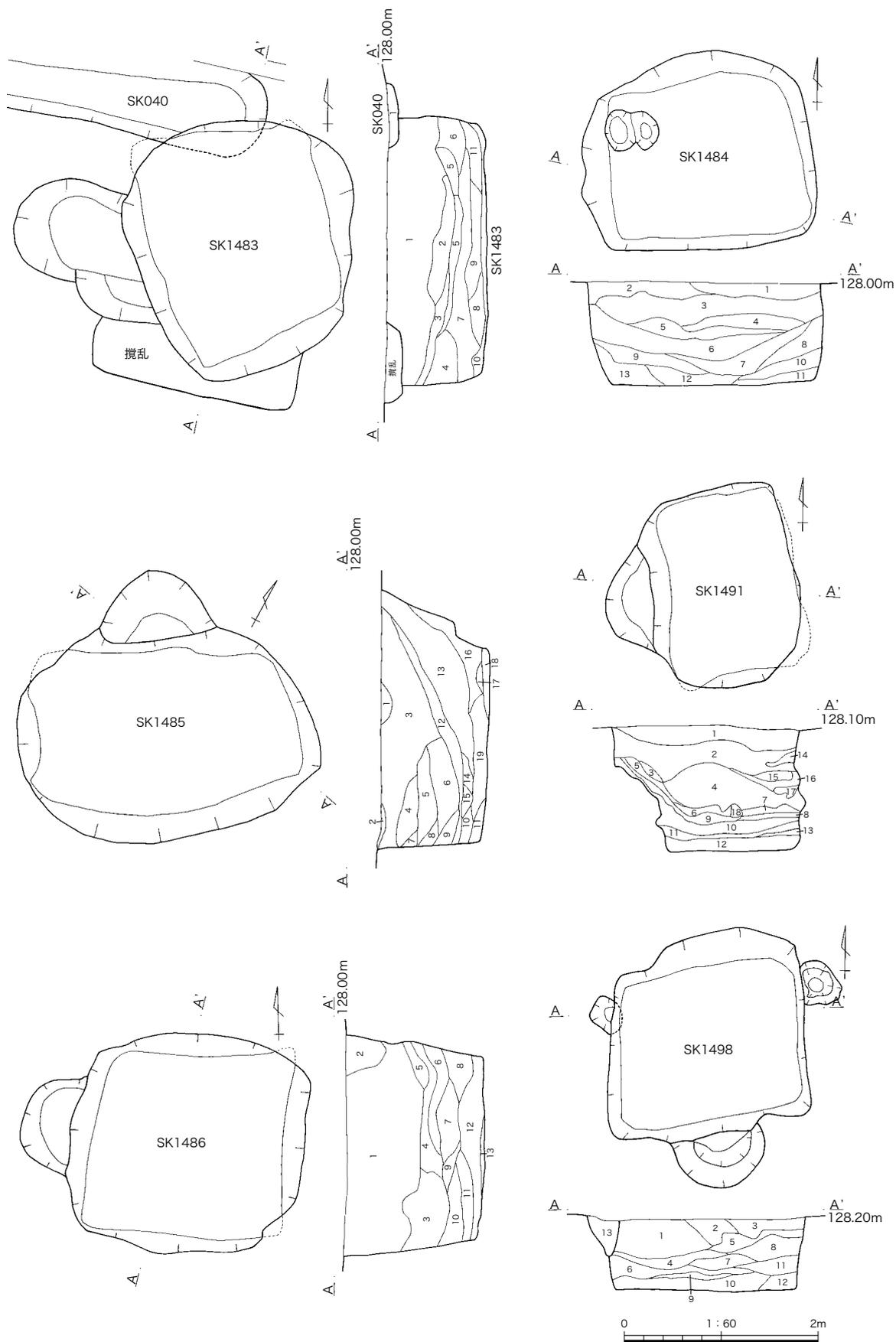
第73図 地下式坑 (27) SK1325・1345・1363・1372・1411・1638



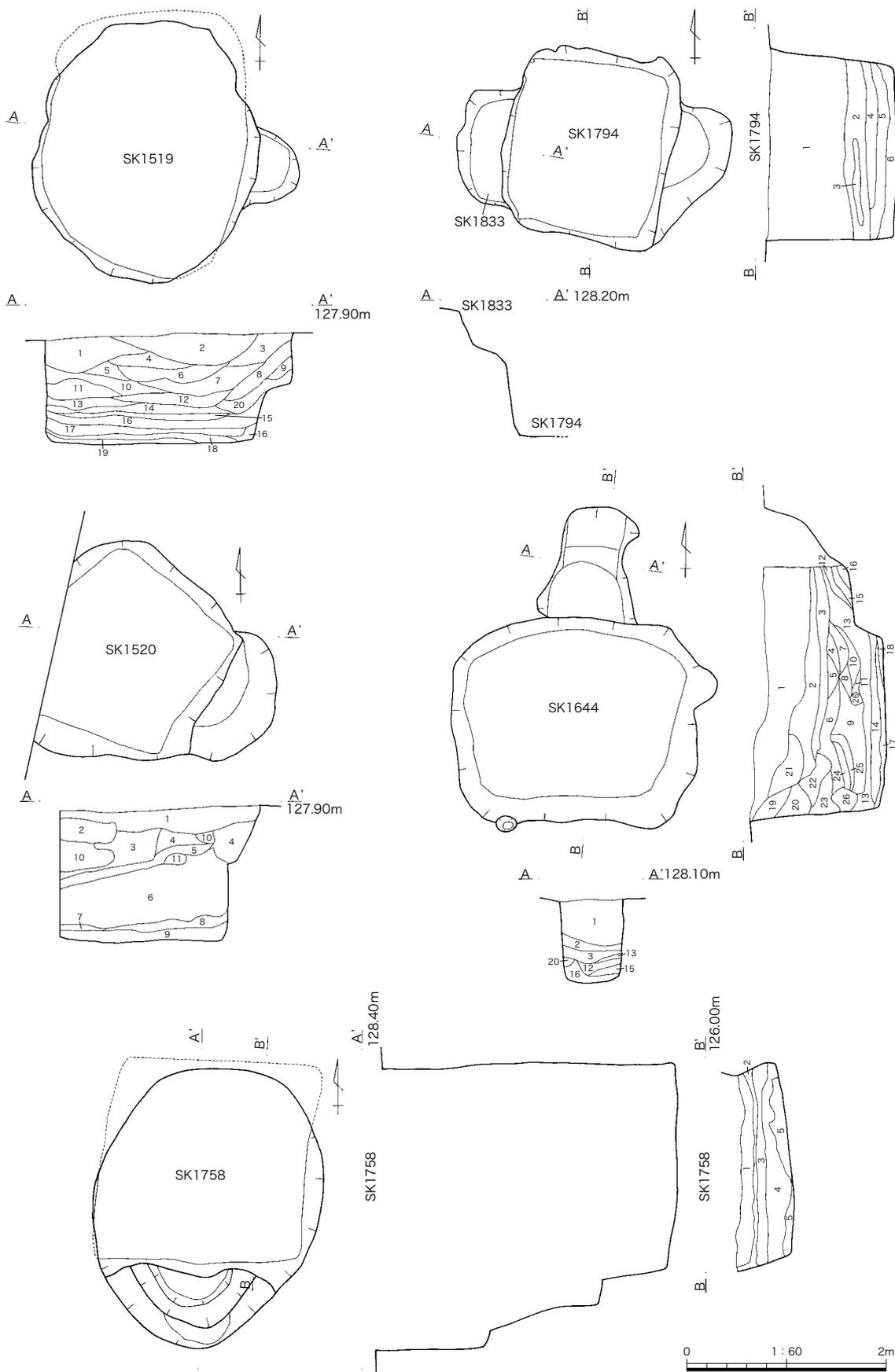
第74図 地下式坑 (28) SK1412・1424・1432・1437・1438・1460



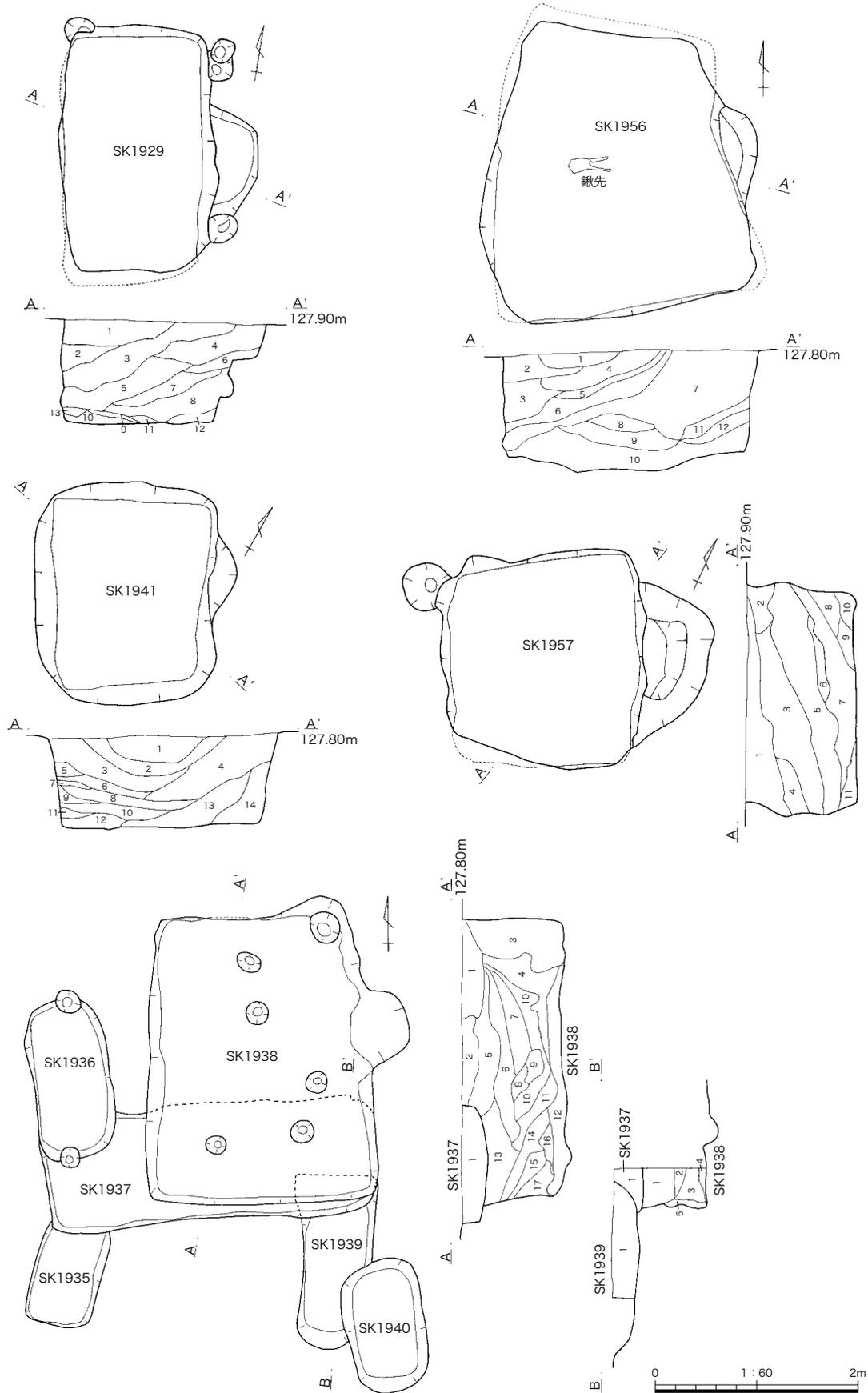
第75圖 地下式坑 (29) SK1439・1468・1469・1473・1479・1480



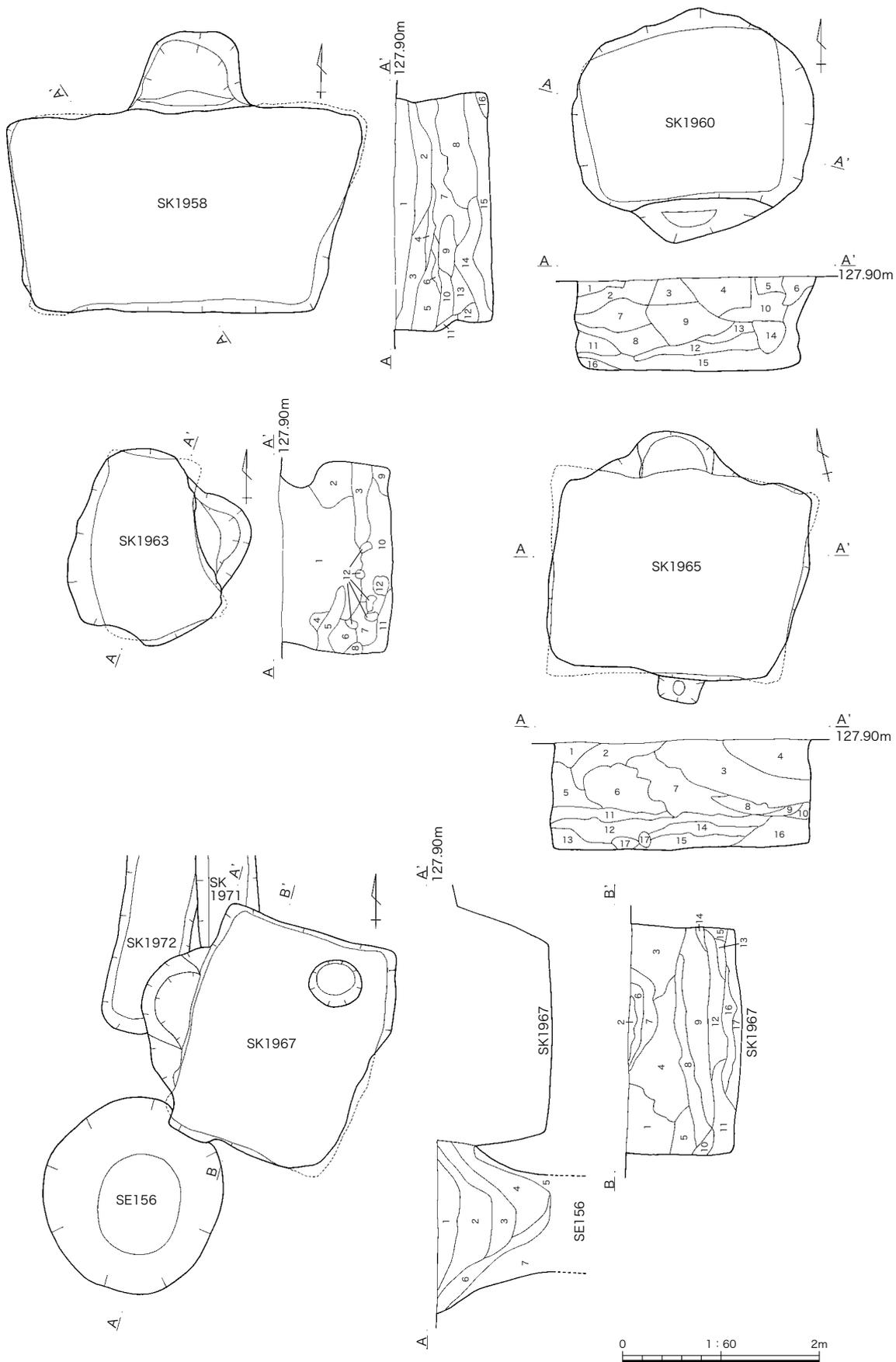
第76図 地下式坑 (30) SK1483・1484・1485・1486・1491・1498



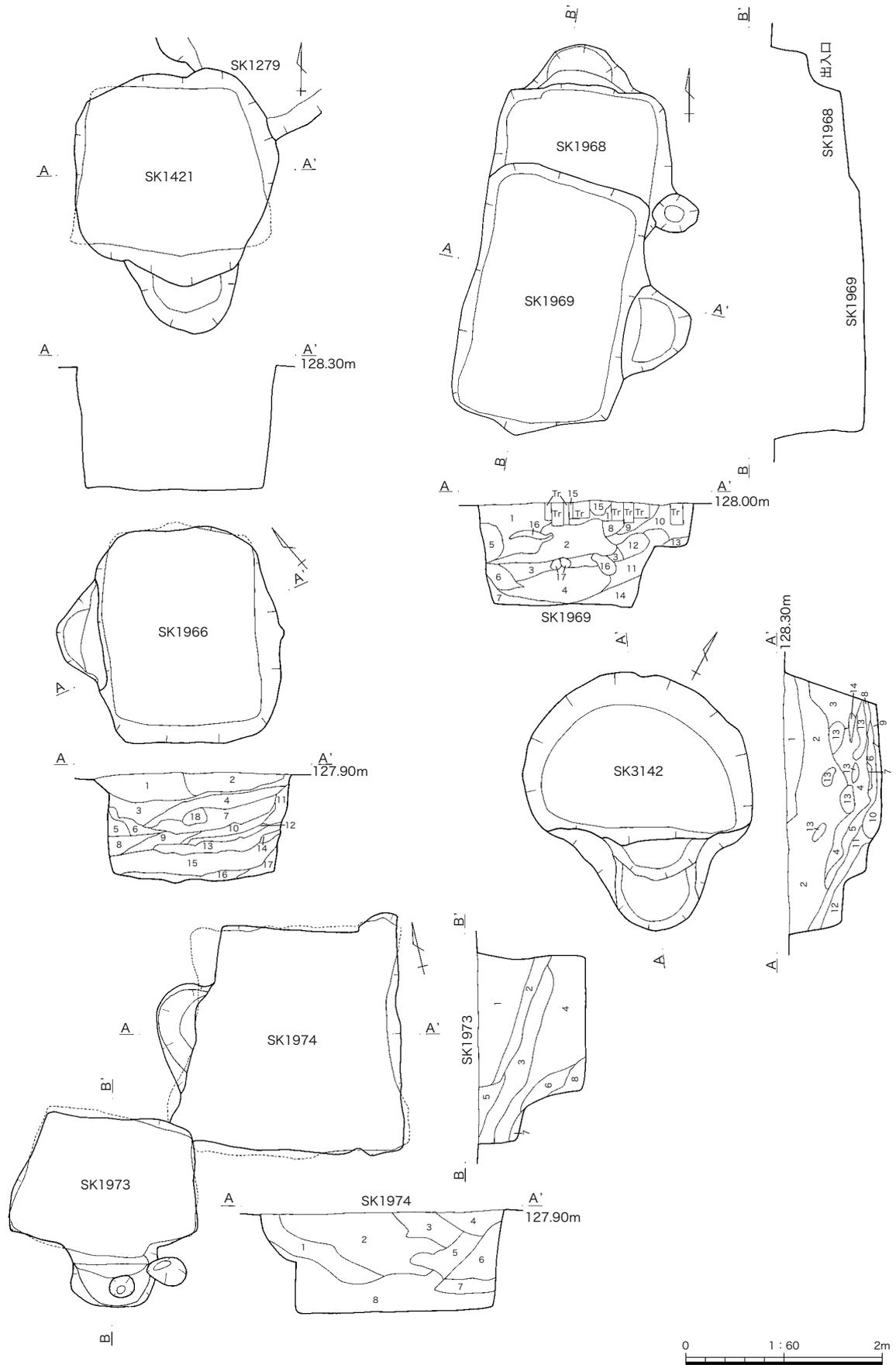
第77圖 地下式坑 (31) SK1519・1520・1644・1758・1794



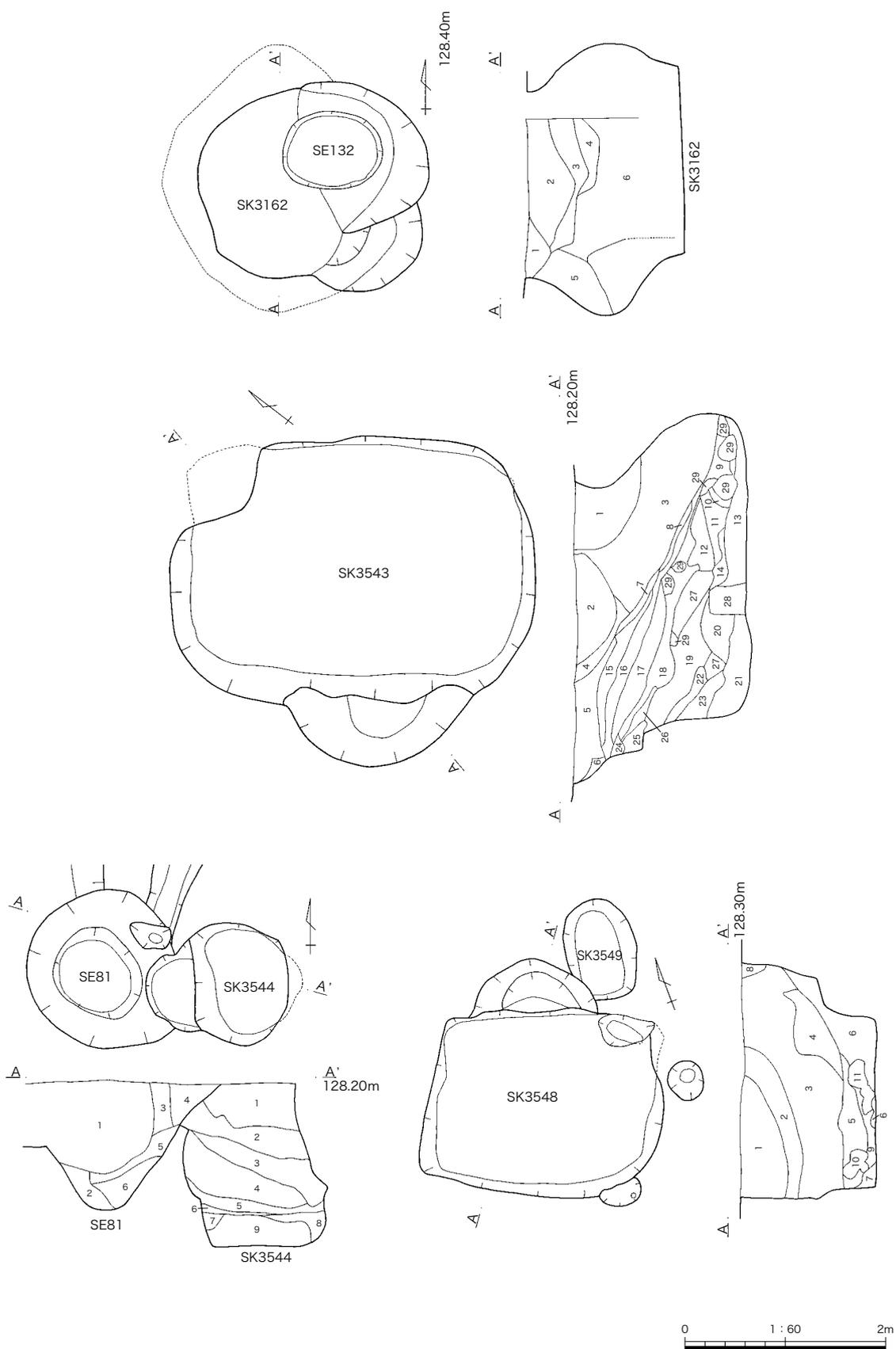
第78図 地下式坑 (32) SK1929・1938・1941・1956・1957



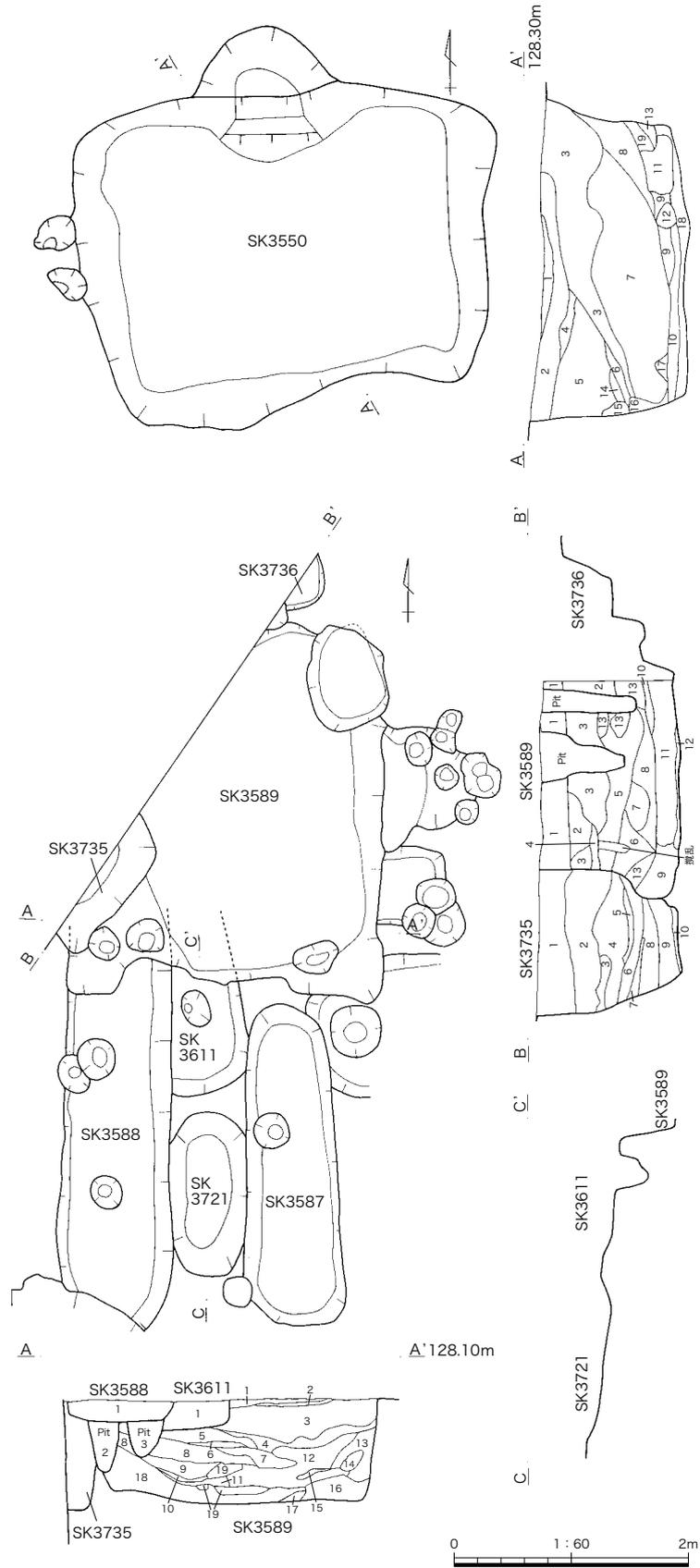
第79圖 地下式坑 (33) SK1958・1960・1963・1965・1967



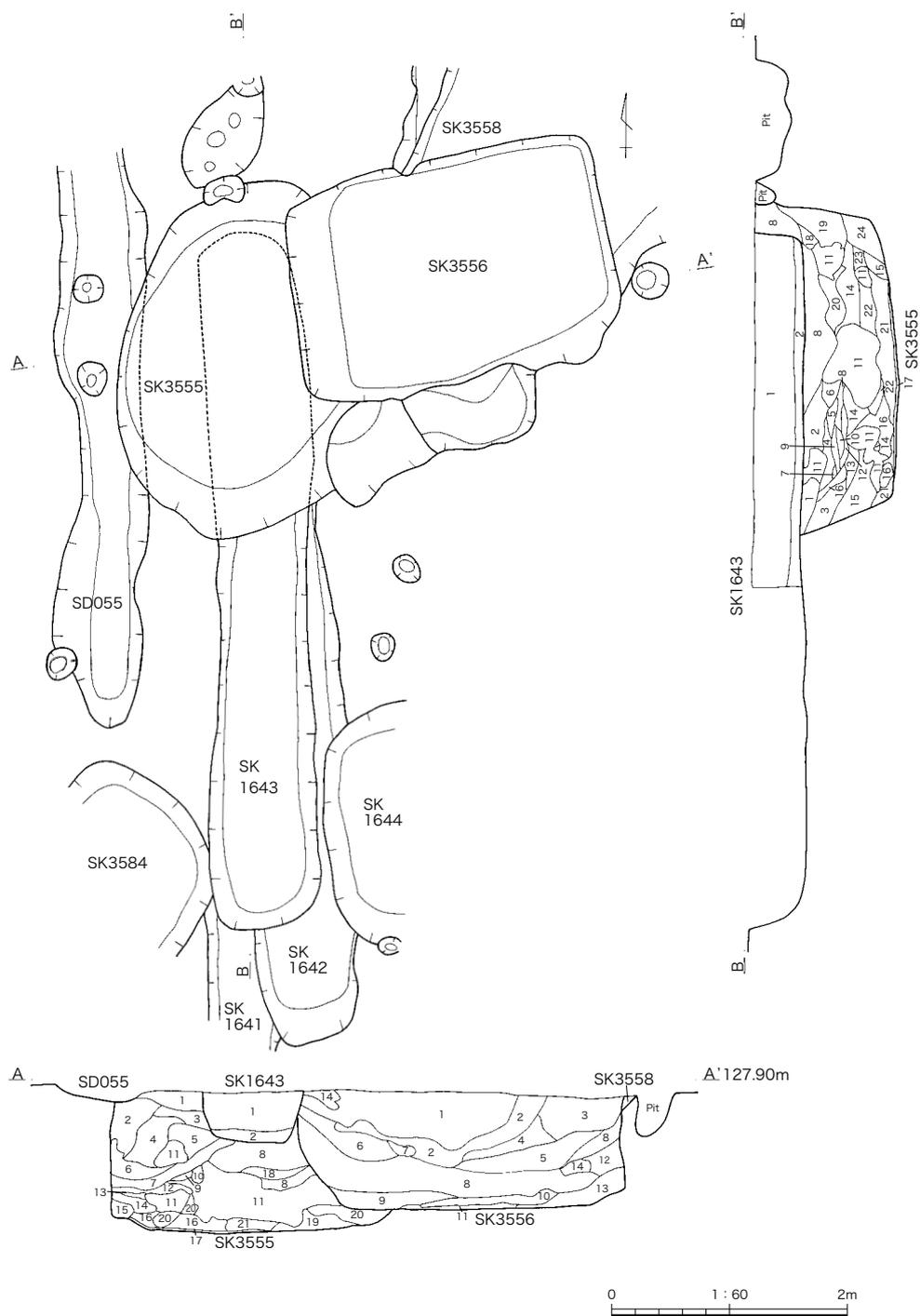
第80図 地下式坑 (34) SK1421・1966・1968・1969・1973・1974・3142



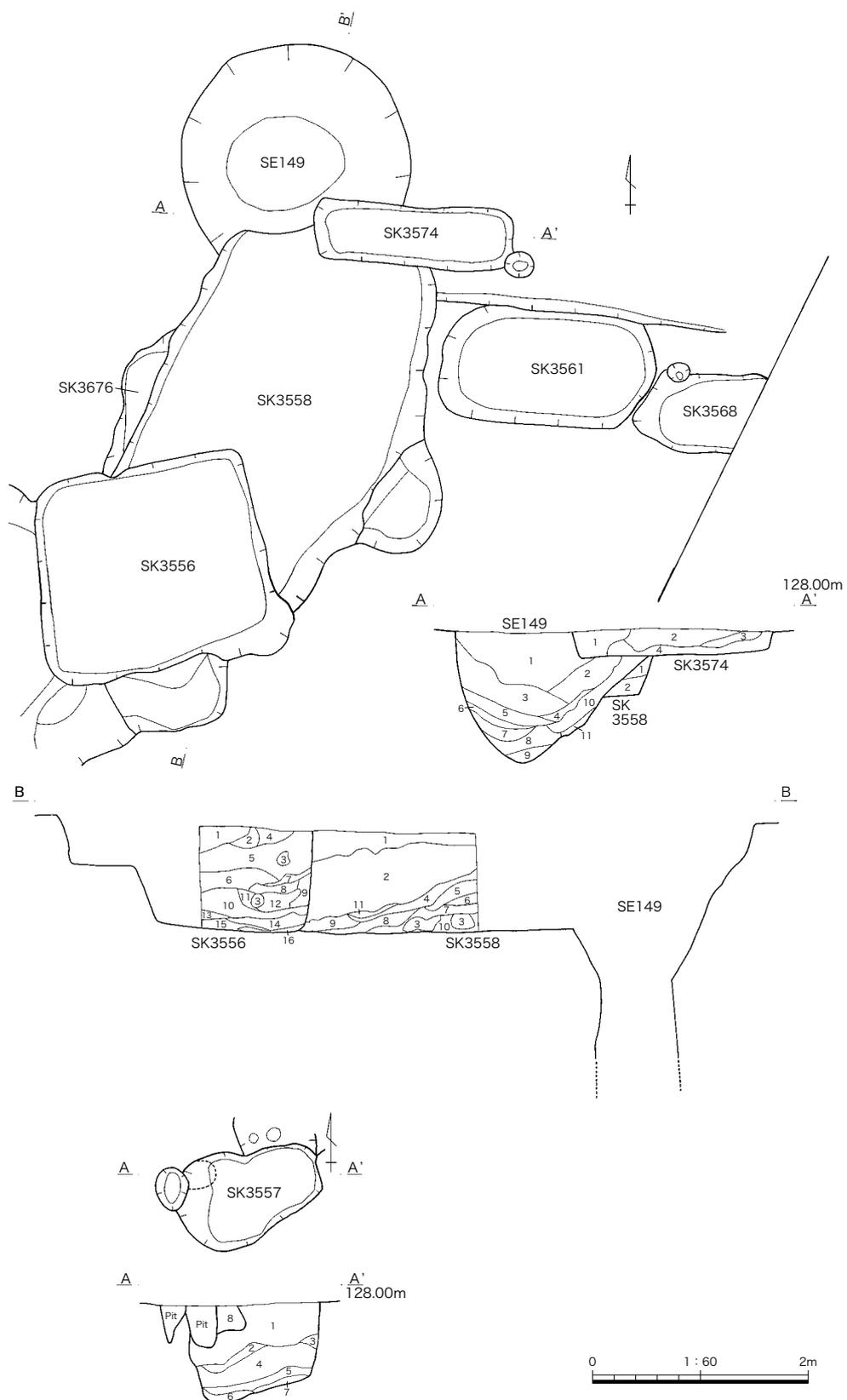
第81図 地下式坑 (35) SK3162・3543・3544・3548



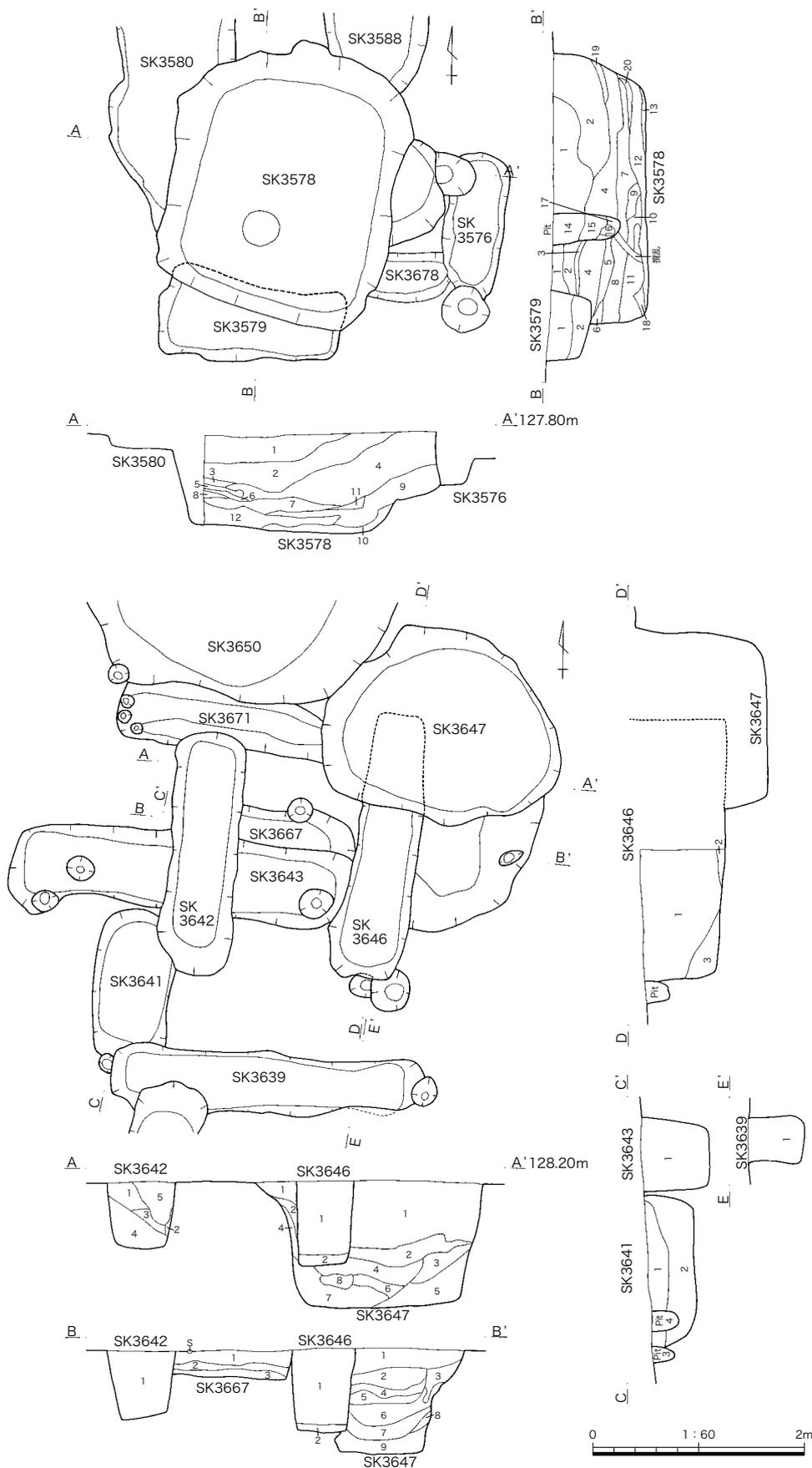
第 82 図 地下式坑 (36) SK3550・3589・3735



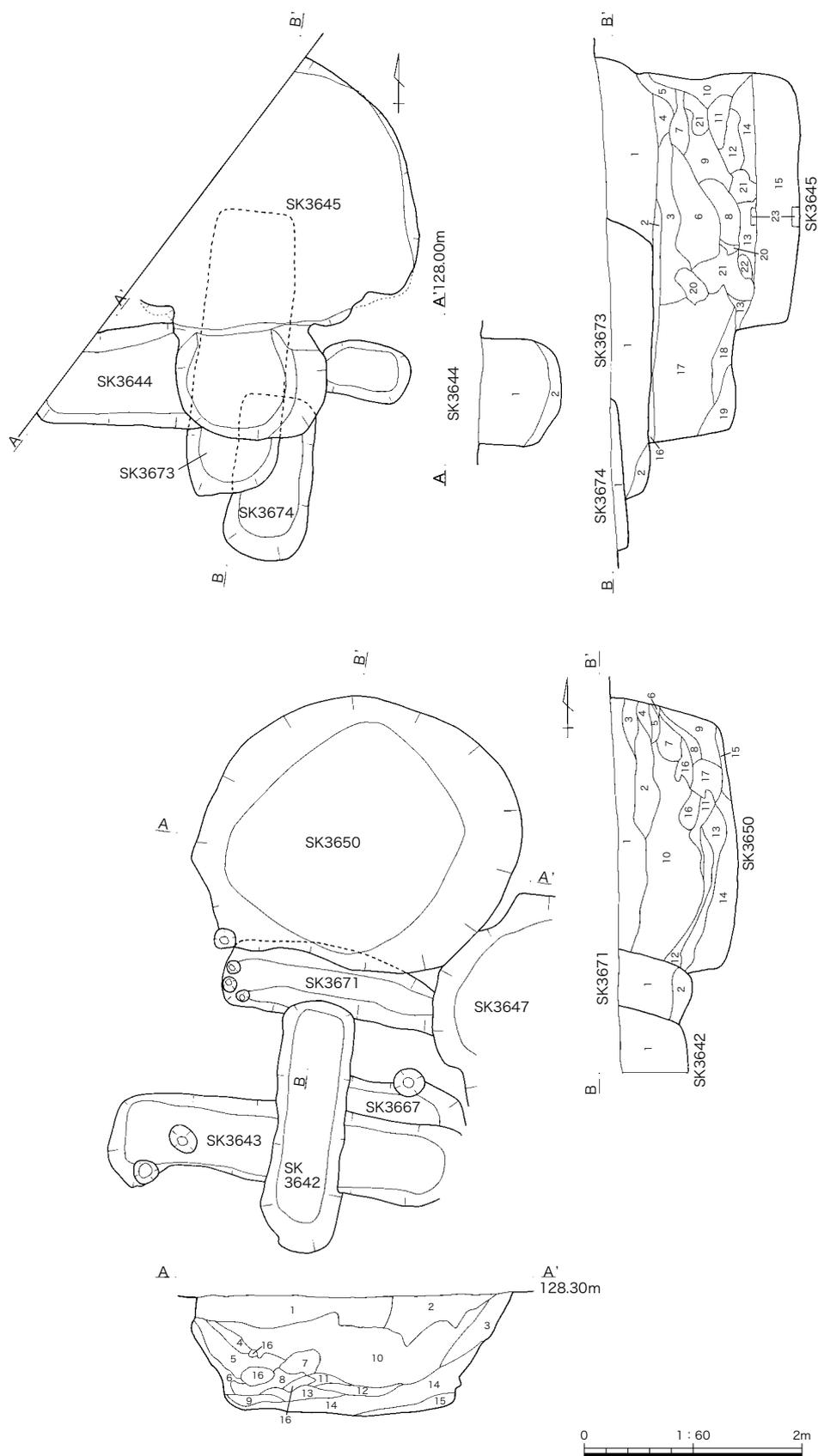
第 83 図 地下式坑 (37) SK3555・3556



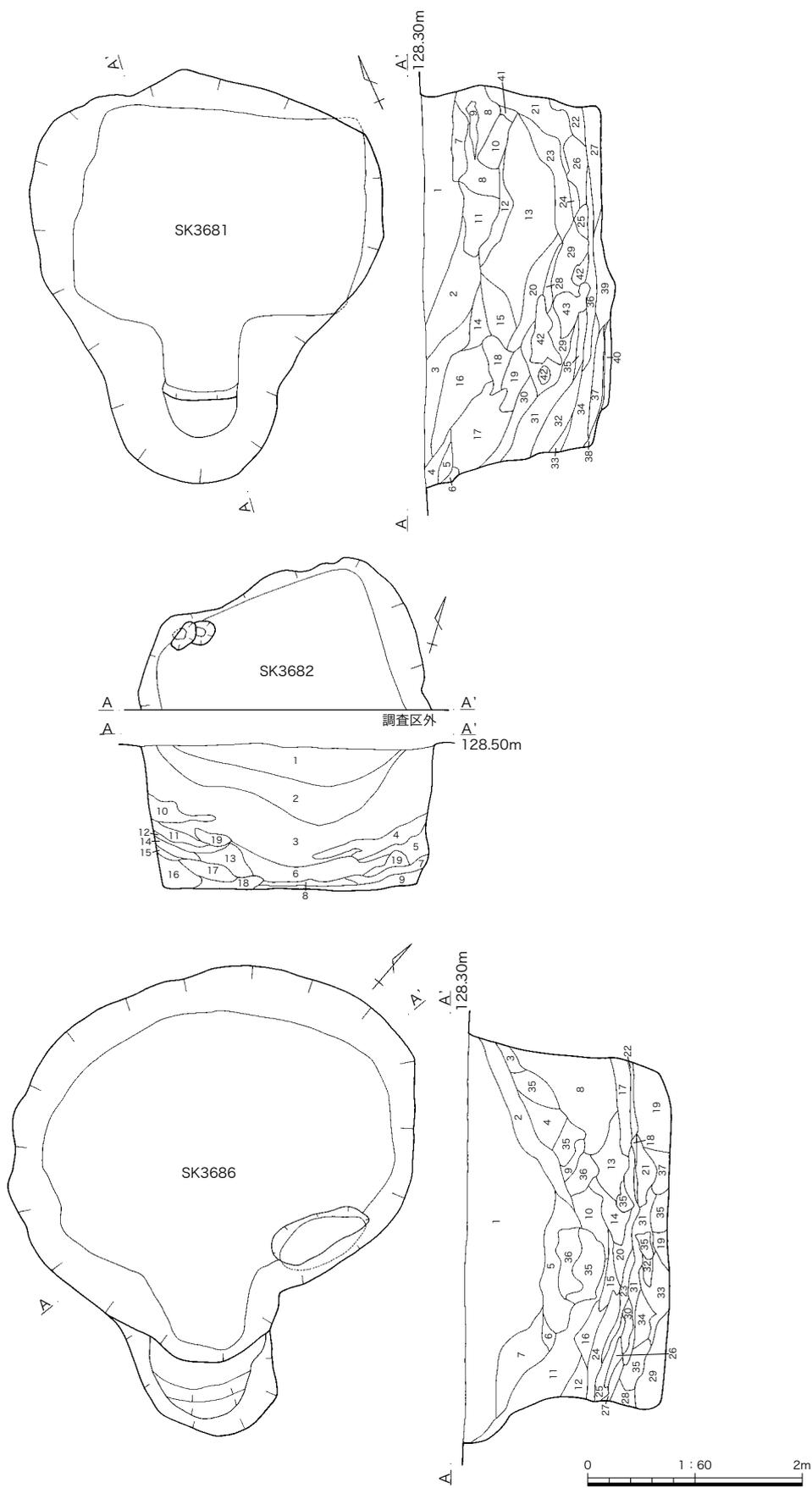
第84図 地下式坑 (38) SK3556・3557・3558



第85圖 地下式坑 (39) SK3578・3647



第86図 地下式坑(40) 3645・3650



第87図 地下式坑 (41) SK3681・3682・3686

第3節 井戸

本遺跡で確認された井戸は総数 159 基である。遺跡中央の SD27 区画・SD02 区画の内部に位置するものが殆どであるが、3 基が区画溝に重複、12 基が区画溝の外側に位置している。外側のうち 2 基は北側調査区、3 基は現薬師堂付近の区画溝東側の遺構集中部、2 基は調査区南東の竪穴遺構やピットがやや集中する区域、2 基は調査区南西の SD48 で区画された範囲内、1 基は調査区南西やや北の、これも溝で区画された範囲内、という状況である。

形態的には、上端円形、上端径 1～2 m 程度である。多くの井戸は深さ 1～1.5 m 程度で、掘削調査を断念しており、深さは殆どが不明である。断ち割り調査で掘削し得た SE165 が深さ 6.5m 程度まで確認、他 SE03,04 が 4～4.5m 程度の深さを確認している。この SE165 では底面で竹の出土が確認されている。また覆土についても、大きさ・深さから記録をとり得なかったものも多い。断ち割り調査を行った SE165 では、ローム層下の粘土層まで掘り込んでいることが確認されているが、多くがローム層・鹿沼軽石層を掘り込んでいることは間違いないようである。

形態概要

断面では上端から 0.5～1m 程度の壁部分がやや傾斜を有し、以下ほぼ垂直な壁となる円筒形でやや上端近くが広がる形態が多い (SE02,03,14,16,42 等)。上端近くの広がる部分が無く、上端からそのまま垂直に近い傾斜で下方へ至る例 (SE09,20,72) 等もある。また、SE13 は大きな上端幅に対して途中から漏斗状にかなり狭くなる例で、同様の形態は他にも数例ある (SE62,70,97,116,119)。壁の中位でやや膨らむ (広がる) 例 (SE128) も確認される。

SE81 は井戸で扱ったが、1.3m 程度の深さで問題が残る。SE149 も同様に 1.2m 程度とかなり浅く他の用途を考えた方が良くかもしれない。SE144 は上端径 3.2 m 程度とかなり大きい例。井戸の円筒形部分が上端円の中心からずれる例がある (SE25,67,52,85)。

SE140,155,160,165 は壁中位または中位～上位で径 5～10 cm 程度、奥行き 10～30 cm 程度の穴が確認されている例である。とりわけ SE165 は底面近くまで 20 cm 程度の間隔で 17 基が確認されている (第 111 図)。

SE139 では壁の東西対応する位置に奥に向かう横穴が認められる (第 105 図)。

重複では地下式坑・土坑より新しい例が幾つか確認される (SE13,15,27,32、SK238,885 → SE128、SK428 → SE42、SK724 → SE73)。また、長方形土坑と重複する例 (SE07 → SK27,362 → SK246、SE79 → SK1371、SE117 → SK1667,3103 → SE136,137 → SK3052,3698 → SE153)、溝と重複する例 (SD75 → SE08,138 → SD027,051,052 → SE145)、井戸同士の重複例 (SE27 → SE28,146,147) が確認される。

覆土

壁際のローム・今市パミス・鹿沼パミス等が覆土中に入り、これら含有物の種別・量から分層されているが、本遺跡の井戸固有の堆積土・堆積パターンを見いだすには至らない。以下幾つか特徴的な井戸の覆土について触れる。ロームが多い＝人為堆積とは限らず、壁の崩落土も一定程度考える必要はあるが、一定の厚さでブロック状に入る場合は人為堆積の可能性も考えられる。

SE76,126 は覆土にかなり多くのロームが入る例である。SE06 の 4 層はローム主体、SE12 もローム主体層や今市パミス主体層がある。SE27 では最上層の 1 層がローム主体。SE32 では中位から下位でローム主体層、

SE39も全体にローム・KP主体部分が多い。SE64はかなりロームが多い。SE68では1,2層でロームの多さが示されていると共に3層が「固い明褐色土」との所見があり、人為堆積の可能性がある。SE70も同様に1層や4層がローム主体との記録があり、人為堆積の可能性がある。SE158の中～下層4層、SE159の中～下層6層ではローム主体のようであり、これも人為堆積の可能性がある。

一方SE128のように、全体にロームが少ない覆土の例もある。詳細な記録が為されたSE44等も下方壁際ではロームが多いが、中央～上位では黒色土を基本とするようであり、少なくとも上位は自然堆積と推定される。SE119やSE142,5185においても、ローム主体層があるものの、比較的薄い層が壁際から斜方向に堆積しており、少なくとも上位の薄い層が連続的に推移する部分は自然堆積と推定されよう。

分布概要

大きく捉えると、SD02区画内に集中するといえるが(第6図)、その中でも分布に粗密が認められる。SD27区画内では、比較的まんべんなく分布しているが、南東部にやや多い傾向があろうか。SD02台形区画内であれば、区画溝付近は少なく、中央寄りの部分に多い傾向とも見られる。以下、1/500,1/100全体図を観察しながら、他の遺構との関連にも注意して見ていく。

500分の1全体図①

SD27長方形区画部分～外側では、SE5091,5085が北側調査区にあり、溝と近接または重複している。掘立柱建物跡やピット群がやや多い区域であるが、これらの遺構からはやや離れた位置と言えるかもしれない。またSE166はSD46区画溝の北10m程度の位置、SE1422はSD27区画溝と重複する井戸である。

100分の1全体図B

SD27区画北東側のピットや方形堅穴がやや集中するところについては、井戸はやや少なめである。ここではピット群集中域があり外側に向かって一方形堅穴集中域一長方形土坑集中域一地下式坑集中域という順の布置関係が捉えられるが、井戸については長方形土坑～地下式坑集中域での分布である。北側でSE151,152等がこれにあたり、やや小さめの例が多いと言えようか。SE153は土坑SK3698(典型的な長方形土坑ではない)より新しい。南側ではSE148,149,150がある。SE149は長方形土坑及び地下式坑と重複しているが既述のように深さ約1.2mと浅い遺構。SE150は溝と重複している。

100分の1全体図C

SD27区画西側の範囲である。ここでは長方形土坑集中部分やピット集中部分があるが、長方形土坑集中域の北縁近い部分にSE134,135,136,119,120がある。SE134～136はやや大きめの円筒形で形態の類似を言えるかもしれない。ピットや土坑が多い区域の割には井戸と重複しておらず、空地への設営と言えなくもない。やや南側へ目を転じてみるとSE131やSE133,139等も遺構が希薄なゾーンに単独的に布置されているようにも見える。SE118はSD27区画溝南辺に近い位置だが、この北側には建物跡が推定できるピット群があり、或いは関連があるかもしれない。一方SD27区画中央寄りのゾーンであるところにSE85,86,95,100と4基の集中がある。SE100は上端径2.5mを超えるやや大きめの井戸である。

100分の1全体図D

SD27区画中央～東側の範囲である。SD12の西側で長方形土坑の集中域があるが、この部分では井戸は少なくSE82,69,78等散漫に分布すると共に、いずれもやや規模が小さいという傾向があるかもしれない。

SD12 東で長方形土坑集中域を囲むような地下式坑集中域（列状に並ぶ区域）があるが、ここでの井戸は一定数の分布が確認される。地下式坑と重複している例もあるが（SE13,50,51）、やや離れたところにまとまっているようなところもある（SE124,145,146）。長方形土坑とも重複例があるものの（SE64 等）、総じて排他的な分布傾向にあると捉えられよう。

100 分の 1 全体図 E

SD02 区画西側の範囲である。ここでも北側の SD27 区画内と概ね近い傾向を示す。つまりこの分布図の中央、SD02 区画溝西辺の中央から東側にかけて長方形土坑小数+ピット多数の区域が 23×20 m 程度の範囲で認められるが、この範囲では縁辺に少数井戸があるのみ（SE54,57,74）で、この内部には地下式坑同様、井戸も見られない。更にその外側をやや広く観察しても、SE89,93,20,105,106 等やや散漫な分布を示している。地下式坑が南北帯状の範囲に集中するが、これとの相関関係も見だしにくい。ある地下式坑の周りに数基の井戸というような関係が、例えば SK1096 地下式坑－SE105,108,106 井戸群のように見えるところもあるとは言え、この相関関係についての積極的な判断はし難いように思える。

100 分の 1 全体図 F

SD02 区画ほぼ中央の範囲である。この分布図中央の広い部分が長方形土坑集中域となっているが、他区域同様、ここへの井戸分布は薄い傾向にある。但し SE38,39 等少数は認められ、地下式坑程の排他的関係ではないとも言えようか。この長方形土坑集中域の北側や南側、西側において一定数の井戸がある。顕著な集中域とは言えないが、北西側 SD10 の東側でやや多い傾向が認められる。ここには SE16,44,17 のような大きめの井戸と SE11,12 のような小さめの井戸両者がある。SE15-SK264,SE104-SK1433 のように地下式坑と完全に重複する例もあるが、隣接やわずかにかかる重複のパターンの方が多いかもかもしれない（SE127-SK880,SE42-SK428,SE16-SK609,SE06-SK686,SE10-SK203）。これらでは、SE42 のように、地下式坑より新しい事例の方が多きようである。また地下式坑集中域にある井戸については、やや大きめの井戸がある、という傾向も見いだせる可能性がある。

100 分の 1 全体図 G

SD02 区画東側の範囲である。まずこの分布図右上、北東方向の現薬師堂周辺の長方形土坑集中域内、南東に 2 基の井戸が確認される（SE163,164,165）。長方形土坑に隣接しながらも重複していない点に注意される。SE165 は断ち割りを行った深い井戸である。SD02 区画内を見ると、ここでも長方形土坑集中域の縁辺に井戸があることが確認される。言い換えれば地下式坑集中域と概ね同じ布置関係、ということになる。SE01-SK025,SE30-SK391 のように、土坑－地下式坑隣接（重複）例が幾つか確認される。SE128,SK885,240,238,SE37 の集中部分（第 94 図）についても、こうした隣接重複布置の変異と捉えられるかもしれない。

500 分の 1 全体図②

SD02 区画内南側及び周辺の範囲である。ここでは南東に地下式坑がやや集中するところがあるが、井戸については散漫な分布である。ここでも SE73-SK724 のような隣接重複例がある。また SD02 南辺区画溝の北 12m 程度の範囲でピット群があり、この北側で地下式坑数基と井戸 2～3 基という組み合わせパターンゾーンが認められる。井戸に即して言えば SE24,25,90,107,112 の 5 基である。上端径 1m 未満の小さめの井戸が

多い傾向にあるのか。

SD20 西側の区画内及び周辺にも少数の井戸がある (SE140,141,143)。近くに掘立柱建物跡群があるが、一定の距離を有したところに位置している。

500 分の 1 全体図③

SD02 区画より南側の範囲である。ここでは全体に遺構分布が散漫で地下式坑は分布していないが、南東に方形竪穴及びピットがやや集中する区域があり、ここに 2 基の井戸 SE125,126 がある。いずれもやや大きめの井戸である。西の方に目を転じると、調査区南西の SD48 に区画された範囲内に 2 基の井戸 SE167,168 がある。またこれより北で南北溝 SD64 の西側の範囲で 1 基の井戸 SE144 がある。これは上端径 3m を超える大きめの井戸である。

遺物の出土事例

SE05 (第 88 図、SD02 区画内南東入り口付近) から 81 瀬戸美濃系天目茶碗 (17 世紀) と共にかわらけ 461 ~ 463 が出土している (第 433 図 写真図版 33-3)。SE13 は石臼数点の出土がある (第 433 図)。SE58 出土の 84、SE137 出土の 87 は 17 世紀と推定される陶磁器。SE143 や SE144 出土の陶磁器は 18 ~ 19 世紀代。SE164 は現薬師堂地区内の井戸で陶磁器以外の遺物も五輪塔・かわらけ等があり、時期幅が認められようか。

同じく薬師堂地区周辺の SE165 から比較的多くの遺物が出土し、五輪塔等も見られるが、陶磁器 101-103 は 18-19 世紀と推定されるもので、こちらも時期幅を考えた方が良いかもしれない。陶磁器が比較的多く出土した SE5091 は区画溝から大きく離れた北側の調査区で確認された井戸である。近世でもやや新しい陶磁器が比較的まとまって出土し、併せてすり鉢 753-755 (堺産含む) が出土している。

かわらけは 1 ~ 数点の出土事例が幾つか確認される。SE44 (第 95 図 SD02 台形区画内中央北寄り、中央長方形土坑集中域の北西縁辺) よりはかわらけ 22 点がまとまって出土した。井戸内覆土やや上位からの出土が多いようである (写真図版 34-8)。やや大きめの井戸で、土層断面記録では少なくとも上位は自然堆積のように観察される。

内耳土器は井戸出土例が少なく、図示遺物では SE81 出土の 708、SE115 出土の 709 を挙げられるに過ぎない。SE115 ではかわらけや五輪塔も出土しており、共伴関係となろうか。すり鉢では SE16 出土の 748、SE56 出土の 750 等がある。SE16 (第 91 図 SD02 区画内長方形土坑集中域北西縁辺でやや大きめの井戸) ではかわらけの出土もある (第 433 図)。砥石は幾つかの井戸から 1 ~ 数点の出土がある。石臼・茶臼も幾つかの井戸から出土している (第 433 図)。硯は SE06 から 1 点、SE13 及び SE95 からの各 1 点を図示した。

五輪塔は SE128 より 10 点出土しており、特徴的である。同じ井戸から出土した陶磁器 86 は 15 ~ 16 世紀の貿易陶磁で、時期は概ね整合するか。この井戸からは、竹と木による不明木製品も出土している。この SE128 は SD02 区画内南東入り口近くの長方形土坑集中域北西縁辺にあって、地下式坑 SK885,240,238 と重複している井戸である (第 94 図)。この他では既述のように SE164,165 で五輪塔数点の出土がある (第 435 図)。この 2 基は既述のように、現薬師堂近くの長方形土坑群内に位置しているものである。

井戸出土で特徴的な遺物として、木製品・竹製品がある (第 426 図)。SE04 からは、かわらけと共に、椀、柄杓、筒状の木・竹製品が出土している。この井戸は SD02 区画南東入り口部近くの小さめの井戸で、底面まで調査し得た例である。

第3章 確認された遺構

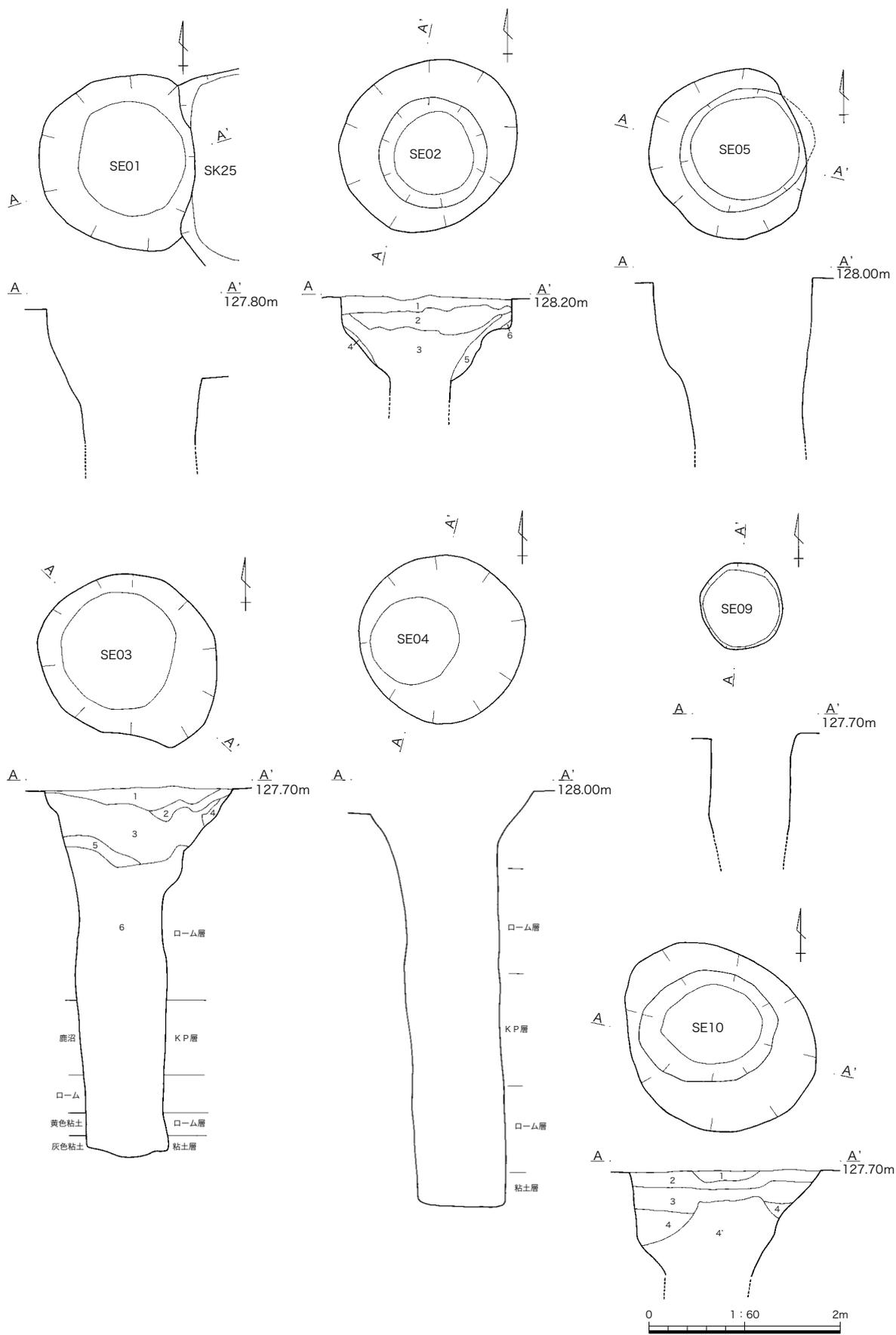
第4表 井戸一覧表

遺構番号	遺構種類	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	出土遺物種類	全体図での位置	図番号
SE-01	井戸跡	キ6G4	1.94	(1.64)	内耳土器 かわらけ 陶磁器	1/100 G-⑧	88
SE-02	井戸跡	キ6G4	1.94	1.72		1/100 G-⑧	88
SE-03	井戸跡	キ2G5	1.94	1.70	陶磁器(とっくり) 木片 イガ栗	1/100 F-⑤	88
SE-04	井戸跡	キ5G5	1.77	1.74	内耳土器 かわらけ 陶磁器 木製品(椀 柄杓等) 木の実(種) 磨石	1/100 G-③	88
SE-05	井戸跡	キ5G5	1.78	1.71	内耳土器 かわらけ 陶磁器 鉄滓	1/100 G-③	88
SE-06	井戸跡	キ3G6	1.92	1.88	内耳土器 かわらけ 土製品 砥石 硯	1/100 F-⑥	89
SE-07	井戸跡	キ1G5	1.28	1.12		1/100 F-⑤	89
SE-08	井戸跡	キ1G5	1.50	1.38		1/100 F-⑤	89
SE-09	井戸跡	キ1G6	0.89	0.83	内耳土器 かわらけ 陶磁器(卸皿) 砥石	1/100 F-⑥	88
SE-10	井戸跡	カ9G5	2.16	1.74	内耳土器 かわらけ 陶磁器 すり鉢 砥石 石製鉢	1/100 F-⑧	88
SE-11	井戸跡	キ1G1	1.43	(1.31)		1/100 F-⑩	89
SE-12	井戸跡	キ1G1	1.30	(1.24)	かわらけ	1/100 F-⑩	89
SE-13	井戸跡	カ9F9	2.49	2.10	内耳土器 かわらけ 砥石 硯 鉄釘 石臼	1/100 D-③	90
SE-14	井戸跡	キ0G0	1.42	1.59		1/100 F-①	89
SE-15	井戸跡	キ0G0	1.15	1.15	内耳土器 かわらけ すり鉢 火鉢 砥石	1/100 F-①	91
SE-16	井戸跡	キ0G1	2.88	2.50	内耳土器 かわらけ すり鉢 石臼	1/100 F-①	91
SE-17	井戸跡	キ1G0	2.30	2.09	内耳土器 かわらけ	1/100 F-⑩	91
SE-18	井戸跡	キ1G0	1.66	1.42		1/100 F-⑩	89
SE-19	井戸跡	キ1G1	1.21	1.15		1/100 F-⑩	91
SE-20	井戸跡	カ7G6	1.21	1.10		1/100 E	91
SE-21	井戸跡	キ3G4	2.05	1.66		1/100 F-⑤	91
SE-22	井戸跡	キ0G1	2.23	1.74	内耳土器 かわらけ 陶磁器 香炉 砥石	1/100 F-①	92
SE-23	井戸跡	カ9G7	0.86	0.75		1/100 F-③	92
SE-24	井戸跡	カ7G7	1.46	1.36	内耳土器 かわらけ 土器	1/500 2-⑧	92
SE-25	井戸跡	カ7G7	0.88	0.77		1/500 2-⑧	92
SE-26	井戸跡	カ9G7	1.20	1.16	内耳土器 かわらけ 鉄滓	1/100 F-③	92
SE-27	井戸跡	キ6G3	(0.99)	(0.68)		1/100 G-⑧	92
SE-28	井戸跡	キ6G3	1.42	(1.10)	内耳土器	1/100 G-⑧	92
SE-29	井戸跡	キ6G2	1.13	0.93	内耳土器	1/100 G-⑧	92
SE-30	井戸跡	キ5G3	1.94	1.72		1/100 G-⑧	92
SE-31	井戸跡	キ3G6	0.83	0.78		1/100 F-⑥	93
SE-32	井戸跡	キ3G6	1.11	1.02		1/100 F-⑥	93
SE-33	井戸跡	キ4G6	1.76	1.64	内耳土器 かわらけ 陶磁器 香炉 鉄製品	1/100 G-③	93
SE-34	井戸跡	キ1G2	1.01	0.86		1/100 F-⑩	93
SE-37	井戸跡	キ4G2	(1.32)	1.57		1/100 G-⑧	94
SE-38	井戸跡	キ2G3	1.73	1.70		1/100 F-⑤	93
SE-39	井戸跡	キ3G4	1.69	1.58		1/100 F-⑤	93
SE-40	井戸跡	キ2G5	0.96	0.86		1/100 F-⑤	95
SE-41	井戸跡	キ2G2	1.34	1.18		1/100 F-⑩	95
SE-42	井戸跡	キ1G2	1.50	1.28	内耳土器	1/100 F-⑩	95
SE-43	井戸跡	キ1G1	1.60	1.40	内耳土器 石臼	1/100 F-⑩	96
SE-44	井戸跡	キ0G2	2.28	2.25	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石 鉄滓 鉄製品 古銭 石臼	1/100 F-①	95
SE-45	井戸跡	キ0G2	0.88	0.80		1/100 F-①	96
SE-46	井戸跡	キ0G4	2.05	1.87		1/100 F-⑧	96
SE-50	井戸跡	カ9F8	1.28	1.26		1/100 D-③	96
SE-51	井戸跡	カ9F8	1.86	1.74	石臼	1/100 D-③	96
SE-52	井戸跡	カ9G2	1.77	1.71	内耳土器 かわらけ	1/100 F-①	96
SE-53	井戸跡	カ9G2	0.79	0.77		1/100 F-①	96
SE-54	井戸跡	カ7G4	1.33	1.31		1/100 E	96
SE-56	井戸跡	キ1G1	(1.37)	1.31	かわらけ すり鉢 土器	1/100 F-⑩	96

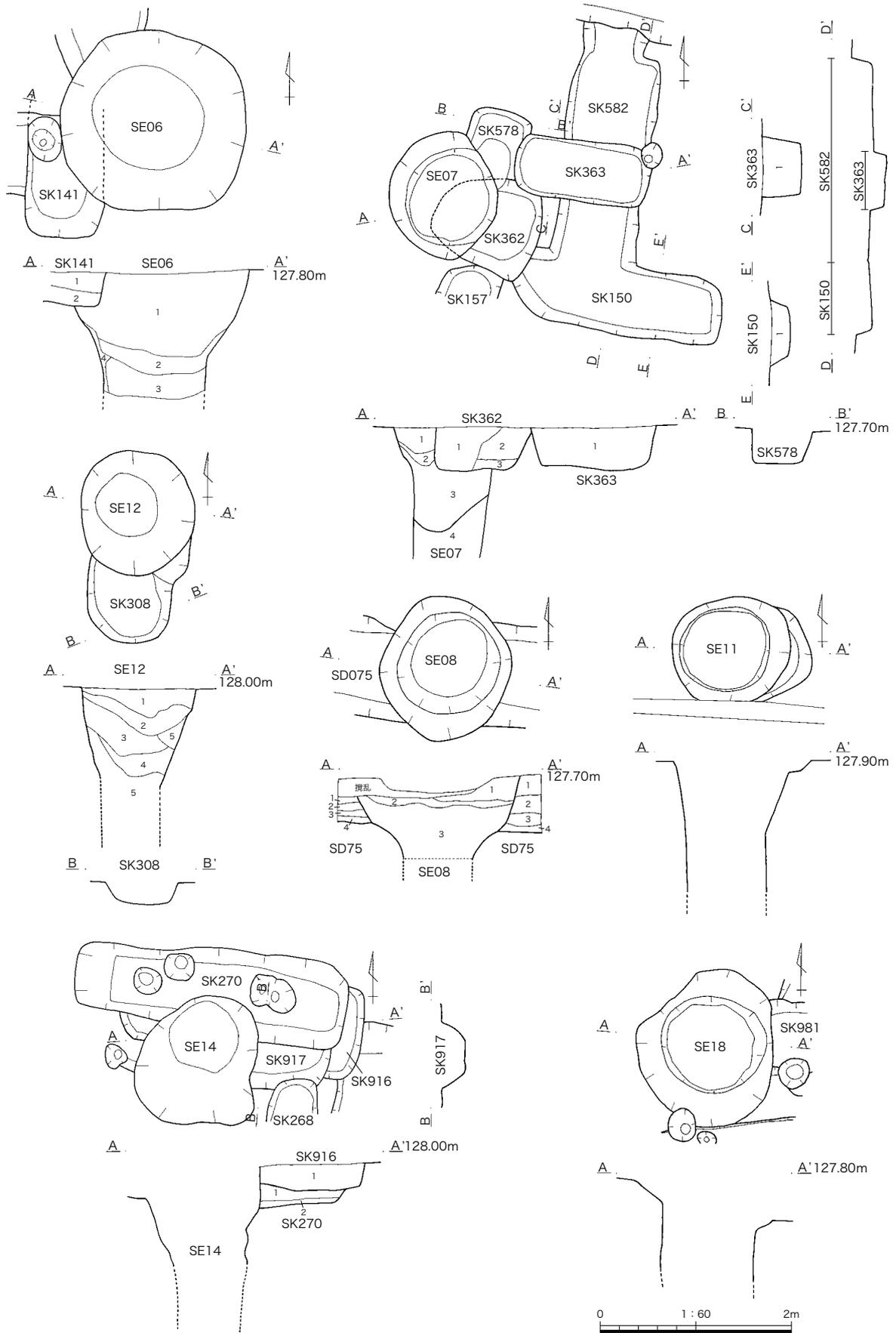
SE-57	井戸跡	カ7G4	1.77	1.69		1/100 E	97
SE-58	井戸跡	カ8G4	1.56	1.50	内耳土器 かわらけ 陶磁器 古銭	1/100 F-⑧	97
SE-59	井戸跡	カ8G4	1.07	0.96		1/100 F-⑧	97
SE-60	井戸跡	キ1G2	1.04	0.94		1/100 F-⑩	93
SE-61	井戸跡	キ1G6	1.00	0.73		1/100 F-③	97
SE-62	井戸跡	キ3G1	1.80	1.64	内耳土器	1/100 F-⑩	97
SE-64	井戸跡	キ1F6	1.00	1.00		1/100 D-⑧	97
SE-65	井戸跡	キ1F6	1.42	1.14	内耳土器	1/100 D-⑧	98
SE-66	井戸跡	キ1F6	1.21	1.00	内耳土器	1/100 D-⑧	97
SE-67	井戸跡	キ0F7	1.76	1.63	内耳土器 かわらけ 鉄滓	1/100 D-⑧	98
SE-68	井戸跡	キ0F7	1.10	1.02		1/100 D-③	98
SE-69	井戸跡	カ6F7	1.24	1.15	内耳土器	1/100 D-①	98
SE-70	井戸跡	キ5G1	2.10	1.98		1/100 G-①	98
SE-71	井戸跡	カ9G6	1.64	1.47	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 F-③	98
SE-72	井戸跡	キ2G7	1.03	0.87		1/100 F-⑥	98
SE-73	井戸跡	キ3G8	1.58	(1.40)		1/500 2-⑧	99
SE-74	井戸跡	カ5G3	1.12	1.12		1/100 E	98
SE-75	井戸跡	キ3G8	1.46	(1.27)		1/500 2-⑧	99
SE-76	井戸跡	キ3G7	1.48	1.28		1/100 F-⑥	98
SE-78	井戸跡	カ6F7	1.38	1.36	内耳土器	1/100 D-①	99
SE-79	井戸跡	カ5F7	1.17	1.00		1/100 D-①	99
SE-80	井戸跡	カ8F7	1.57	1.51		1/100 D-⑧	99
SE-81	井戸跡	カ8F7	1.66	1.59	内耳土器 かわらけ 砥石 石臼	1/100 D-⑧	99
SE-82	井戸跡	カ5F8	1.29	1.24		1/100 D-①	99
SE-83	井戸跡	キ0F6	1.32	1.21		1/100 D-⑧	100
SE-84	井戸跡	カ7G0	0.92	0.86		1/100 E	100
SE-85	井戸跡	カ4F7	1.54	1.46	内耳土器	1/100 C-⑥	100
SE-86	井戸跡	カ3F7	1.93	1.78	内耳土器	1/100 C-⑥	100
SE-87	井戸跡	カ8G6	1.56	1.46	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石 鉄製品	1/100 F-③	100
SE-88	井戸跡	カ8G7	0.79	0.76	内耳土器	1/100 F-③	100
SE-89	井戸跡	カ6G6	1.27	1.24	かわらけ	1/100 E	100
SE-90	井戸跡	カ8G8	0.96	0.90		1/500 2-⑧	100
SE-91	井戸跡	カ8G5	1.00	0.93		1/100 F-⑧	101
SE-92	井戸跡	キ0F8	1.35	1.11		1/100 D-③	100
SE-93	井戸跡	カ7G6	1.10	0.94		1/100 E	101
SE-94	井戸跡	カ6F6	1.48	1.37		1/100 D-①	101
SE-95	井戸跡	カ4F7	2.14	1.94	内耳土器 かわらけ 硯	1/100 C-⑥	100
SE-96	井戸跡	カ9F8	(1.22)	1.06		1/100 D-③	101
SE-97	井戸跡	キ4G7	2.36	2.30	内耳土器 かわらけ 鉄滓 鉄製品	1/100 G-③	101
SE-98	井戸跡	カ6F7	1.23	1.16		1/100 D-①	101
SE-99	井戸跡	カ4F8	1.16	1.05		1/100 C-⑥	101
SE-100	井戸跡	カ4F7	2.56	2.52		1/100 C-⑥	101
SE-101	井戸跡	カ8F6	1.04	1.03		1/100 D-⑧	102
SE-102	井戸跡	カ9F8	1.82	1.25		1/100 D-③	90
SE-103	井戸跡	キ4G0	1.48	1.25	内耳土器 砥石	1/100 G-①	102
SE-104	井戸跡	カ9G6	1.02	0.97	鉄滓	1/100 F-③	102
SE-105	井戸跡	カ7G2	1.65	1.47		1/100 E	102
SE-106	井戸跡	カ6G2	0.83	0.81		1/100 E	102
SE-107	井戸跡	カ9G8	0.93	0.87		1/500 2-⑧	102
SE-108	井戸跡	カ9G6	0.91	0.87		1/100 F-③	102
SE-109	井戸跡	カ7G2	0.91	0.89		1/100 E	102
SE-112	井戸跡	カ9G8	1.33	1.18		1/500 2-⑧	102
SE-114	井戸跡	キ7G2	1.18	1.02		1/100 G-⑤	102
SE-115	井戸跡	カ8G0	1.82	1.64	内耳土器 かわらけ (有孔) 陶磁器 五輪塔	1/100 E 1/100 F-①	102
SE-116	井戸跡	カ8G0	1.91	1.76	内耳土器	1/100 D-③ 1/100 F-①	102
SE-117	井戸跡	カ3F8	(1.23)	1.16		1/100 C-⑥	103
SE-118	井戸跡	カ2F9	2.40	2.03		1/100 C-⑥	103
SE-119	井戸跡	カ2F4	2.38	2.14	内耳土器 かわらけ すり鉢 土器 砥石	1/100 C-⑤	103

第3章 確認された遺構

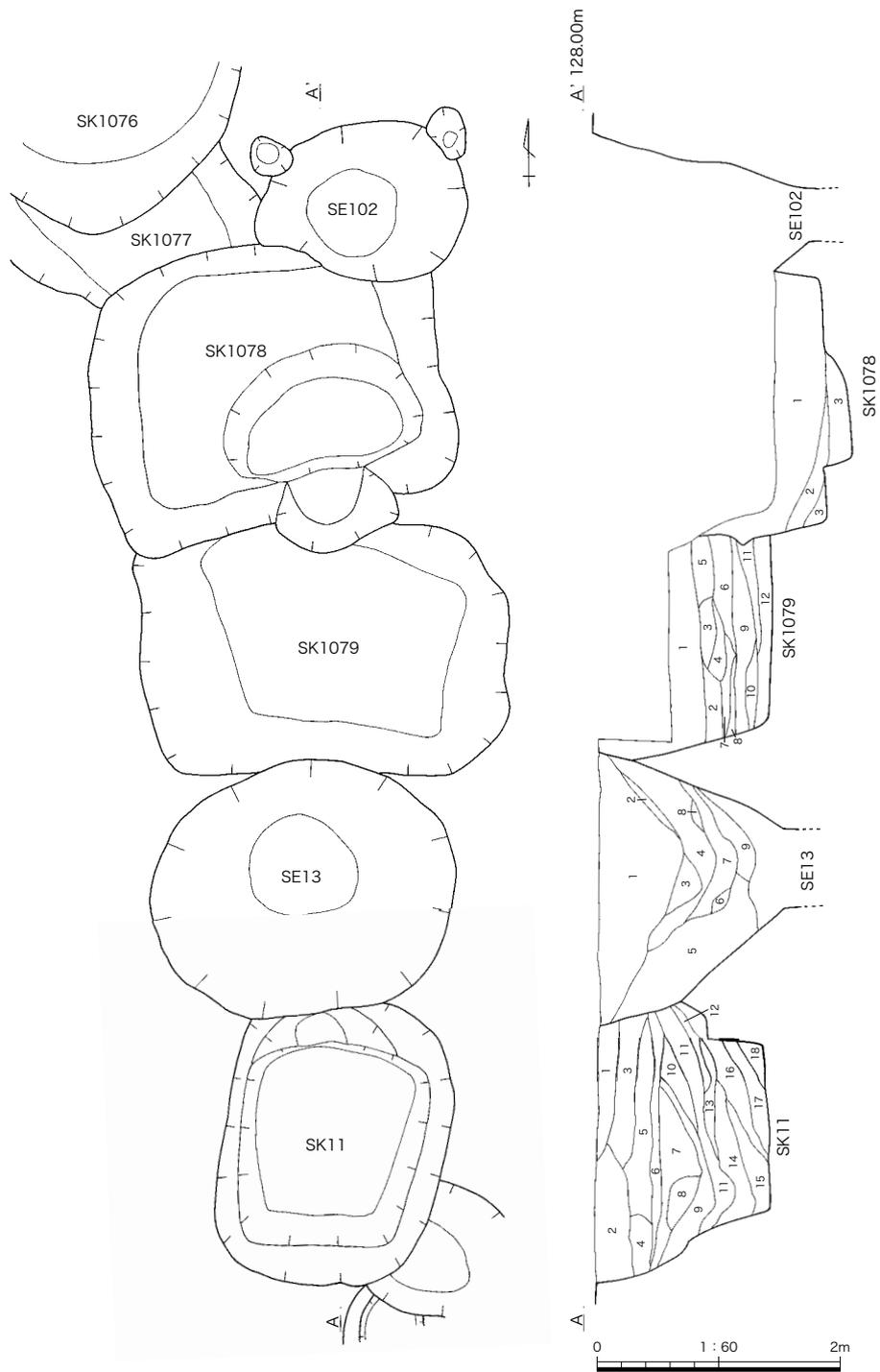
SE-120	井戸跡	カ0F4	2.04	1.80		1/100 C-⑧	103
SE-121	井戸跡	カ8F9	1.59	1.55	内耳土器 かわらけ	1/100 D-③	103
SE-122	井戸跡	カ7G0	2.12	2.07	内耳土器	1/100 E	103
SE-123	井戸跡	カ8F9	0.71	0.68		1/100 D-③	103
SE-124	井戸跡	カ8F8	1.28	1.08		1/100 D-③	103
SE-125	井戸跡	キ5I5	2.82	2.59	砥石	1/500 3-④	104
SE-126	井戸跡	キ5I5	2.00	1.96		1/500 3-④	104
SE-127	井戸跡	キ3G1	2.34	2.24		1/100 F-④	104
SE-128	井戸跡	キ4G2	(2.50)	2.70	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石 鉄滓 五輪塔 石臼 石製鉢 木片 竹製品	1/100 G-⑧	94
SE-129	井戸跡	キ5G4	2.68	2.46	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石	1/100 G-⑧	104
SE-130	井戸跡	キ5G6	0.94	0.94		1/100 G-③	104
SE-131	井戸跡	カ0F5	1.34	1.27		1/100 C-⑧	104
SE-132	井戸跡	カ1F1	1.10	0.78	内耳土器	1/100 C-①	104
SE-133	井戸跡	カ2F6	1.20	1.11	かわらけ	1/100 C-⑤	105
SE-134	井戸跡	カ2F3	1.94	1.62	内耳土器	1/100 C-④	105
SE-135	井戸跡	カ2F3	(2.19)	1.93	内耳土器 陶磁器	1/100 C-④	105
SE-136	井戸跡	カ2F3	2.27	2.24	内耳土器 かわらけ 陶磁器 土器	1/100 C-④	105
SE-137	井戸跡	カ1F6	0.94	0.84	陶磁器	1/100 C-⑧	105
SE-138	井戸跡	オ9F5	0.79	0.73		1/100 C-⑧	105
SE-139	井戸跡	カ1F7	0.90	0.86		1/100 C-③	105
SE-140	井戸跡	オ8G1	2.64	1.64		1/500 2-①	105
SE-141	井戸跡	オ6G5	1.58	1.46	内耳土器 陶磁器 すり鉢	1/500 2-①	106
SE-142	井戸跡	カ5E9	3.20	2.30		1/500 1	106
SE-143	井戸跡	オ9G1	0.80	0.78	内耳土器 かわらけ 陶磁器 すり鉢 土器 砥石 鉄製品 青銅品	1/500 2-①	106
SE-144	井戸跡	オ7H3	3.20	(2.90)	内耳土器 かわらけ 陶磁器 すり鉢 土器 砥石 鉄製品 古銭	1/500 3-①	106
SE-145	井戸跡	カ8F8	1.21	1.16	内耳土器 かわらけ	1/100 D-③	106
SE-146	井戸跡	カ8F9	1.37	1.26		1/100 D-③	106
SE-147	井戸跡	カ8F9	0.84	0.68		1/100 D-③	106
SE-148	井戸跡	カ9F5	1.40	(0.80)	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 D-⑧	106
SE-149	井戸跡	カ9F4	2.08	(1.72)	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 B-⑧	107
SE-150	井戸跡	カ9F4	2.04	1.78	内耳土器 かわらけ 陶磁器 砥石 青銅品	1/100 B-⑧	106
SE-151	井戸跡	キ2F1	1.43	(1.20)	内耳土器	1/100 B-①	107
SE-152	井戸跡	キ1F1	0.99	0.80	かわらけ 砥石	1/100 B-①	108
SE-153	井戸跡	キ1F1	1.14	1.06	内耳土器 かわらけ	1/100 B-①	109
SE-154	井戸跡	キ1F2	1.86	1.43	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 B-①	107
SE-155	井戸跡	キ4G9	1.95	1.94	かわらけ	1/500 2-⑧	108
SE-156	井戸跡	キ1H0	2.02	1.76	内耳土器 かわらけ	1/500 2-⑧	109
SE-157	井戸跡	キ2G8	1.40	1.25		1/500 2-⑧	107
SE-158	井戸跡	キ2G8	1.29	1.15	内耳土器	1/500 2-⑧	108
SE-159	井戸跡	カ2F1	1.34	1.29		1/100 C-④	108
SE-160	井戸跡	キ4G8	0.82	0.74	砥石	1/500 2-⑧	108
SE-161	井戸跡	キ0G9	1.26	1.21	内耳土器 かわらけ 砥石	1/500 2-⑧	110
SE-162	井戸跡	キ4H9	1.28	1.19	かわらけ 土器 炭 鉄製品	1/500 3-③	108
SE-163	井戸跡	キ8G0	1.20	1.19		1/100 G-④	110
SE-164	井戸跡	キ9G0	2.52	2.46	内耳土器 かわらけ 陶磁器 すり鉢 土器 像(頭部) 砥石 鉄製品 五輪塔 石臼 木材	1/100 G-④	110
SE-165	井戸跡	キ9G0	2.36	(2.24)	内耳土器 かわらけ(有孔) 陶磁器 土器 砥石 五輪塔 石臼 鉄製品 木製品	1/100 G-④	111
SE-166	井戸跡	キ1E7	2.90	2.62	古銭	1/500 1	110
SE-167	井戸跡	オ9I2	1.36	1.34	内耳土器	1/500 3-⑧	108
SE-168	井戸跡	オ9I3	0.89	0.88		1/500 3-⑧	108
SE-5091	井戸跡	ク4D7	3.34	3.08	内耳土器 かわらけ 陶磁器(火 鉢?) すり鉢 土器 砥石	1/100 A-①	112
SE-5185	井戸跡	ク7E0	3.35	3.17		1/100 A-⑧	112



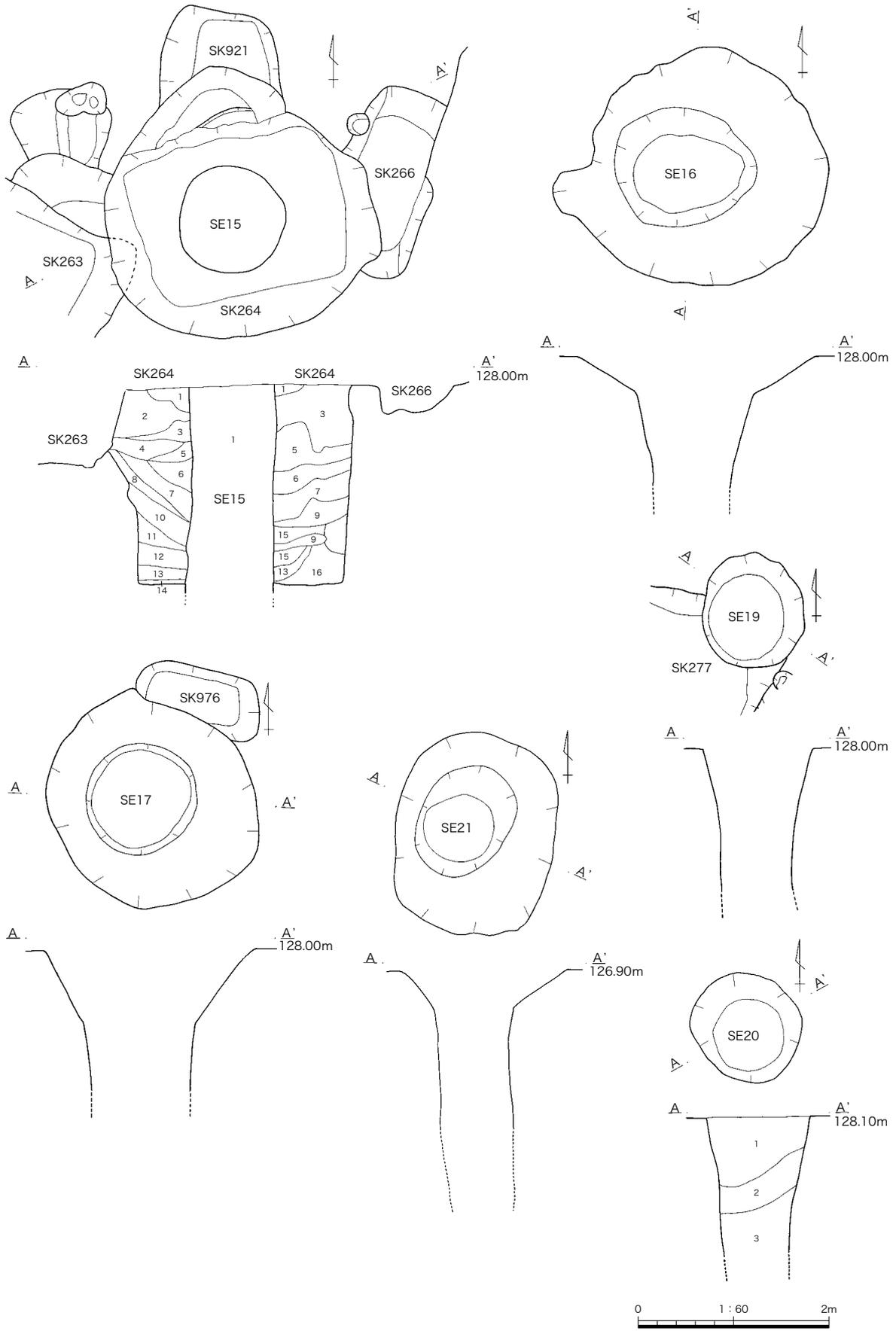
第88図 井戸 (1) SE01・02・03・04・05・09・10



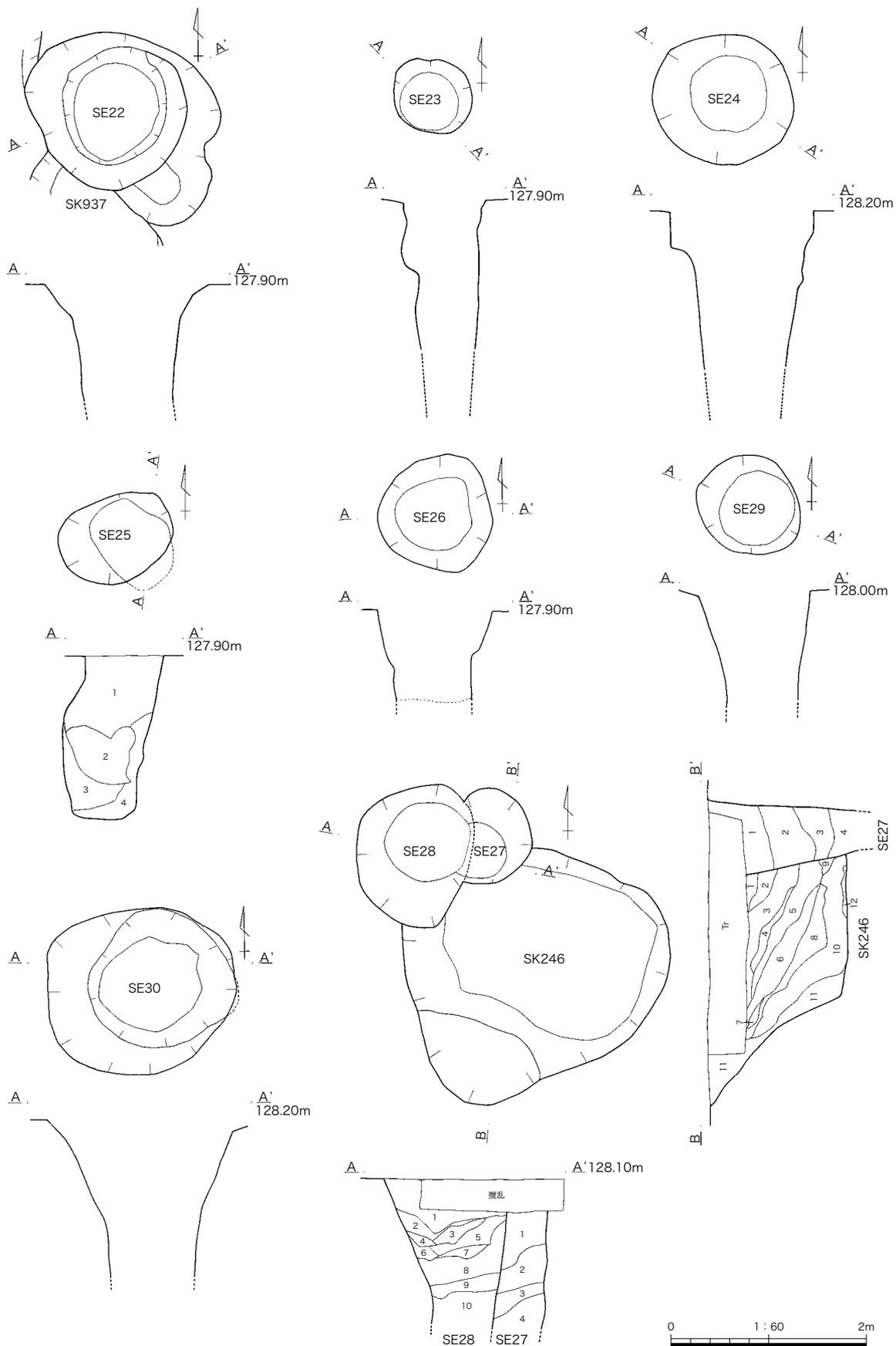
第89図 井戸(2) SE06・07・08・11・12・14・18



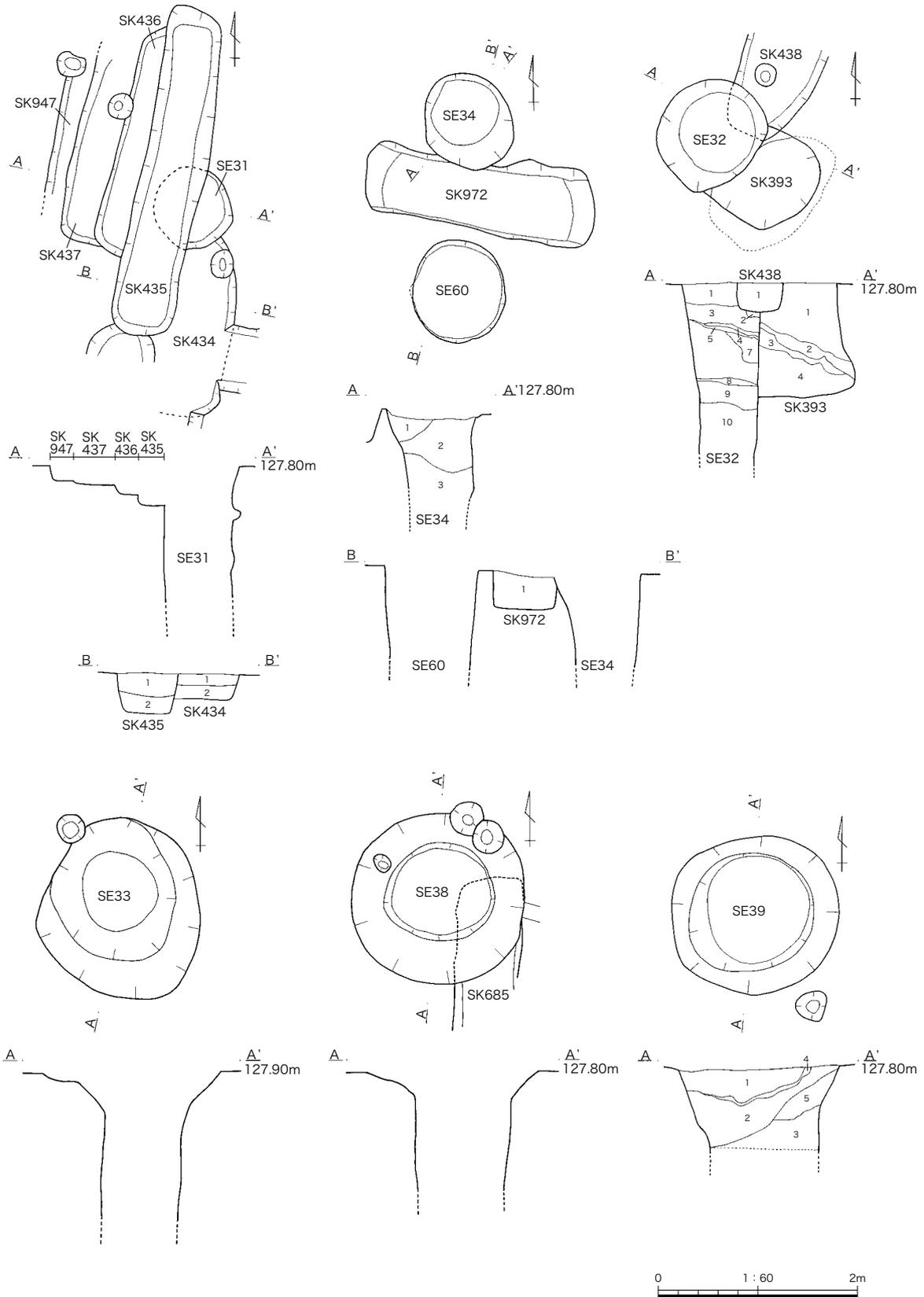
第90図 井戸 (3) SE13・102



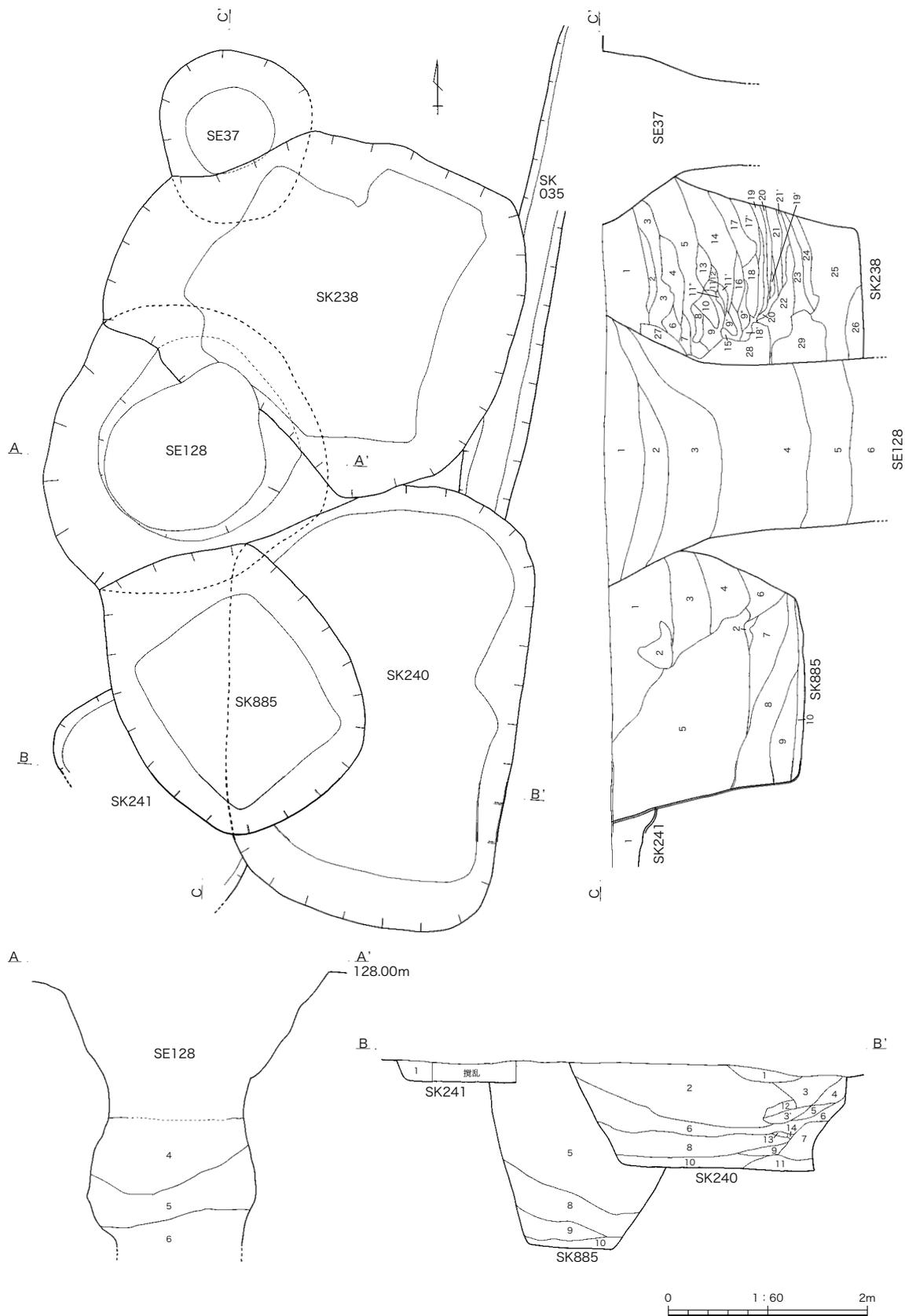
第91図 井戸(4) SE15・16・17・19・20・21



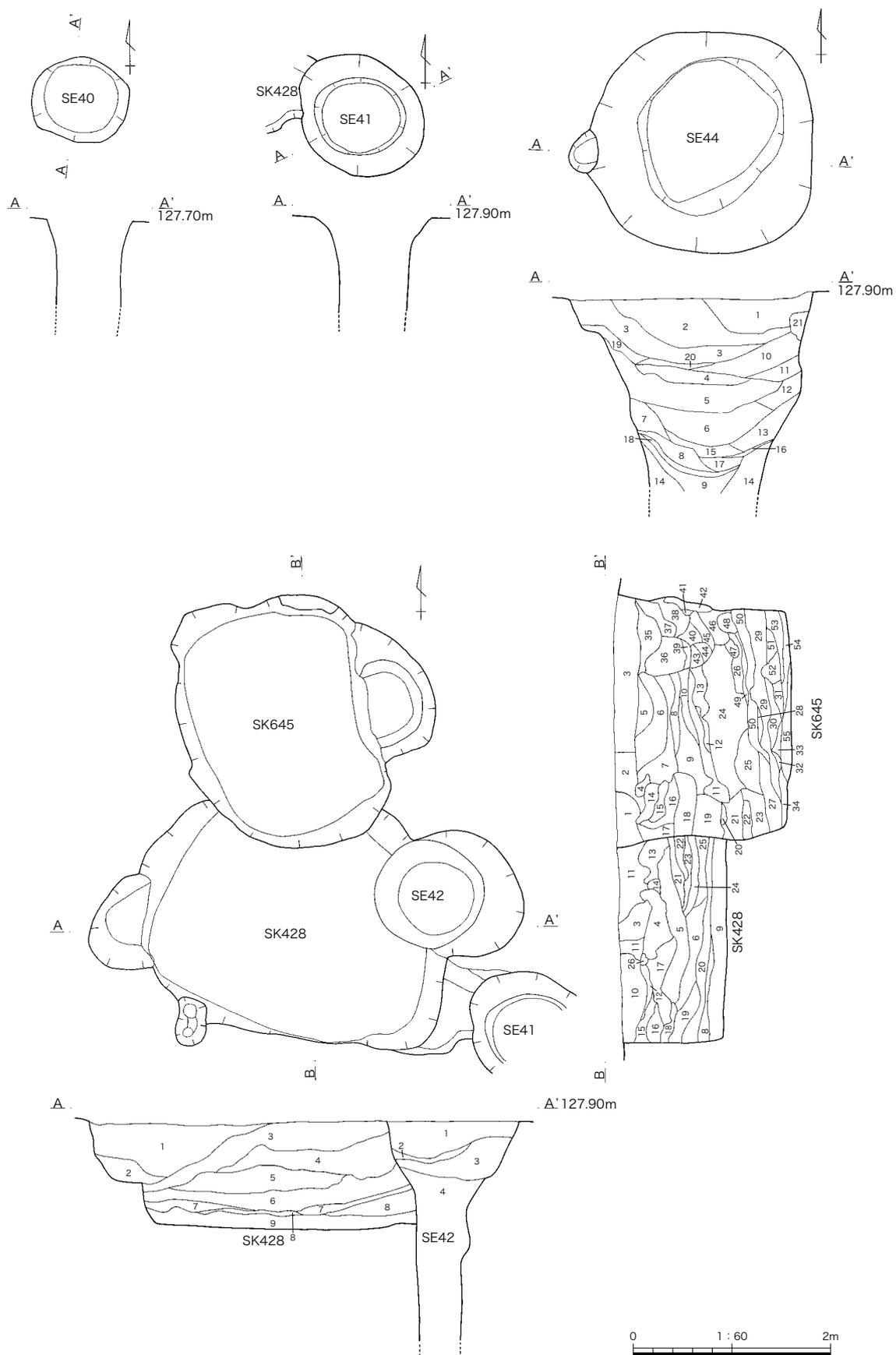
第92図 井戸 (5) SE22・23・24・25・26・27・28・29・30



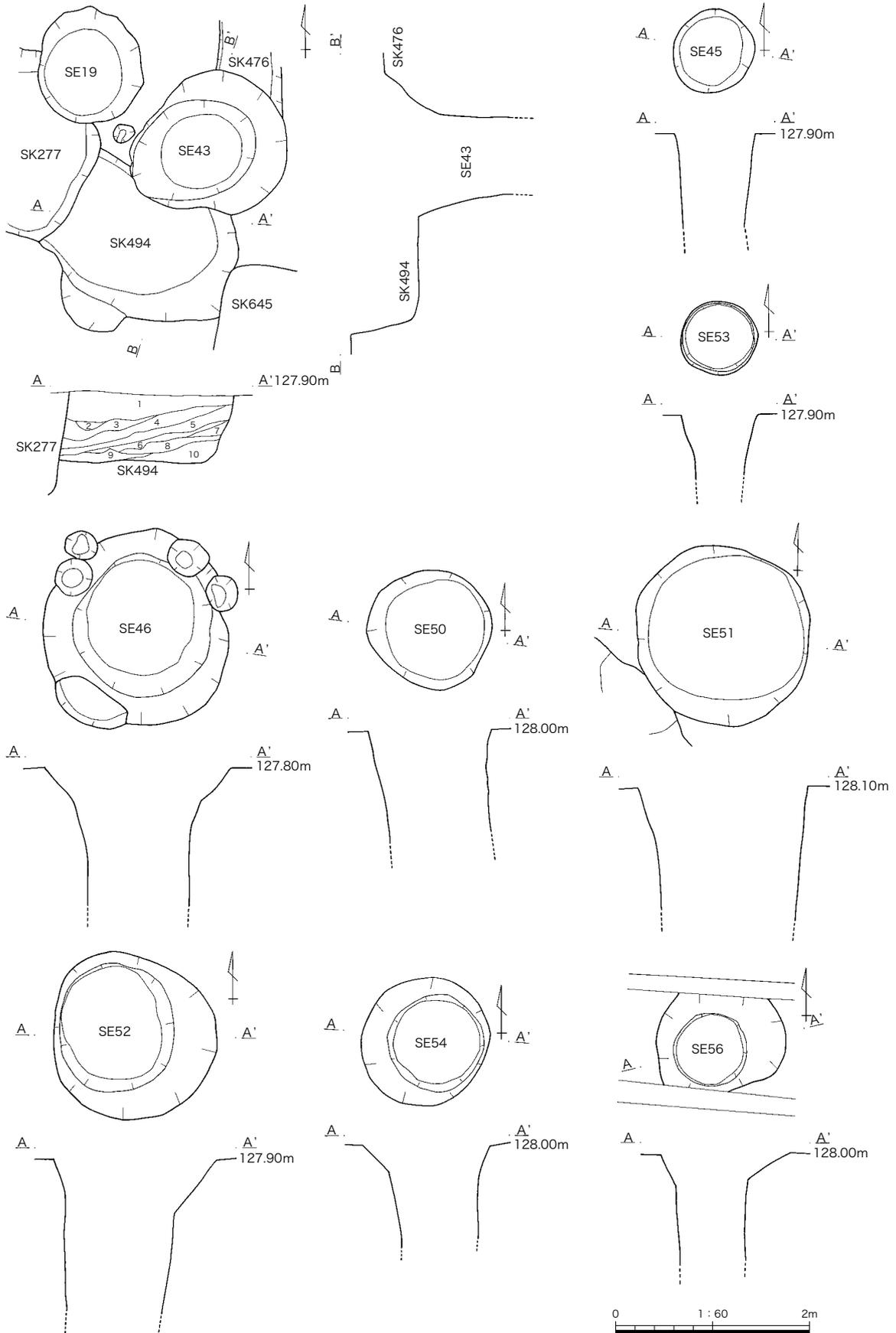
第93図 井戸 (6) SE31・32・33・34・38・39・60



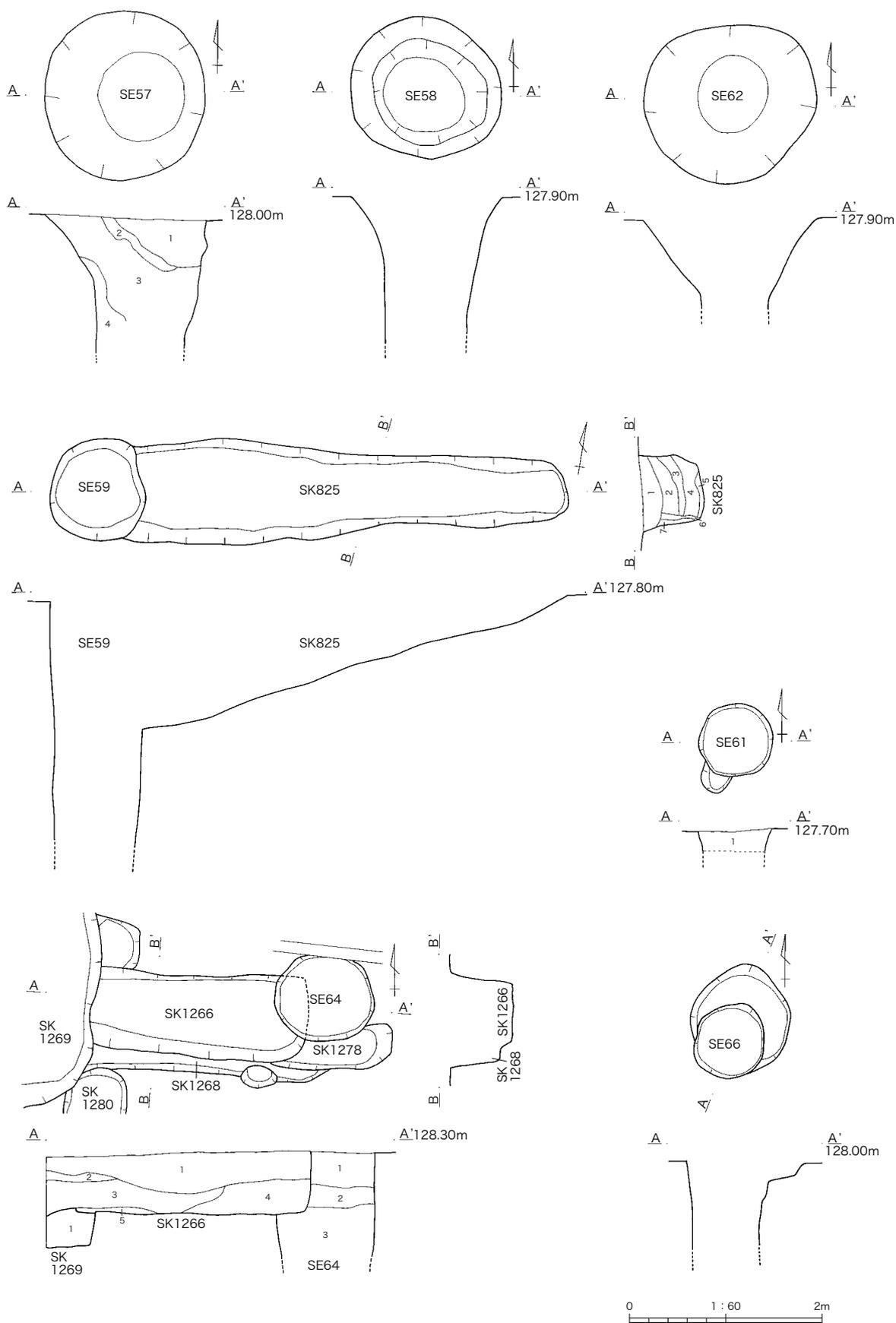
第94図 井戸 (7) SE37・128



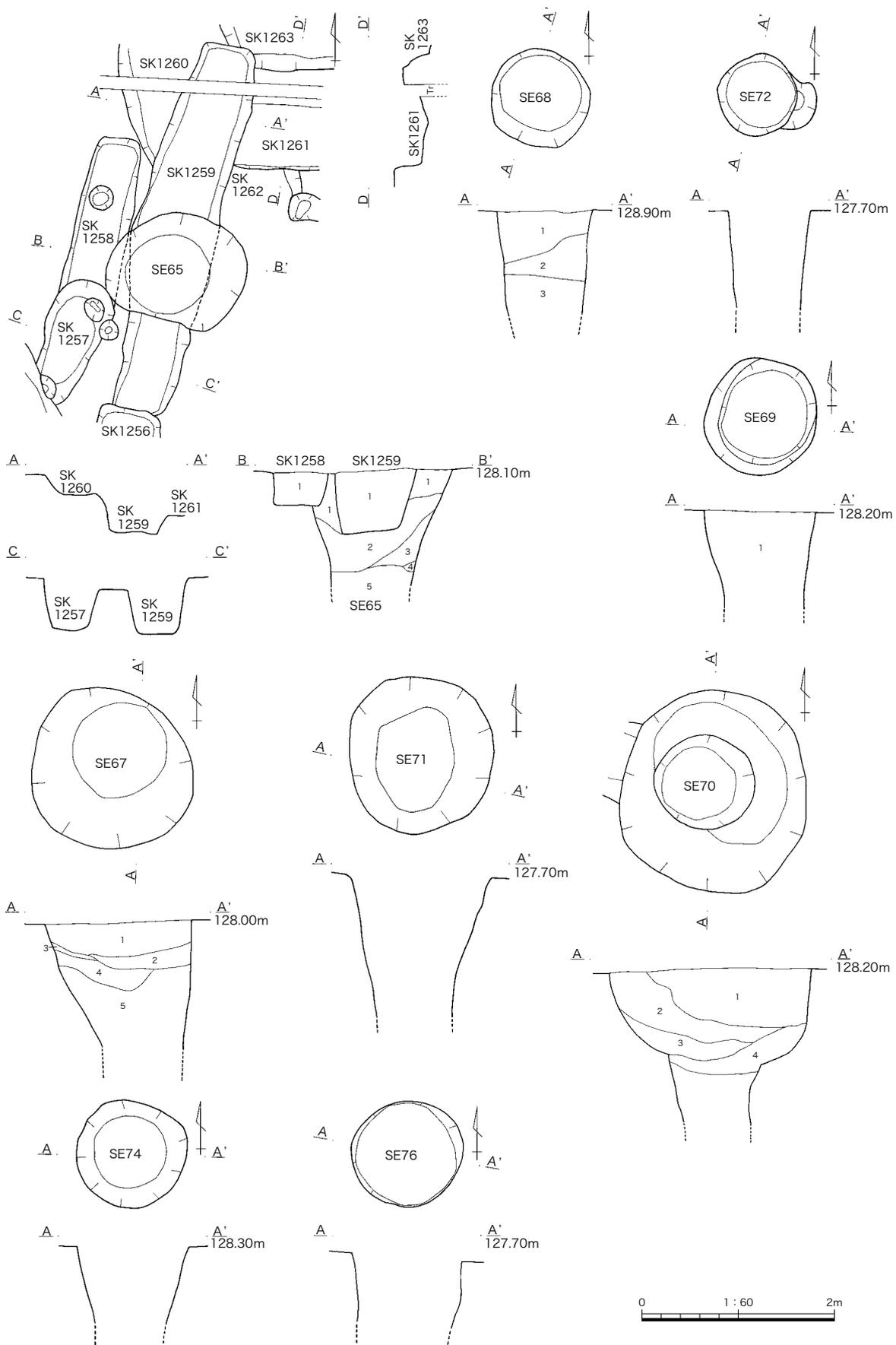
第95図 井戸(8) SE40・41・42・44



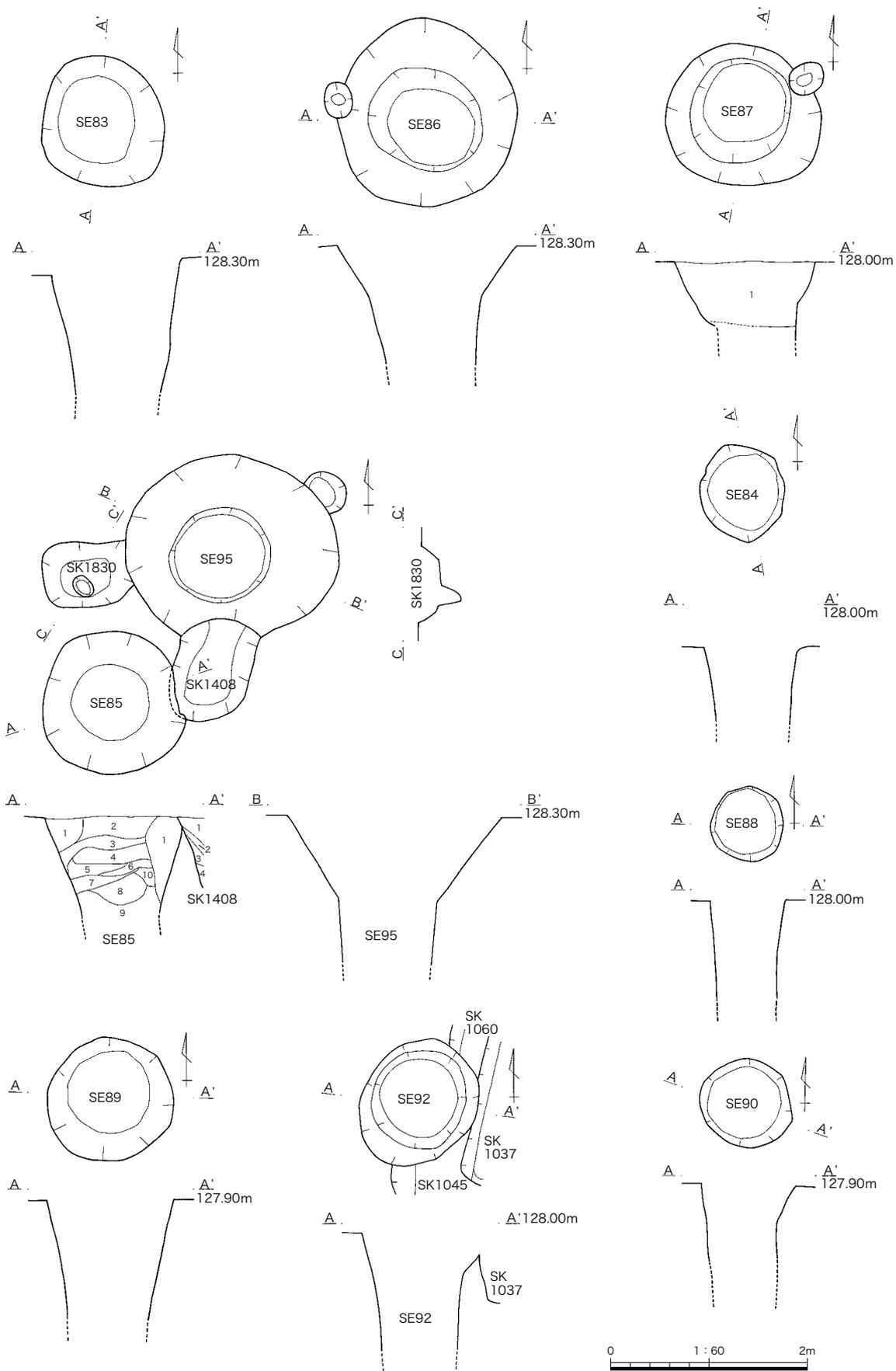
第96図 井戸 (9) SE19・43・45・46・50・51・52・53・54・56



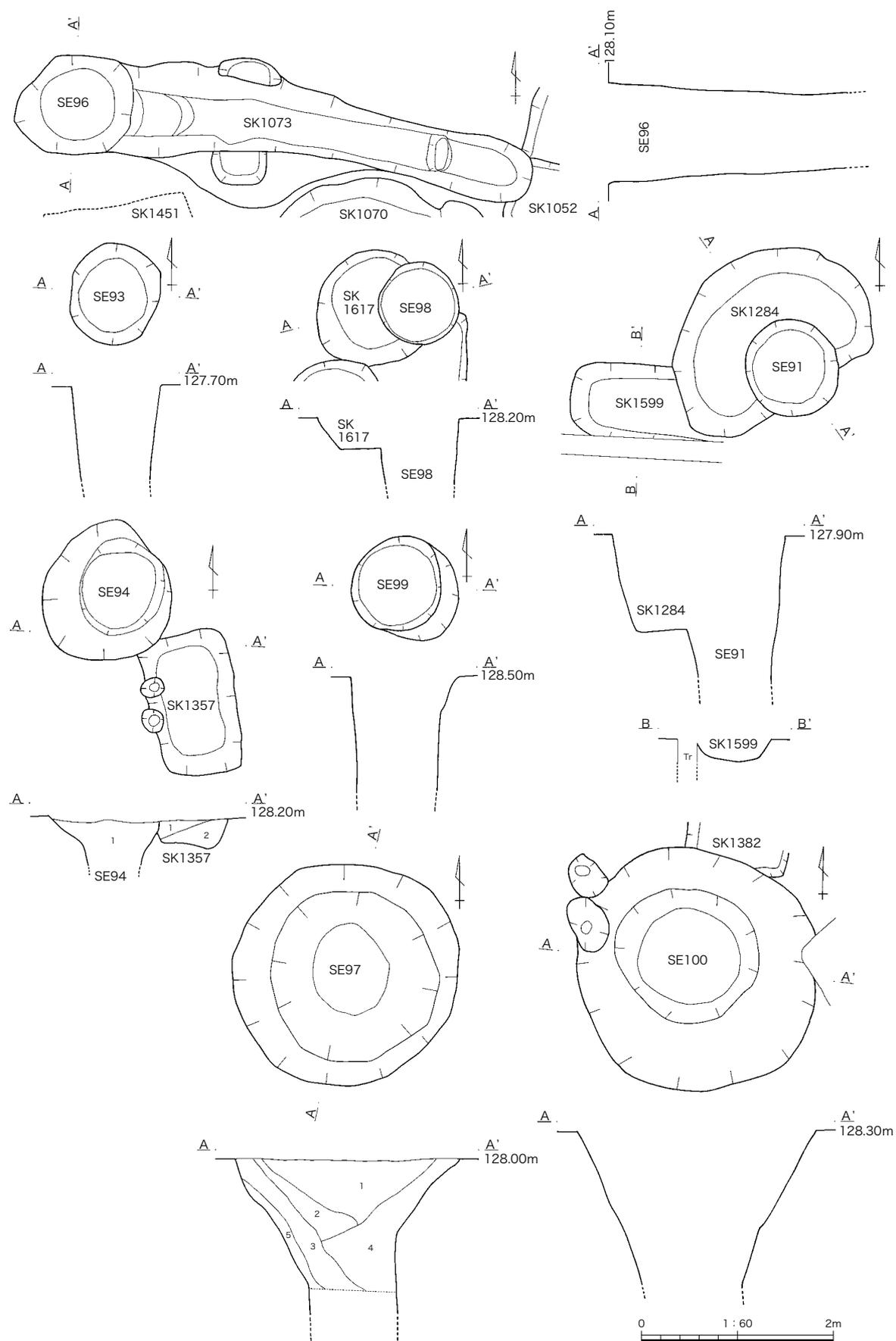
第97図 井戸(10) SE57・58・59・61・62・64・66



第98図 井戸 (11) SE65・67・68・69・70・71・72・74・76

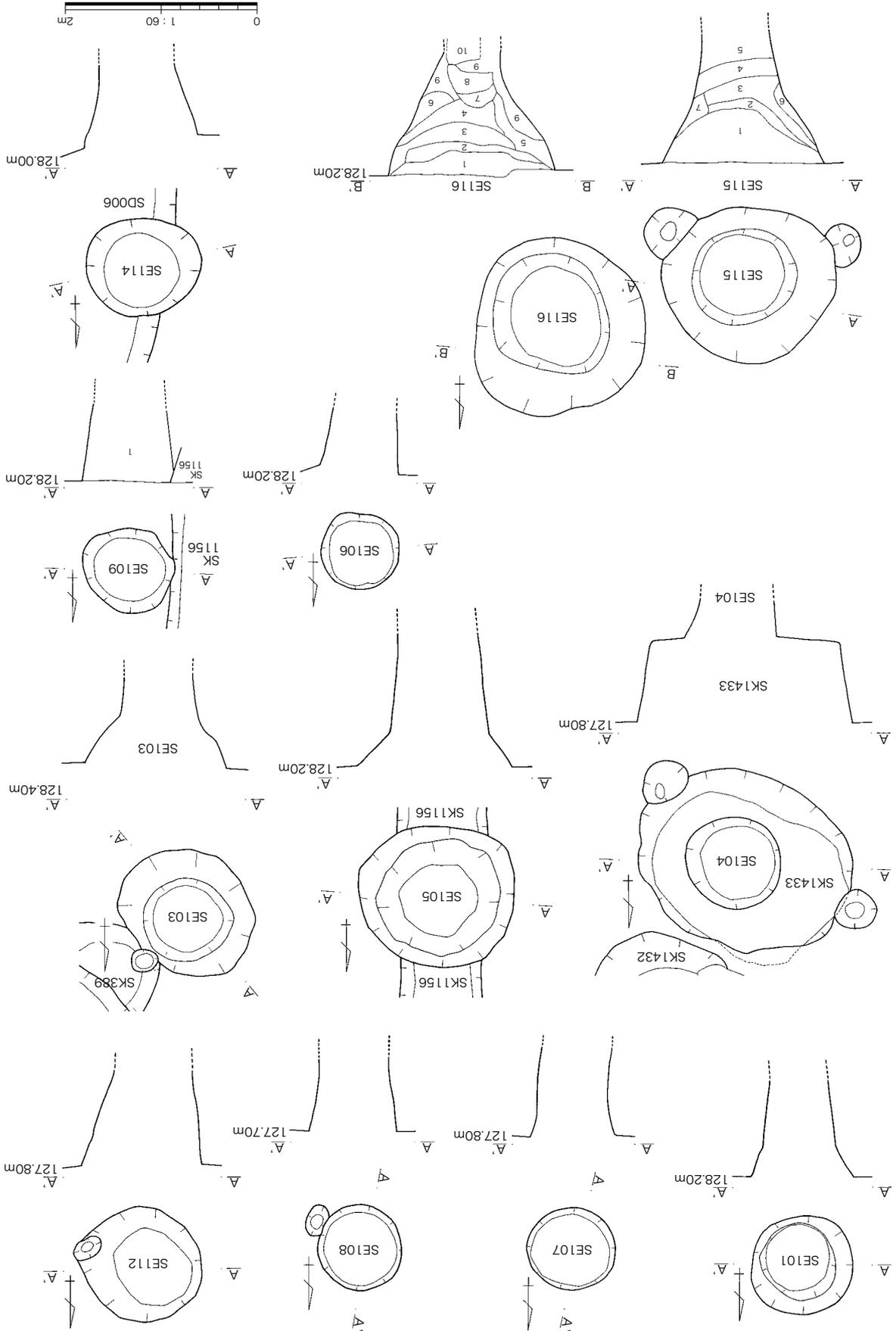


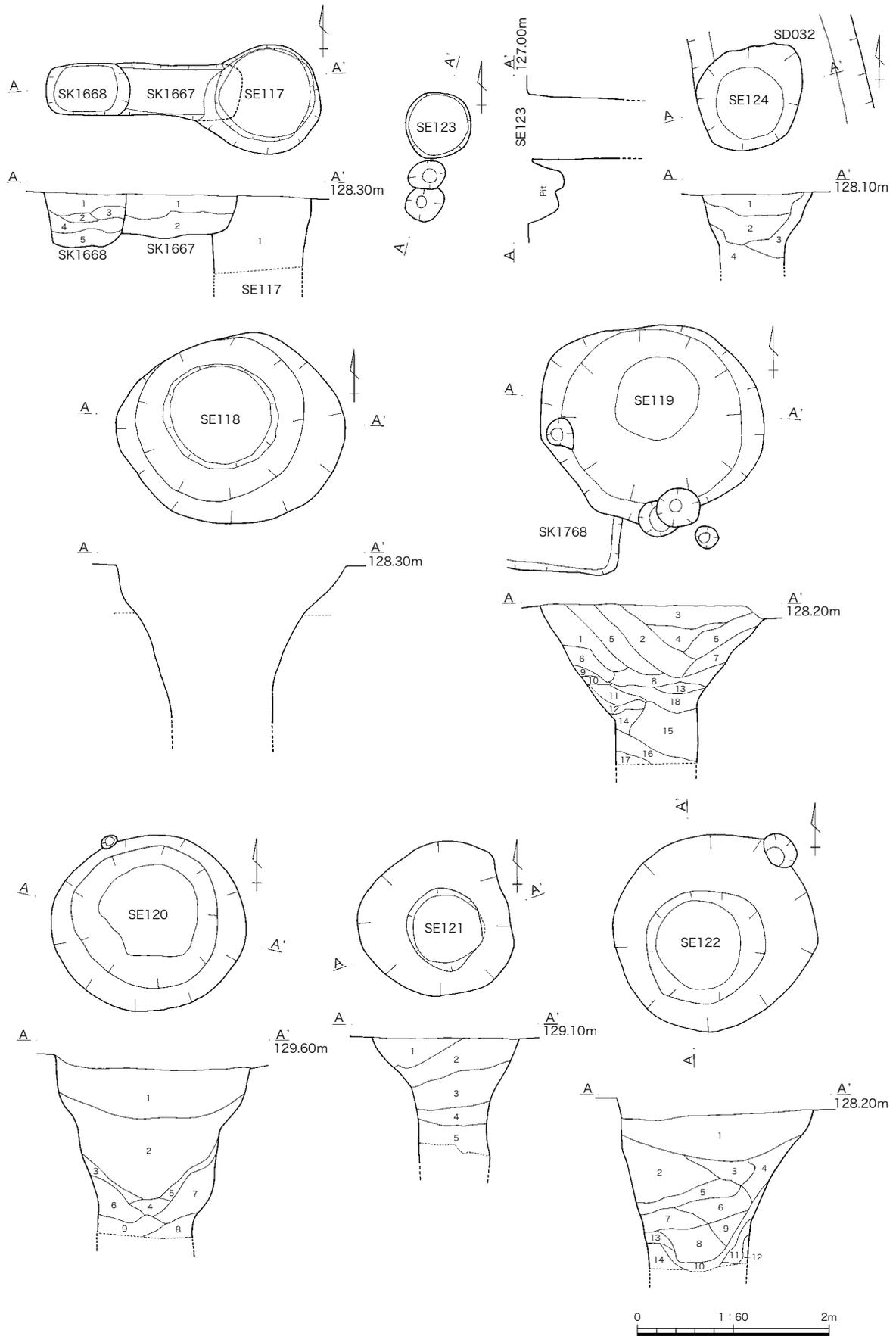
第100図 井戸 (13) SE83・84・85・86・87・88・89・90・92・95



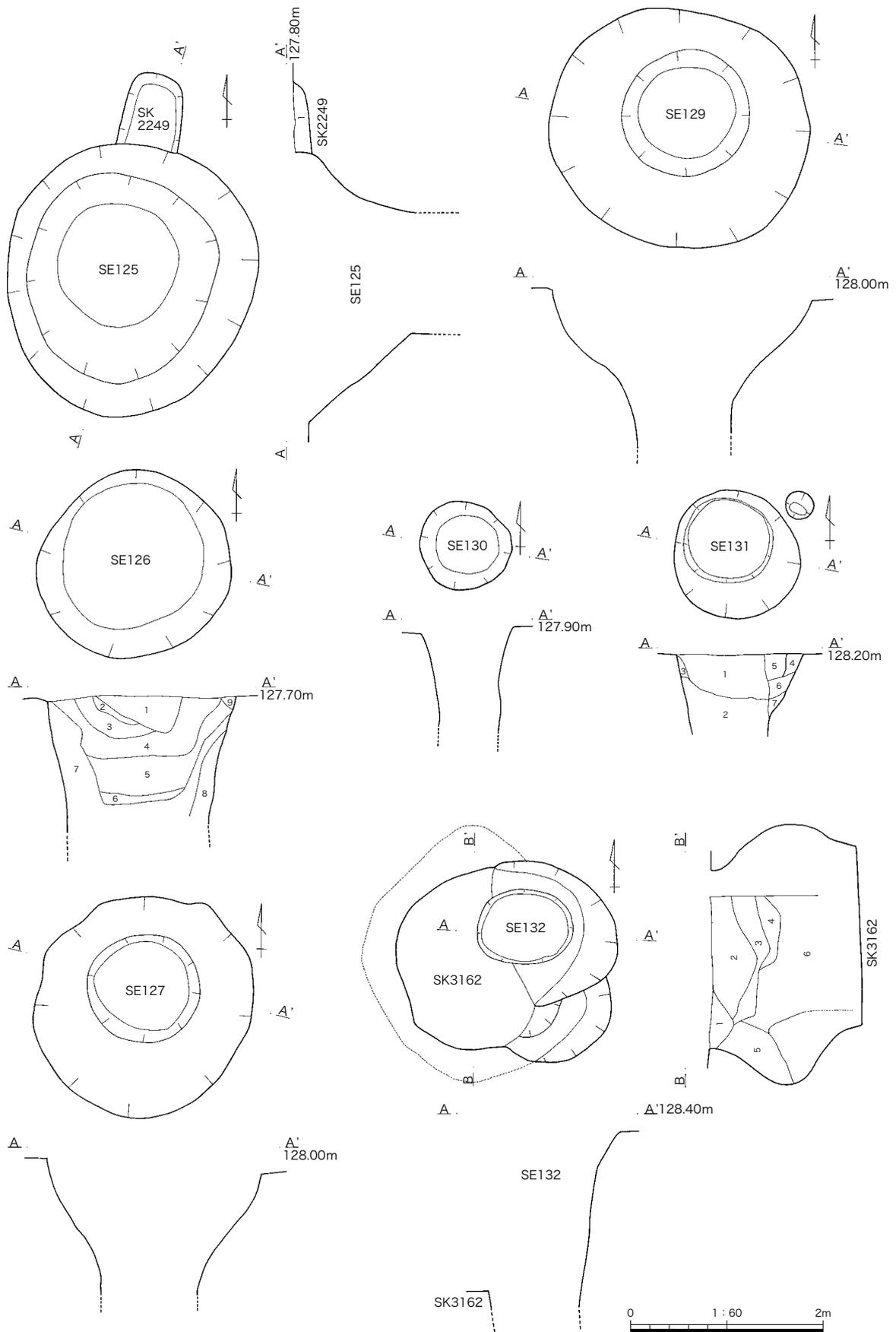
第101図 井戸(14) SE91・93・94・96・97・98・99・100

第102図 井戸 (15) SE101・103・104・105・106・107・108・109・112・114・115・116

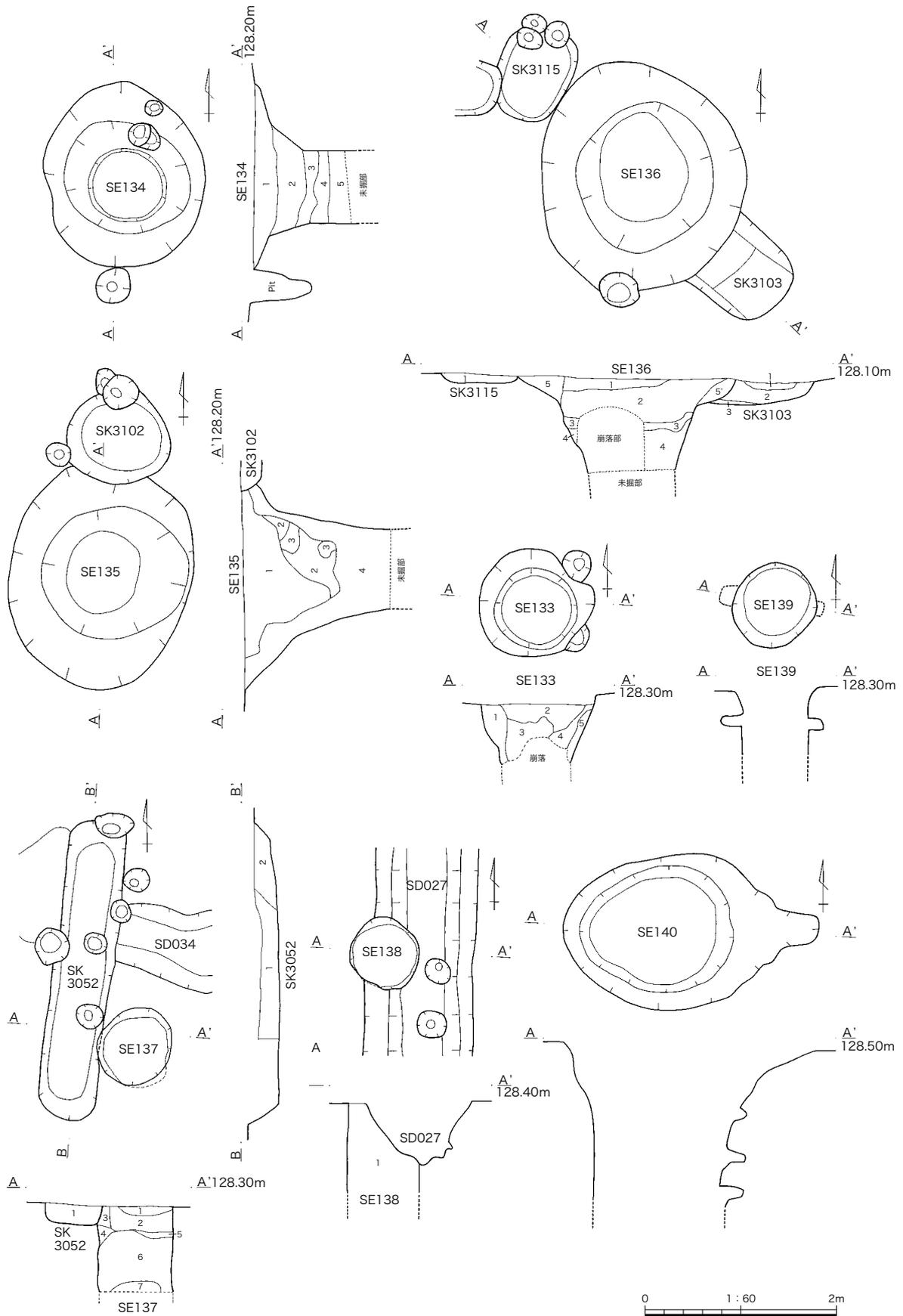




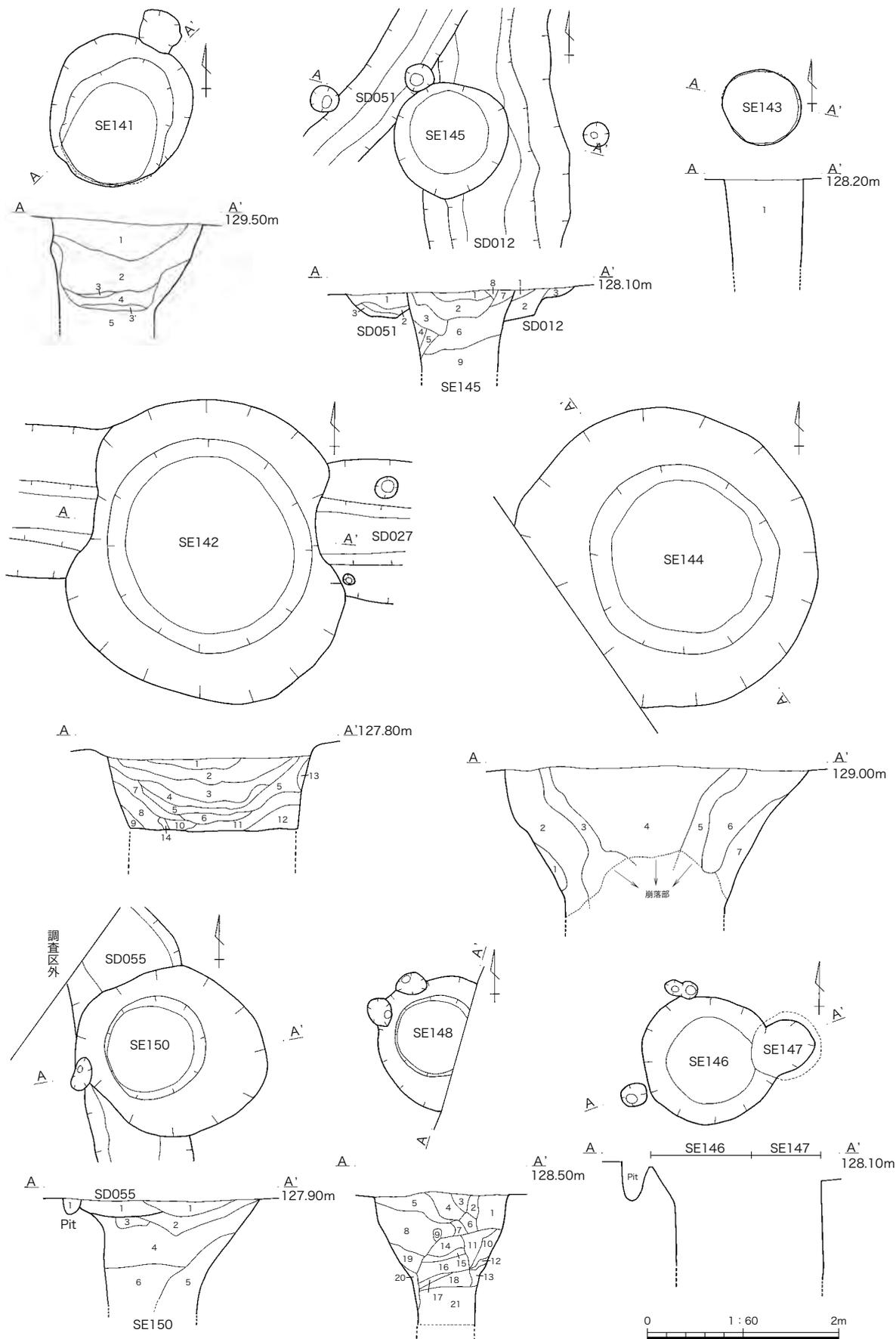
第103図 井戸 (16) SE117・118・119・120・121・122・123・124



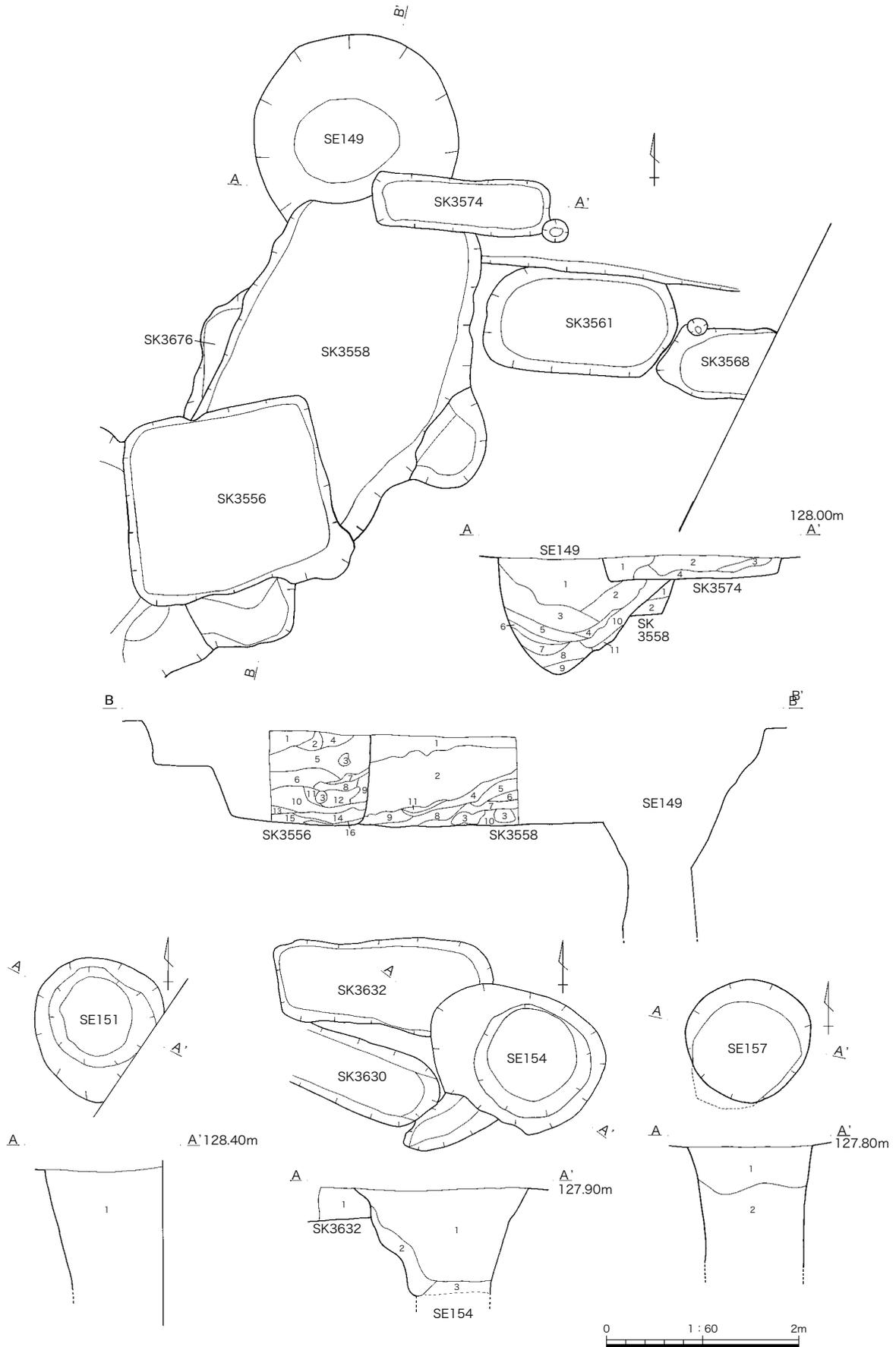
第104図 井戸 (17) SE125・126・127・129・130・131・132



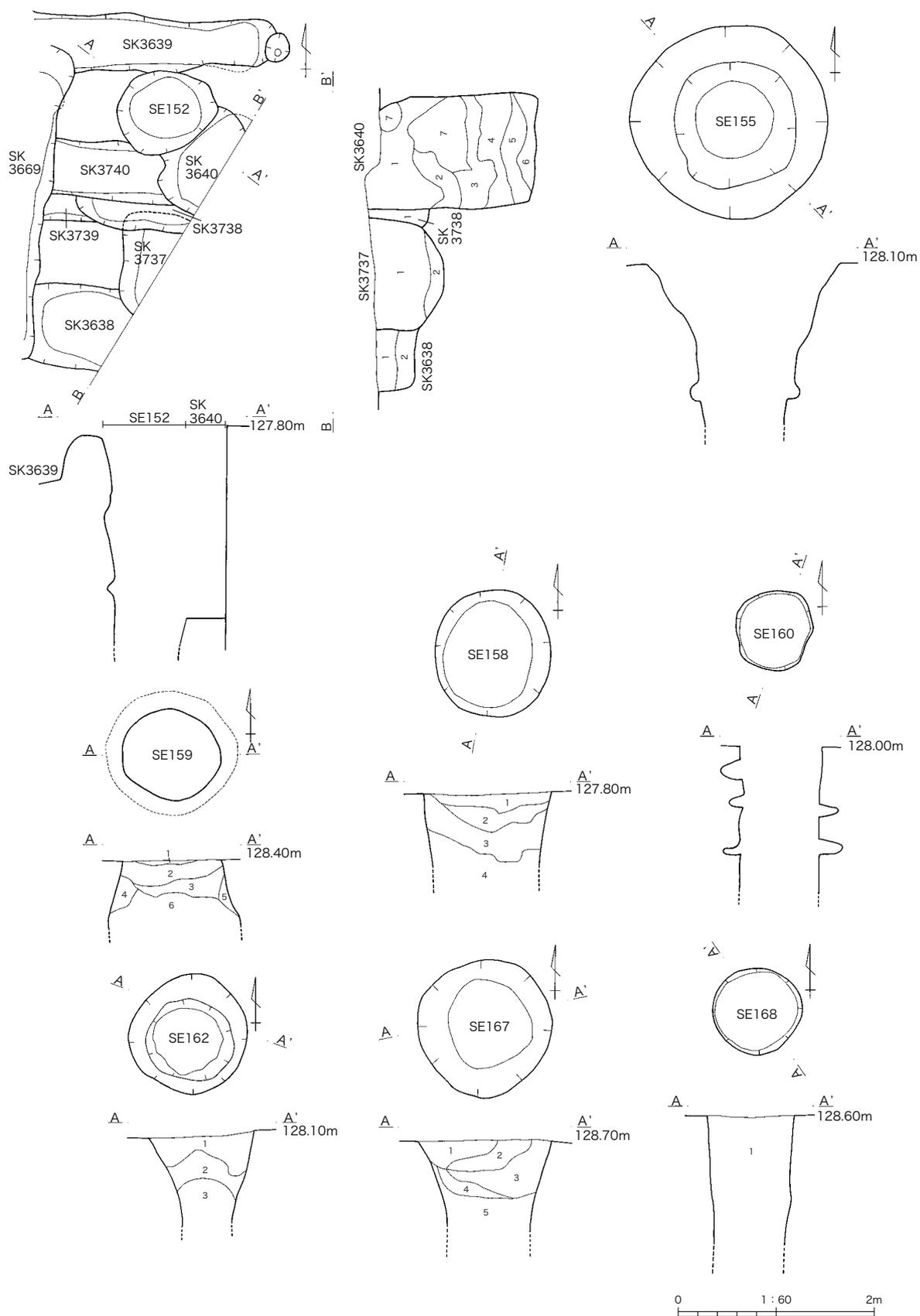
第105図 井戸(18) SE133・134・135・136・137・138・139・140



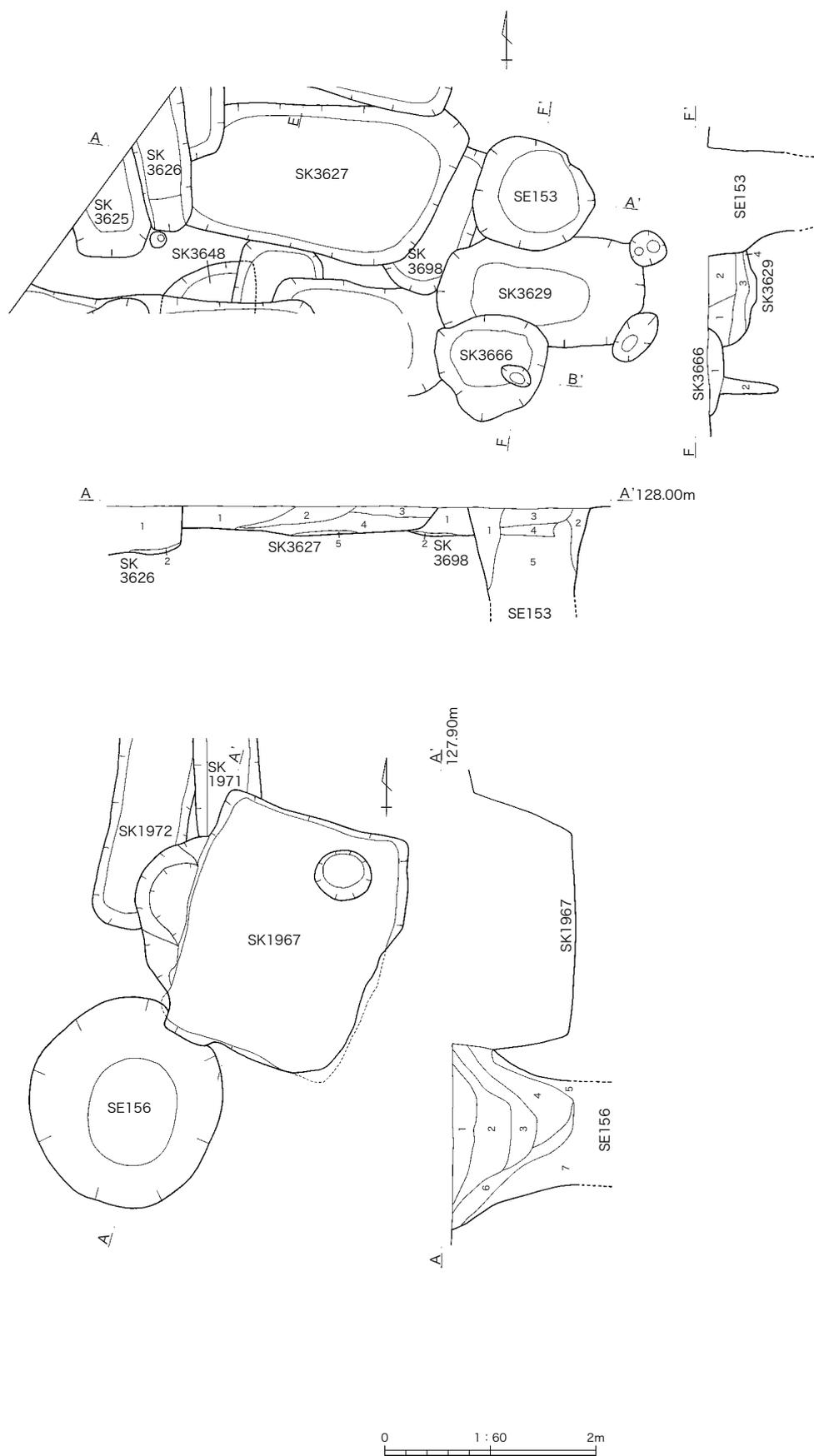
第106図 井戸 (19) SE141・142・143・144・145・146・147・148・150



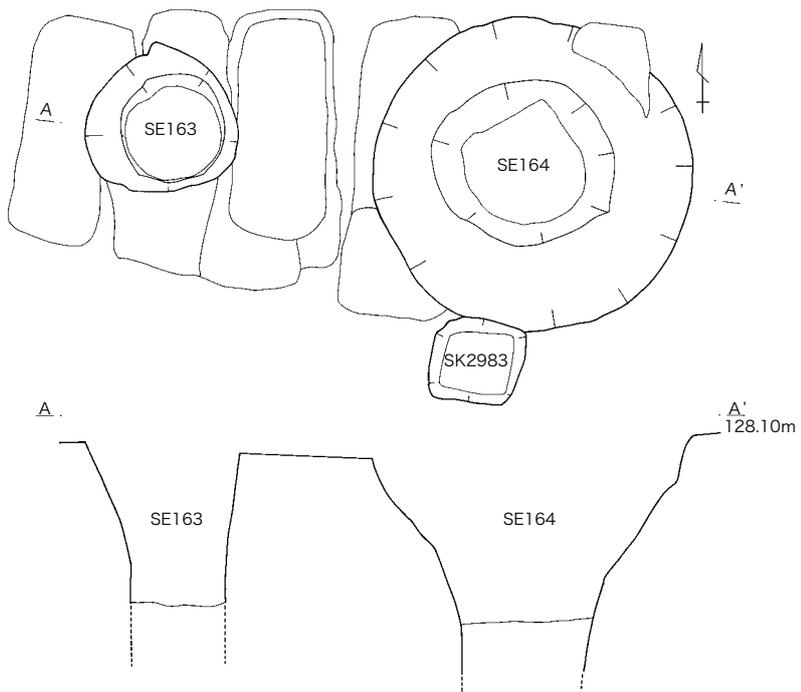
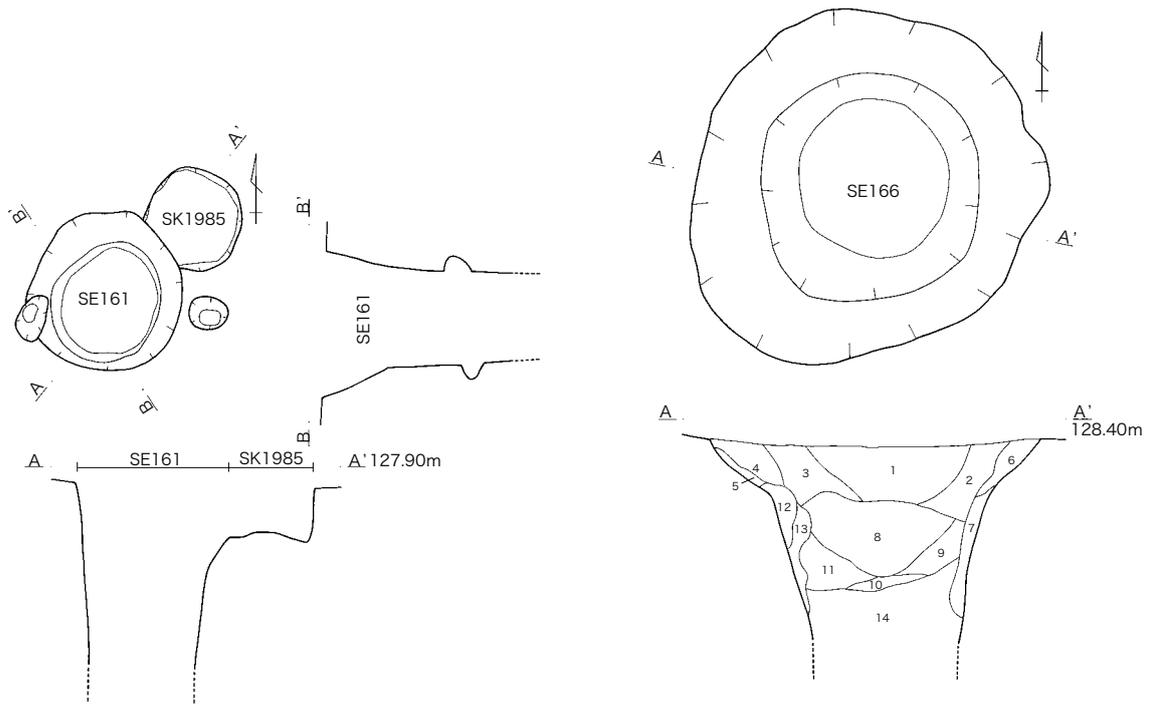
第107図 井戸(20) SE149・151・154・157



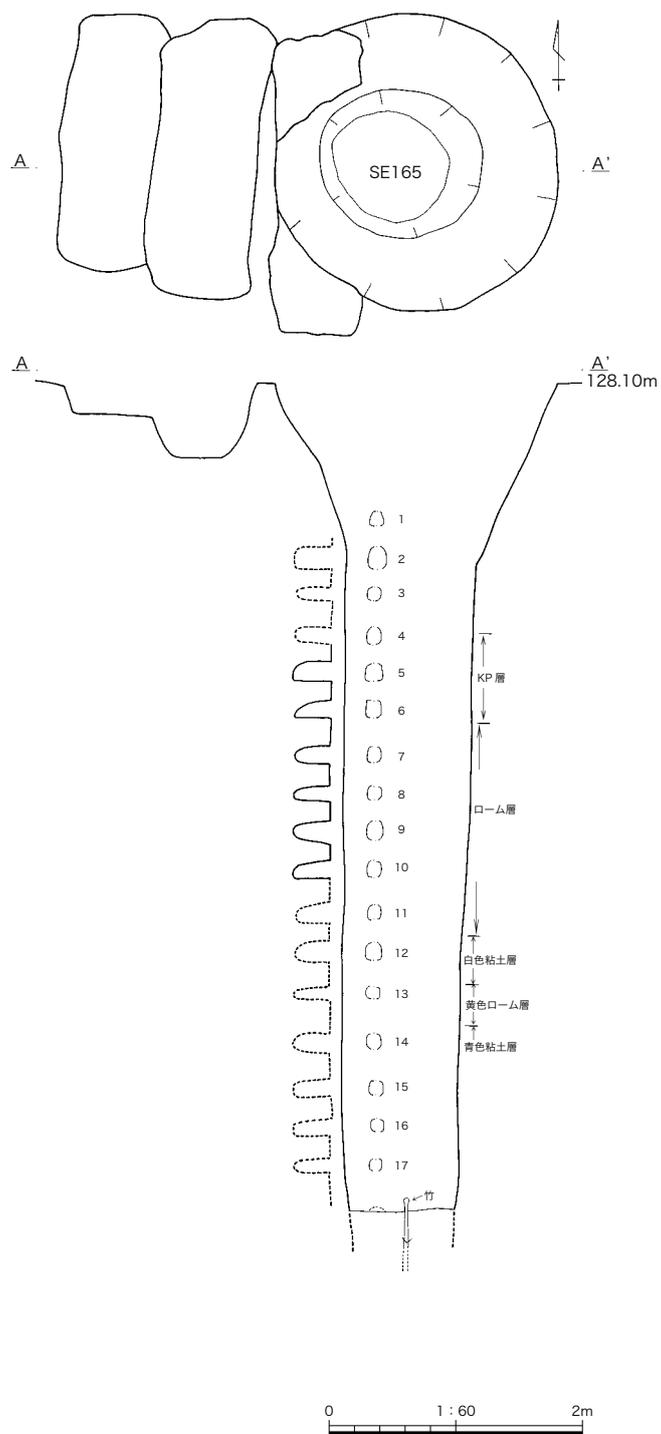
第108図 井戸 (21) SE152・155・158・159・160・162・167・168



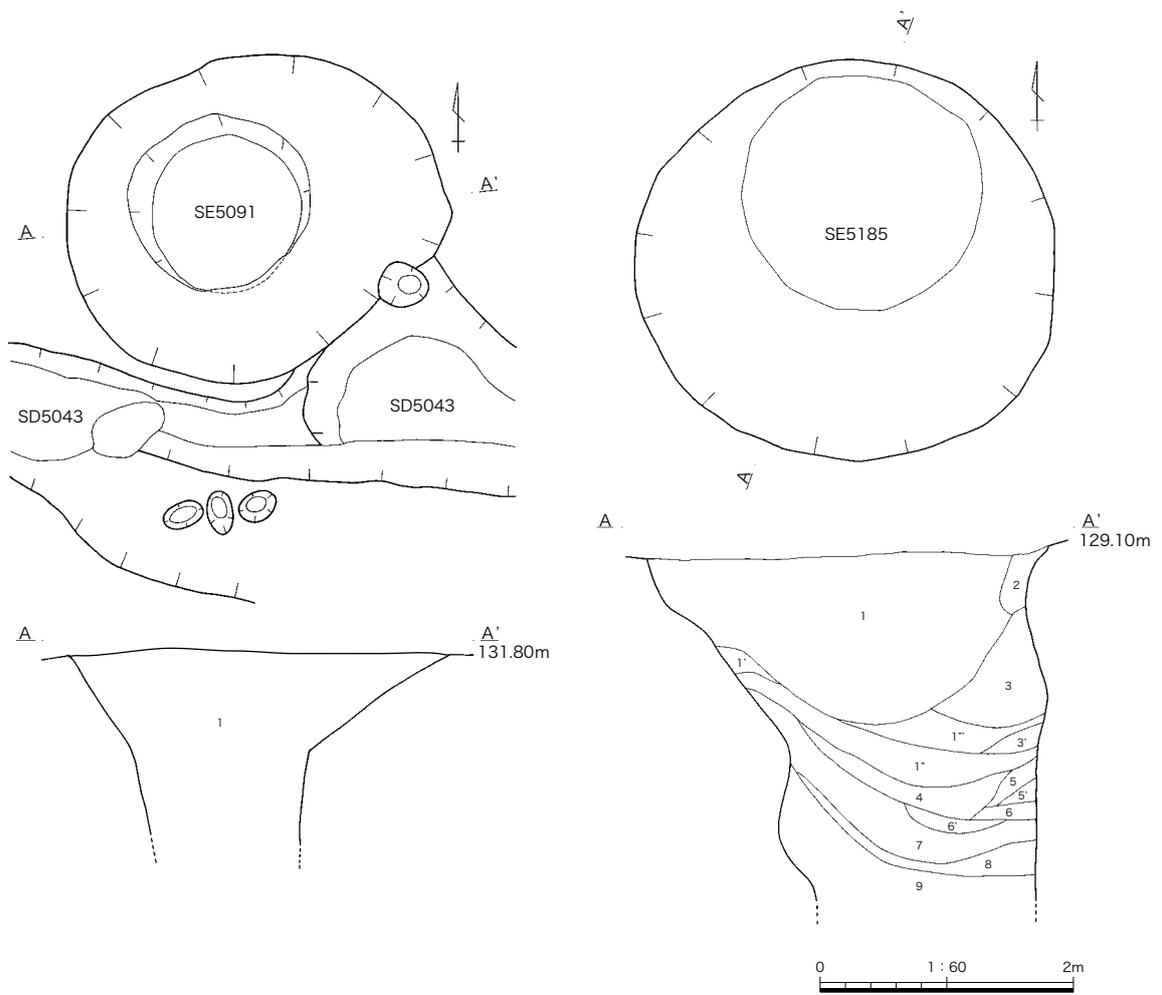
第109図 井戸(22) SE153・156



第110図 井戸 (23) SE161・163・164・166



第111図 井戸 (24) SE165



第112図 井戸 (25) SE5091・5185

第4節 方形竪穴遺構

本遺跡で確認された方形竪穴遺構は総数 24 基である。地面を竪穴状にやや浅く掘り込む遺構で、調査時には SK 番号を付している。調査時に確認されたものの他に、整理時に地下式坑も含め土坑全体の検討において、この竪穴遺構に種別変更したものも含む。深さや平面形態の点で地下式坑とは区別される。掘り込みはローム漸移層・黒色土～ローム面にかけてで、やや浅いとは言え、底面はハードローム面に達しているものが殆どであり、人為的な掘り込みは明瞭である。

全体的な分布を概観すると、大きく 3 つの集中域がある。第一は SD27 区画内北東のピット集中域北東、第二は遺跡中央の SD27 区画内ほぼ中央、第三は調査区南東端、である。

幾つかの形態が看取されるが、検出数も極めて多くはないこともあり、形態的特徴については分類項目を設定せず、羅列的な記述に留める。

形態概要

形態的には、平面方形～長方形で、壁は垂直または垂直に近く、上端形態下端形態が概ね相似形を為すと言える。規模は、軸長 1.5～2.5 m 程度が多く、長方形の場合でも長短軸の比率は 1:1.5 程度のものが多い。SK2175 はこの比率が 1:2 程度の長方形となるもの、また SK2034 は長軸が 4m を超えるこの遺跡内では大きな例となる。深さは 15～60 cm 程度で、壁は垂直または垂直に近い例が一般的である。壁（の一部）が外側に向かってオーバーハングする例も幾つかある（第 113 図 SK236,637）。

方形・長方形のコーナー部分はほぼ直角で、若干丸みを帯びる例もある（SK3601 等）ものの、多くは角が明瞭である。また、対向する辺の長さが異なり台形状になる例は少なく（第 116 図 SK2361）、整った方形・長方形形態を示している例が殆どである。SK2361 は壁直下に溝が巡っており、北側で若干の張出部を有することも含め、他とはやや異なる特徴を示している。少数だが、辺の一部が広がり、張出状になる部分を擁するもの（SK2213）もある。また SK3623 も 2 辺+1 辺の半分ほどの壁直下に溝がある。

付帯施設

多くの場合ピットを伴っているが、対向する辺のそれぞれ中央付近に設けられるのが原則で、これにコーナー等他の部分でのピットが加わる例もある（SK572,2196,3801,3604 等）。長方形の平面形態の場合、短辺側に付くもの（SK637,2175,3618,3617）と、長辺側に付く例とがある（SK2181,2178,2235,2363）。また竪穴中央に付される例もある（SK2175,2212）。ピットの深さは 30～60 cm 程度のものが多いが、中には 1m 近い例もある（SK2175）。一方で SK2363 のように 10 cm 程度の浅いピット例もある。深いピット例では、竪穴の外側に向かってオーバーハングする傾斜で穿たれている例も多い（SK637,2181,2175,2235）。なおピットが多数検出されている区域での例（第 118 図 SK3615,3617 等の部分）については、方形竪穴と重複する別遺構例に伴う例との見極めが必要となるが検討は不十分である。

ピット以外での付帯する部分として入り口状の溝を伴う例がある（第 116 図 SK2412）。長さ 2m 程度、幅 80 cm 程度と比較的大きな規模であるが、その端部から竪穴主体部に向かってスロープ状に傾斜しており、覆土・土層断面記録からも伴う施設と考えて良いであろう。SK2034 において重複する別遺構で当初扱った SK2033 についても、伴う部分との推定が可能であろう。但し明確な事例は他に無く、例えば SK2359 に重複する SK2360 については、長方形土坑との判断で良いと考えられる。

覆土

覆土の堆積について、他の遺構等と大きな差異は認められていない。ピットの堆積→傾斜をもった壁際の堆積→中央部の土層堆積というパターンである（SK2175,2212,2213,3623等）。やや異なるパターンとして、底面ほぼ中央に薄くマウンド状に堆積→下位から上位まで厚く堆積という例がある（SK2361,2359,3617）。薄い堆積の層ではローム主体と観察されている例もあるが、厚い堆積土で、ロームブロックが多量であるような例は少ない。SK2361では厚く堆積する上位の1層がローム粒子・ブロックが多いと観察されており、人為堆積の可能性があろう。SK3617もロームブロックが多い1・2層が覆土の大半を占めており、底面上の薄い層以外は人為堆積の可能性を窺わせる。またSK3615はロームブロックの多い1層で充填されており（写真図版44-7）、人為堆積と判断できよう。後二者のSK3615,3617は方形竪穴やピットが多く確認されている遺構集中区域における占地という点が関連しているかもしれない。SK572は底面上、下位でロームブロックが多く見られるが、壁の崩落と推定するのが難しい例である。

分布概要

既述のように、竪穴遺構の分布は大きく3つに分けられる。これを順にやや細かく見てゆく。

100分の1全体図B

SD27区画北東側のピット群集中域のすぐ外側・北側が竪穴遺構集中域である。7基の方形竪穴遺構があり、4基が西側、3基が東側で2列並ぶような配置とも見える。SK3601やSK3615はピット集中域北端というより、重複している部分とも言える。第117図のSK3601遺構図で示したピットについても、セクションBラインにかかるピットは確実に伴うものの、そのほかについては、竪穴遺構と重複するピットも幾つかあると捉えた方が良いかもしれない。またSK3615の南で重複するSK3660,3617とSK3604の間にあるSK3605等、この竪穴集中区域の外側で主に展開する長方形土坑の分布がこのあたりまで延びており、必ずしも排他的な分布関係にはないことが示される。例えばSK3621竪穴遺構の重複関係を見ると、長方形土坑SK3665→SK3621→長方形土坑SK3697との関係が示されている。またSK3618についても、竪穴遺構SK3618→南北軸の長方形土坑SK3670→東西軸の長方形土坑SK3725の関係が示される。ピットとの関係ではSK3615やSK3617に重複するピットは基本的に竪穴遺構覆土を切っていることが分かる。つまり概ね竪穴遺構の重複は、ピットよりは古いものが多い傾向にあること、長方形土坑との関係では、古いものと新しいもの両方あることを確認・指摘しておく。SK3615とSK3617の2つの土坑覆土が人為埋土と推定されたことから、この南側で展開するピット群に関わる施設構築（恐らく建物跡複数回の構築）に際して、竪穴遺構部分を埋めて整地したことを想定することができるであろう。なお遺物としてかわらけや内耳土器の出土している遺構もあるが、図示し得た遺物は無く、遺物からの時期判断はできない。

100分の1全体図F

SD02区画ほぼ中央の範囲である。この分布図中央の広い部分が長方形土坑集中域となっているが、この部分内に幾つかの竪穴遺構がある。但しこの中でも中心的なゾーン＝長方形土坑が密にあるところ及びピットが集中するところではなく、やや外側・縁辺のいわば空地に位置していることが分かる。すなわちSK572がやや北東側、SK236,637の2基が北西側、SK95が南西側、という布置である。いずれもやや小さく浅め（1.5m程度の軸長、深さ50cm程度）で方形基調という傾向もあろうか。SK637は近隣に井戸・地下式坑が幾つかあり、井戸SE60と重複関係にある。このSK637の南東側で近い位置にSK236がある。SK236の東

側で、東西 12 m、南北 9m の長方形範囲における密なピット集中があり、とりわけ掘立柱建物の梁桁に対応する部分にピットがあることから、建物跡復元が可能であろう。この 4 基以外、SD02 区画内に竪穴遺構は無い。SK95,236,572 からかわらけ等の遺物出土はあるが、図示し得たものはなく、時期判断ができない。

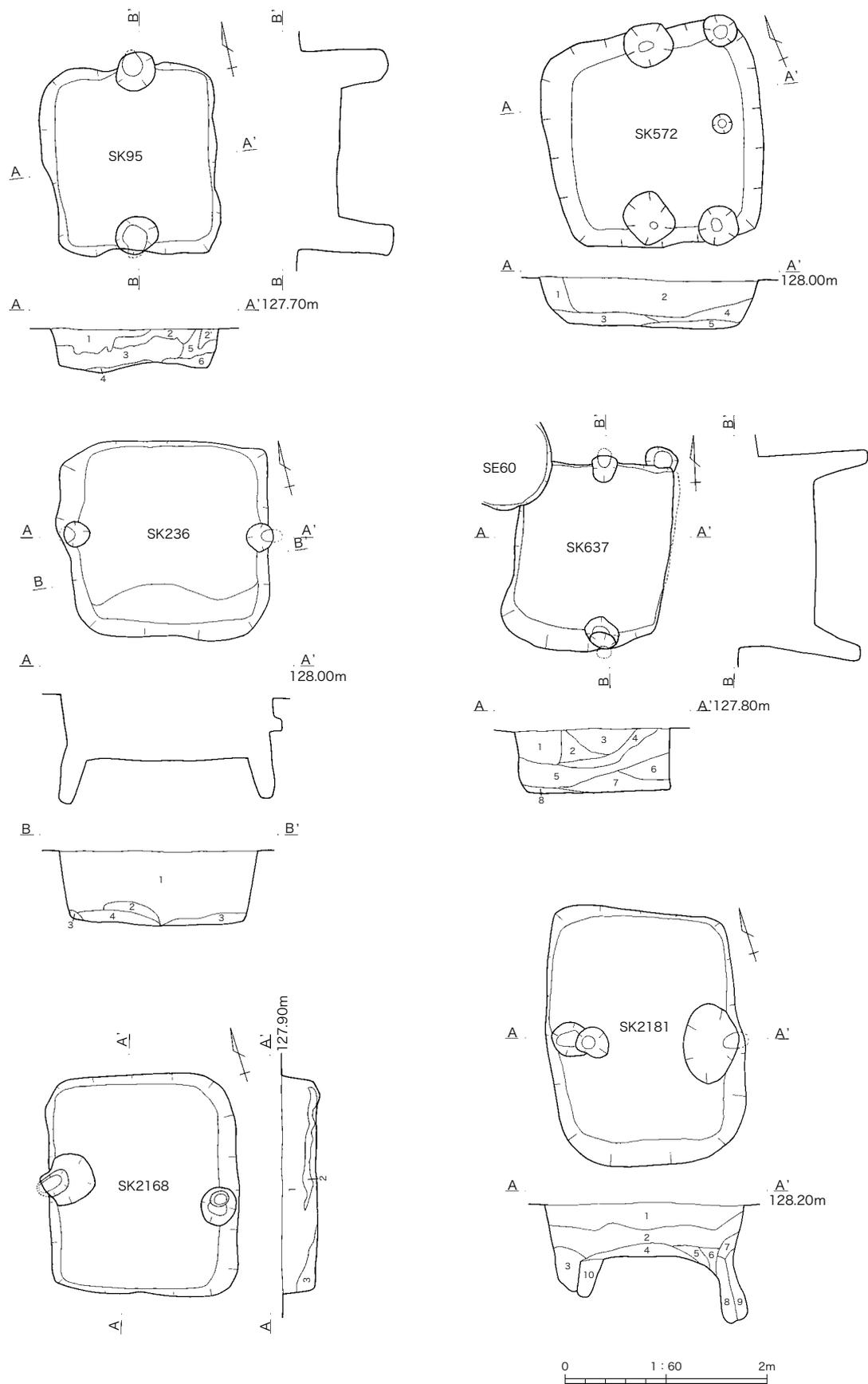
500 分の 1 全体図③

SD02 区画より南側の範囲である。ここでは全体に遺構分布が散漫で地下式坑のように分布のない種別の遺構もある。竪穴遺構は、調査区南東に集中区がある。この中でも大きく東西 2 箇所があり、西側は更に、ピットや長方形土坑が一定数ある部分の北側（SK2412,2168 等 5 基）と東側の 2 基（SK2175,2196）、南側 2 基（SK2212,2213）とにブロック分けをすることもできる。北側の一群は主に第 116 図に示した 4 基と第 113 図に示した SK2168 からなる。やや小さめで比較的整った方形形態が多く、形態的類似度を見いだせるかもしれない。この一群では覆土の堆積も底面上に薄い層の堆積、その後厚く 1 層が堆積というパターン類似も認められる。

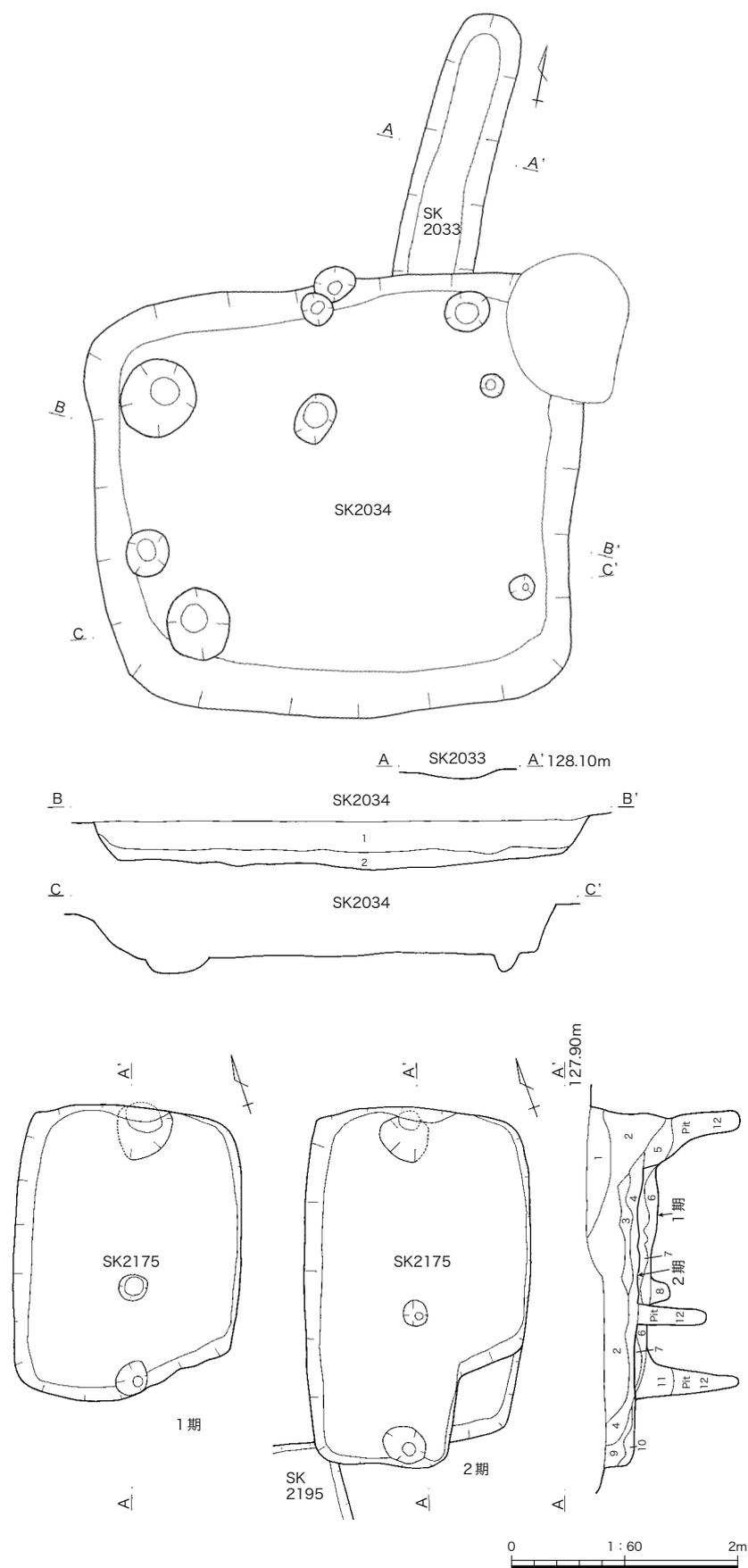
東側の SK2175,2196 は南北軸の長方形土坑がややまとまる区域と重なる。SK2175（第 114 図）は拡張（重複）の 2 期分が確認されている。南側の SK2212,2213（第 115 図）は、2m 程度の軸長の竪穴遺構で、両者は規模・形態・ピットの位置等両者の類似度が高く、位置的にも同じ方向＝軸上にある点は注目される。

第 5 表 竪穴遺構一覧表

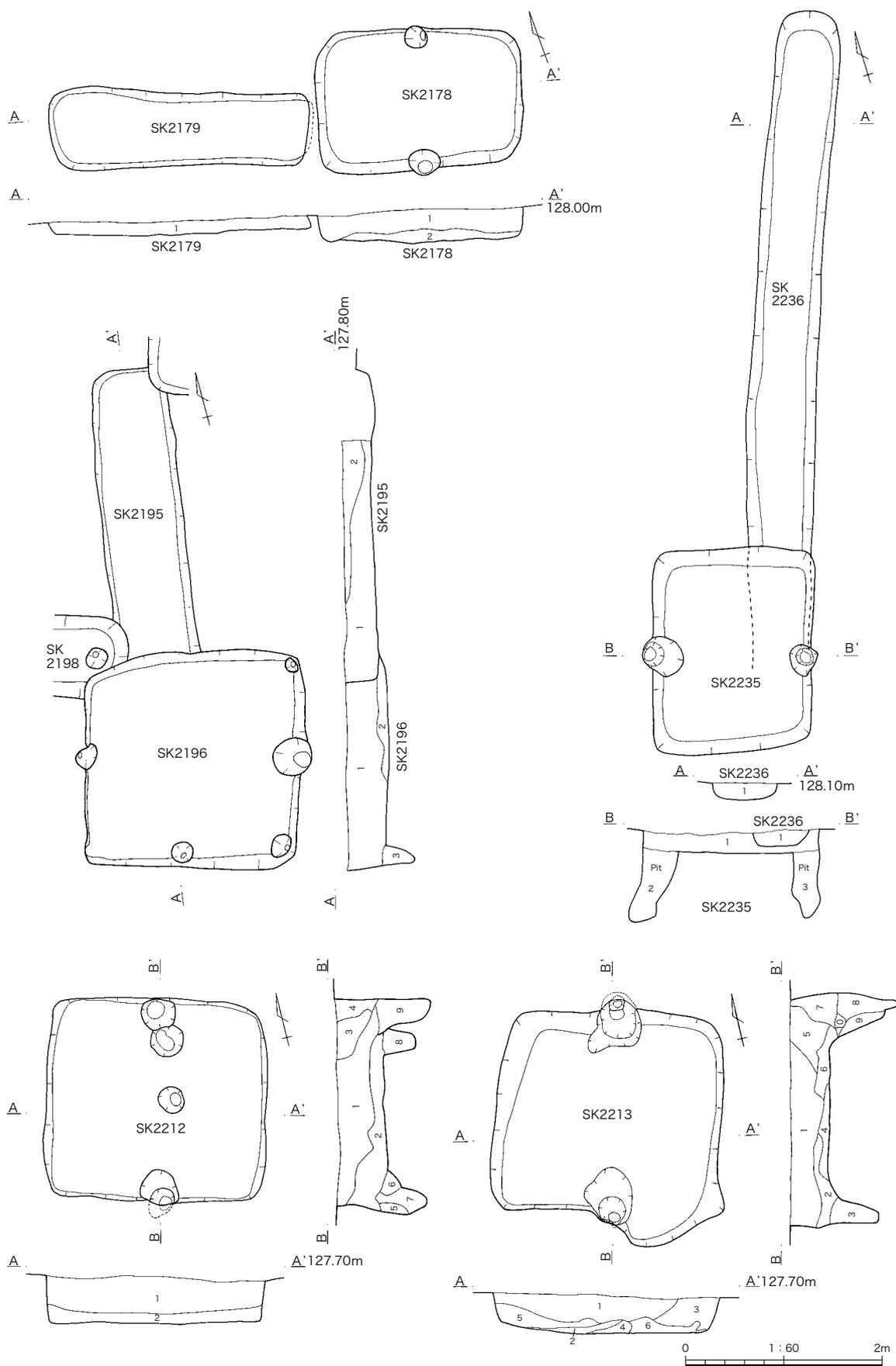
遺構番号	遺構種類	グリッド	長軸	短軸	深さ	出土遺物	全体図での位置	図番号
SK-95	竪穴遺構	キ 0 G 5	2.02	1.58	0.42	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 F-⑧	113
SK-236	竪穴遺構	キ 1 G 3	2.10	1.94	0.75	内耳土器 かわらけ	1/100 F-⑨	113
SK-572	竪穴遺構	キ 3 G 3	2.24	2.00	0.47	内耳土器	1/100 F-⑨	113
SK-637	竪穴遺構	キ 1 G 2	2.06	1.54	0.75		1/100 F-⑩	113
SK-2034	竪穴遺構	キ 3 H 7	4.24	3.82	0.63		1/500 3-③	114
SK-2168	竪穴遺構	キ 4 I 3	2.19	1.86	0.32		1/500 3-④	113
SK-2175	竪穴遺構	キ 5 I 4	3.20	2.00	0.63		1/500 3-④	114
SK-2178	竪穴遺構	キ 7 I 4	2.12	1.48	0.35		1/500 3-④	115
SK-2181	竪穴遺構	キ 7 I 3	2.52	1.88	0.54		1/500 3-④	113
SK-2196	竪穴遺構	キ 4 I 4	2.26	2.25	0.42	鉄釘 鉄製品	1/500 3-④	115
SK-2212	竪穴遺構	キ 3 I 5	2.25	2.07	0.50		1/500 3-④	115
SK-2213	竪穴遺構	キ 3 I 5	2.42	2.30	0.42		1/500 3-④	115
SK-2235	竪穴遺構	キ 8 I 4	2.09	1.60	0.18		1/500 3-④	115
SK-2359	竪穴遺構	キ 3 I 2	2.08	2.02	0.42		1/500 3-④	116
SK-2361	竪穴遺構	キ 3 I 3	2.33	1.95	0.50		1/500 3-④	116
SK-2363	竪穴遺構	キ 3 I 3	2.30	1.86	0.81		1/500 3-④	116
SK-2412	竪穴遺構	キ 4 I 2	2.18	2.04	0.62	縄文?土器	1/500 3-④	116
SK-3601	竪穴遺構	キ 0 F 2	2.60	2.10	0.61	内耳土器 かわらけ	1/100 B-①	117
SK-3604	竪穴遺構	キ 0 F 2	2.54	2.27	0.59	内耳土器	1/100 B-①	117
SK-3615	竪穴遺構	キ 1 F 2	2.47	1.18	0.68	内耳土器 かわらけ 鉄滓	1/100 B-①	118
SK-3617	竪穴遺構	キ 1 F 2	2.14	1.85	0.46	内耳土器	1/100 B-①	118
SK-3618	竪穴遺構	キ 1 F 2	2.16	1.48	0.60	内耳土器 鉄製品	1/100 B-①	118
SK-3621	竪穴遺構	キ 0 F 2	2.44	1.67	0.75	内耳土器 かわらけ 砥石	1/100 B-①	117
SK-3623	竪穴遺構	キ 1 F 2	2.17	1.57	0.70	内耳土器 かわらけ	1/100 B-①	119



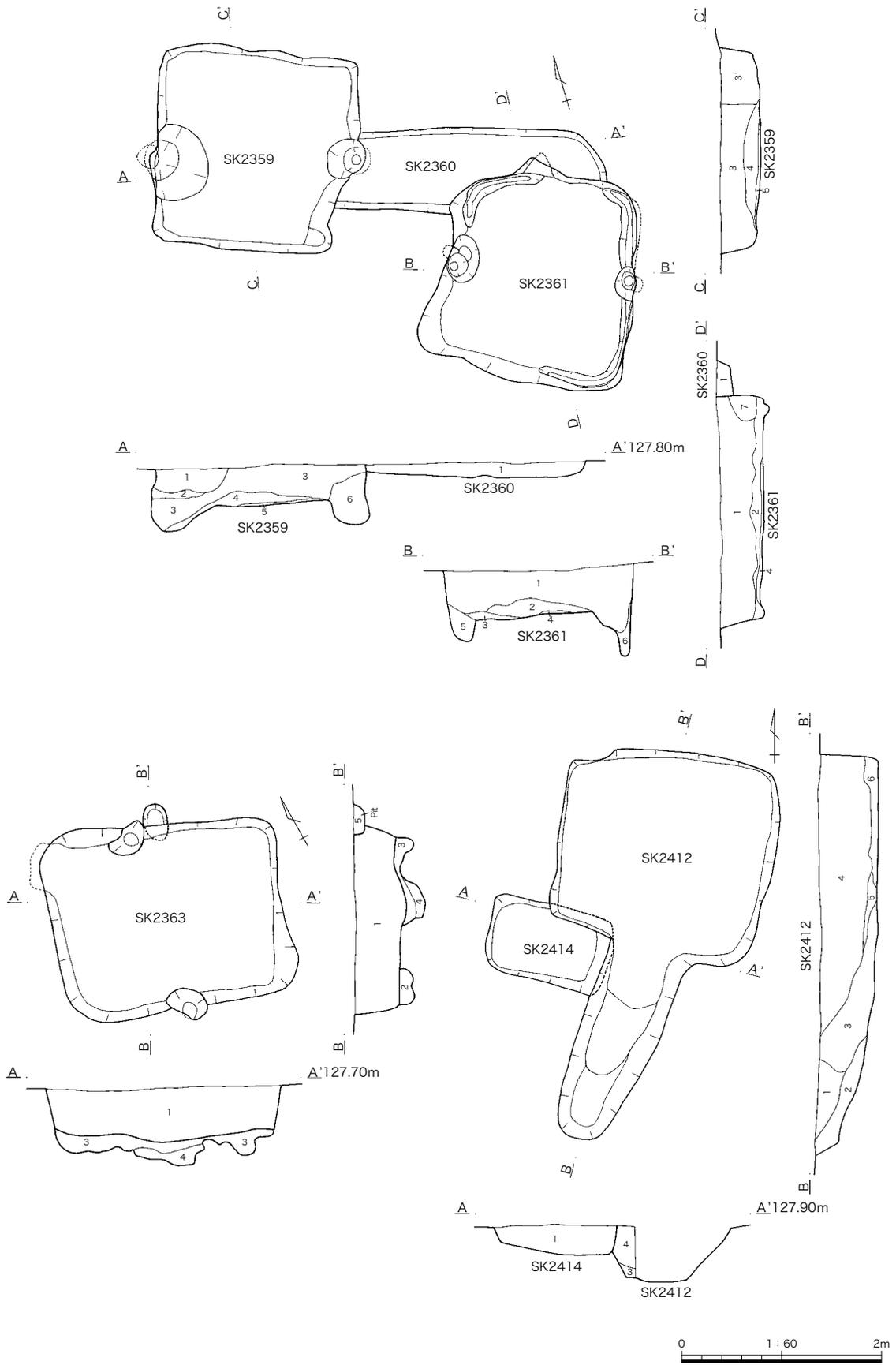
第113圖 豎穴遺構 (1) SK95・236・572・637・2168・2181



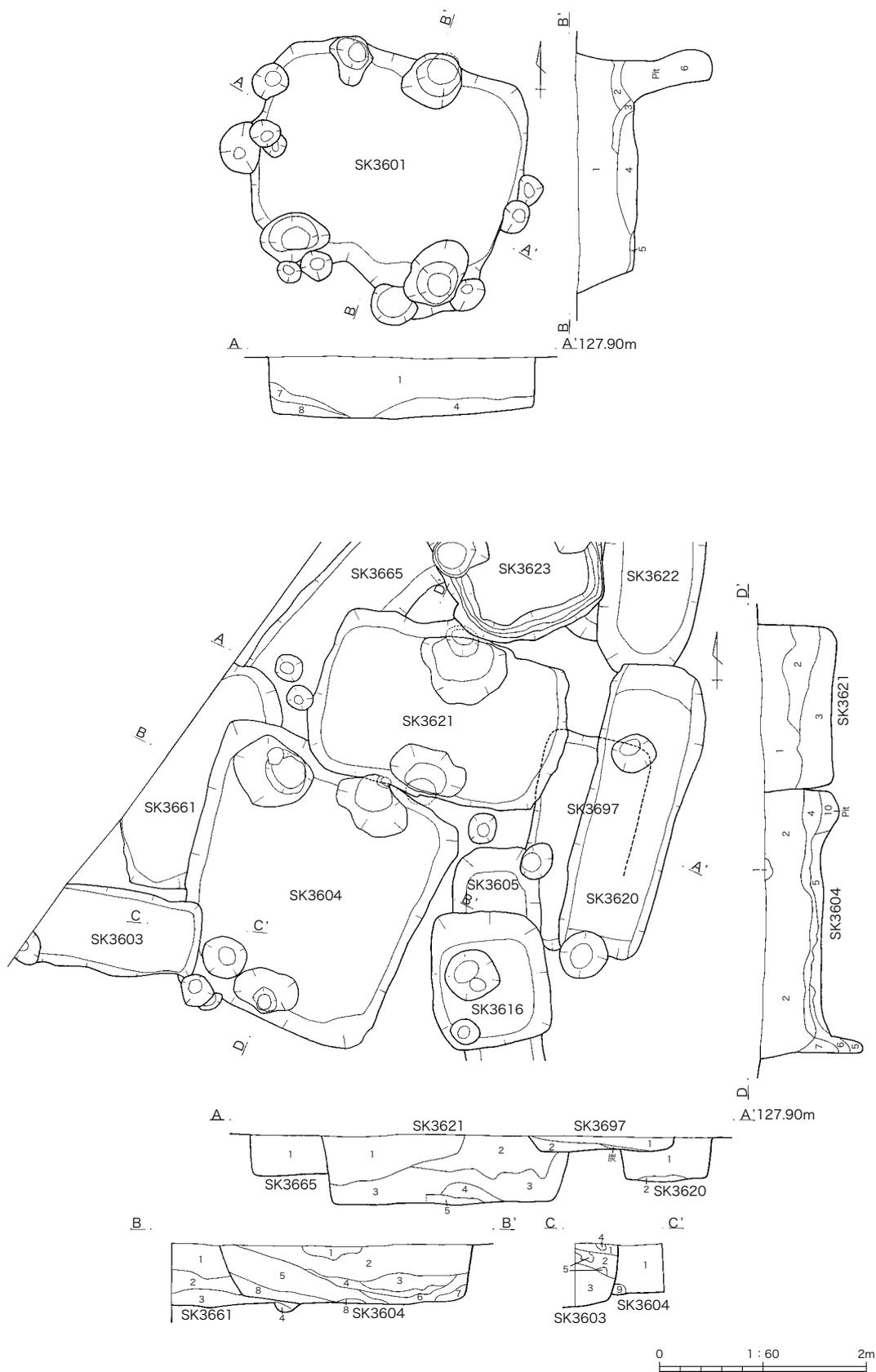
第114図 竪穴遺構(2) SK2034・2175



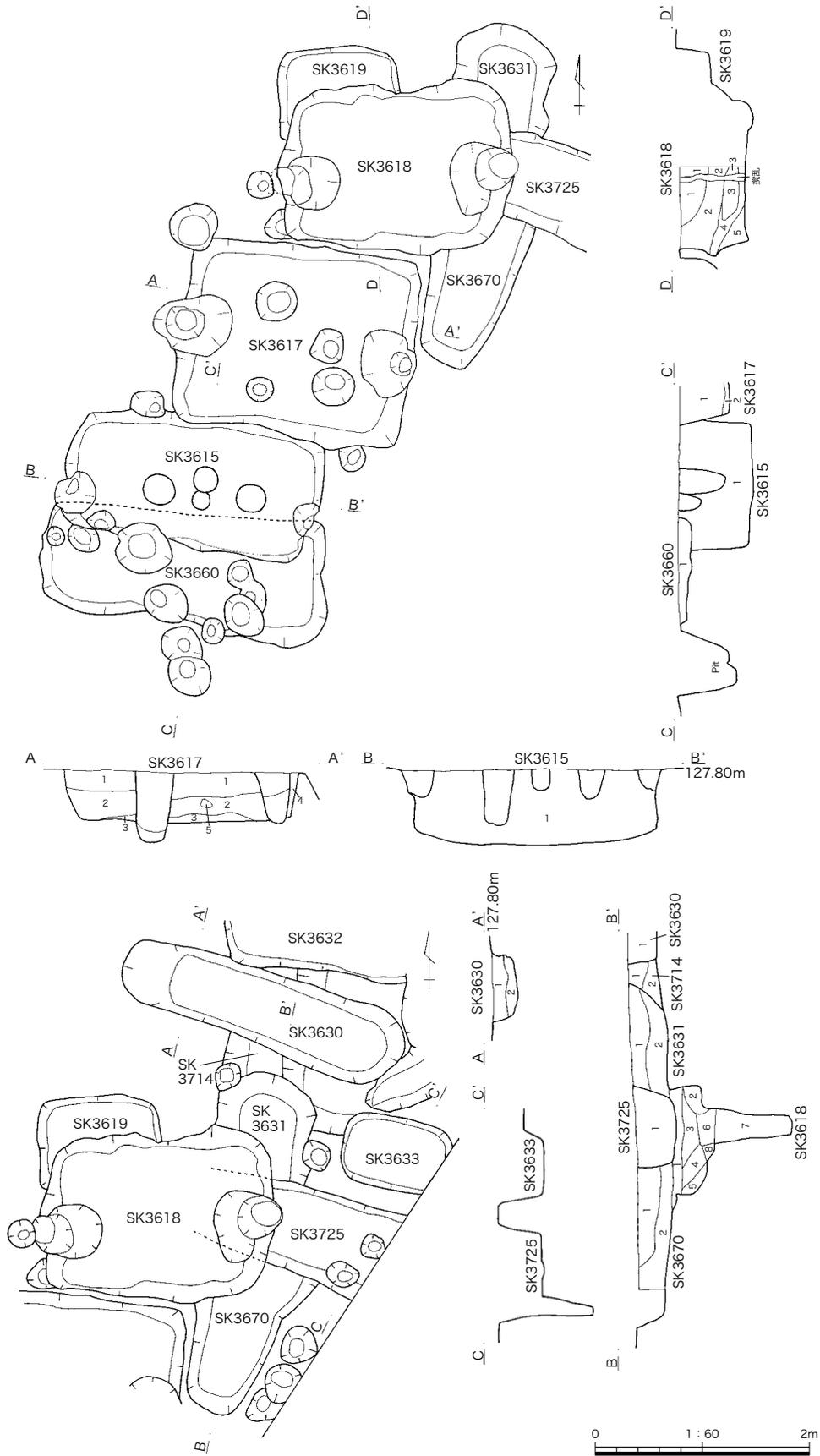
第115図 豎穴遺構 (3) SK2178・2196・2212・2213・2235



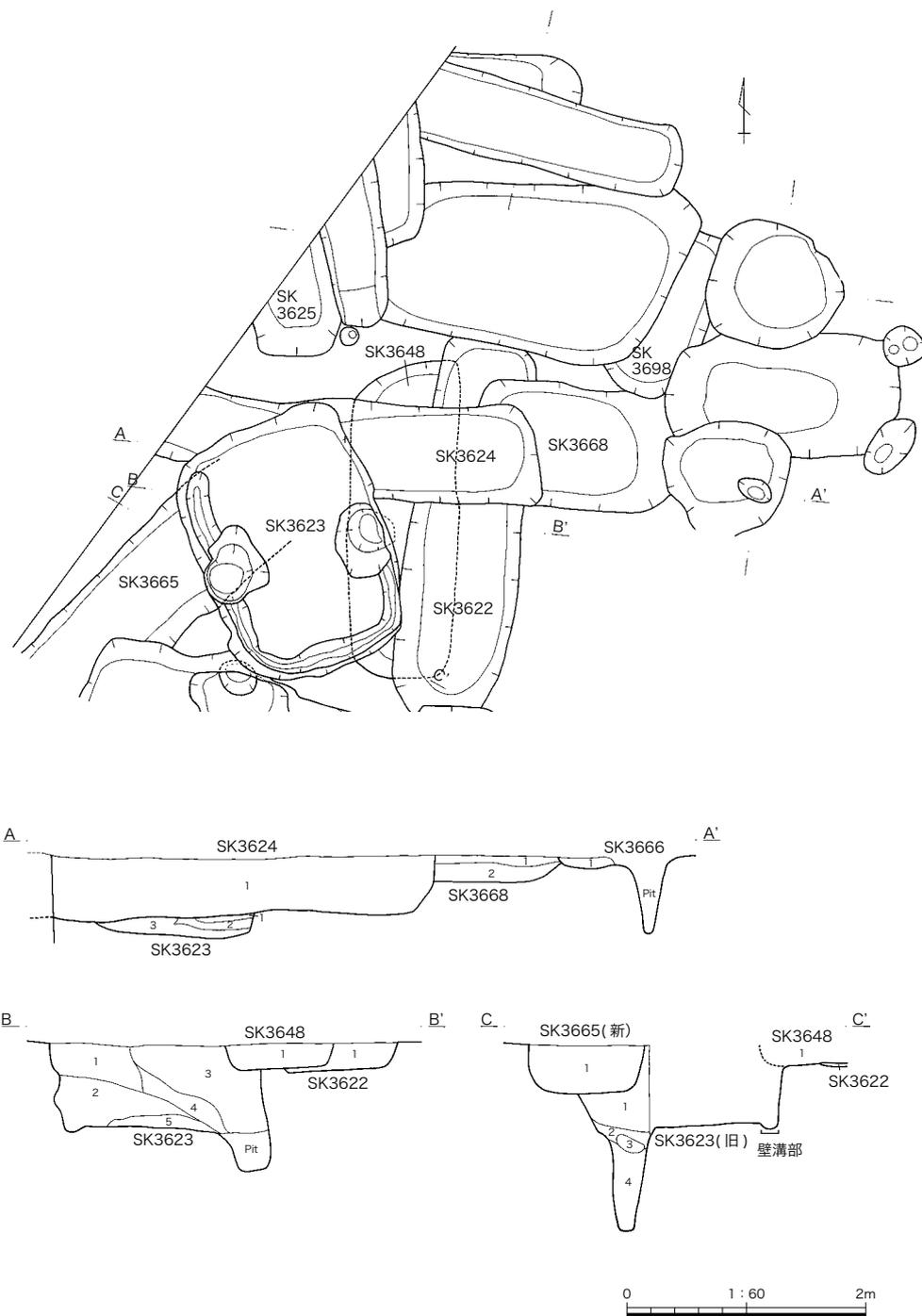
第116図 竪穴遺構 (4) SK2359・2361・2363・2412



第117圖 豎穴遺構(5) SK3601・3604・3621



第118図 竪穴遺構 (6) SK3615・3617・3618



第119図 豎穴遺構(7) SK3623

第5節 掘立柱柱穴列（塀）

本遺跡で調査時に確認された掘立柱柱穴列は総数 11 基である。ピットが同方向に並ぶものをここに分類しており、2 列以上のピットとなる建物跡とは区別しているものの、建物跡或いはその一部という想定ができるものも含んでいる。また本遺跡では多数のピットが確認されており網羅的な逐一の報告を為し得ないが、全体図を観察して気づくように、調査時に確認し得なかった柱列或いは建物跡想定可能なピット群はかなり多く、詳細な検討を必要とする。ここでは、あくまで調査時に捉えたものを示していく。

ピットそのものは、平面円形を基調として、上端径 15 cm 程度のものから、50 cm 程度のものまでである。深さも 10 cm 程度のものから 1m 程度のものまでである。平面円形基調ではあるが、やや楕円形を呈するものなどもあり、一律には捉えがたい。ピットの並びもそれぞれの遺構で異なっている。以下羅列的に、遺構の形態、位置、重複について示す。

SA07,5149（第 120 図）

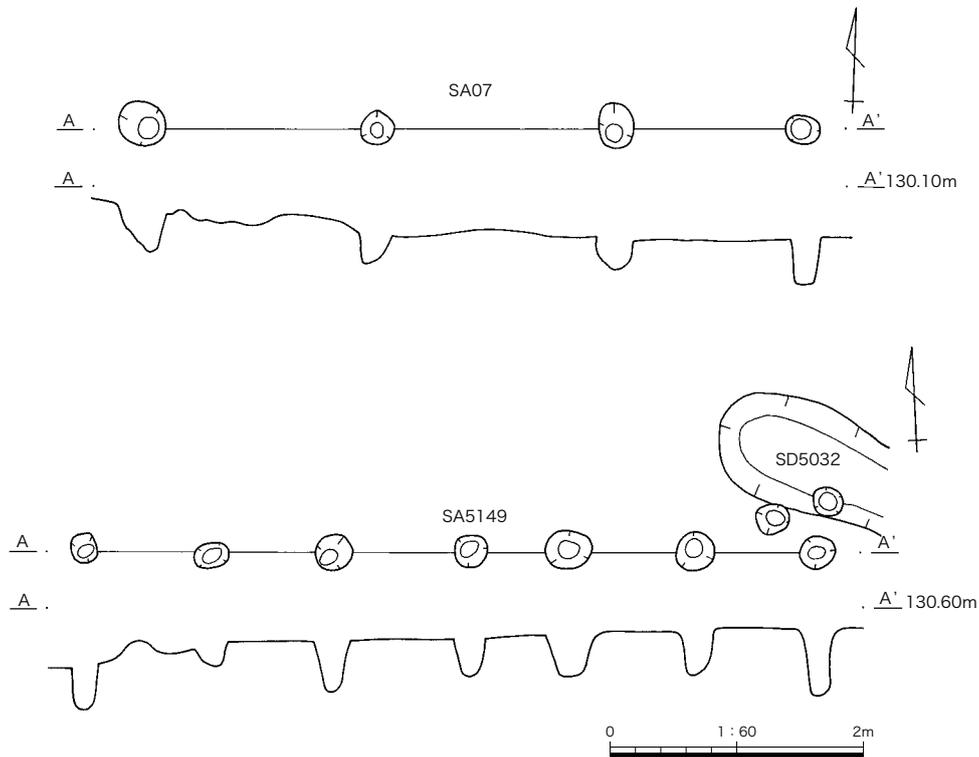
SA07（第 120 図）は、調査区南西端近くの、トレンチ状調査区で確認された遺構である。北側が未調査区であり、柱穴列としたものの、掘立柱建物跡の一系列部分のみ確認されたものである可能性も高い。西約 6m に SD59 がある。上端径 20～40 cm、深さ 30 cm 程度のピット 4 基からなり、ピットの形態・深さは比較的一定している。軸は N-90° -W である。

SA5149（第 120 図）は、北側調査区の南西側で確認された遺構で、SD5032 に接するような位置にある。SD5032 が 2m ほど途切れる部分に対応するかのような位置にあり、関連があるかもしれない。軸は N-87° -W で、これは南側に位置する SB5150 や SB5151 と概ね同方向を示す。ピットの対応は捉えられないものの、建物跡底のようなピット列となる可能性もある。また周辺にはいずれにも属し得ないピットも少数ある。SA5149 自体は 7 基のピットからなり、上端径 25～30 cm、深さ 20～55 cm 程度である。ピット芯-芯間の距離は 90～100 cm 程度で、やや間隔狭いところもあるものの、比較的整っているとも言えようか。柱間で数えれば 6 間分ということになる。

SA5157,5176,5177,5178（第 121 図）

SA5157 は 10～12 基のピットからなる柱穴列である。SK5143,5181 と重複する。北側調査区のうち西側～中央近いところで、SD5043 の南、SB5135 と重複する位置にある。SB5135 は 2 間×2 間の総柱基調で西側に付帯部分がある建物跡で、これとは若干軸を異にしているが（N-75° -W）、北側の区画溝 SD5043 とは概ね平行する。北側には建物跡への帰属が捉えられないピットがやや多く認められ、検討が必要であるが、これらと組み合わせての建物跡復元が可能かもしれない。上端径 15～25 cm 程度で深さ 15 cm 程度の浅いものと、上端径 30～50 cm で 100 cm 近い深いピットの両者がある。深いピットが 2m 程度の間隔で 5 基、浅く小さめのピットがこの間に入る交互配置的な状況とも捉えられる。

SA5176,5177,5178(第 121 図)は 3 列のピット列である。SA5178 は 36 基のピット、SA5177 は 21 基のピット、SA5176 は 24 基のピットからなる。細かいピットが密に並んでいる。それぞれのピットの形態・深さを示し得ないが、概ね 10～20 cm 程度のようなものである。SA5178 は上端径 20～30 cm だが、SA5176,5177 は上端径 10～20 cm とやや細目のピットからなる。北側調査区のうちやや南側で SD5003 の南西隅近くにある。この SD5003 や近い位置にある土坑 SK5079,5080 等と概ね同方向で（N-77° -W）、SA5178 の北側には、帰属不明のピットが少数ある。SA5176 の一部から南側が未調査区であるが、形態からは掘立柱建物跡となる



第120図 掘立柱柱穴列(1) SA07・5149

可能性は低い。この3列が同時に機能していた可能性もあろうが、3列の中で中間にあるSA5177がやや短い点に注意されようか。

SA5038, 5039, 5040, 5041, 5045 (第122図)

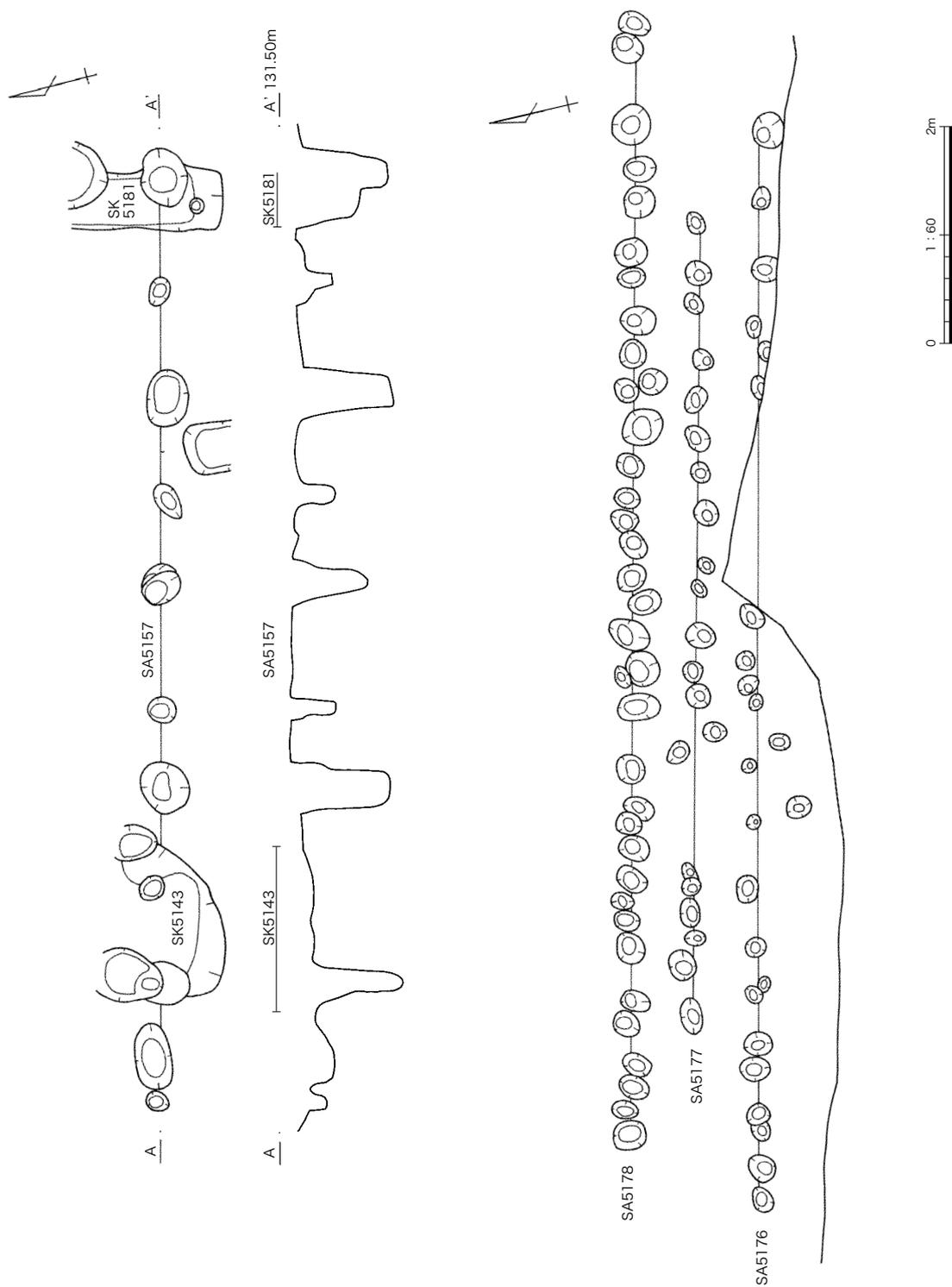
この5基の柱穴列は、北側調査区の最も西側で、調査区外にかかる位置にある。北側調査区で北西-南東方向に走る区画溝SD5002と75°の角度で重複、また同じく区画溝のSD5003とは平行に近い角度である。SA5040の軸がN-14°-E、他の4列も概ねこの方向である。土坑SK5174, 5175が重複するが、それ以外に遺構は希薄な区域である。この柱穴列を形態から柵列と推定する案もあろう。

ピットは、SA5041が21基、SA5045が13基、SA5040が45基、SA5039が54基、SA5038が19基である。それぞれ或いは1列中の場所によってもピット密度は異なるが、総じてピット同士が重複隣接するような密な状態である。SA5039やSA5040の北側では列上に並ばないピットが幾つかある。SA5040のピットは上端径10~20cmと小さめだが、それ以外は20~40cmのものが主体である。深さはいずれも浅く5~10cm程度で、深いものでも40cmには達しない。列の長さはSA5039が20.3mほどの確認であるが、それ以外の4基も含め調査区外に延びており、本来の長さは不明である。

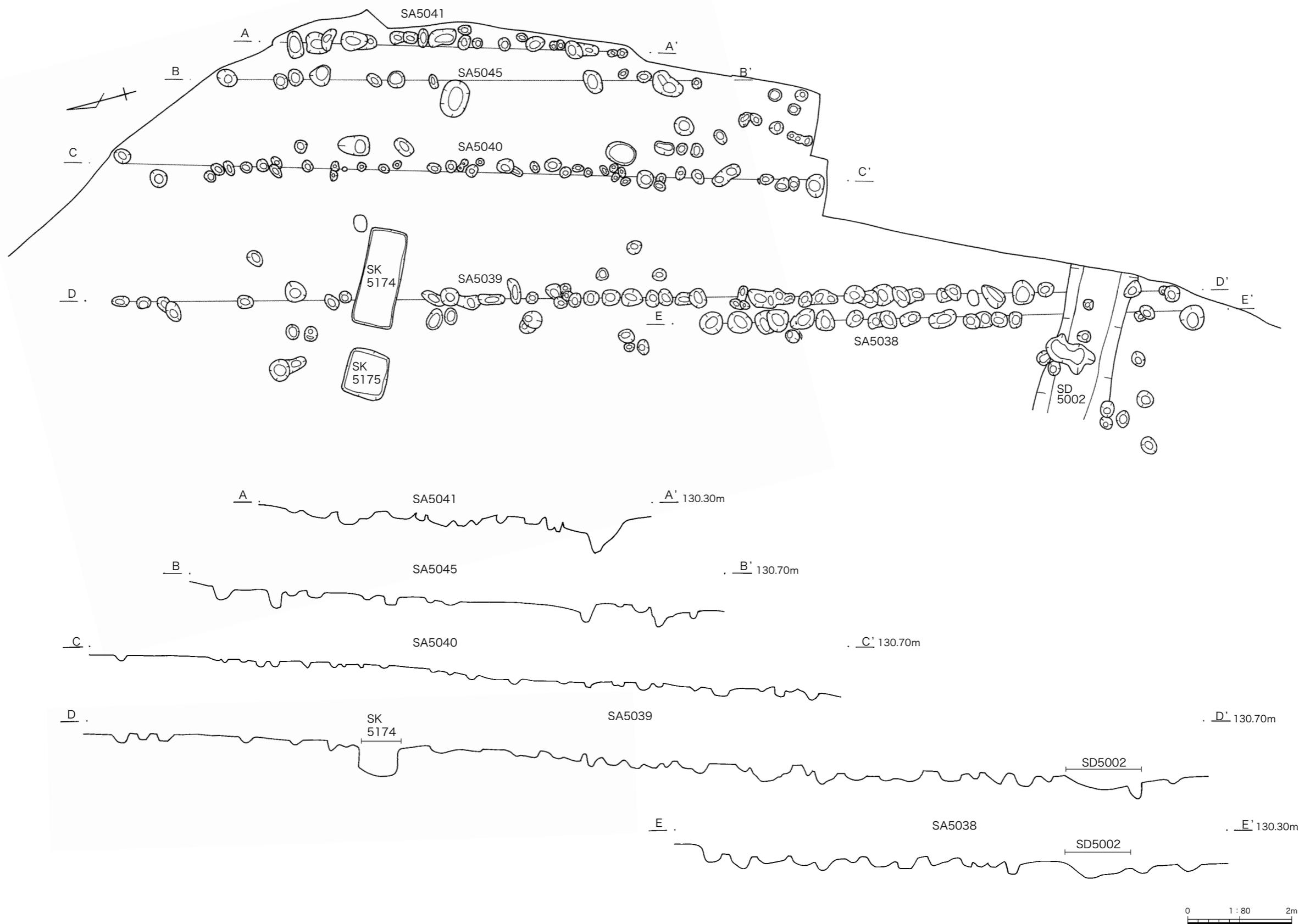
SA5038はSA5039とほぼ接するような位置関係にあるが、両者の関係については不明である。SA5045やSA5040ではやや大きめのピットが一定間隔で並ぶように見える部分もあるが、整然とはせず判断が難しい。

第6表 掘立柱柱穴列一覧表

遺構番号	遺構種類	グリッド	長さ (m)	全体図での位置	図番号
SA-07	掘立柱柱穴列	オ4G 8	5.52	1/500 2-㉔	120
		オ4G 9			
		オ5G 8			
SA-5038	掘立柱柱穴列	ケ2E 2	6.84	1/100 A-㉔	122
SA-5039	掘立柱柱穴列	ケ2E 1	(14.55)	1/100 A-㉔	122
SA-5040	掘立柱柱穴列	ケ3E 1	(9.69)	1/100 A-㉔	122
SA-5041	掘立柱柱穴列	ケ3E 1	(4.65)	1/100 A-㉔	122
SA-5045	掘立柱柱穴列	ケ3E 1	(6.60)	1/100 A-㉔	122
SA-5149	掘立柱柱穴列	ク4D 9	6.03	1/100 A-㉔	120
SA-5157	掘立柱柱穴列	ク5D 8	8.91	1/100 A-㉔	121
SA-5176	掘立柱柱穴列	ク7E 1	10.17	1/100 A-㉔	121
SA-5177	掘立柱柱穴列	ク7E 1	7.59	1/100 A-㉔	121
SA-5178	掘立柱柱穴列	ク7E 1	10.53	1/100 A-㉔	121



第121図 掘立柱柱穴列(2) SA5157・5176・5177・5178



第122圖 掘立柱柱穴列(3) SA5038・5039・5040・5041・5045

第6節 掘立柱建物跡

本遺跡で調査時に確認された掘立柱建物跡は総数 21 基である。他にもピットの集中区域や、ピットの並びが確認できる箇所もあるものの、本節では調査時に捉えた掘立柱建物跡についてのみ示すこととする。調査時に確認し得なかった柱列或いは建物跡想定可能なピット群はかなり多く、詳細な検討が必要となろう。

掘立柱建物跡と確認できた遺構は、北側調査区と SD02 区画より西側で SD04 溝東側の一定範囲に集中している。掘立柱建物跡全体を通しての特徴を見いだすのは難しいが、総じてピットの形態が小さく浅めのものが多い。ピットそのものは、平面円形を基調として、上端径は 20～40 cm、深さも 20～40 cm 程度のものが多い。SB06 (第 126 図) や SB5150 (第 129 図) 等は建物跡の規模がやや大きい (長軸長 9m 程度) こともあるが、ピット上端径も 40～60 cm、深さも 60～70 cm と良好な例である。梁桁 2 間以上で中央内部にも柱穴を有する総柱構造のものは少なく (SB5135,5172)、いわゆる側柱構造や 1 間×1 間等の配置となっている。以下それぞれの区域毎に、やや羅列的となるがみてゆく。

SB01,02,03,04,06,5172 (第 123～126,135 図、写真図版 45)

調査区西側の区域で 6 基の建物跡が確認された。北側 SD26、西側 SD04、東側 SD20 で区画された範囲内で、少数の土坑とやや多くのピットが確認され、掘立柱建物跡は 6 棟が認められた。SB01～SB03 の 3 棟が北側に、それ以外が南側にまとまる。北側の 3 棟は、ピットの形態・深さが概ね同じで、東西方向に長軸 (梁・棟方向、5～6 m) がある 1 間×3 間の建物跡という点も共通する。但し SB02 (N-85° -W) と SB03 (N-81° -W) は近接する位置にあって軸方向も若干異なる等、同時存在は難しい遺構である。SB01 は N-83° -W。南側の 3 棟はいずれも異なる形態で、SB04 と SB5172 は重なる位置となる。SB04 は東西方向に長軸方向があるもので、2 間×4 間で北側にほぼ同規模の 1 列及び南側に張出し状のピット群が認められたものである (N-89° -W)。内側に帰属不明のピットがあり、この建物跡に関わるピットの可能性もあろう。但し周辺東側や南側にも帰属が明確ではない幾つかのピットがあり、別の建物跡や柵列等の遺構を想定する案も考えられる。この南側に SB5172 と SB06 がある。SB5172 は 2 間×2 間だが南北の棟方向 (長軸方向) の間尺が約 4.2m と広い。ピット底面が一段下がるような形状が確認されており、柱痕或いはあたり部分となろうか。SB06 も南北方向に棟方向があるもので、SD04 や 3m 程度西側に位置している SB5172 と概ね同じ軸方向である (N-4° -E)。南北の短辺、東西の長辺それぞれでピット数が異なり或いは対称位置に無い等、やや不整な印象を受けるが、ピットそのものは比較的大きく深めの良好なものである。なおこの集中域の南側や東側にもピットがやや散在している。

SB5135,5152,5153,5161,5164,5166 (第 127～134 図)

掘立柱建物跡第 2 の集中区域は北側の調査区である。細かく見ると、中央より SD43 に近い位置で SB5165,5164,5161,5135 と集中部があり、これより 7m 程度南側の東西ゾーンに SB5166,5161,5150,5152,5153、未調査区を挟んで東側に SB5168,5169 がある。後者は東西 37m、南北 10m 程度の範囲に列状に並ぶような状況とも観察され、概ね同方向で建物跡群の北側に展開する SD5032,5031 との関わりも想定させる。

前者の集中域の掘立柱建物跡について確認する。SB5135 は、2 間×2 間に北側庇状のピット列及び西側張出状部分加わる復元を為したものだが、長軸北辺 (梁) 西側もピットが確認され、これを含める想定案もある。軸は N-82° -W で、南北長辺の間では 1 間 (1.8～1.9m) の中央部にも比較的良好なピットが位置している。土層断面の記録からは明瞭な柱痕跡や掘り方埋土は認められないが、中央・壁際でやや異なる土

層として分層されたところもある。土坑との重複では本跡ピット→SK5143、SK5048→本跡ピットの関係が認められている。南西側にやや長方形土坑がまとまる点は注意される。また、SB5135の北西にあるSB5164は直接の重複はないが、ほぼ接しており、同時存在を考えるのは難しい。また北東側のSB5161やSA5157も重なる位置となる。一方北側のSB5165は1m程度の距離にあるが、若干軸が異なる。SB5164(第132図)は、長軸2.6m、1間×2間のやや規模の小さな建物跡(N-8°-E)だが、ピットは比較的深く明瞭なものである。SK5107と重複しているが、西辺中央のピットが土坑覆土を切っており、土坑→掘立柱建物跡の関係が判断される。SB5161(第132図)は1間×1間の建物跡で、西辺及び東辺中央のピットはSB5135の柱穴である。東側で重複する土坑SK5042との関係は不明。ほぼ中央で焼土が確認されているが、本跡に伴うか否かは不明である。SB5165は2間×1間の建物を復元し得るもので、これも規模の割にはピットの深さが50cm程度あり、比較的深く良好な柱穴である。下位に未明名の土坑があるが、これとの関係は不明である。この建物跡の軸はN-8°-Eで、北側に隣接する溝SD043とほぼ直角の角度となる。

なおSB5135の南側7m程度の範囲は少数のピットと土坑1基のみだが、SB5135建物跡の東西～SD5043との間には比較的多くのピットがあり、建物跡或いは柵列等の復元も可能な点は注意しておく必要がある。

SB5150,5151,5152,5153,5166 (第127,129,130,131,133図)

SB5150(第129図)とSB5151(第130図)とはほぼ同一の位置に重複する関係にある。詳細図では分解して示した。SB5150がやや長く軸がN-85°-W、SB5151の長軸がやや短く軸がより東西軸に近い。北側約1mの位置で平行する方向にあるSA5149は、方向的にはSB5150により近い。また、SB5151が長辺(梁行)4間であるのに対して、SB5150は5間という違いもある。ピットはいずれも上端径25～40cmだが、ややSB5150の方が太い傾向にある。ピットの深さはいずれも60～80cmとさほど大きな差異は無い。両者の棟軸上に2基のピットがあり、いずれかに関わる可能性もあるが、判断できない。また南側や西側にもピットが比較的多く確認されており、この建物跡に関わるピット或いは別に重複する建物跡の復元が可能かもしれない。SB5152が両者と重複する位置にあるが、新旧関係は不明、軸はSB5150に近い(N-89°-W)。1間×2間、但し南側の長辺中央にピットの確認が為されていない。

SB5166はこれらの建物跡群より西側に位置しているもので、1間×2間ながらやや不整な形状を為している。ピット同士の重複があり、建て替え(重複)が想定できようか。ピット深さ40～60cmと比較的良好な形態を示している。SB5153(第131図)は、2間×2間が推定される建物跡だが、南東隅の柱穴が判然としない。中央土坑・溝と重複する位置だがピットが幾つか認められ、或いは総柱構造の復元も可能かもしれない。区画溝のSD5032やSD5148,SK5034と重複するが、新旧関係は不明である。

SB5168,5169 (第134図)

SB5168,5169は2棟の重複する建物跡で、ほぼ同じ位置にある。SB5168はやや東側に短辺(桁側)の柱穴があり、ほぼ長方形に1間×4間の構造で間尺は1.7～1.8m、軸はN-73°-Wである。SB5169はやや西側にまた若干角度がより西に振れる形で1間×3間分の柱穴が確認されたものである(軸N-77°-W)。南西コーナーでピット同士の重複が認められるが、新旧関係は捉えられていない。ピットは20～40cm、深さ40～90cm程度で、若干SB5169のピットの方が太いようにも見える。中央や周辺にもピットが少数ある。とりわけ南側約0.6mの位置に同方向で並ぶピット列が認められ、いずれかの建物跡と関わる(庇等の)可能性がある。SB5168は北東コーナー柱穴が区画溝SD5032と重複している。より北側でこれら建物跡の軸方向と概ね平行する方向のSD5031との関係を注視すべきようにも思える。

SB5159,5160 (第131,132図)

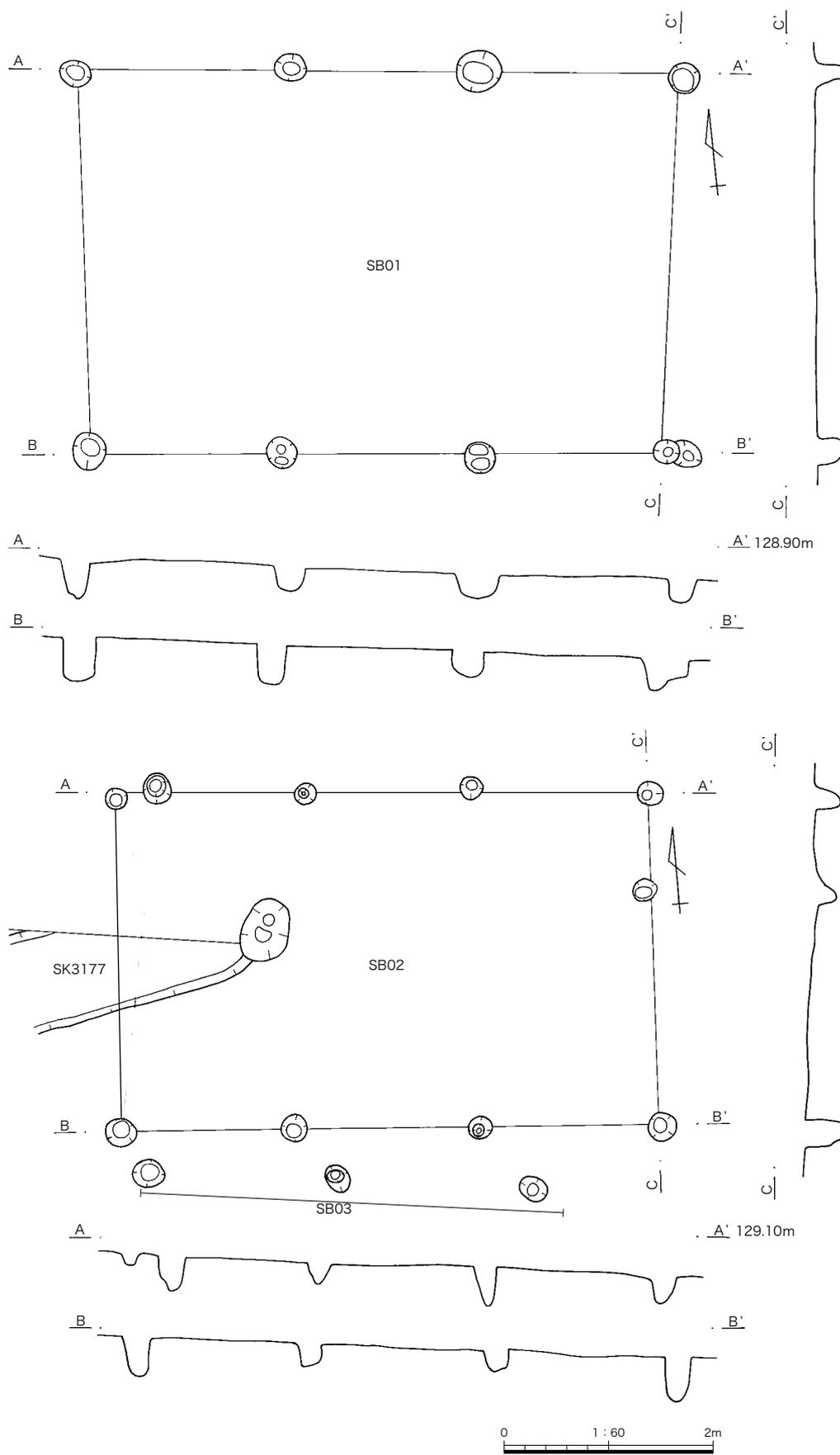
この2棟の掘立柱建物跡は北側調査区の中でもやや東寄りの位置にある。いずれも1間×2間の建物跡で、大きさ・間尺・ピットの形態・規模も概ね同じである。軸も概ね平行し(N-66°-W、SB5160はN-63°-W)、この方向はSB5159の南側0.8mに位置するSD5021や、更に南のSD5003と概ね平行する方向である。北側のSB5160では、内部にピット列があり、また周囲北側にも概ね同方向に並ぶピット列複数がある。詳細な記録の提示と検討が必要だが、SB5160建物跡と関わる、或いは別の建物跡が重複して存在していた可能性は充分考えられよう。

SB05,08 (第124,127図、写真図版45)

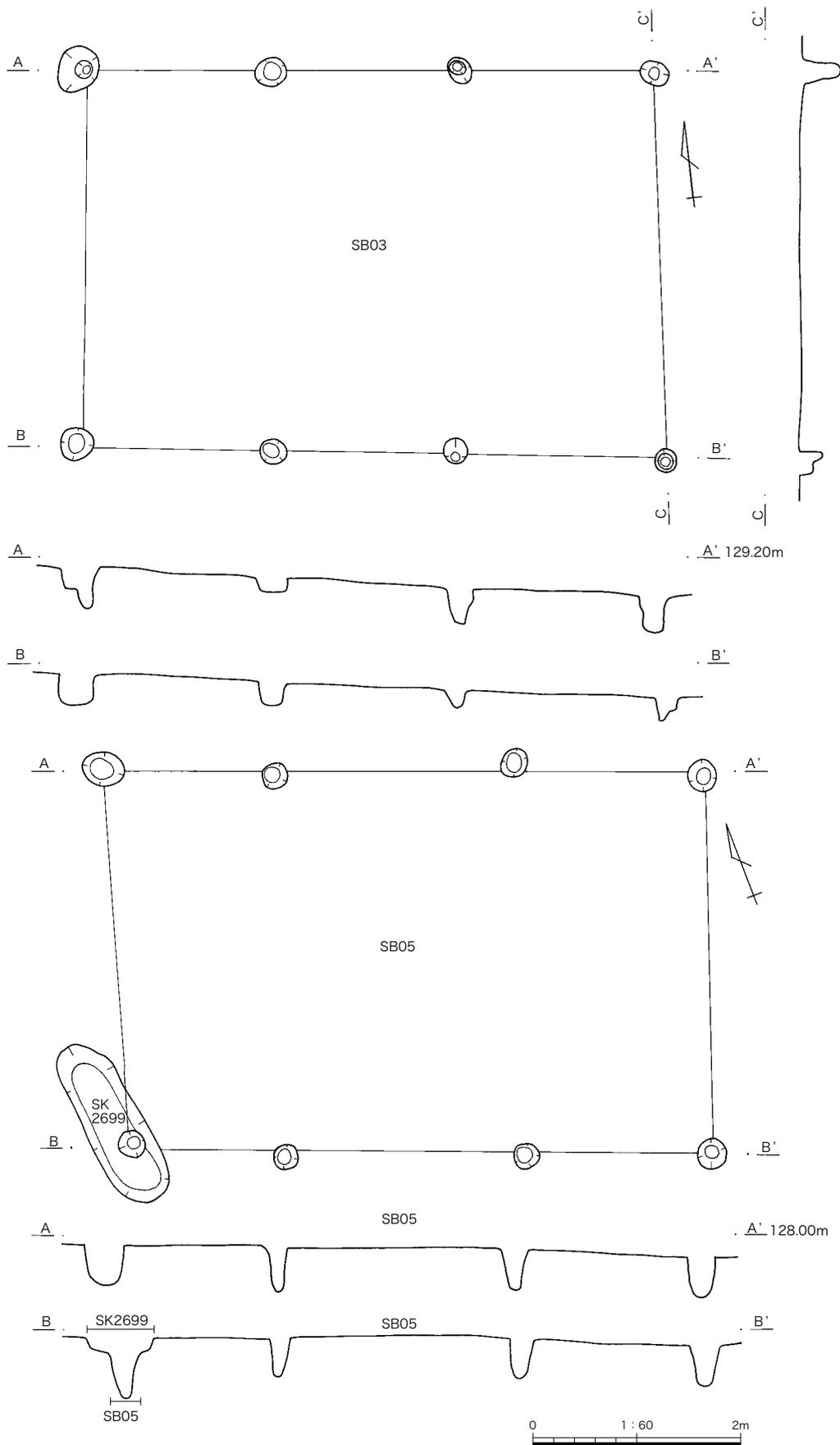
以上までの集中域とは別の地点から確認された掘立柱建物跡が2棟ある。SB05は調査区内の南東、SD02区画の南東「入り口部」より更に東側、調査区端部にかかる位置にある。3間×1間だが、桁側がかなり広い。但し東側が調査区外にかかることから、本来より大きな建物跡となる可能性もある。ピット上端径は20～30cm程度のもの主体だが、深さは40cm程度のもが多く、比較的明瞭である。長方形土坑は周囲に一定数あるが、他に区画溝や井戸等の遺構は無い。但し軸(N-69°-W)は周囲にある長方形土坑の軸に直交、SD02区画溝南辺に概ね平行する角度であり、SD02区画外の様相を考える上では注意される。SB08は調査区南西端、SD48に囲まれた範囲内にある。東西方向に2間分の列+東側に張出状の配置が確認されたもので、西側が調査区外にかかることから、より大きな建物跡となる可能性がある。東辺は、概ね南北辺での2間分に相当する距離がある。柱穴の上端径30cm程度、深さ40～60cm程度だが、東側への張出部ピットはやや細く浅い。軸はN-82°-Wで、おおよそSD48の北辺軸と平行する。但しこの溝との間には15m程度の空間があり、関連も確定的な判断ではない。他にこの区画内には井戸2基が認められている。

第7表 掘立柱建物跡一覧表

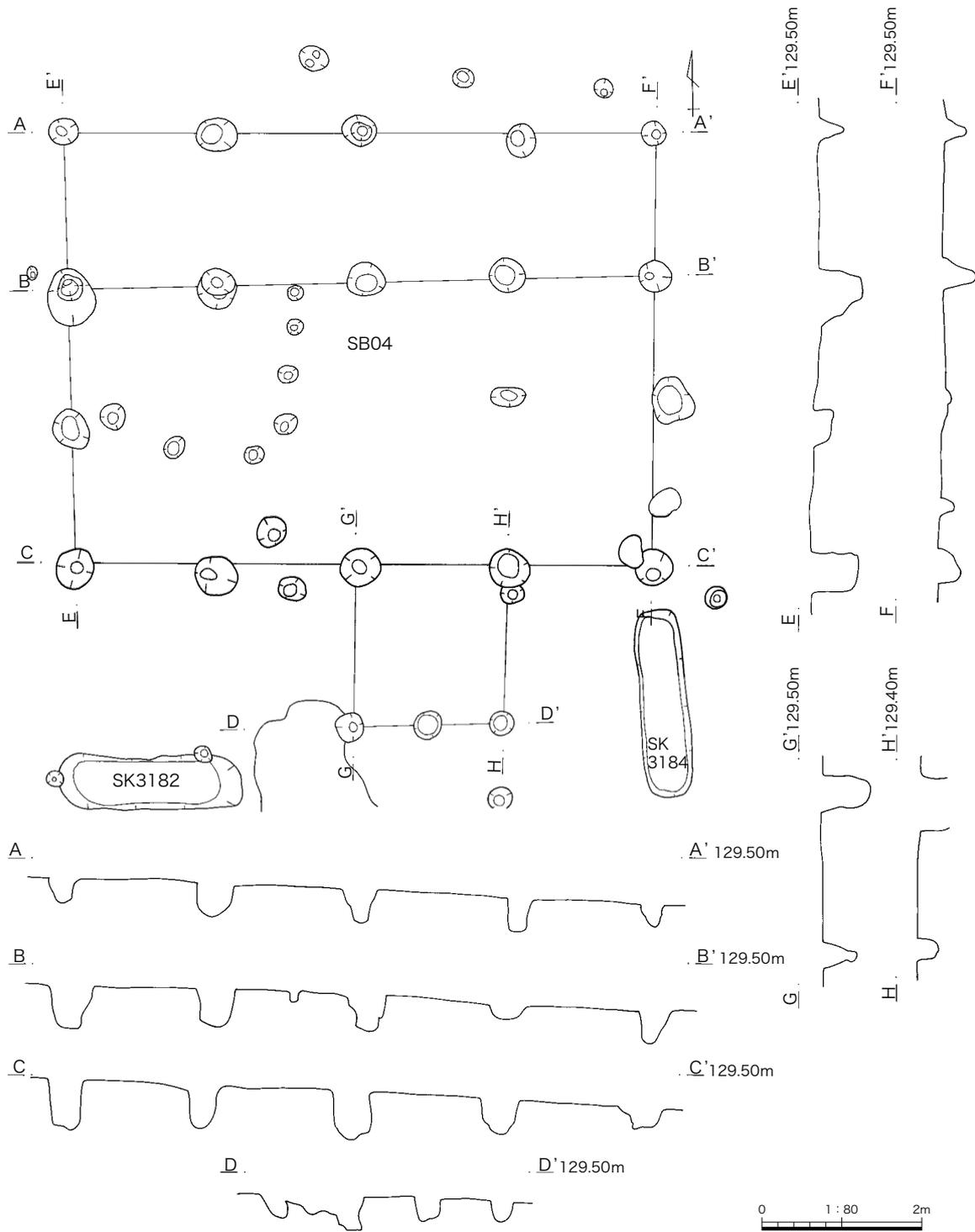
遺構番号	種類	グリッド	東西 (m)	南北 (m)	全体図での位置	図番号
SB-01	掘立柱建物	オ7G1	6.06	3.87	1/500 2-A	123
SB-02	掘立柱建物	オ6G0	5.44	3.48	1/500 2-A	123
SB-03	掘立柱建物	オ6G0 オ6G1	5.91	3.99	1/500 2-A	123・124
SB-04	掘立柱建物	オ6G0 オ6G1	7.71	5.95	1/500 2-A	125
SB-05	掘立柱建物	ク0H2 ク0H3	6.09	3.97	1/500 2-C 3-C	124
SB-06	掘立柱建物	オ6G2 オ7G3 オ7G2	6.00	9.84	1/500 2-A	126
SB-08	掘立柱建物	オ7I3	5.55	4.74	1/500 3-B	127
SB-5135	掘立柱建物	ク5D8	8.05	6.72	1/100 A-A	128
SB-5150	掘立柱建物	ク4E0	9.63	5.19	1/100 A-A	129
SB-5151	掘立柱建物	ク4E0	8.25	4.86	1/100 A-A	130
SB-5152	掘立柱建物	ク5E0	3.96	2.28	1/100 A-A	127
SB-5153	掘立柱建物	ク5E0	4.20	3.81	1/100 A-A	131
SB-5159	掘立柱建物	ク9E0	4.29	2.43	1/100 A-B	131
SB-5160	掘立柱建物	ク9E0	4.17	2.49	1/100 A-B	132
SB-5161	掘立柱建物	ク6D8	2.13	2.31	1/100 A-A	132
SB-5164	掘立柱建物	ク5D8	2.25	2.82	1/100 A-A	132
SB-5165	掘立柱建物	ク5D8	2.16	3.36	1/100 A-A	133
SB-5166	掘立柱建物	ク3D9	4.47	2.31	1/100 A-A	133
SB-5168	掘立柱建物	ク6E0	6.93	4.15	1/100 A-B	134
SB-5169	掘立柱建物	ク6E0	6.36	4.03	1/100 A-B	134
SB-5172	掘立柱建物	オ6G1 オ6G2	5.64	8.88	1/500 2-A	135



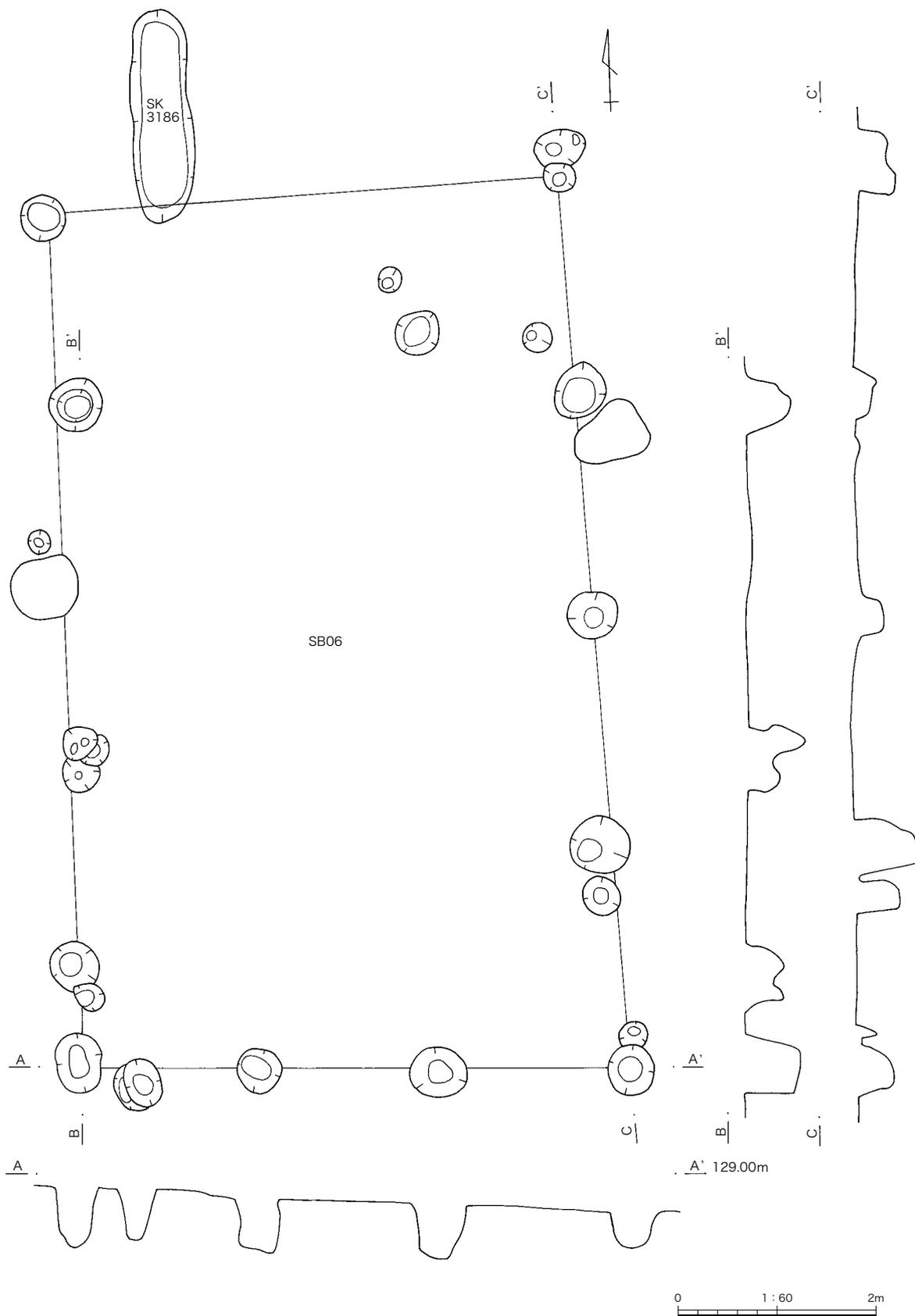
第123図 掘立柱建物跡 (1) SB01・02・03



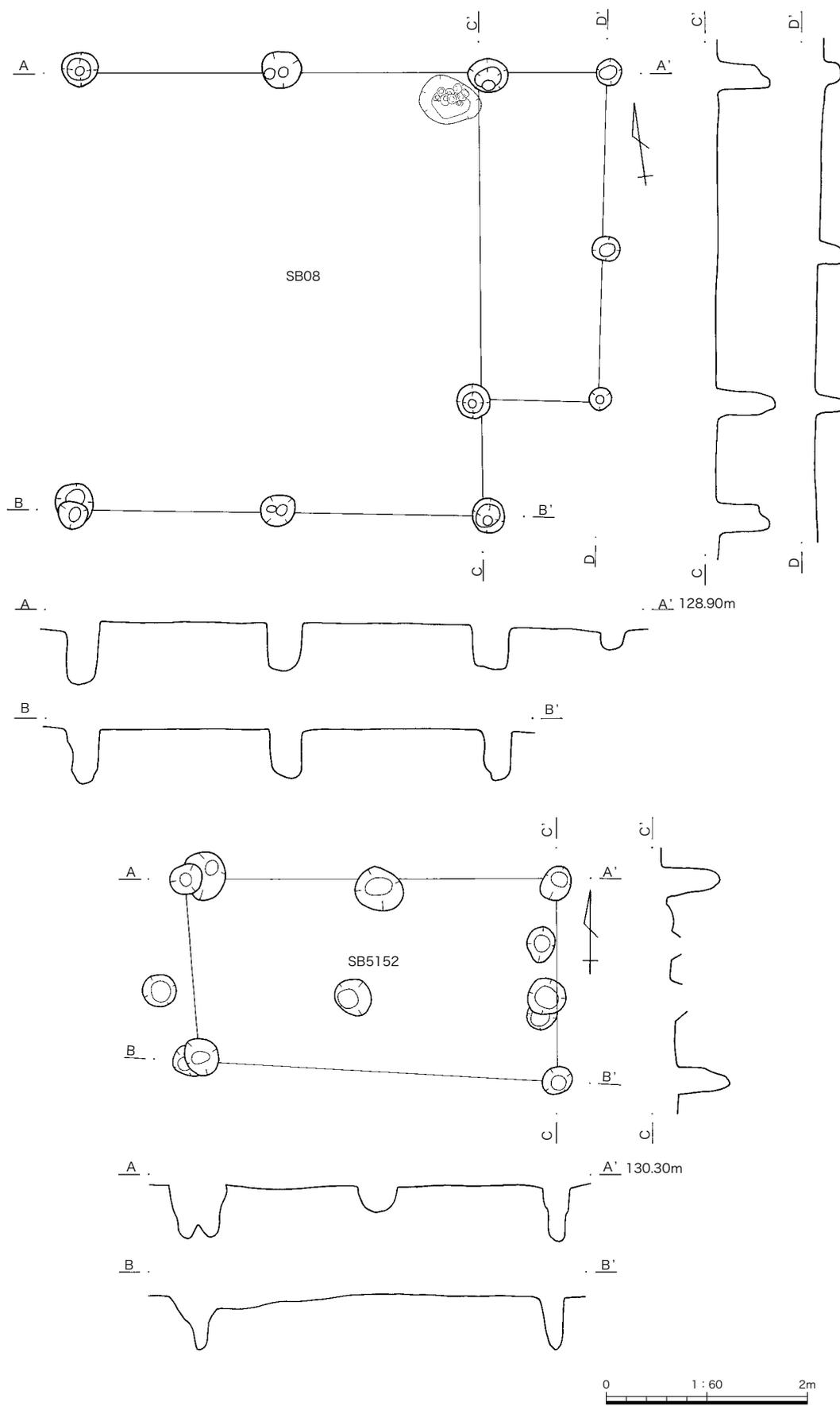
第124図 掘立柱建物跡 (2) SB03・05



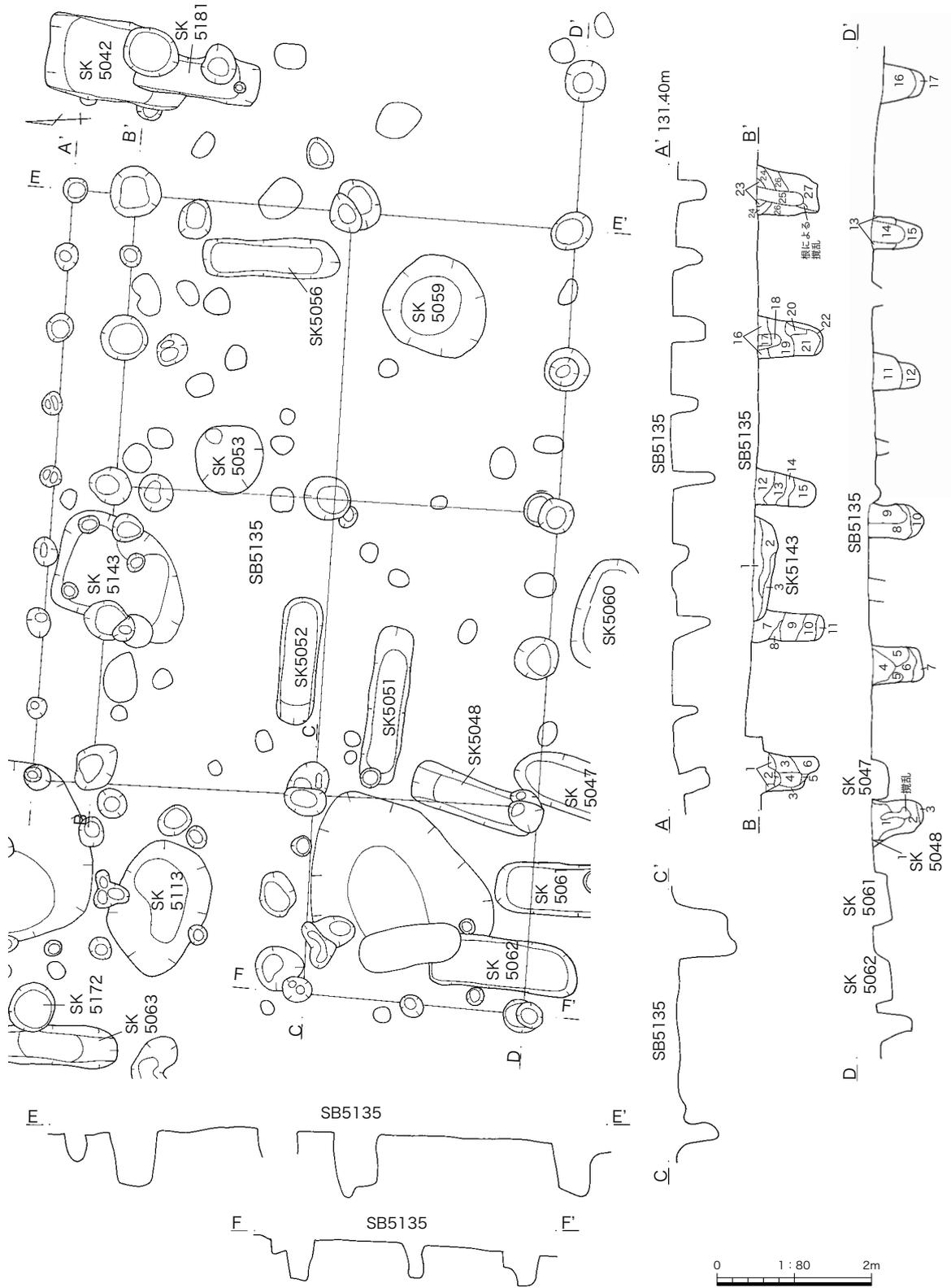
第125図 掘立柱建物跡(3) SB04



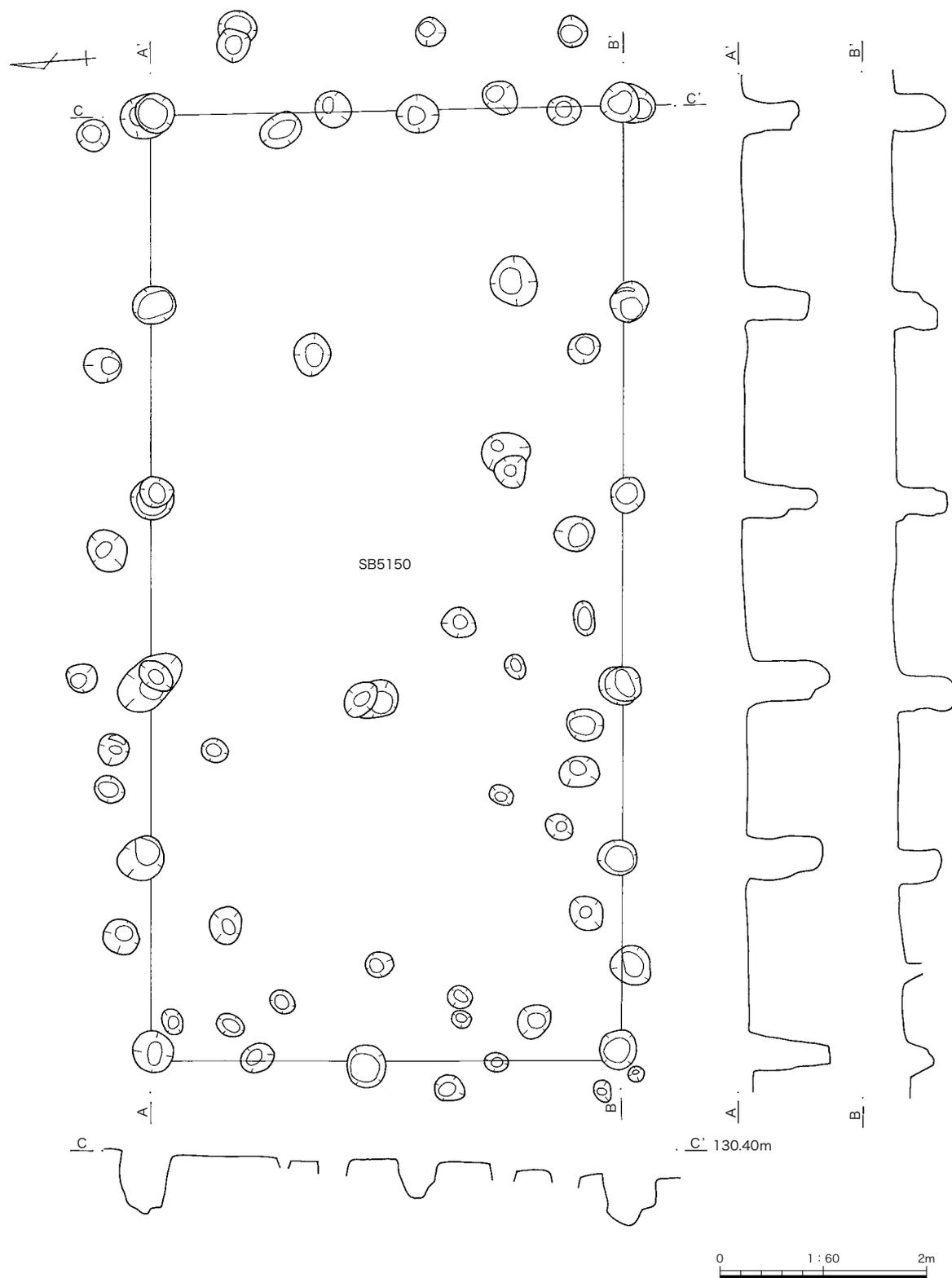
第126図 掘立柱建物跡(4) SB06



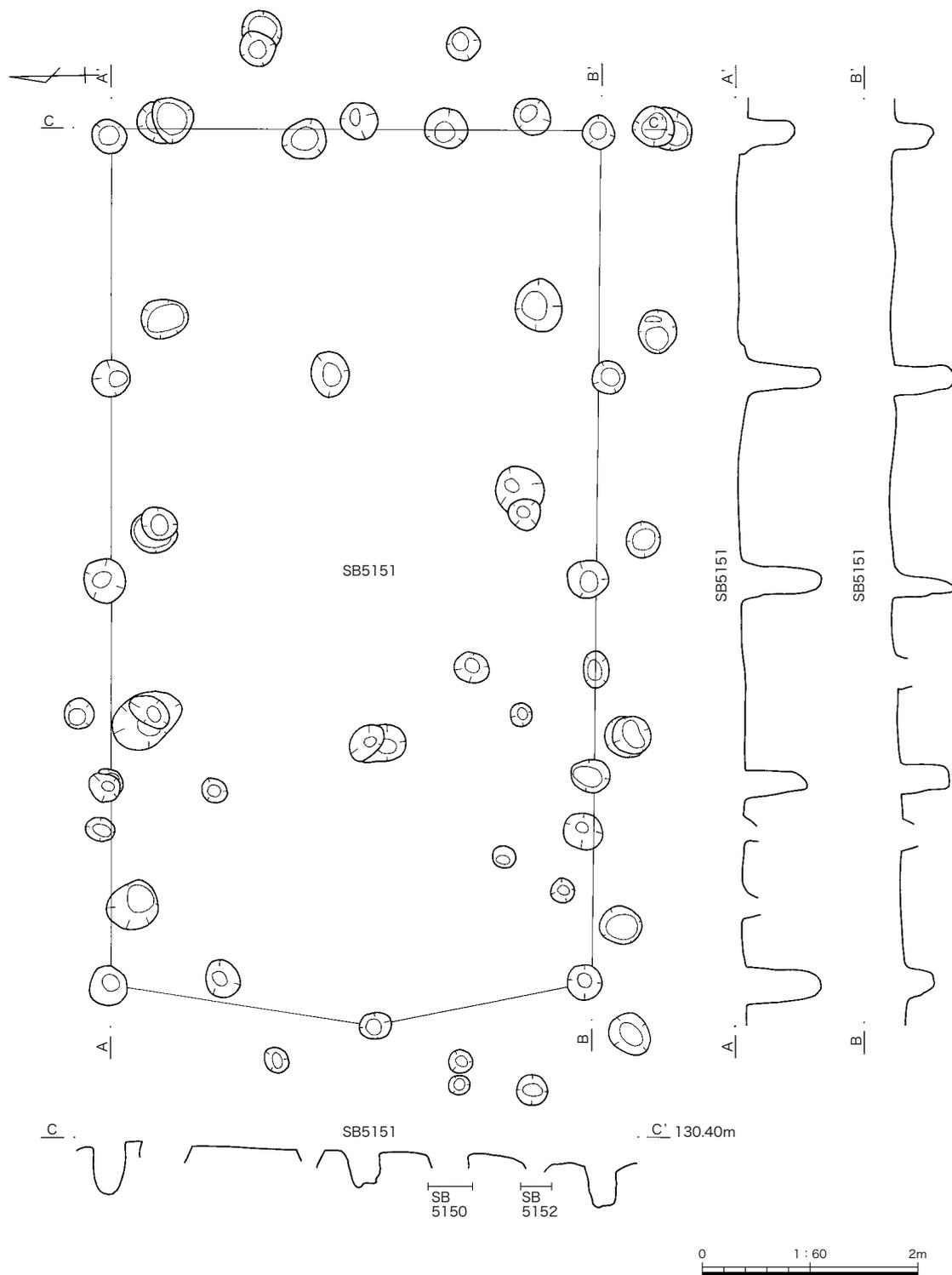
第127図 掘立柱建物跡 (5) SB08・5152



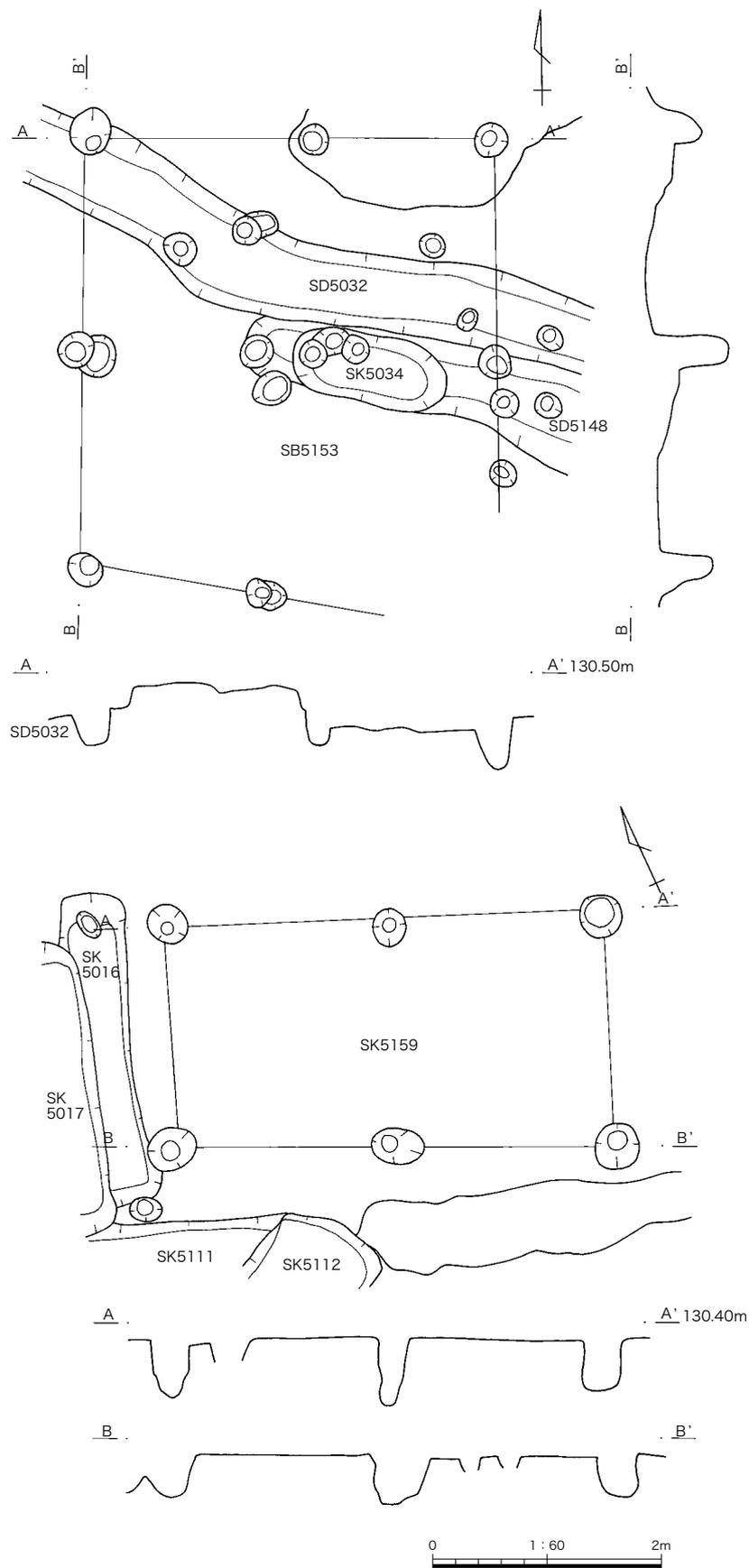
第128図 掘立柱建物跡 (6) SB5135



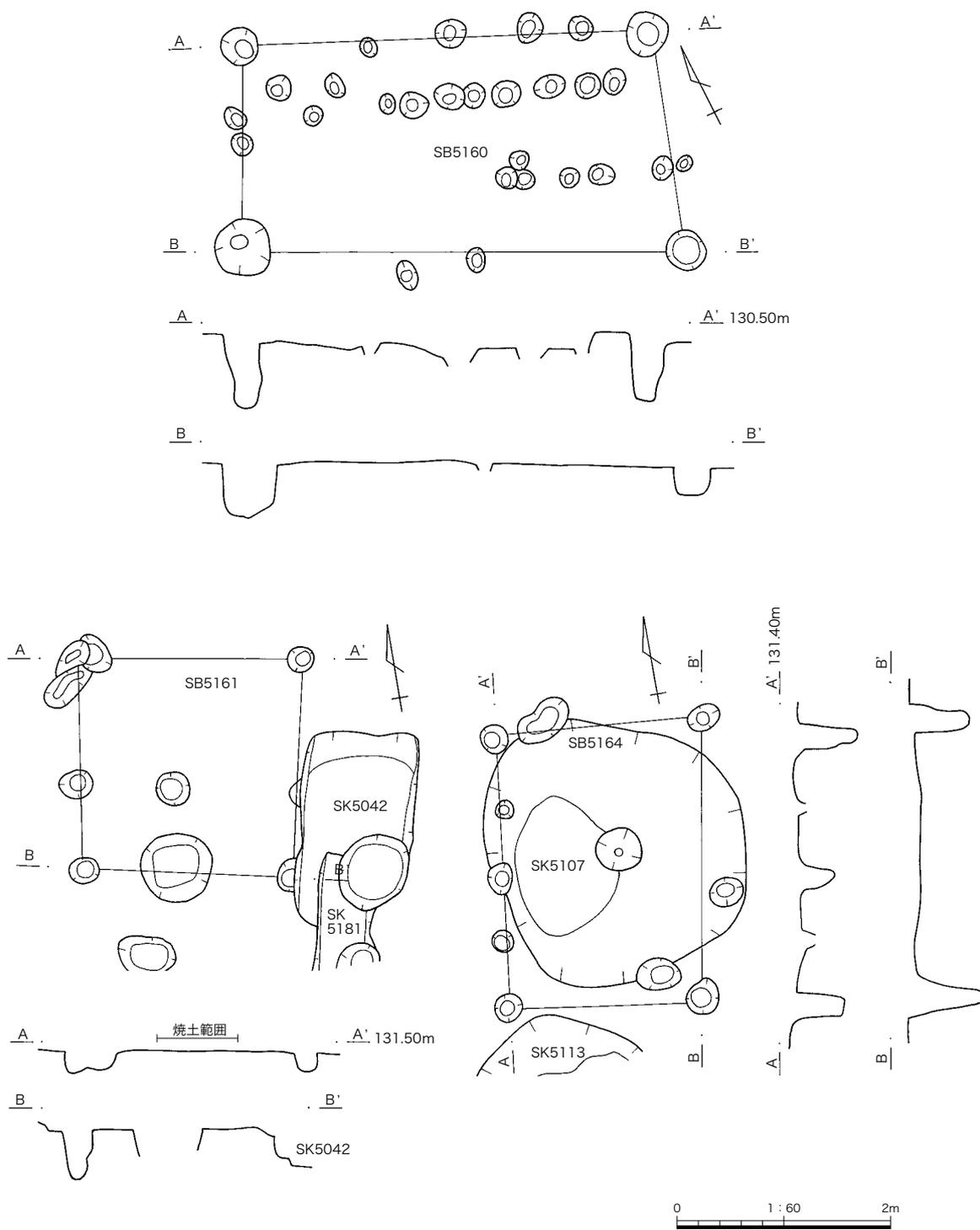
第129図 掘立柱建物跡(7) SB5150



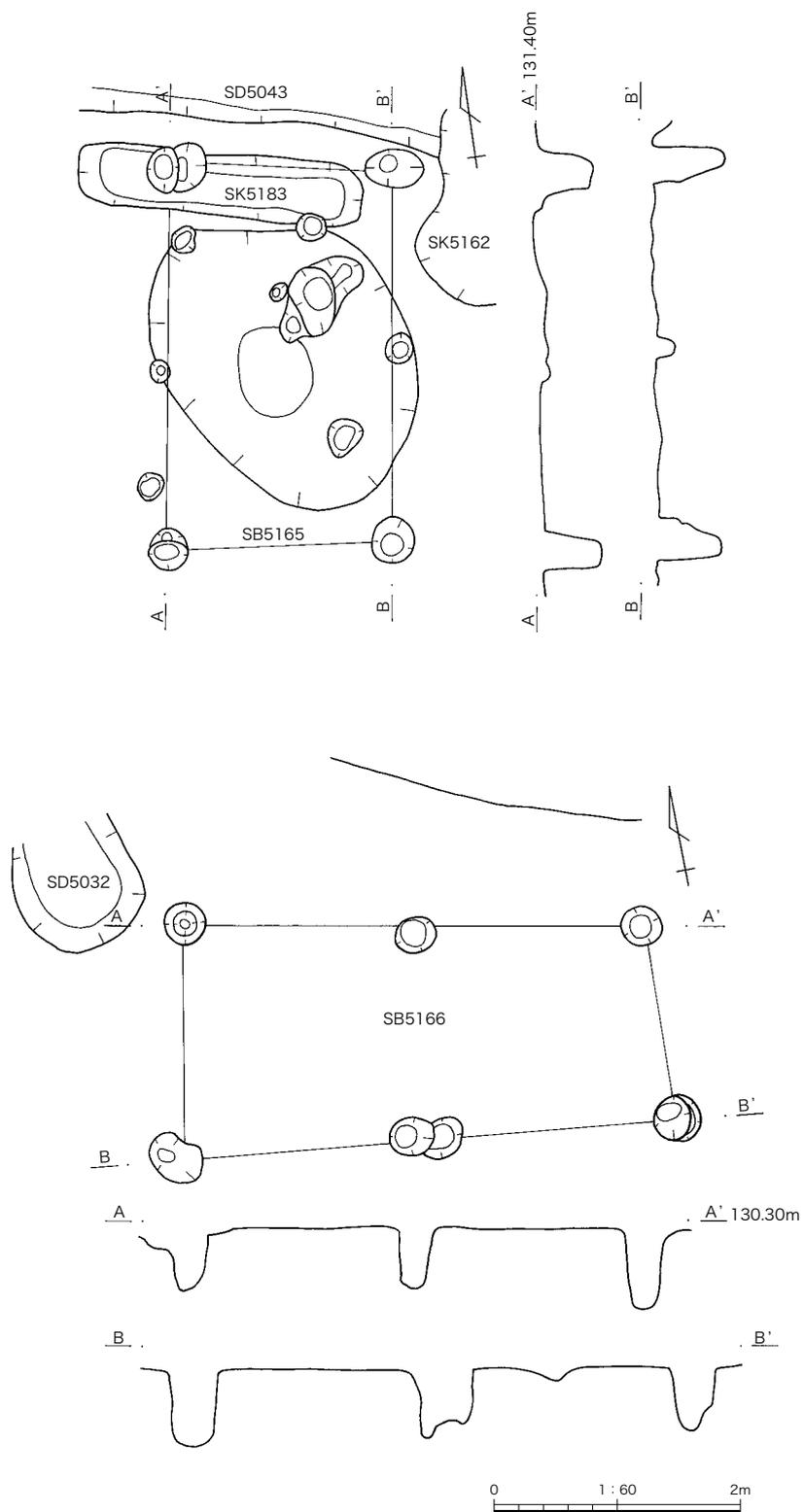
第130図 掘立柱建物跡(8) SB5151



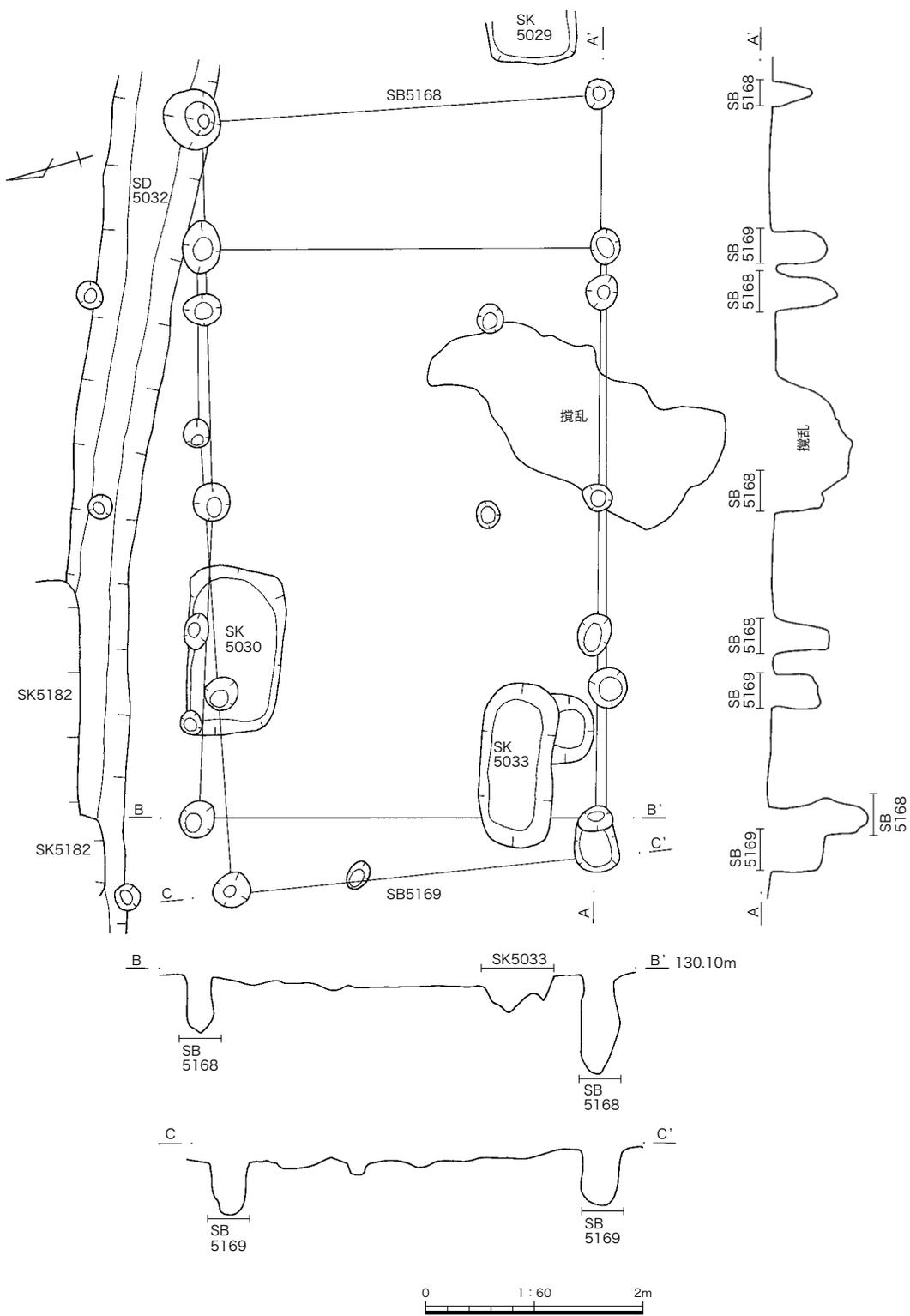
第131図 掘立柱建物跡 (9) SB5153・5159



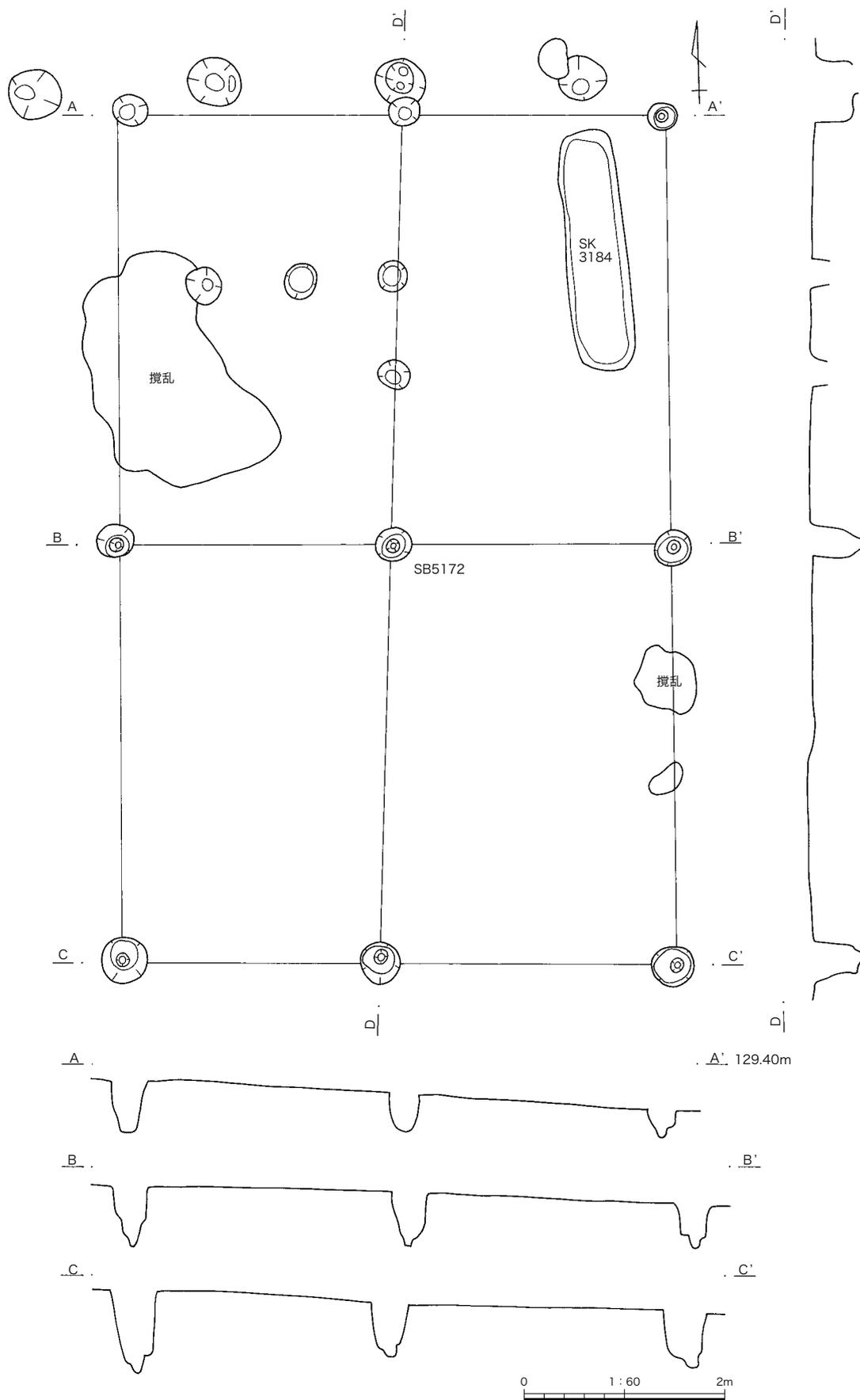
第132図 掘立柱建物跡 (10) SB5160・5161・5164



第133図 掘立柱建物跡(11) SB5165・5166



第 134 図 掘立柱建物跡 (12) S B5168・5169



第135図 掘立柱建物跡 (13) SB5172

第7節 土坑

本遺跡で確認された土坑は総数 3,491 基である。形態・規模とも多種多様で多岐にわたり、一概に説明するのは難しい。本来詳細に分類し、統計的な検討等も行うべきであるが、ここでは概要説明に留める。なお、それぞれの計測値については DVD 所収の一覧表にて示した。

本遺跡で確認された土坑で総じて多い形態は、長さ 1.5 ～ 2.5m 程度、幅 0.5 ～ 1m 程度の長方形土坑である。これに類するもので、コーナー部が丸みを有する長楕円形の形態例も比較的多く見られる。同程度の幅で長さ 4m を超える溝に近いものも一定量ある。これらの土坑の深さは 10 ～ 50 cm 程度が一般的で、とりわけ 20 ～ 30 cm 程度のものが多いように感じられる。これらの長方形・長楕円形態の土坑が、確認された土坑の 8 割を超える。短軸側の横断面の形状は、皿状に近い例もあるが、底面平坦で、壁の傾斜が比較的急となる、逆台形状を呈するものが多いようである。

特徴的な形態

以下羅列的だが特徴的な形態について確認する。一般的な長方形（例えば第 140 図 SK066）については、やや幅がある例（第 156 図 SK495）、小さめの例（第 144 図 SK154）、短い例（第 213 図 SK1739、第 215 図 SK1782、第 218 図 SK1862）、幅のある長方形で深さもある例（第 163 図 SK631）等確認されるものの、ここでは逐一例示しない。

長さ 4 m を超える長方形（溝状）：SK026（第 137 図）、SK035（第 138 図）、SK040（第 139 図、内部にピットがある溝状）、SK153（第 145 図）、SK232,650（第 148 図）、SK233（第 149 図、長さ 9m 超え、幅も 1m を超える溝状）、SK812（第 172 図）、SK863（第 174 図）、SK1415（第 198 図）、SK1903（第 220 図）、SK2036（第 228 図、但し深さ 60 cm で断面方形状）、SK2161（第 235 図）、SK2411（第 249 図）、SK2635（第 259 図）、SK5139（第 328 図）。

やや小さめの楕円形：SK067（第 140 図）、SK322（第 142 図）、SK1765（第 214 図）

長さが短い楕円形：SK122（第 143 図）、SK1355（第 194 図）、SK1686（第 209 図）、SK1724（第 212 図）、SK2415（第 249 図）。

細長い楕円形：SK209（第 147 図）、SK618（第 162 図）、SK692（第 166 図、断面皿状で溝の一部の可能性あり）、SK2319（第 243 図）。

円形で断面皿状の例：SK527（第 158 図）、SK193（第 146 図）、SK1132（第 193 図）、SK1429（第 198 図）、SK3179（第 288 図）。

円形で底面平坦、断面逆台形状の例：SK100（第 142 図）、SK162（第 144 図）SK249（第 140 図）、SK507（第 158 図）、SK588（第 160 図）、SK1208,1209（第 187 図）、SK1388,1389（第 197 図）、SK1877（第 219 図）、SK2071（第 229 図、但しやや壁がオーバーハングする袋状に近い形態）、SK2390（第 245 図、径 2.75m と大きめ）、SK2398（第 248 図、下端径が 2 倍程度の袋状となる）、SK2989（第 279 図）、SK3342（第 298 図）、SK3592（第 303 図、やや大きく深さがある）。

円形でやや深め＝円筒形の土坑：SK3106（第 285 図）

方形の例：SK1488,1489（第 199 図）、SK1690（第 210 図）、SK2007（第 226 図）、SK2792（第 267 図）、SK3039（第 282 図）。

隅丸方形：SK766（第 169 図）、SK1127（第 183 図）、SK1161（第 185 図）。

方形で中央にピットを有する：SK1691（第210図）、SK3246（第292図）、SK3252（第292図）、SK3253（第292図）、SK3256（第293図）、SK3264（第293図）。

方形で深い土坑：SK2979,2980,2981（第279図）、SK2978（第278図、人骨出土）、SK3314（第296図）。

不整形：SK658（第160図）、SK1035,1372（第180図）。

第一の分類項目で示した長方形で4mを超える長さの例については、溝または溝の一部と考えた方が良い例も多い。少なくとも長さ2m程度の長方形土坑とは異なる用途を推測させる。SK5139は長辺壁直下にピットが巡るもので、ピットは密に並ぶところと、やや間隔があるところとがある。

以上の例以外で特徴的なものを列挙する。SK1797（第216図）は平面方形で土坑として扱ったが深さ2m以上で、井戸の可能性が残る。SK1976（第224図）は、底面にリング状の圧痕ある例。SK2418（第250図）はやや特異な形態で、長軸5mを超える円～楕円で、壁際に溝が巡るものである。内部にも幾つかピットがあり伴うようである。

SK2599（第257図）はやや不整な楕円形で弥生時代の土坑、SK3294（第295図）は短辺側の壁が横穴状の挟り込みとなる。SK3675（第306図）は6mを超える大きさだが、掘り込み浅く、ピットの重複も多く形態不鮮明な例である。多くのピットがこの土坑覆土を切っている。SK4026（第309図）はSD02覆土を切っている方形でやや深い土坑。但し西側近い位置にあるSK4053は、類似する形態だが、溝より古いことが確認されている。SK4062もSD02を切る深い方形土坑で（第311図）、この区域にこの形態の土坑が集中するようである。SK5129（第327図）は不整な土坑で、断面形態・覆土等からは捻転跡の可能性が考えられようか。

なお土坑内或いは上端にかかる位置等でピットが確認されている例は多いが、重複例が多いようで、確実に伴うことが判断できる例は少ない（第190図SK1267、第197図SK1428）。但し、既述の方形で中央にピットを有する例等は別遺構との重複ではないと判断される。

覆土

覆土の堆積について、他の遺構等と大きな差異は認められない。多くの場合ローム粒・ブロックや今市・七本桜のパミス等が含まれる。SK631,632（第163図）では、ロームブロックがかなり多いこと、層の境界に黒色土があるとの観察が為されており、人為的な堆積の可能性があるか。SK1161方形土坑（第185図）はかなりロームブロックが多い単一層のようで、これも人為埋め戻しの可能性を窺わせる。逐一の例示はし得ないが、このような単一層例やロームブロックが多く含む層が観察されている場合、人為堆積の可能性を考えて良いだろう。浅めで長さ2m前後の長方形土坑の場合、多くが単一層又は2層程度の分層による堆積と観察されている点は、土坑の用途を推測するときの注意事項となろう。

分布概要

土坑の中には、地点・場所によりかなり集中するところがある。これを他の遺構と同様、全体図を確認しながら記す。区画溝や地下式坑の項目中での記述と一部重複する。

100分の1全体図A

SD27区画よりも離れた北側の調査区である。北東側では区画溝SD5002,5003があり、これに沿う方向或いは直交方向軸の掘立柱建物跡、掘立柱柱穴列等がある。土坑では長方形土坑がSK5079やSK5006等幾つかがあり、溝と重複または隣接する位置に長方形土坑がやや集中している。軸はSD5003やSA5178等と概ね同じ方向の例が多く、一部これに直交する軸のもの（SK5027,5006）、45°程度異なるもの（SK5112）も

少数認められる。

西側の調査区では、SD5043 や SD5032 が大きな区画溝である。SD5043 の北側では円形・方形の土坑がやや目立ち、少数長方形土坑がある。方形土坑は浅めのものが多く、調査区北端にかかる SK5071 が 90 cm 程度の深さを有する例となる。円形土坑も深さ 40～80 cm 程度の例が目立つ。長方形土坑は長さ 1.5～3m 程度、SD5043 と同方向または直交方向例にほぼ限られる。

SD5043 と SD5032 の間のゾーンでは、SB5135 に重複する南西部分に長方形土坑がややまとまるほか、調査区外西側にかかる北西区域で SD5043 や SD5106 に平行する軸の土坑が幾つか確認される。SD5032 の南側では多くのピット、掘立柱建物跡 SB5150 等が認められる区域だが、ここでの土坑分布は希薄で、少数の長方形土坑が認められる程度である。

500 分の 1 全体図①

SD27 区画の北側及び北辺溝のすぐ南側のところである。まず SD27,46,73,74 より北側については、SK4136 (第 315 図) や SK4179 (第 317 図) のような 4m を超える長さの長方形土坑が多く見られる調査区である。4100～4200 番台で発番した土坑が主にここにある。SK4186,4181,4184 等のようにほぼ同軸上に並び或いは重複している例があり、溝の一部が途切れている状況を想定した方が良いように思える。つまり SK4145 あたりを南の基点に北北東方向で調査区北端 SK4235 辺りまで連続的に延びる一群、また 18m 程度東でこれに平行する一群、の 2 列が確認される。この 2 列は区画状或いは道路状等の区画に関わる施設の痕跡である可能性を示していると考え。この方向が大区画溝 SD46 や SD73,74 とほぼ直角を為す (3° 程度東に振れる) ことも注意される。

なお SE166 が区画溝のすぐ北側にあるが、この周囲でやや長方形土坑が多い (しかも東西方向の一群) ことも観察される。

調査区北西隅近辺

SD27 区画の外北西側で南北方向軸の長方形土坑がややまとまる。SK3537,3538 (第 300 図) のように、形態的な類似例が認められることも注目される。

SD27 区画内では、北辺溝の 10～20m 南で溝中央西よりの地点 = L 字状の区画溝 SD57 の周辺で少数長方形土坑がある。SD57 溝近辺ではピットも多く確認されているが、これらとはやや離れた別の位置にある点も観察される。

100 分の 1 全体図 C

SD27 区画内西側の区域である。既述のように、この範囲内ほぼ中央、SD29 の東側、SD34 北辺の北側、SD30 の西側に、長方形土坑集中域がある。北端は明確な区画溝はないが、SK3087,3088 が位置する辺りより北側は土坑分布が希薄となる。つまり南北 34m 程度、東西 25m 程度の範囲内に、長方形土坑が密に分布している。但し南東側も区画範囲は限定的ではなく、SK1681 辺りから東にも長方形土坑の集中が続いており、或いはこの北側 SK1398 辺りにも集中区がある。これらを大きなまとまりで捉えるか、細かい単位で分析してゆくかは、他遺構も含めた詳細な検討が必要となろう。

長方形範囲の集中区と捉えた中でも、SE120 北側の東西方向軸の長方形土坑がまとまる部分、範囲ほぼ中央の SK1733 南北方向軸長方形土坑がまとまる所、南東側で北北西—南南東軸の長方形土坑・楕円形土坑が集中する区域、のようなまとまりを見いだすことも可能である。南東側の東西方向軸土坑 SK3020 や

SK3024はその南北で遺構分布が異なることから、区画機能が推定され、或いはすぐ南にあるピットの集中（東西方向軸の建物跡推定可能）との関わりが考えられる。これらより南東のSK1675等北北東—南南西軸の長方形土坑がやや間隔をもって分布しているところがあり、これも有意なまとまりと見ることが可能である。一方SD02西辺溝の北側より西側、SD27南辺の北15m程度、西辺の東10m程度の帯状範囲は長方形土坑の分布も希薄となるところである。

100分の1全体図B

SD27区画内北東の範囲である。北東—南西方向のトレンチ状調査区部分で遺構が密に確認されている。ピットの集中部、方形竪穴遺構、地下式坑集中部分がやや分布域を異にして確認されているが、長方形土坑も一定部分に集中している。すなわち、やや北側の南北10m程度の部分＝地下式坑分布範囲の南側で方形竪穴分布範囲の北側で重複する範囲、に長方形土坑が密に分布している。ここでの長方形土坑は東西方向軸のものとは南北方向軸のもの両者が重複して分布している。幾つかの例を確認する限りでは、東西方向軸土坑→南北方向軸土坑の例と逆の関係の例とがあり、詳細な検討が必要である。ピット群集中部に一部長方形土坑があるが、ここでは土坑→ピットが確認されている例が多いようである（第303図SK3599,3597、第302図SK3571等）。ピット集中部の南西側にも長方形土坑がやや多く集中しているが、ここでも南北軸の例と東西軸の例とがある。SK3563→SK3560のような南北方向軸→東西方向軸の例があるほか、SK3570→SK3610円形土坑のような例もある。地下式坑や井戸との関係等も含め詳細な検討が必要となろう。

100分の1全体図D

SD27区画内南東の範囲である。これも既述のように、SD12西側の長方形土坑集中域と、SD11,16より東側の長方形土坑集中域が確認される。前者は30m×30mの範囲でまとまるように見えるが、北側未調査区があり確定的ではない。この分布図西端の長方形土坑集中区は、全体図C南東端で見られた長方形土坑集中区域から連続的である。また、このSD12西側長方形土坑集中域の内部を観察すると、SK1297等の辺りが密に集中していること、この北西ではSK1010等の方形土坑やSK1248等の円形土坑がやや目立つこと、更にこの北側では再度南北方向軸の長方形土坑が並ぶかのように位置していること（SK1341等）、総じて東西方向軸の土坑が希薄なこと、等が観察される。

一方SD11,16,17東の集中域では、SK1072等西北西—東南東方向軸の土坑がやや目立つ南側の区域と、南北方向軸の土坑がまとまる北側の区域とが確認される。これらより南SD11東側の区域では、短めの楕円形土坑や不整な土坑・ピットが目立っており、ゾーニングが現れている。SK1441あたりからSK1184辺りまでピット及び小規模な円形土坑が連なっているようにも見える。SK1054からは東側直交方向にピットの連なりがあり、関連があるかもしれない。また地下式坑との関係ではSK1004地下式坑を長方形・楕円形土坑のSK1024,1019が切っていることが確認される（第66図）。

100分の1全体図E

SD27区画西側の範囲である。この分布図中央にはピット・長方形土坑がややまとまる区域20×25m程度がある。ここでの長方形土坑は南北方向軸の例とやや東に振れた北北東—南南西軸の例とがある。またこの集中域北側で東西方向軸の土坑がややまとまり、更にその北ではSK1160等の方形土坑が目立つ部分がある。南北軸で長さのある長方形土坑SK1156やSK1094は、東側で地下式坑がまとまっており、形態等からも区画溝に近い様相を示す。この西側、東西方向の区画溝SD21に近い範囲では、2箇所程度の長方形土坑

のまとまりがあり、いずれも概ね南北方向軸である（東側のまとまりではやや東に振れる角度が目立つ）。またこの間でSK1129等のやや深めの方形～長短軸長にあまり差が無い長方形土坑が幾つか確認され、列状に並んでいるようにも見える。SD02とSD03との間の帯状ゾーン内、さらにはSD02の西側（SD02区画外）に一定数の長方形土坑があるが、長軸の長さが4m以上、また幅が狭い例が多いように観察され、SD02やSD27区画内部の長方形土坑群例とは各土坑の形態の面でも異なっていると言える。

100分の1全体図F

SD02区画ほぼ中央の範囲である。この分布図中央の広い部分が長方形土坑集中域となっている。地下式坑はこのゾーンを囲むような配置、井戸もこの区域内は少数である。細かくみるとこの内部も幾つかの単位に分割することが可能で、例えばこの内部のほぼ中央SK316～SK474（第152図）では比較的整然と並ぶかのような部分、この北側ピット集中域を挟んですぐ北で東西方向軸の長方形土坑が集中するゾーン等を確認することができる。集中域の南側は明瞭な区画は無いものの、SD75の南10m程度の範囲より南には、土坑群が展開していない。集中域の西側や南側、地下式坑がやや多く分布するところでは、長方形土坑の分布は薄く散漫である。長方形以外の形態も含め考えてもやはり分布は薄く、円形や短めの楕円形例等がやや目立つ程度である。

円形土坑は先の長方形土坑集中域でも一定数確認され、長方形土坑との重複例も多い。新旧関係ではやや円形土坑の方が新しい傾向もあるようだが、詳細な検討はしていない。ピットとの関係についても、重複例は多いものの、新旧関係の傾向を捉えるような検討には至っていない。既述のようにこの集中域内の単位分け、そこでの土坑形態の偏在傾向は、全体図中の観察においても観察できることから、他種遺構も含めより詳細な検討が求められよう。

100分の1全体図G

SD02区画南東の範囲である。この分布図中央西より、SD08の西側で長方形土坑の集中域がある。この西側（分布図F部分）からの連続と見ることもできるが、或いはSK050,052より東と限定しての独立的な単位部分と見做すことも可能だろう。長さ2m程度、北北東－南南西方向軸の長方形土坑がややまとまり、その南北で東西方向軸（直交軸）の長方形土坑が目立つという傾向を捉えることができる。地下式坑や井戸はこの集中域の外側に位置している。地下式坑の項でも記したように、北東側にSK392等の単位、北西側にSK240等の単位とも捉えられる。地下式坑SK238の北東側でSK842等浅くやや幅のある長楕円形土坑が連なるように位置しており、これも小単位と見做せる可能性がある。SK040はSD02南辺とも概ね平行する方向の遺構で、土坑扱いとしたが（第139図）、区画溝と捉えられる遺構である。内部にピットがあり、これについても関係があるかもしれない。

SD02区画より外側では、まず現薬師堂近辺の調査区における長方形土坑の集中が注視される。26m×26mの範囲内で、方形の各辺を構成するかのように、幅5～10mの帯状方形範囲に長方形土坑が集中している。南辺部分でも南北方向軸の例がまとまることや東辺でも東西方向軸例がある。この帯状範囲より内側にはほぼ長方形土坑は分布しておらず、規制計画的な配置を思わせる部分である。

この方形集中区の西辺はSD02と重複する位置になるが、方形（正方形に近い整った形態）土坑が多く集中することも注意される。とりわけ南北10m×東西5m程度の範囲にまとまる。この方形土坑は、比較的深いものも多く、また中央にピットを有するものも幾つかある。深いものでは2mを超える例もあり、他の地点でこのような形態の例がほぼ見られないことも含め考えていく必要がある。これらがSD02覆土を切って

いることも確認される（第308,309図）。この区域からやや離れた南側SK854等がまとまる一群がある。この場所の南北にあるSK015,016は東西方向軸でやや長さがあり、やや不整な形態であることも含め、区画溝状の機能を窺わせる。

SD02区画外で、現薬師堂近辺の遺構集中区以外では、遺構の分布はかなり薄くなる。東側ではやや長さのある長方形土坑で北東－南西軸の例が少数散在している。これらの多くがSD072の方向と概ね同方向であることも注目すべきかもしれない。

500分の1全体図②

SD02区画内南側、及び区画外西側・東側の範囲である。SD02区画内南側では南東側で一定数の長方形土坑がある。SK1956等の地下式坑がややまとまる範囲の西側で長さ2～4m、幅0.6m程度の長方形土坑がややまとまる。SD03南西コーナー近いところでSK1844等の小規模な土坑がまとまる。SD02西側では長さのある長方形土坑が散在している。SD02南辺近辺では4mを超える長さの長方形土坑が目立っている。概ねSD02南辺に直交する軸方向だが、平行する軸方向の例もSD01南側ではやや多い。但しこのSD02南辺直交方向の土坑は、更に南の方まで続いている。同様にSD02区画外東側でも比較的長さのある長方形土坑が一定数分布している。SK2864等がある30×20mの範囲でやや多いようにも見えるが、SD02,027区画内と比べると疎らと言える。

一方、このような土坑すら見られない遺構空白域を見出すことも可能で、例えば現薬師堂近辺の方形遺構集中域の東側で、幅10m程度の北東－南西方向の帯状範囲では遺構が殆ど見られない空地となっており、道路状の部分等の積極的な推定ができるかもしれない。

SD20とSD04,26で囲まれた範囲内では、掘立柱建物跡数棟が認められるが、長方形土坑は少ない。SK3173,3176等は長さ2m程度の浅い長方形土坑である。この区域内では、2～3m程度の長さの長方形土坑が多いという傾向があるかもしれない。軸方向がSD04やSD20に平行するものが多い点も確認される。

500分の1全体図③

SD02区画より南側の範囲である。ここでは全体に遺構分布が散漫であるが、その中において長方形土坑は散漫ながら全域に近く分布している。ここでの長方形土坑は幅0.5～0.7m、長さ2～5m程度のものが多い。平面形態的にはSD02区画内で密集しているものと大きな差異が無いようにも見えるが、深さ10cm未満の浅いものが多く、或いは断面皿状を呈するものが多い等、SD02,027区画内の長方形土坑とは異なる用途を想定させる。検討が必要であるが、これらの例は長方形土坑の用途として多く想定される「墓坑」との想定は難しいように思える。

殆どの遺構が北北東－南南西軸（N-10° -E）である。南東側で確認されているSD37やSD38とは直交の軸方向である。既述のようにこの両溝で囲まれた範囲の延長東西範囲ではこの長方形土坑も見られない部分がある。またSK2066～SK2340に延びる直線状連なりの20m程度西側での列状分布も、この区域の空間配置を捉える上で興味深い。南東側でSK2412等の方形竪穴遺構がやや集中する区域があるが、土坑もやや多く見られる。とりわけ浅い円形土坑や楕円形土坑が少数ながら確認されている点は、この区域の性格を示している可能性がある。

一方調査区南西のSD48とこれに囲まれた範囲内で掘立柱建物跡等の確認があるが、土坑の分布はこの溝区画内では他と変わらない密度である。但しSK3345等の長方形土坑の重複集中が溝の外西側であり（第267図）、溝や建物跡との関連を窺わせている。

遺物の出土

遺物の出土している土坑も総じて少なく限定的である。遺物の出土について、他の遺構と出土遺物の種別等に大きな違いは認めがたい。但し当然ながら浅い土坑からの出土遺物は稀で、平面的な分布から言えば、SD02,027 区画内及び北側調査区における土坑出土例が多い。かわらけや陶磁器等は、長さ 2～3m 程度深さ 30～50cm 程度のやや深めの長方形土坑から出土する傾向があるようにも捉えられる。なお陶磁器とかかわらけ、内耳土器等が共に出土している土坑が幾つかあるが、出土位置等の詳細な確認はし得ず、確実な共伴として良いかは検討が必要である。遺物それぞれの概要については次章で示す。

第 335 図の陶磁器では、61 が浅い土坑出土、62 が浅い円形土坑、64 が長方形土坑、67 が浅めの方形土坑出土である。ちなみに上記以外のこの図中で示したものは地下式坑出土である。

第 344 図のかわらけでは、239 が出土した SK40 は長方形土坑扱いだが、区画溝と捉え得るものである。240 出土の SK57 は長方形土坑、241～243 出土の SK77 は長軸 5m を超える長方形土坑で中層に薄い層がある。245～247 の出土はいずれも長方形土坑だが、前二者出土の SK83→SK77 の関係が捉えられている。また同じく 255 出土の長方形土坑 SK159→SK77 の関係も確認されている。但し詳細出土位置は不明で重複部分での混ざりもあり得ようか。247,248 (SK87)、249,250 (SK102)、252 (SK121)、254 (SK148) はいずれも長方形土坑出土である。

第 345 図の土坑はいずれも地下式坑出土例。第 346 図では、291～294 出土の SK486 が長方形土坑、296 出土の SK512、297 出土の SK606、306 出土の SK669、316 出土の SK755、317 出土の SK770、320 出土の SK864 が長方形土坑である。

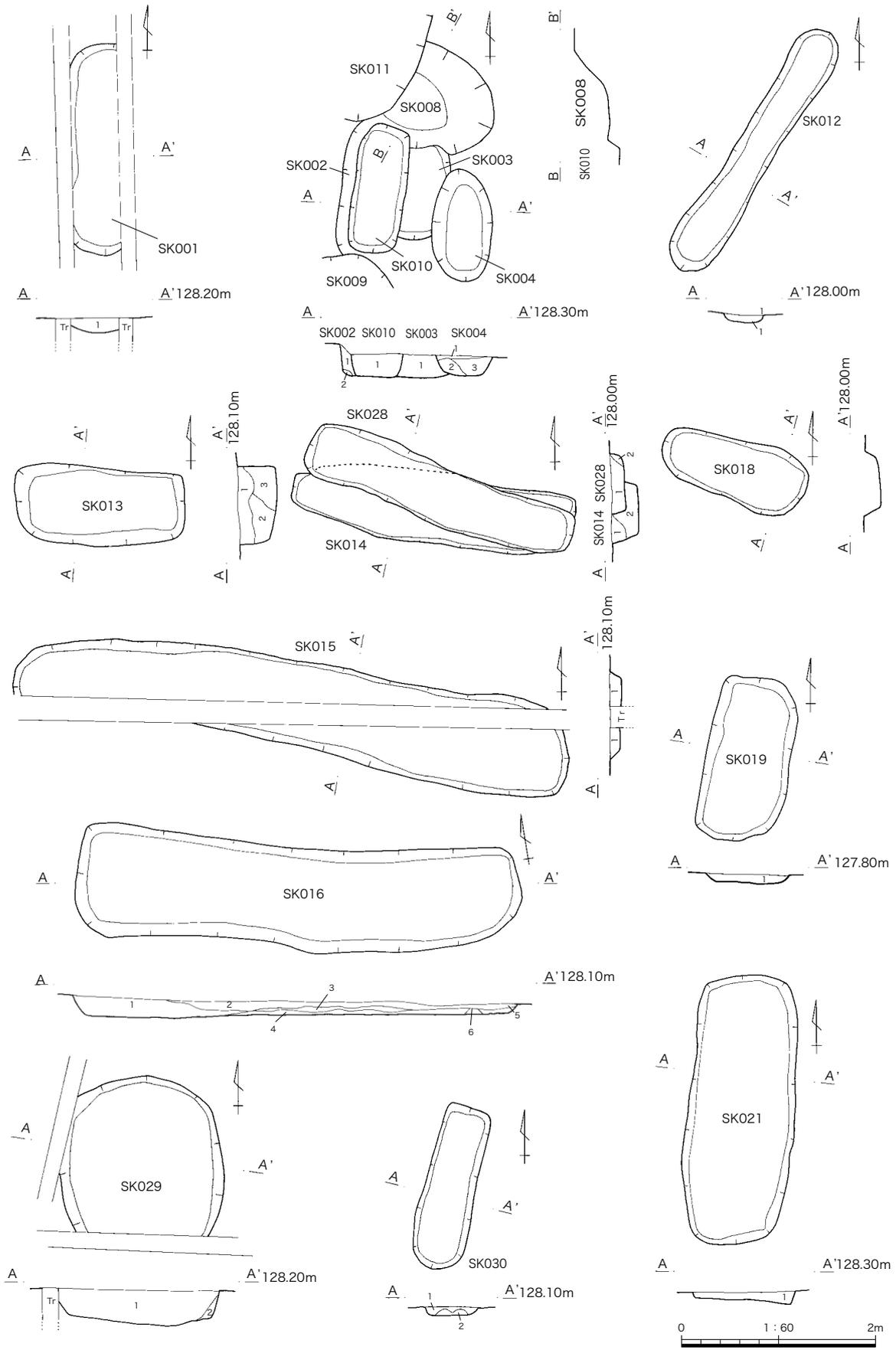
第 347 図では 335 出土の SK873、346 出土の SK1031、347 出土の SK1037、350 出土の SK10901 が長方形土坑である。これ以外の第 347 図出土かわらけは地下式坑出土。第 348 図では、355 出土の SK1106、356 出土の SK1166、357 出土の SK1168、359 出土の SK1185 が長方形土坑である。376 出土の SK1317 は円形土坑、378 出土の SK1313 は楕円形土坑である。

第 349 図では、381 出土の SK1388 は円形土坑、382 出土の SK1408 は楕円形土坑、385 出土の SK1474 は長方形土坑である。第 350 図では 418～420 出土の SK1712、422 出土の SK1930、432 出土の SK2912、439 出土の SK3593、440 出土の SK3594 が長方形土坑である。

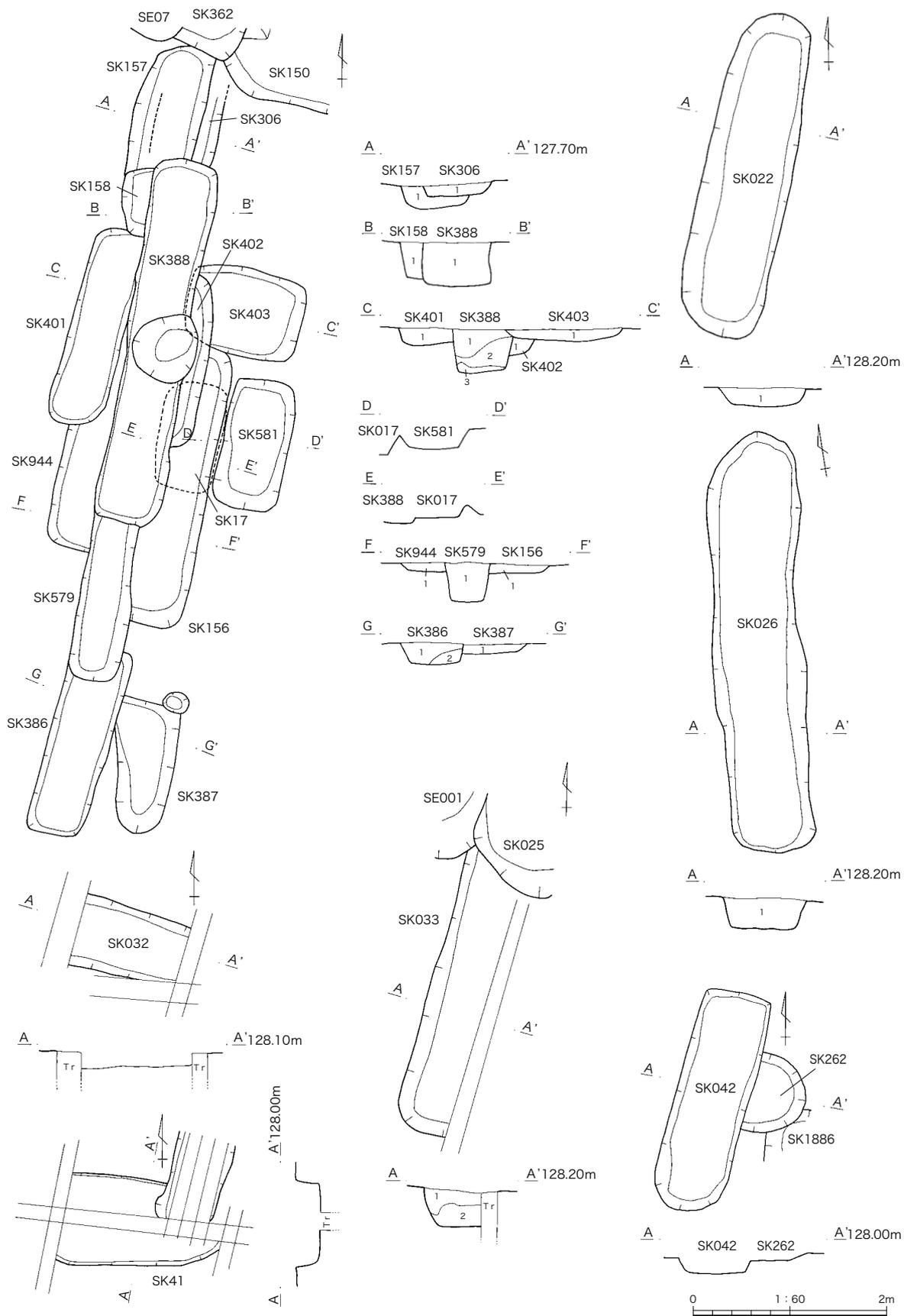
第 351 図では、442 出土の SK3614 が楕円形土坑、444 出土の SK3625、446 出土の SK4090 が長方形土坑である。447～455 出土の SK3744 (第 308 図) は楕円形の土坑で、この遺物群はやや覆土上位から一括状態でまとまって出土した。

238 のかわらけと内耳土器 5 点 670～674 が出土した SK35 は長さ 5m を超える長方形の土坑。2 点の内耳土器 703,704 及び香炉 757 が出土した SK1518 は円形土坑。すり鉢 735 出土は長方形土坑である。

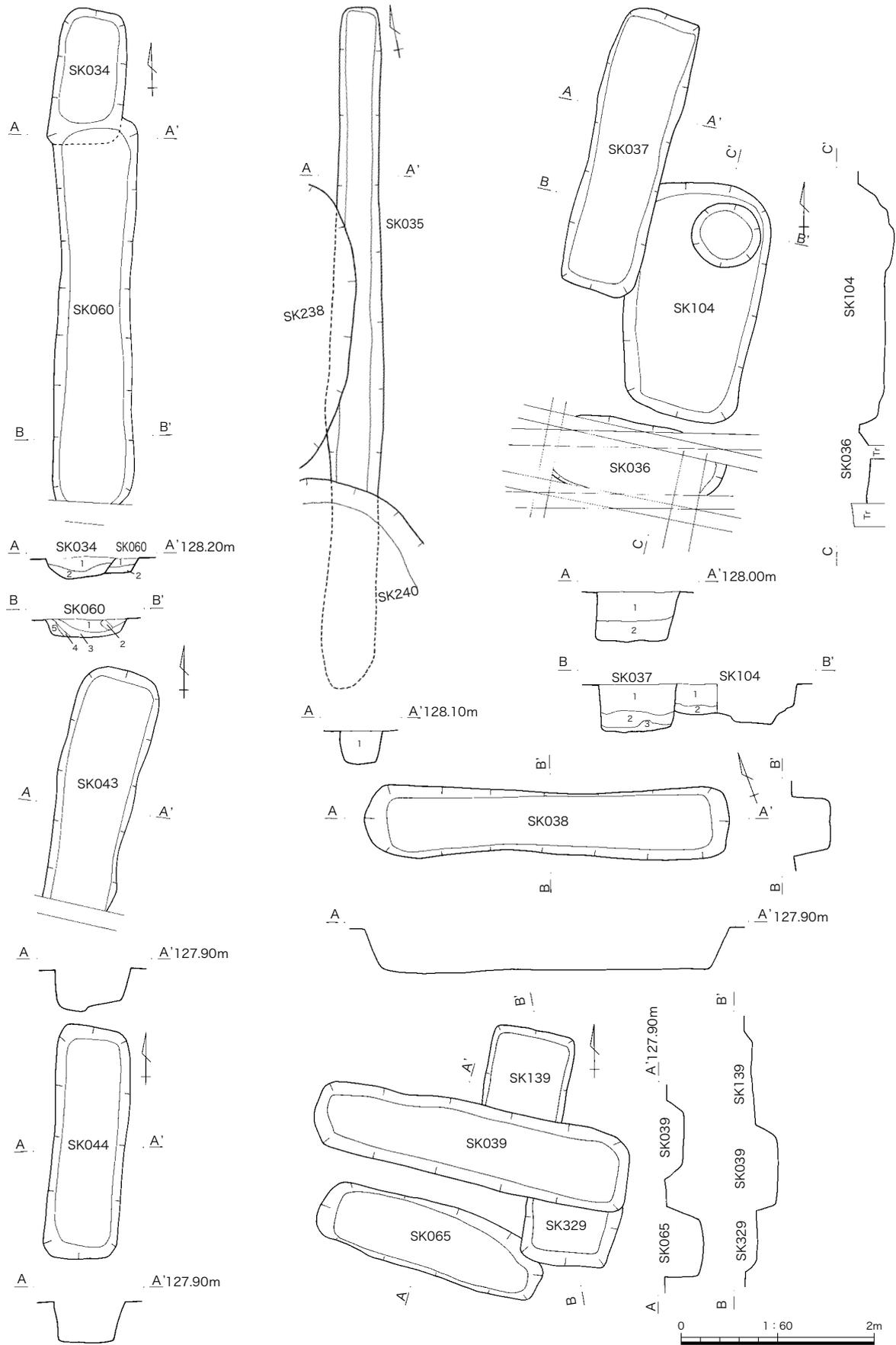
平面楕円形で袋状を呈するやや深めの土坑 SK2989 からは五輪塔 1561 が出土している。小さめの長方形土坑 SK1236 からは瓦質火鉢 758 及び土製品 779 が出土している。かわらけ 456～459、陶磁器 77～80 及び土製仏像 777 出土の SK4025 は長い長方形土坑である (第 310 図)。多量の炭化材や鉄釘が出土したことも注目される土坑で (写真図版 56-1～6)、薬師堂建替に関わる土坑との調査時所見がある。



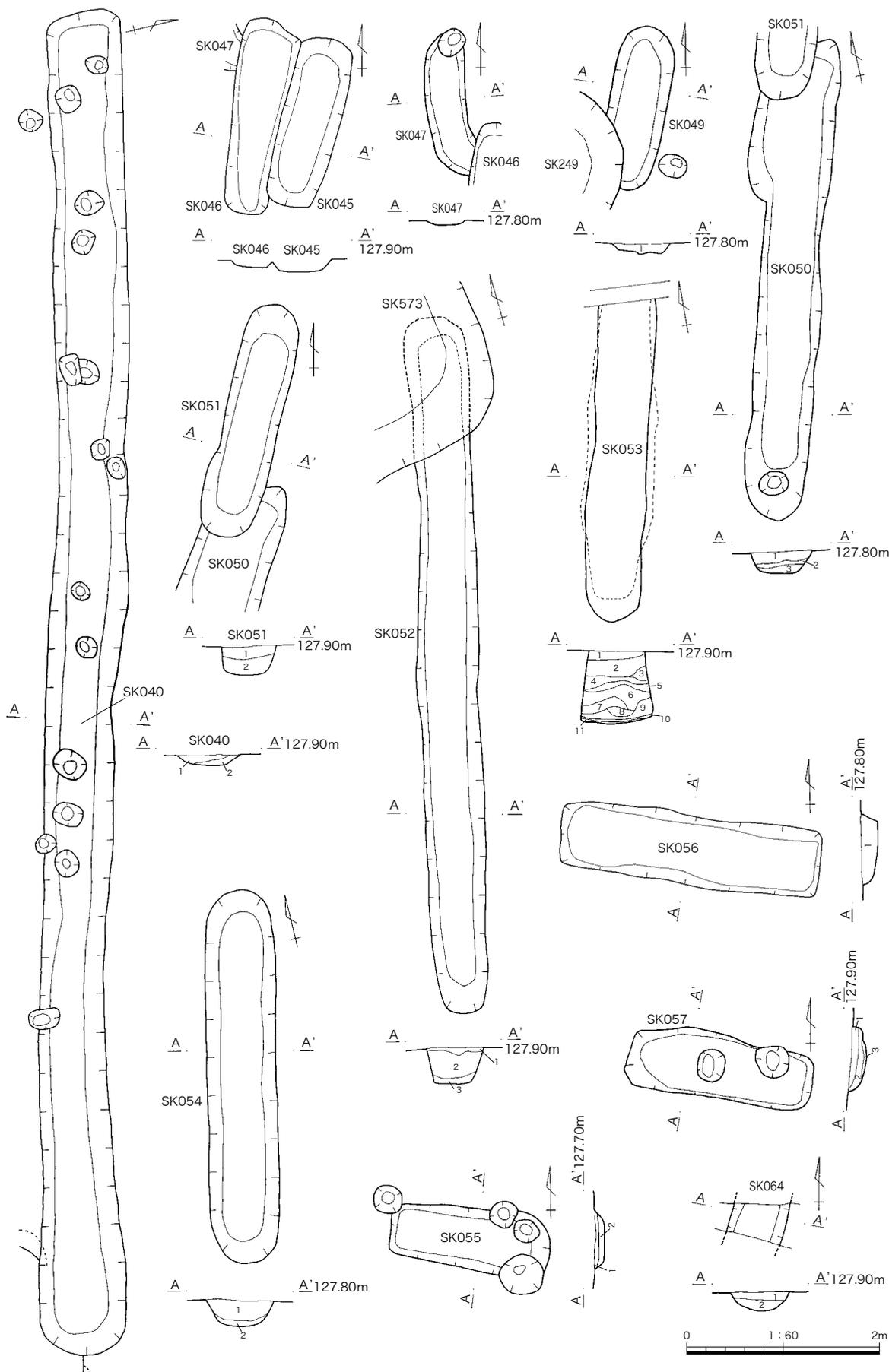
第136図 土坑 (1) SK01~04・08・10・12~16・18・19・21・28~30



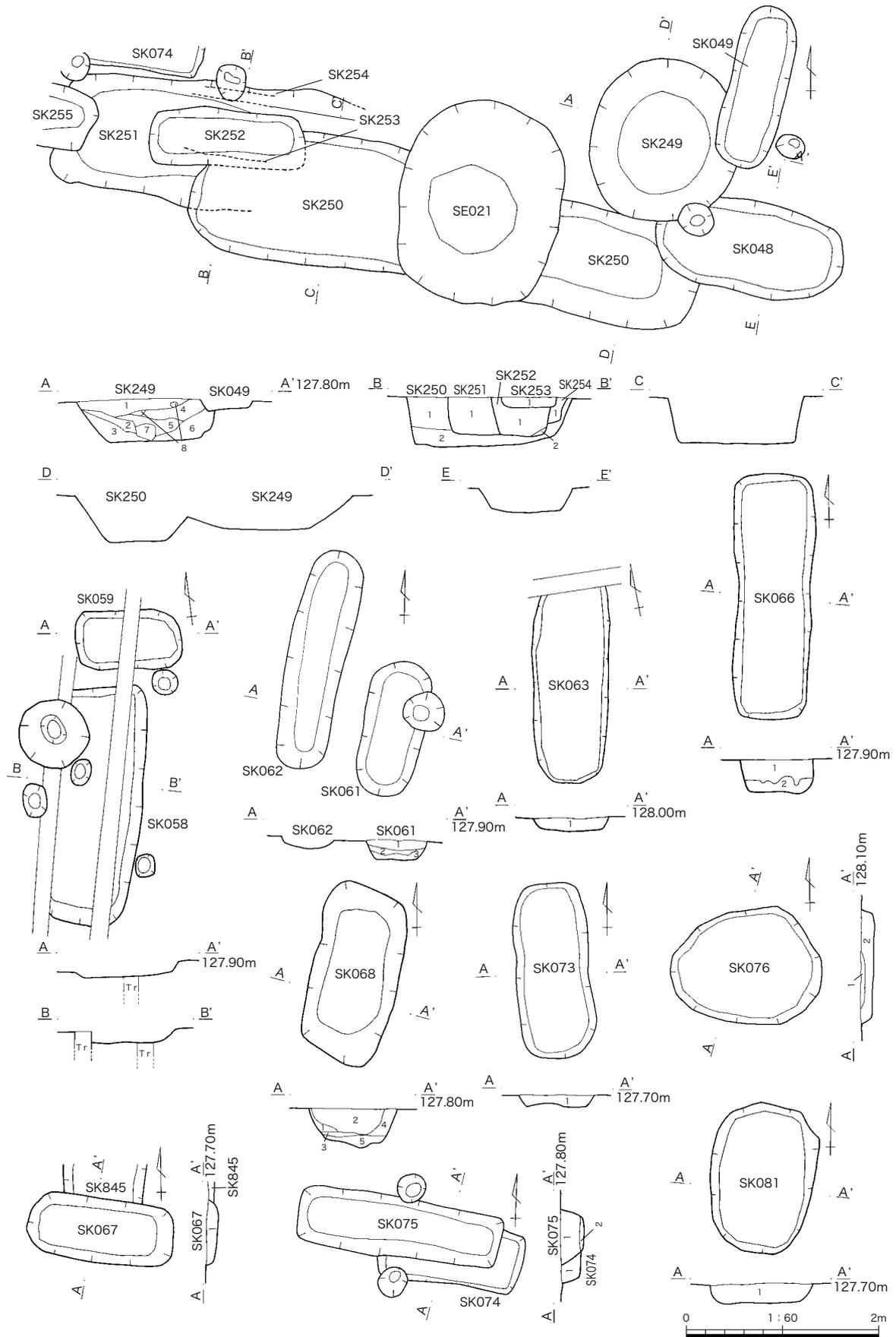
第137図 土坑(2) SK17・22・26・32・33・41・42・156~158・262・306・386~388・401~403・579・581・944



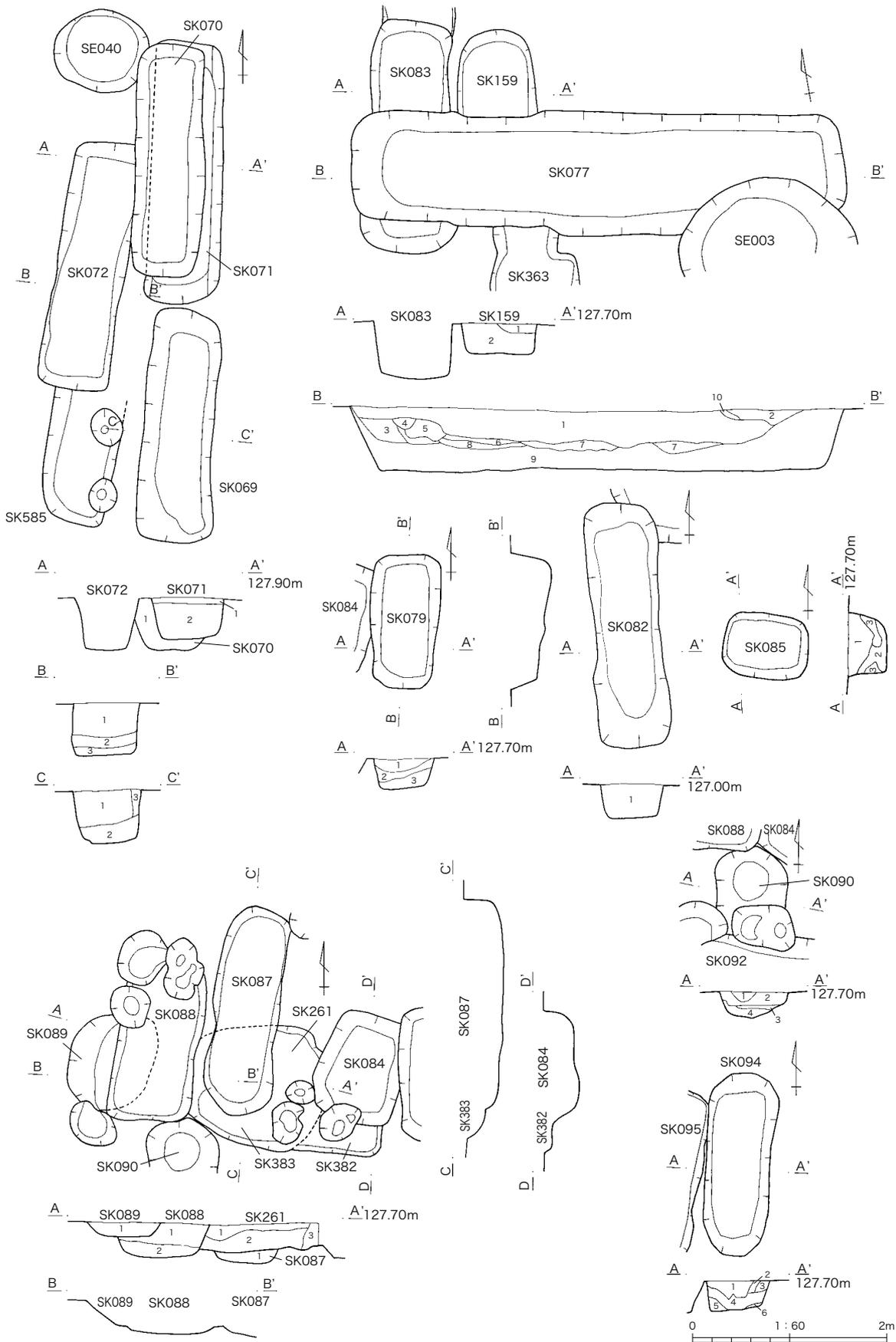
第138図 土坑(3) SK34~39・43・44・60・65・104・139・329



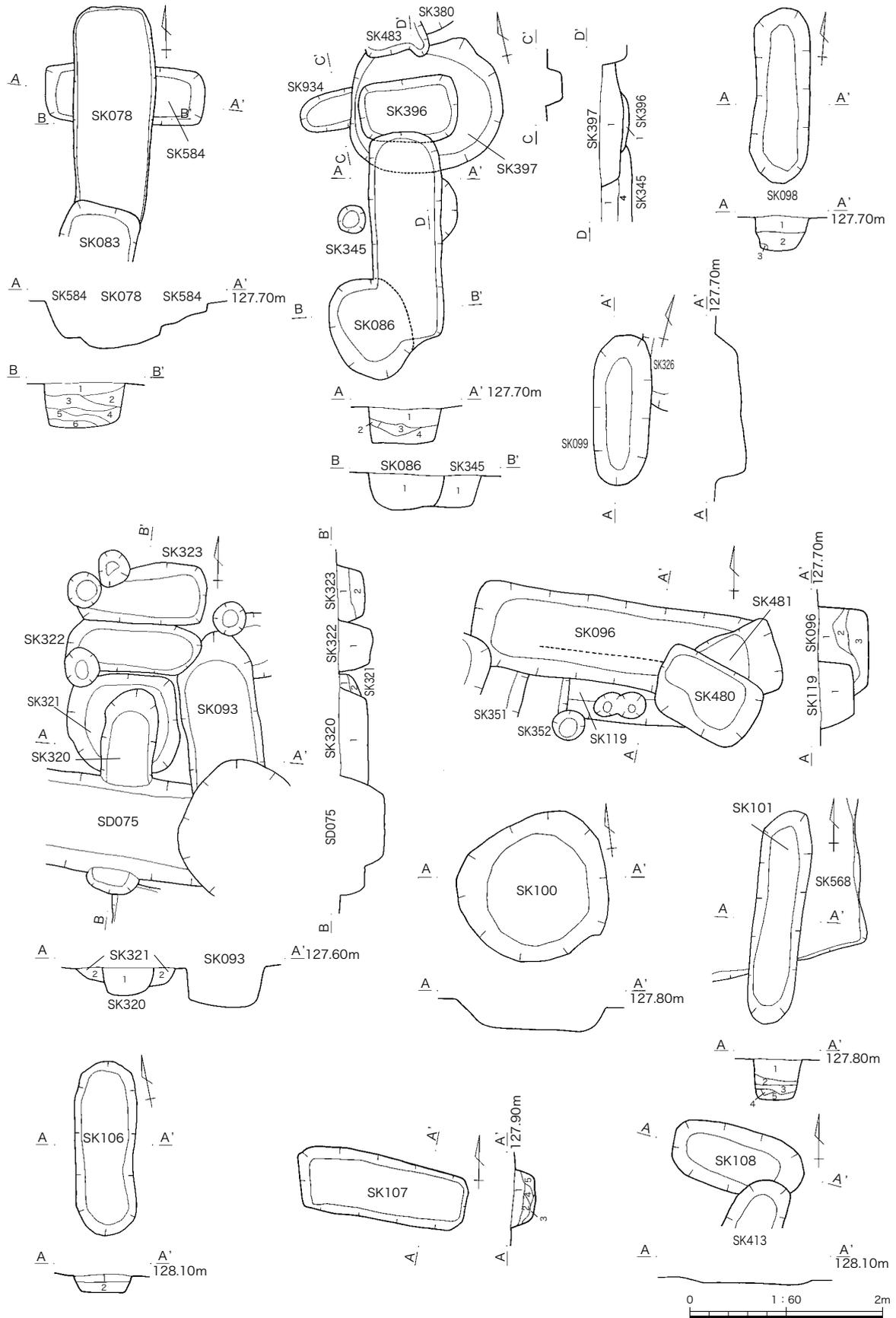
第139圖 土坑(4) SK40・45~47・49~57・64



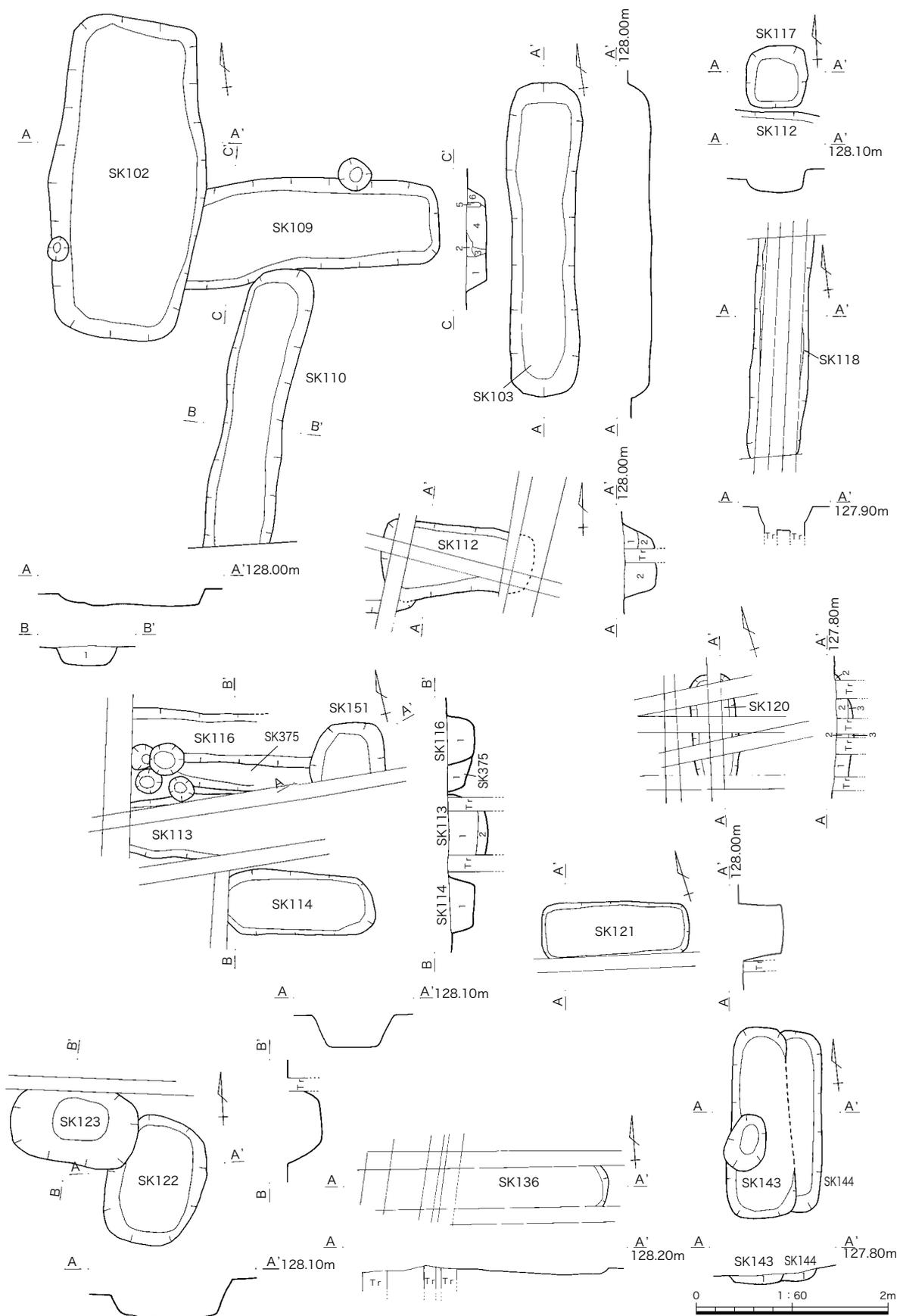
第140図 土坑(5) SK48・49・58・59・61~63・66~68・73~76・81・249~254



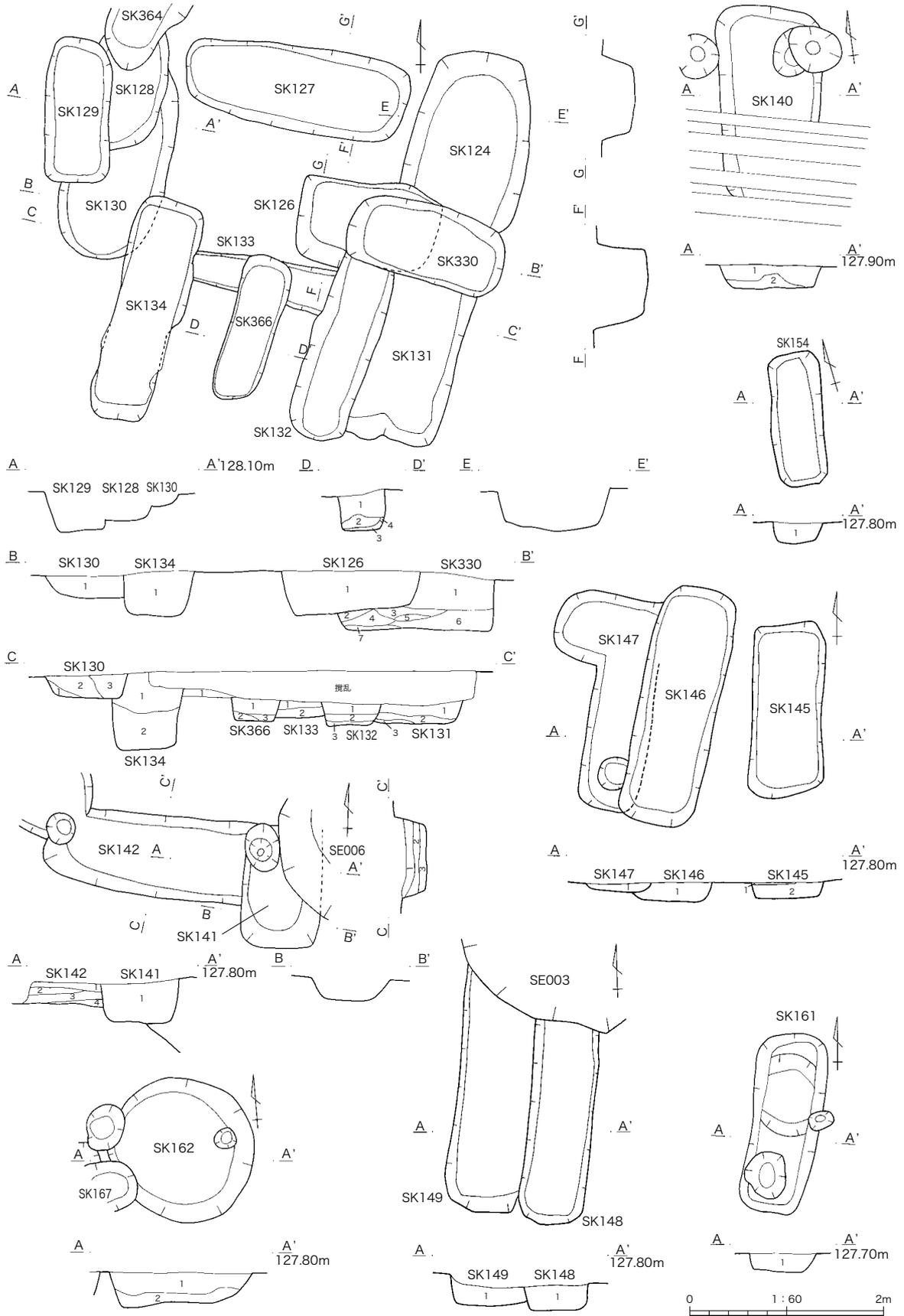
第141圖 土坑(6) SK69~72・77・79・82~85・87~90・94・159・261・382・383



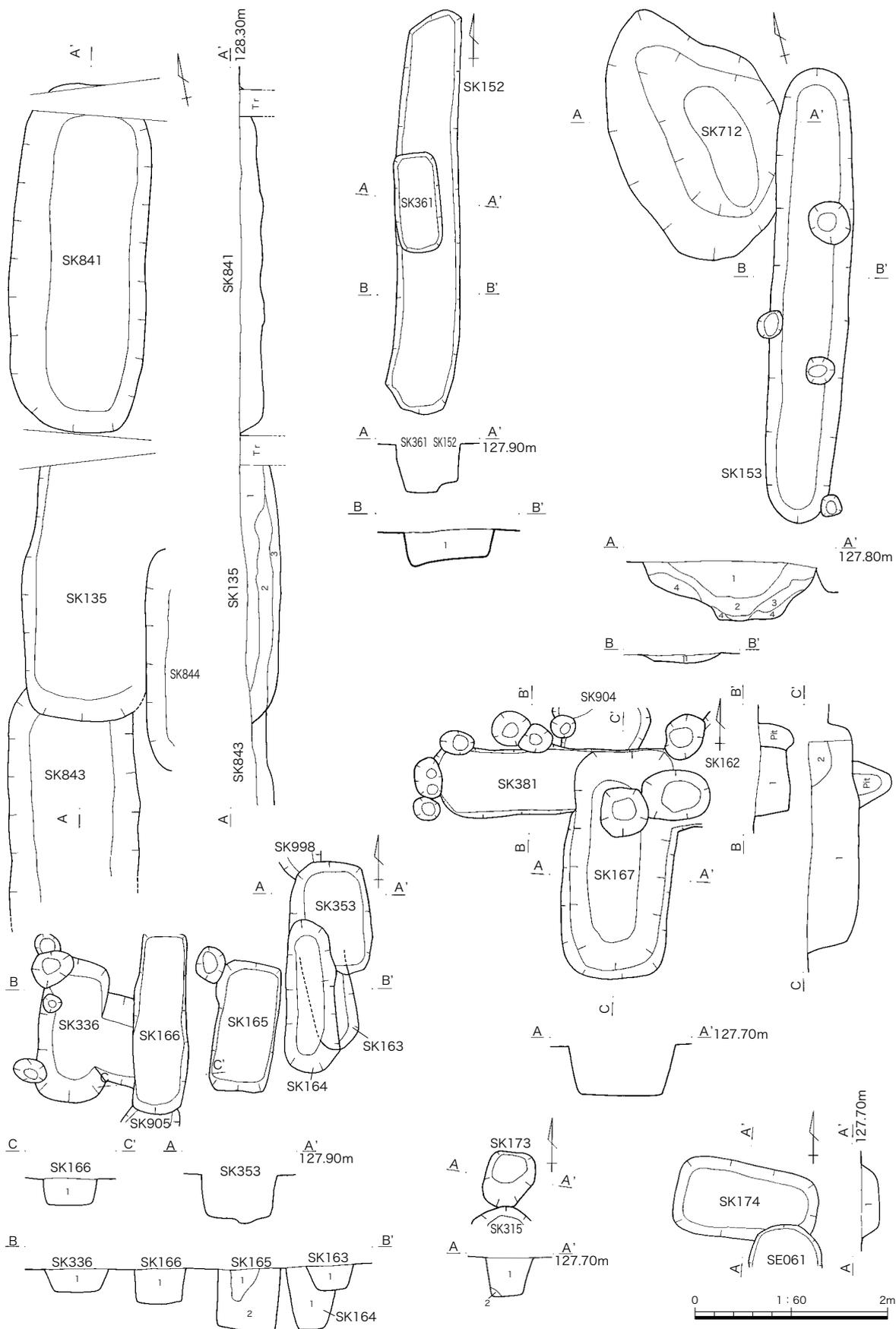
第142図 土坑(7) SK78・86・93・96・98~101・106~108・119・320~323・345
396・397・584・934



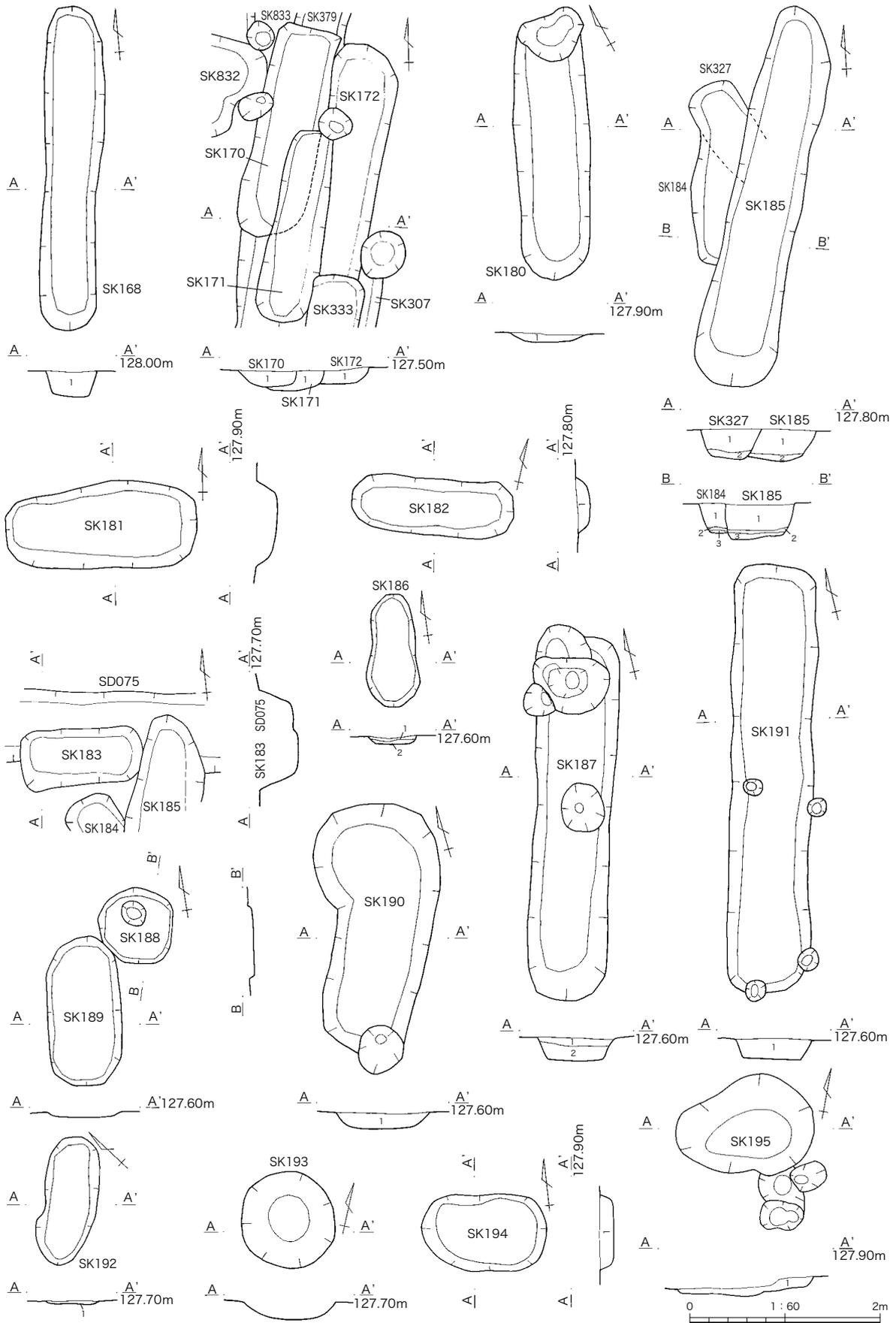
第143図 土坑(8) SK102・103・109・110・112~114・116~118・120~123・136・143・144・151・375



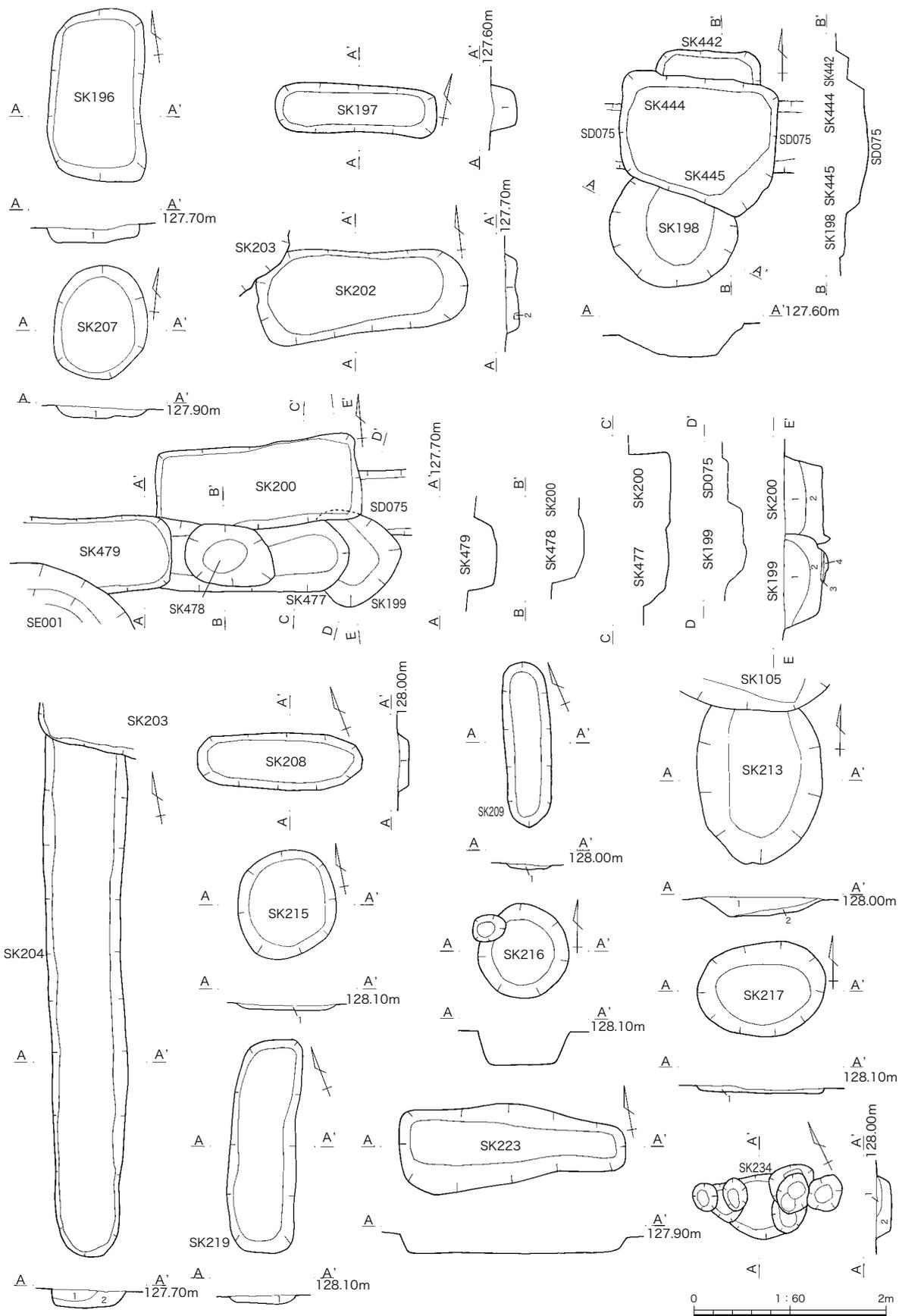
第144図 土坑(9) SK124・126~134・140~142・145~149・154・161・162・330
366



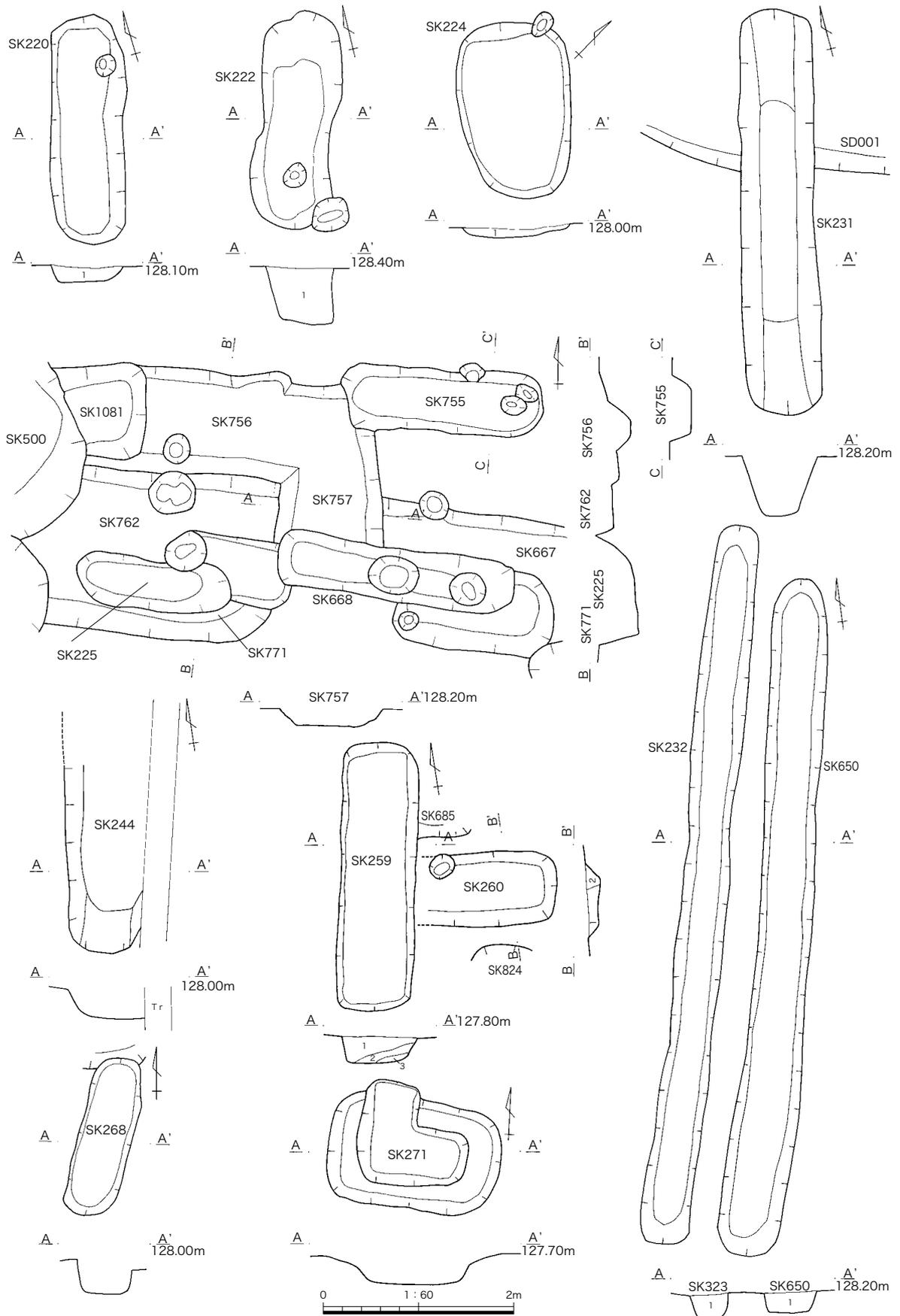
第145図 土坑 (10) SK135・152・153・163~167・173・174・336・353・361・381・712・841・843



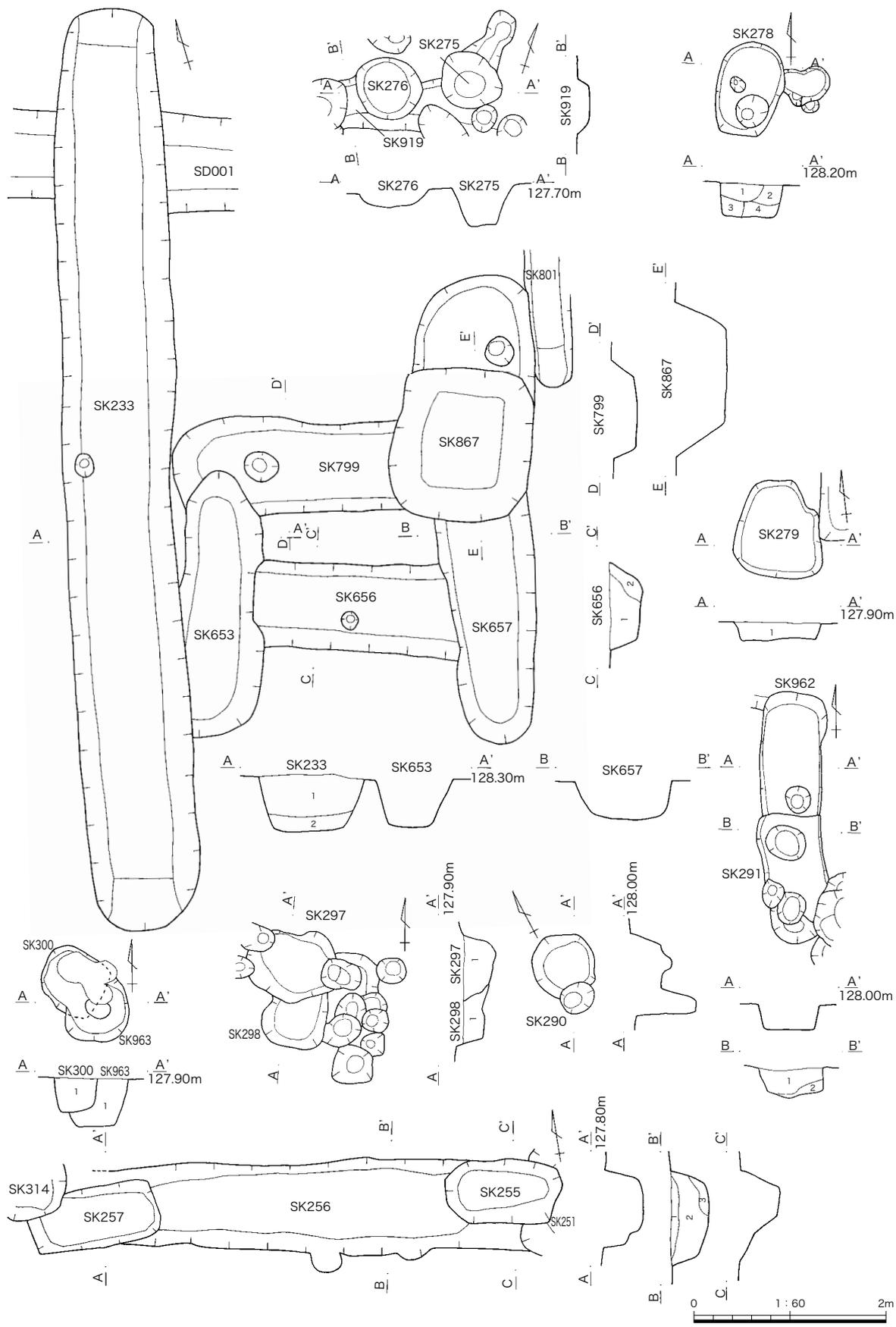
第146図 土坑(11) SK168・170~172・180~195・327



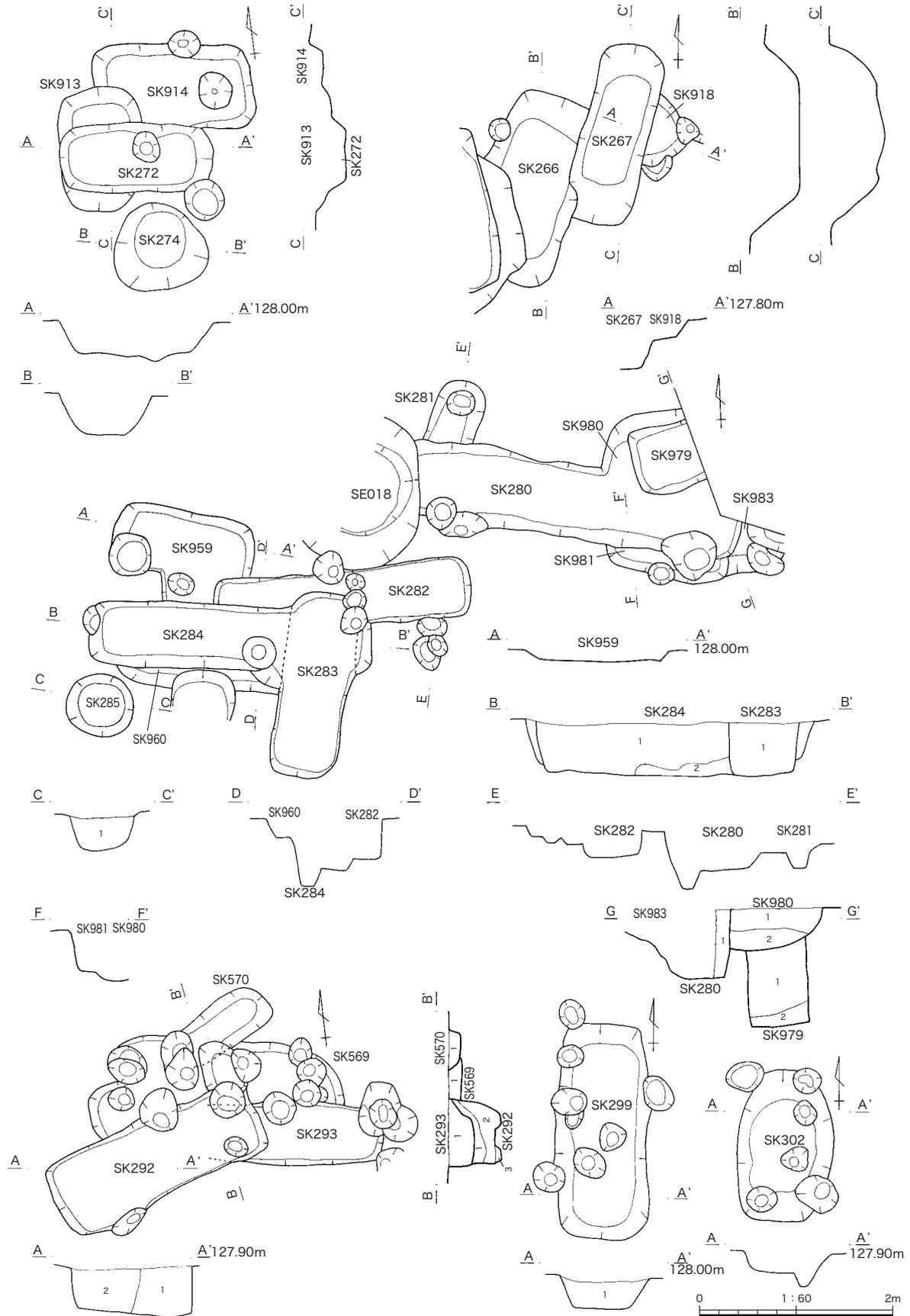
第147圖 土坑 (12) SK196~200・202・204・207~209・213・215~217・219・223・234・442・444・445・477~479



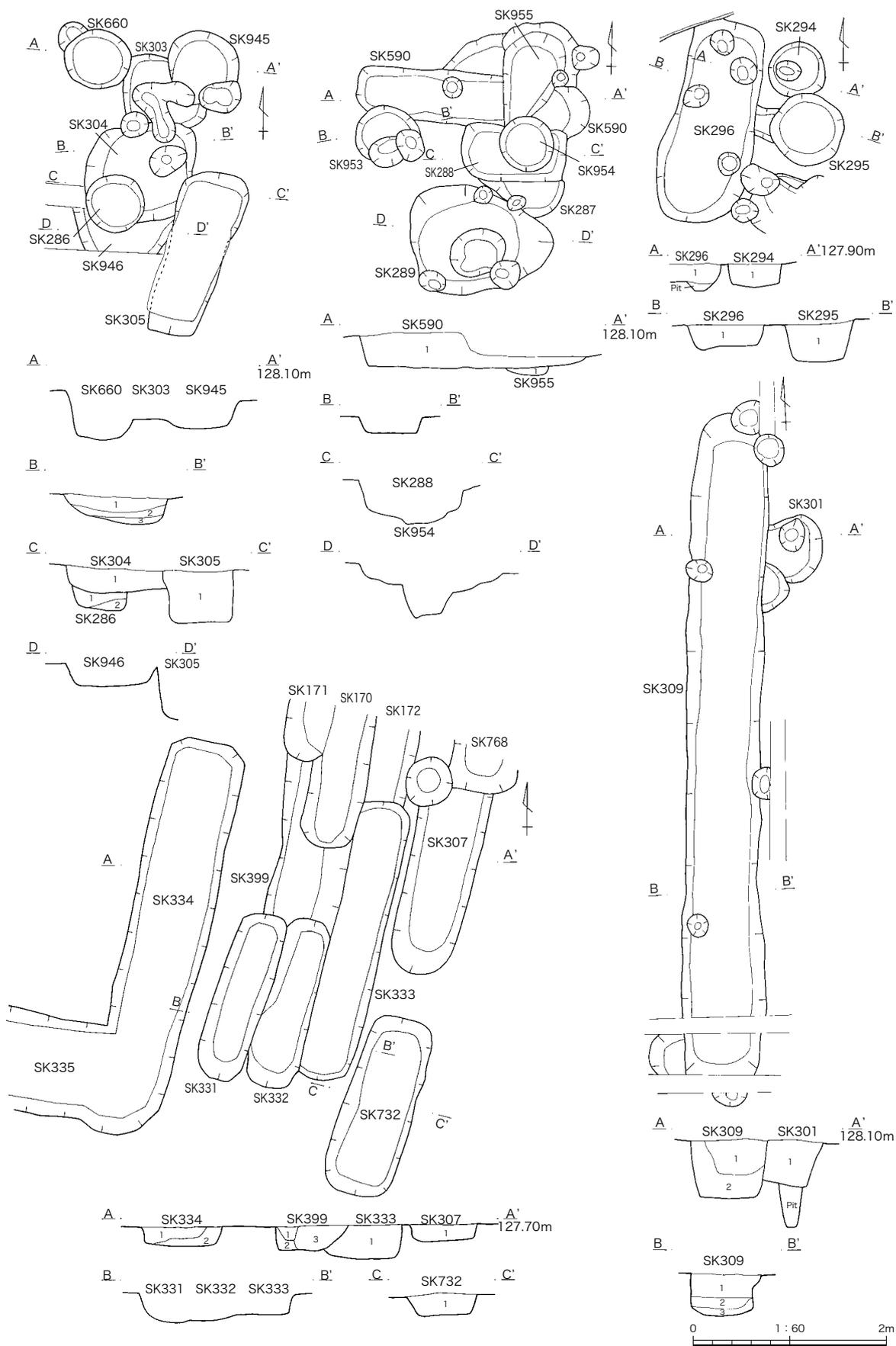
第148図 土坑 (13) SK220・222・224・225・231・232・244・259・260・268・271・650・755~757・762・771



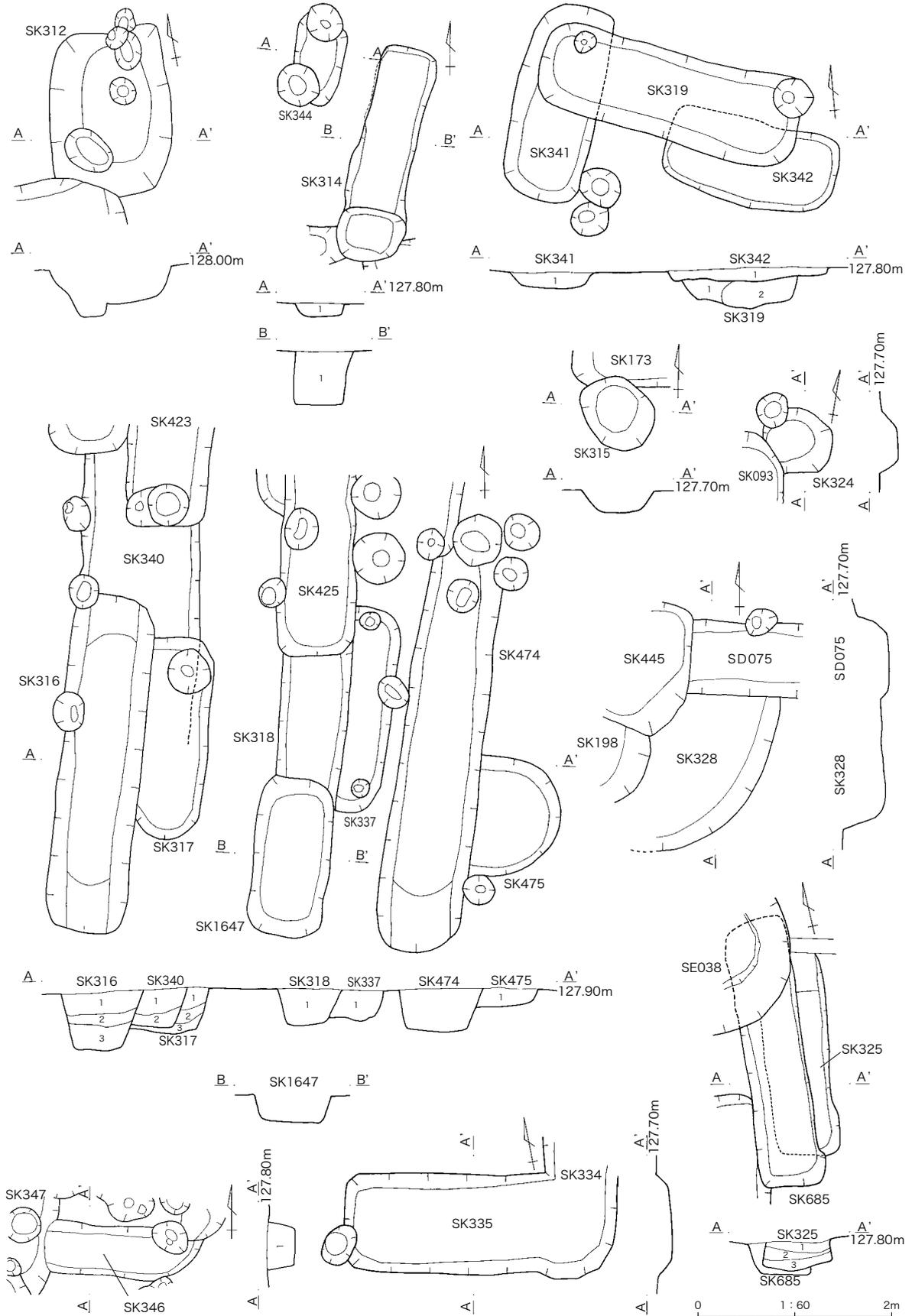
第149図 土坑 (14) SK233・255~257・275・276・278・279・290・291・297・298
300・653・656・657・799・867・919・962・963



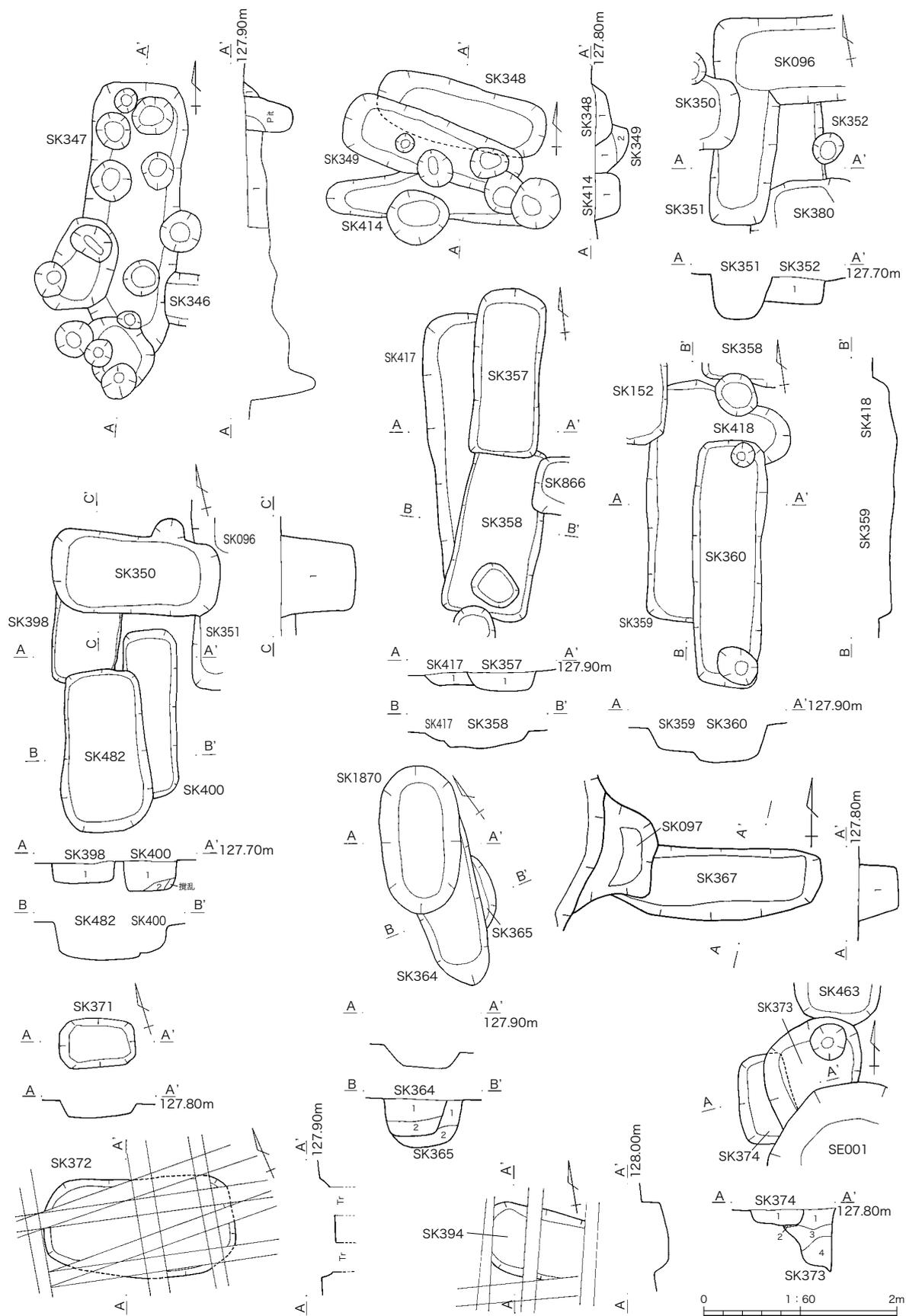
第150図 土坑 (15) SK266・267・272・274・280~285・292・293・299・302・569
570・913・914・918・959・960・979~981・983



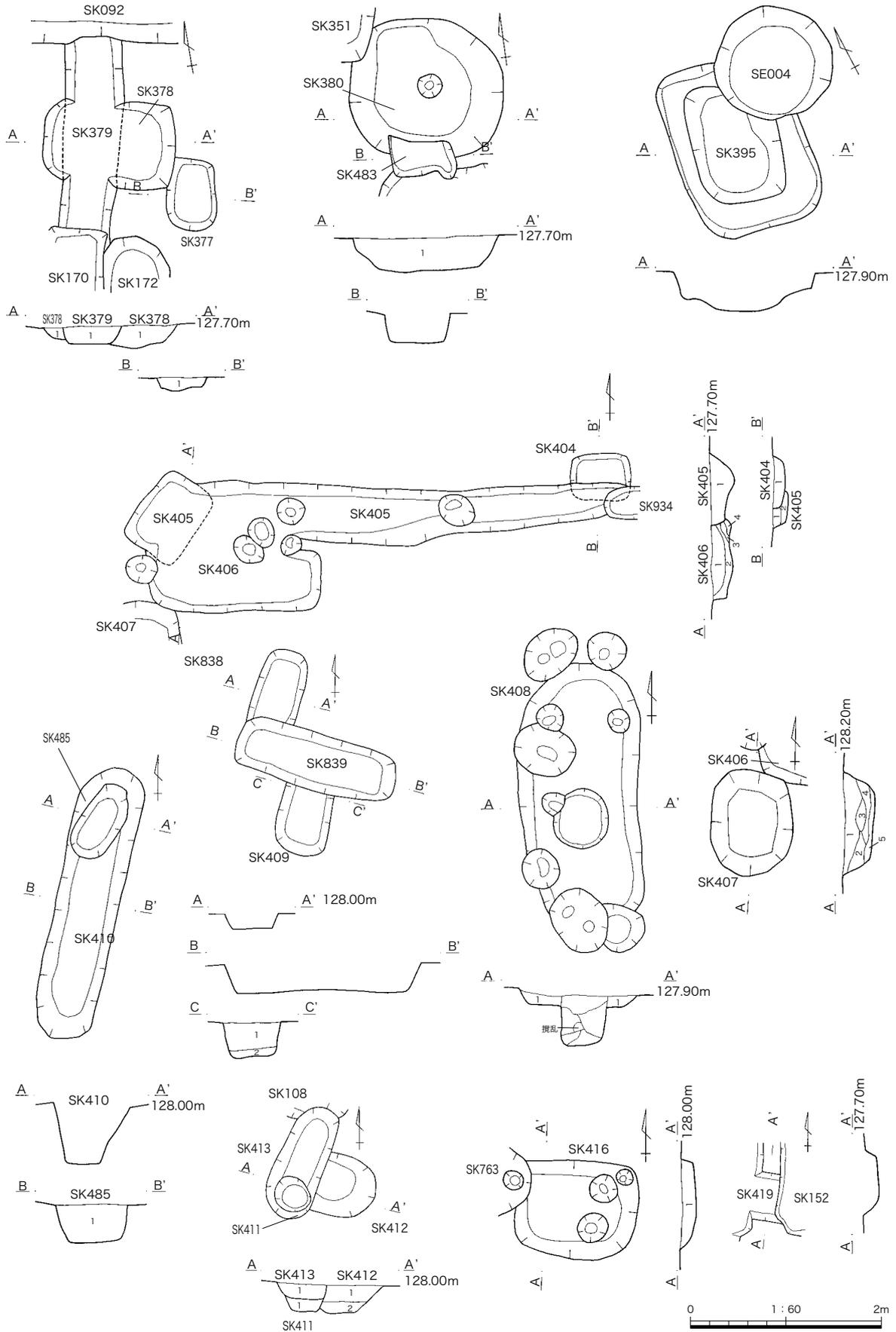
第151図 土坑 (16) SK286~288・289・294~296・301・303~305・307・309・331~334・399・590・660・945・946・953~955・732



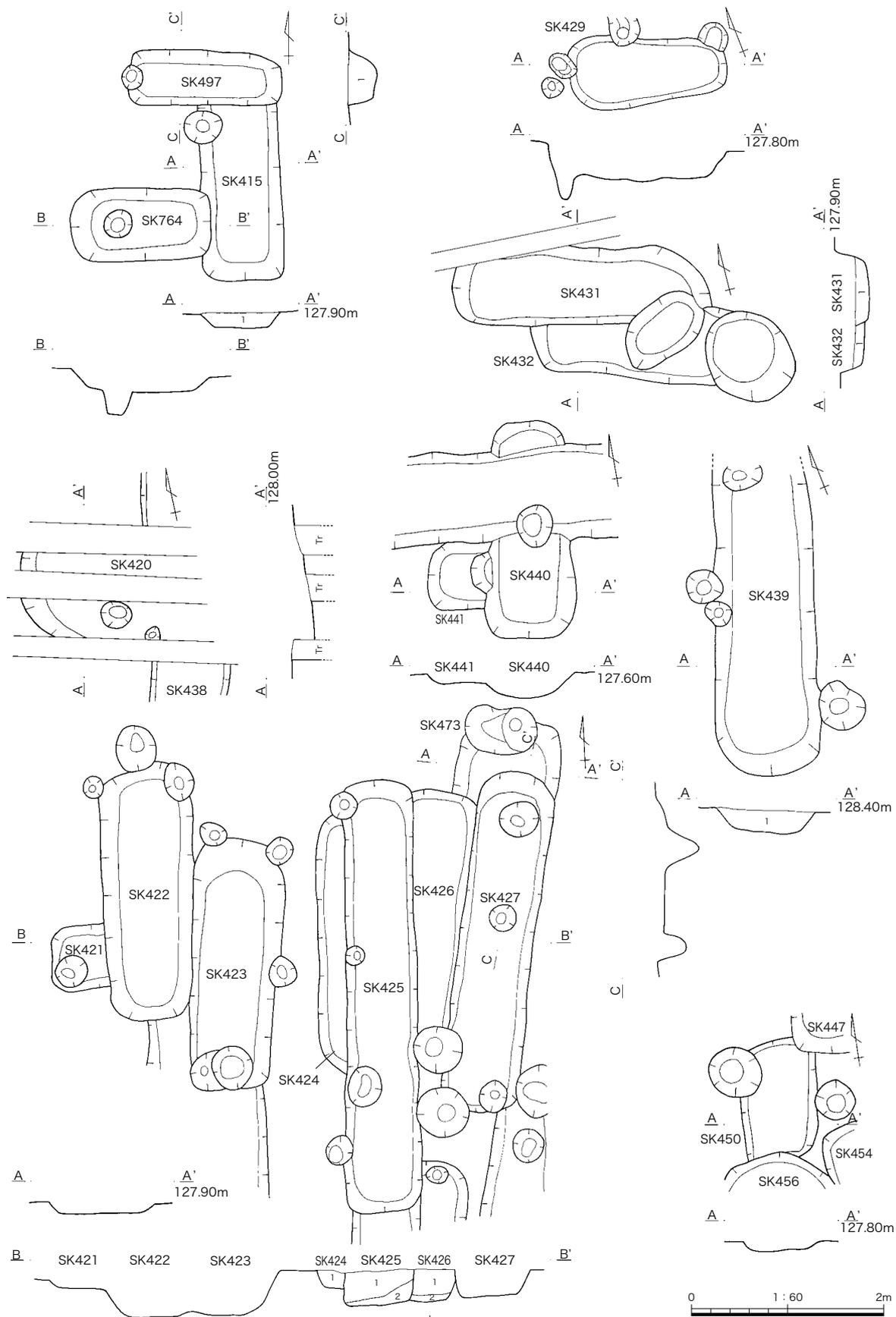
第152図 土坑 (17) SK312・314~319・324・325・328・335・337・340~342・344
346・374・375・685・1647



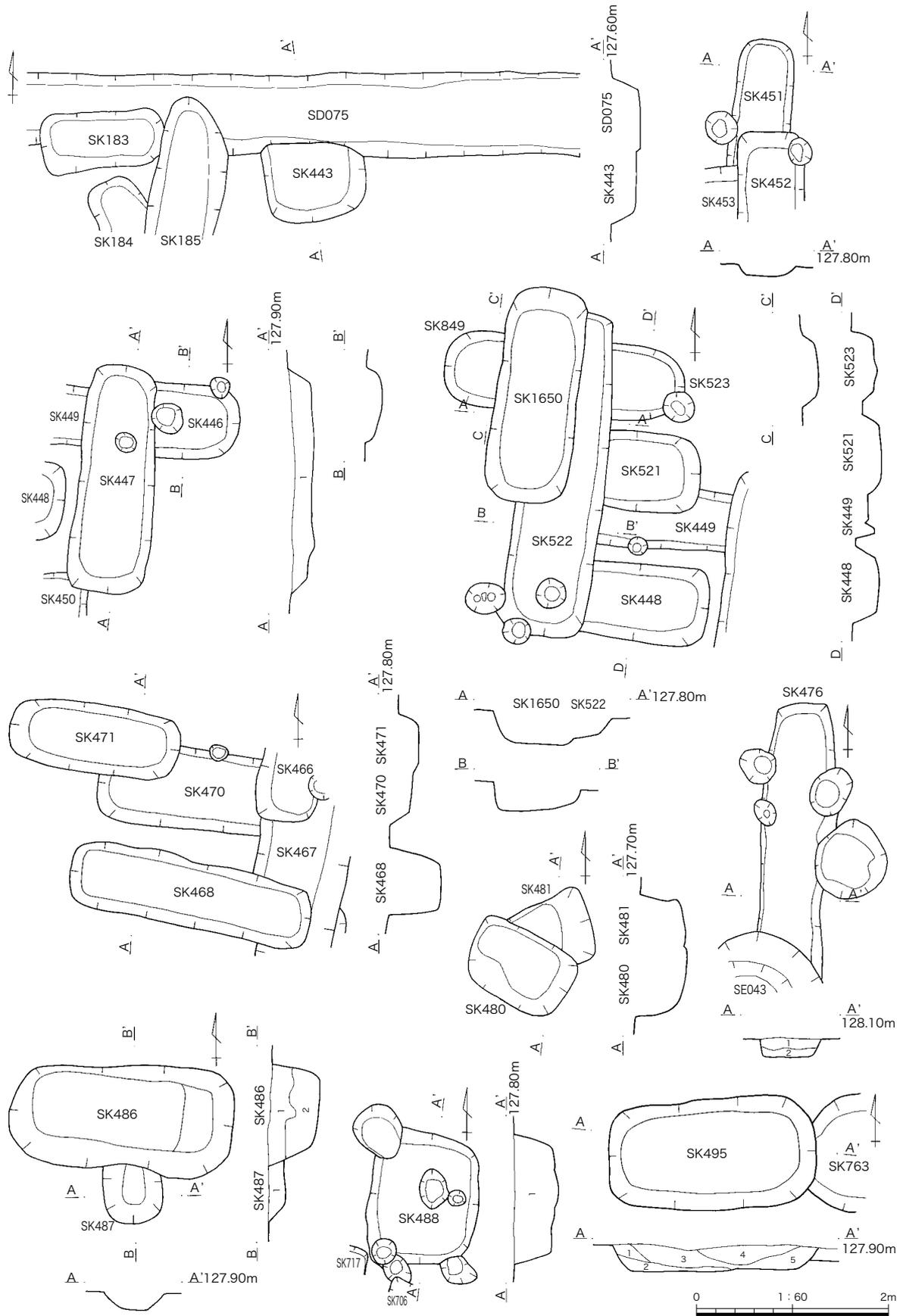
第153圖 土坑 (18) SK347~352・357~360・364・365・367・371~374・394・398
400・414・417・418・482・1870



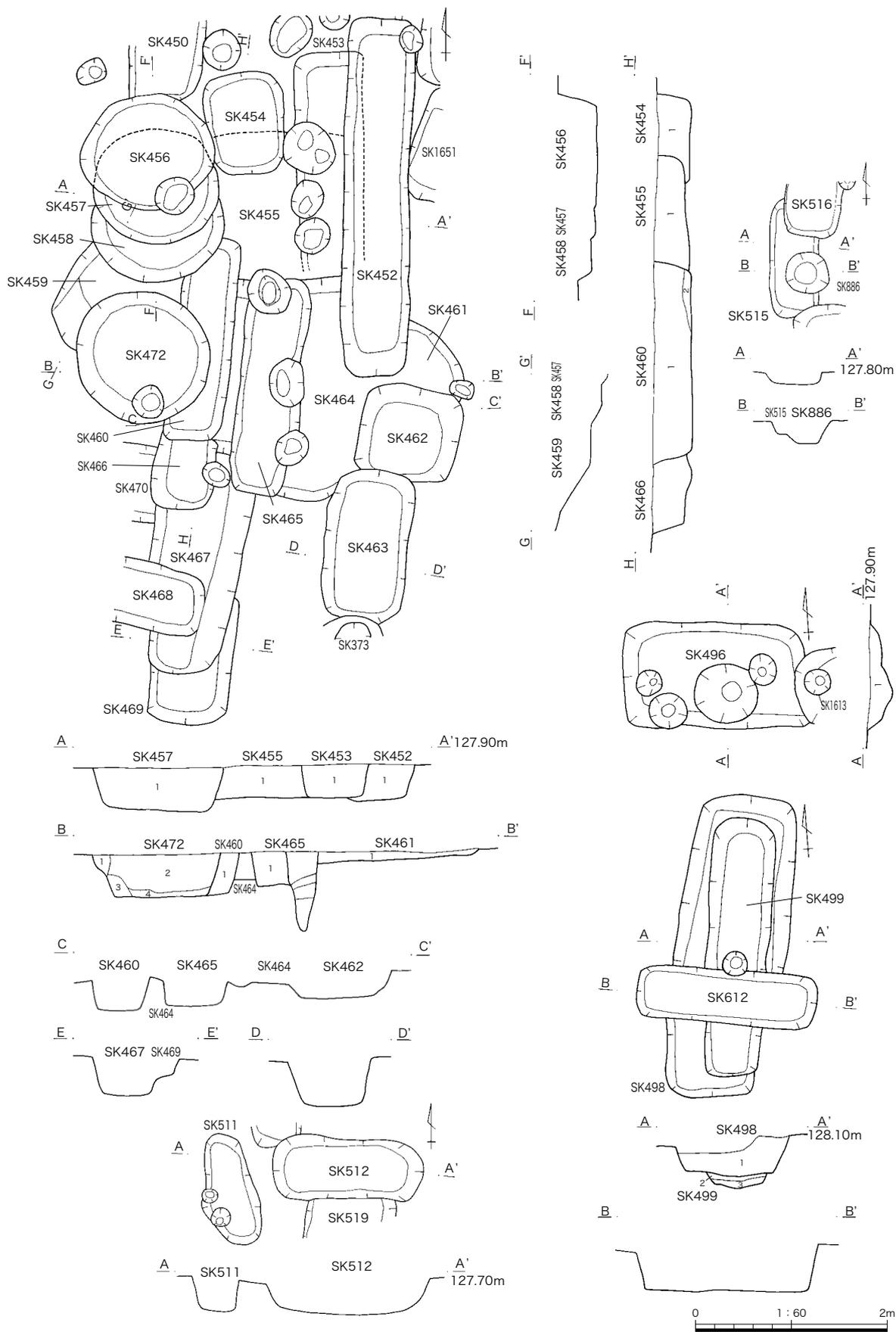
第154図 土坑 (19) SK377~380・395・404~413・416・419・483・485・838・839



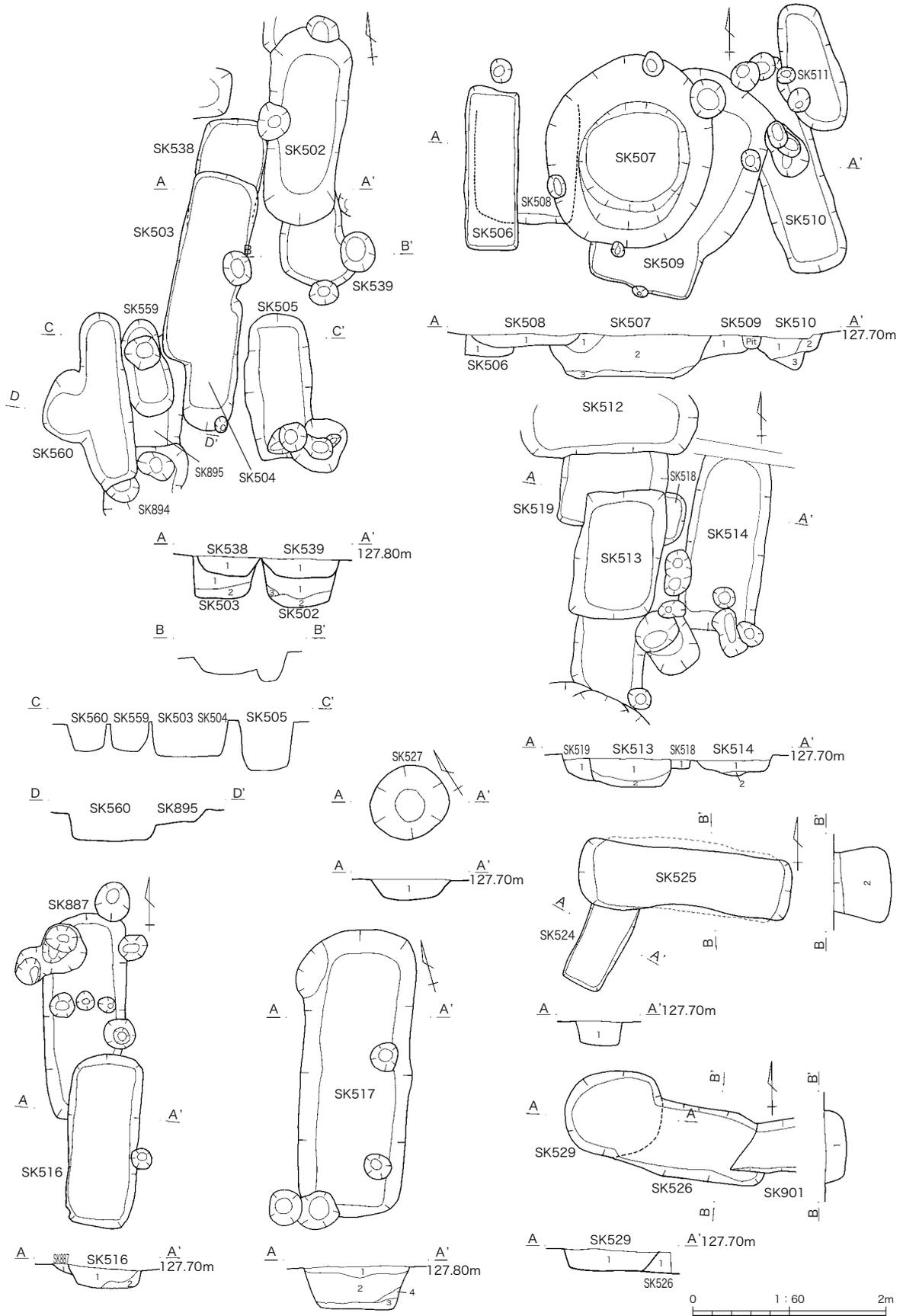
第155図 土坑 (20) SK415・420~427・429・431・432・439~441・450・473・497
764



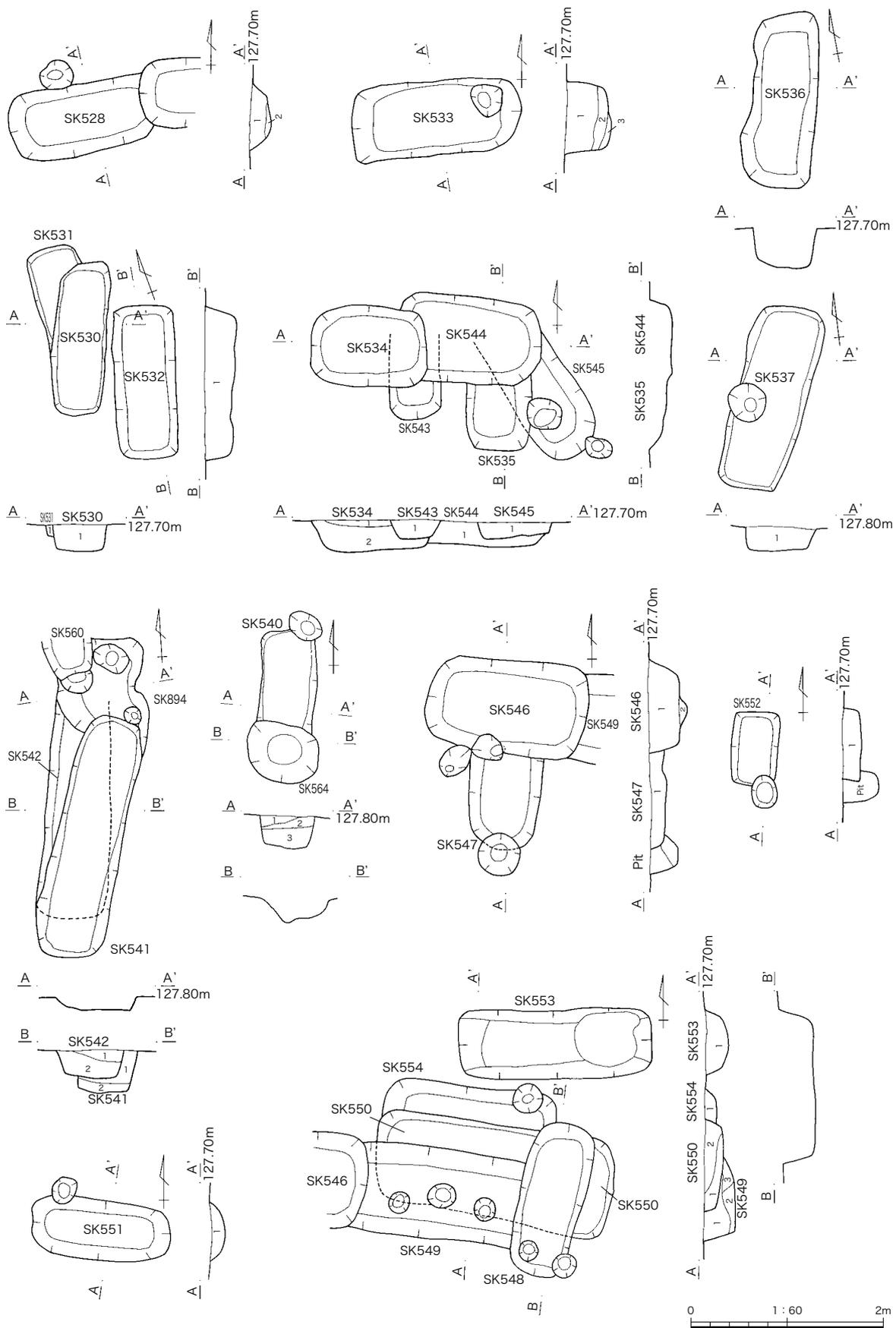
第156図 土坑(21) SK443・446~449・451・468・470・471・476・480・481
486~488・495・521~523・849・1650



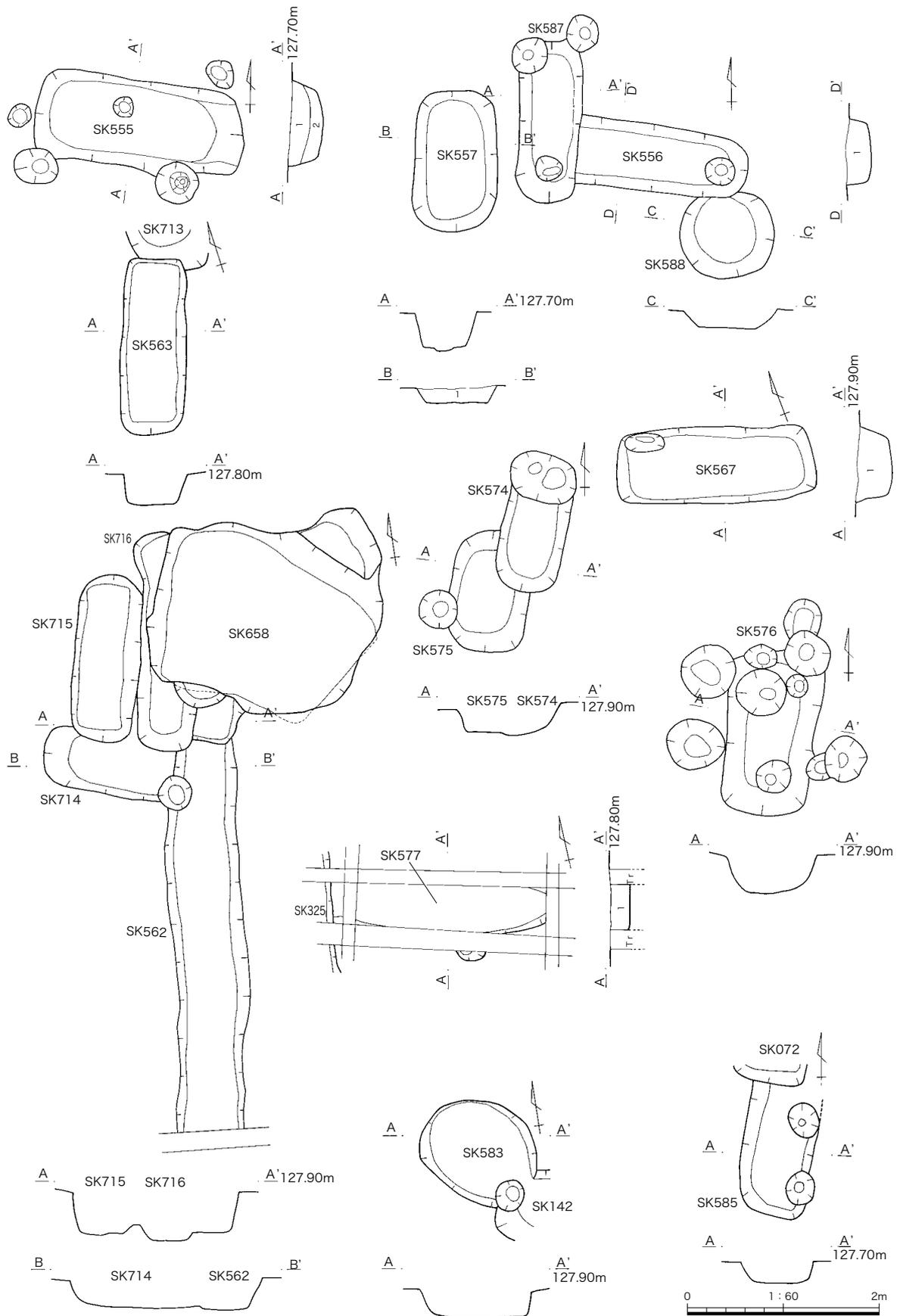
第 157 图 土坑 (22) SK452~467·469·472·496·498·499·511·512·515·516·612·886



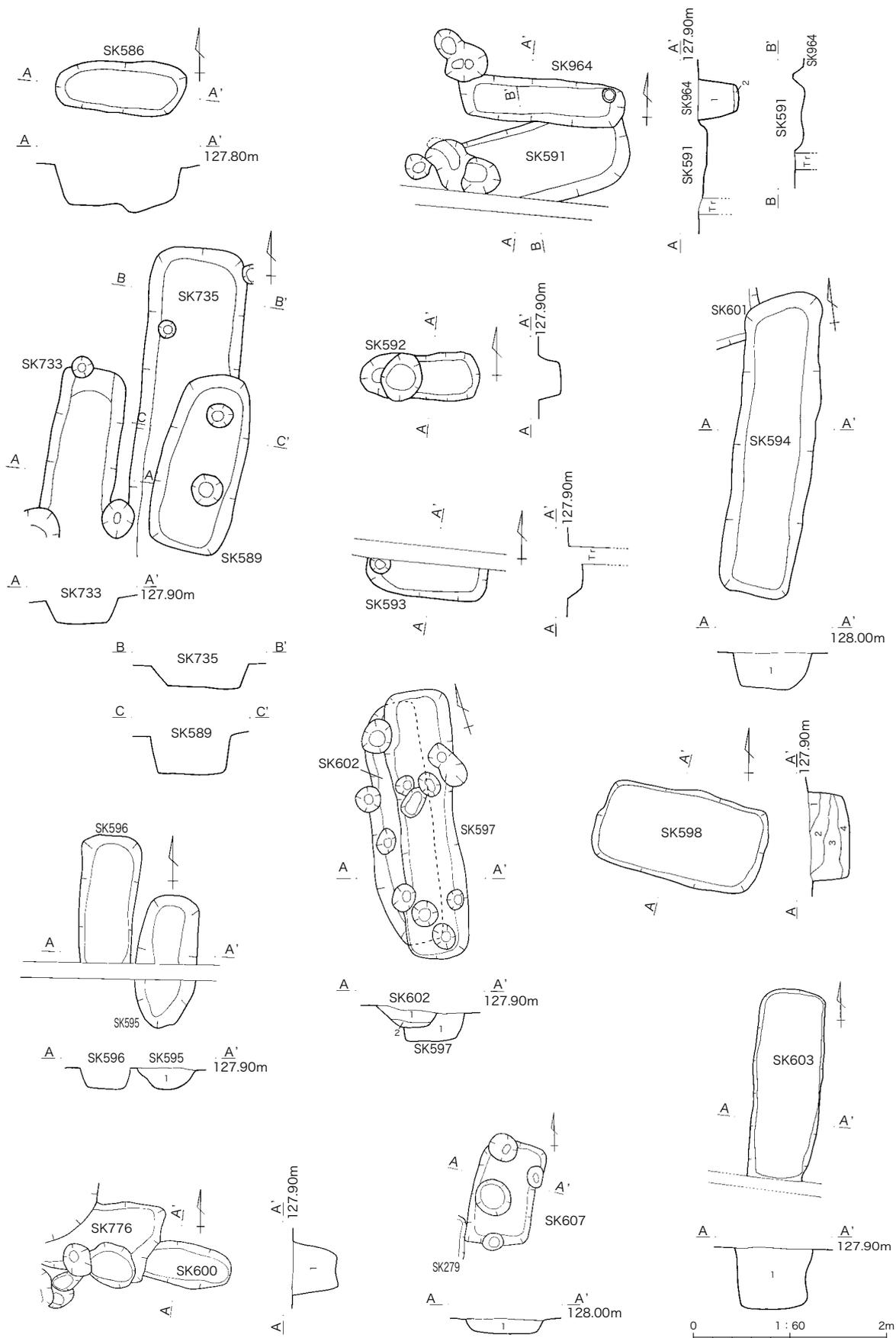
第158図 土坑 (23) SK502~510・513・514・516~519・524~527・529・538
539・559・560・887・895



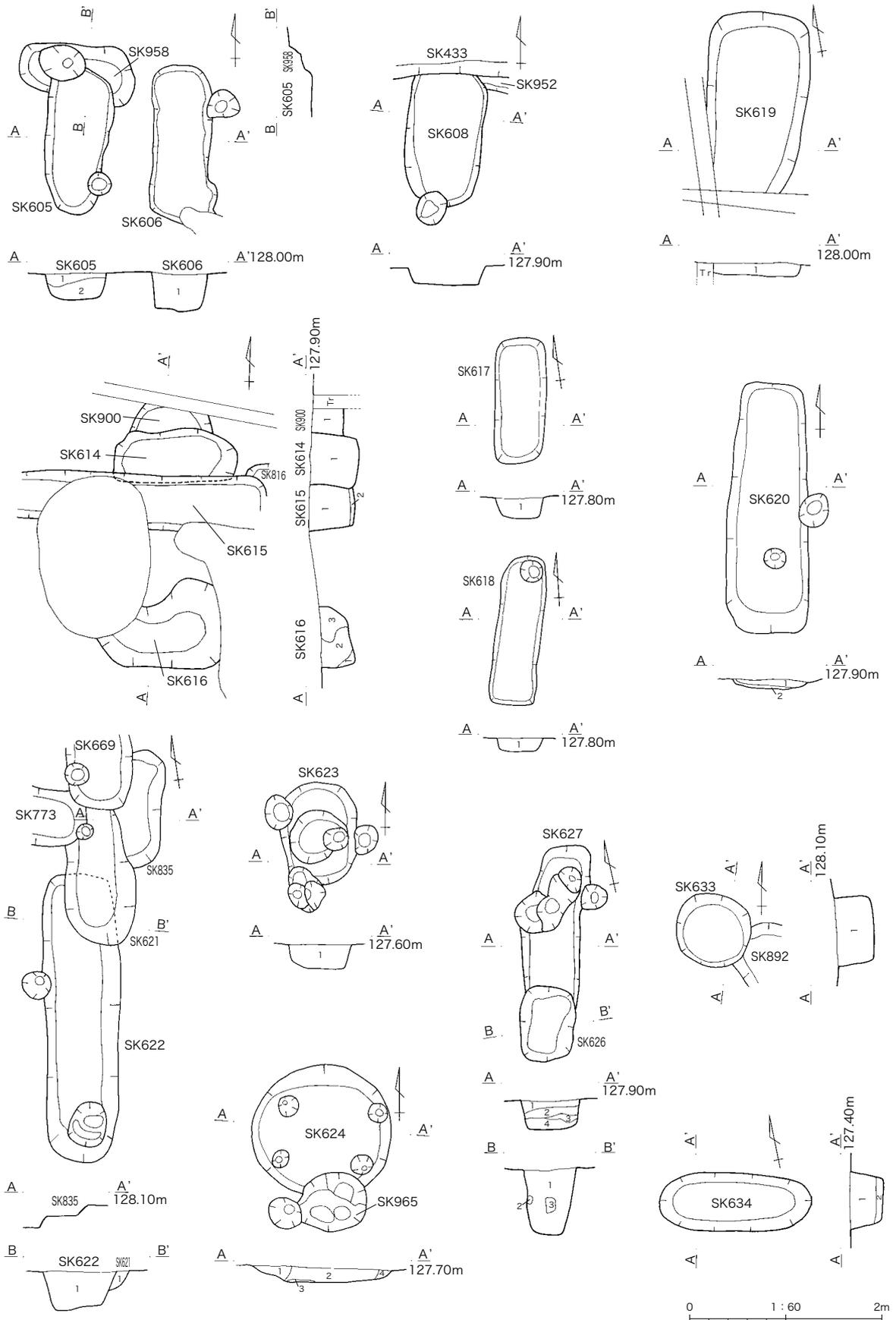
第159図 土坑 (24) SK528・530~537・540~554・564・894



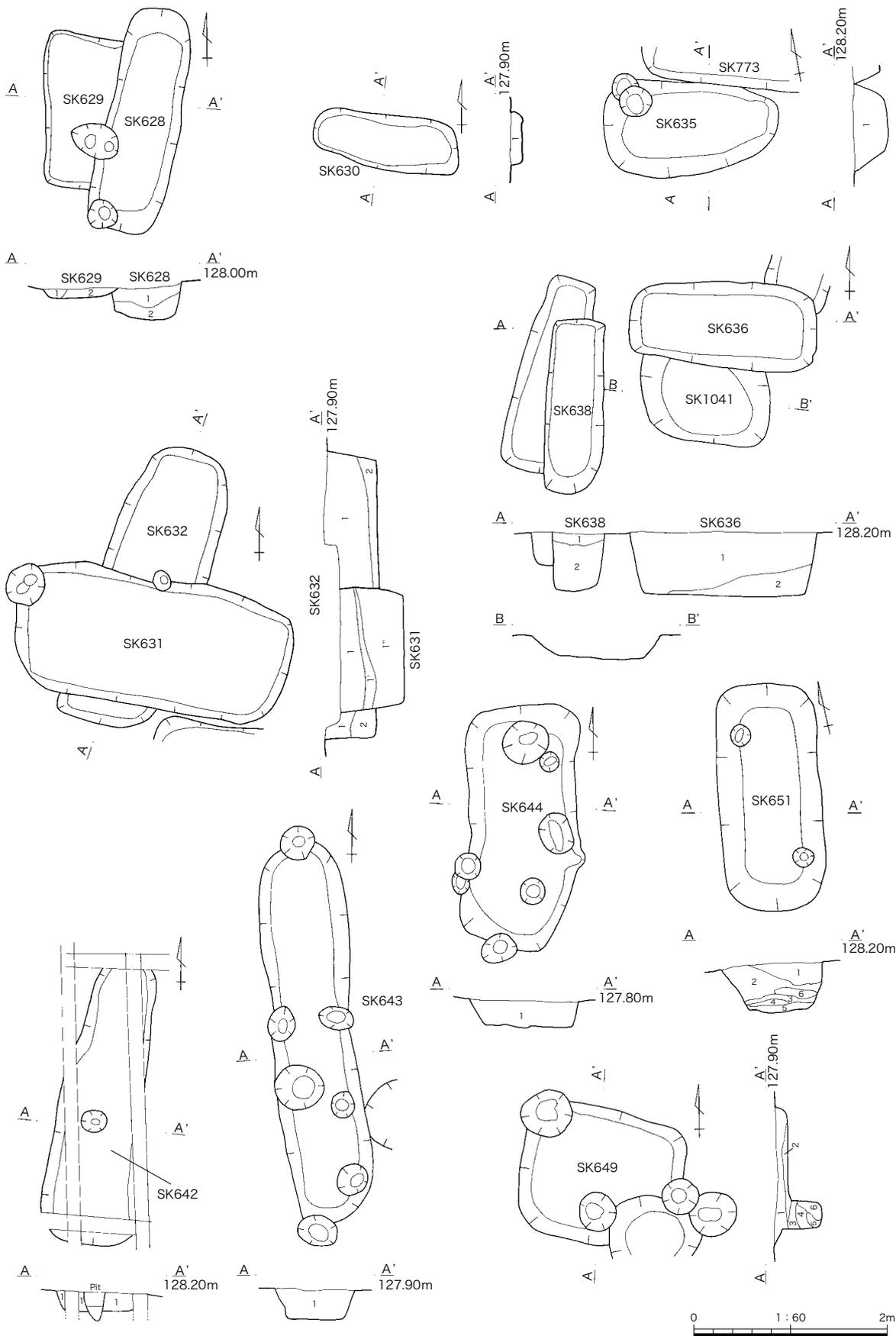
第160図 土坑 (25) SK555~557・562・563・567・574~577・583・585・587・588
714~716



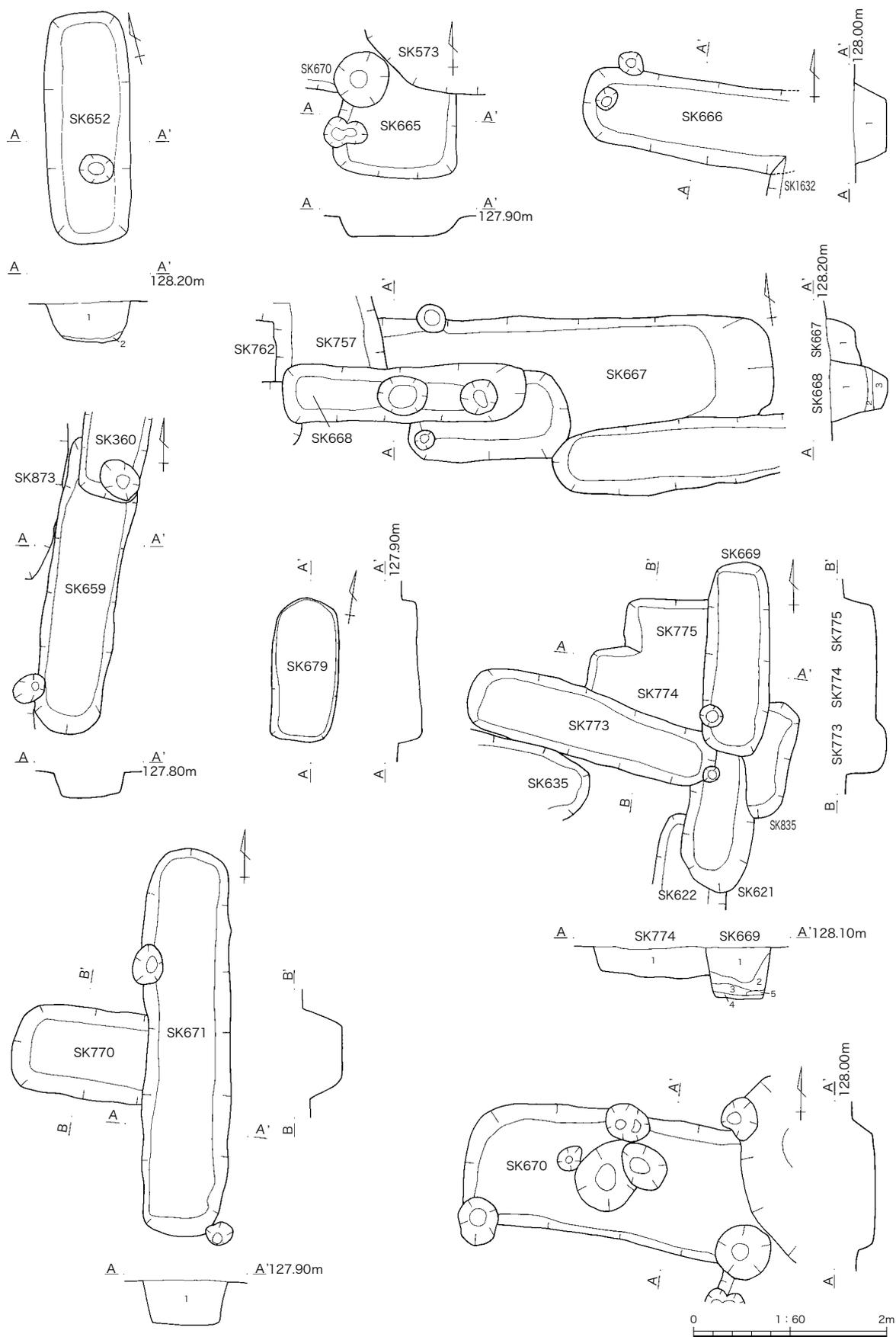
第161図 土坑(26) SK586・589・591~598・600・602・603・607・733・735・964



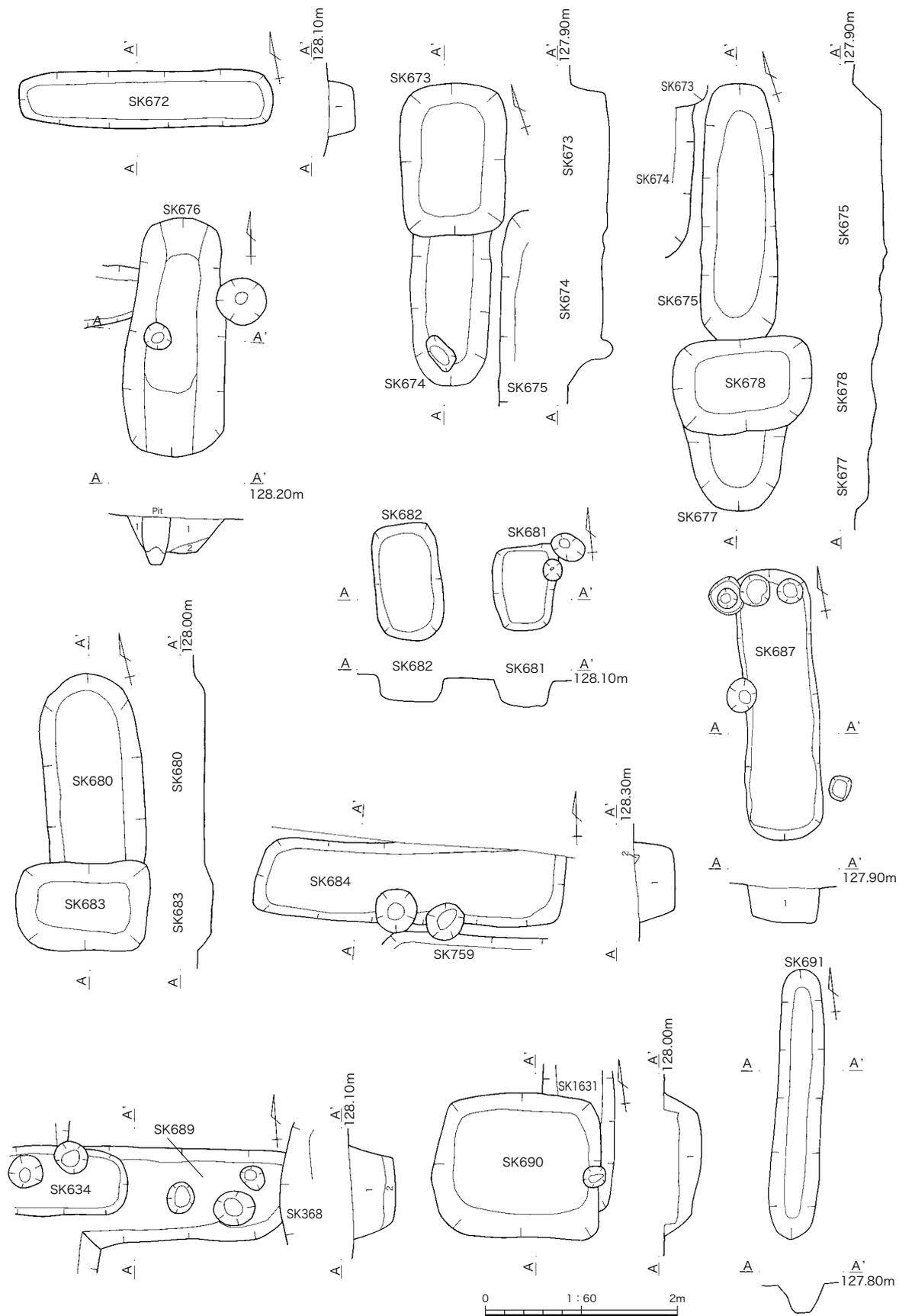
第162図 土坑(27) SK605・606・608・614~624・626・627・633~835・900・958



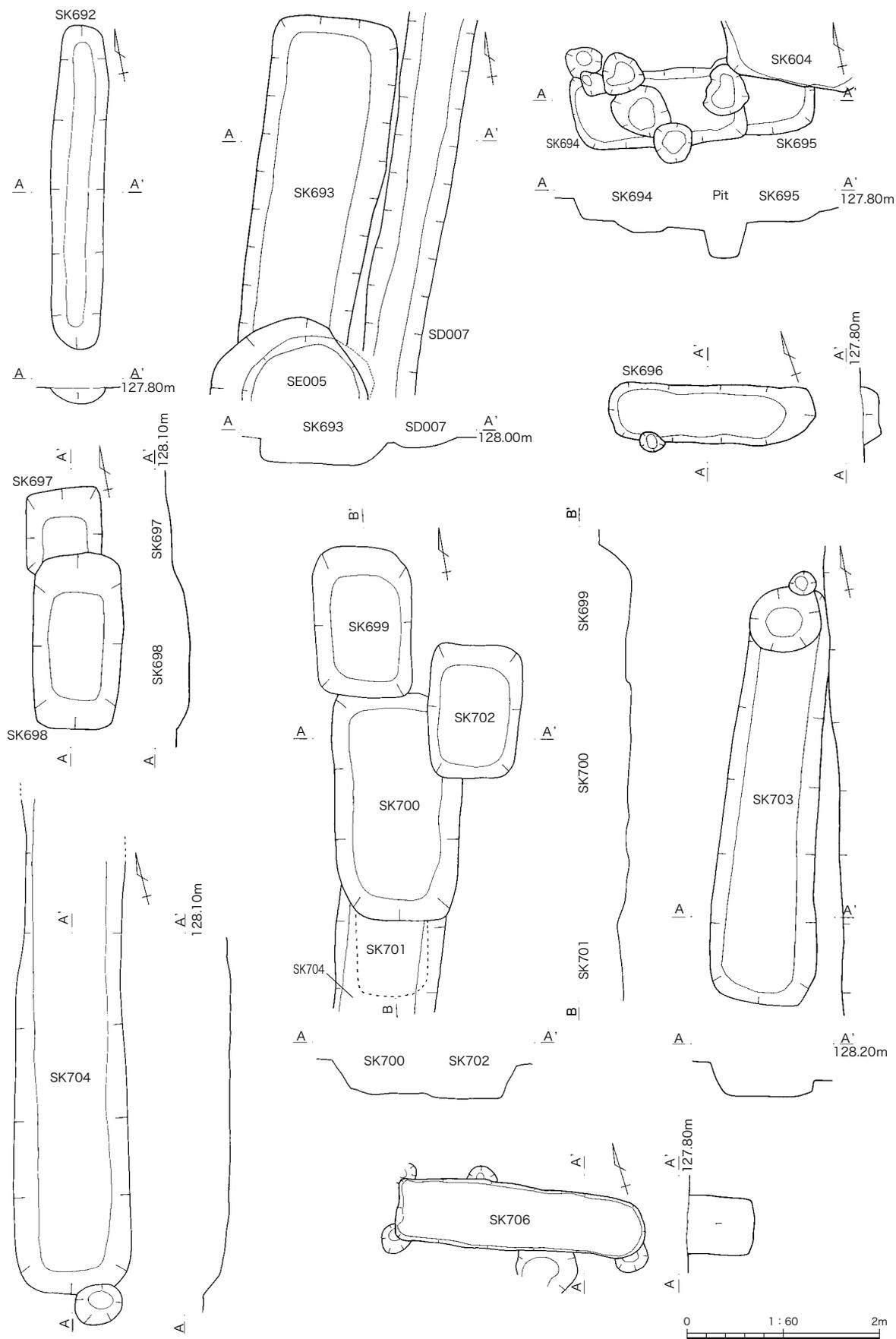
第163圖 土坑(28) SK628~632・635・636・638・642~644・649・651・1041



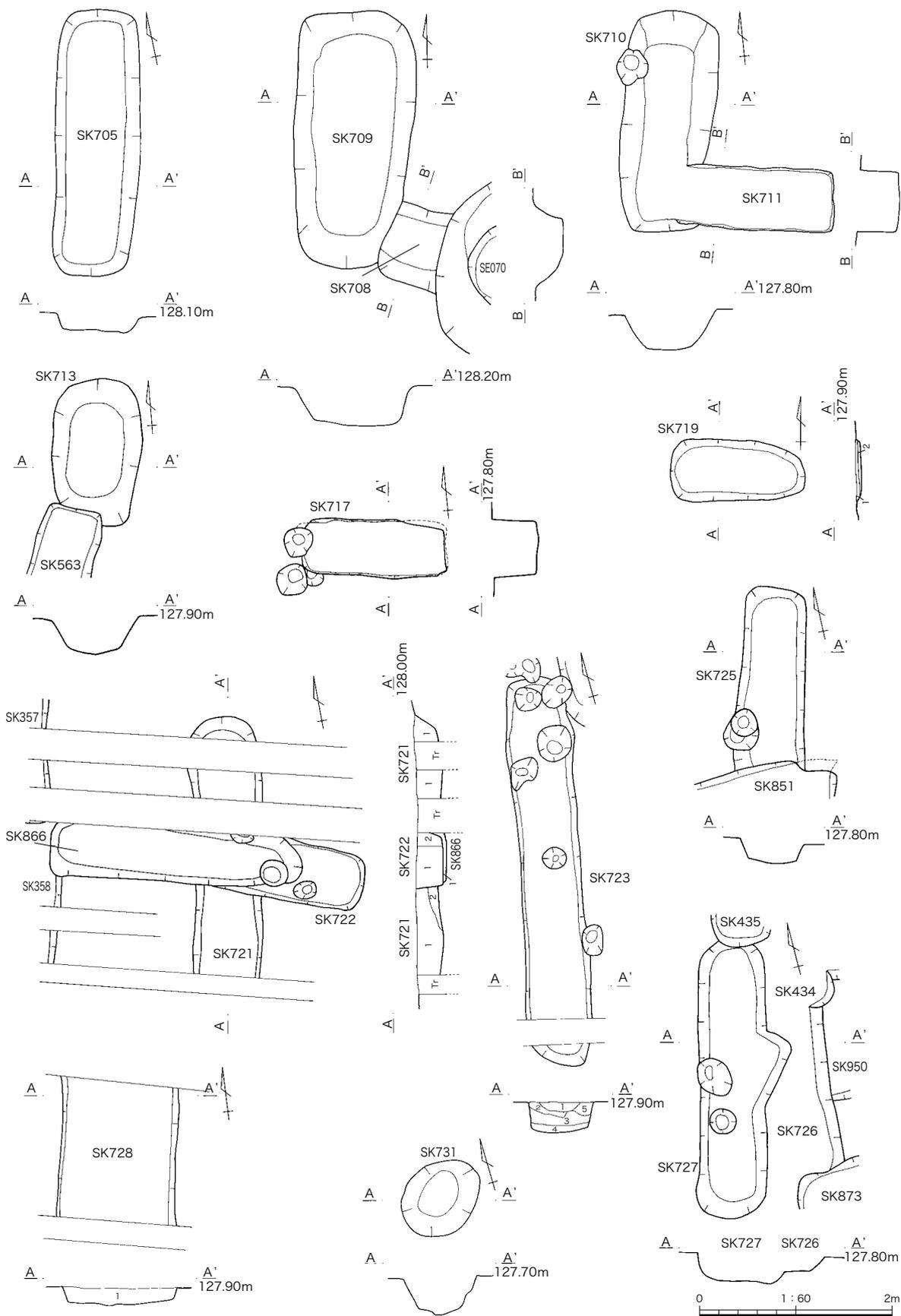
第164図 土坑 (29) SK652・659・665~671・679・770・773~775



第165図 土坑 (30) SK672~678・680~684・687・689~691

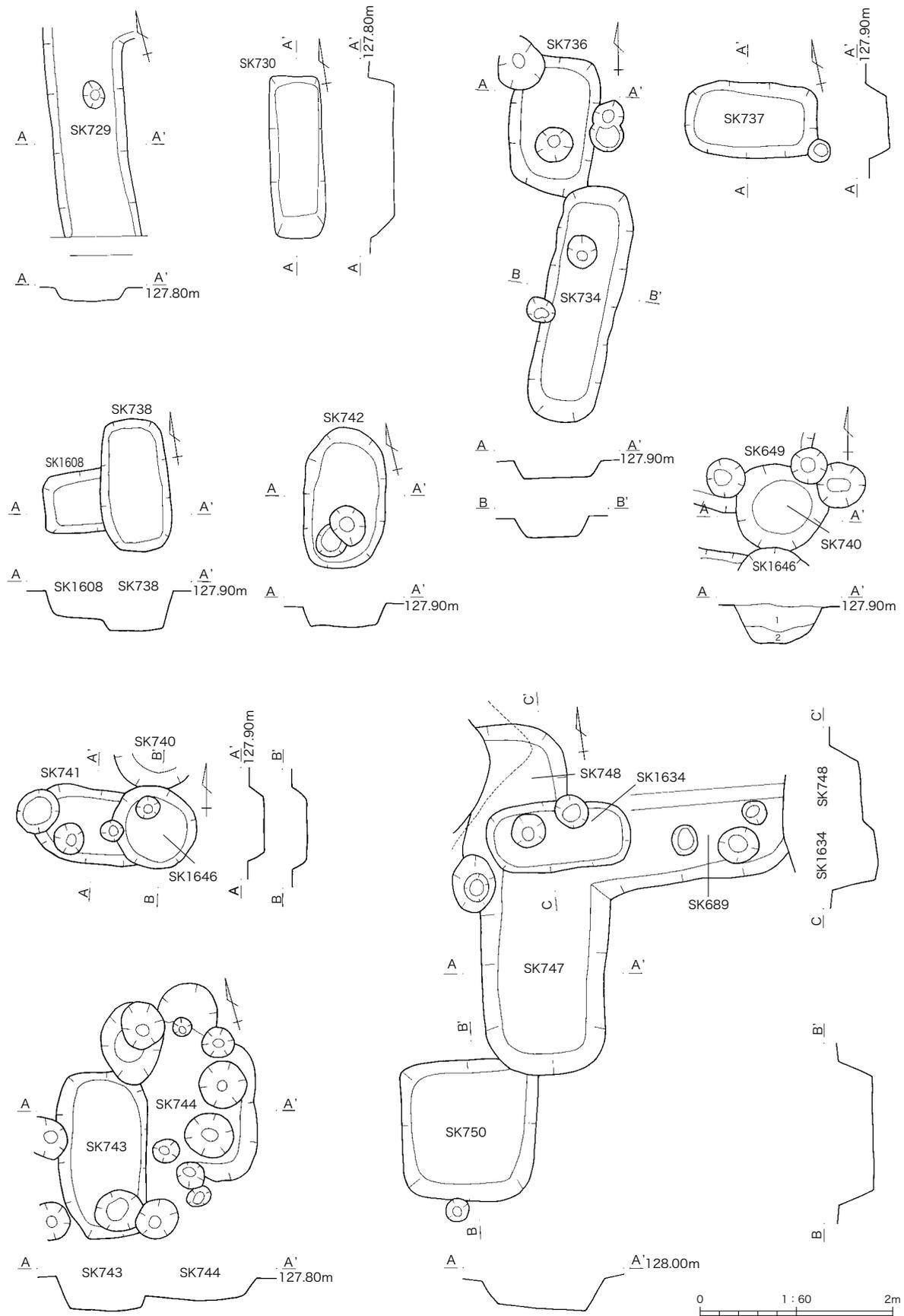


第166図 土坑(31) SK692~704・706

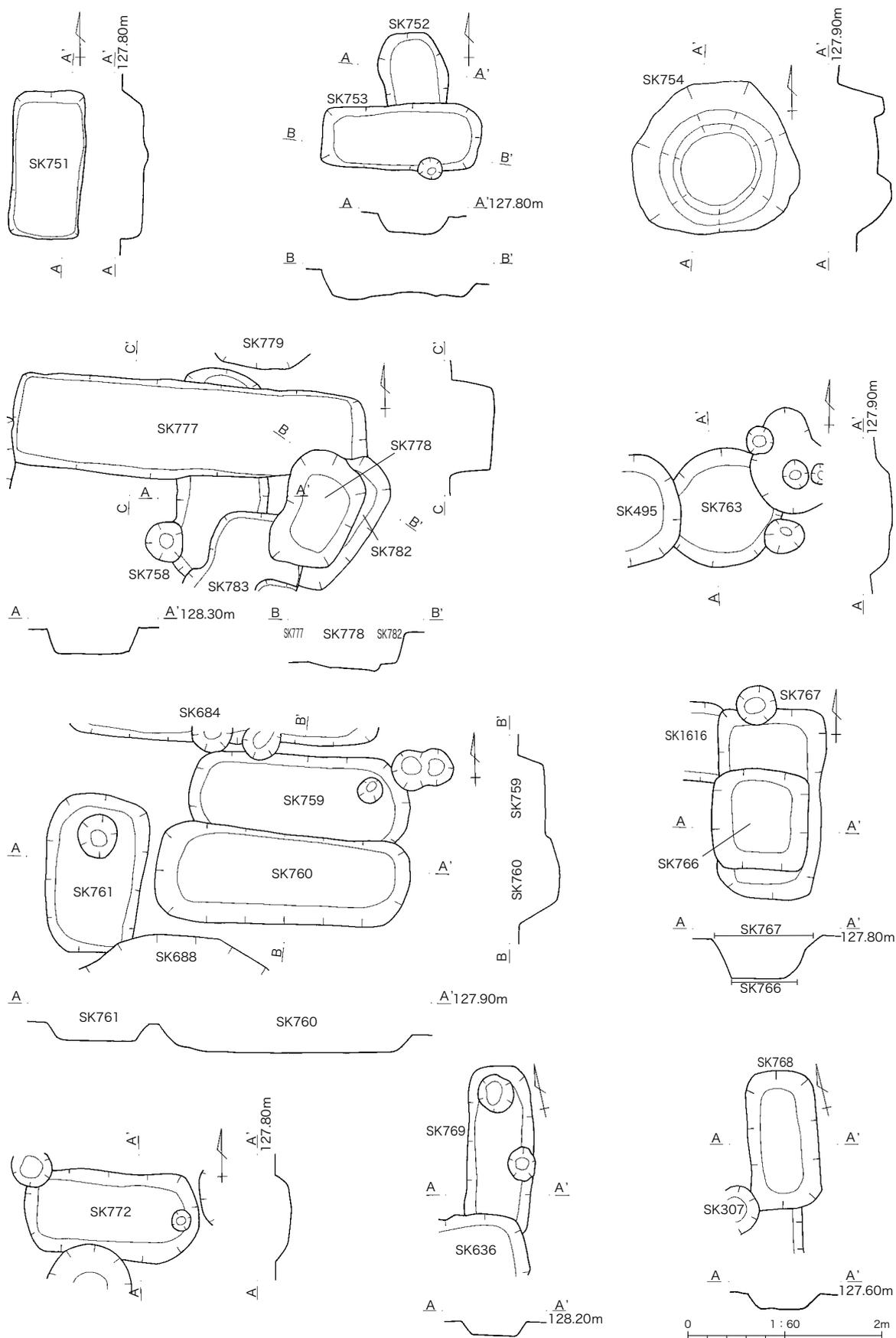


第167圖 土坑 (32) SK705・708~711・713・717・719・721~723・725~728・731

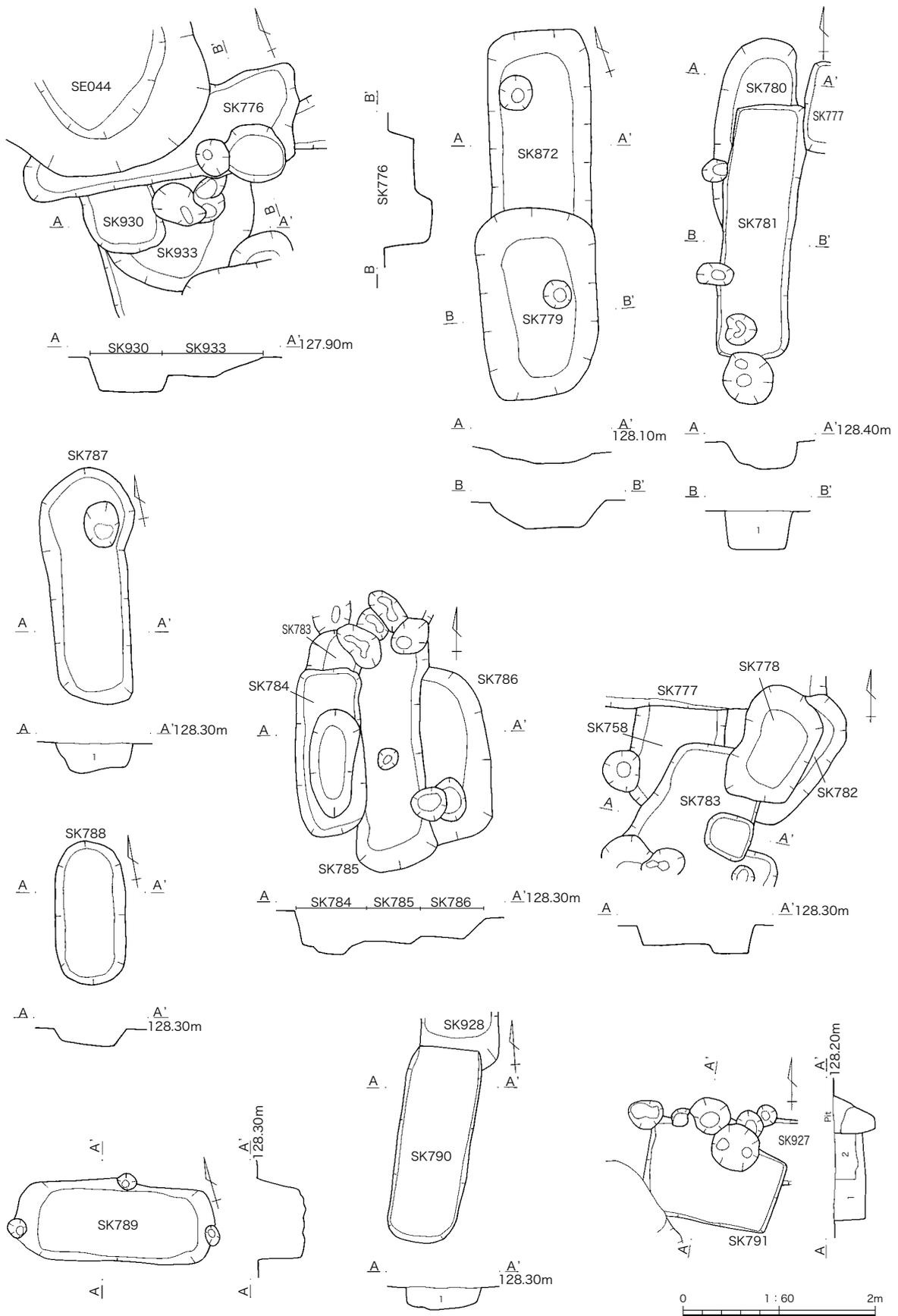
866



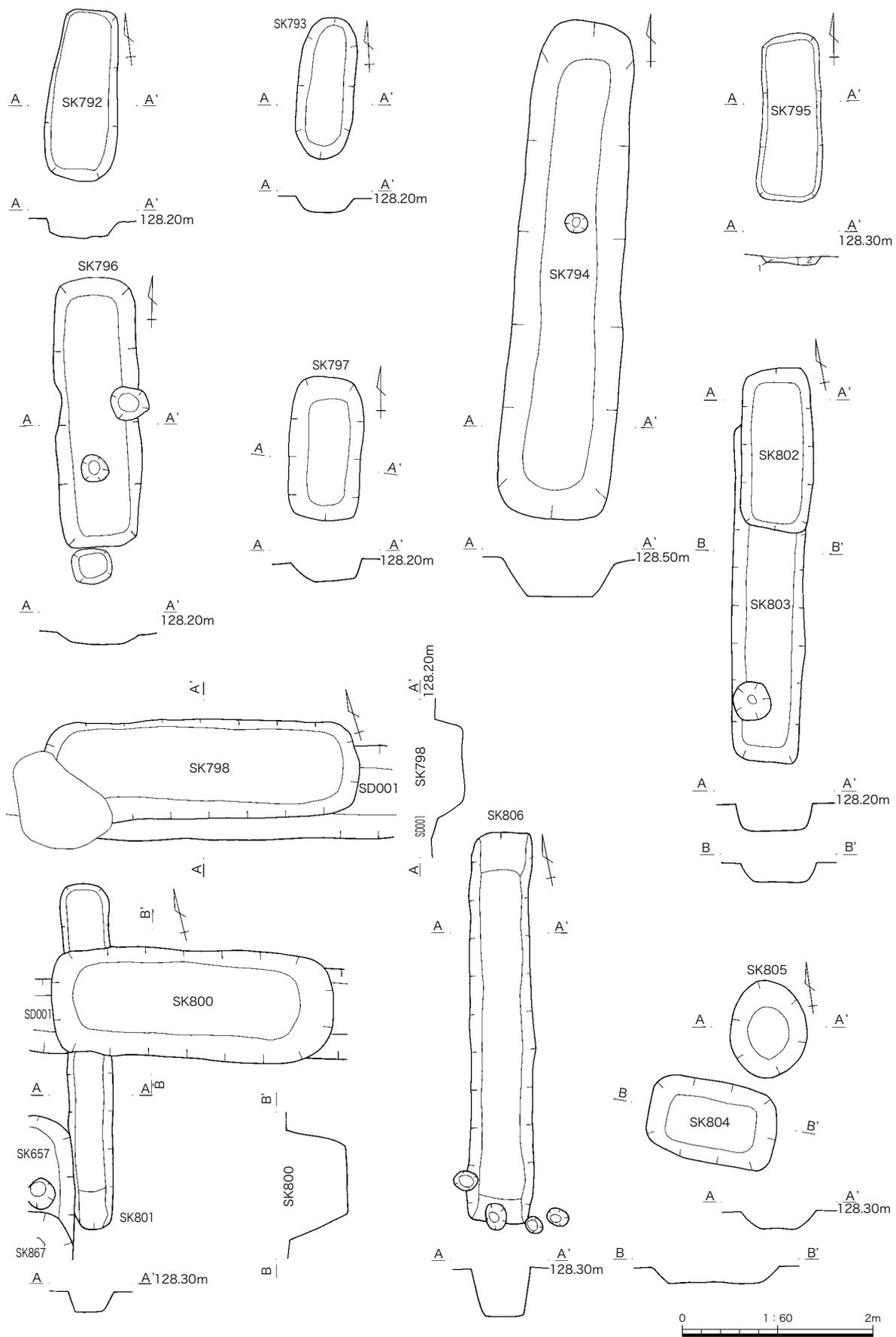
第168図 土坑(33) SK729・730・734・736~738・740~744・747・748・750
1608・1634・1646



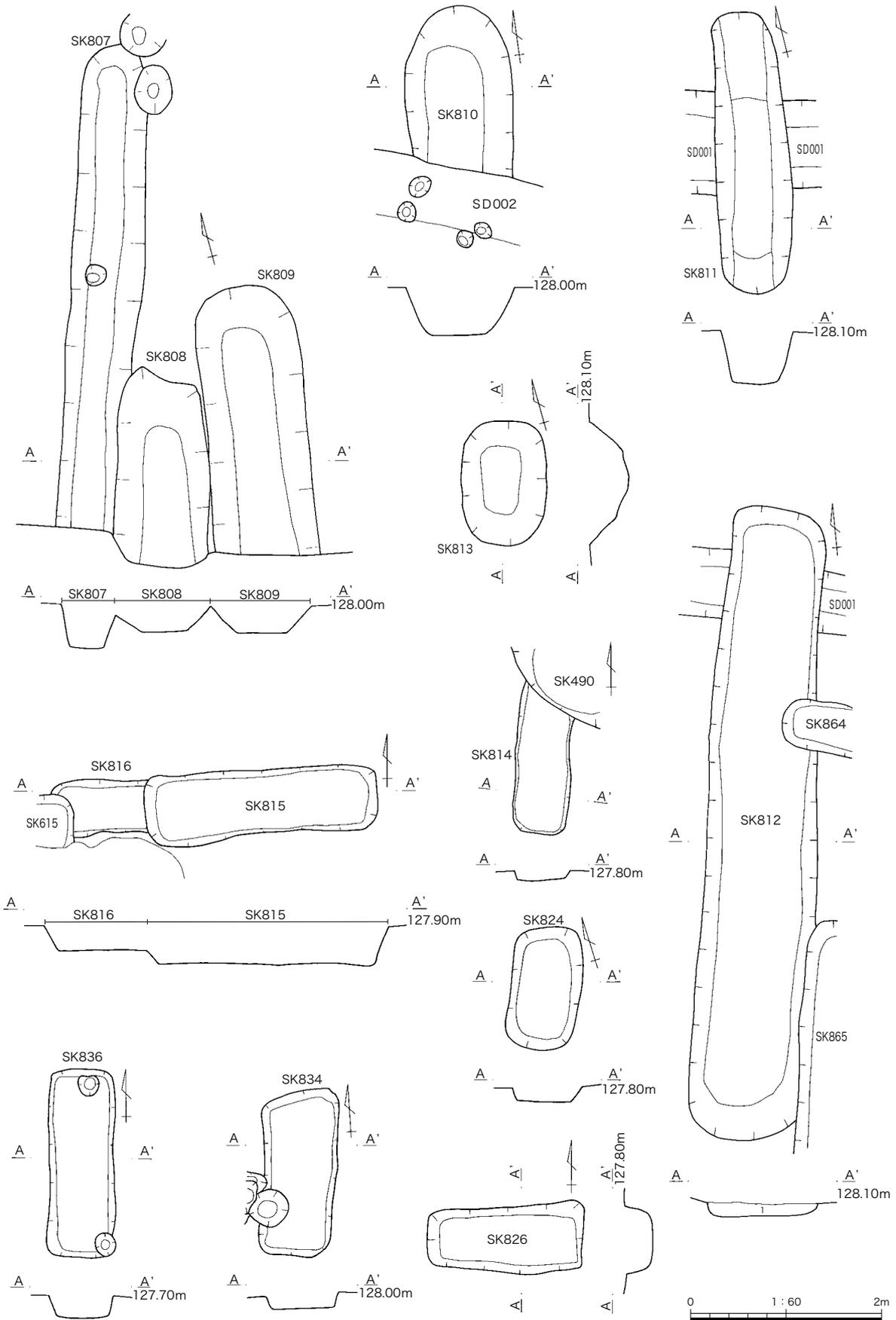
第169図 土坑 (34) SK751~754・758~761・763・766~769・772・777・778・782



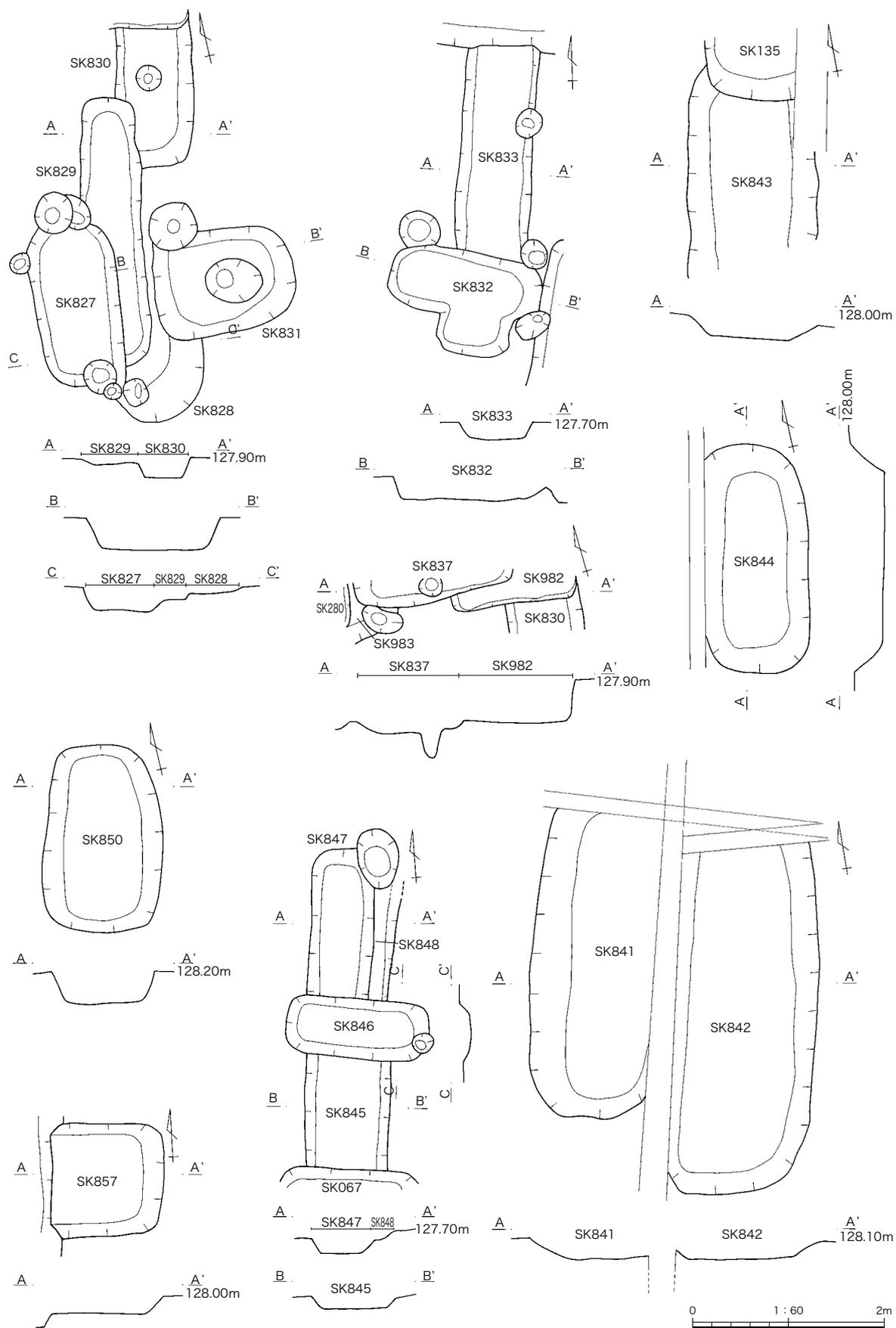
第170図 土坑 (35) SK776・779~781・783~791・872・930・933



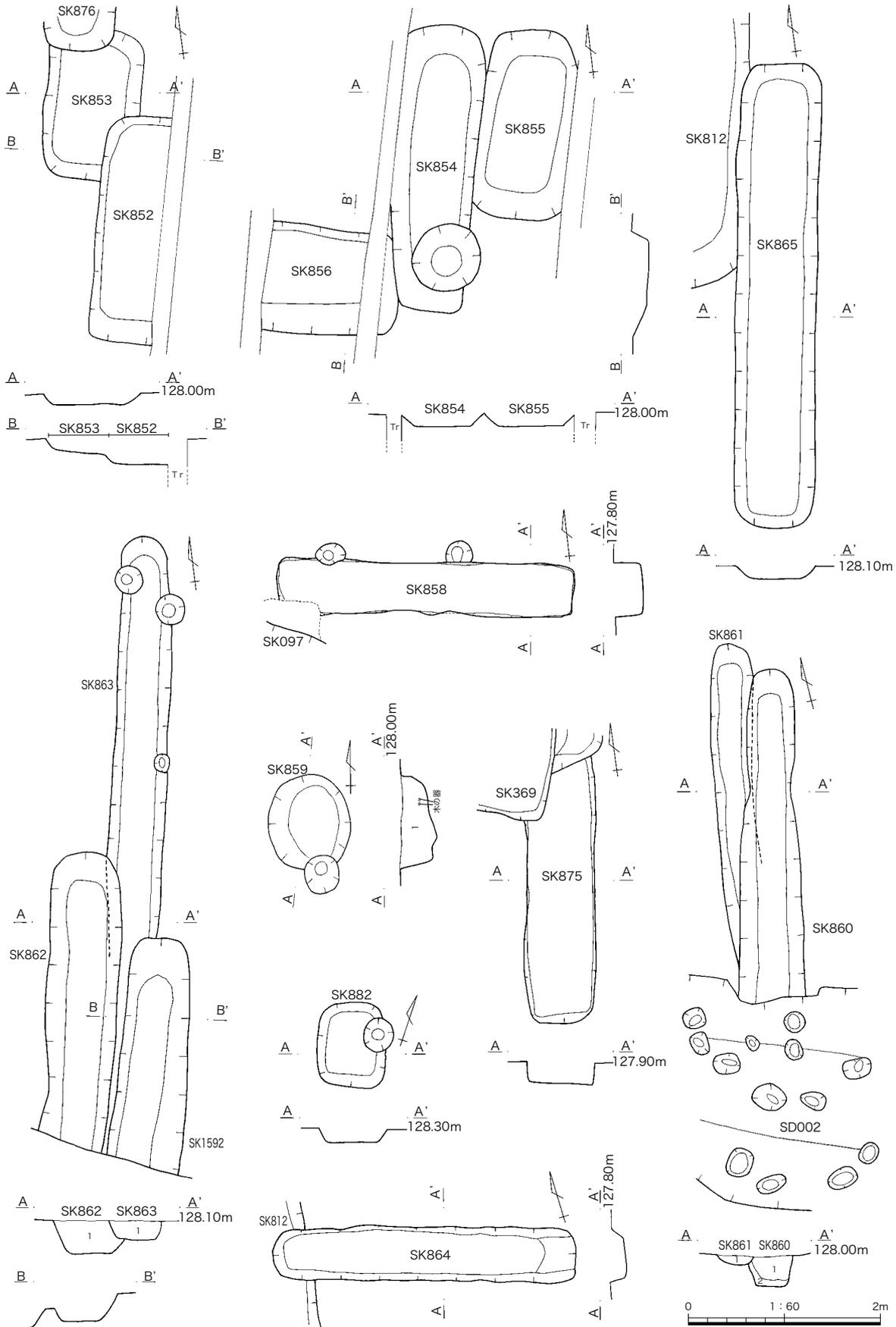
第171図 土坑 (36) SK792~798・800~806



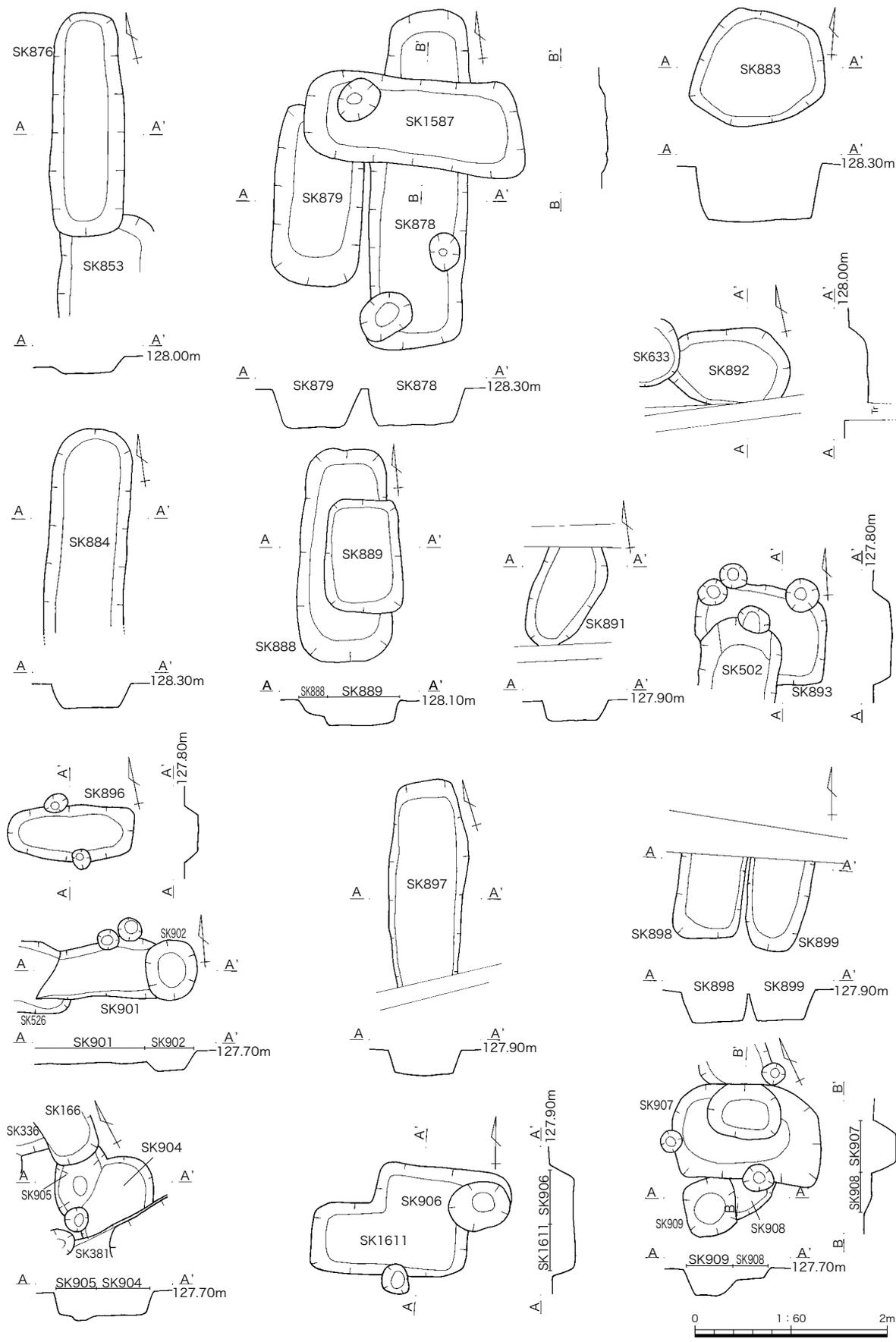
第172図 土坑 (37) SK807~816・824・826・834・836



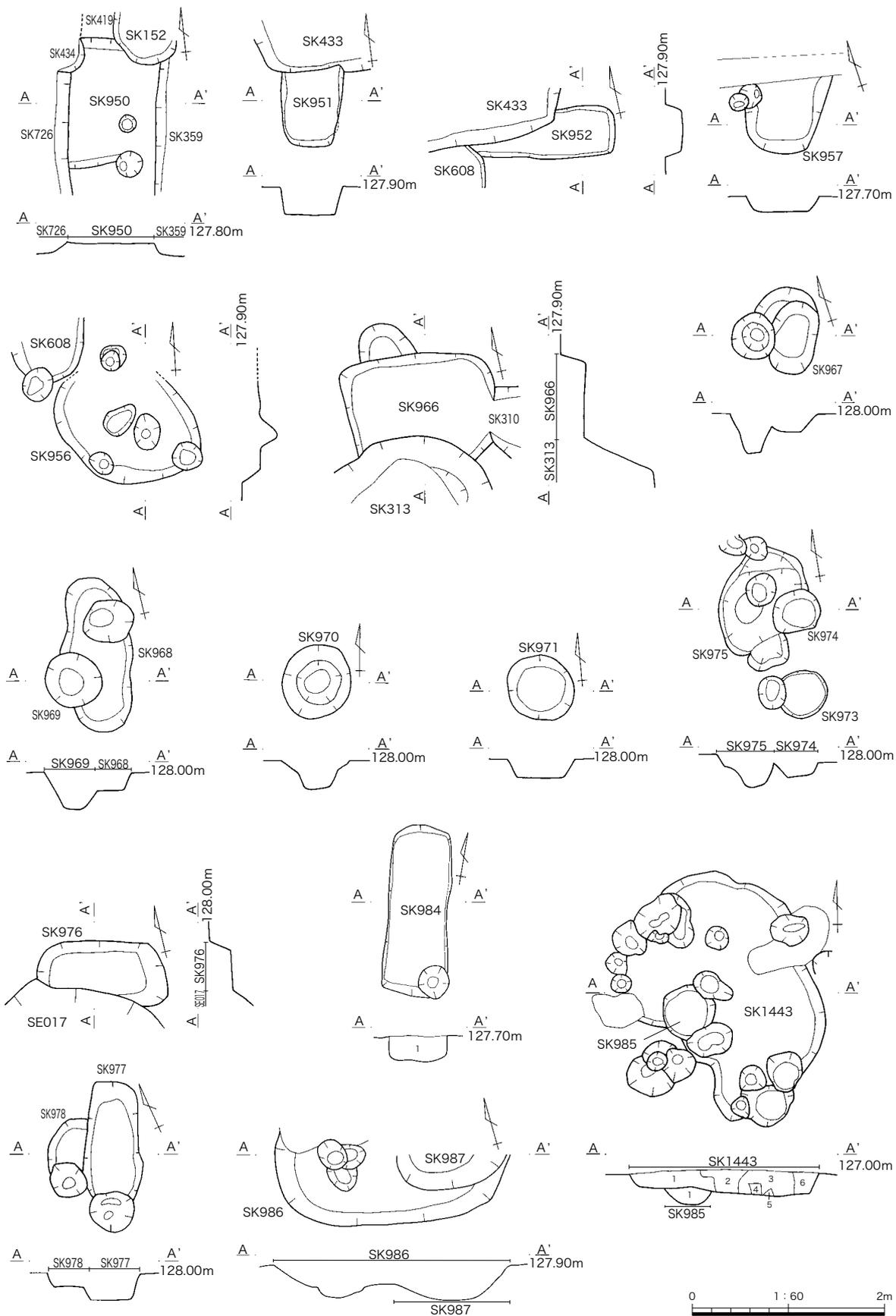
第173圖 土坑 (38) 827~833・837・841~848・850・857・982



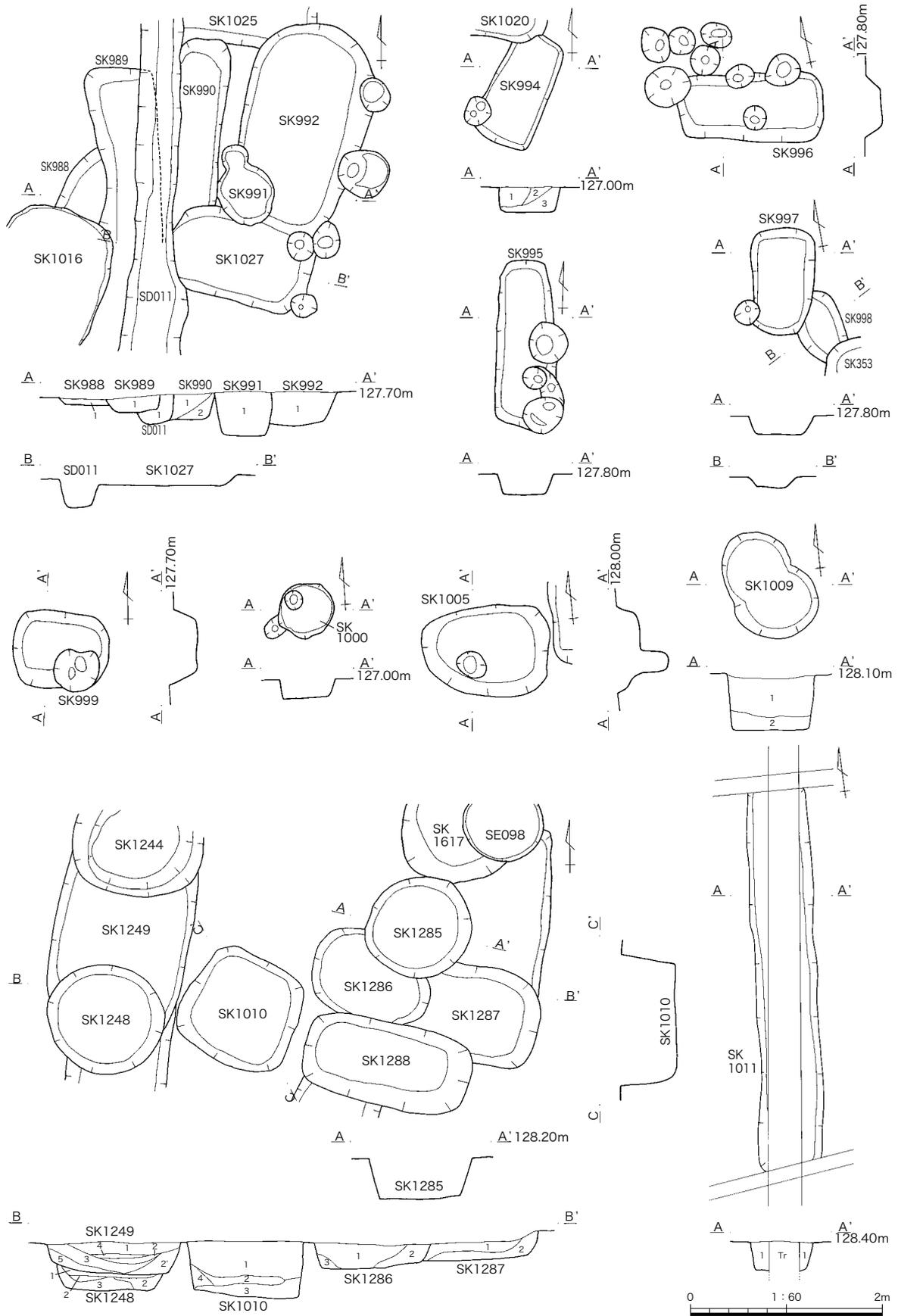
第174図 土坑 (39) SK852~856・858~865・875・882・1592



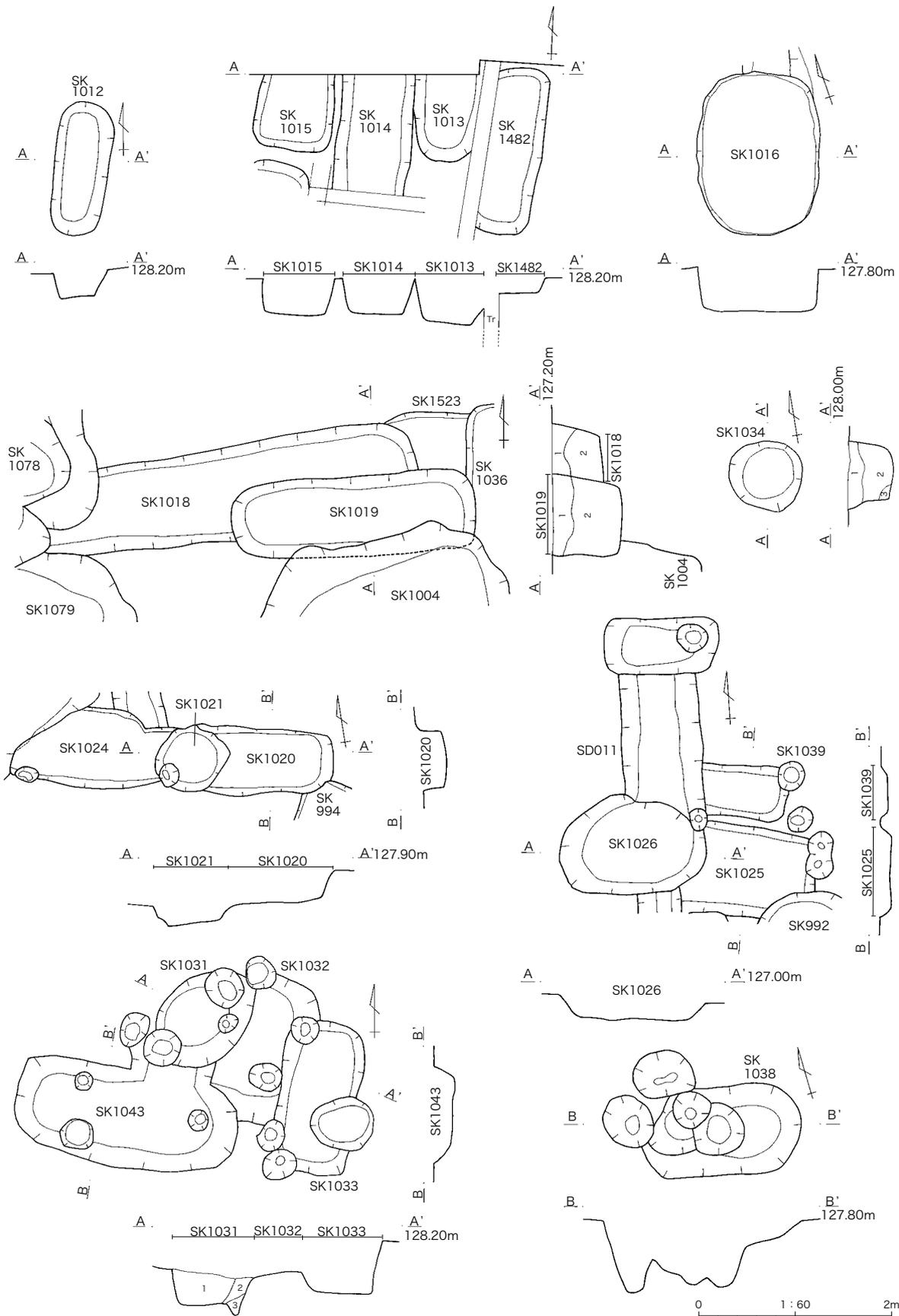
第175図 土坑 (40) SK876・878・879・883・884・888・889・891~893・896~899・901・902・904~909・1587・1611



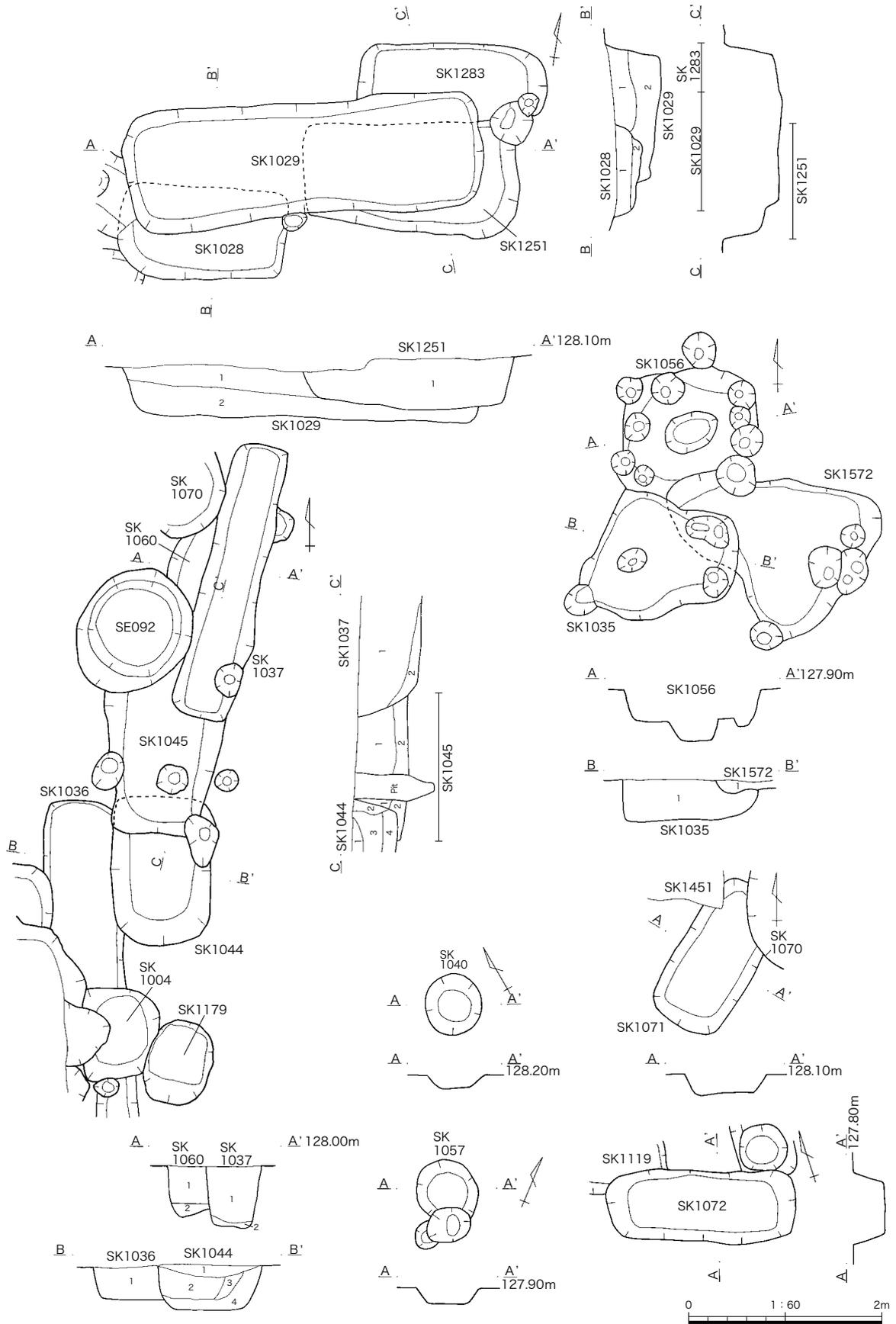
第177図 土坑 (42) SK950~952・956・957・966~971・974~978・984~987・1443



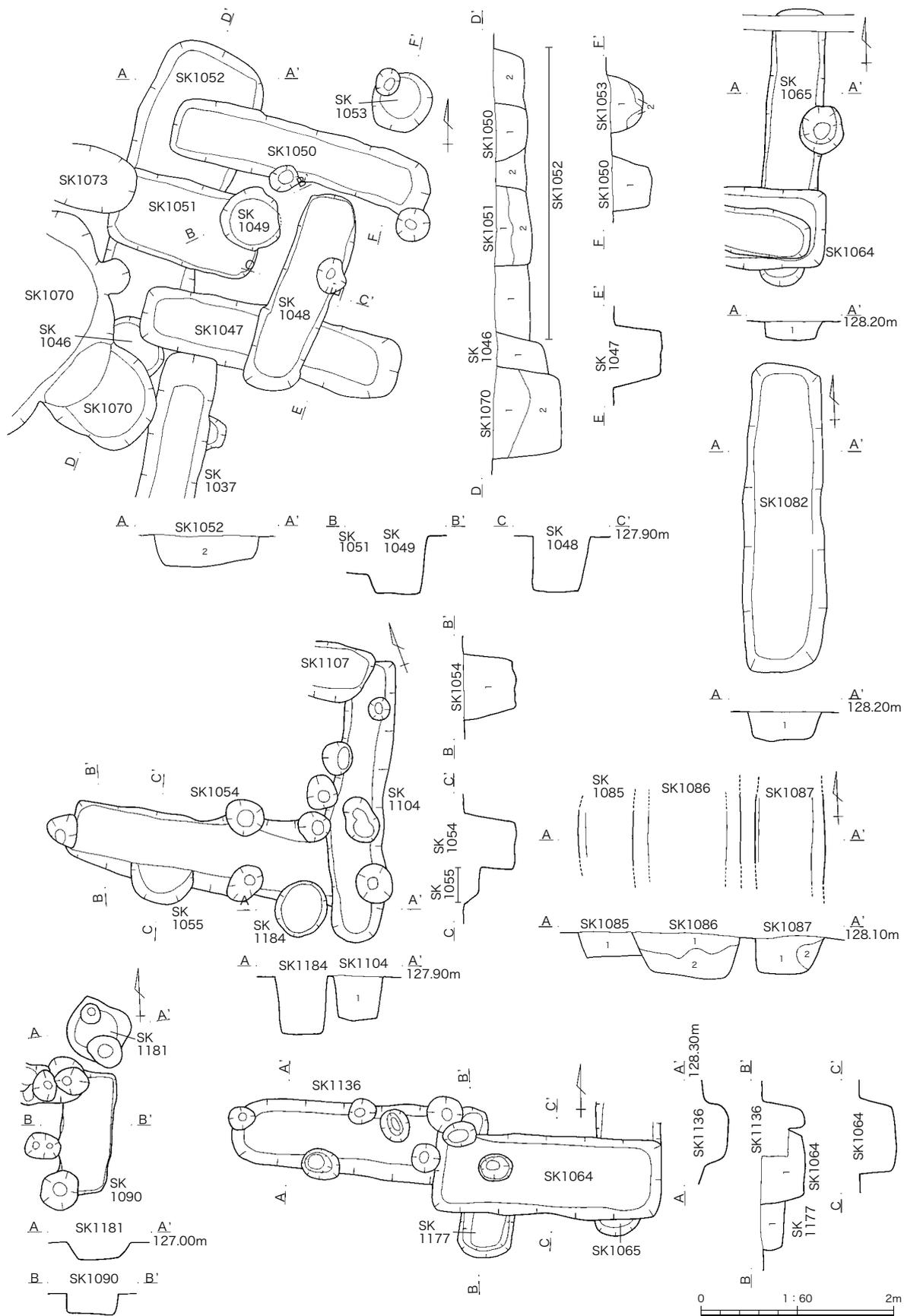
第178図 土坑(43) SK988~992・994~1000・1005・1009~1011・1027・1248・1249・1285~1287



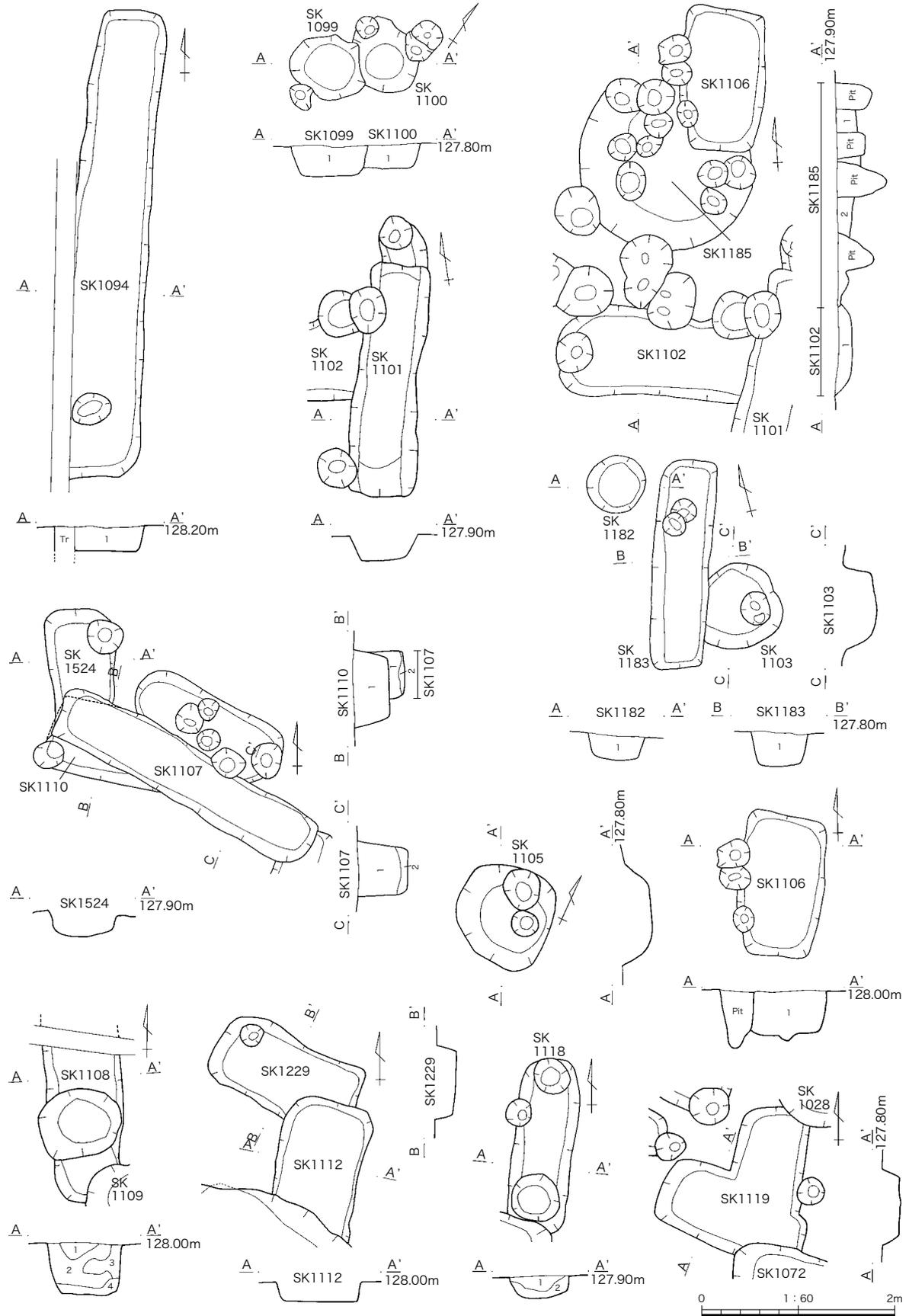
第179図 土坑(44) SK1012~1016・1018~1021・1025・1026・1031~1034・1038
1039・1043・1482



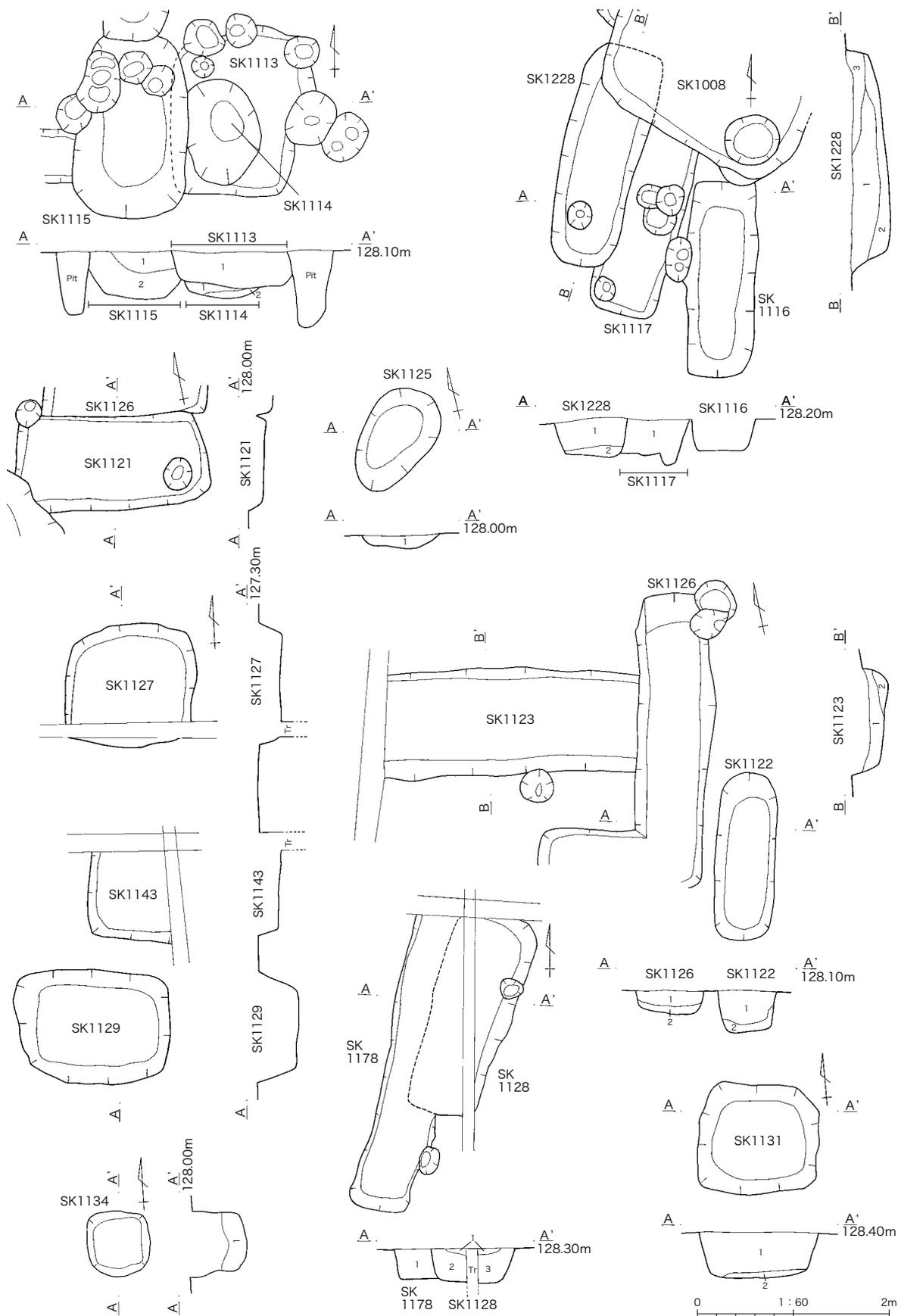
第180図 土坑 (45) SK1028・1029・1035~1037・1040・1044・1045・1056・1057
1060・1071・1072・1251・1283・1572



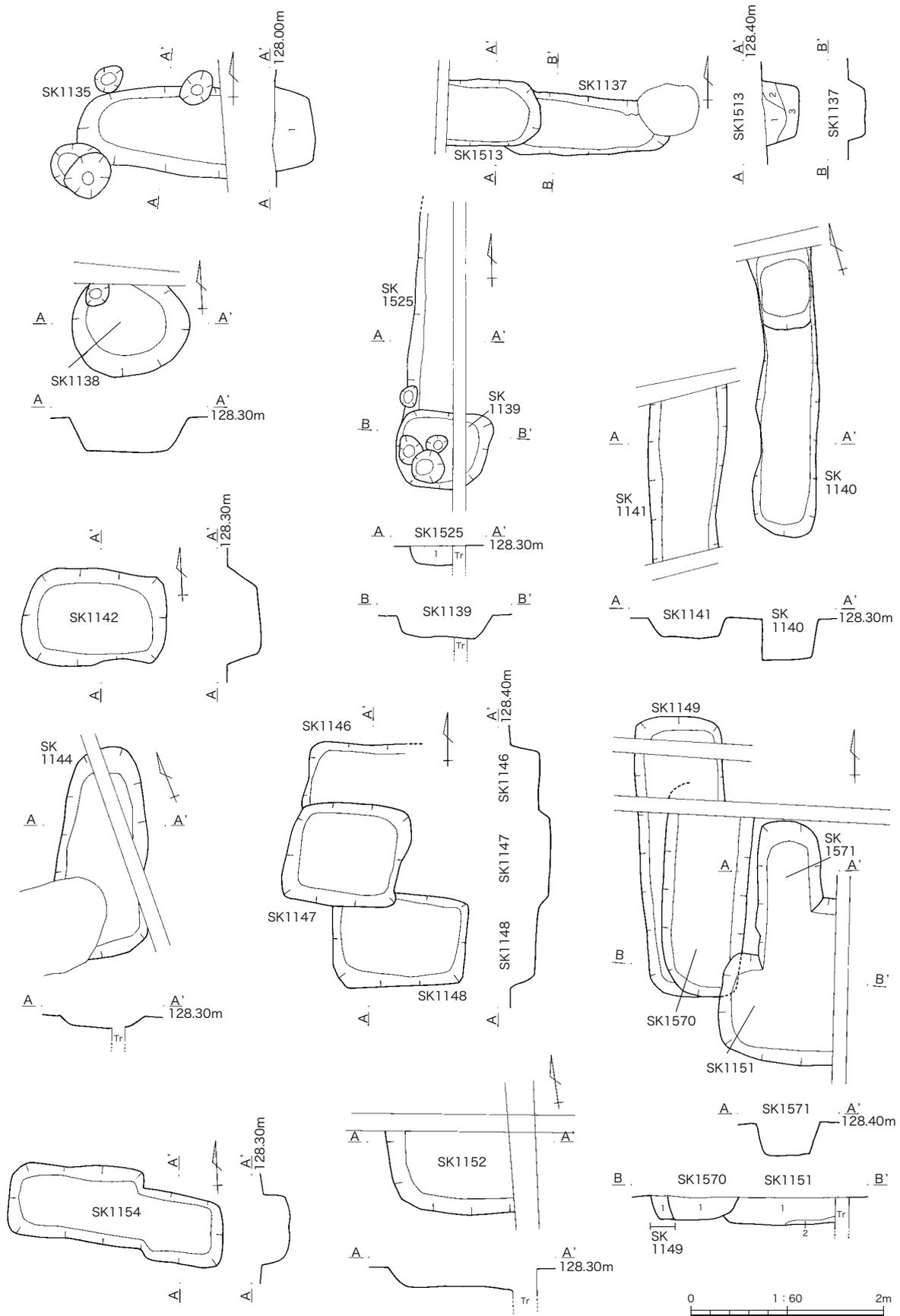
第181圖 土坑 (46) SK1046~1055・1064・1065・1070・1082・1085~1087・1090
1104・1136・1177・1181・1184



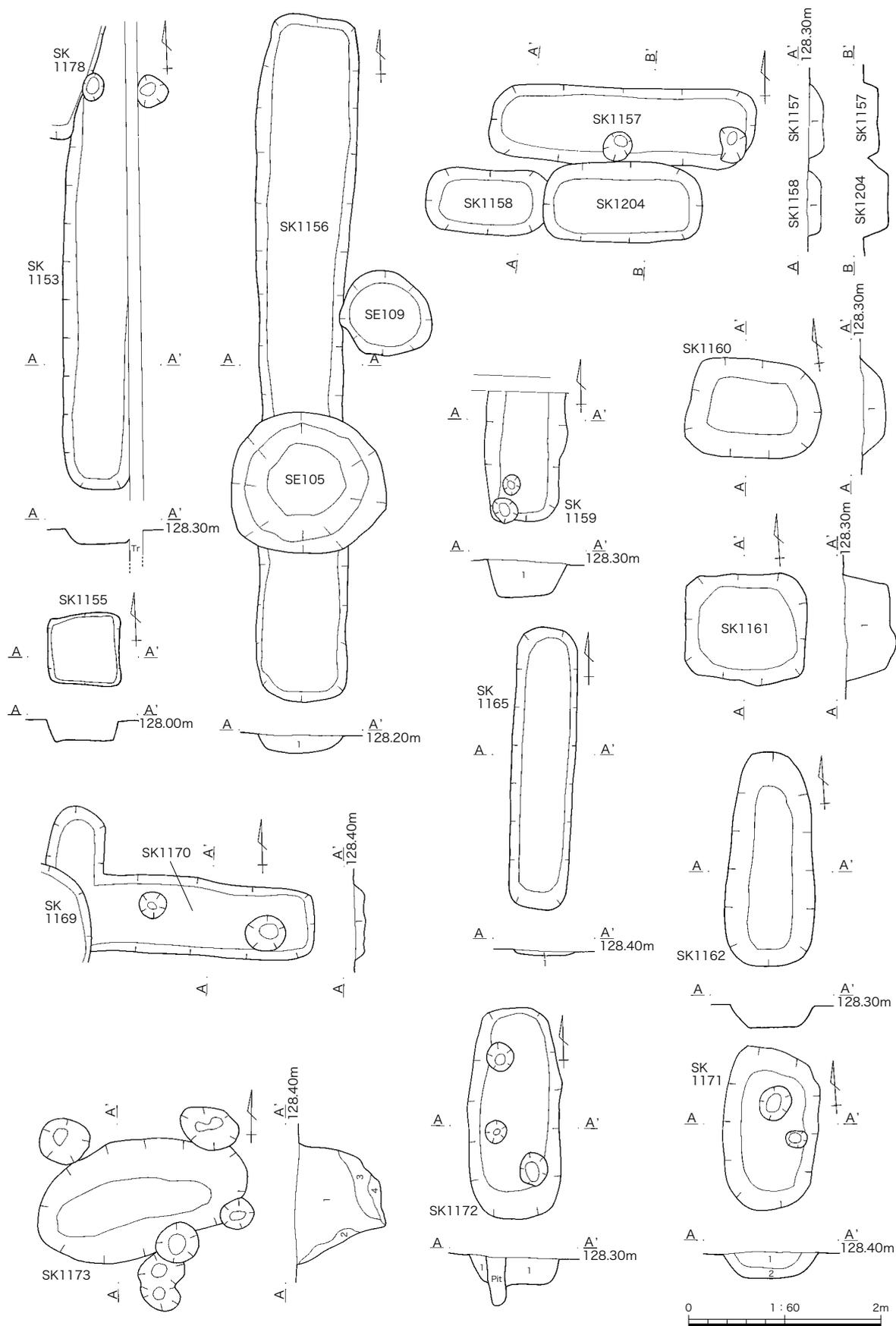
第182図 土坑(47) SK1094・1099~1103・1105~1108・1110・1112・1118・1119
1182・1183・1185・1229・1524



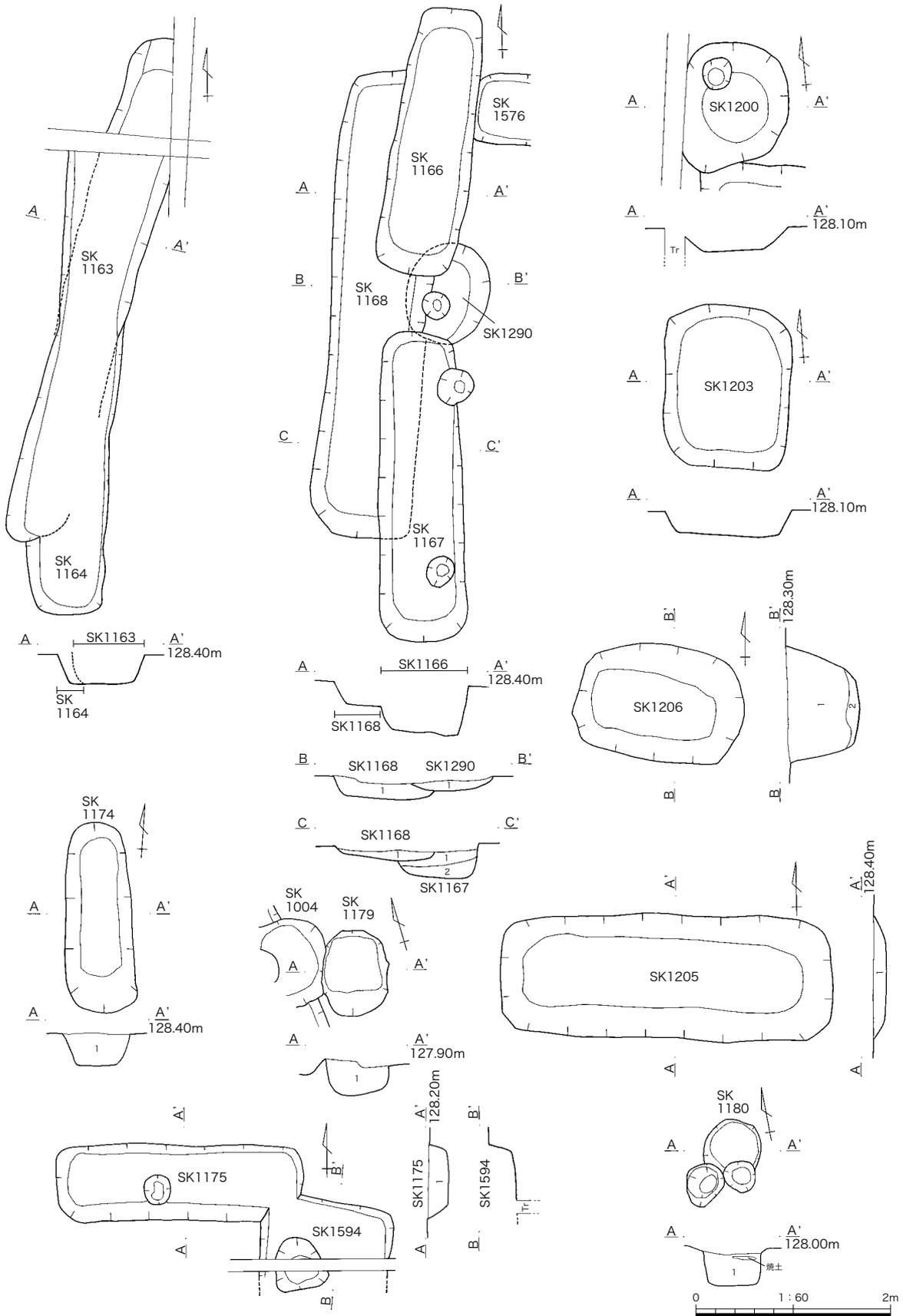
第183圖 土坑 (48) SK1113~1117・1121~1123・1125~1129・1131・1134・1143
1178・1228



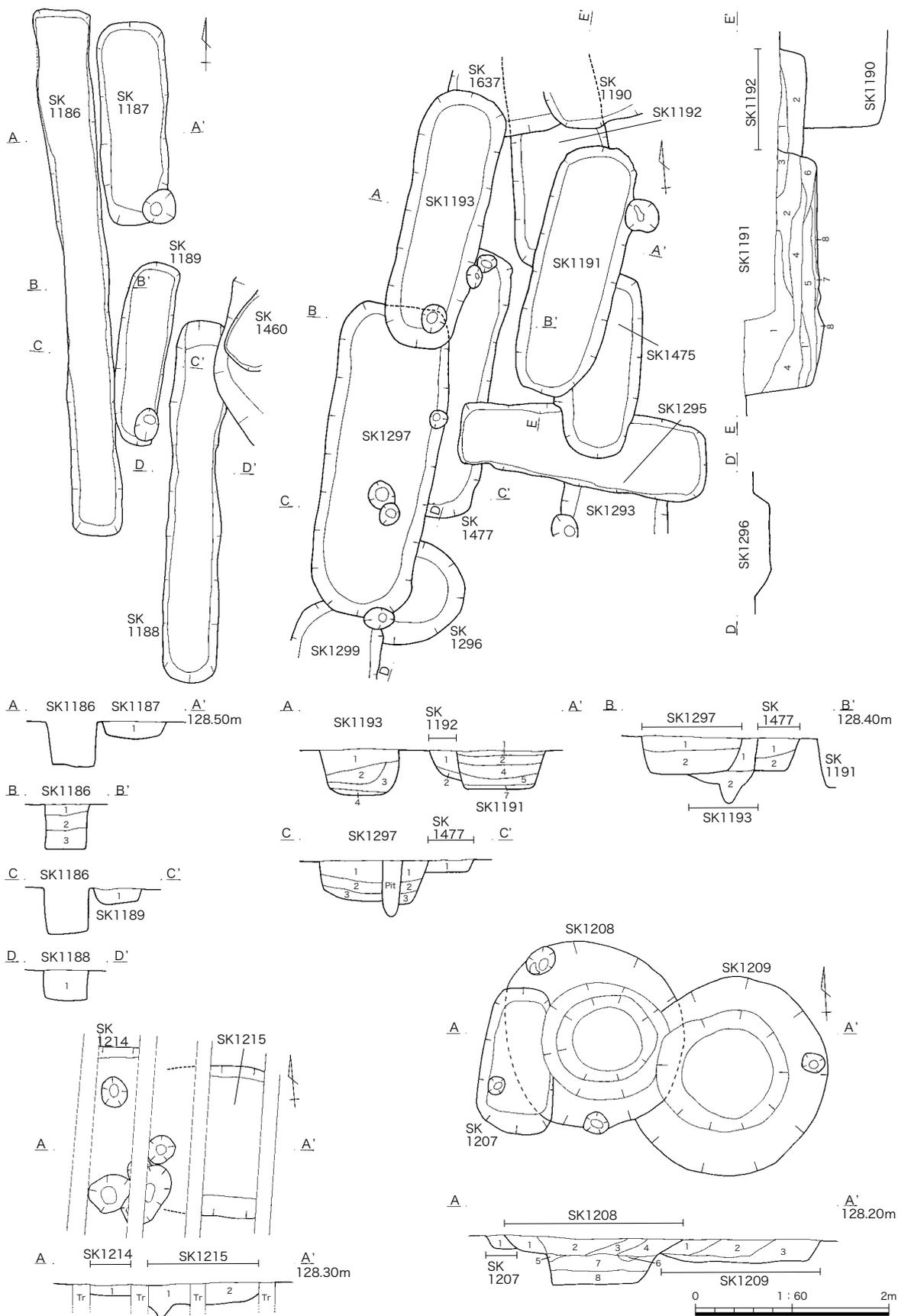
第184図 土坑 (49) SK1135・1137~1142・1144・1146~1149・1151・1152・1154
1513・1525・1570・1571



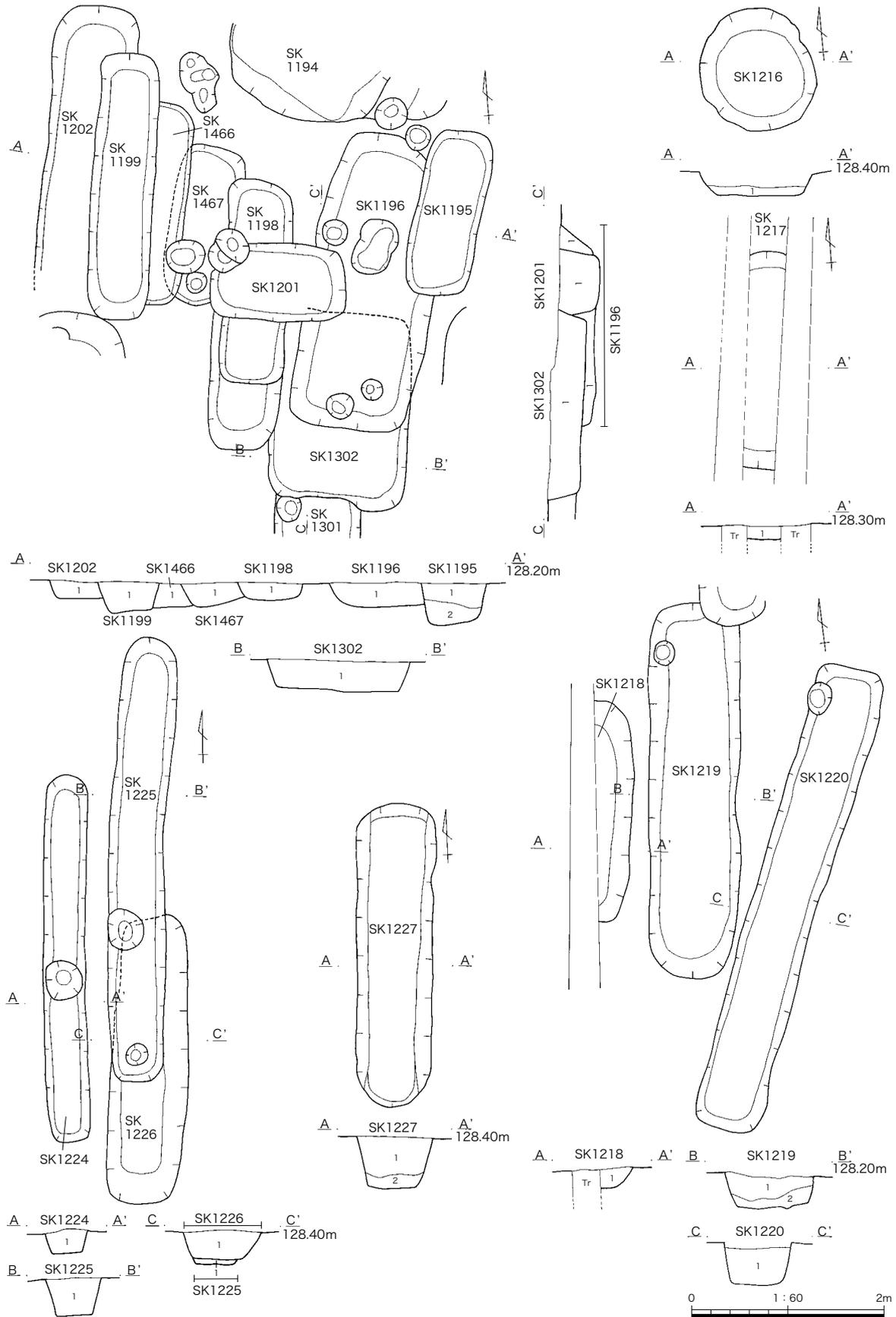
第185圖 土坑 (50) SK1153・1155~1162・1165・1170~1173・1204



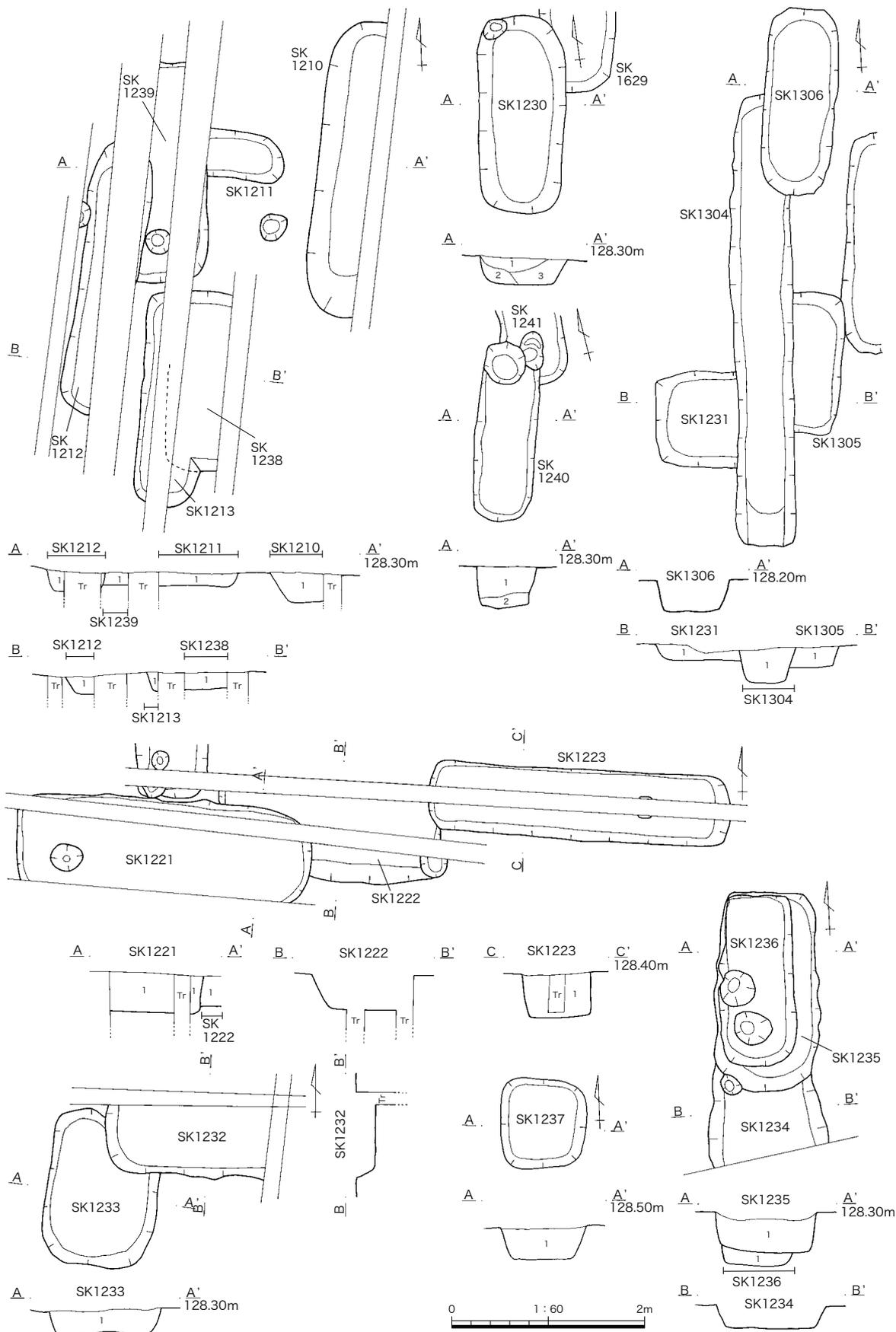
第186図 土坑(51) SK1163・1164・1166~1168・1174・1175・1179・1180・1200
1203・1205・1206・1290・1594



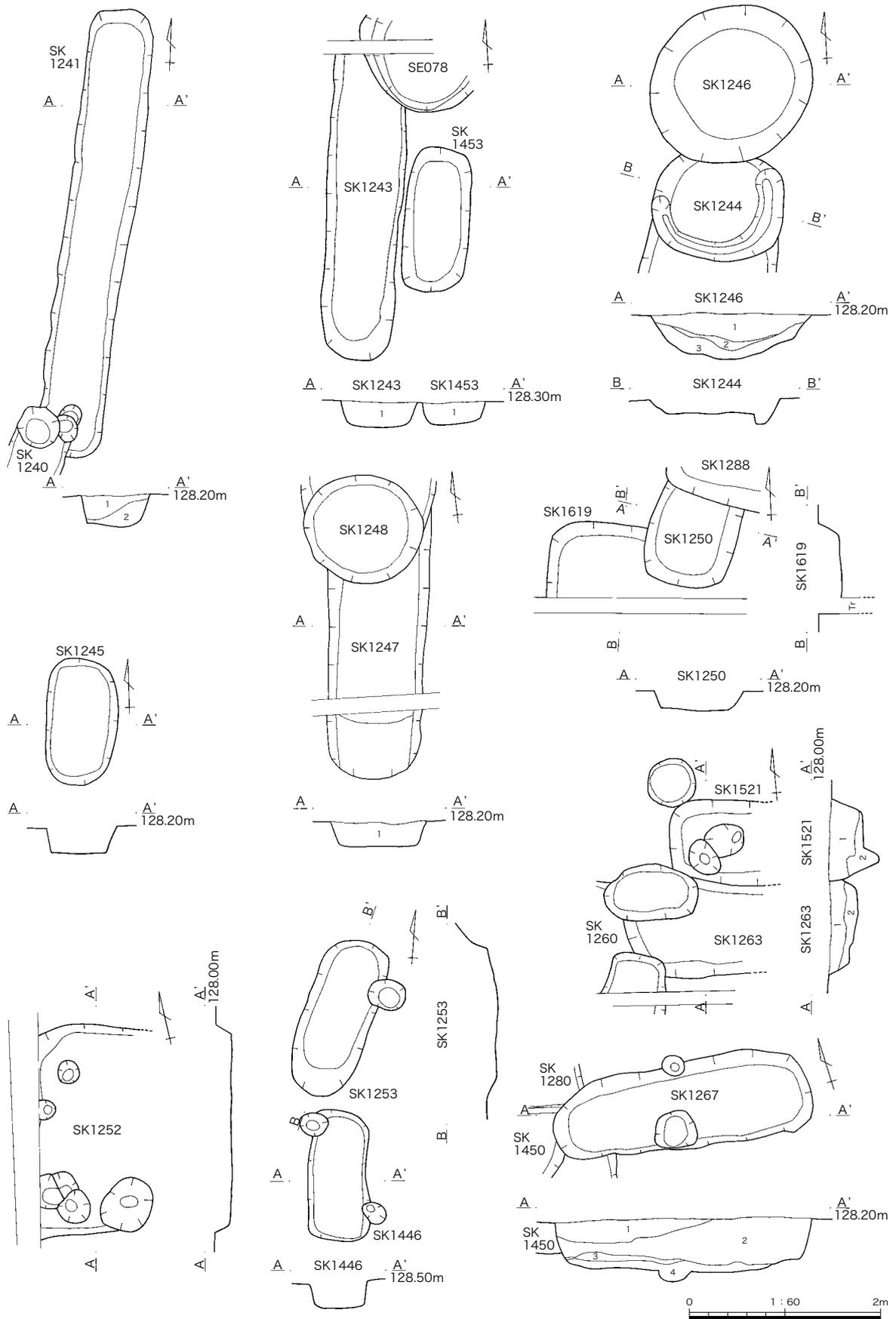
第187図 土坑 (52) SK1186~1193・1207~1209・1214・1215・1296・1297・1477



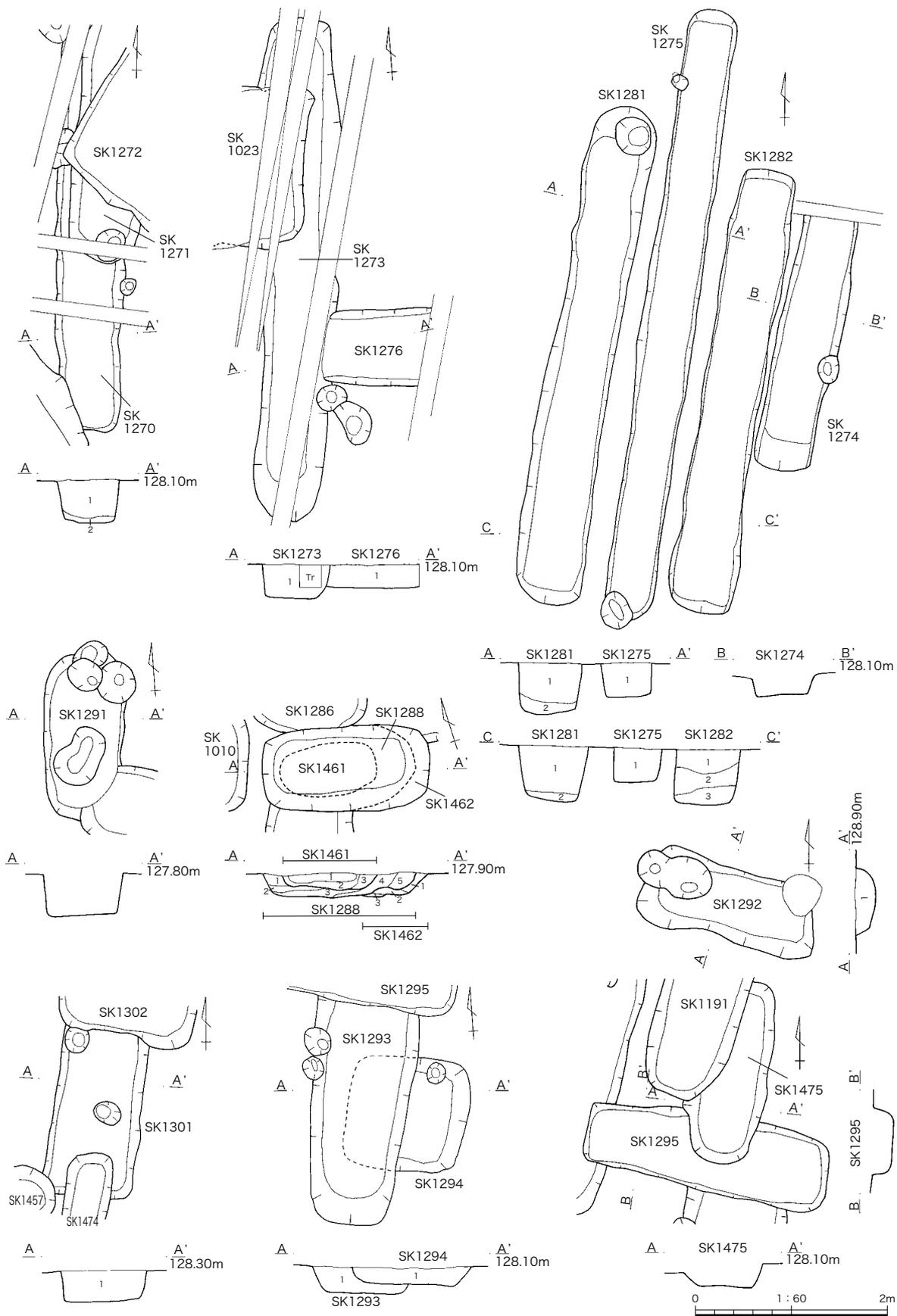
第188図 土坑(53) SK1195・1196・1198・1199・1201・1202・1216~1220・1224~1227・1302・1466・1467



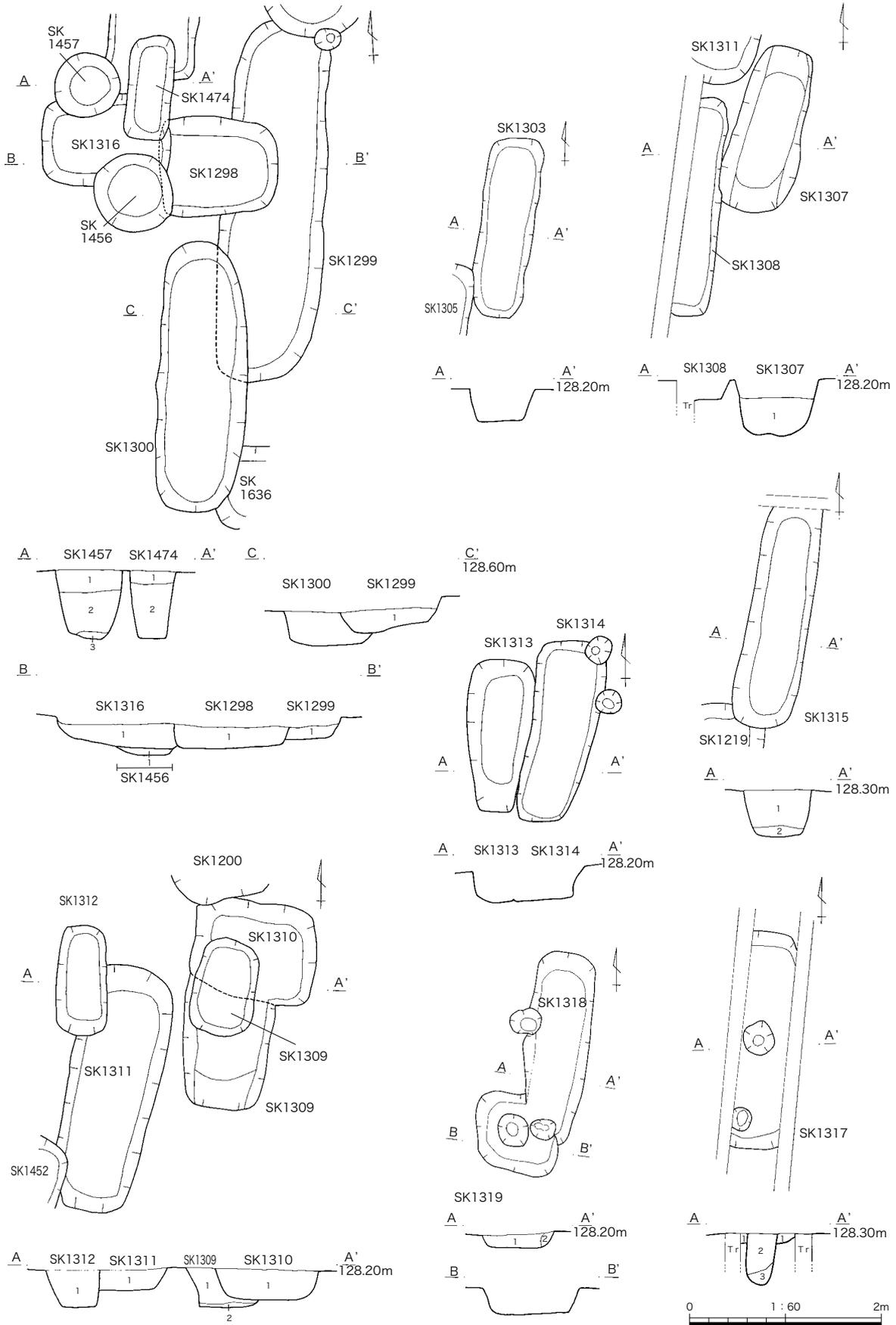
第189図 土坑 (54) SK1210~1213・1221~1223・1230~1240・1304~1306



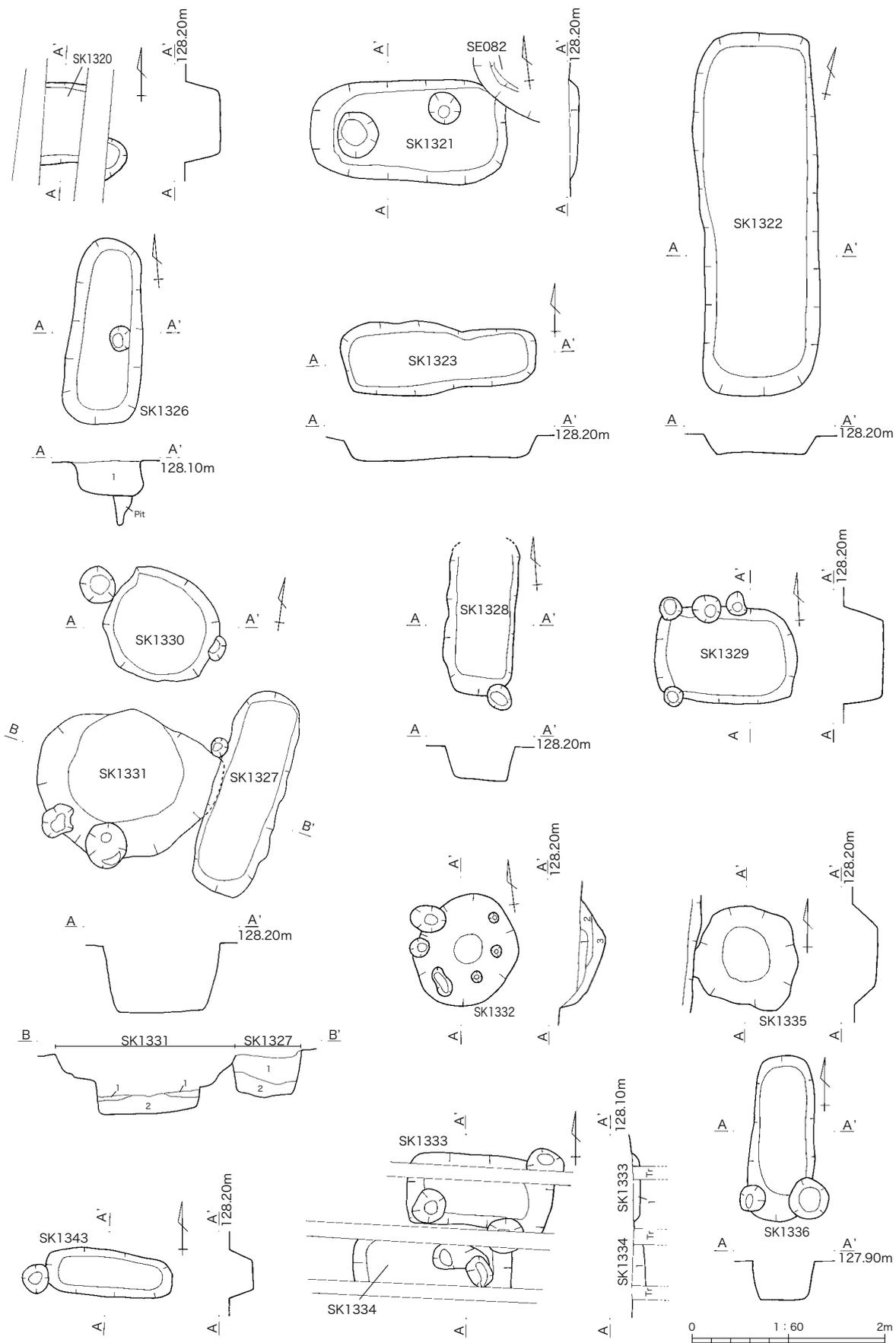
第190図 土坑 (55) SK1241・1243~1247・1250・1252・1253・1263・1267・1446・1453・1521・1619



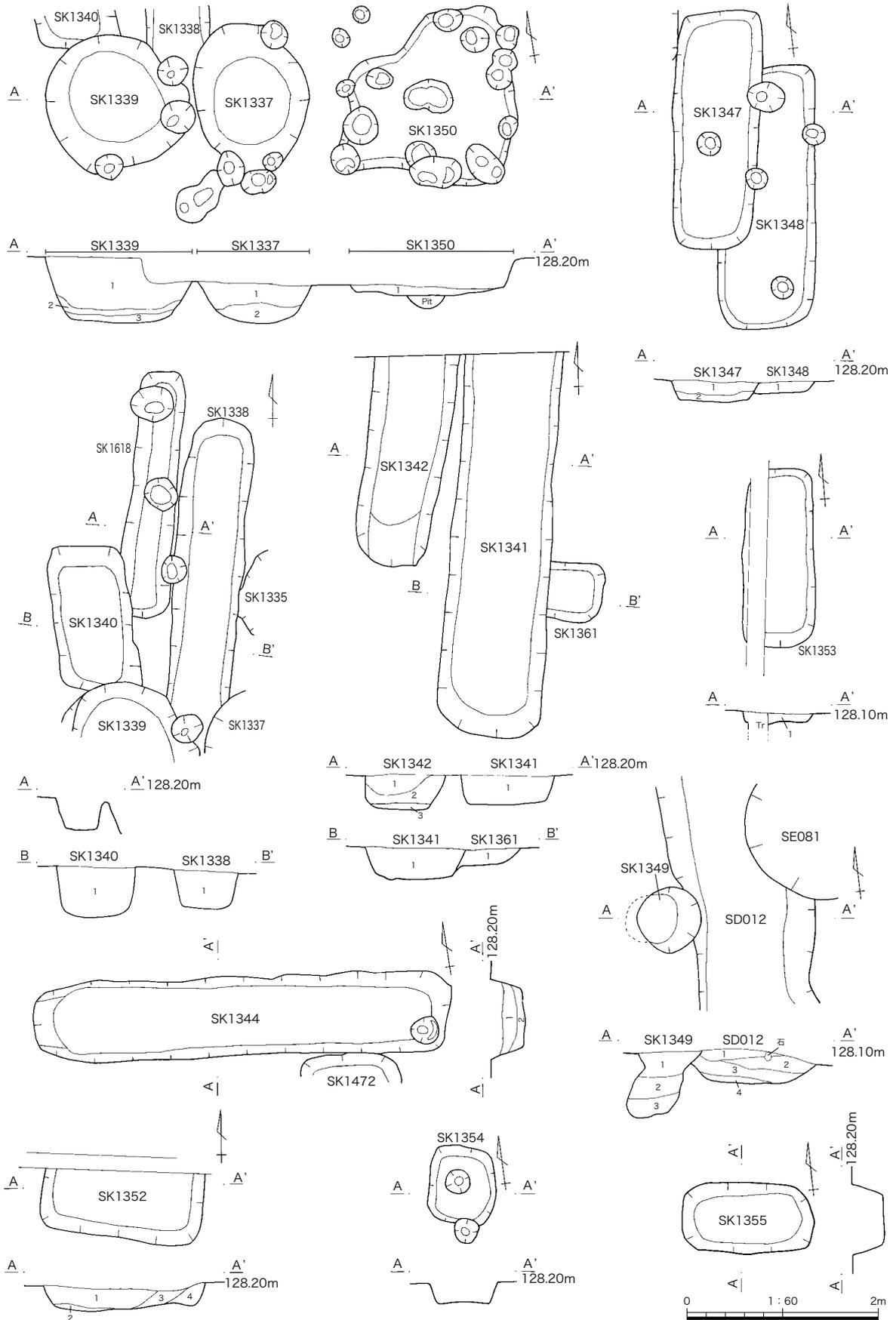
第191図 土坑 (56) SK1270・1273~1276・1281・1282・1288・1291~1295・1301
1461・1462・1475



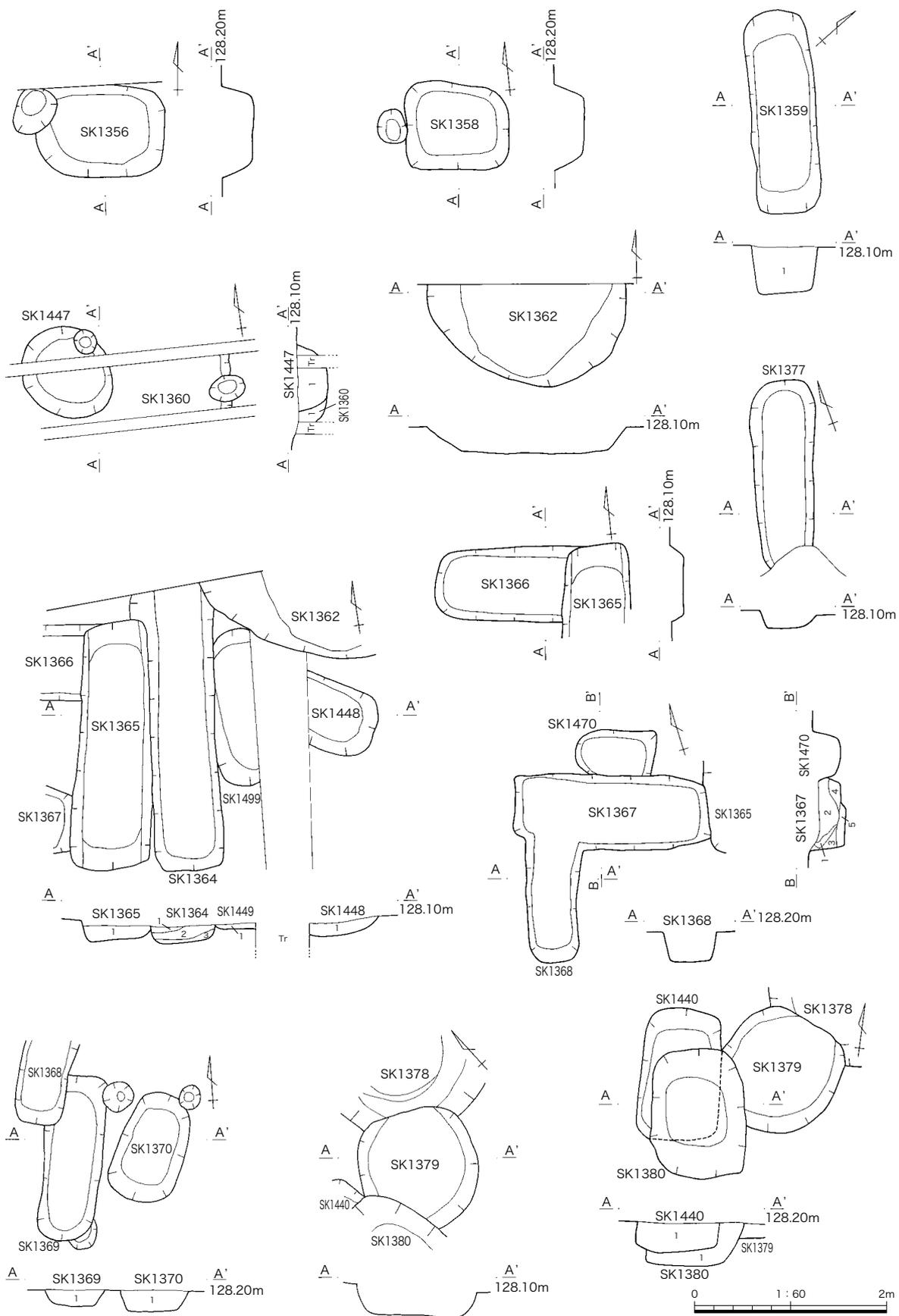
第192図 土坑 (57) SK1298~1300・1303・1307~1319・1456・1457・1474



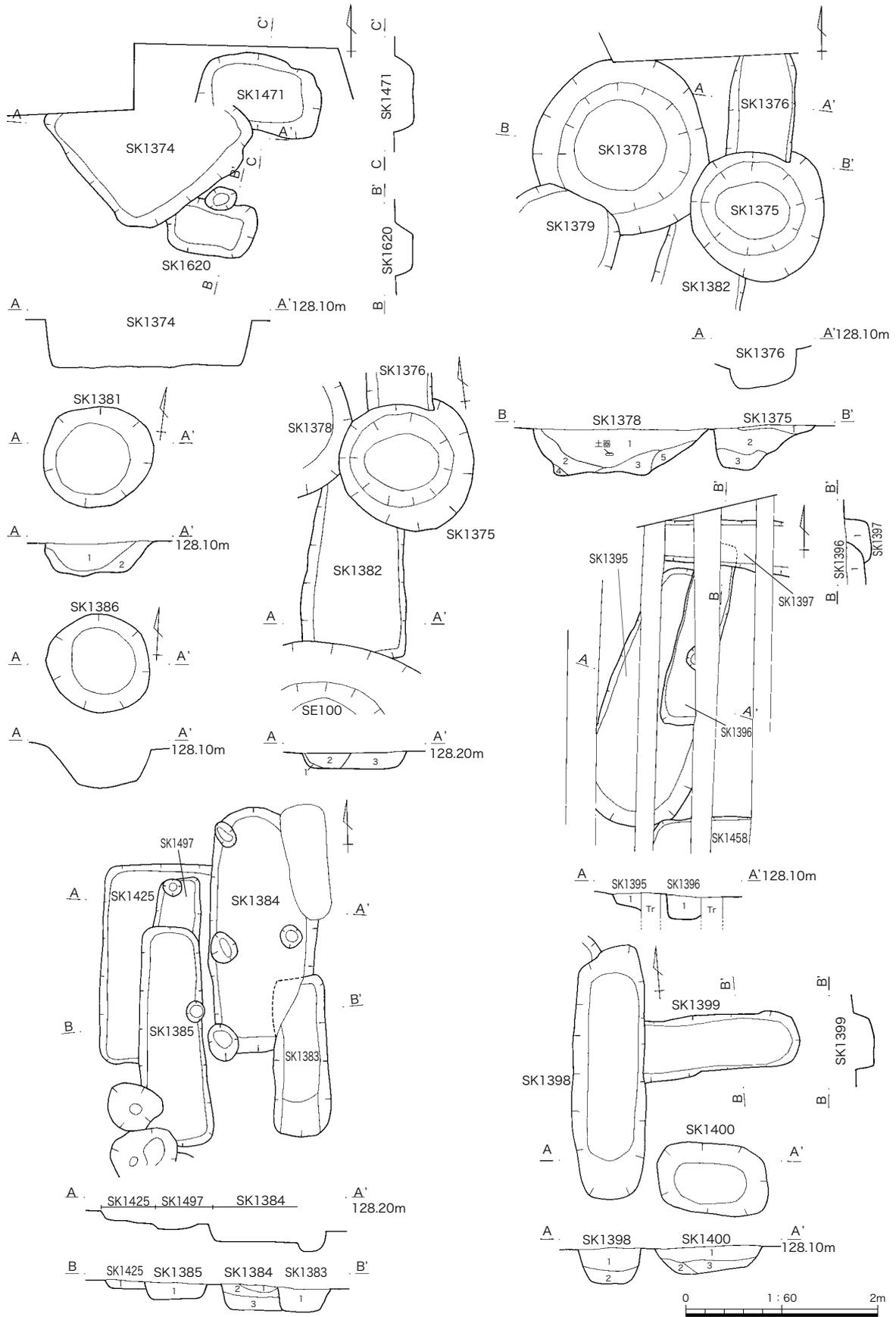
第193圖 土坑 (58) SK1320~1323・1326~1336・1343



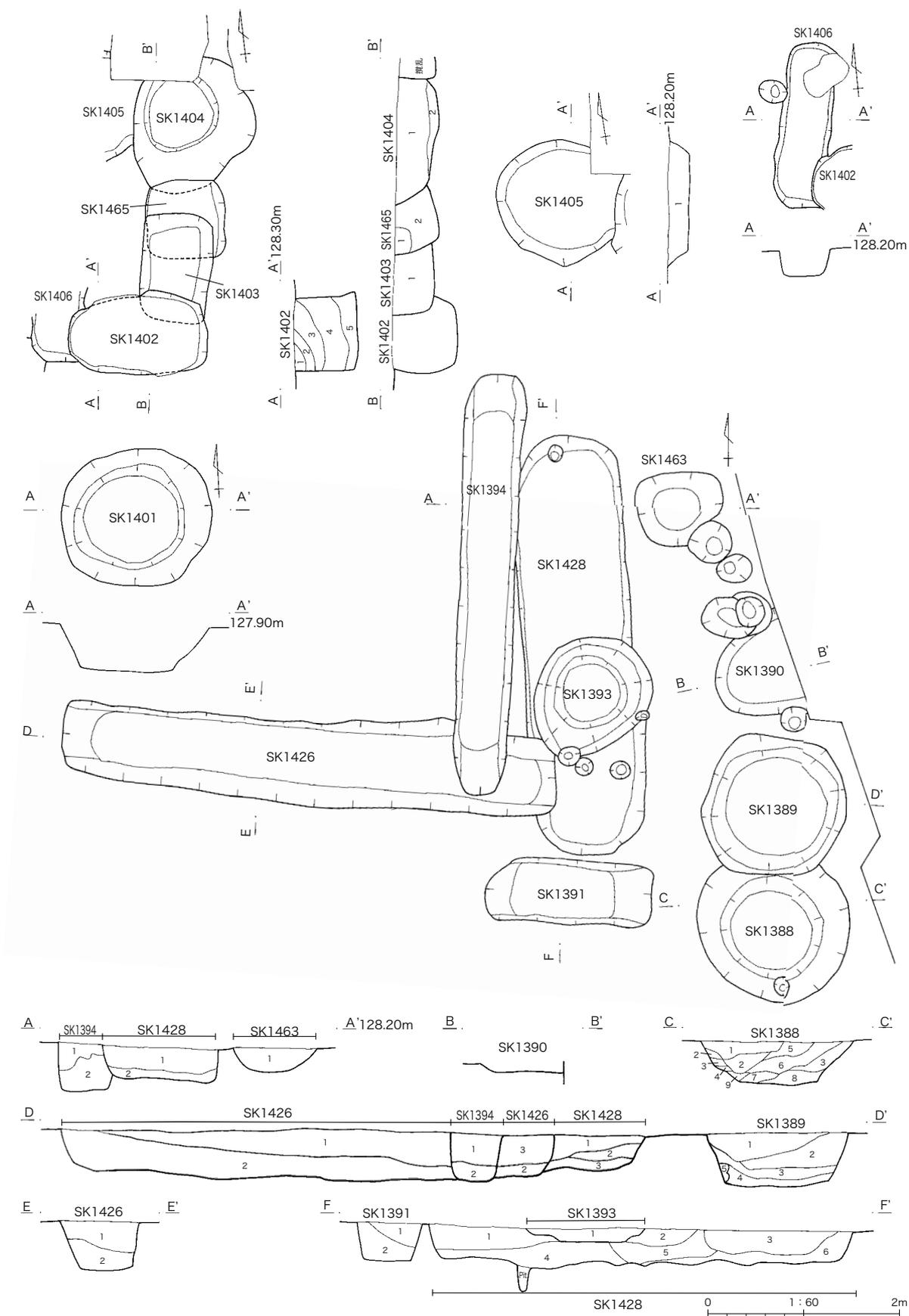
第194図 土坑(59) SK1337~1342・1344・1347~1350・1352~1355・1361・1618



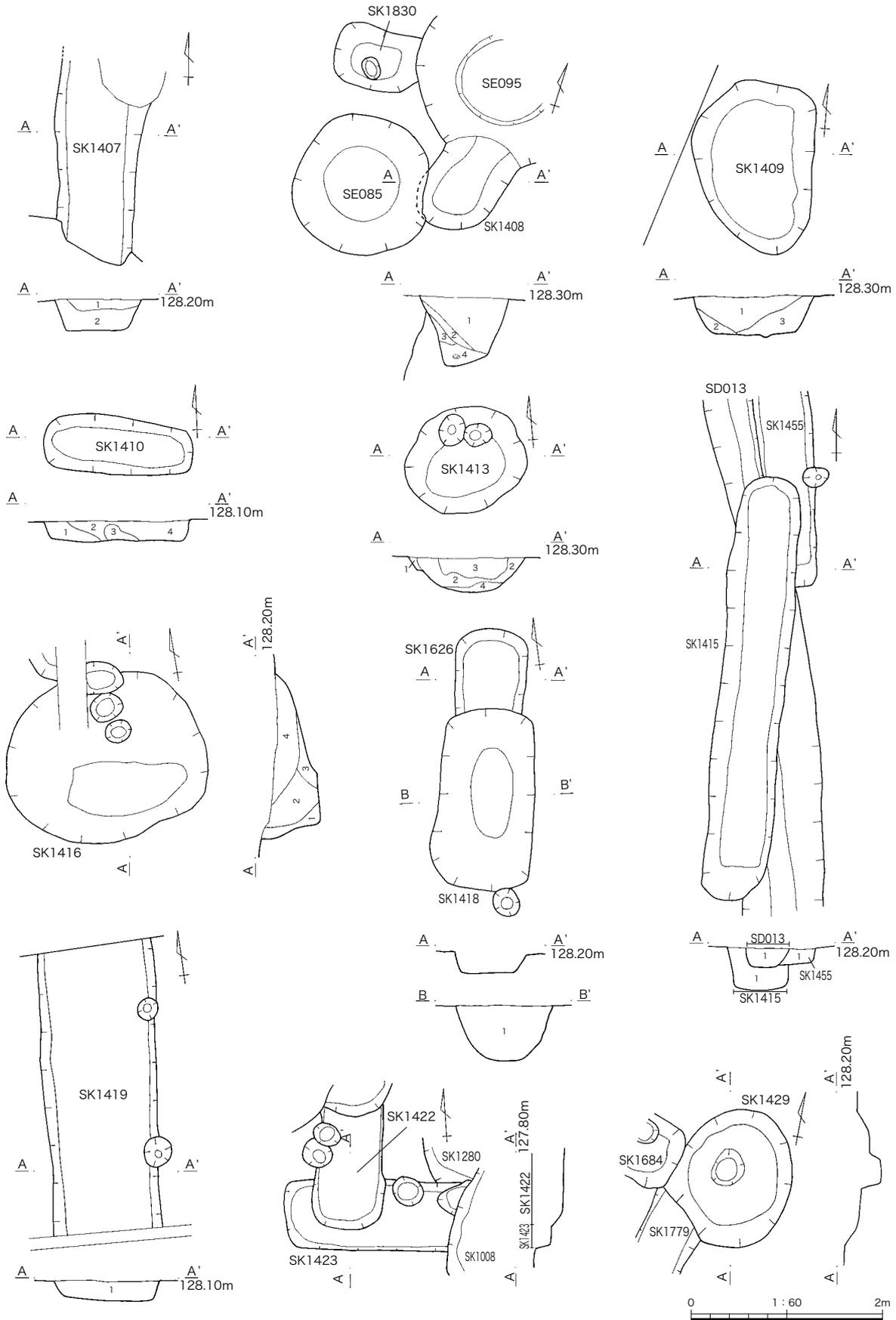
第195圖 土坑 (60) SK1356・1358~1360・1362・1364~1370・1377・1379・1380
1440・1447~1449・1470



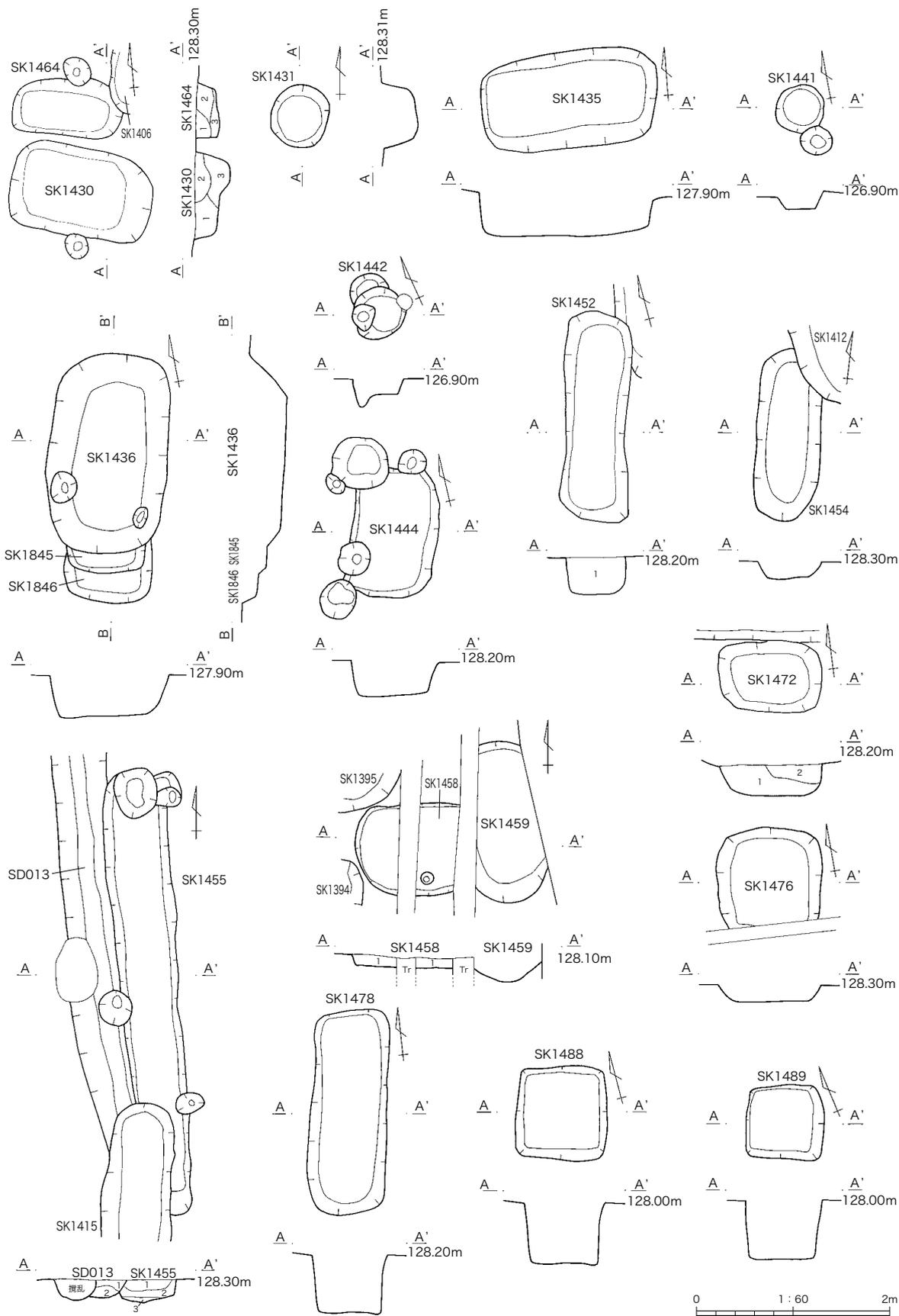
第196図 土坑(61) SK1374~1376・1378・1381~1386・1395~1400・1425・1471
1497・1620



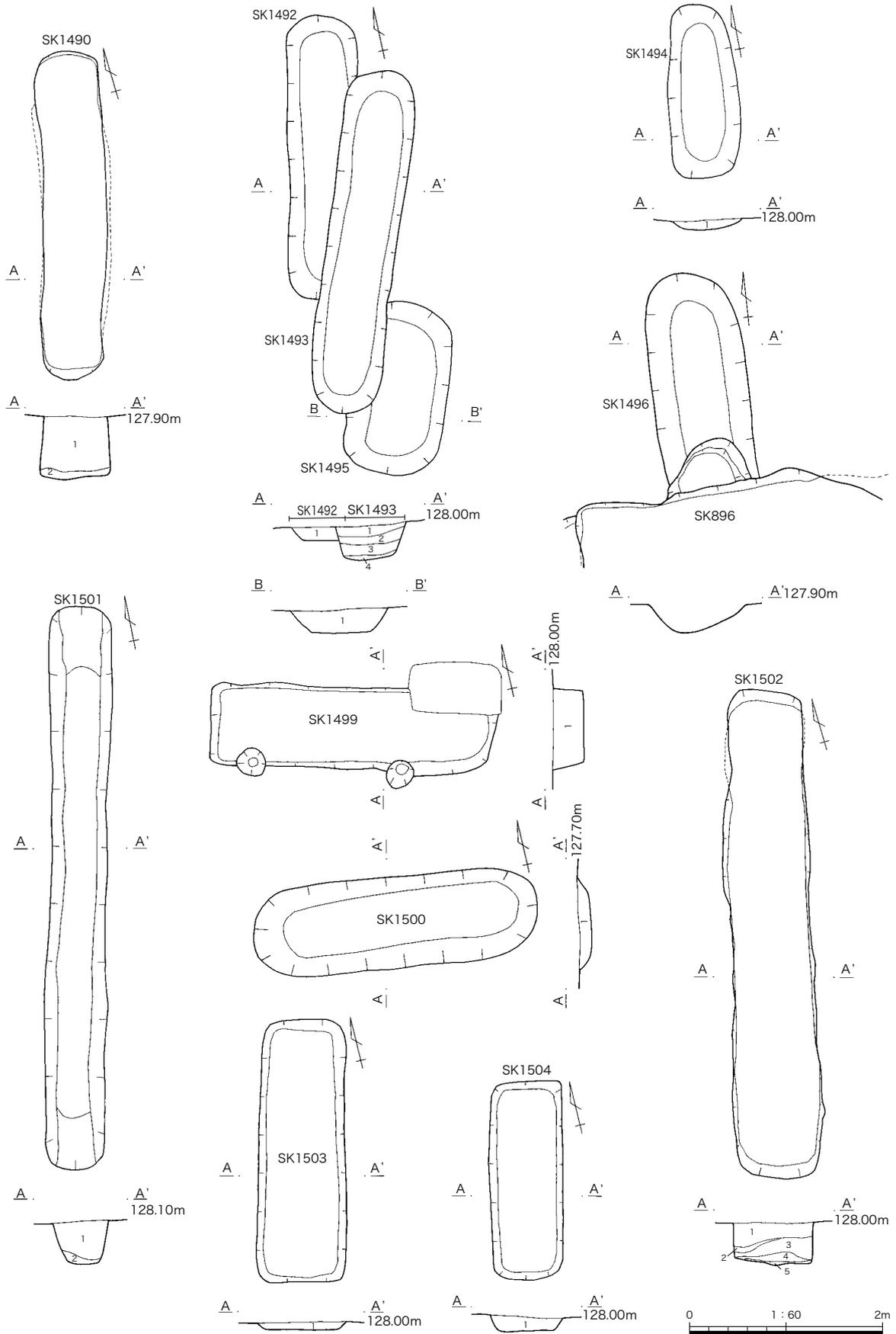
第197図 土坑(62) SK1388~1391・1393・1394・1401~1406・1426・1428
1463・1465



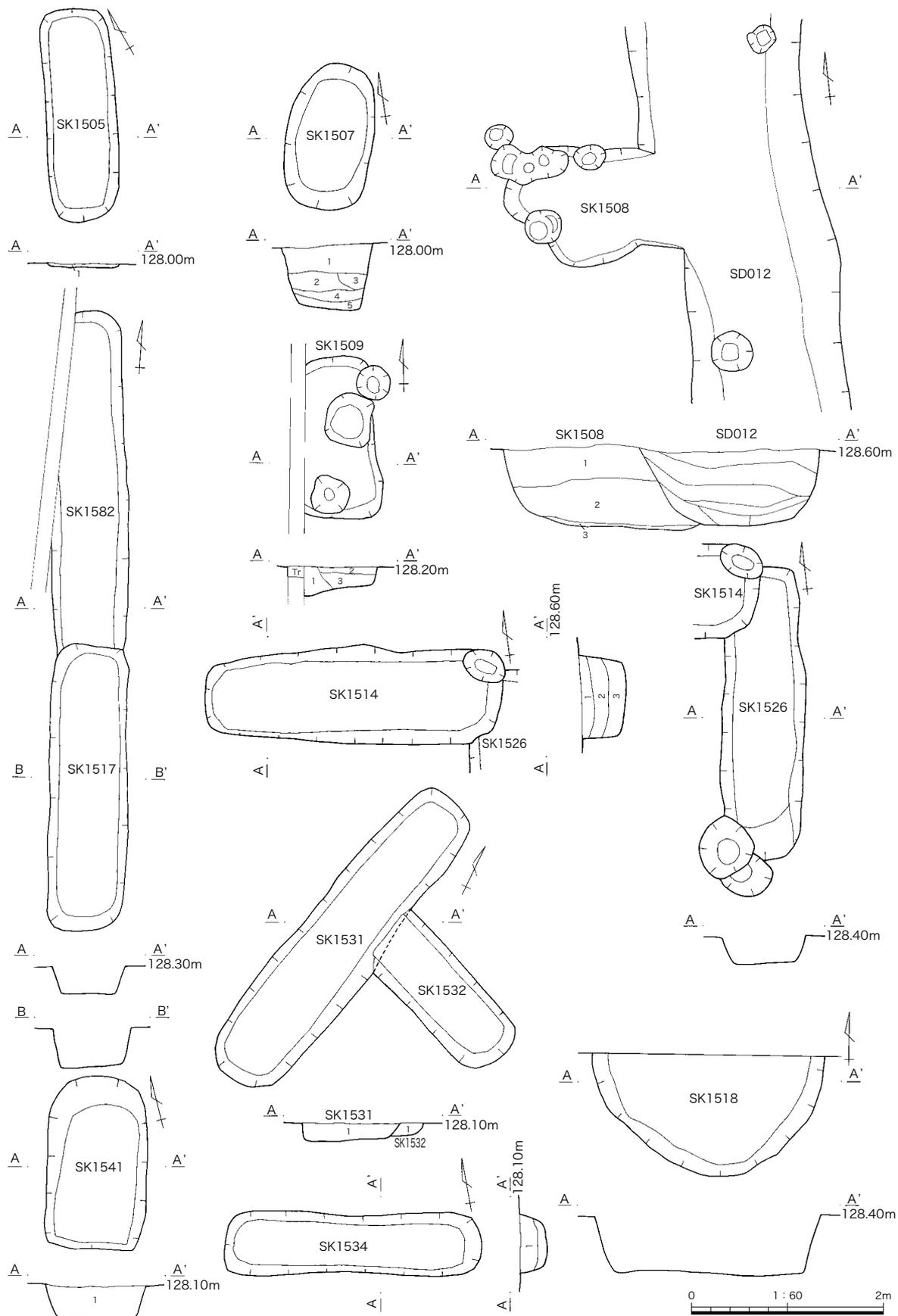
第198図 土坑(63) SK1407~1410・1413・1415・1416・1418・1419・1422・1423・1429・1455・1626



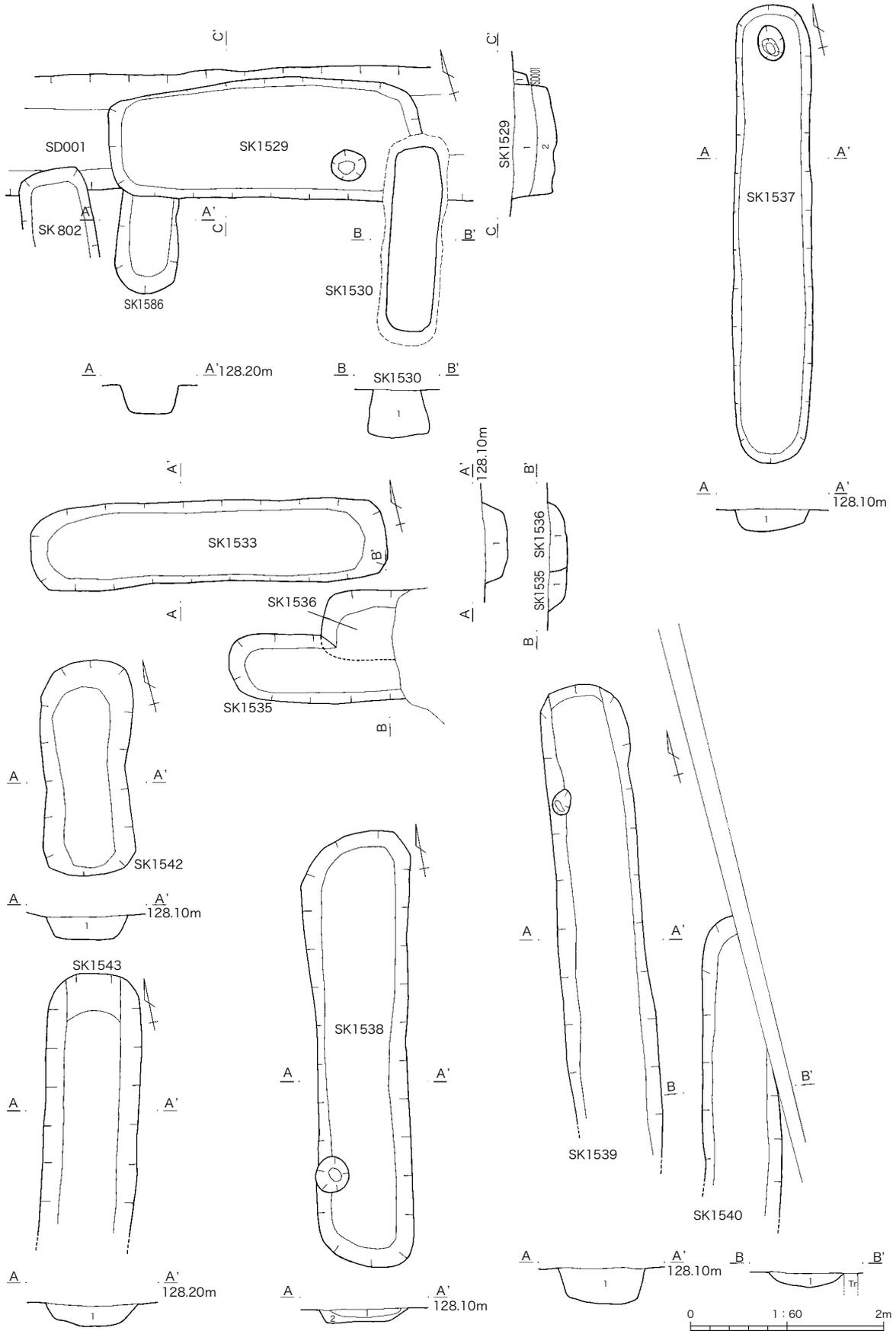
第199図 土坑 (64) SK1430・1431・1435・1436・1441・1442・1444・1452・1454
1455・1458・1459・1464・1472・1476・1478・1488・1489・1845・1846



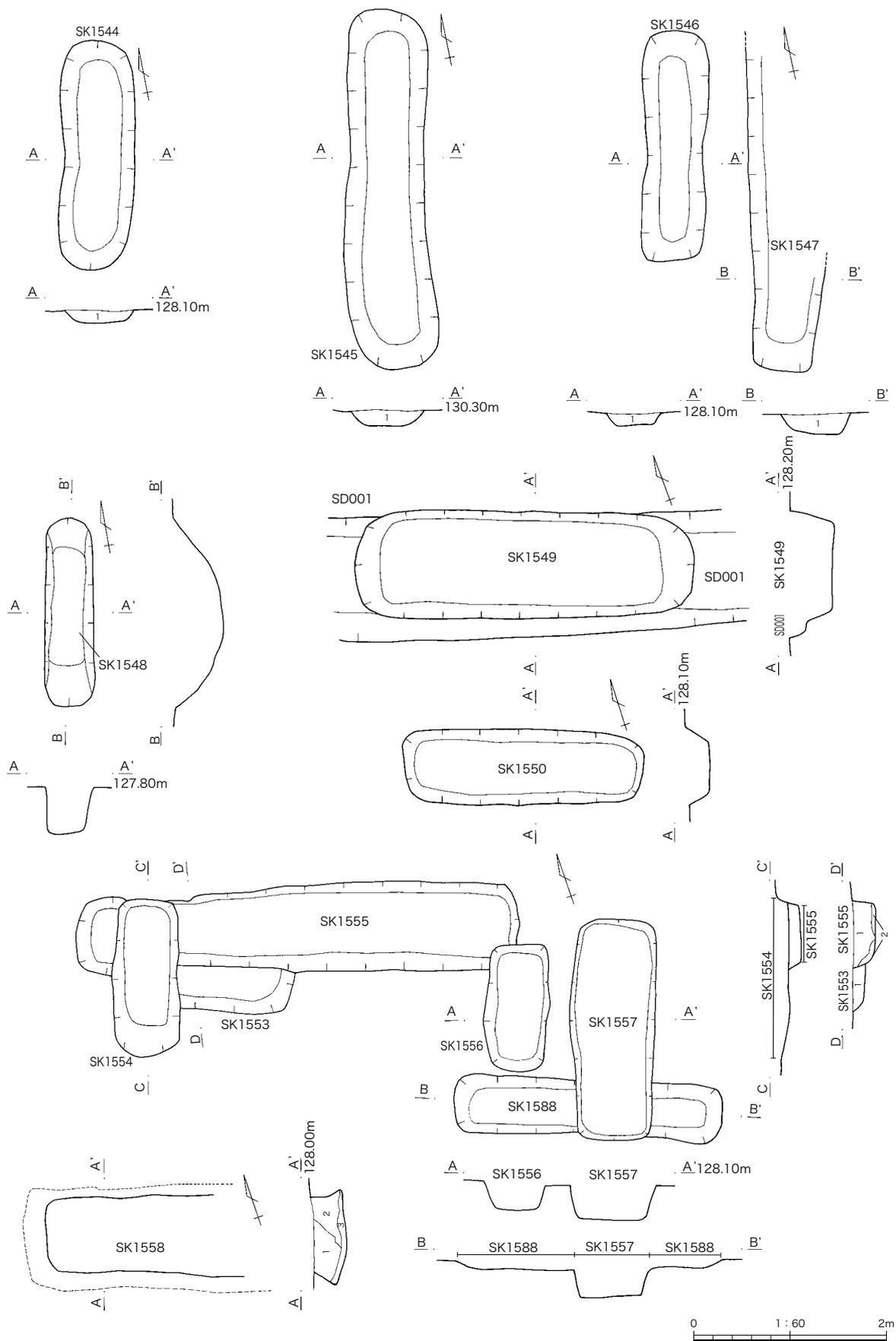
第200図 土坑 (65) SK1490・1492~1496・1499~1504



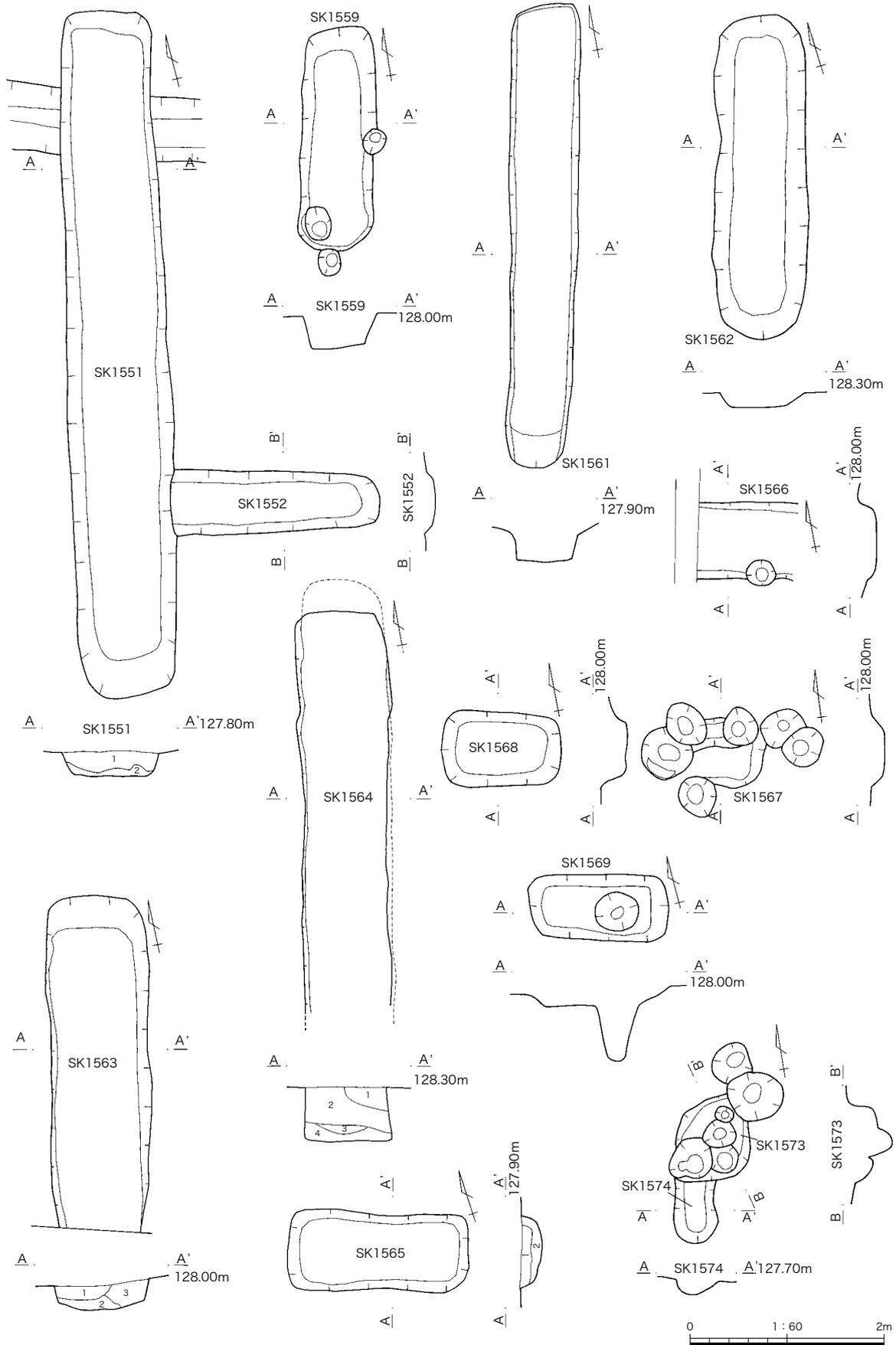
第201図 土坑 (66) SK1505・1507~1509・1514・1517・1518・1526・1531・1532
1534・1541・1582



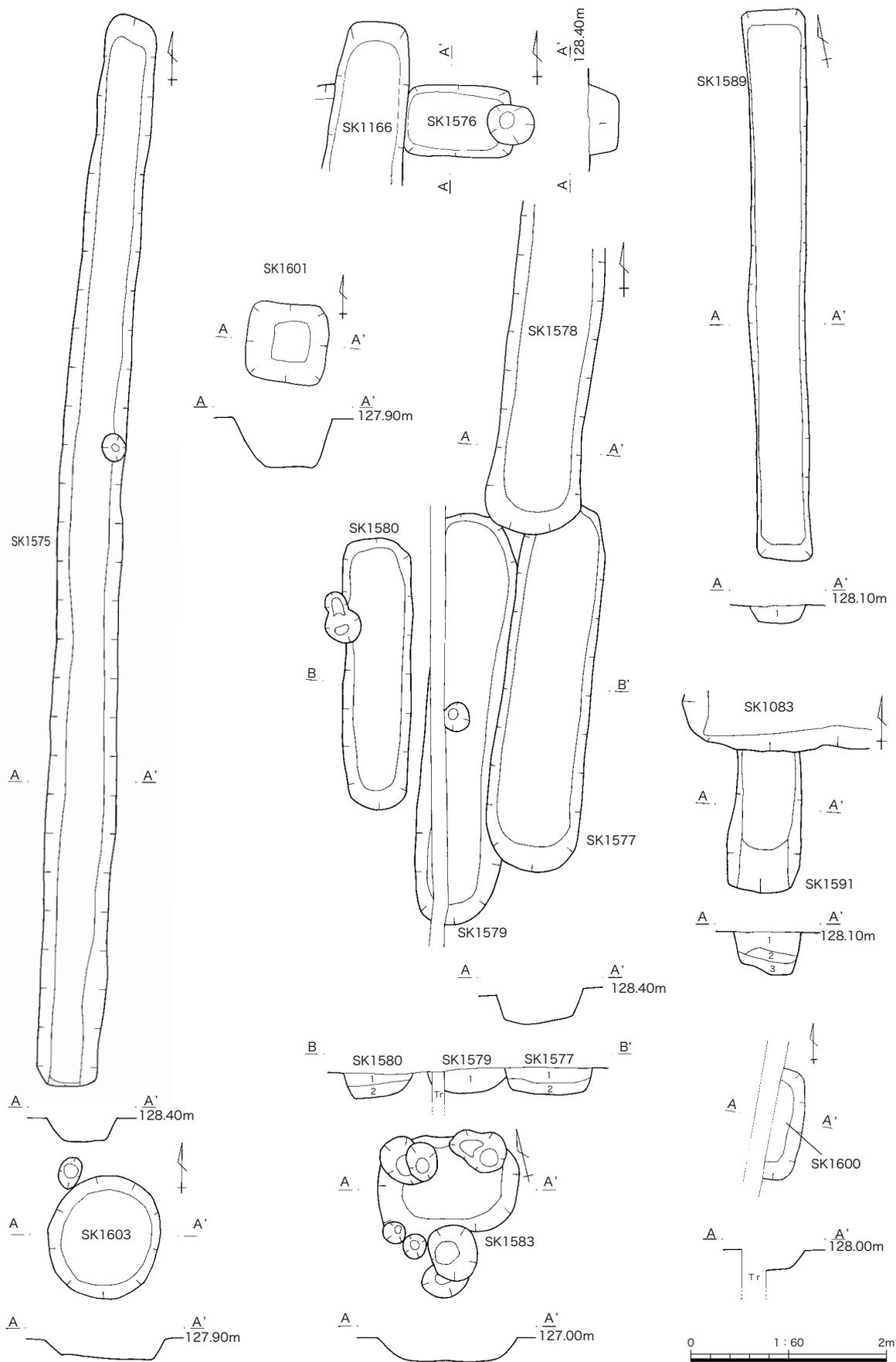
第202図 土坑 (67) SK1529・1530・1533・1535~1540・1542・1543・1586



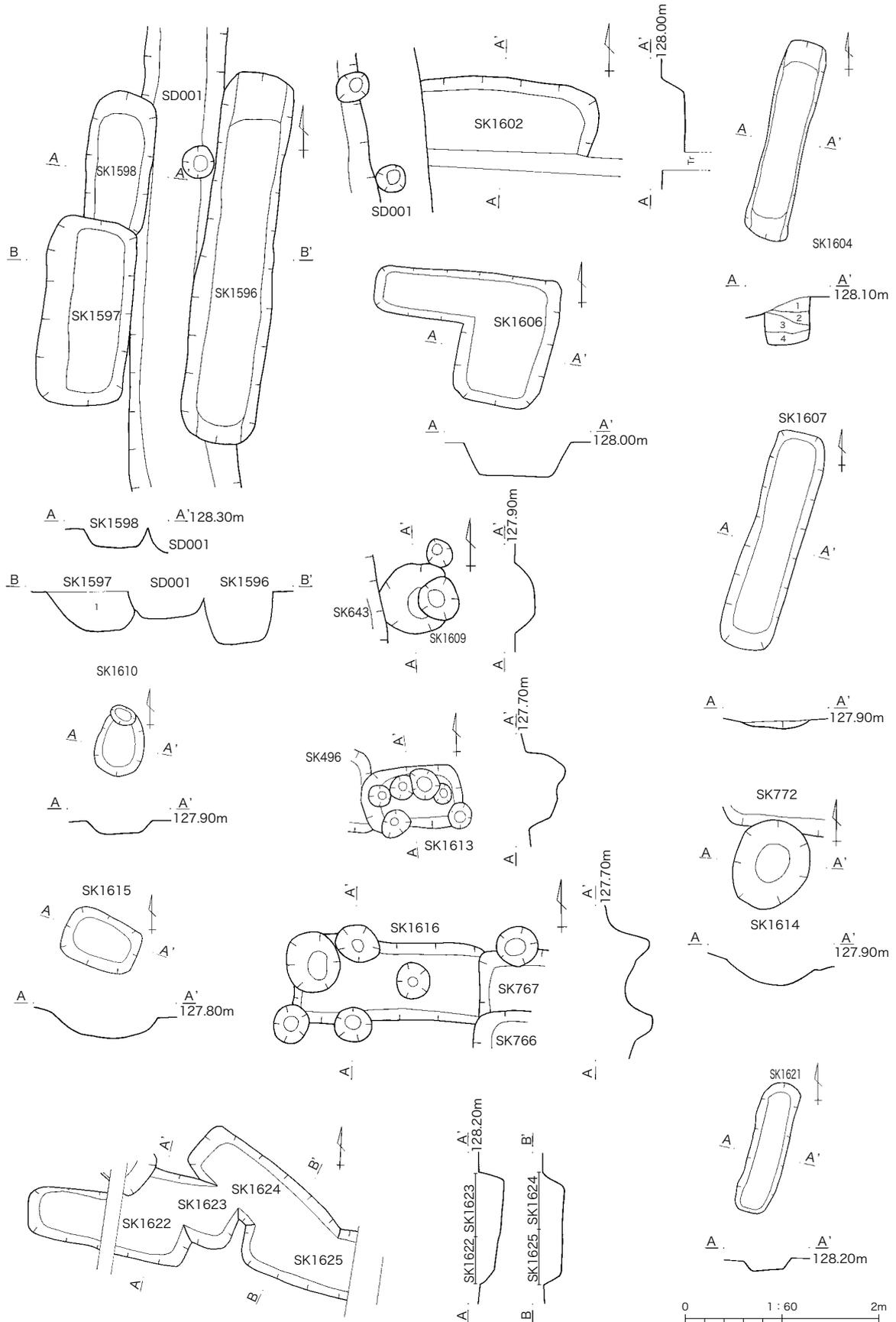
第203圖 土坑 (68) SK1544~1550・1553~1558・1588



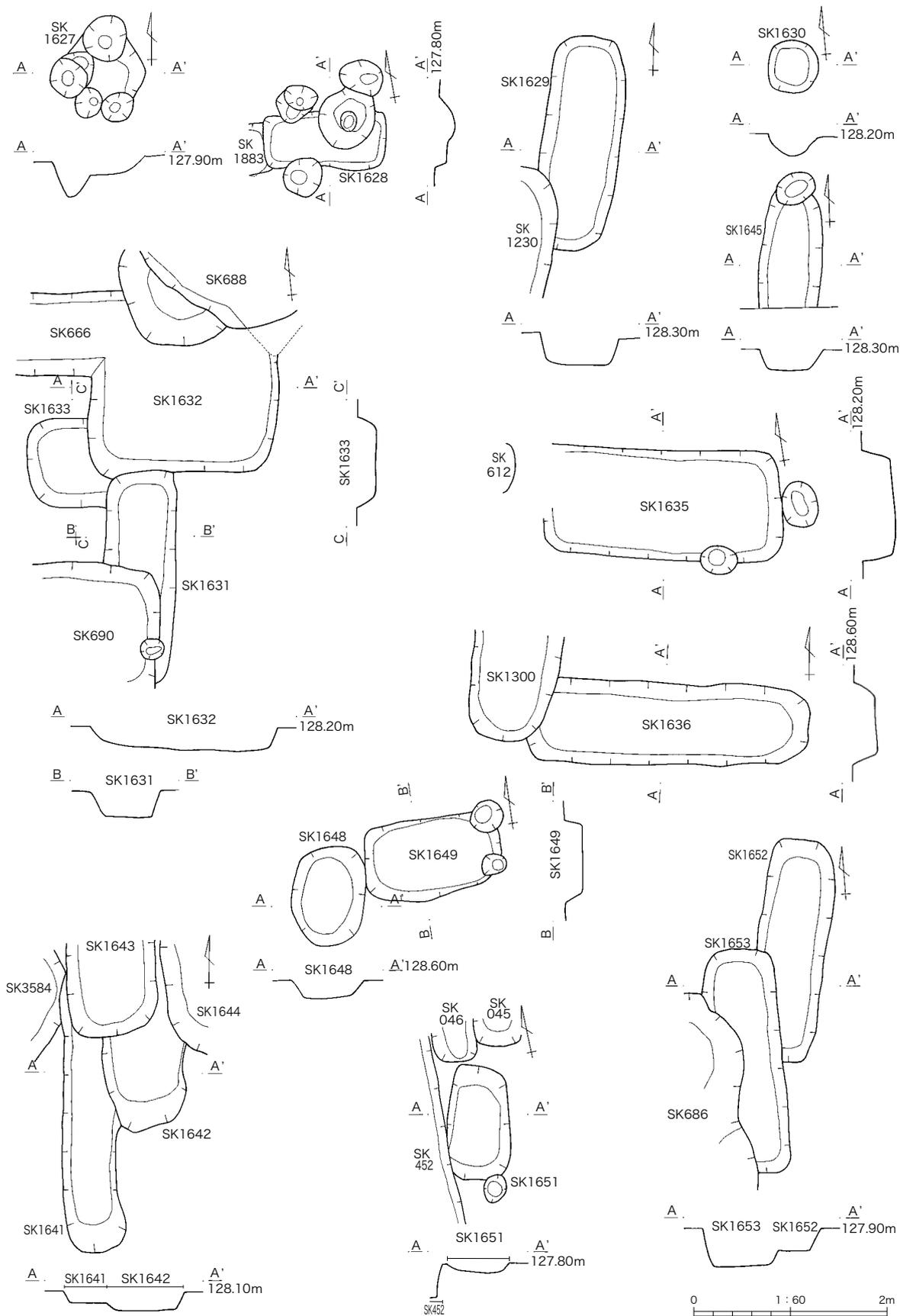
第204図 土坑 (69) SK1551・1552・1559・1561~1569・1573・1574



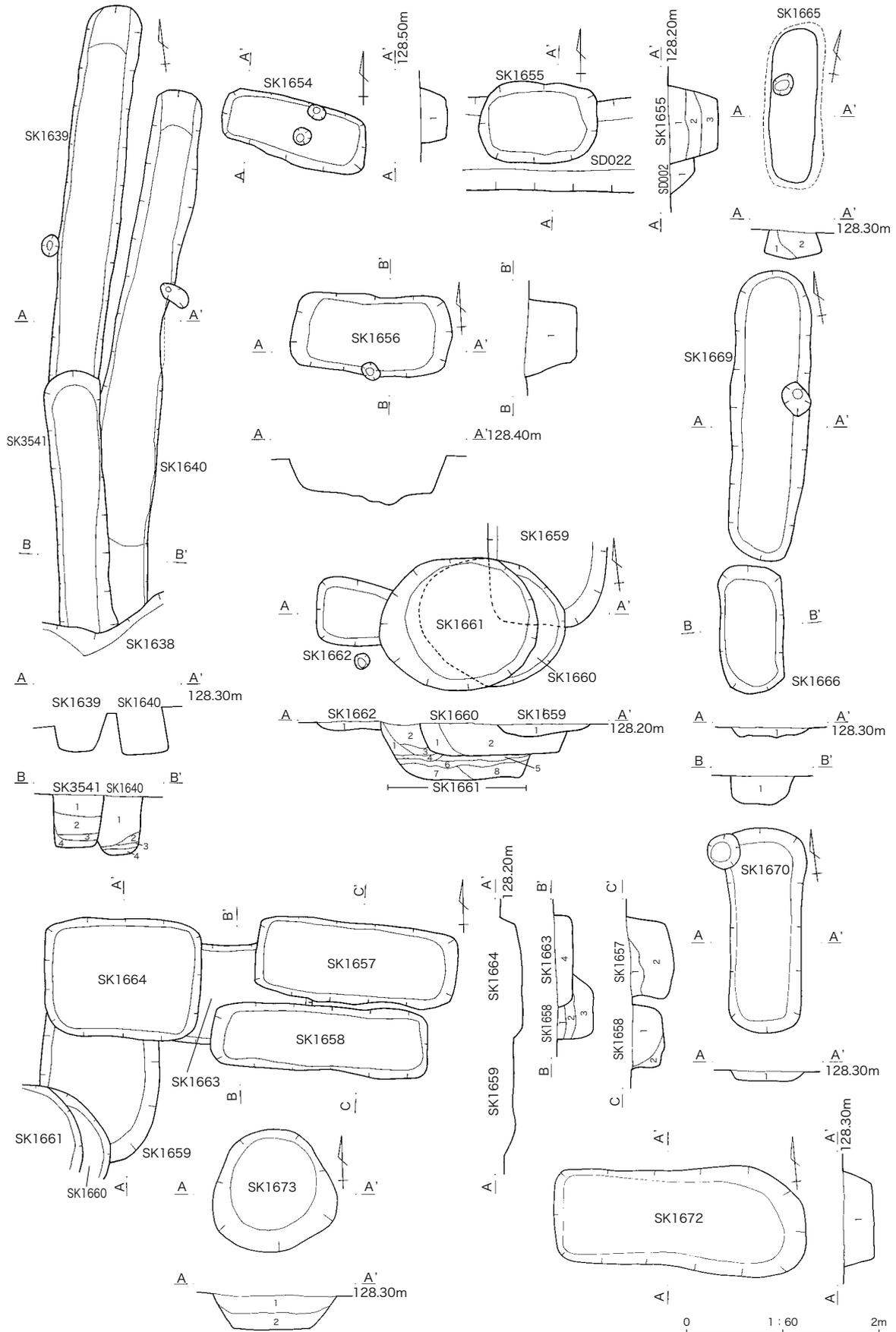
第 205 圖 土坑 (70) SK1575~1580 · 1583 · 1589 · 1591 · 1600 · 1601 · 1603



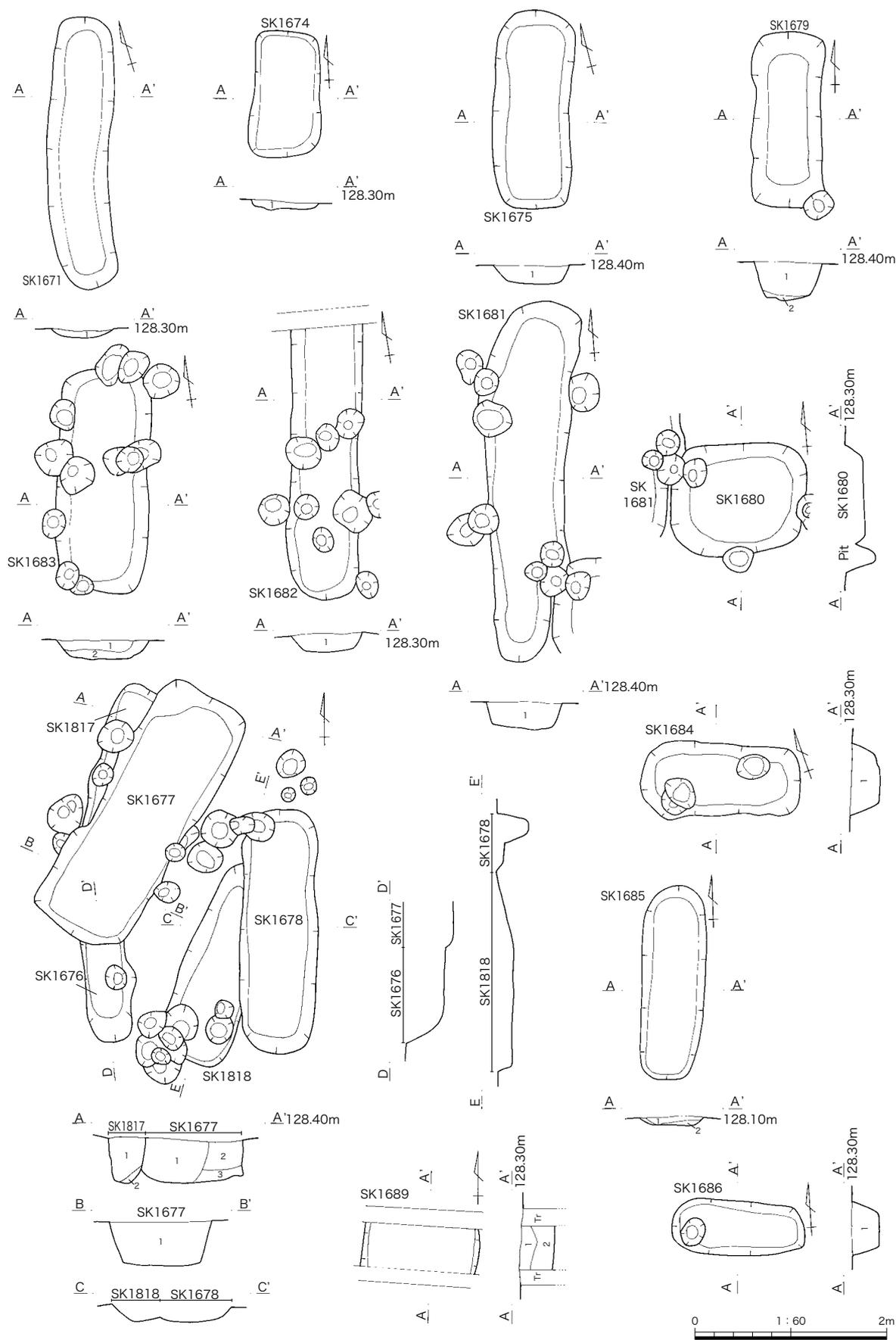
第206図 土坑(71) SK1596~1598・1602・1604・1606・1607・1609・1610
1613~1616・1621~1625



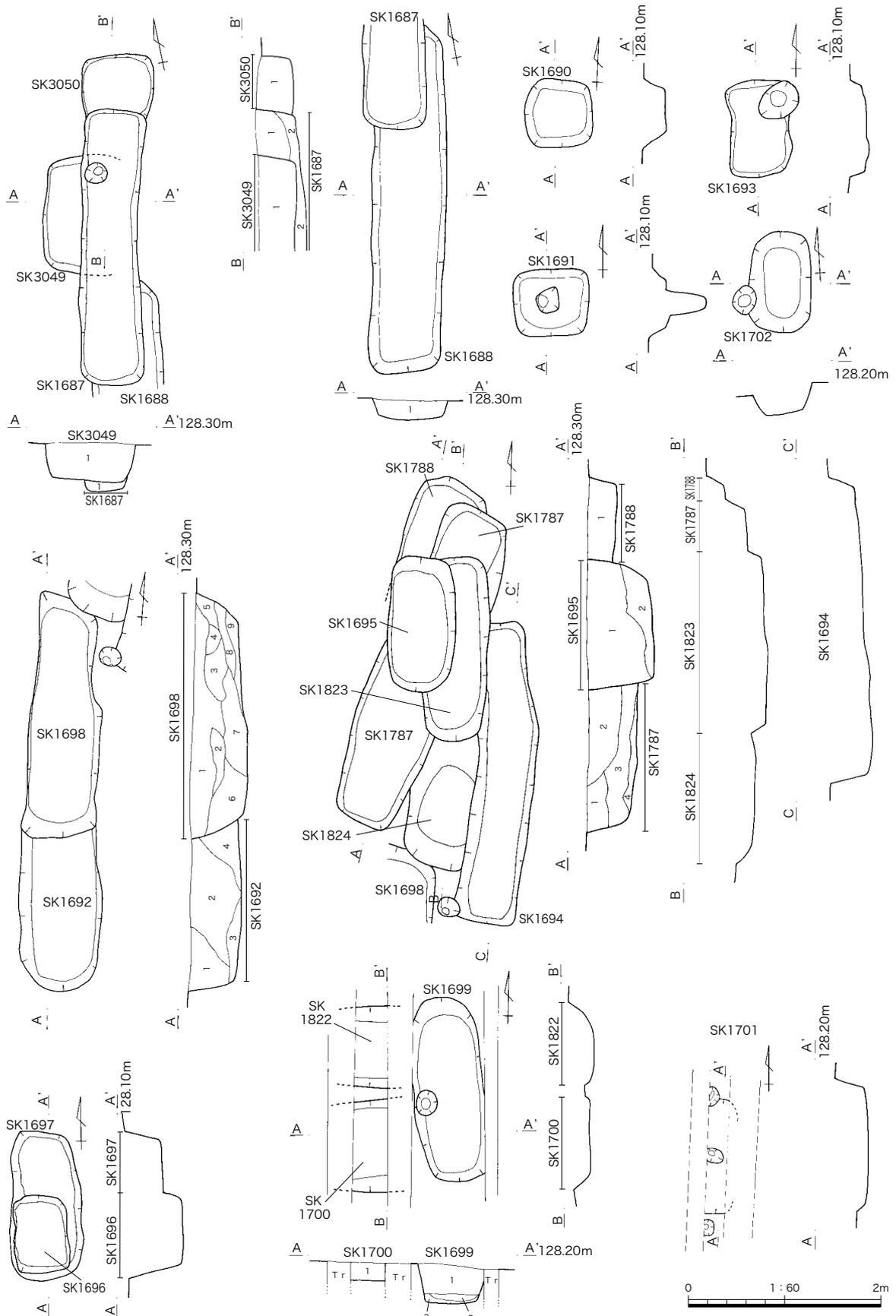
第207図 土坑 (72) SK1627~1633・1635・1636・1641・1642・1645・1648・1649
1651~1653



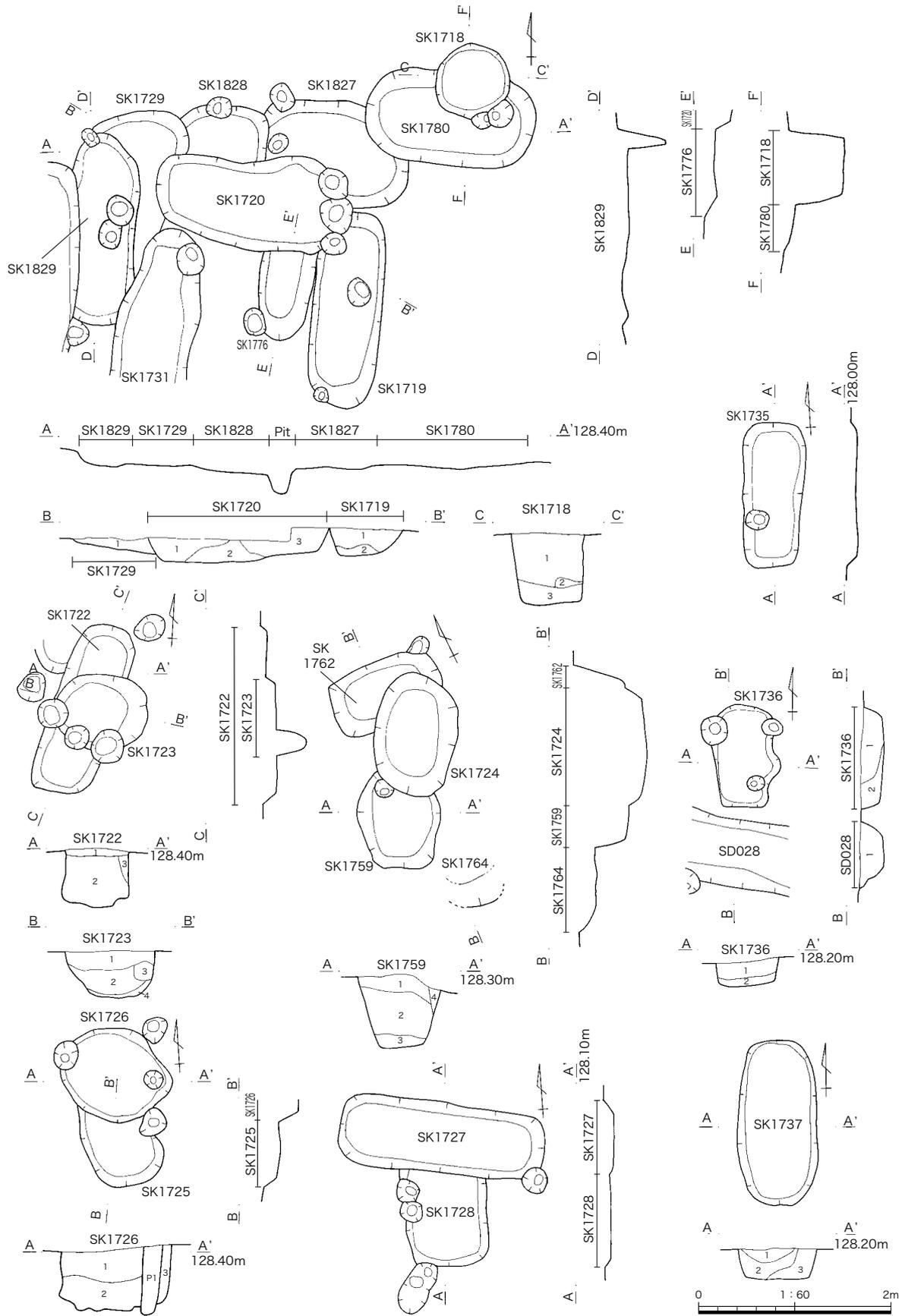
第208図 土坑(73) SK1639・1640・1654~1666・1669・1670・1672・1673・3541



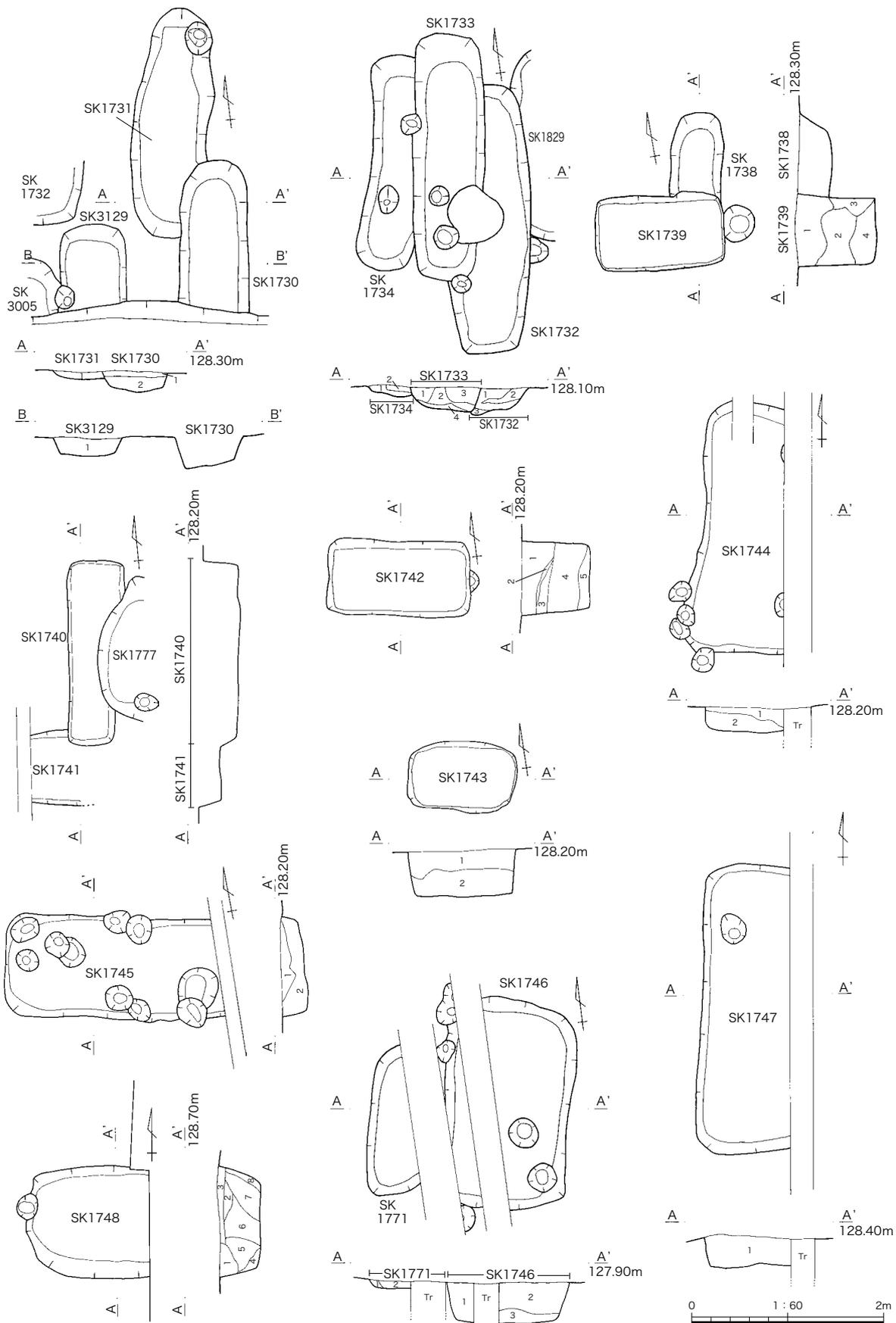
第209圖 土坑 (74) SK1671・1674~1686・1689・1817・1818



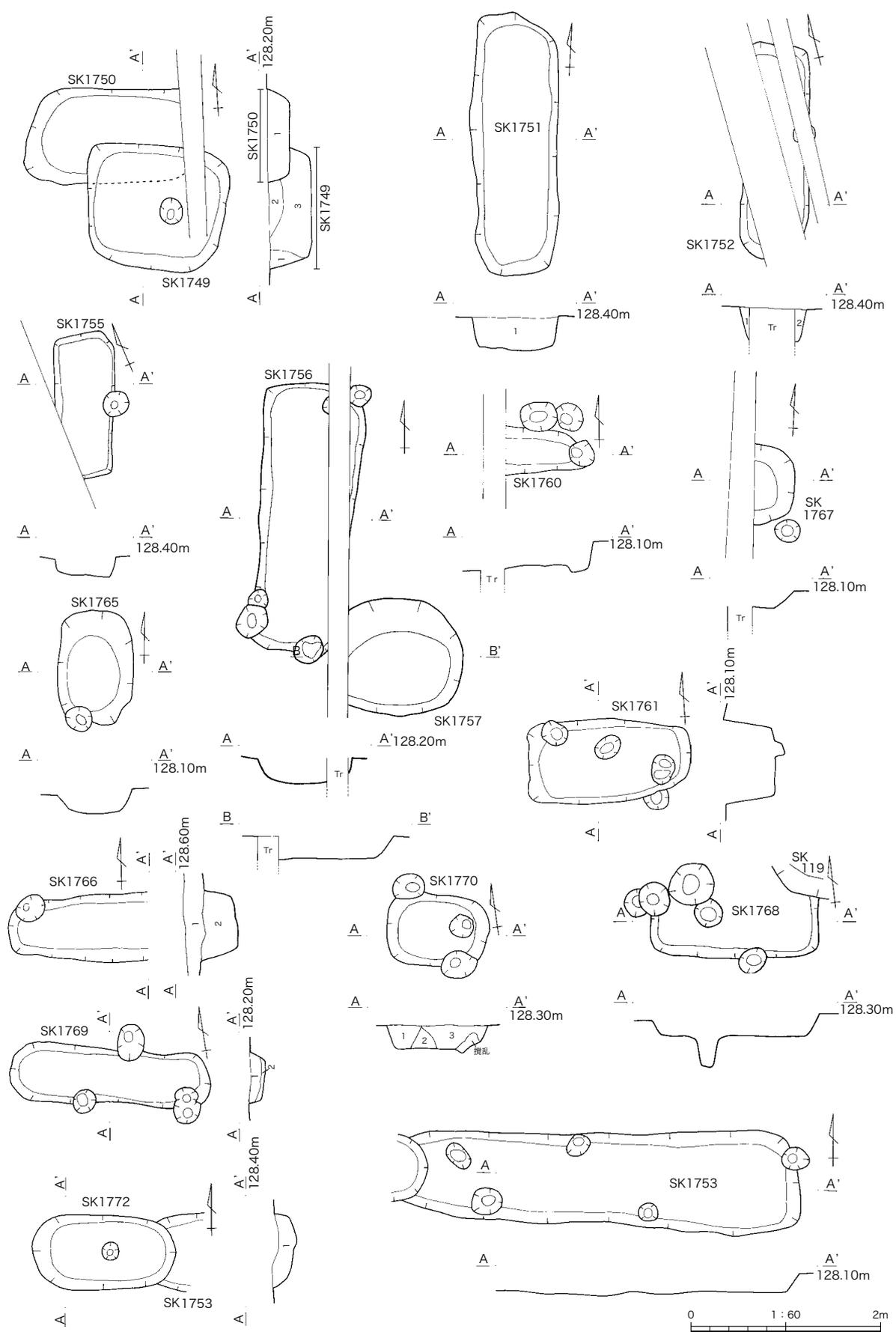
第210図 土坑 (75) SK1687・1688・1690~1702・1787・1788・1822~1824
3049・3050



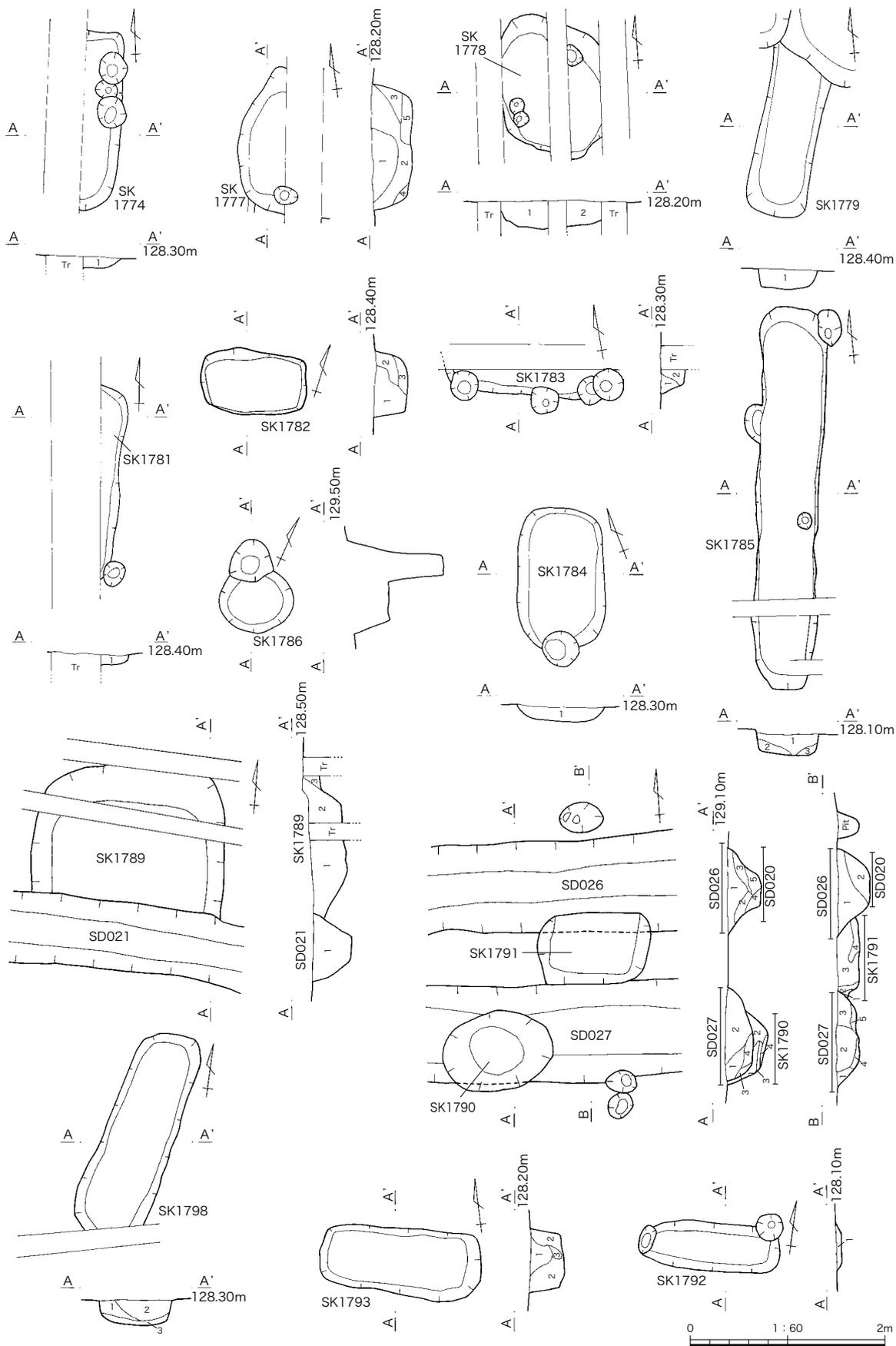
第212図 土坑 (77) SK1718~1720・1722~1729・1735~1737・1759・1762・1764
1776・1780・1827~1829



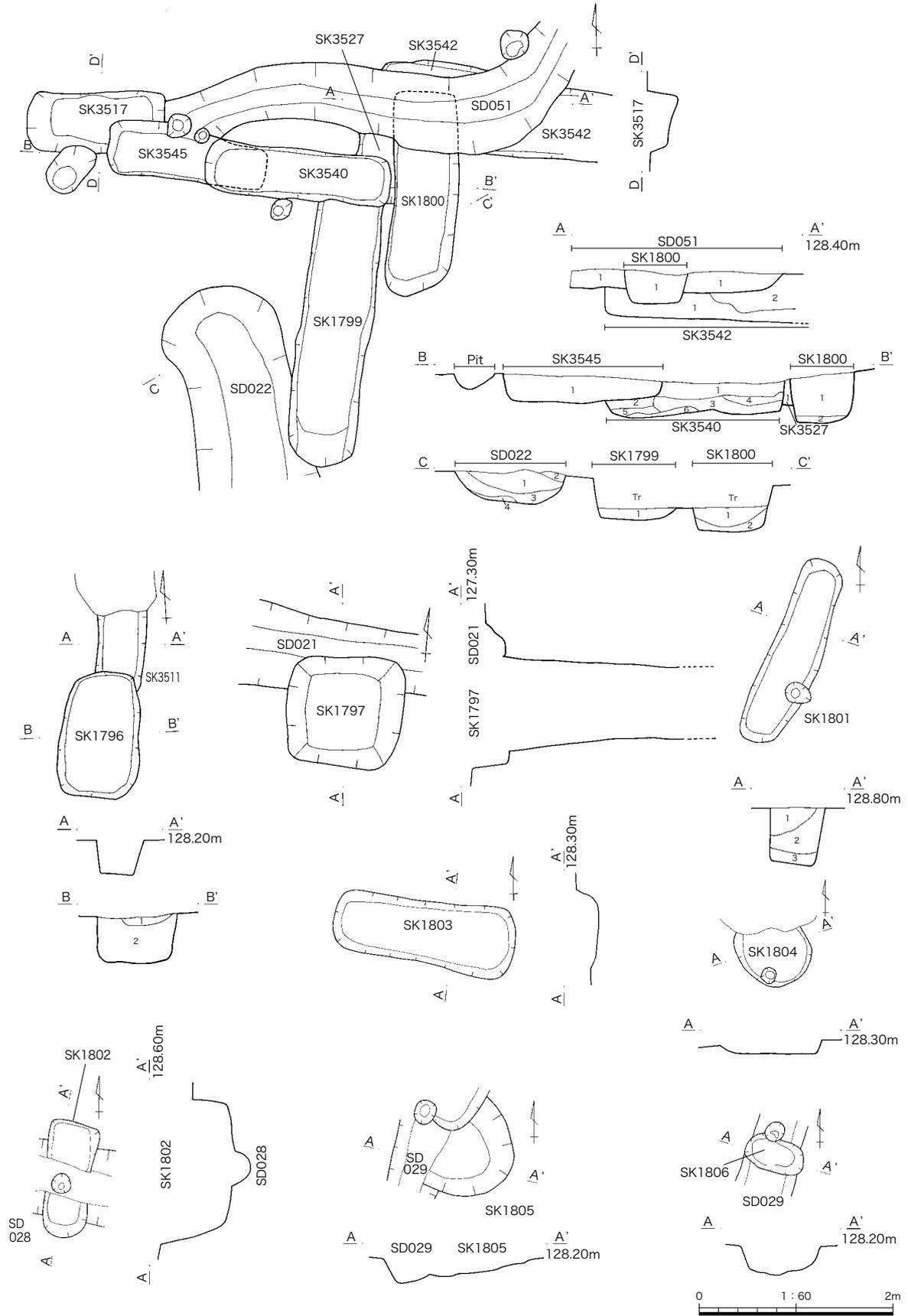
第213圖 土坑 (78) SK1730~1734・1738~1748・1771・3129



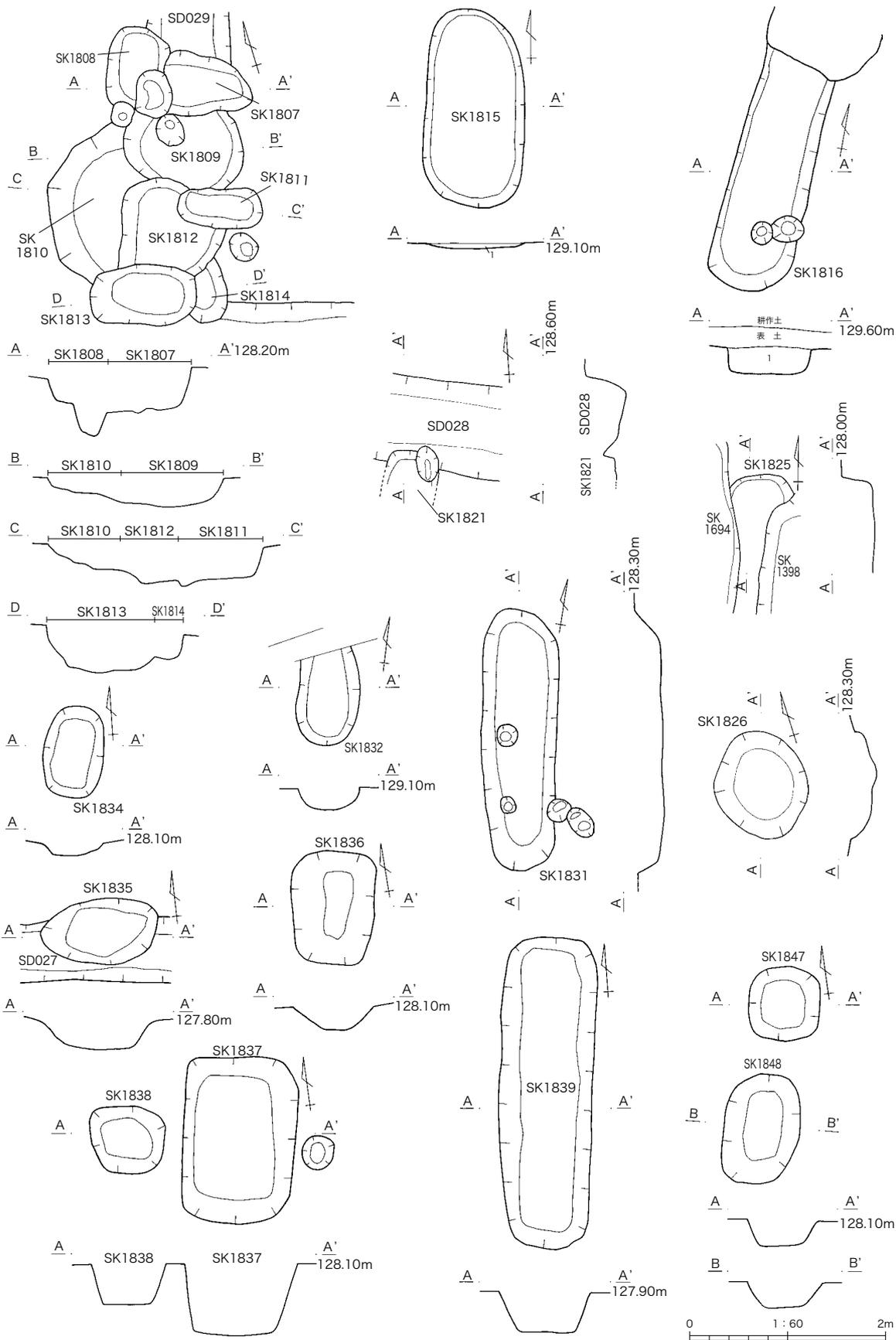
第214図 土坑 (79) SK1749~1753・1755~1757・1760・1761・1765~1770・1772



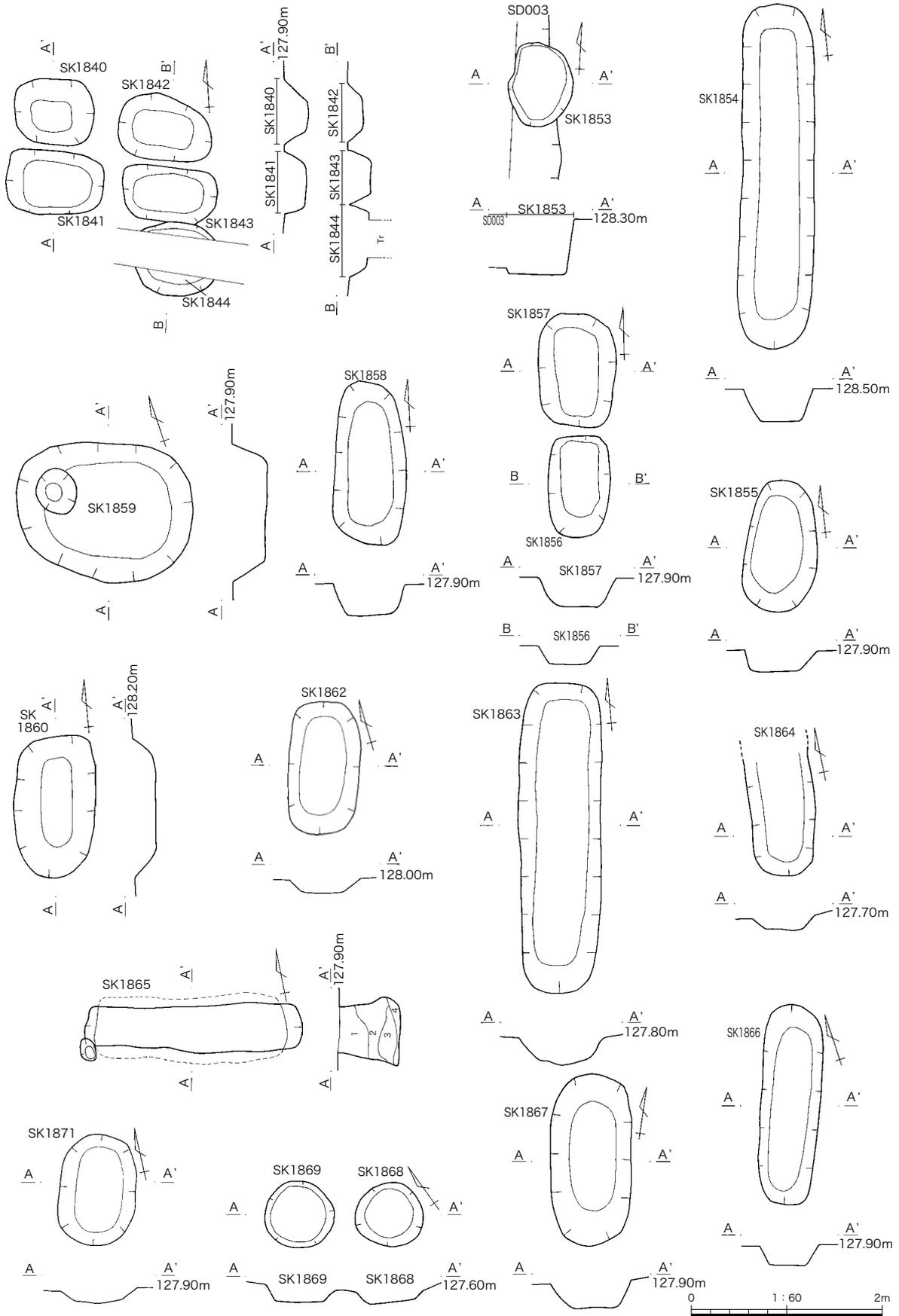
第215圖 土坑 (80) SK1774・1777~1779・1781~1786・1789~1793・1798



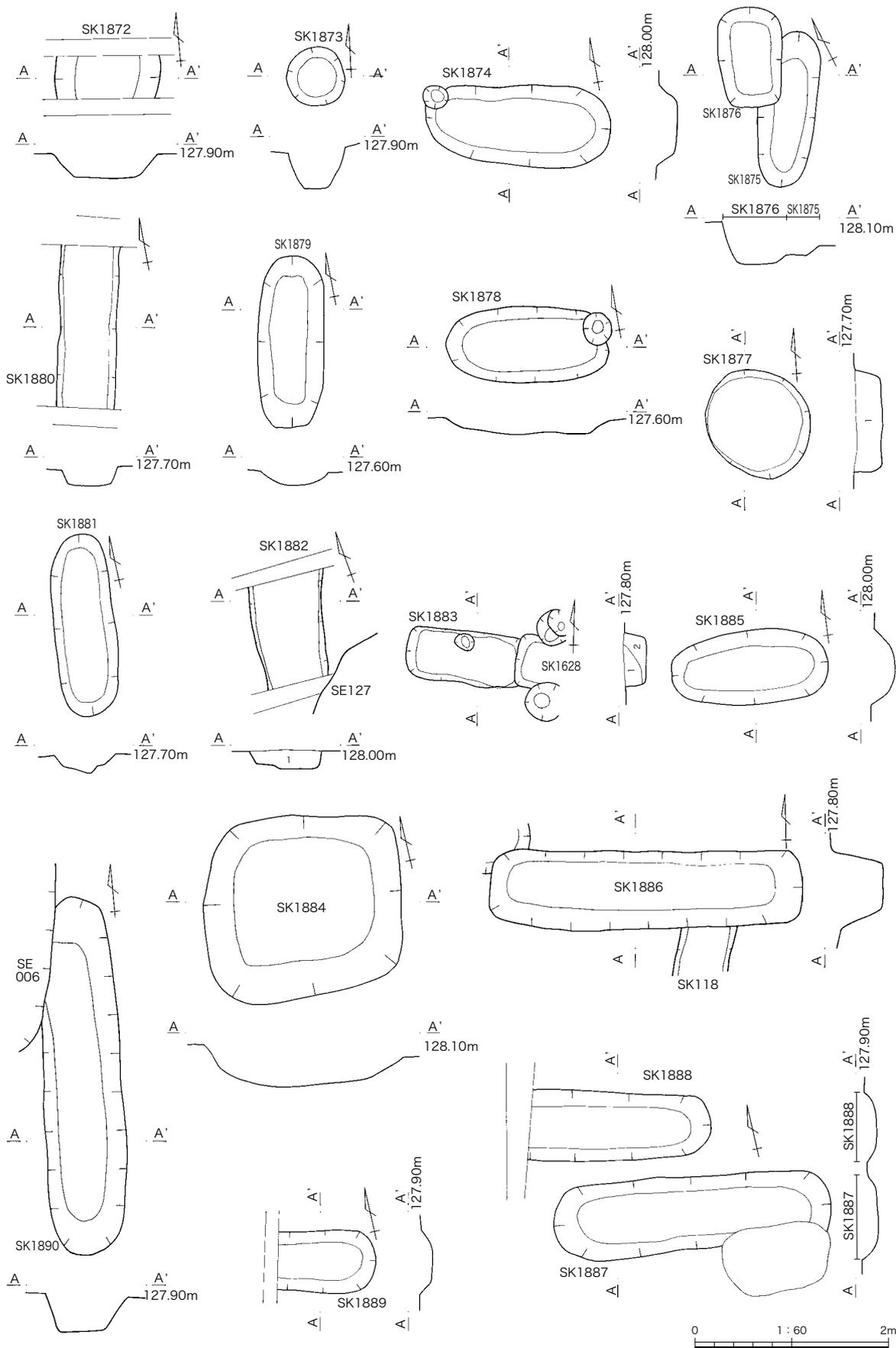
第216図 土坑(81) SK1796・1797・1799~1806・3511・3517・3527・3540・3542・3545



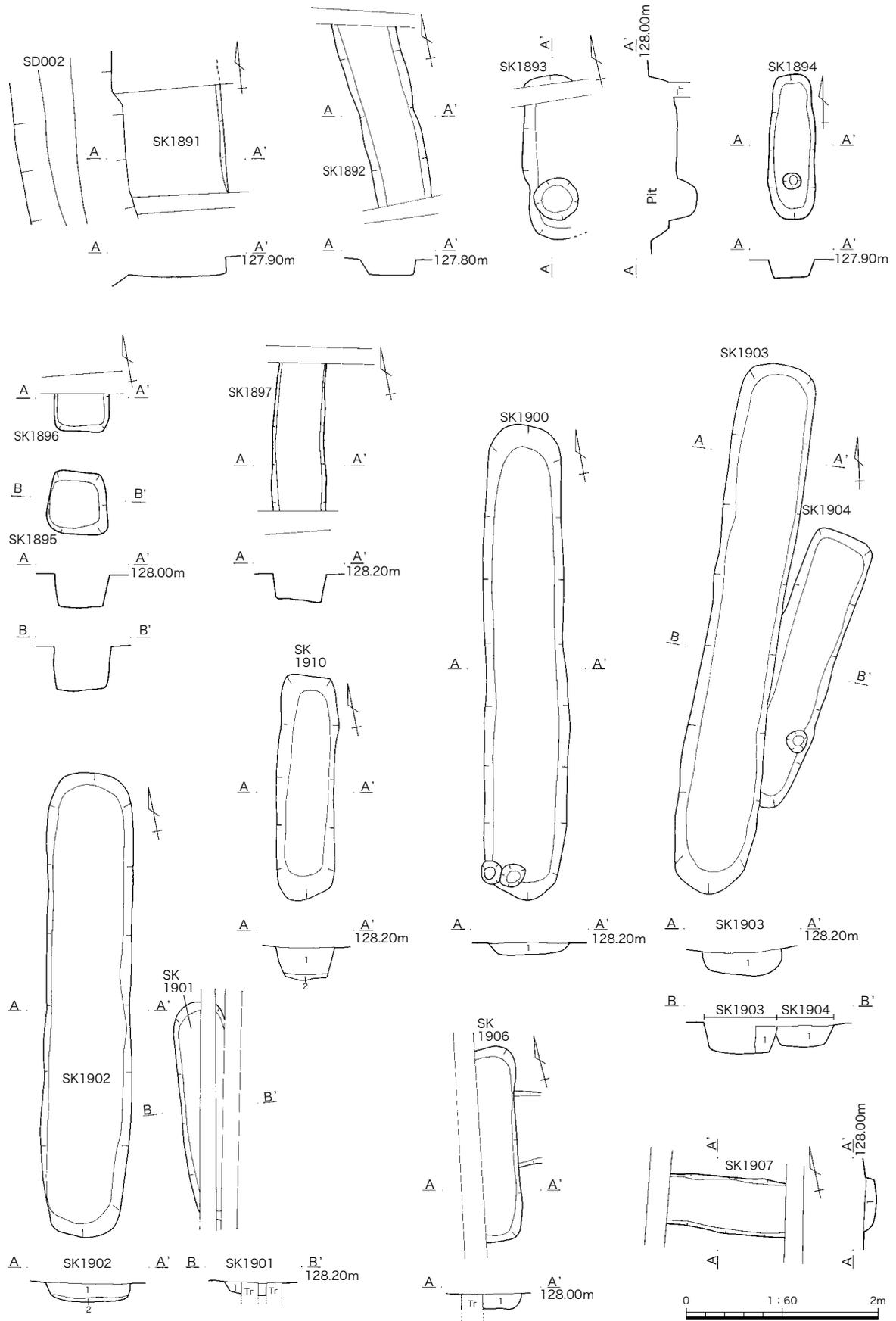
第217图 土坑 (82) SK1807~1816 · 1821 · 1825 · 1826 · 1831 · 1832 · 1834~1839
1847 · 1848



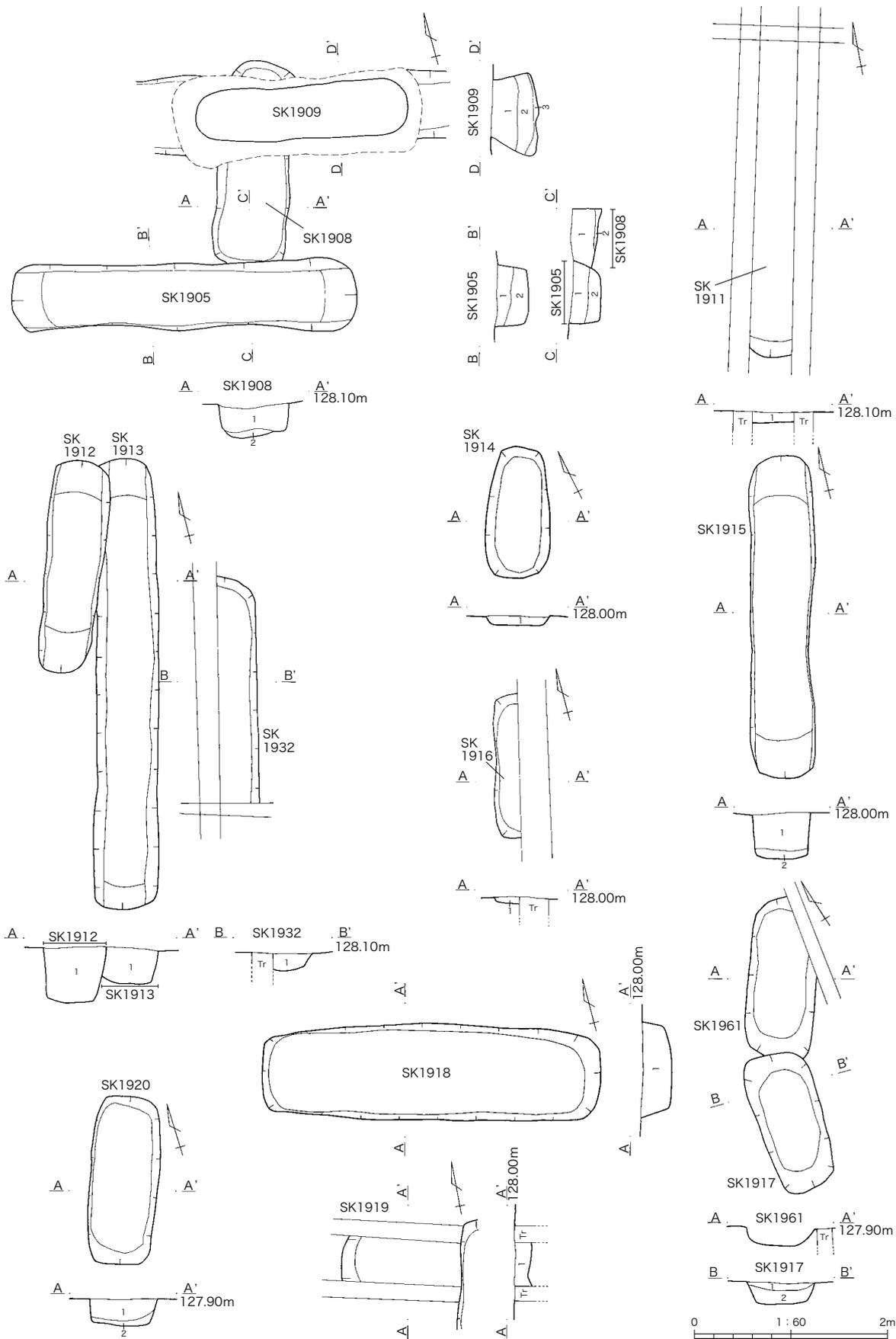
第218図 土坑(83) SK1840~1844・1853~1860・1862~1869・1871



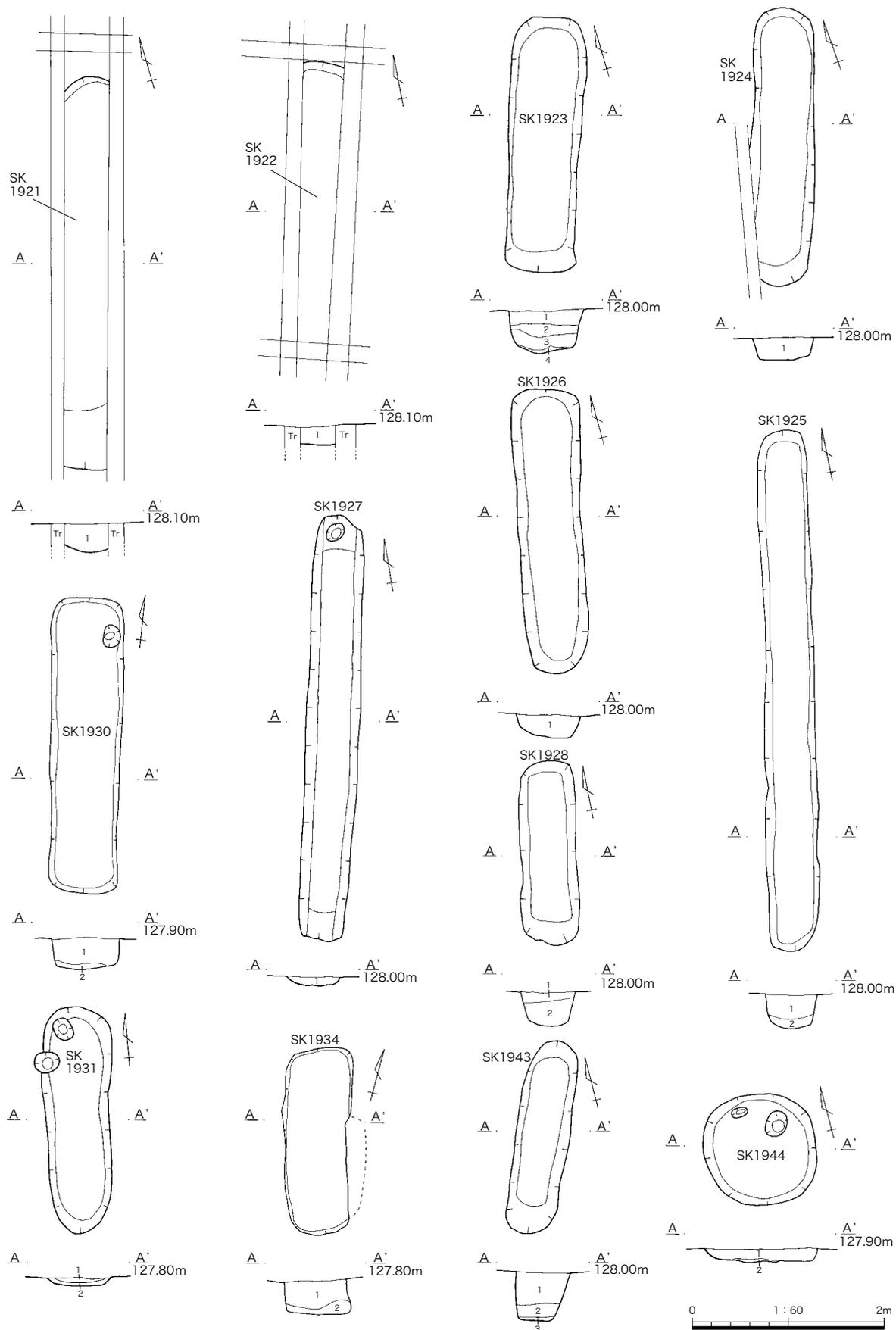
第219図 土坑 (84) SK1872~1890



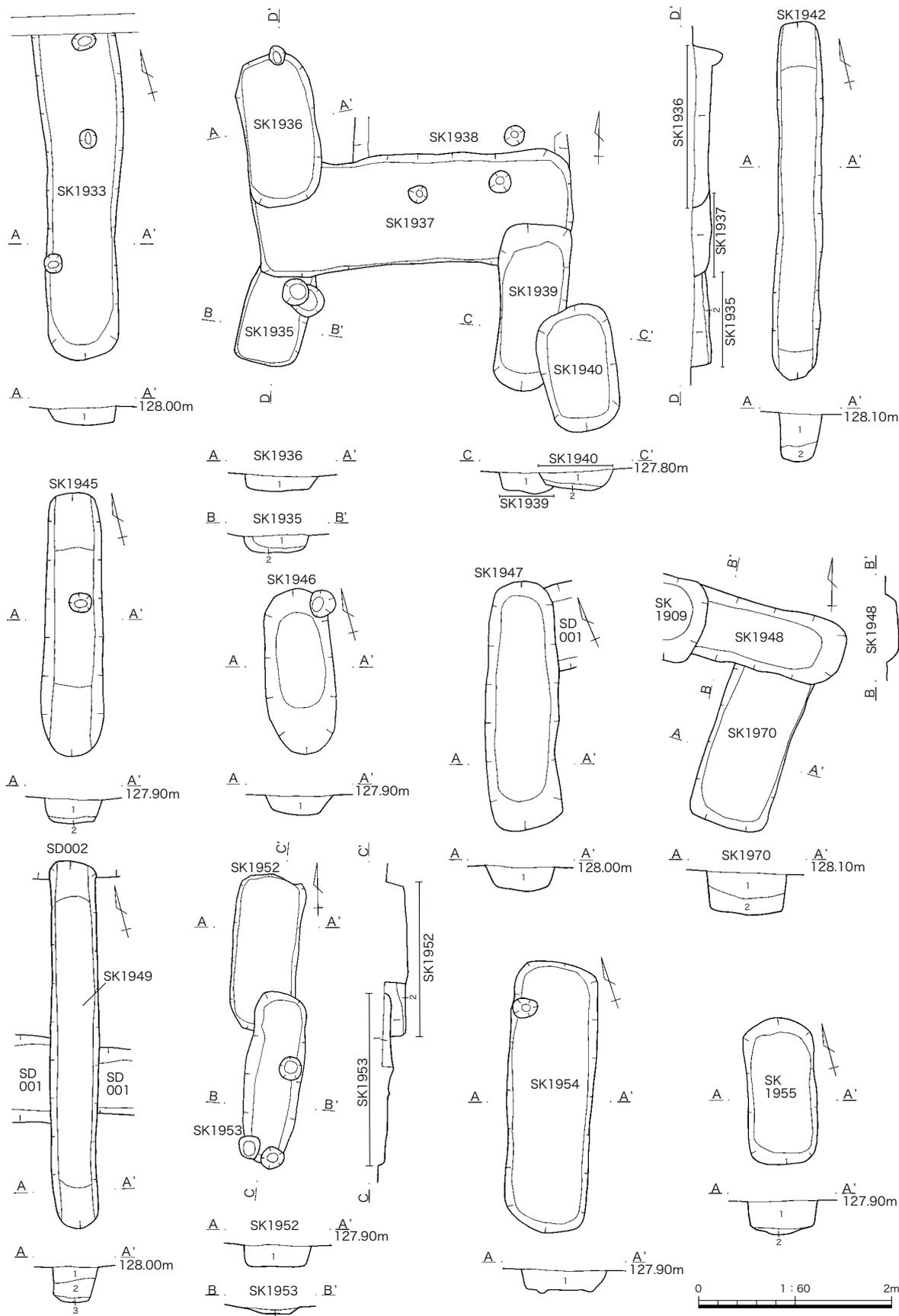
第220図 土坑(85) SK1891~1897・1900~1904・1906・1907・1910



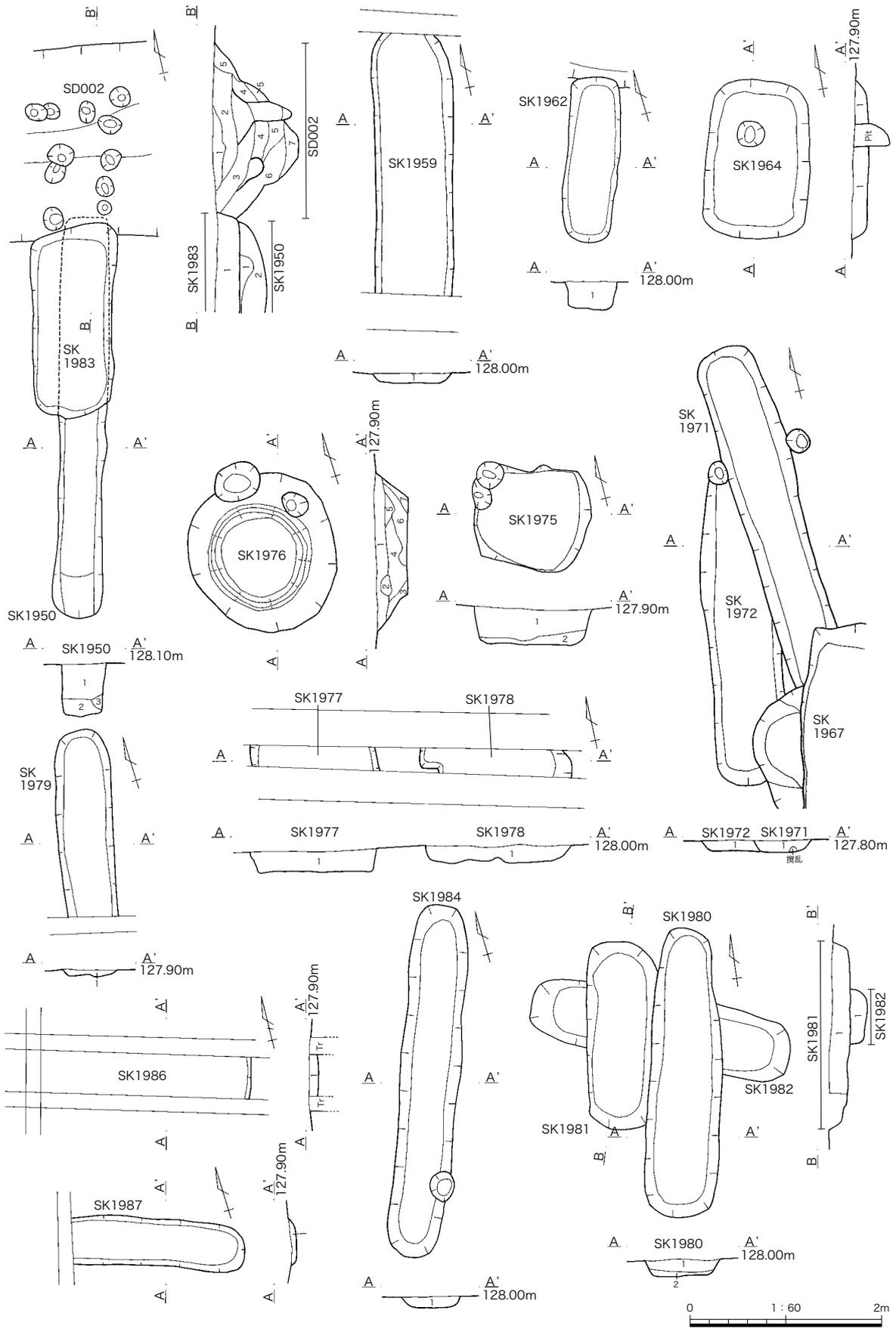
第221图 土坑 (86) SK1905 · 1908 · 1909 · 1911~1920 · 1932 · 1961



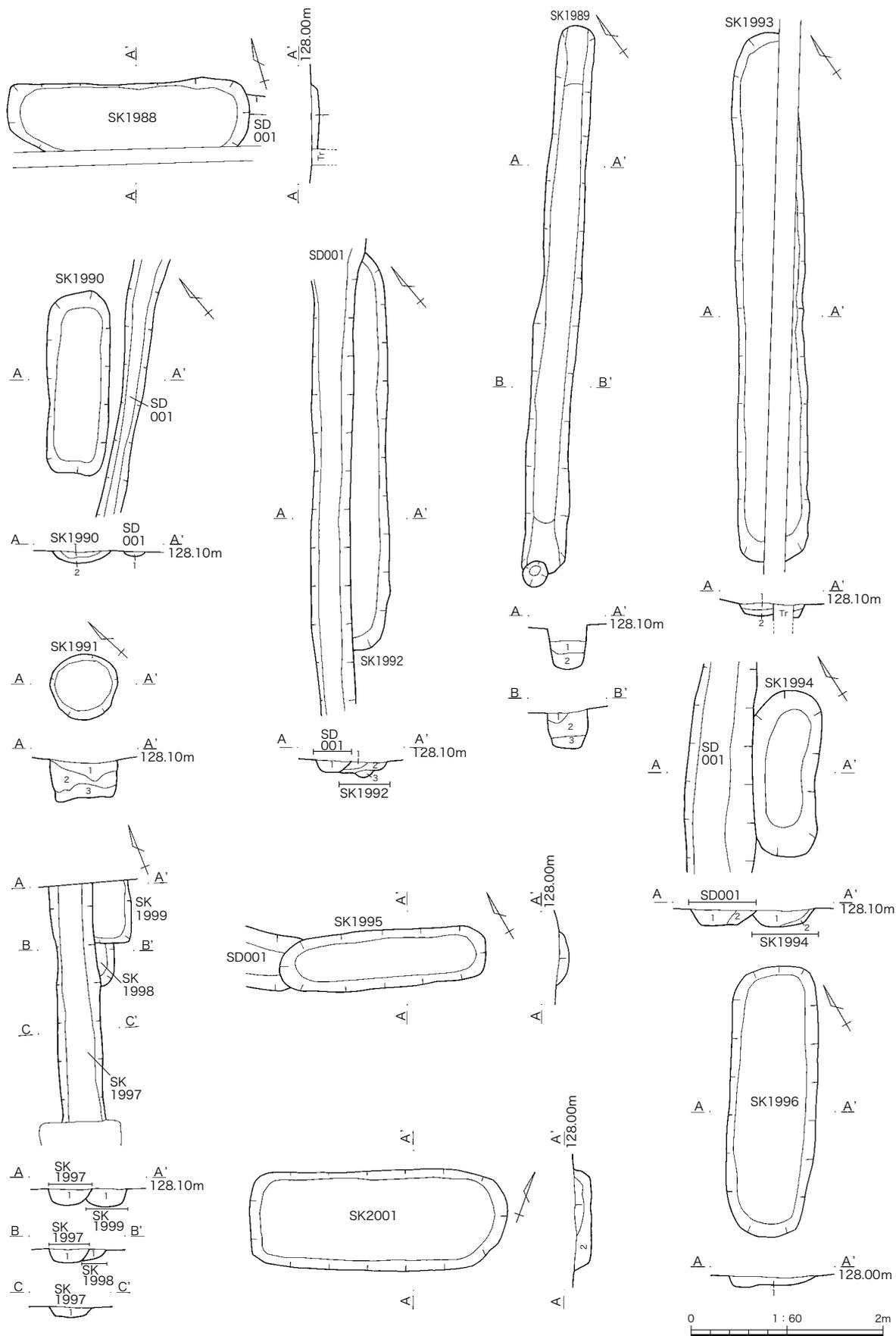
第222図 土坑 (87) SK1921~1928・1930・1931・1934・1943・1944



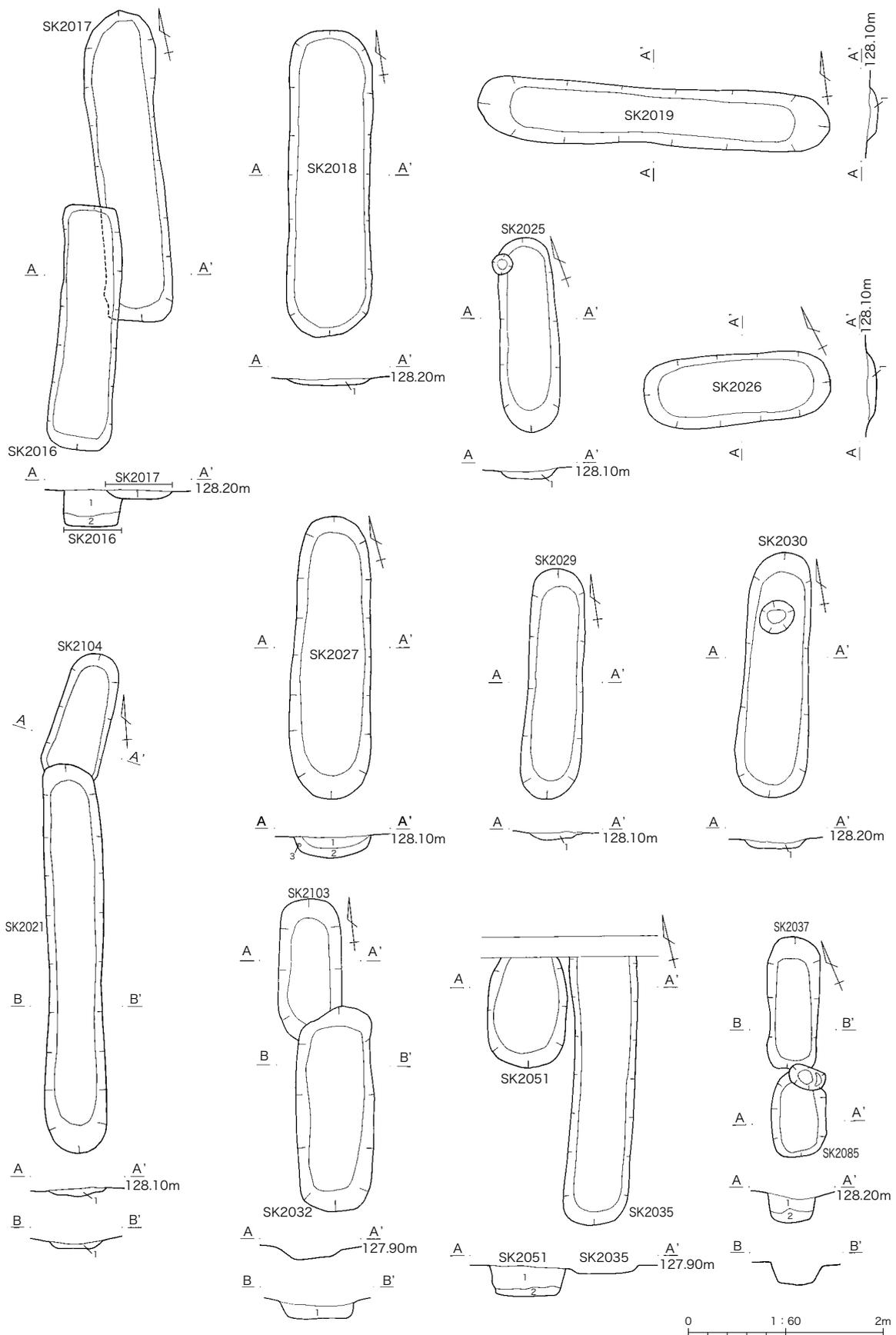
第223圖 土坑 (88) SK1933・1935~1937・1939・1940・1942・1945~1949
1952~1955・1970



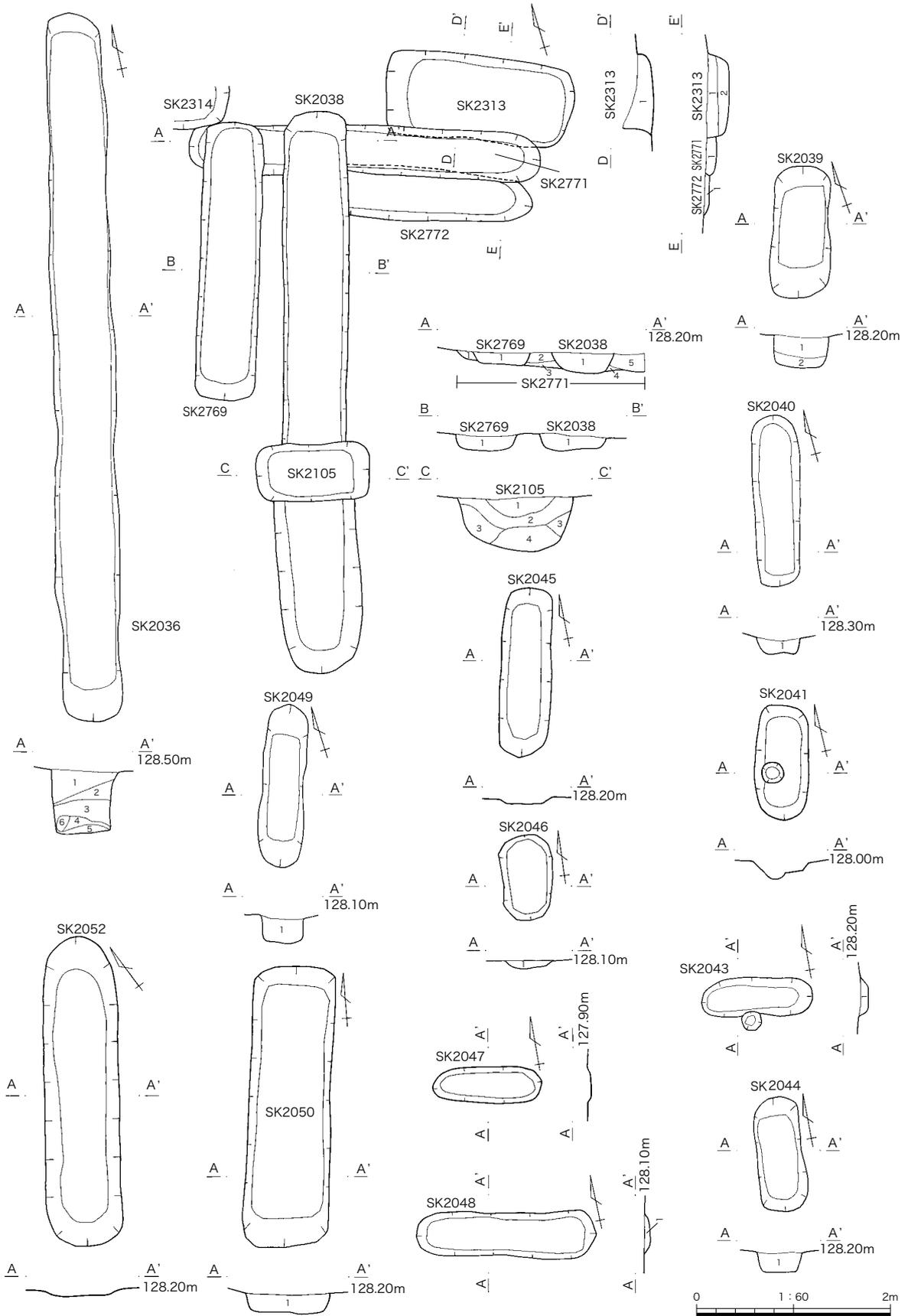
第224図 土坑 (89) SK1950・1959・1962・1964・1971・1972・1975~1984・1986・1987



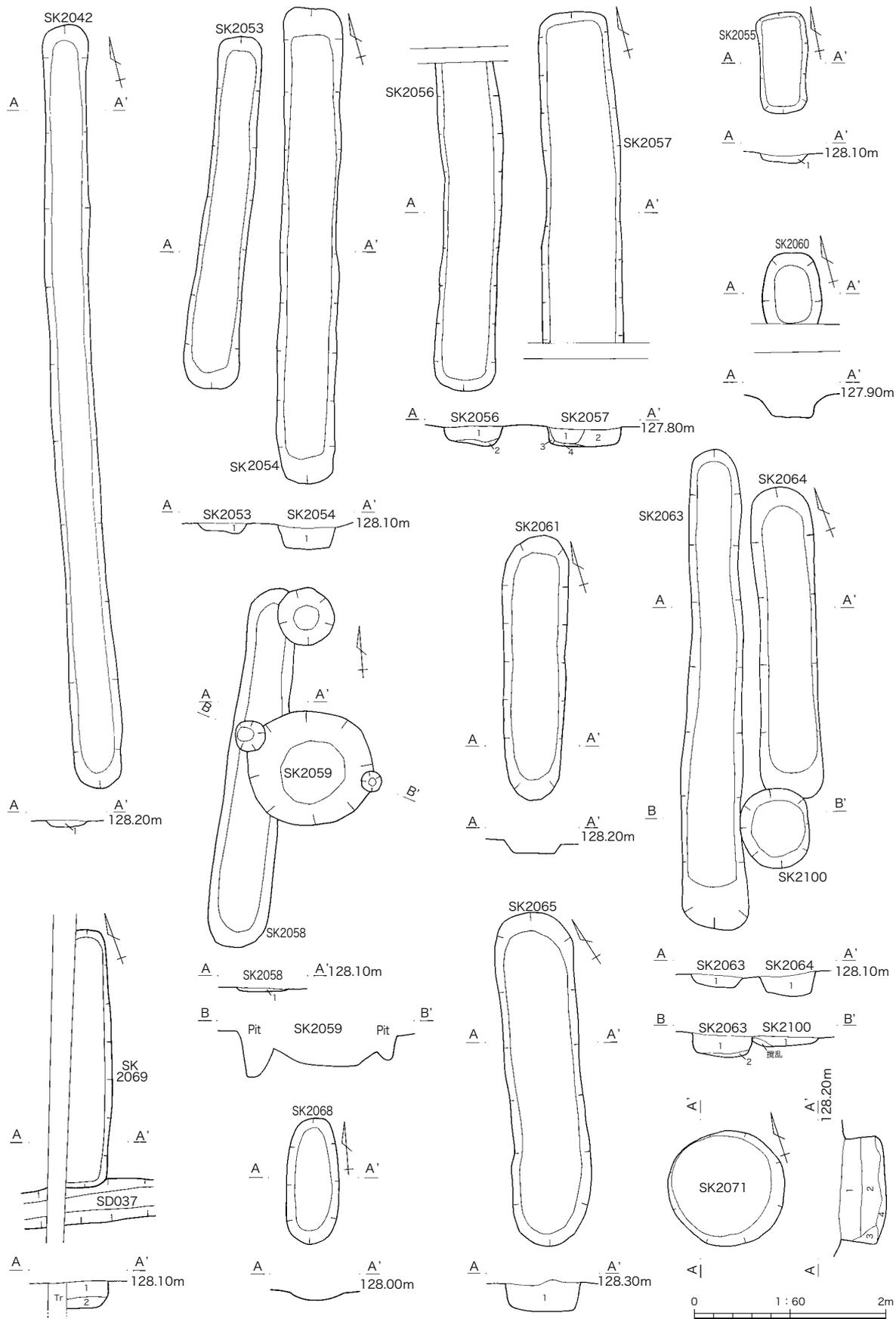
第225図 土坑 (90) SK1988~1999・2001



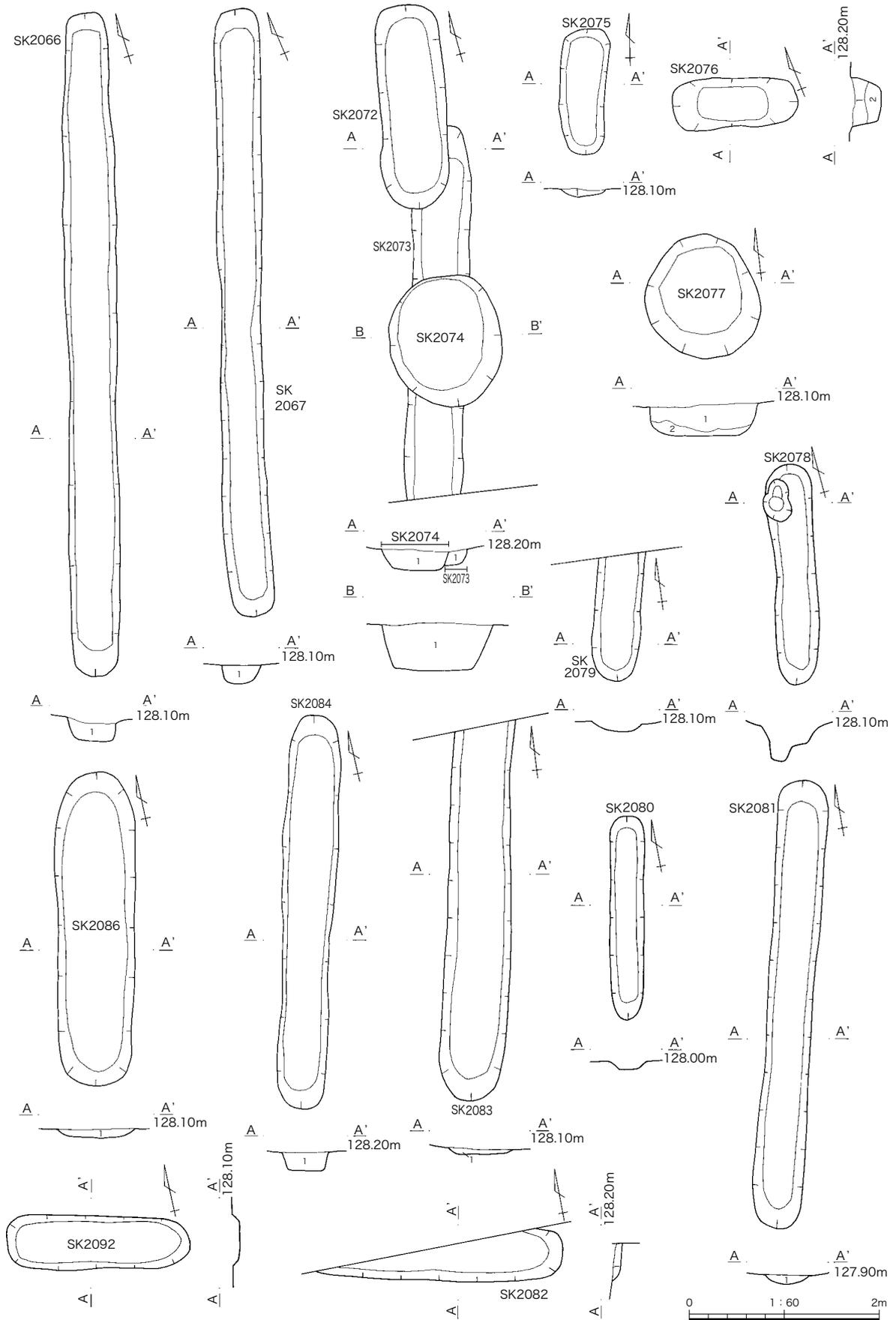
第 227 図 土坑 (92) SK2016~2019・2021・2025~2027・2029・2030・2032・2035・2037・2051・2085・2103・2104



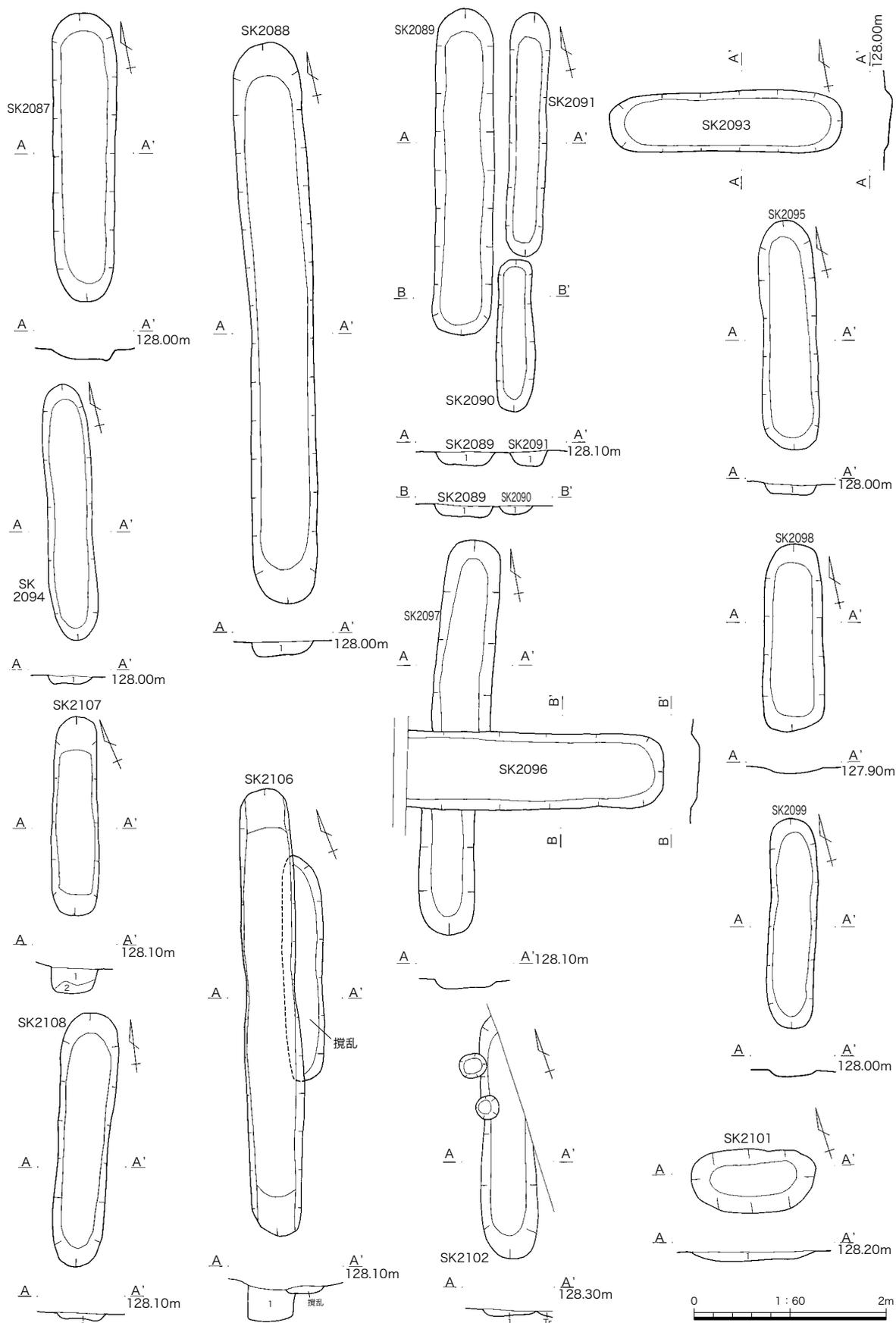
第 228 図 土坑 (93) SK2036・2038~2041・2043~2050・2052・2105・2313・2769・2771・2772



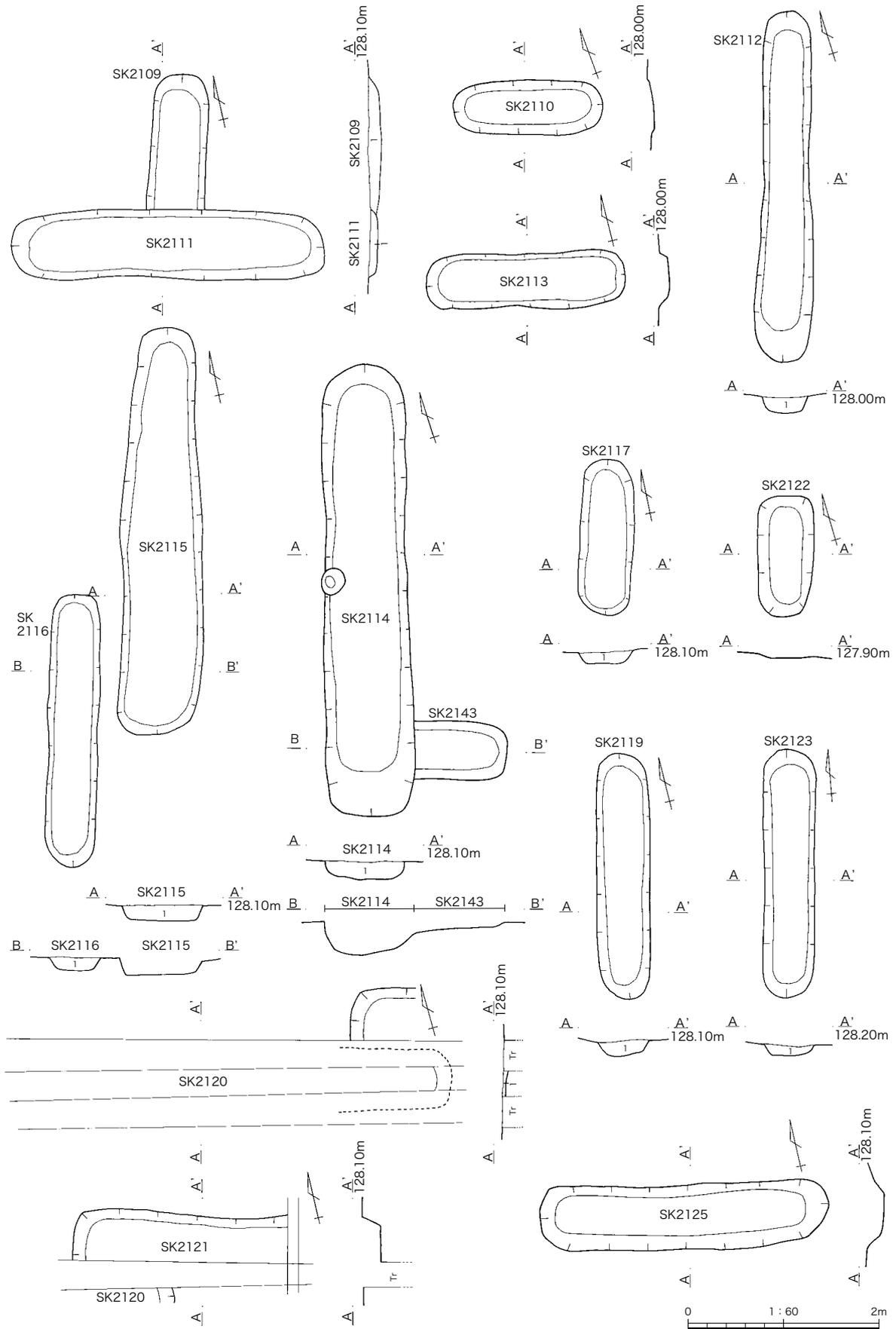
第229図 土坑 (94) SK2042・2053~2061・2063~2065・2068・2069・2071・2100



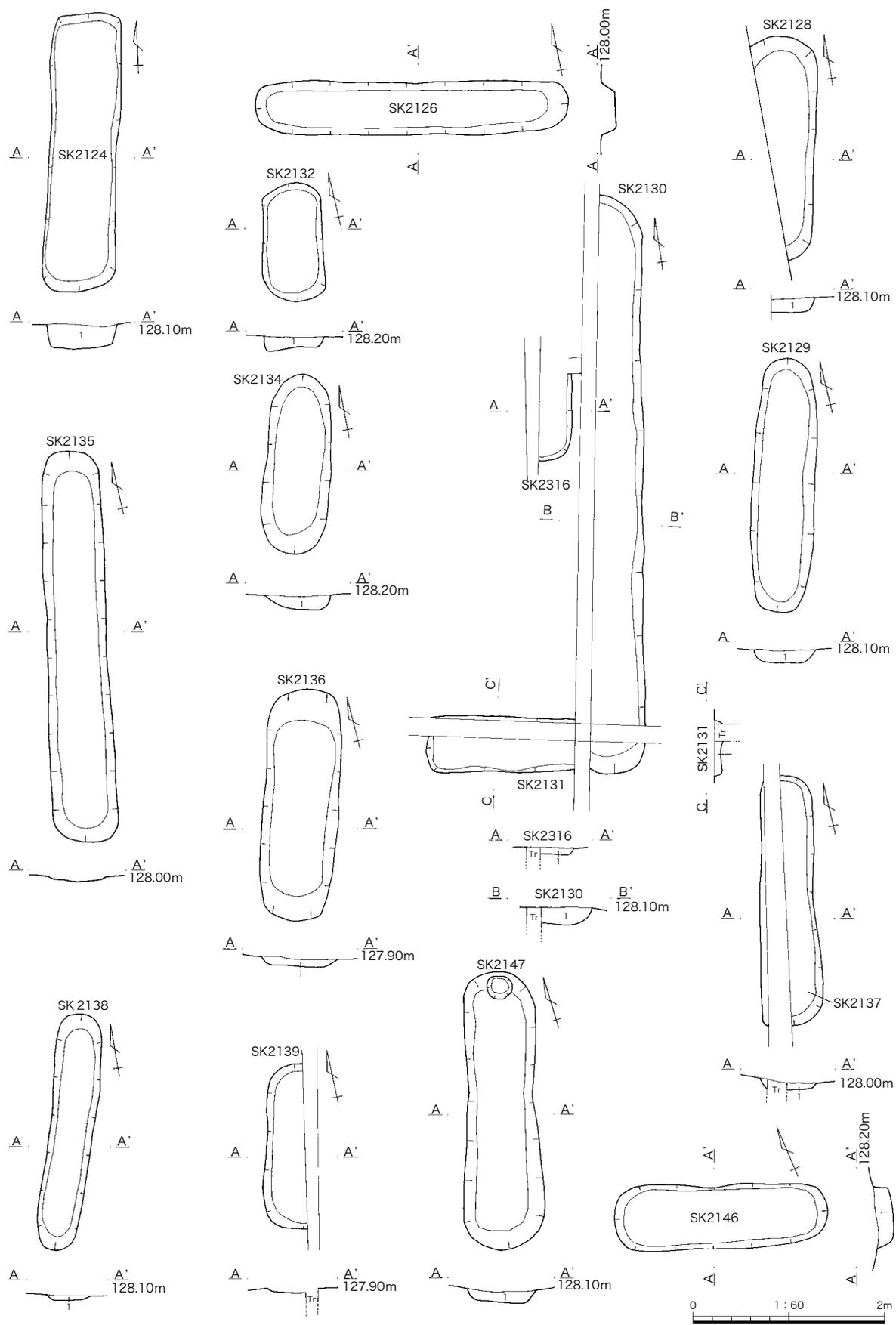
第230図 土坑 (95) SK2066・2067・2072~2084・2086・2092



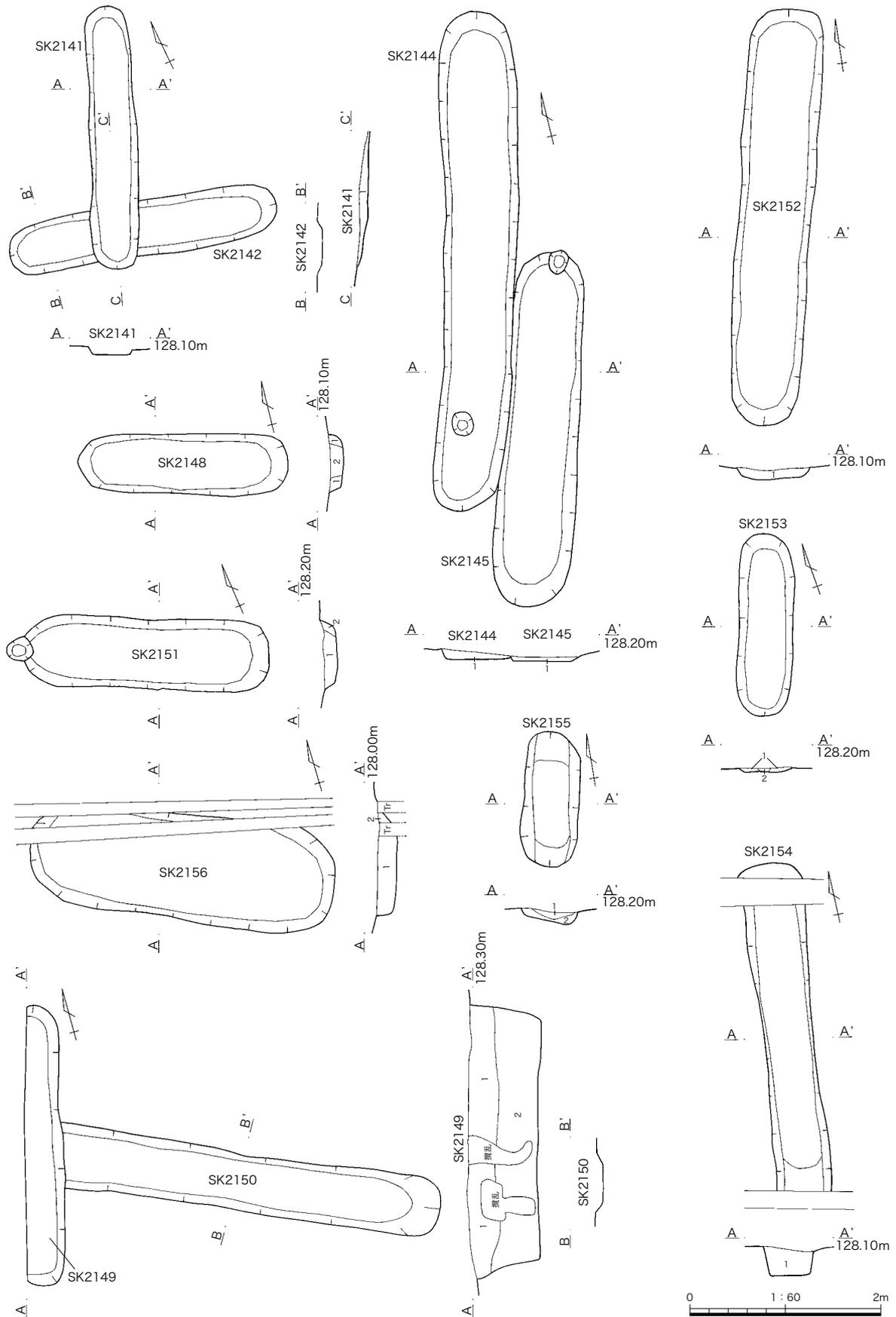
第231圖 土坑 (96) SK2087~2091・2093~2099・2101・2102・2106~2108



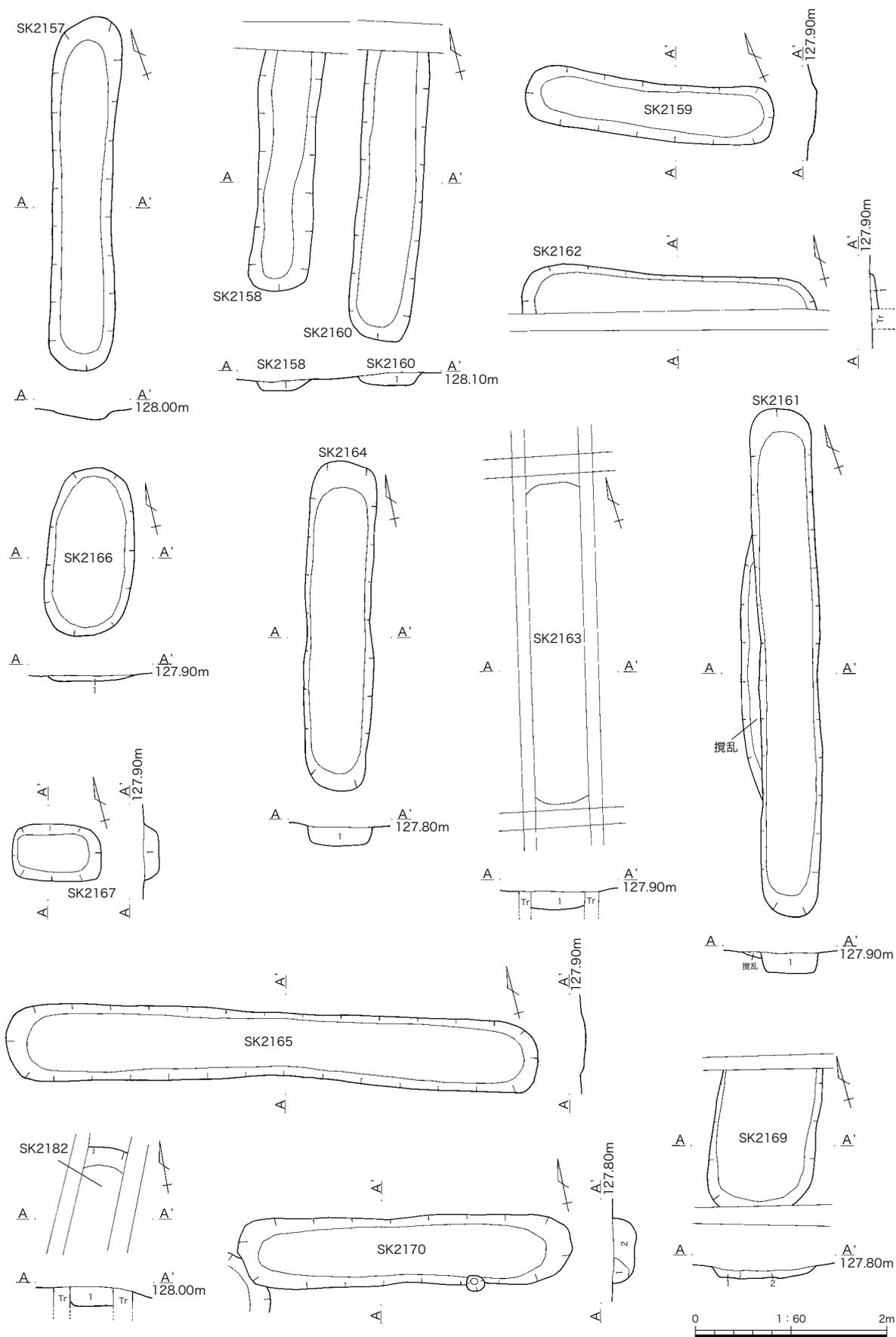
第232図 土坑 (97) SK2109~2117・2119~2123・2125・2143



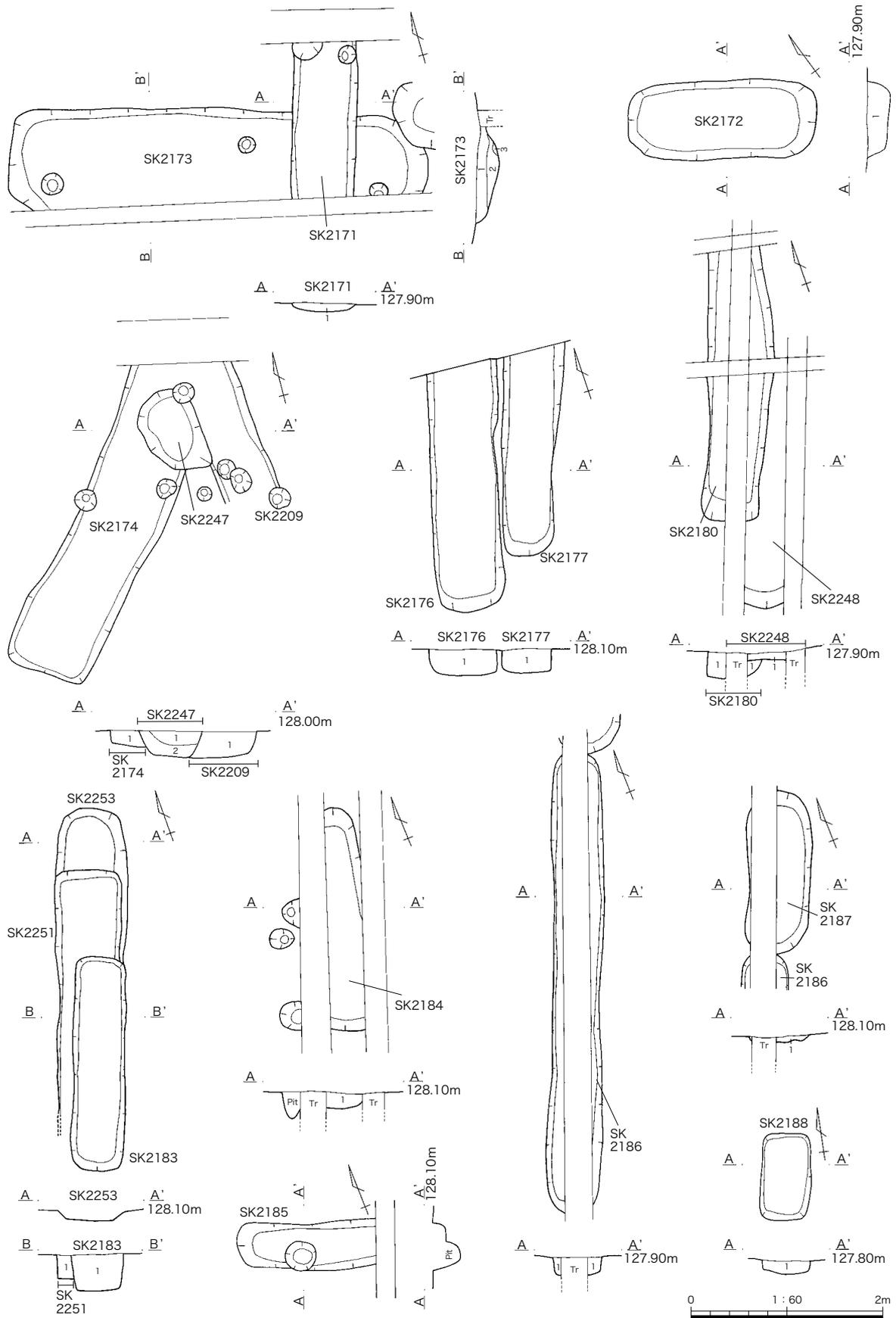
第233圖 土坑 (98) SK2124・2126・2128~2132・2134~2139・2146・2147・2316



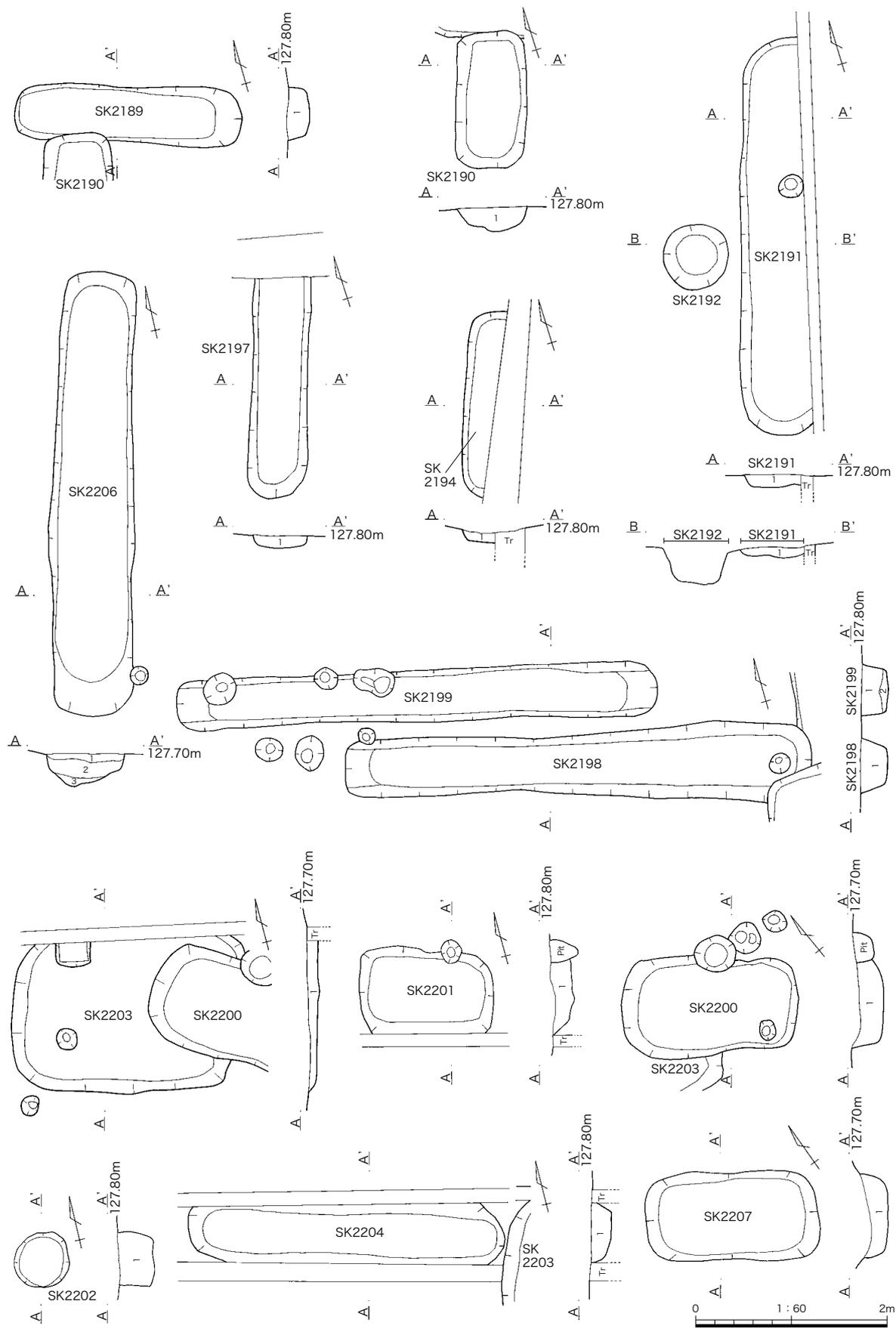
第234図 土坑 (99) SK2141・2142・2144・2145・2148~2156



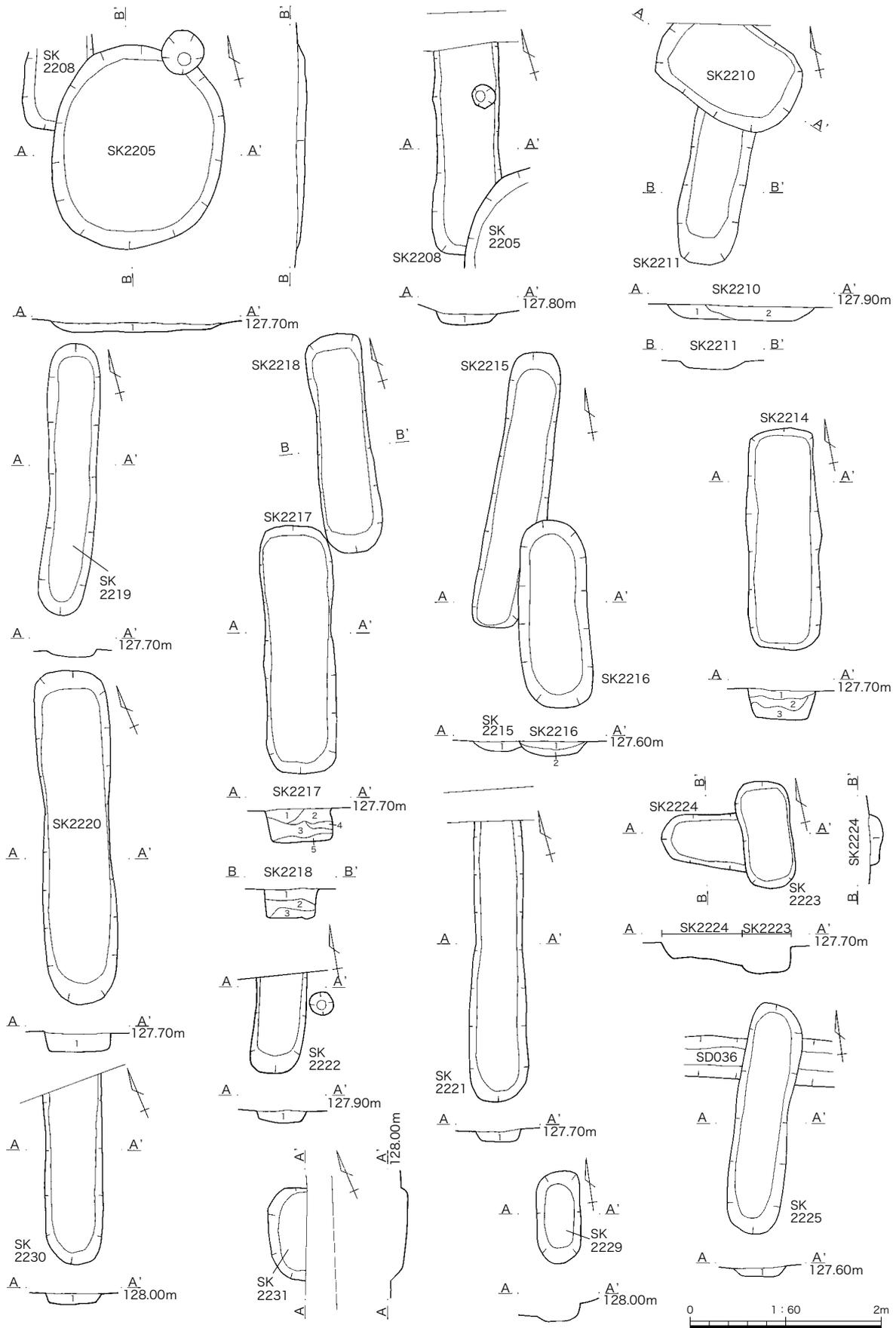
第235圖 土坑 (100) SK2157~2167・2169・2170・2182



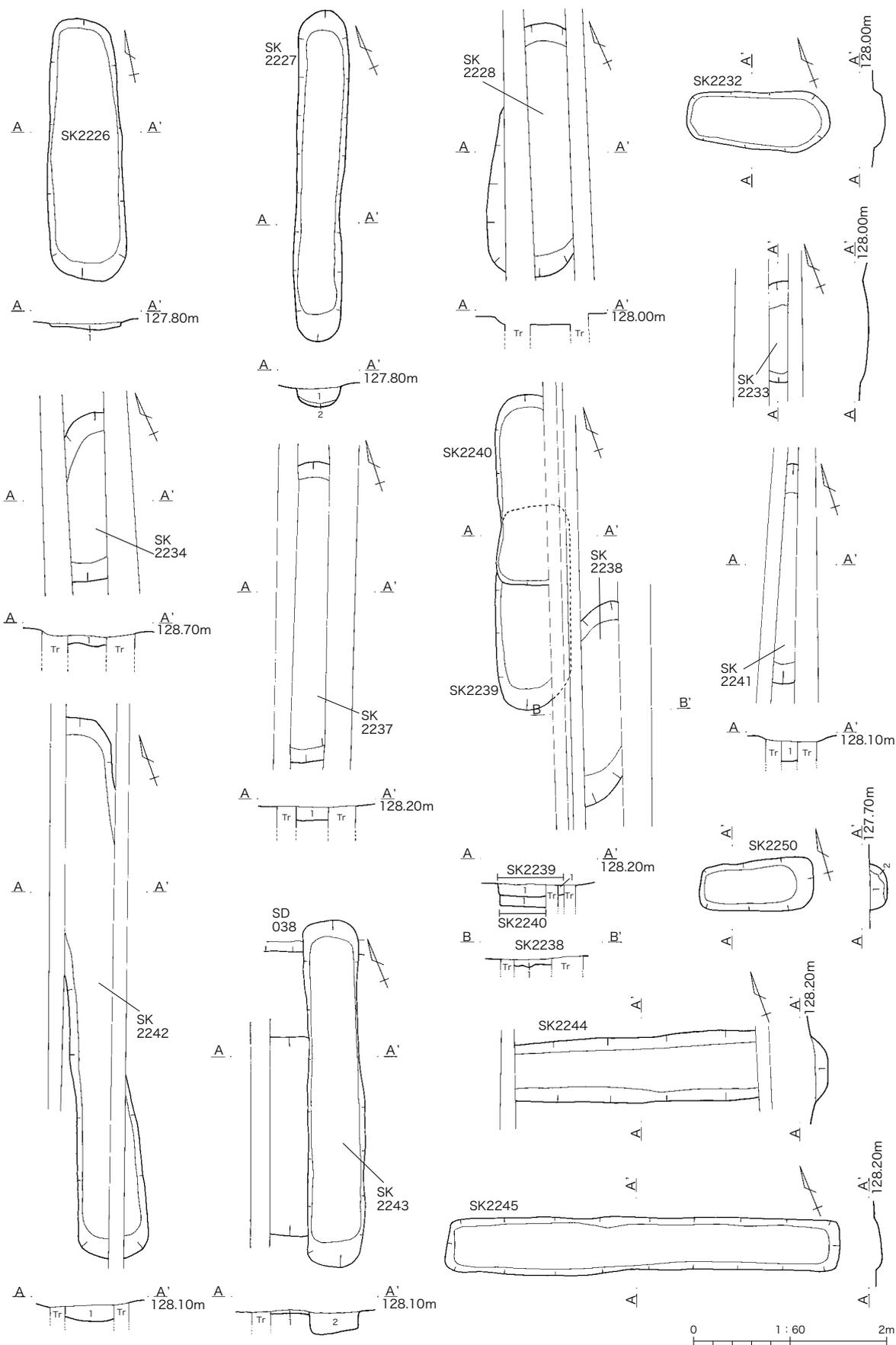
第236図 土坑(101) SK2171~2174・2176・2177・2180・2183~2188・2209・2247・2248・2251・2253



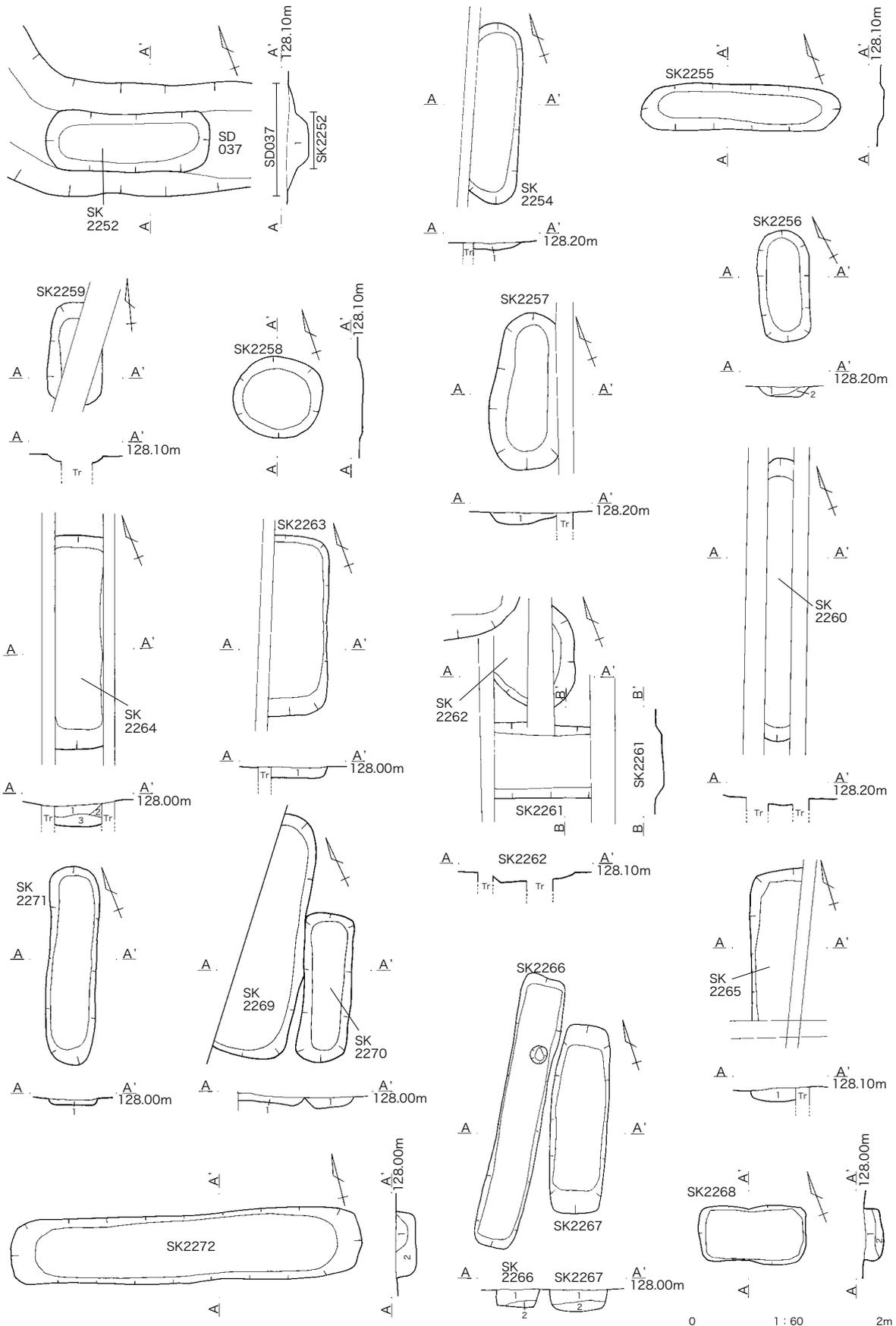
第237图 土坑 (102) SK2189~2192 · 2194 · 2197~2204 · 2206 · 2207



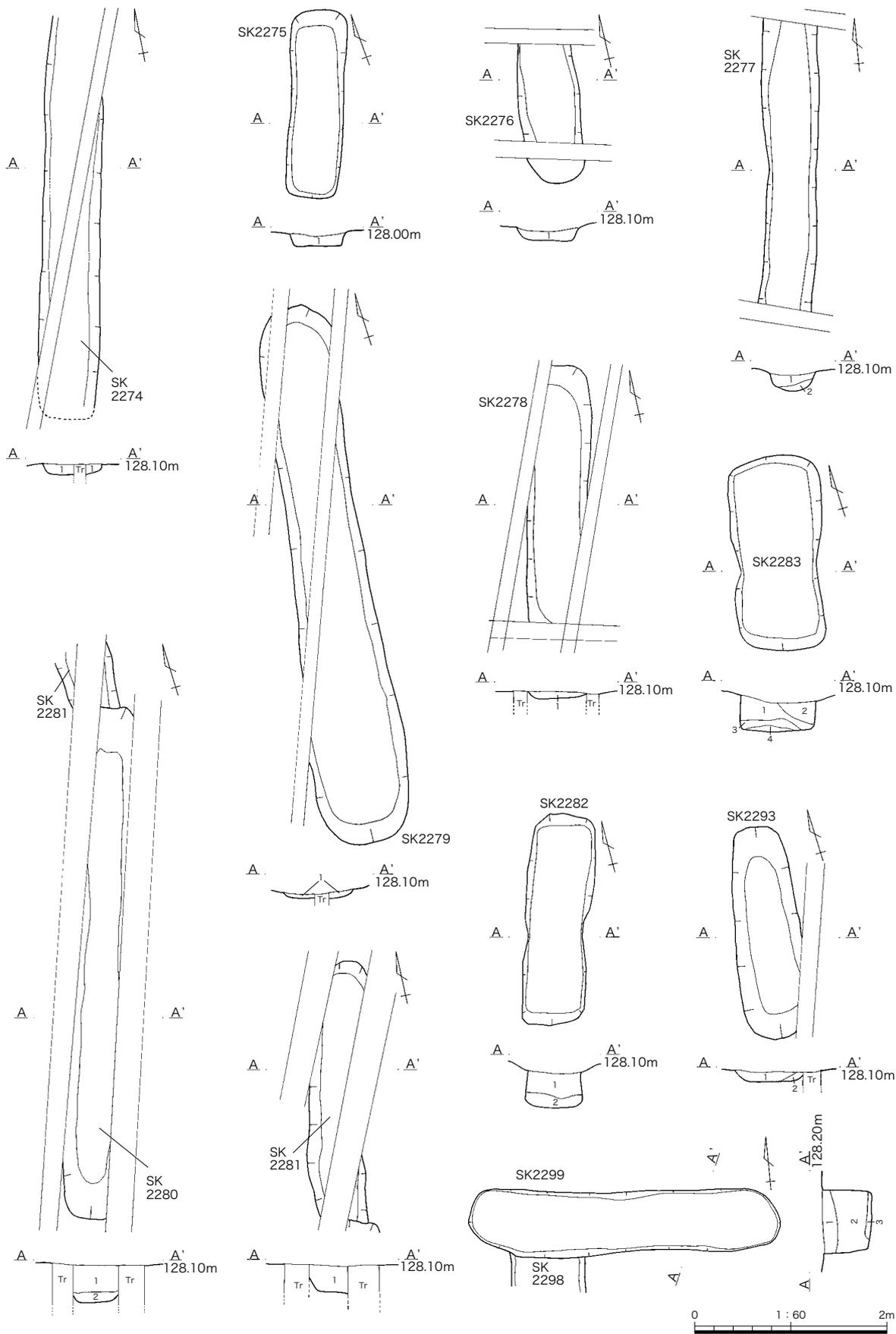
第238図 土坑(103) SK2205・2208・2210・2211・2214~2225・2229~2231



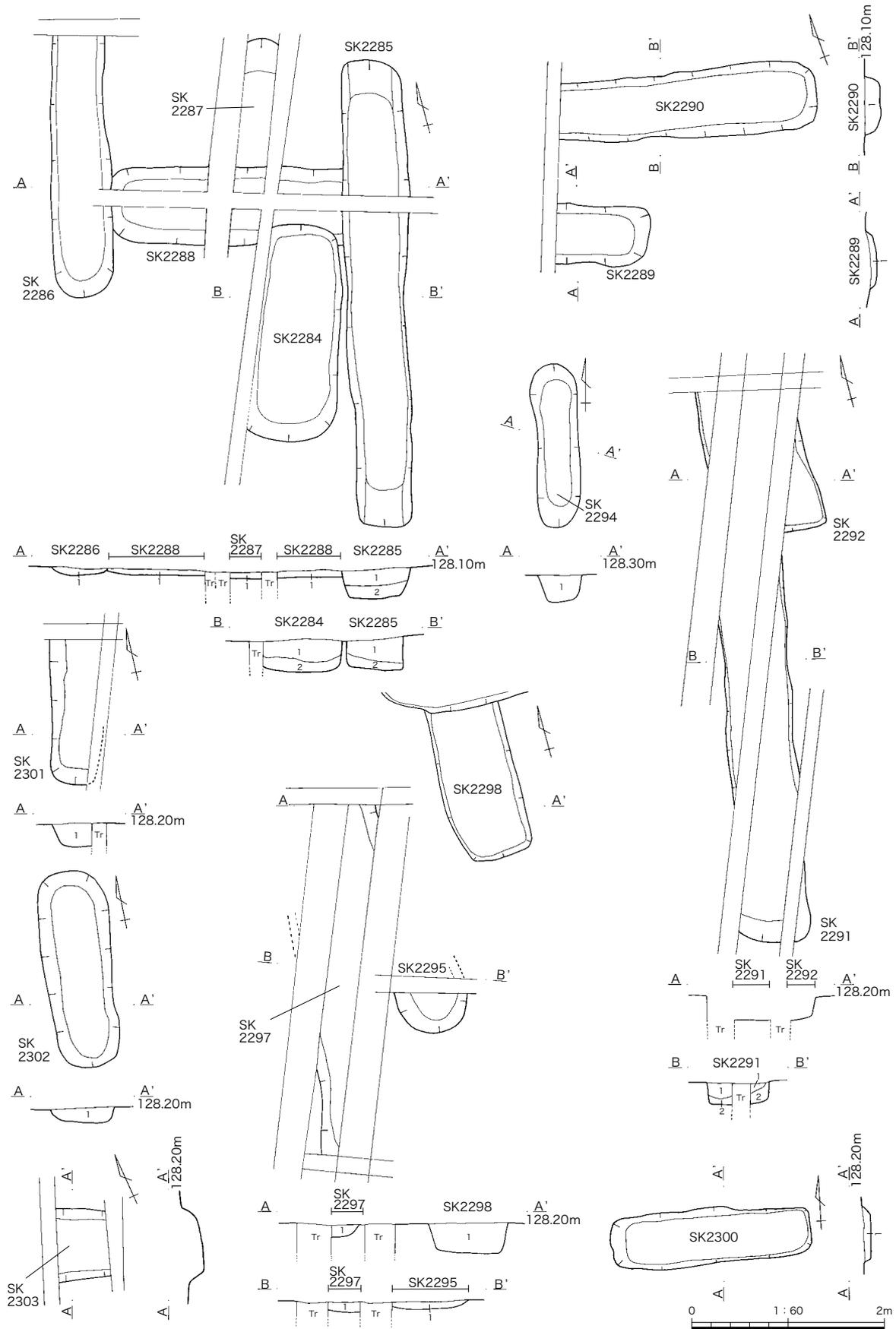
第239図 土坑 (104) SK2226~2228・2232~2234・2237~2245・2250



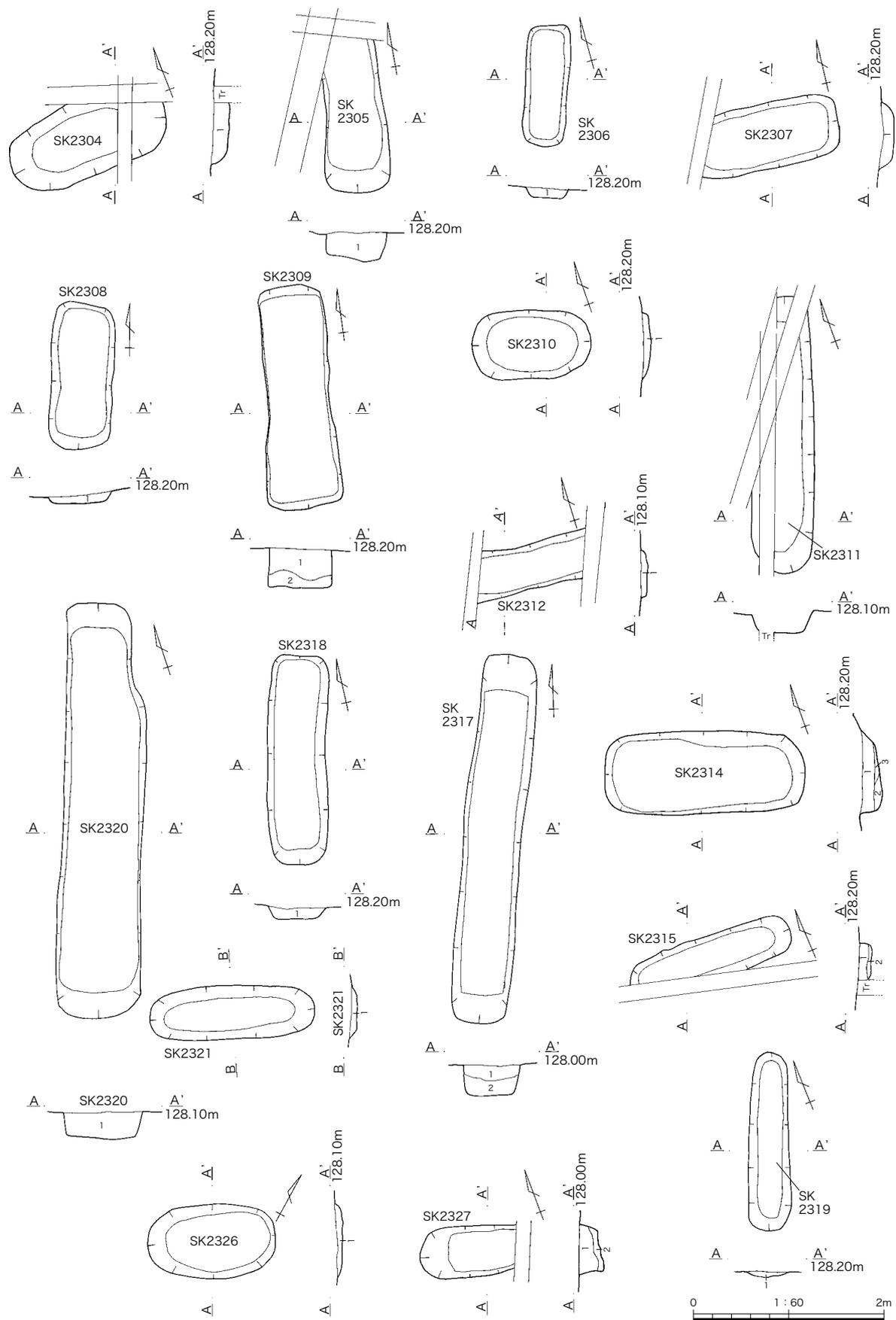
第240図 土坑 (105) SK2252・2254~2272



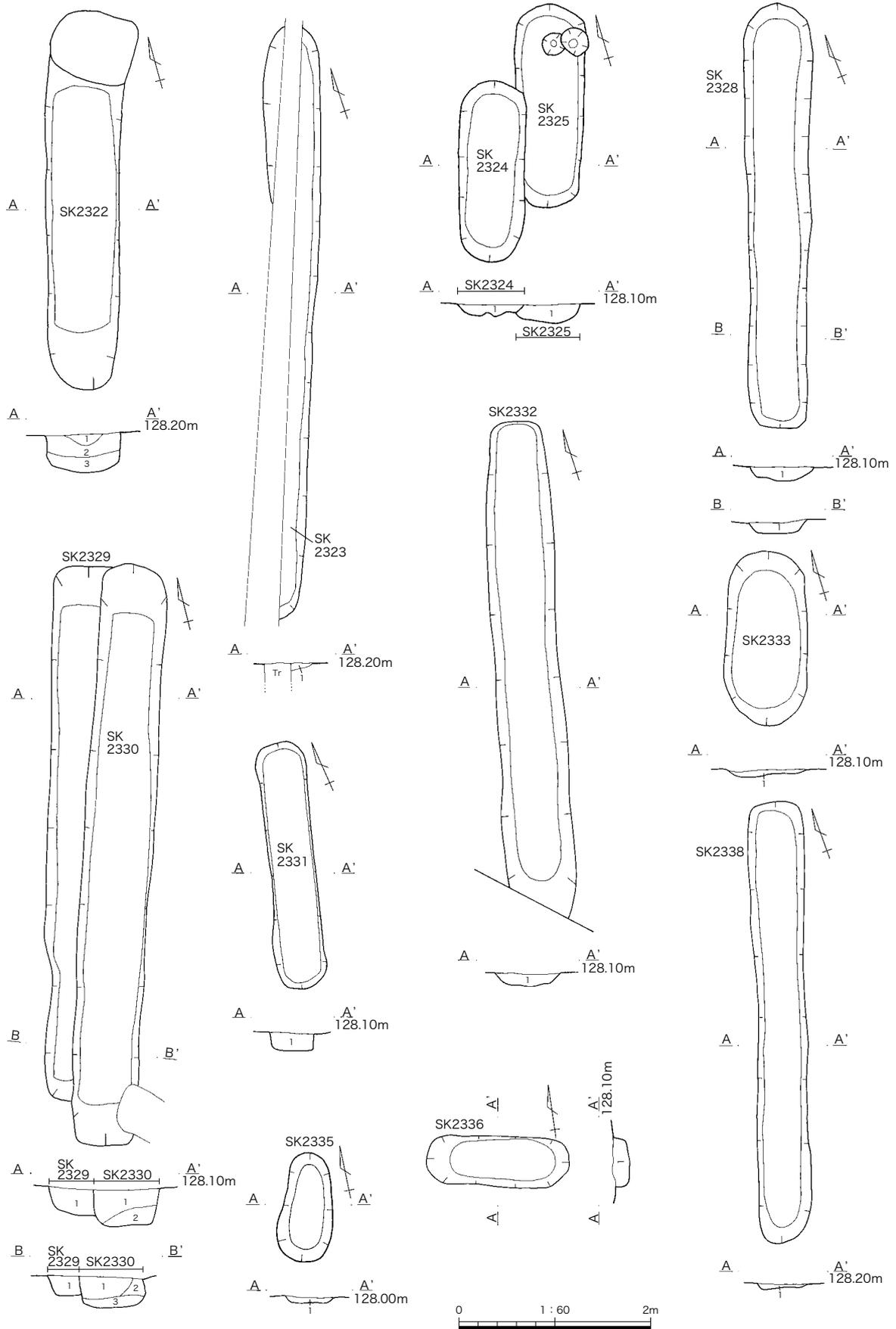
第241図 土坑 (106) SK2274~2283・2293・2299



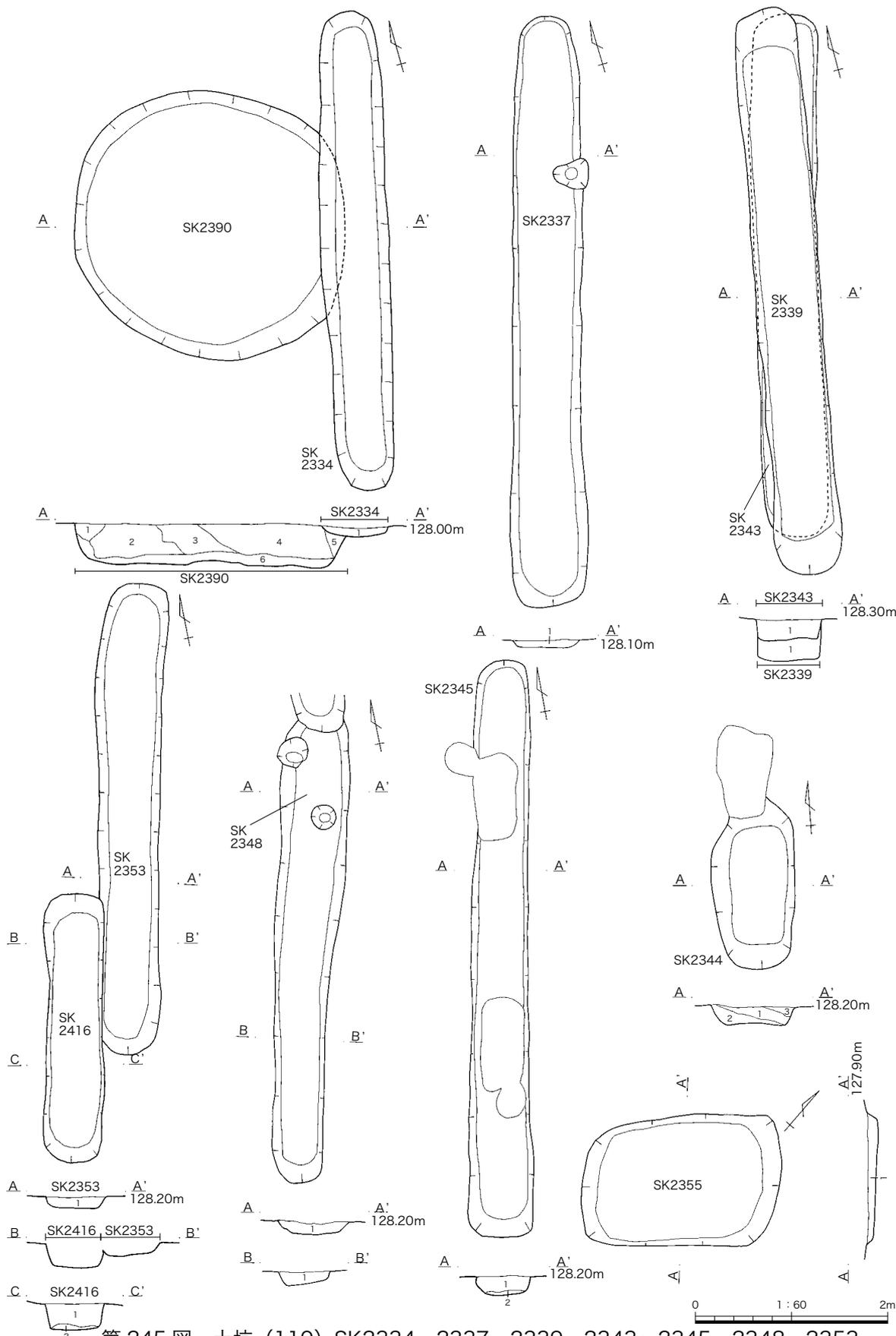
第242図 土坑(107) SK2284~2292・2294・2295・2297・2298・2300~2303



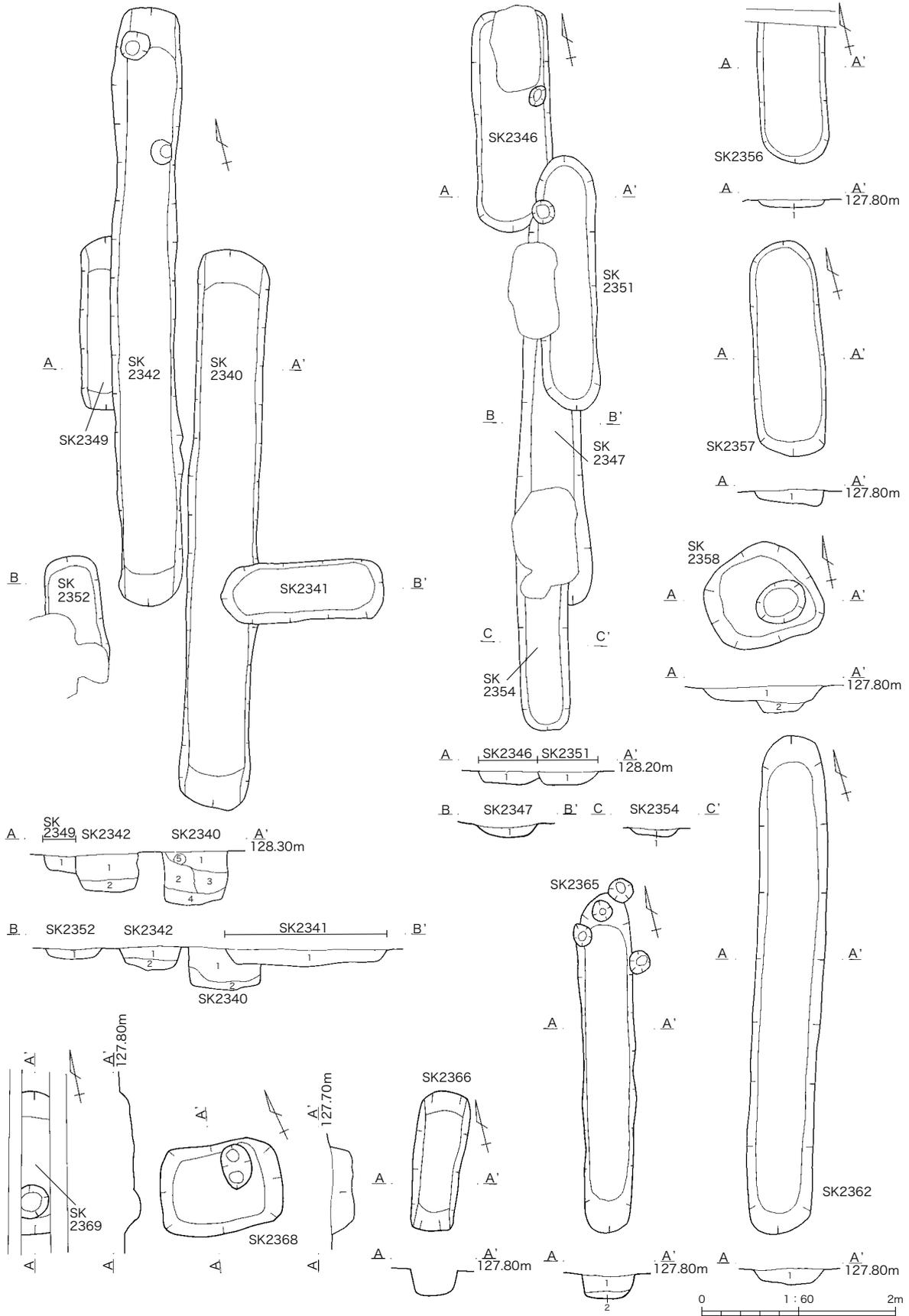
第243圖 土坑 (108) SK2304~2312・2314・2315・2317~2321・2326・2327



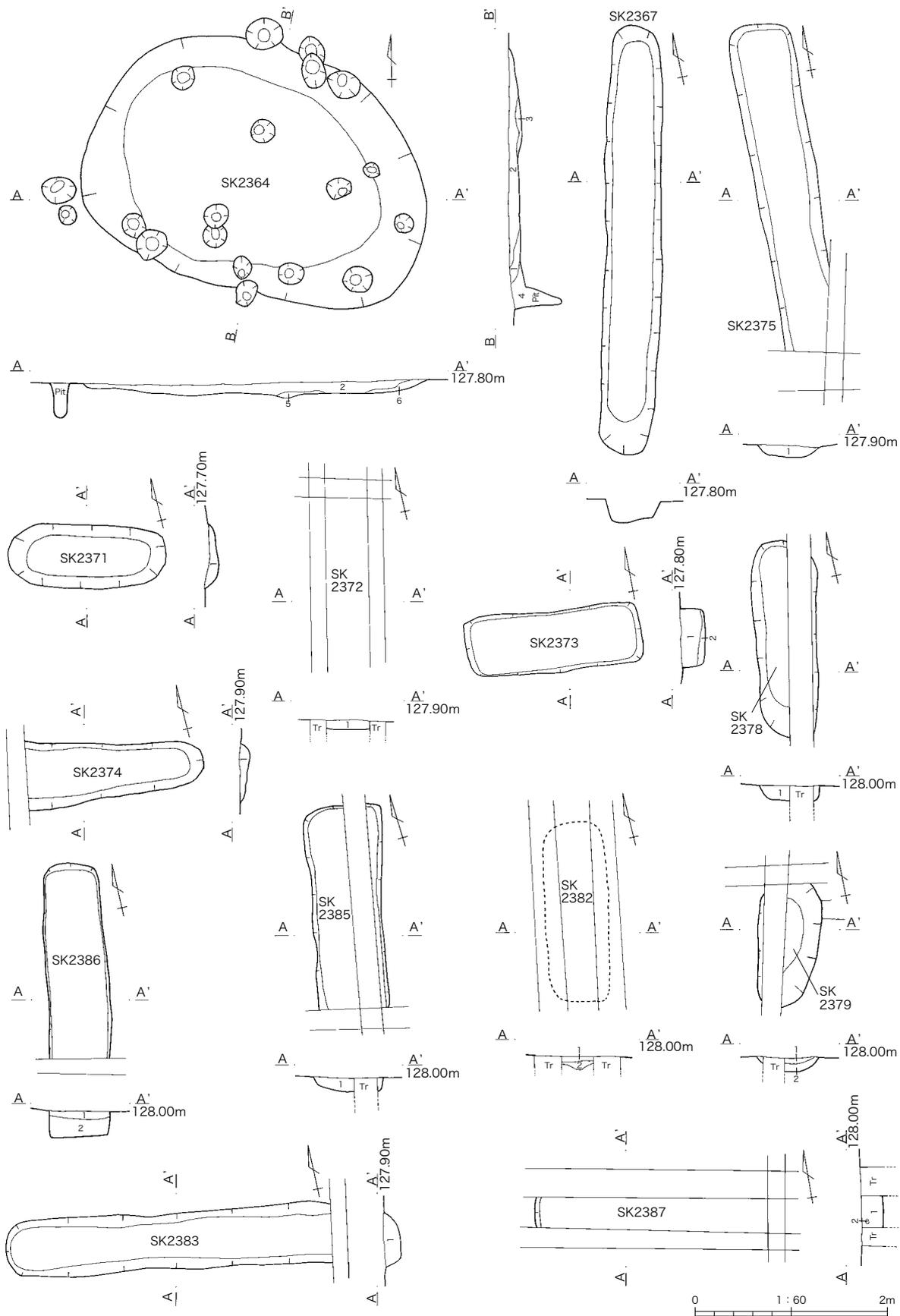
第244図 土坑 (109) SK2322~2325・2328~2333・2335・2336・2338



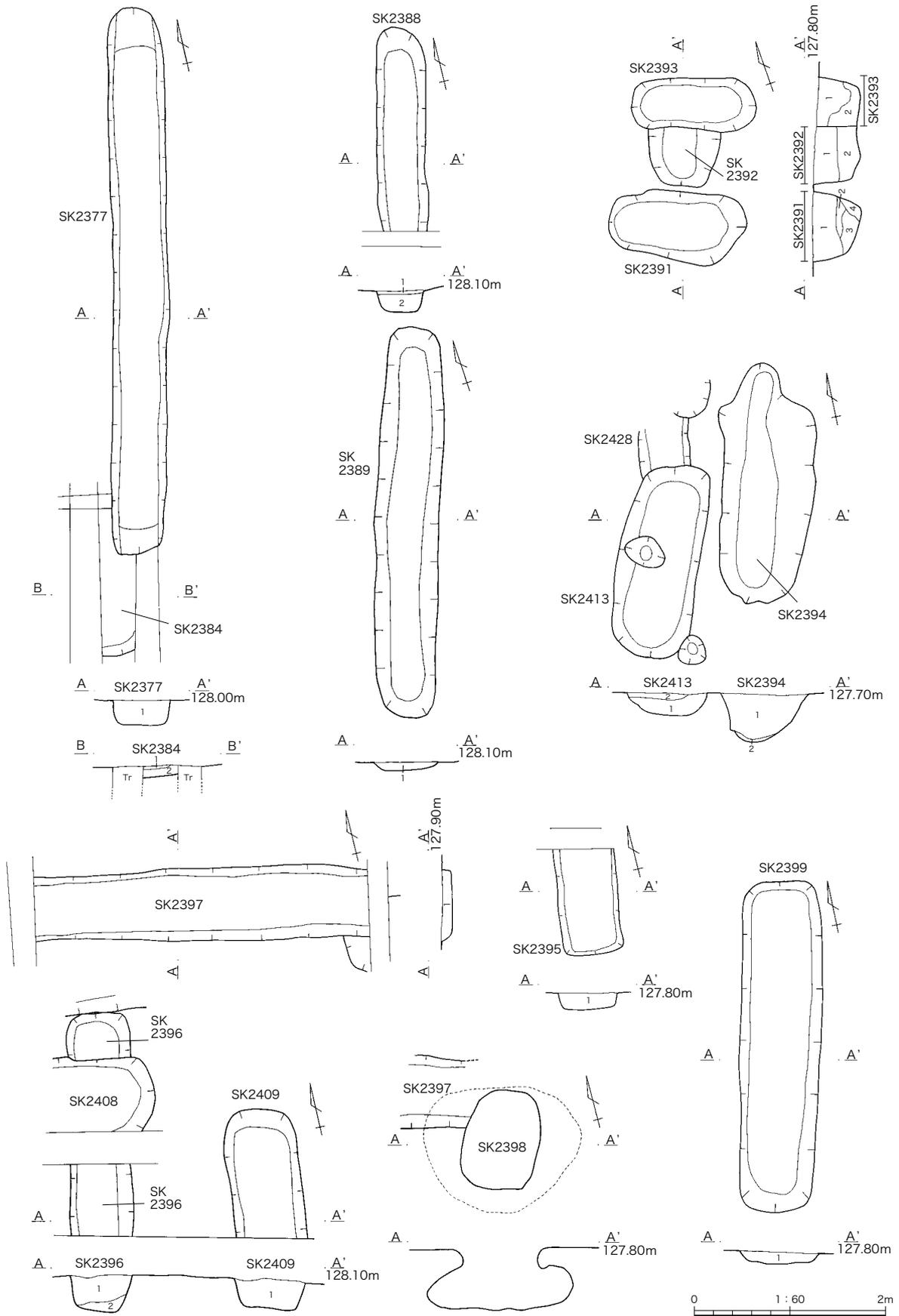
第245圖 土坑 (110) SK2334・2337・2339・2343~2345・2348・2353・2355・2390・2416



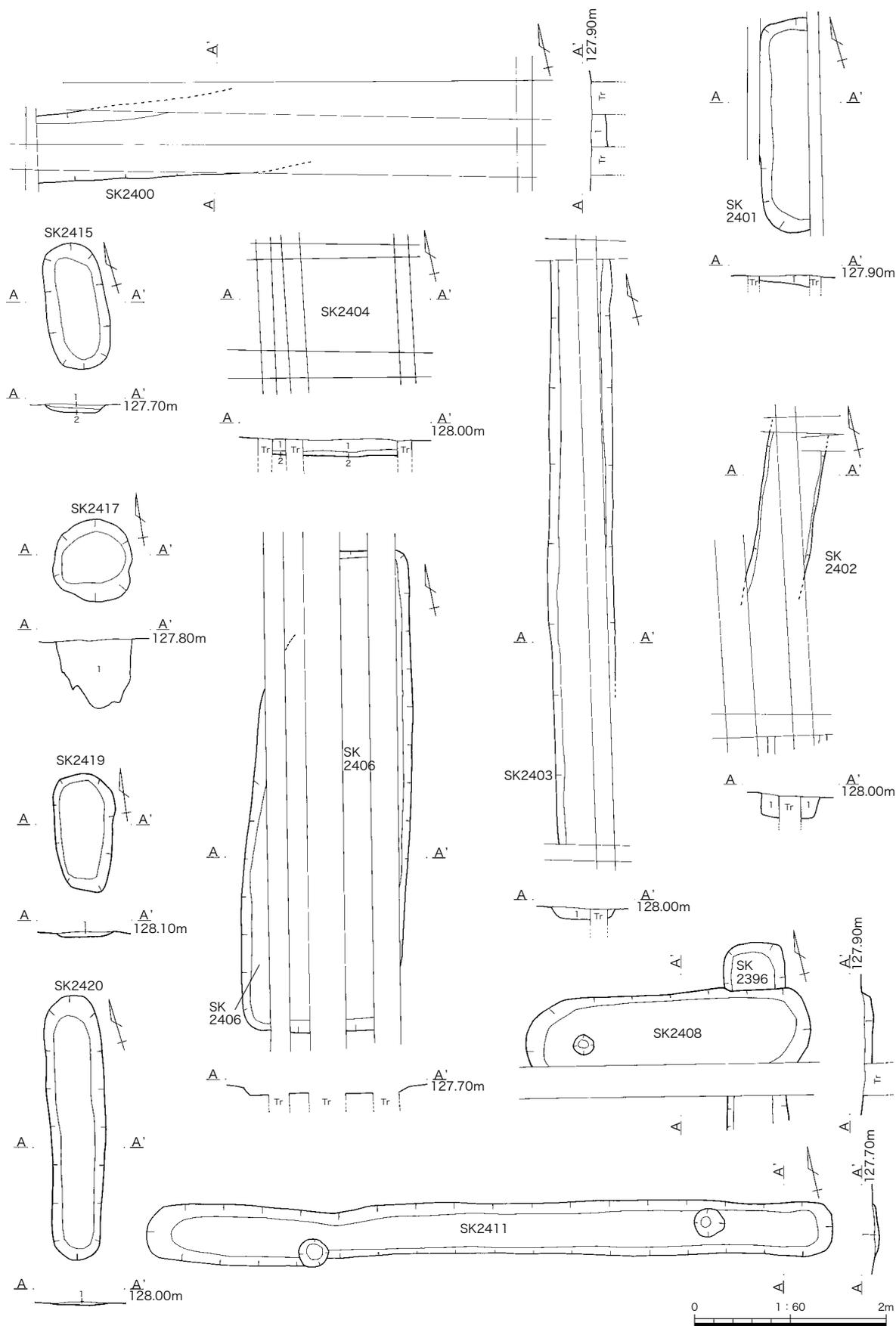
第246図 土坑(111) SK2340~2342・2346・2347・2349・2351・2352・2354・2356~2358・2362・2365・2366・2368・2369



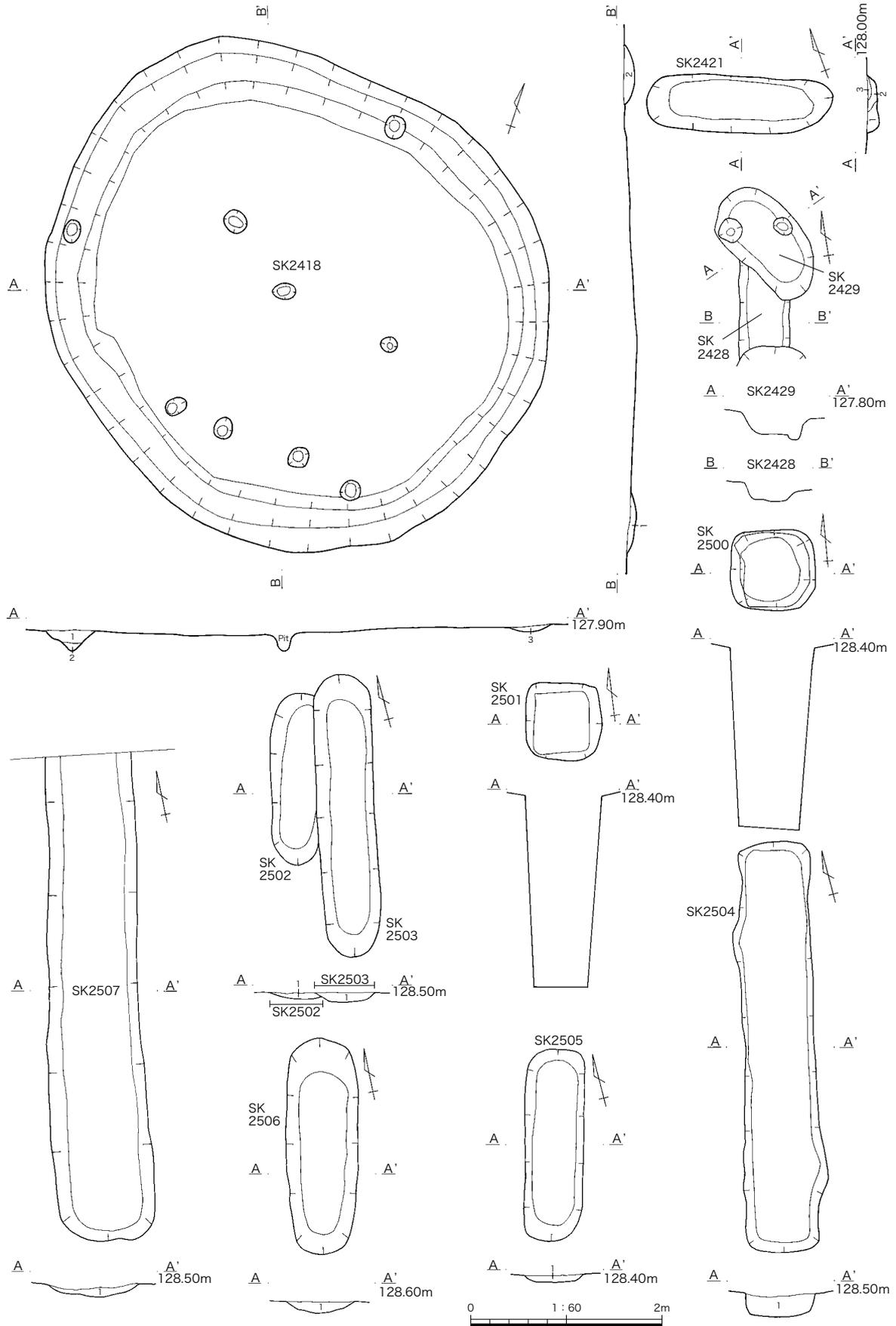
第247図 土坑 (112) SK2364・2367・2371~2375・2378・2379・2382・2383・2385~2387



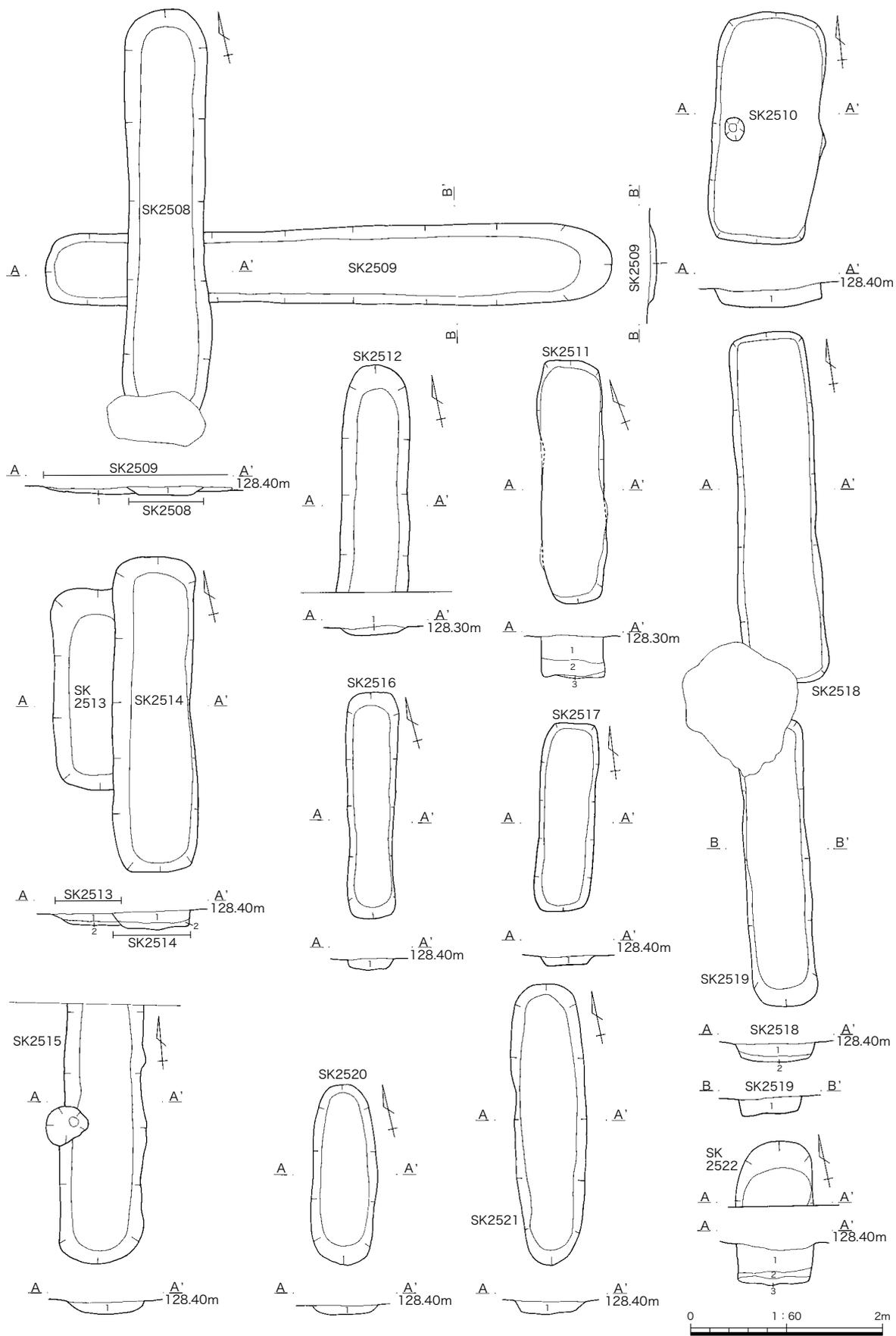
第248図 土坑(113) SK2377・2384・2388・2389・2391~2399・2409・2413



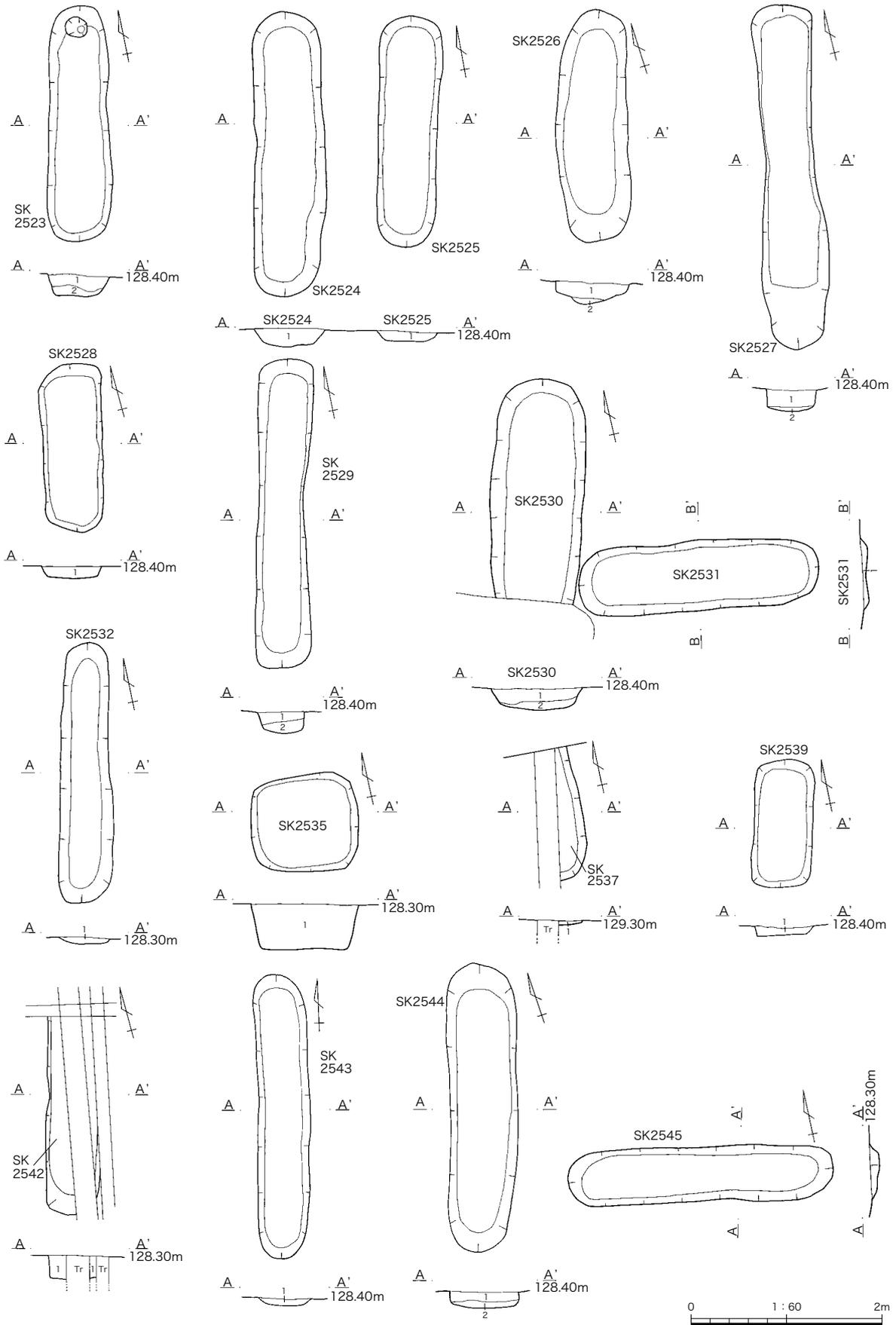
第249図 土坑 (114) SK2400~2404・2406・2408・2411・2415・2417・2419・2420



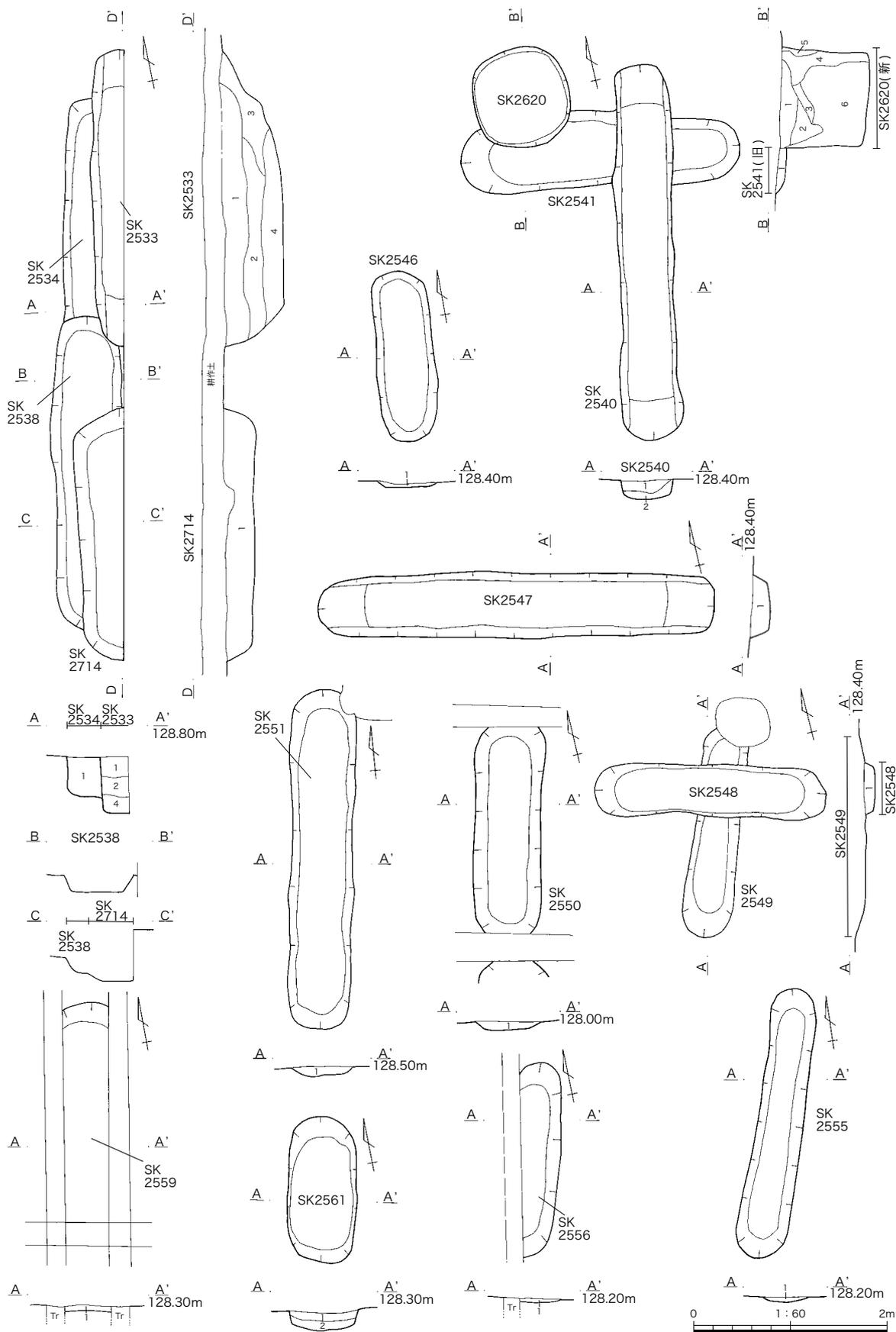
第250図 土坑 (115) SK2418・2421・2428・2429・2500~2507



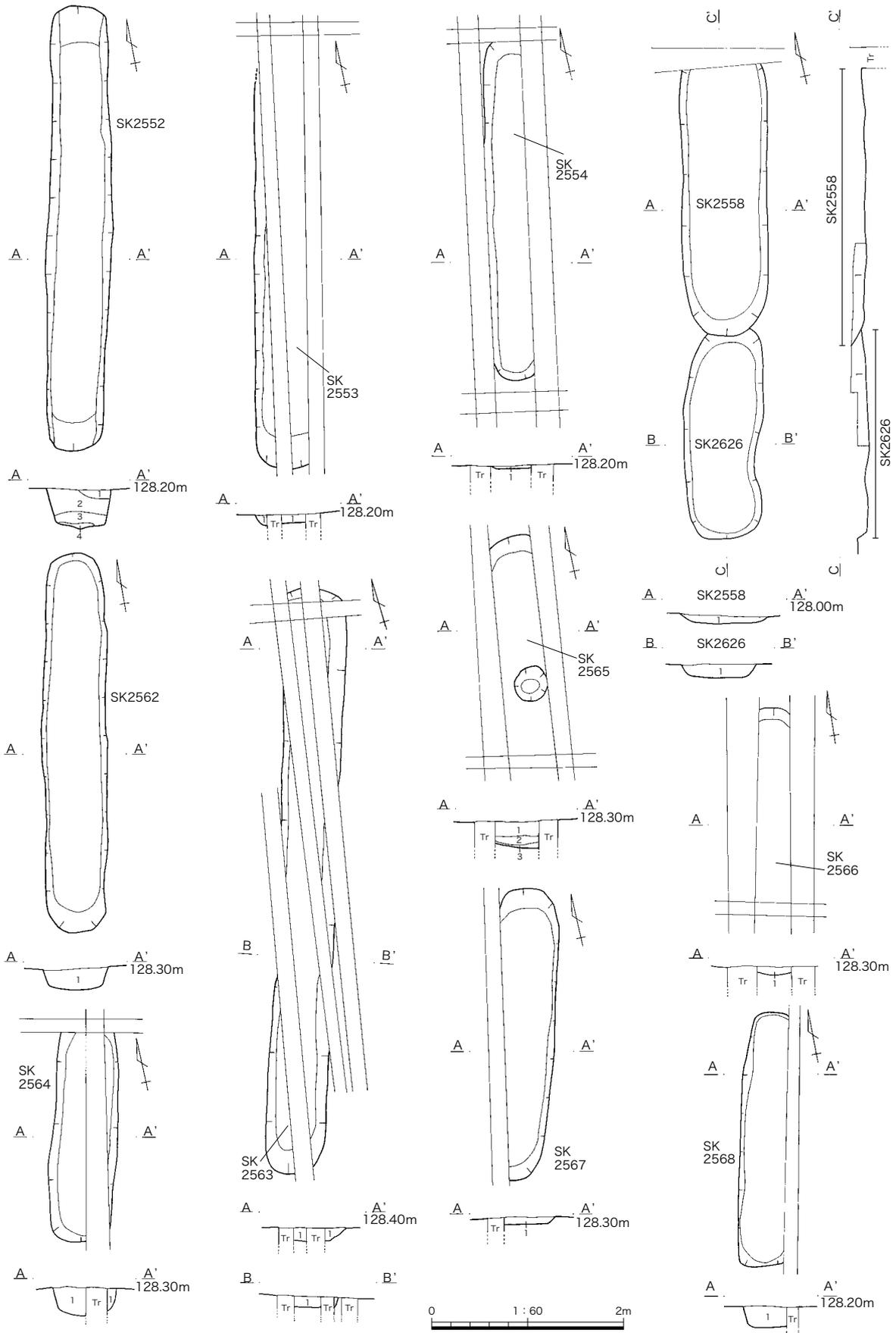
第251圖 土坑(116) SK2508~2522



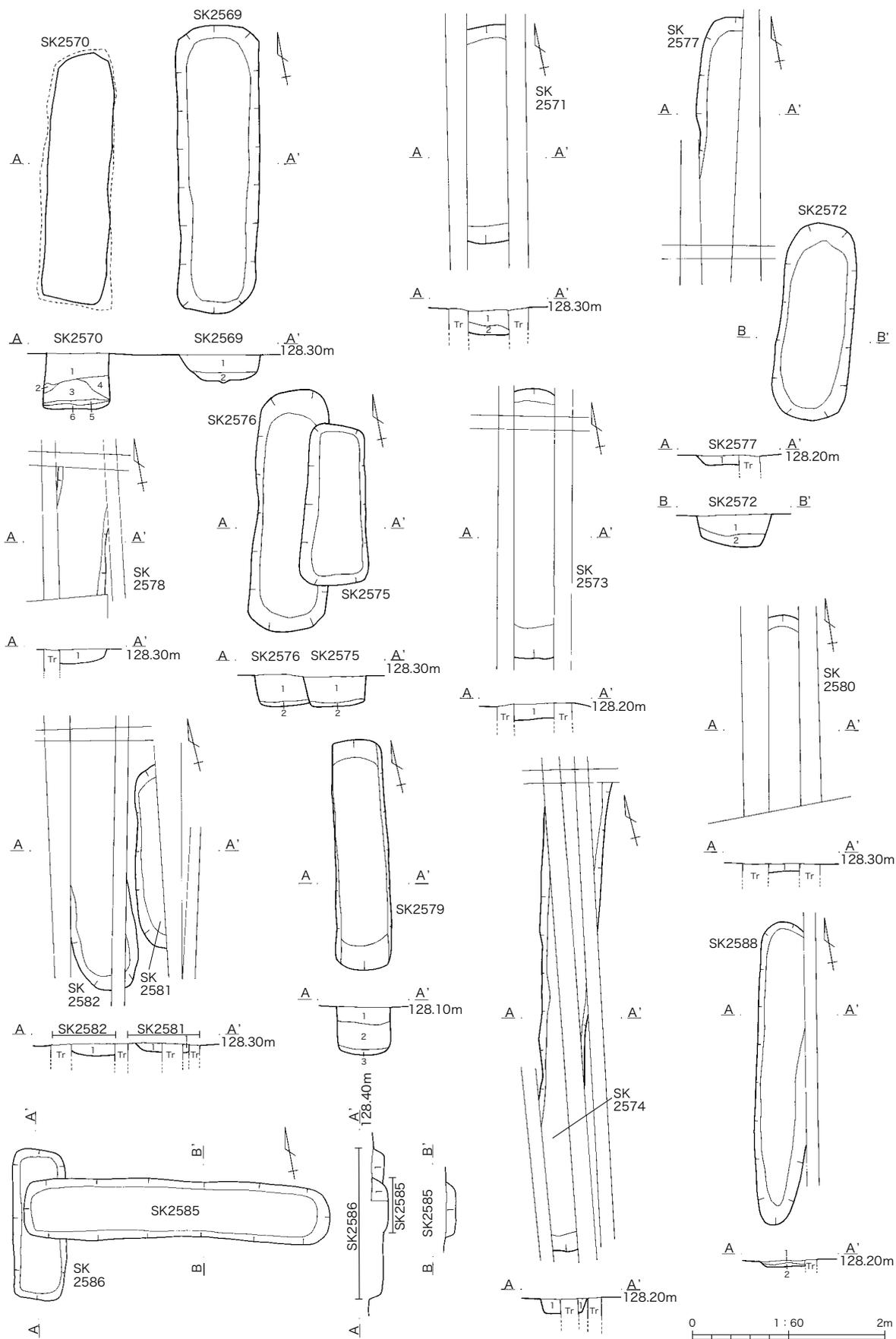
第252図 土坑(117) SK2523~2532・2535・2537・2539・2542~2545



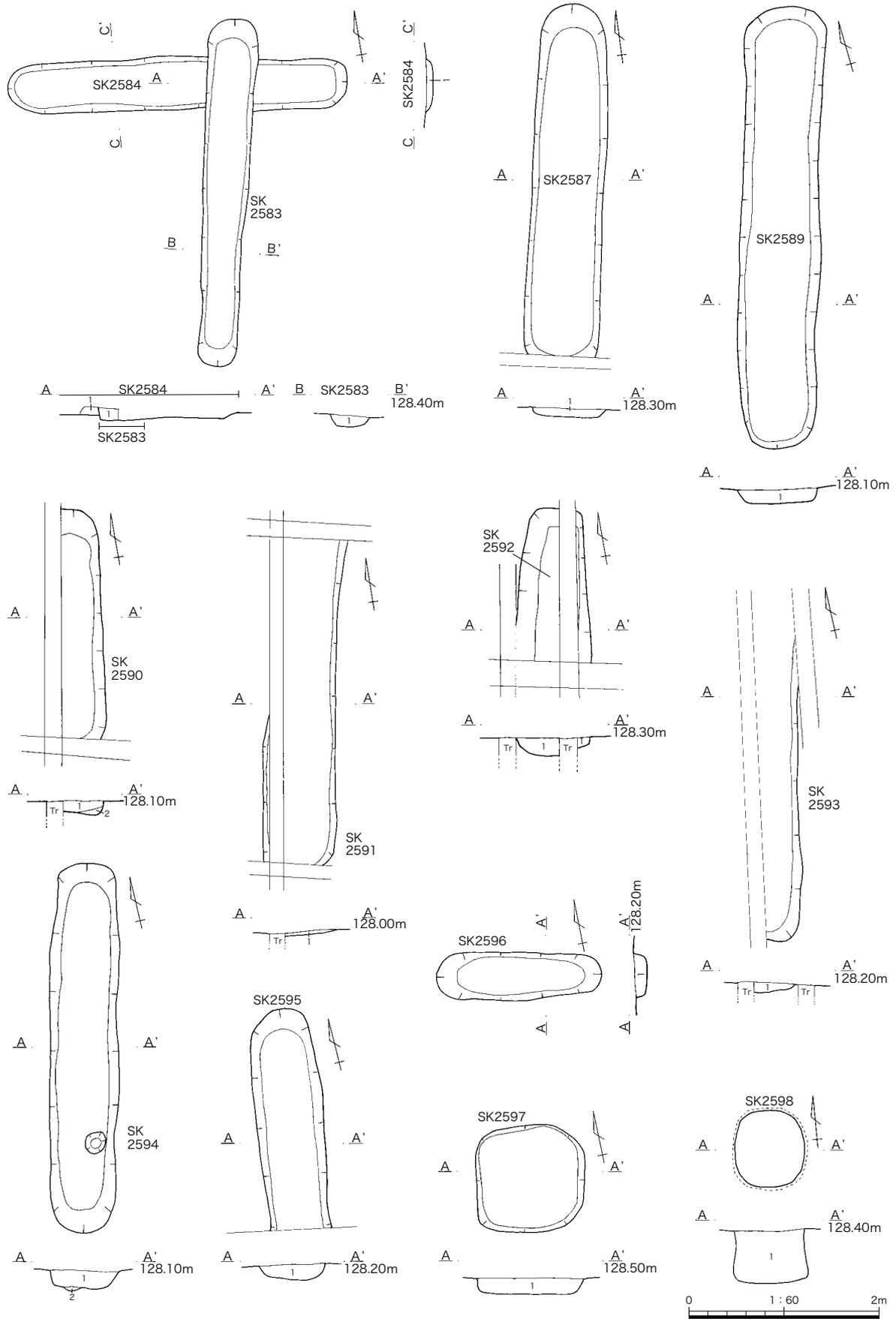
第253圖 土坑(118) SK2533・2534・2538・2540・2541・2546~2551・2555・2556・2559・2561・2620・2714



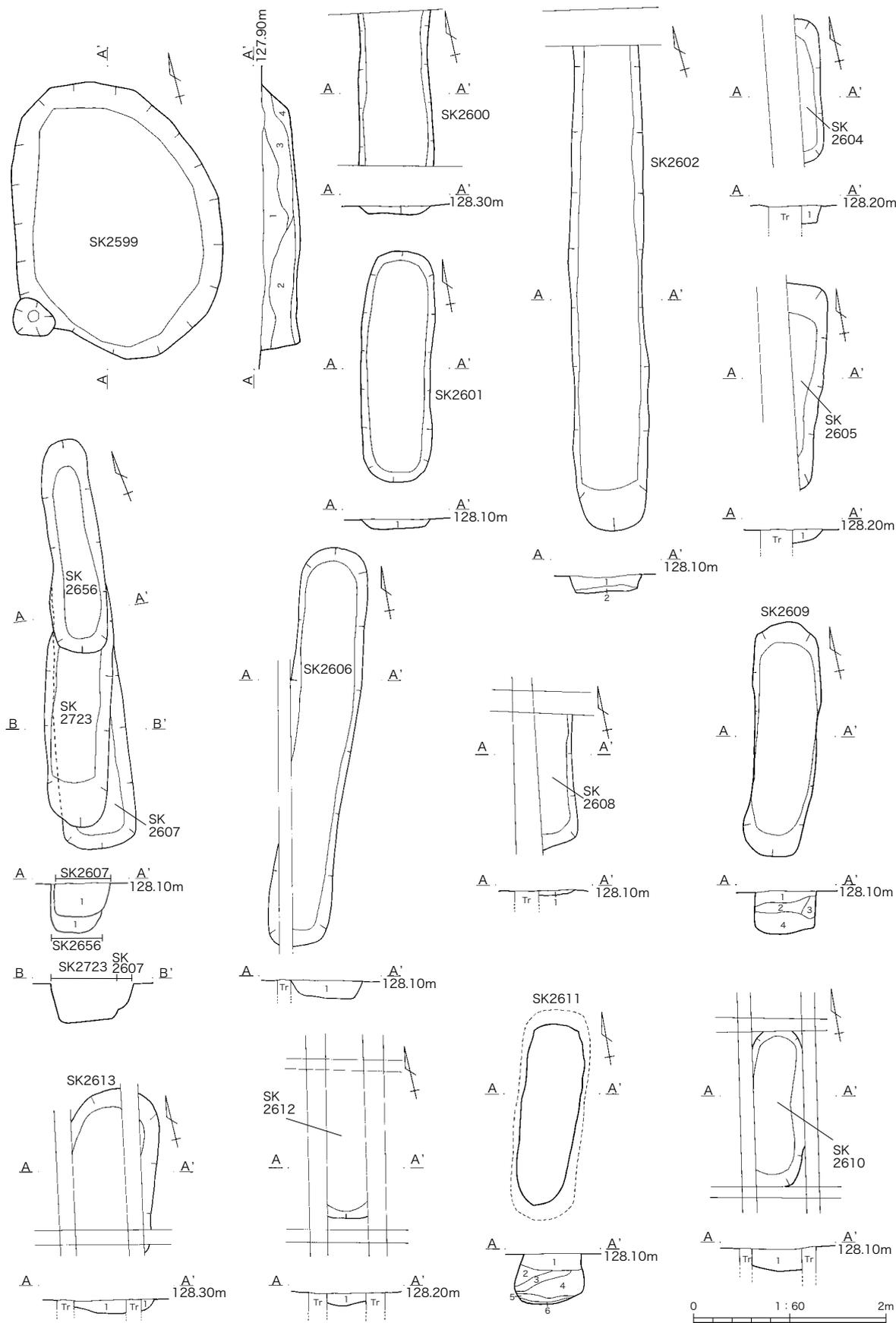
第254図 土坑 (119) SK2552~2554・2558・2562~2568・2626



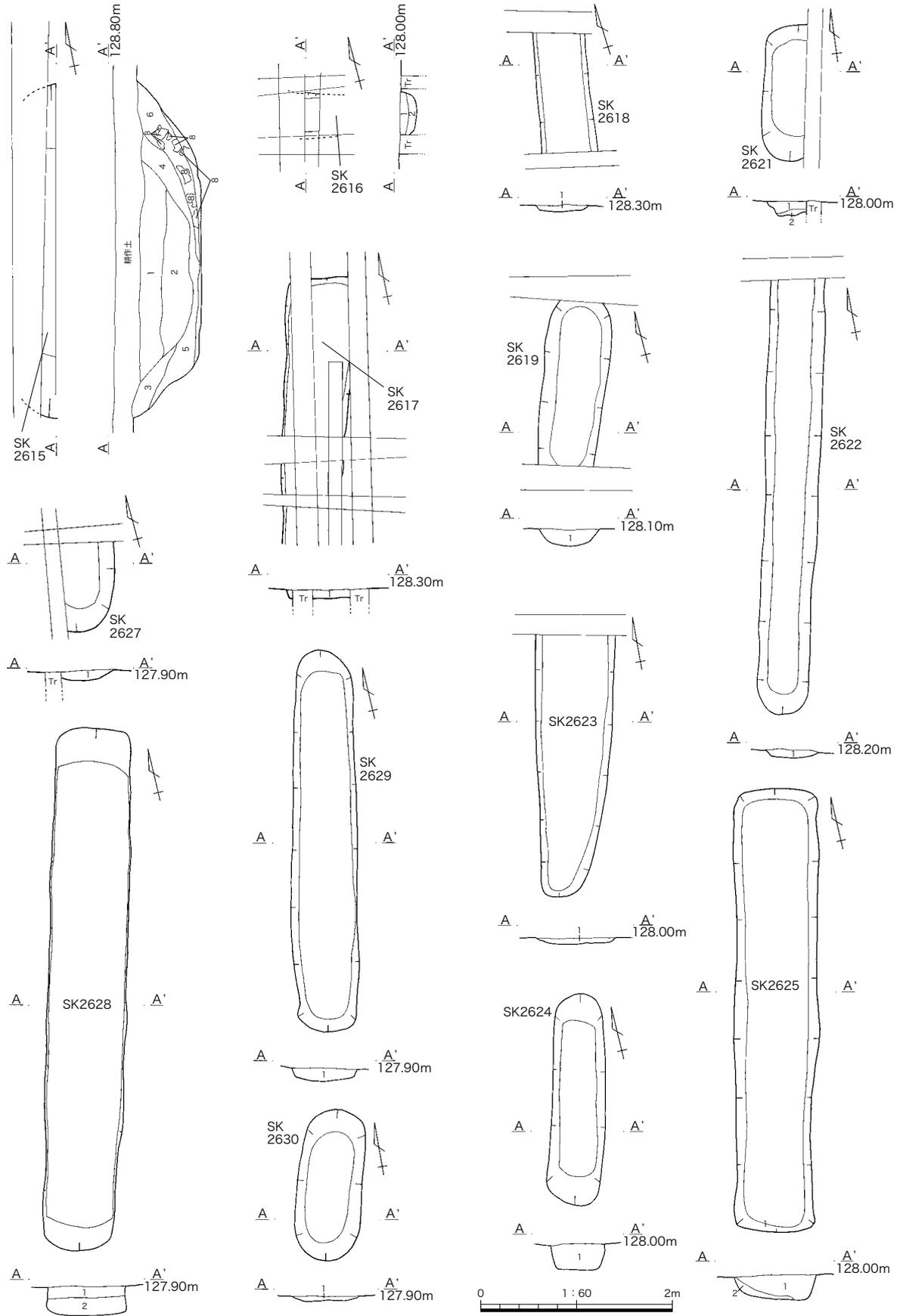
第255圖 土坑 (120) SK2569~2582・2585・2586・2588



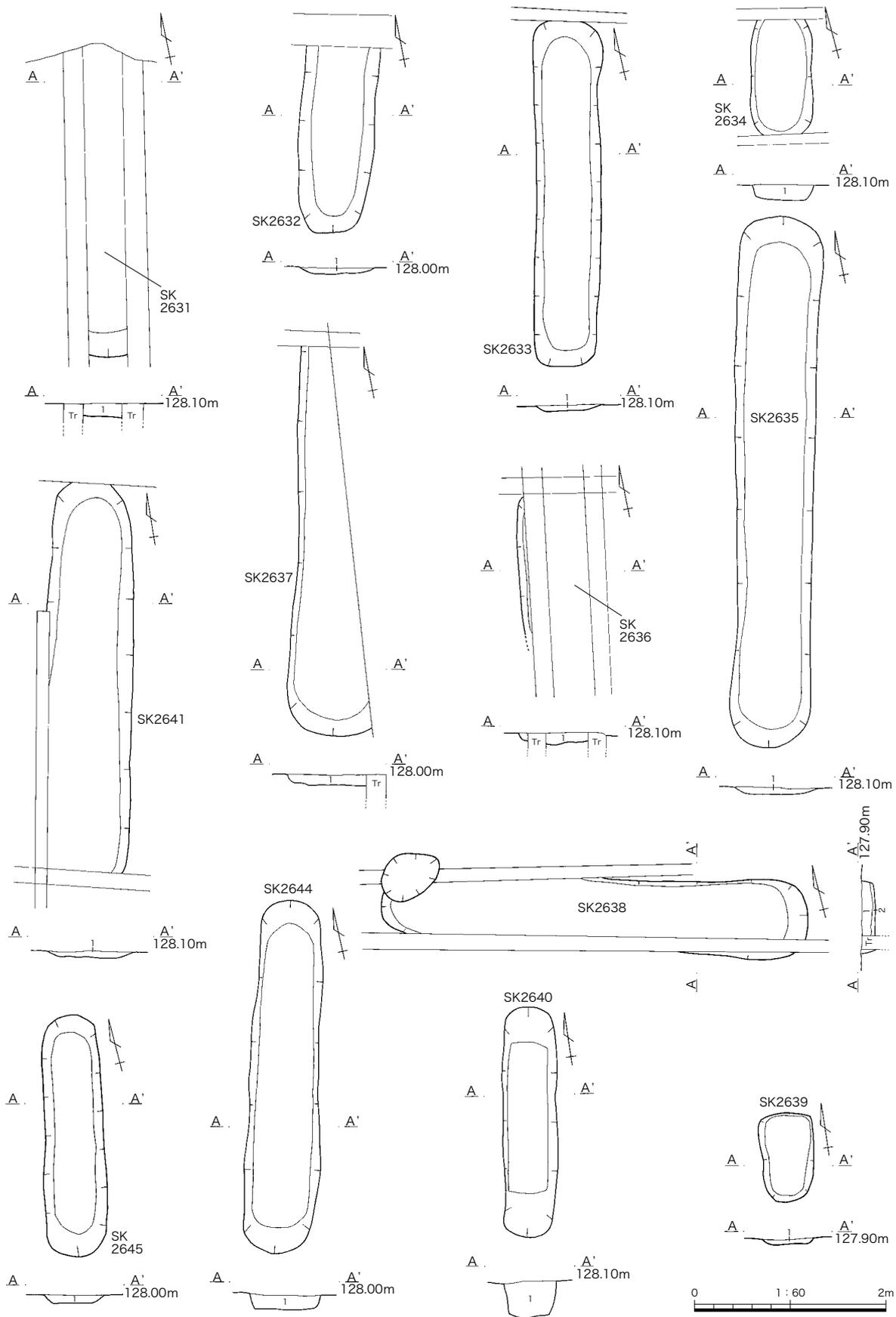
第256図 土坑 (121) SK2583・2584・2587・2589~2598



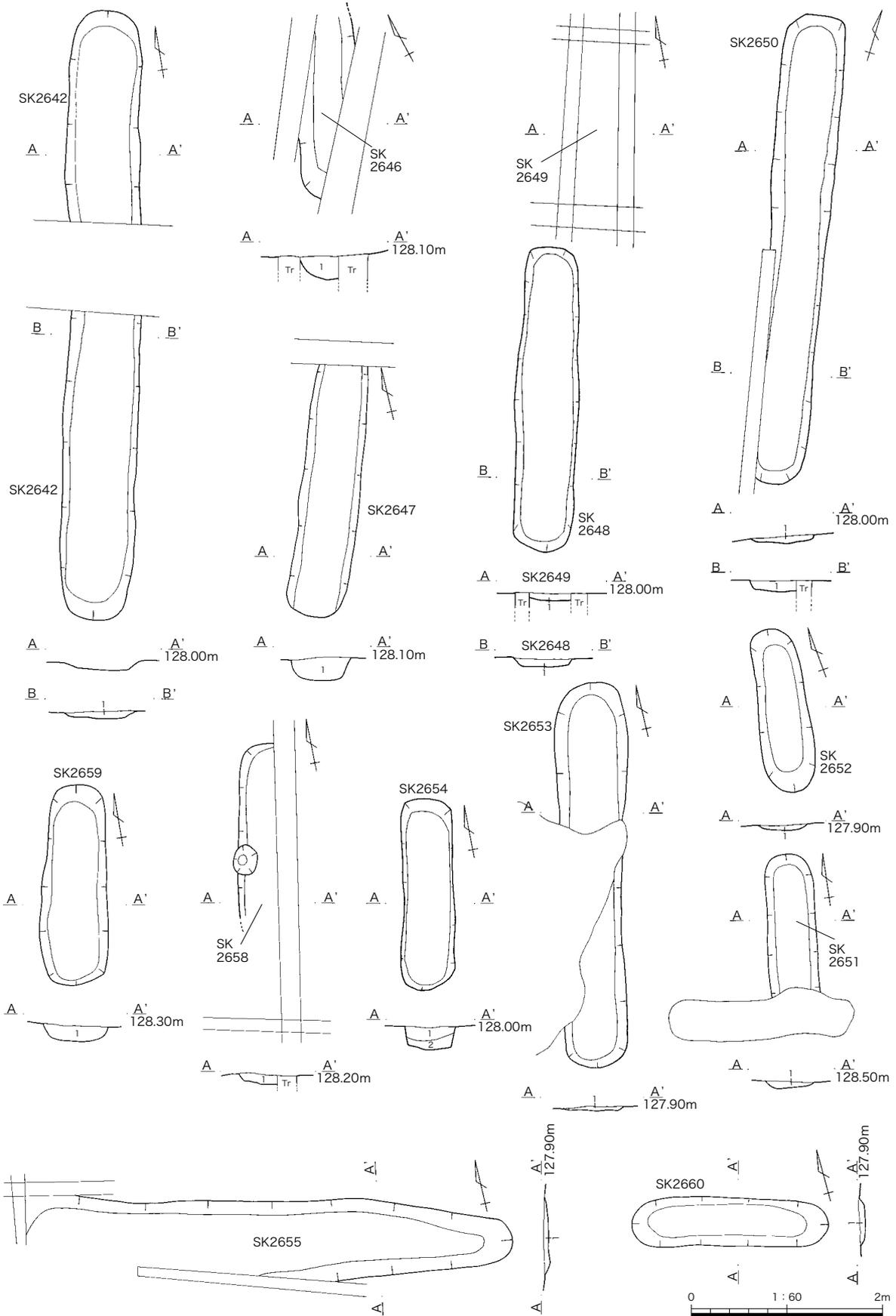
第257図 土坑 (122) SK2599~2602・2604~2613・2656・2723



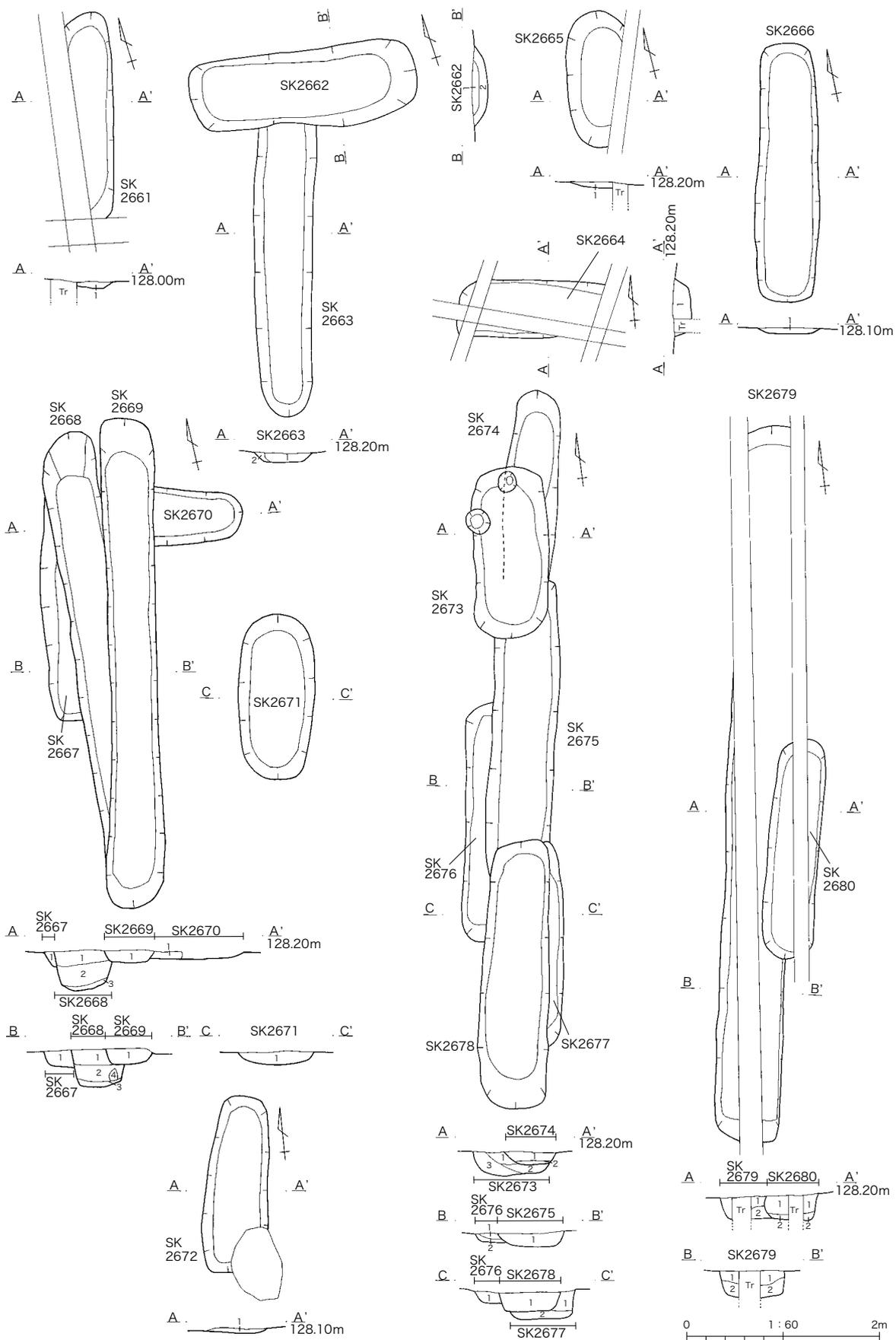
第258図 土坑(123) SK2615~2619・2621~2625・2627~2630



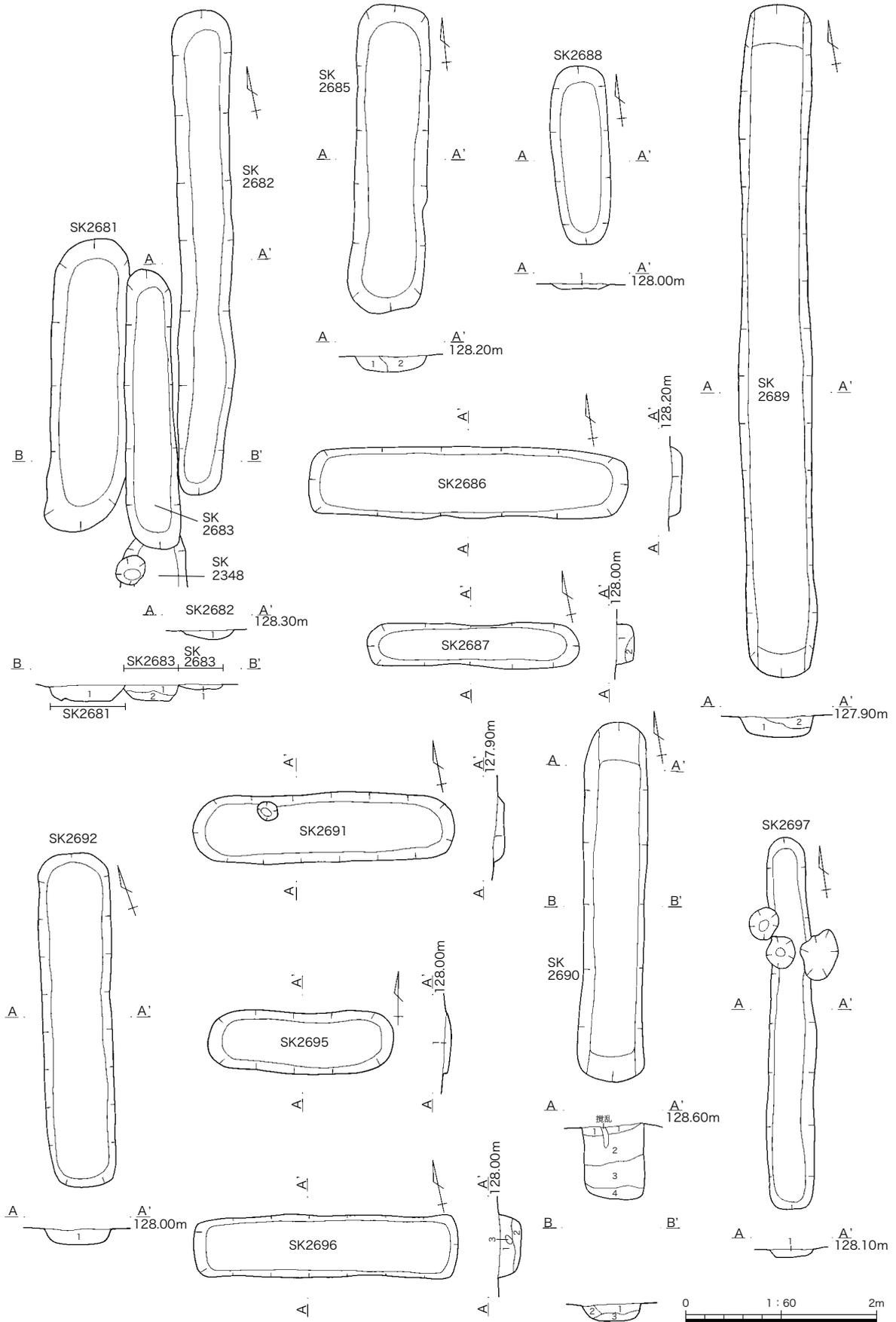
第259圖 土坑 (124) SK2631~2641・2644・2645



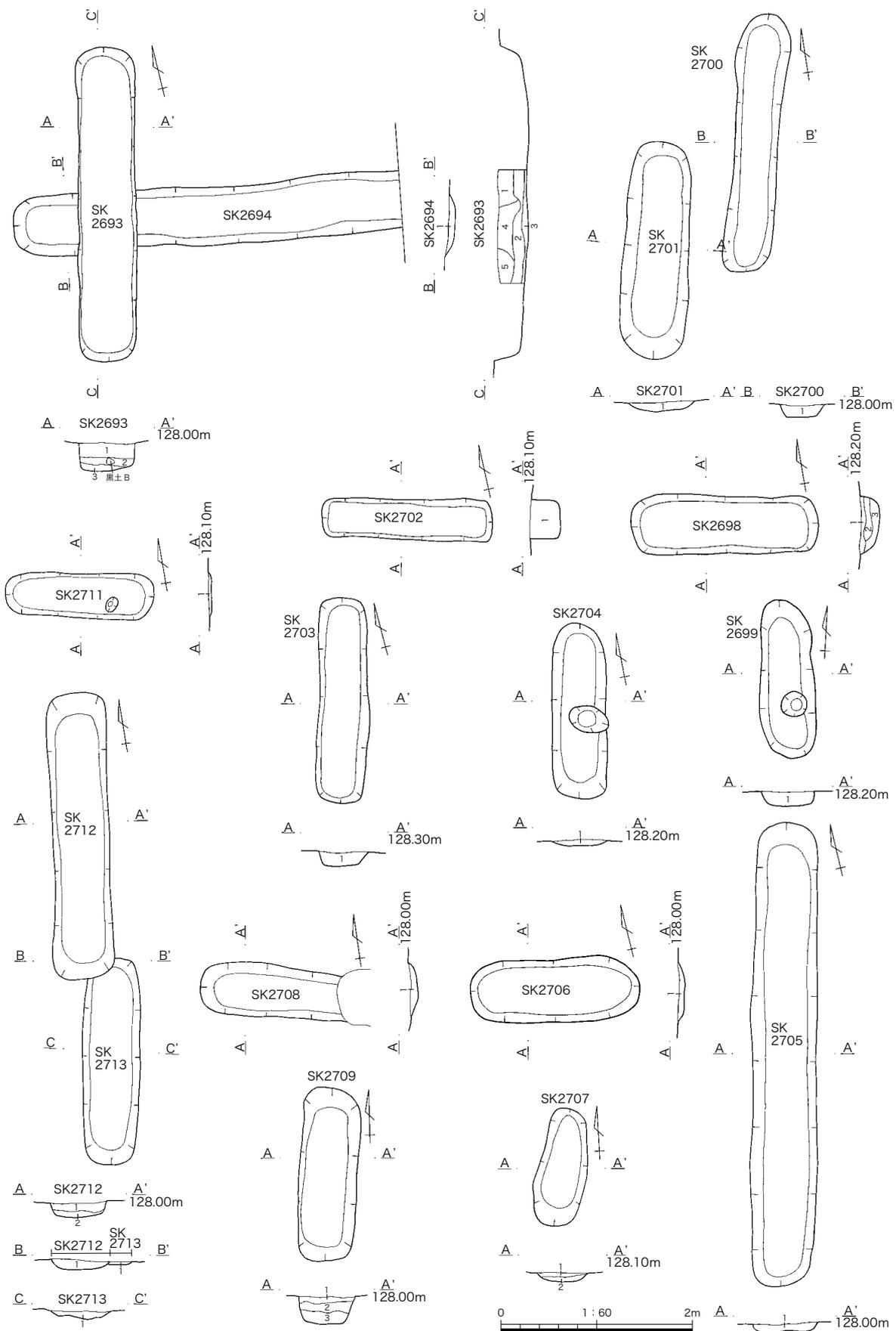
第260図 土坑 (125) SK2642・2646~2655・2658~2660



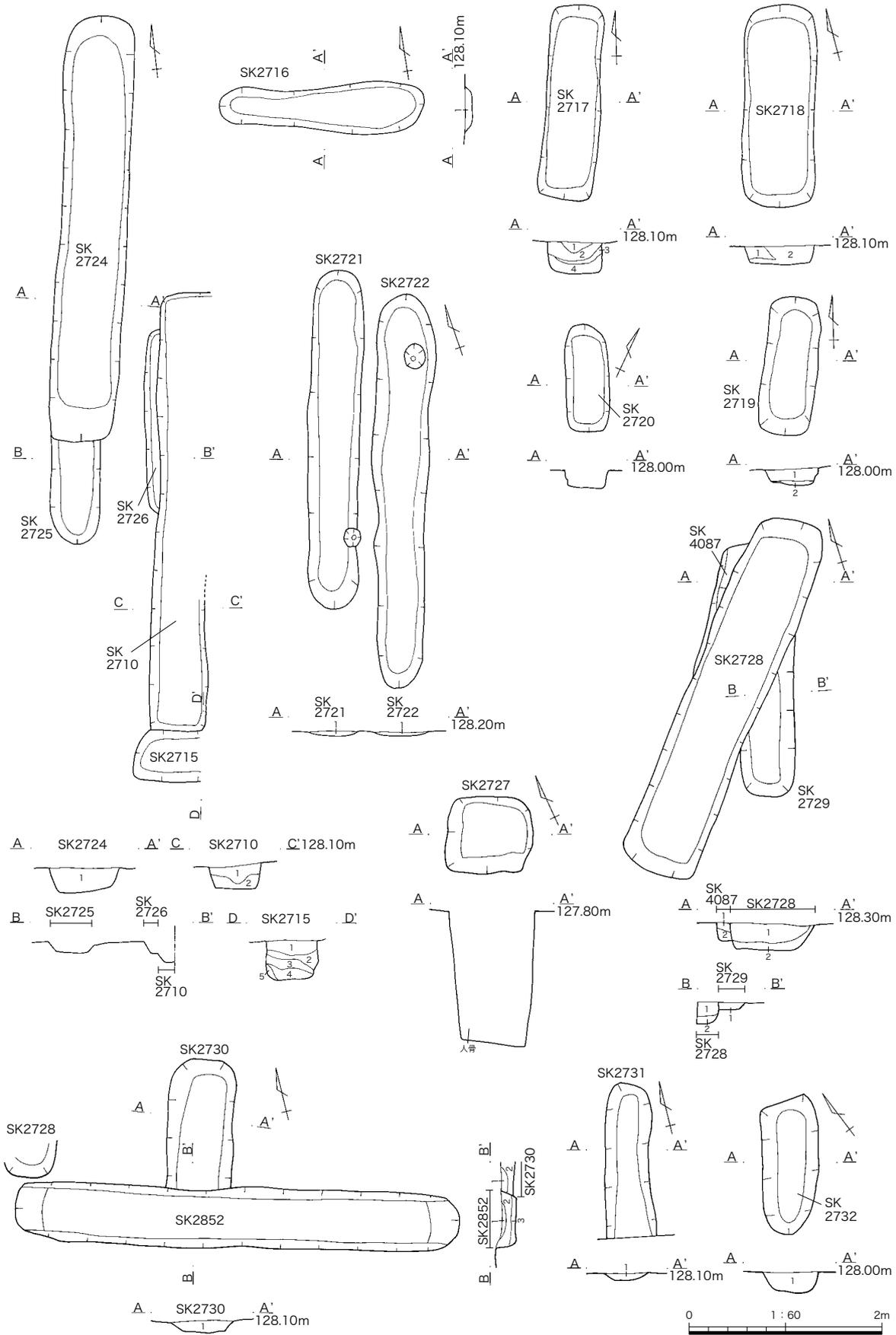
第261図 土坑 (126) SK2661~2680



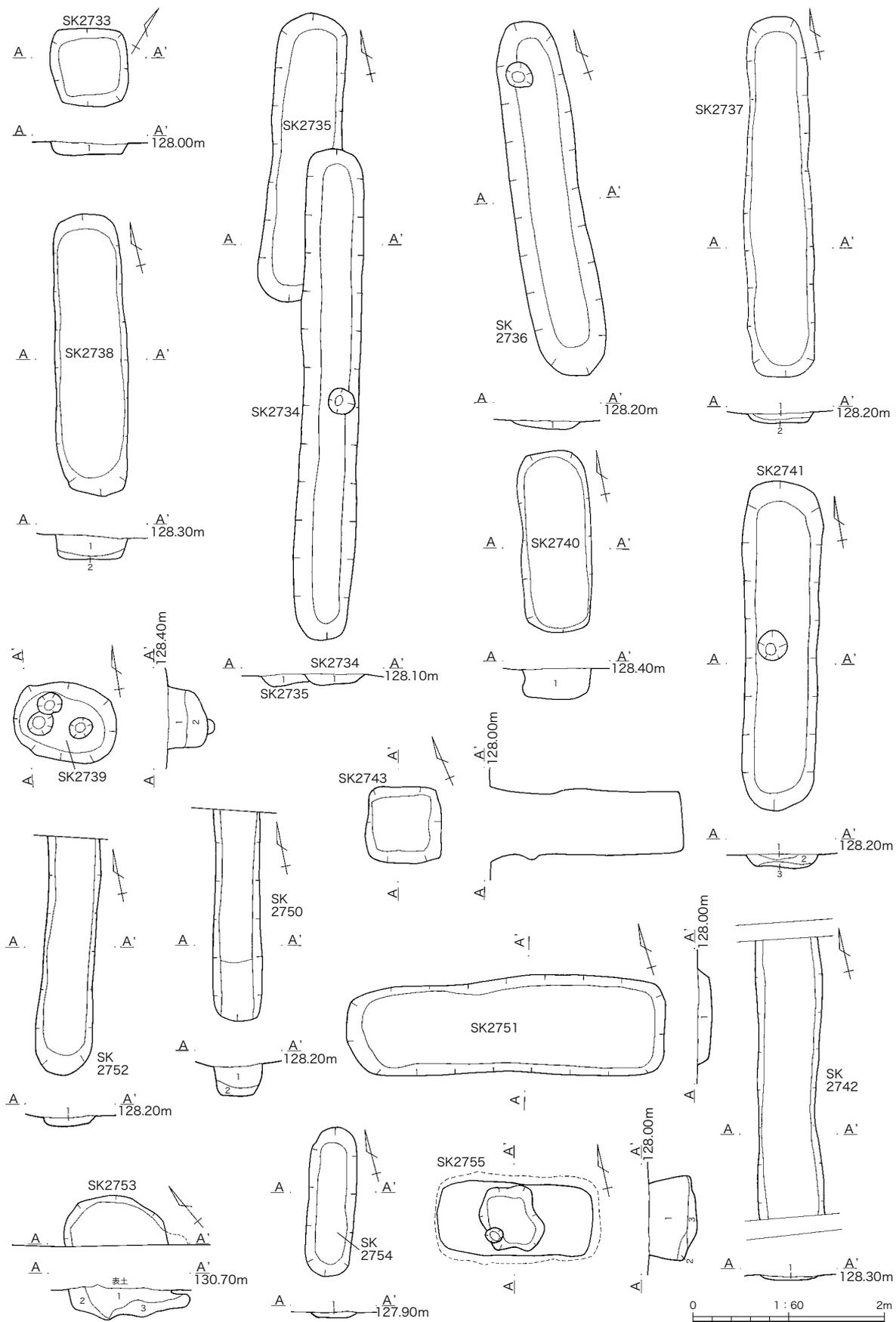
第262図 土坑 (127) SK2681~2683・2685~2692・2695~2697



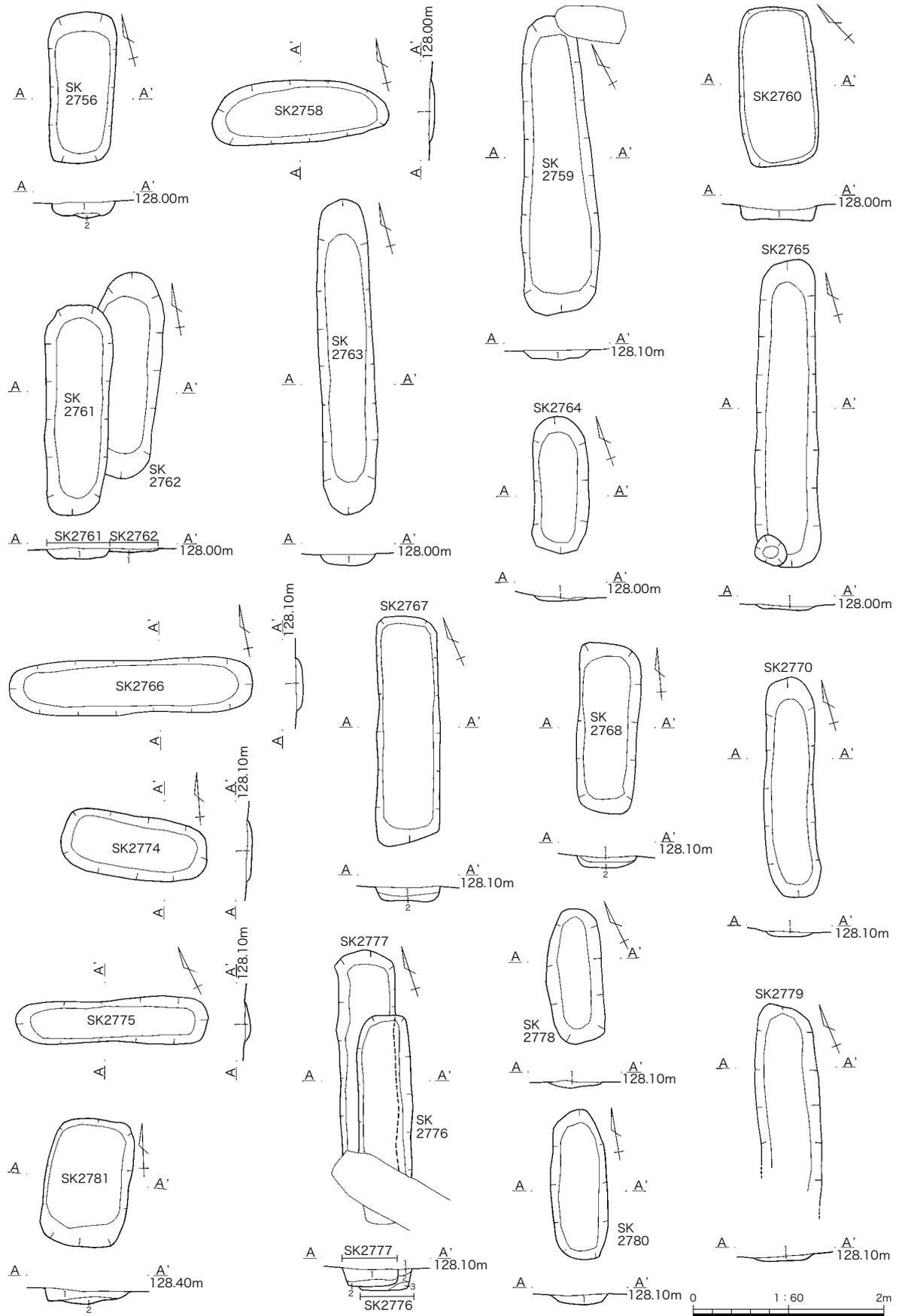
第263圖 土坑 (128) SK2693・2694・2698~2709・2711~2713



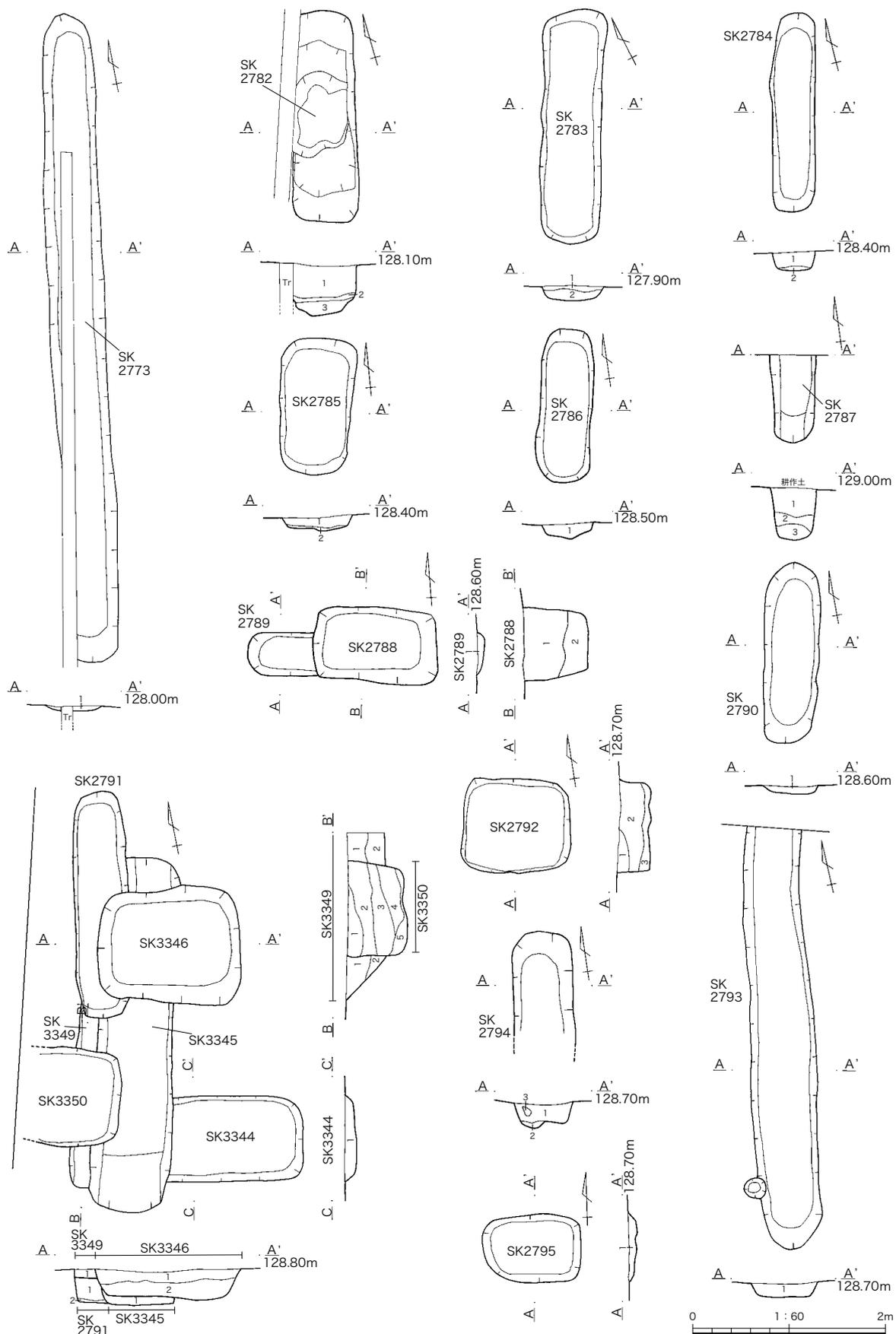
第264図 土坑 (129) SK2710・2715~2722・2724~2732・2852・4087



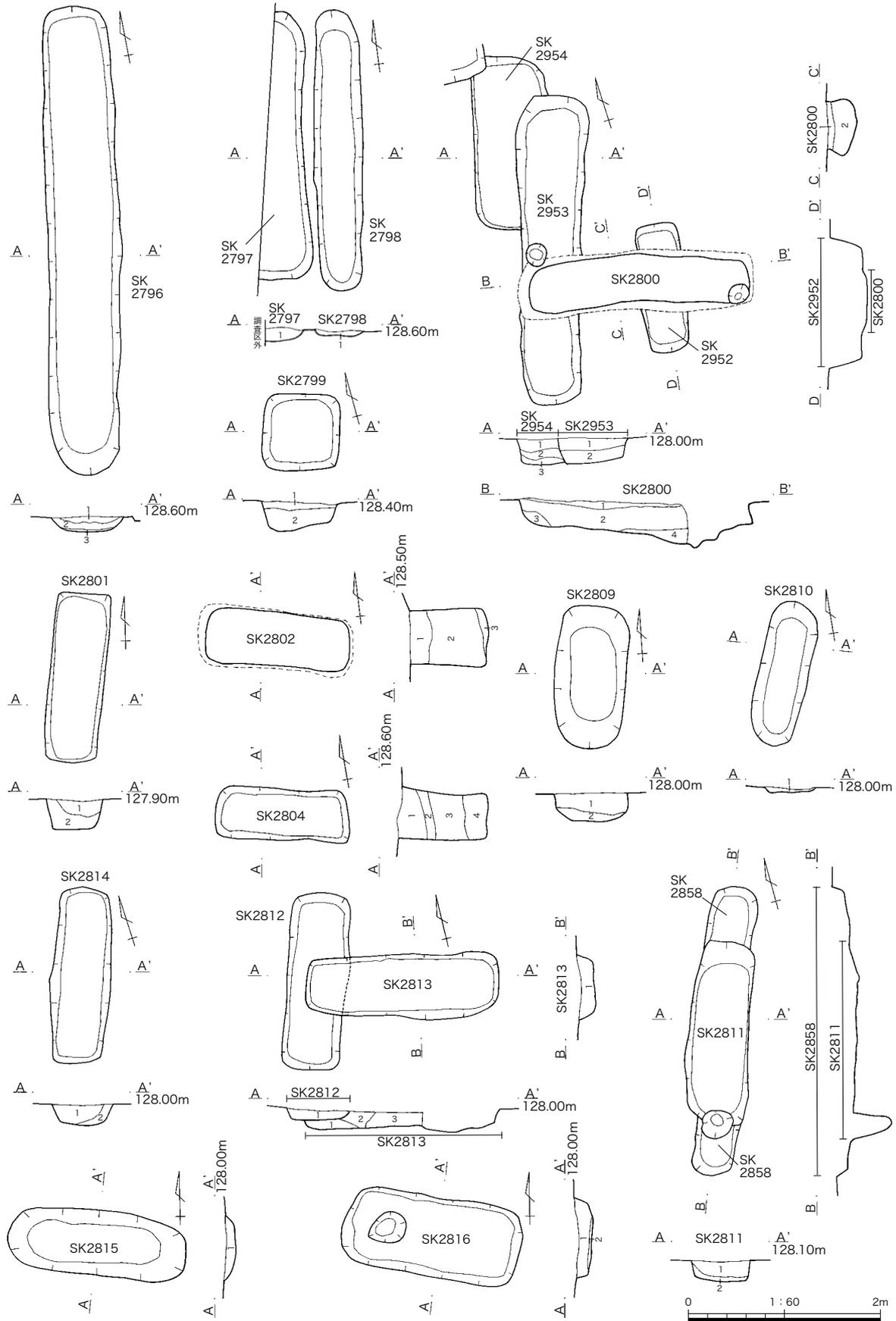
第265図 土坑 (130) SK2733~2743・2750~2755



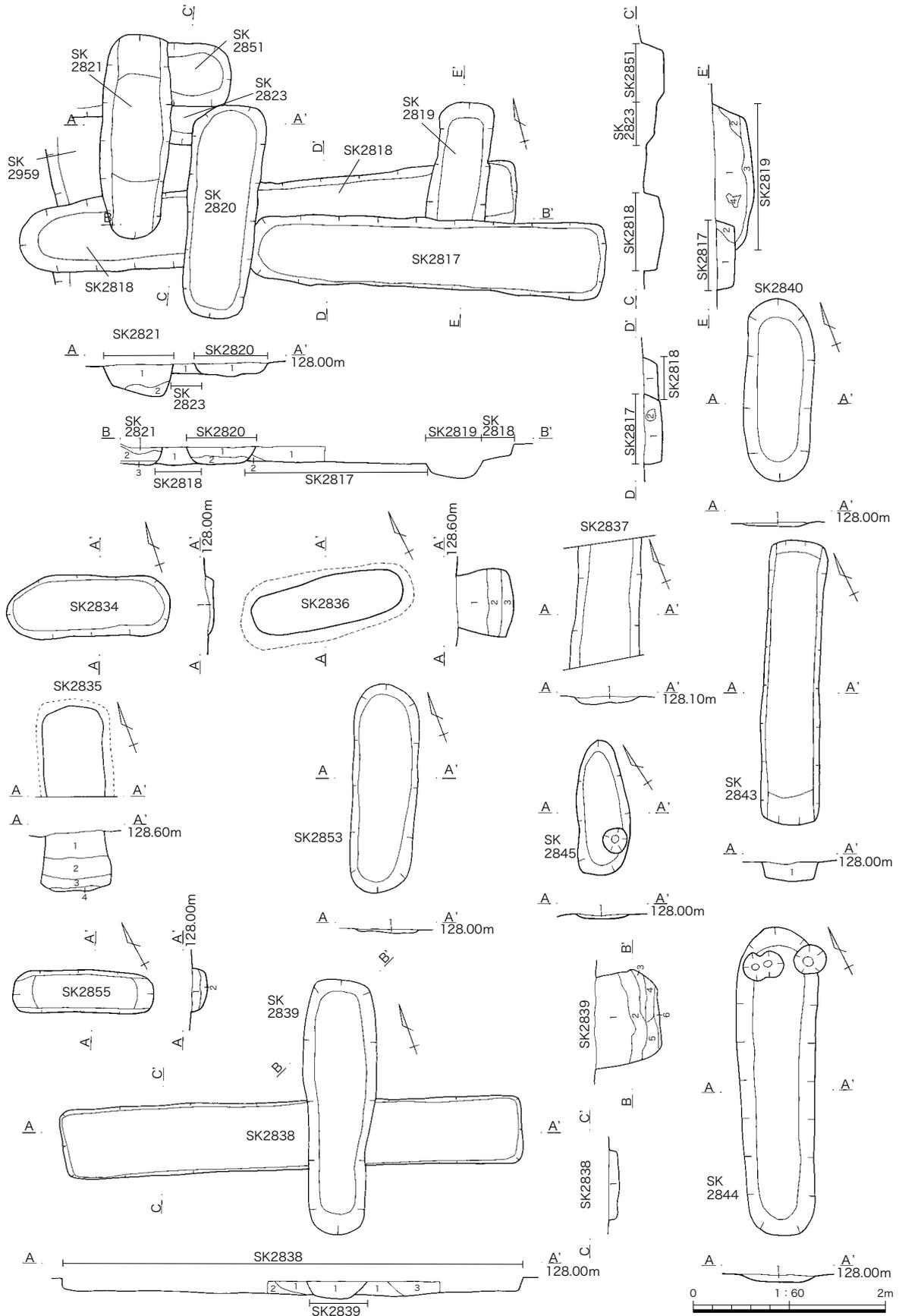
第266図 土坑 (131) SK2756・2758~2768・2770・2774~2781



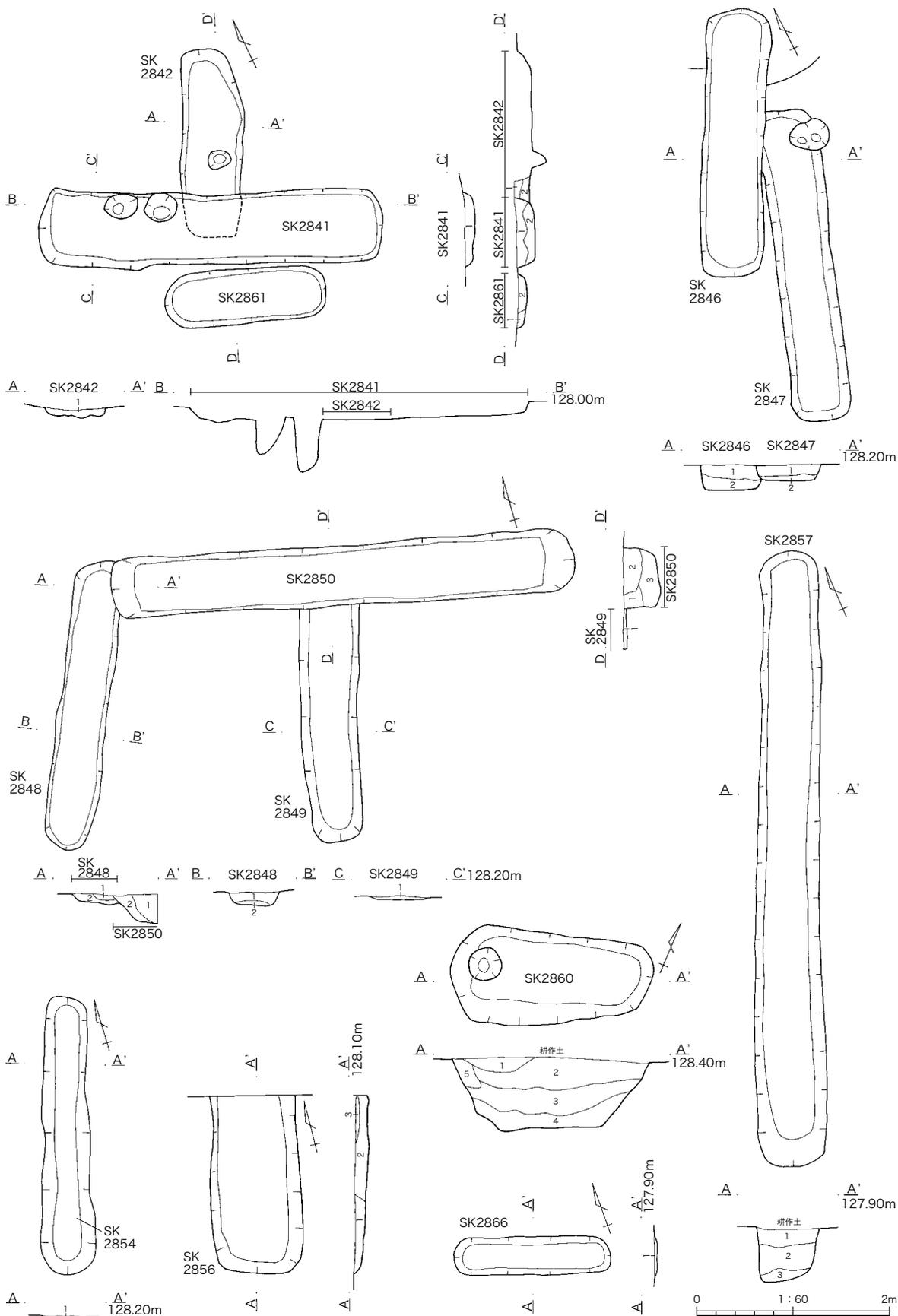
第267図 土坑 (132) SK2773・2782~2795・3344~3346・3349・3350



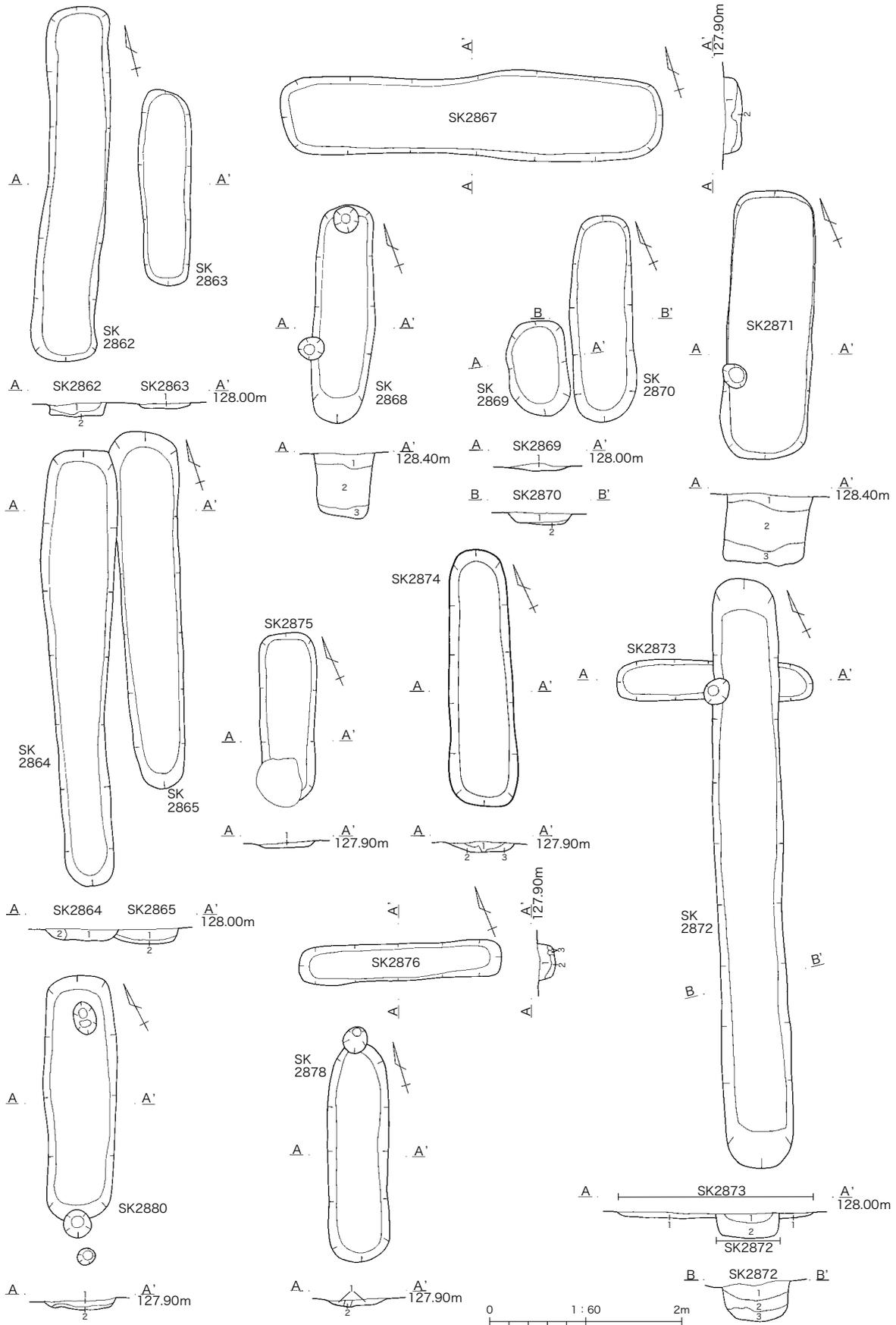
第268図 土坑 (133) SK2796~2802・2804・2809~2816・2952~2954・2858



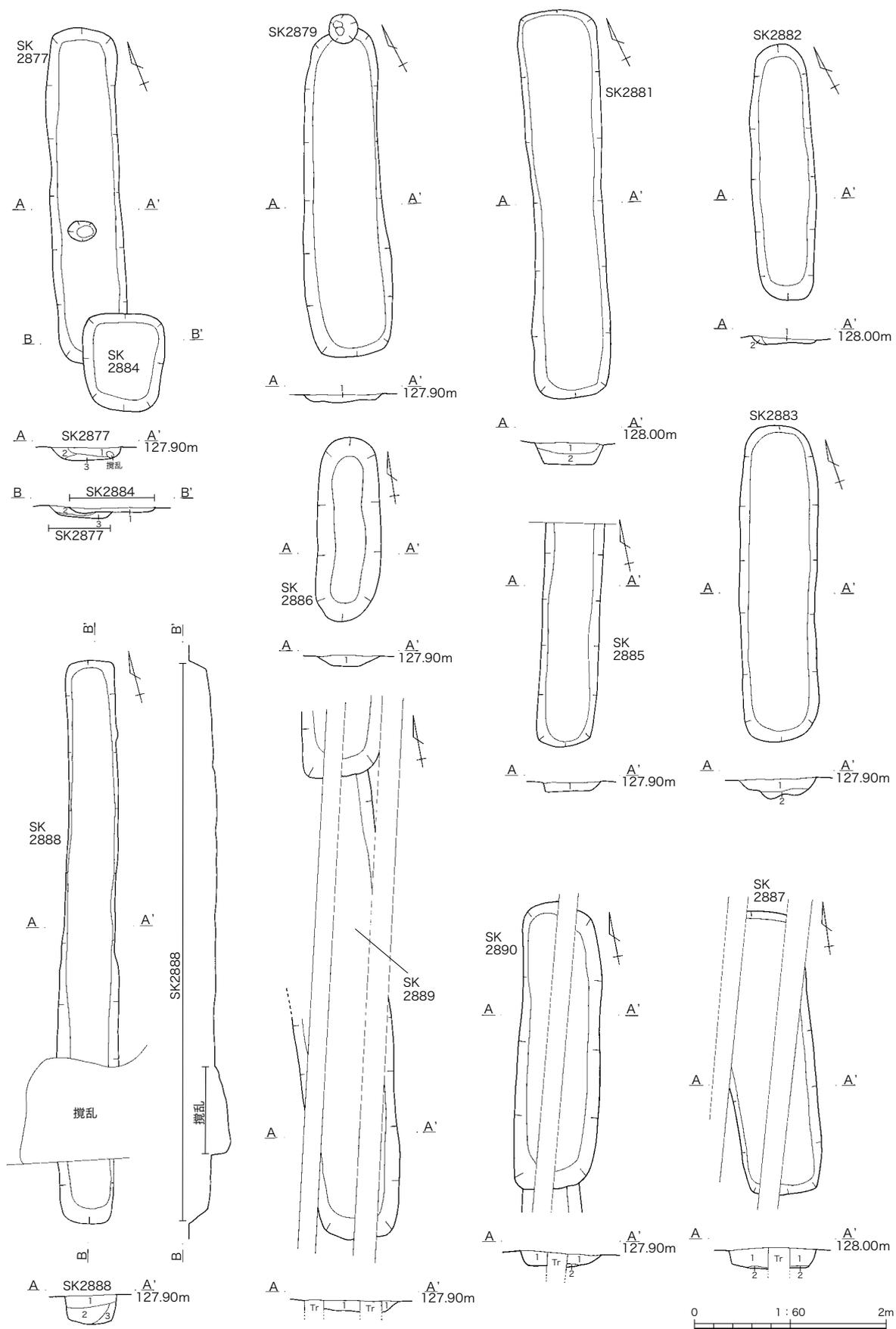
第270図 土坑 (135) SK2817~2821・2823・2834~2840・2843~2845・2851・2853・2855



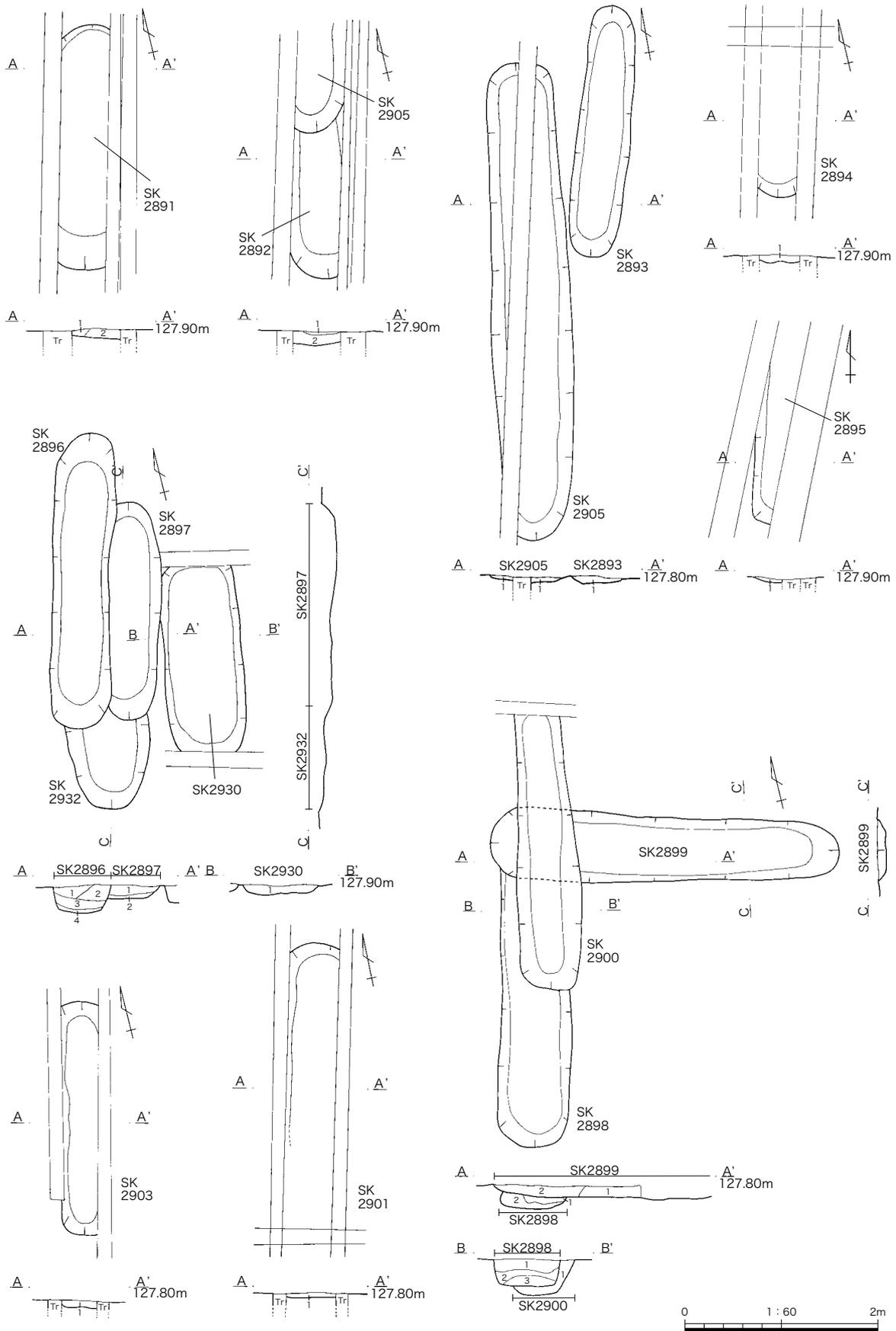
第271図 土坑 (136) SK2841・2842・2846~2850・2854・2856・2857・2860・2861・2866



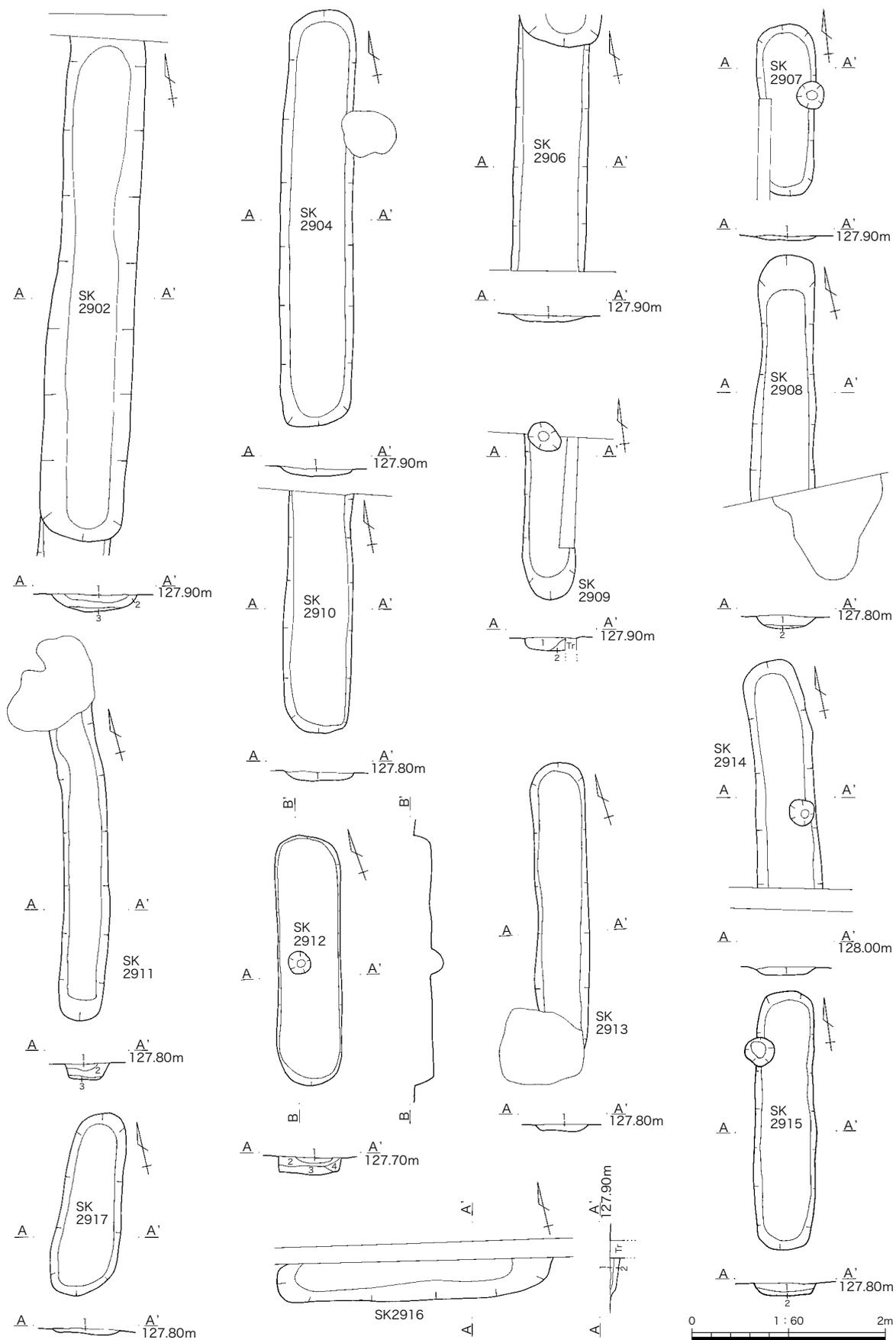
第272図 土坑 (137) SK2862・2863・2867~2876・2878・2880



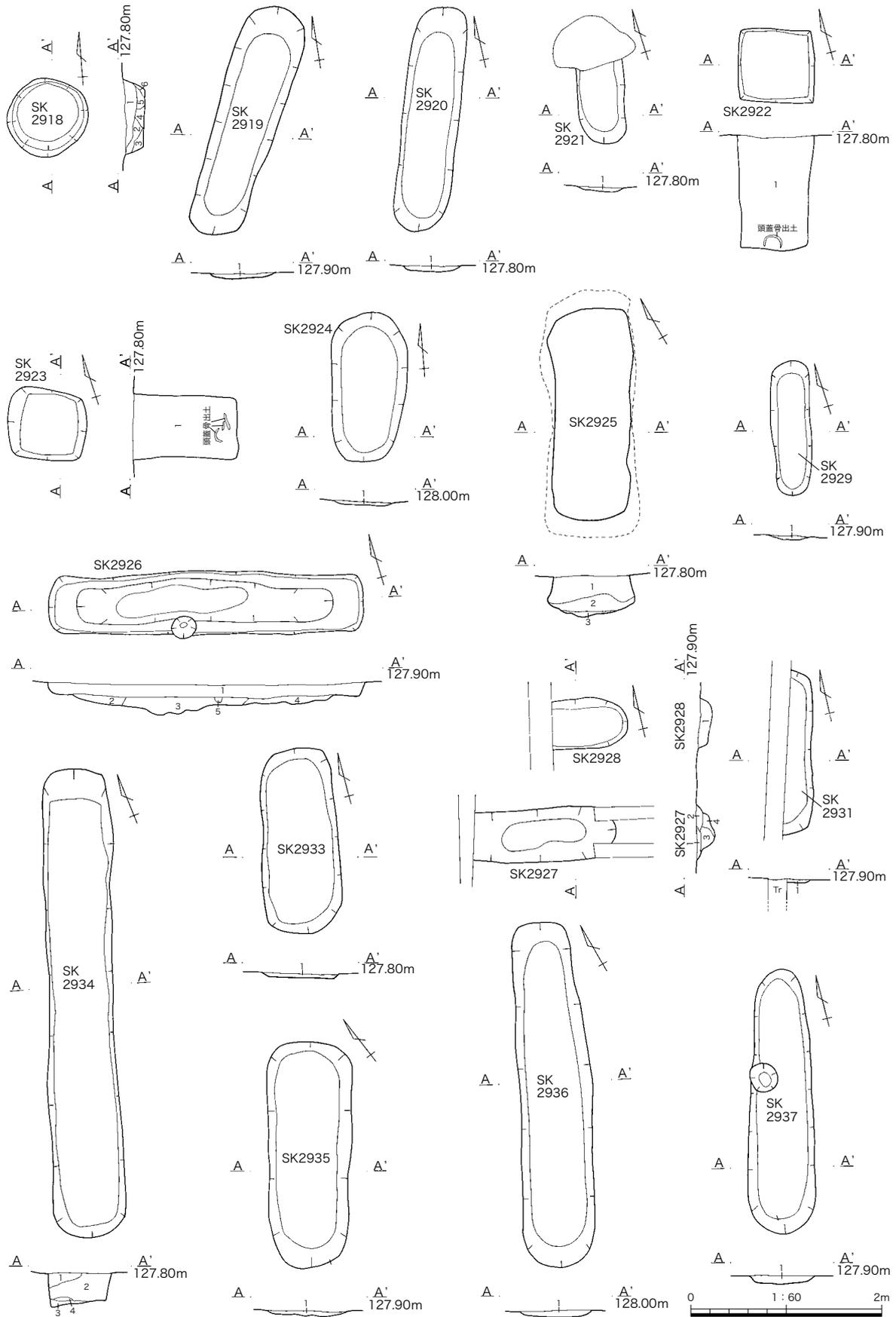
第273圖 土坑 (138) SK2877・2879・2881~2890



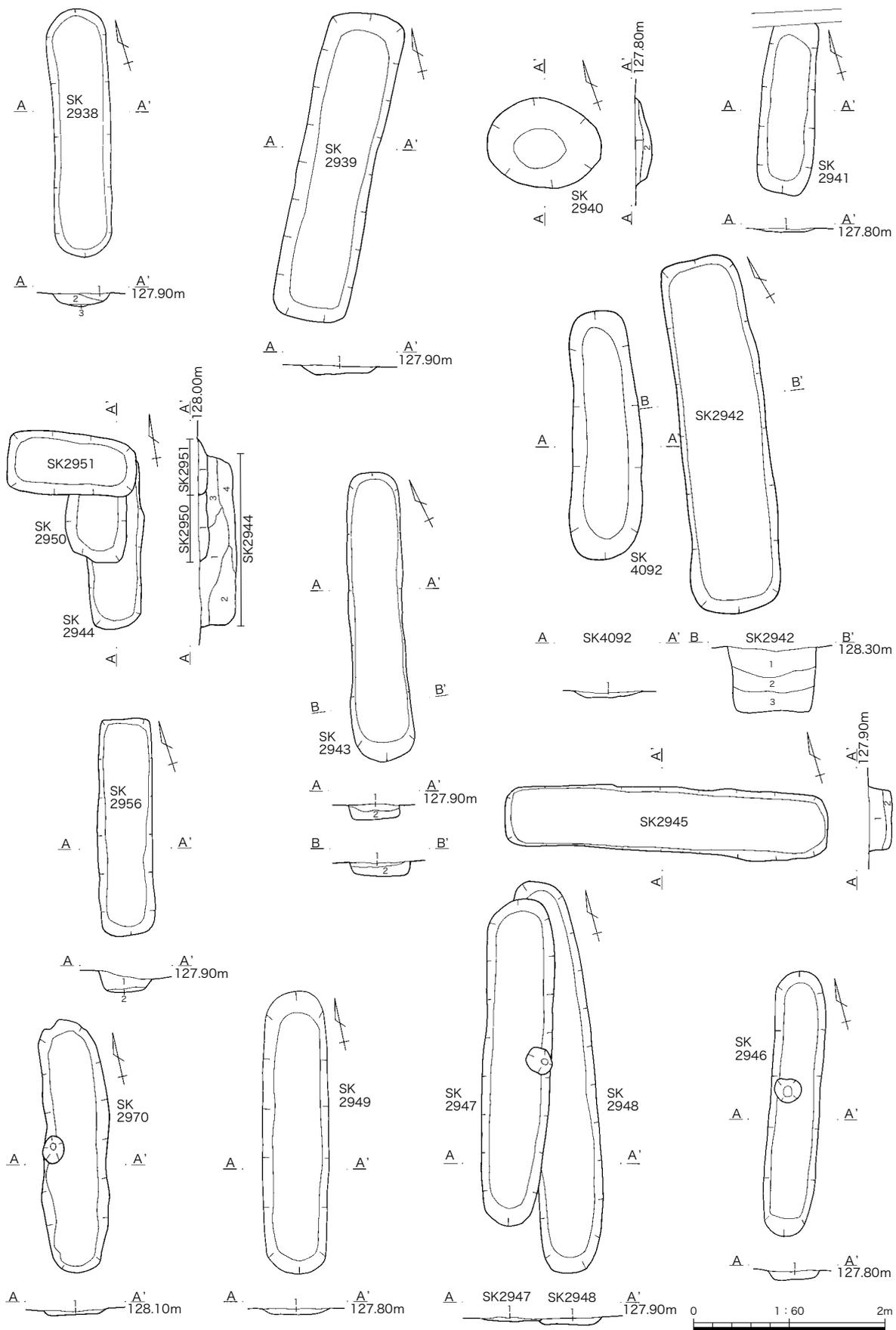
第274図 土坑 (139) SK2891~2901・2903・2905・2930・2932



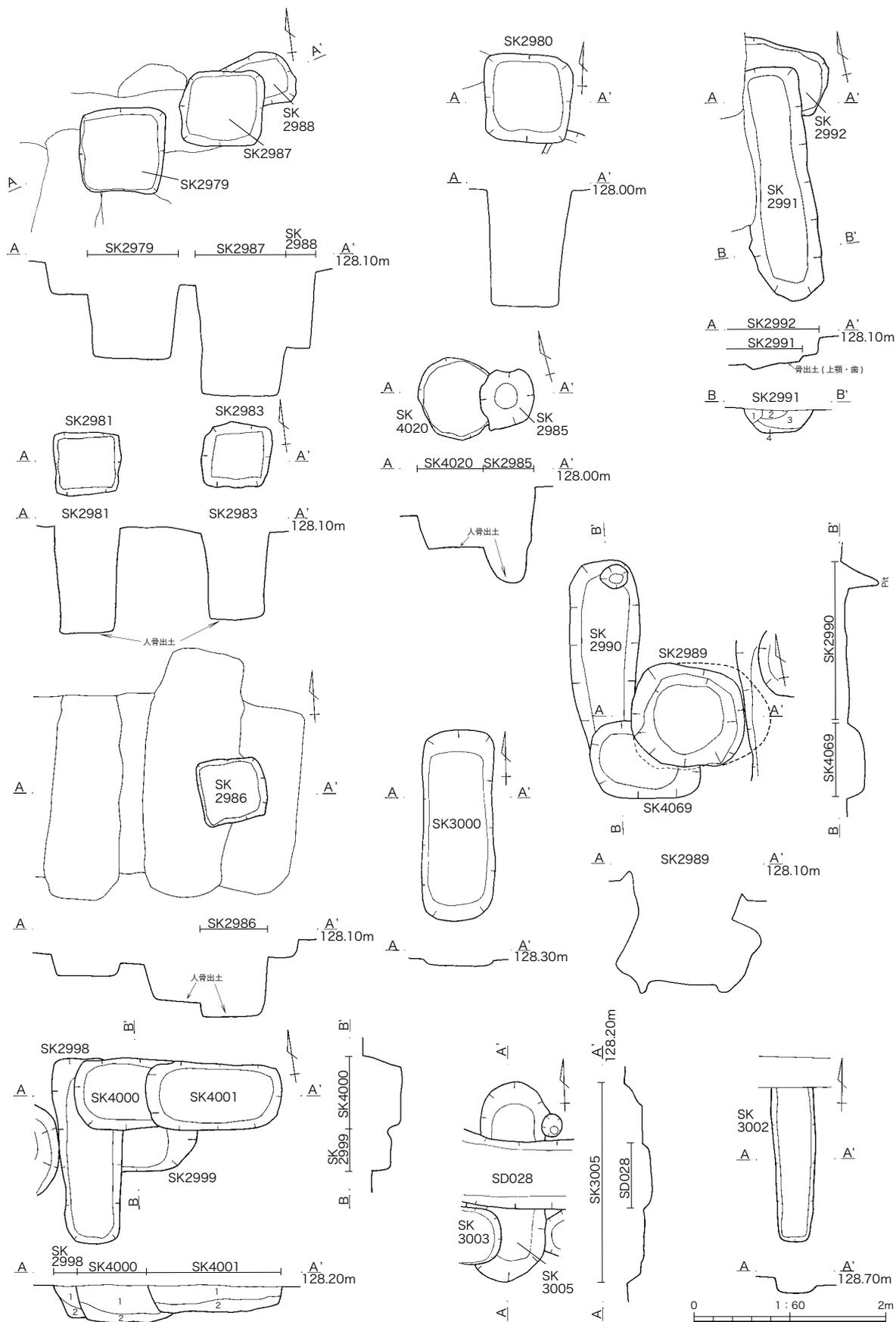
第275圖 土坑 (14) SK2902・2904・2906~2917



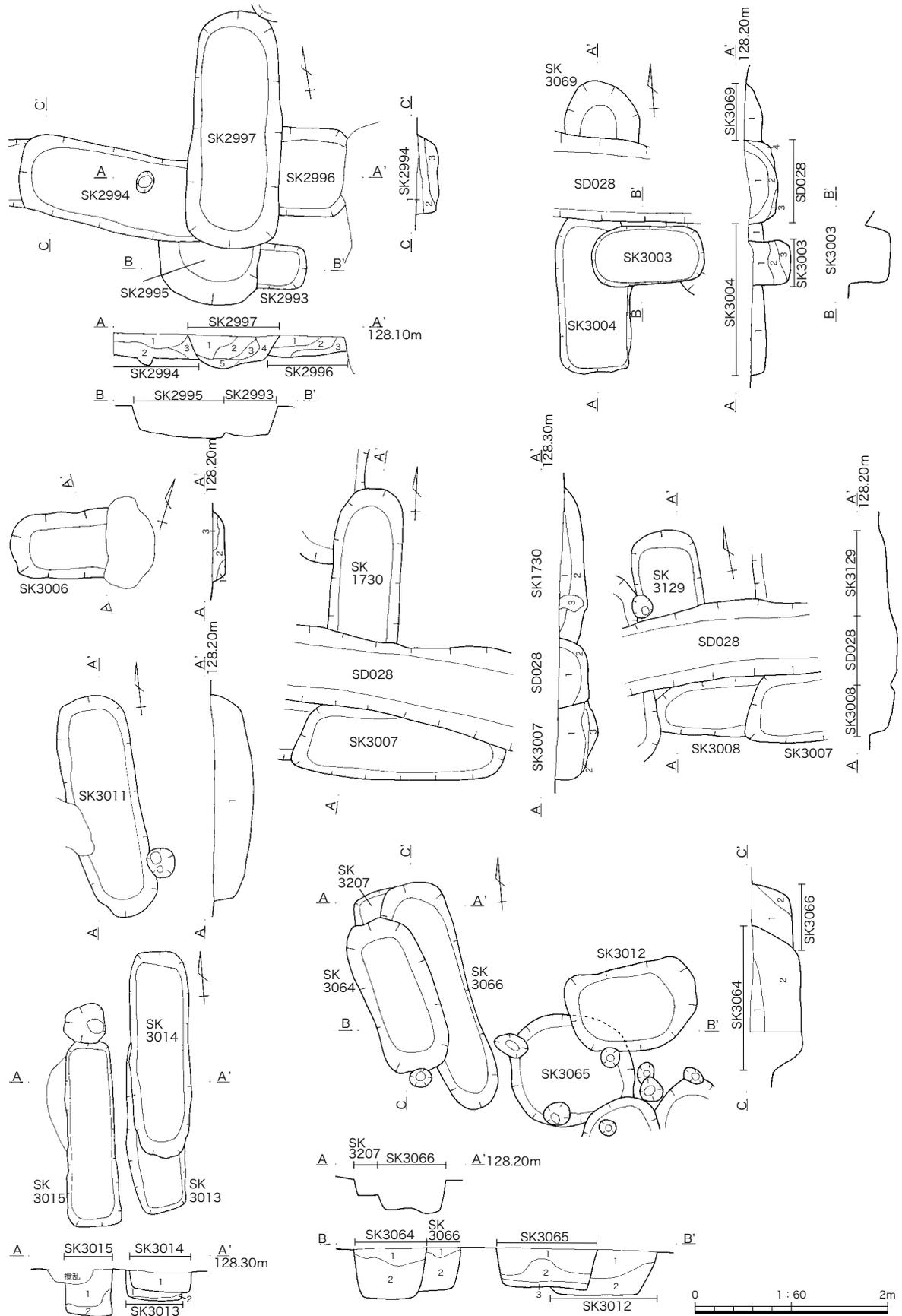
第276図 土坑(141) SK2918~2929・2931・2933~2937



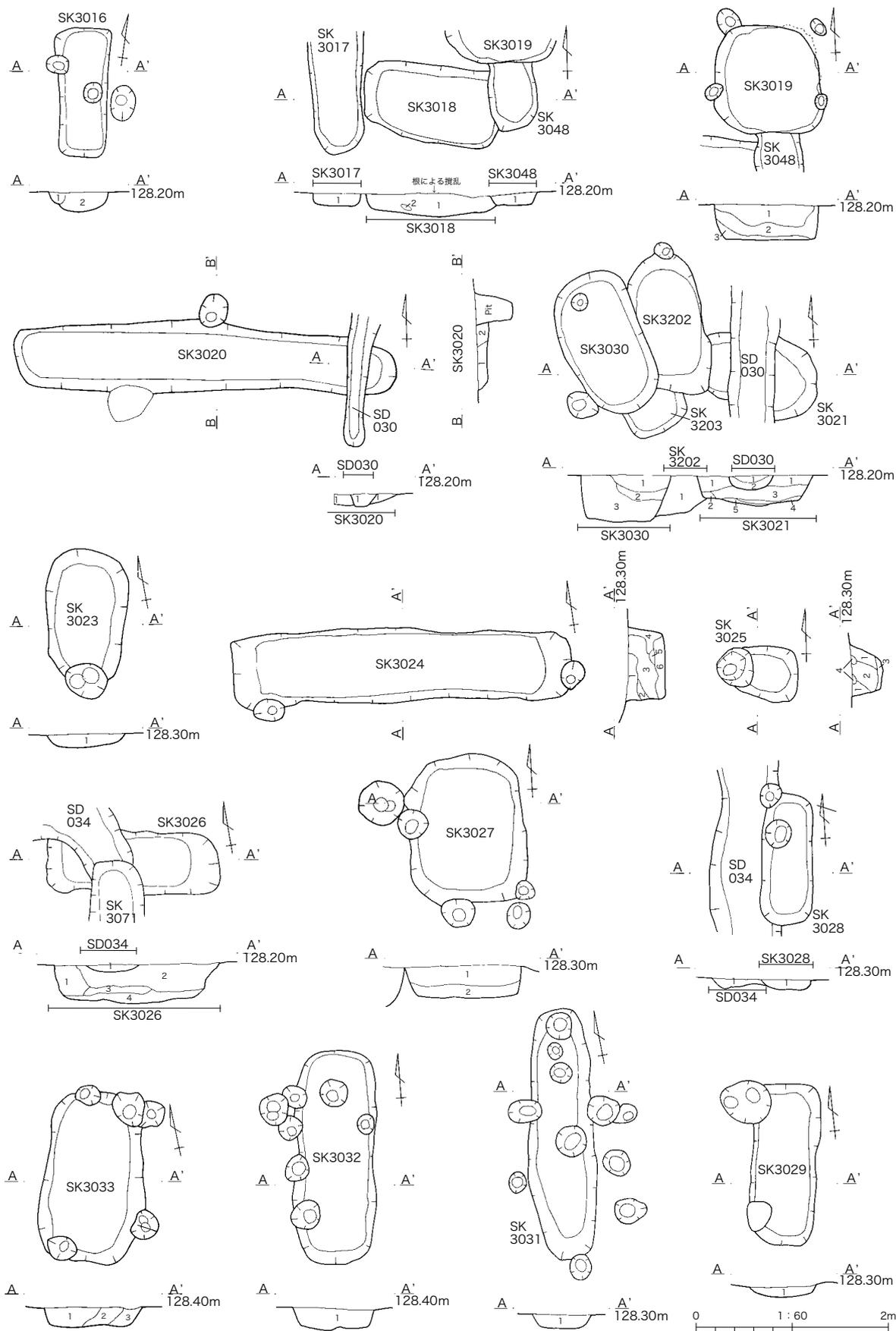
第277圖 土坑 (142) SK2938~2951・2956・2970・4092



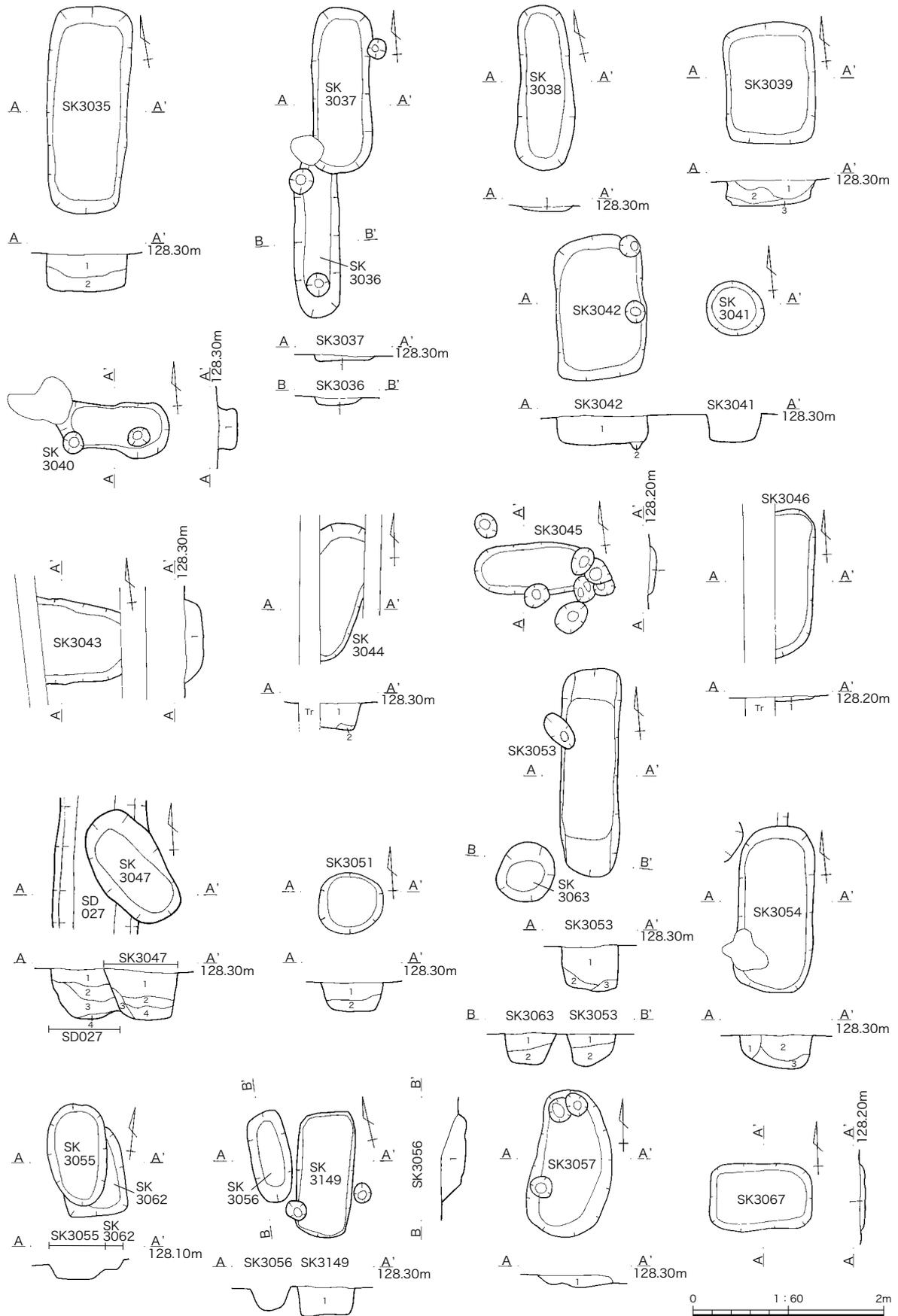
第 279 圖 土坑 (144) SK2979~2981・2983・2985~2992・2998~3000・3002・3005・4000・4001・4020・4069



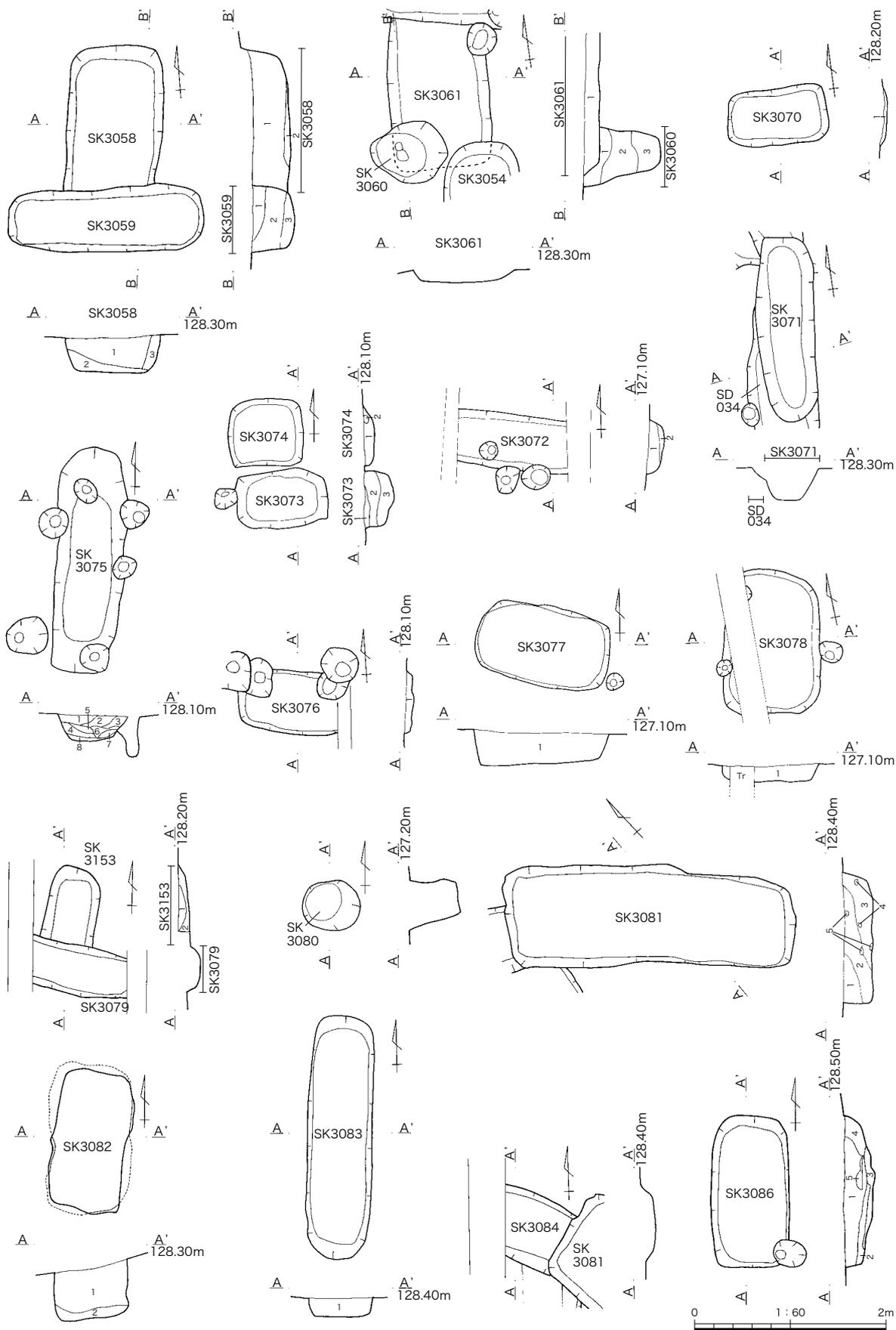
第280図 土坑(145) SK1730・2993~2997・3003・3004・3006~3008・3011~3015・3064~3066・3069・3129・3207



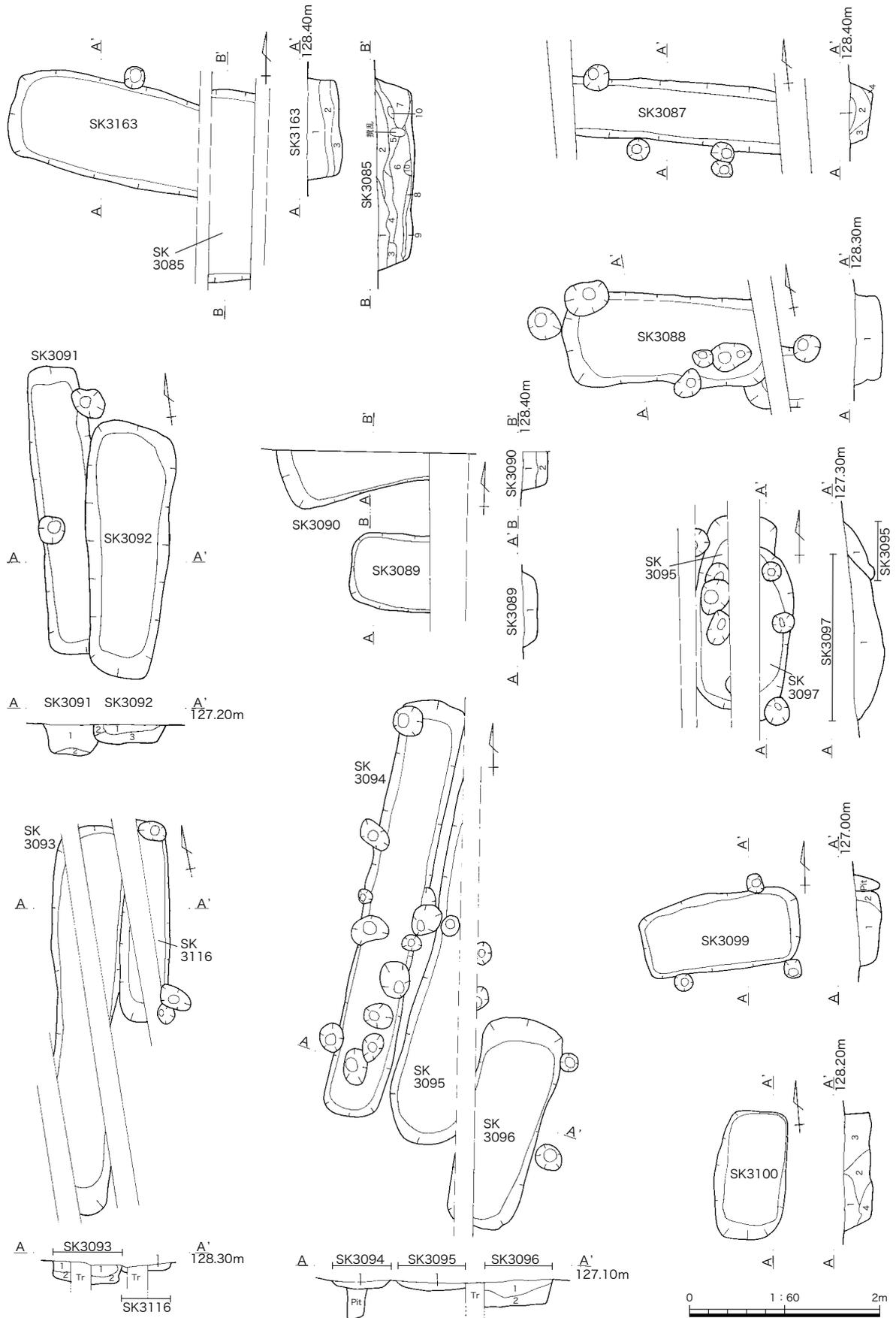
第281図 土坑 (146) SK3016~3021・3023~3033・3048・3202



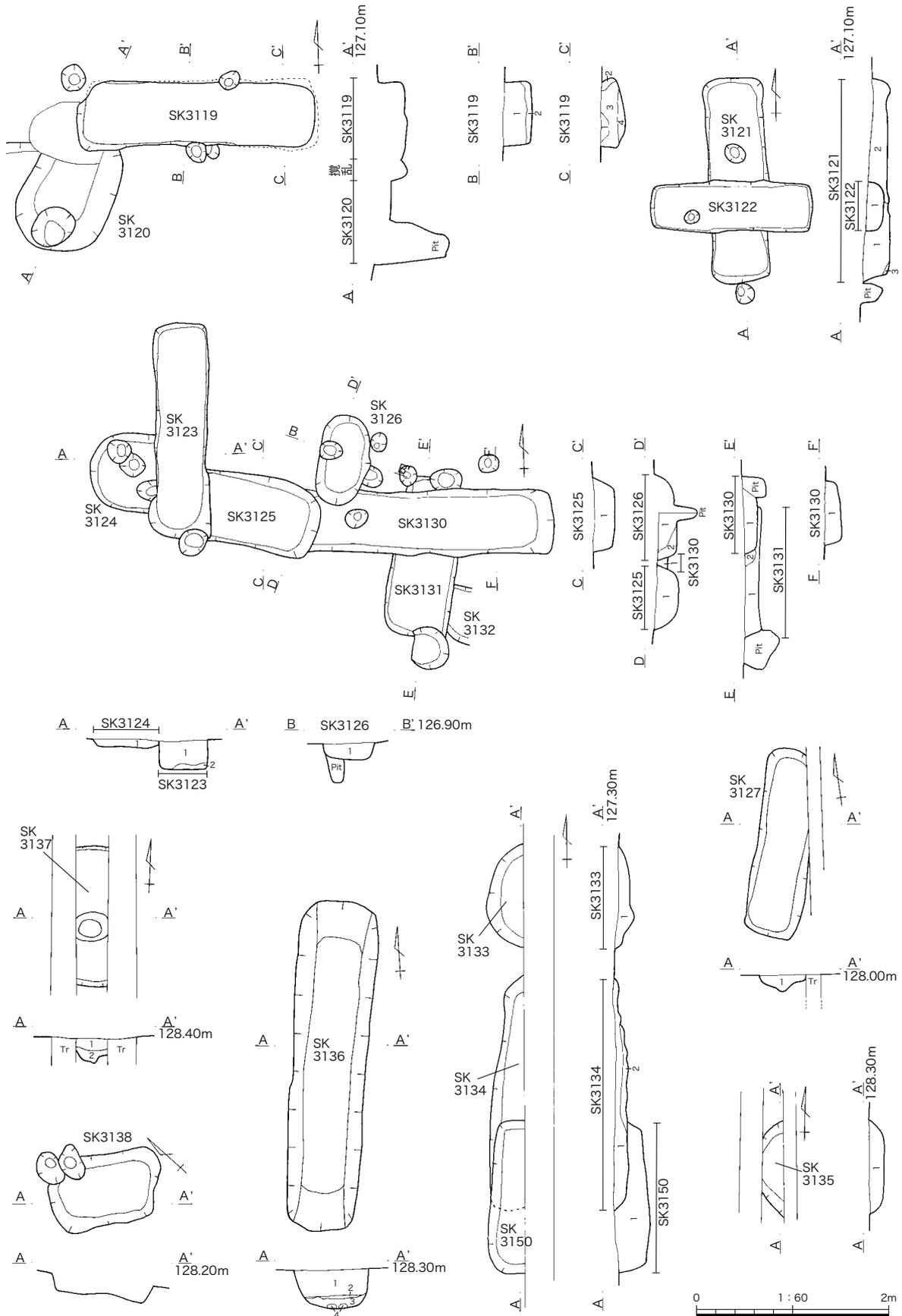
第282図 土坑 (147) SK3035~3047・3051・3053~3057・3062・3063・3067・3149



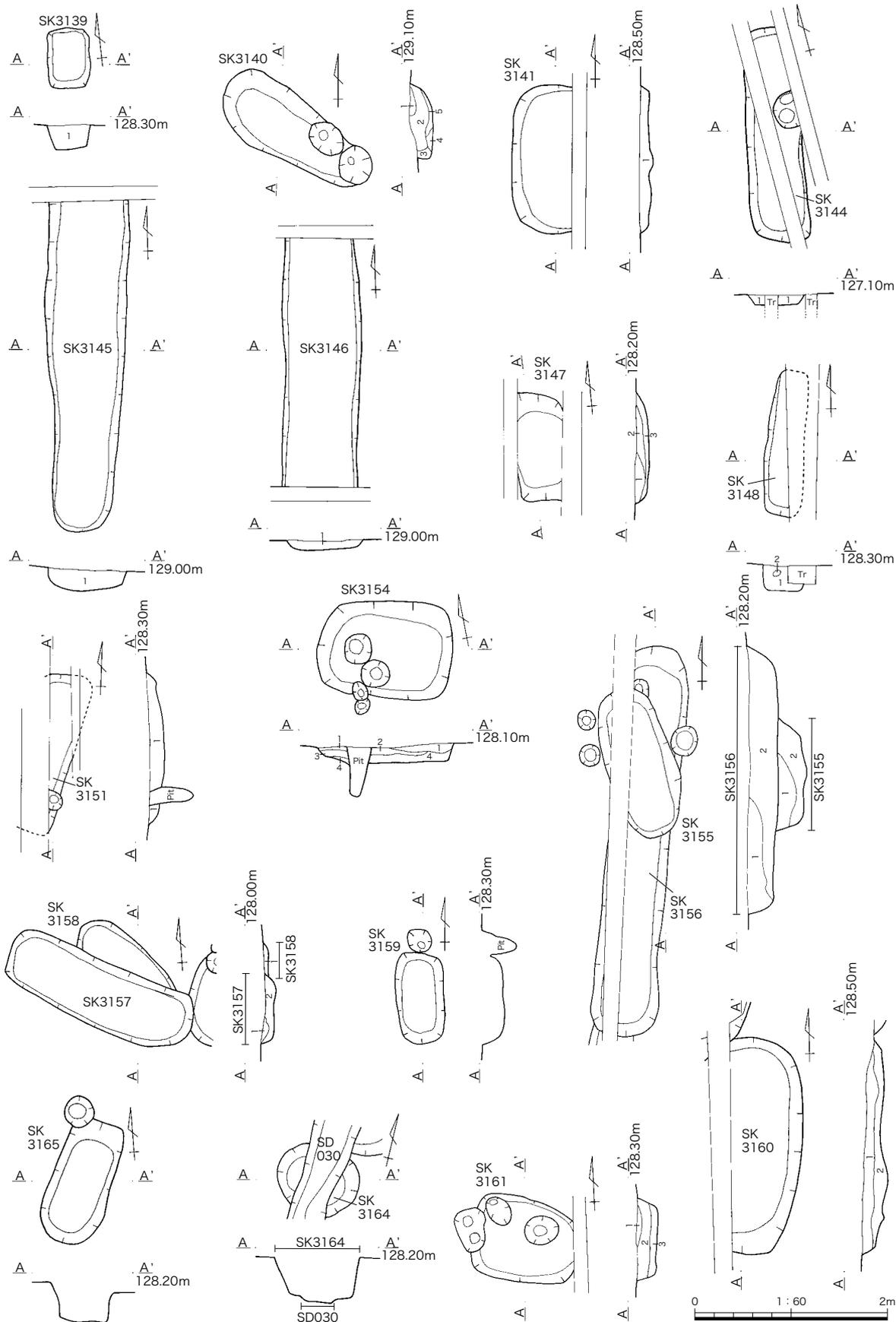
第283圖 土坑(148) SK3058~3061・3070~3084・3086・3153



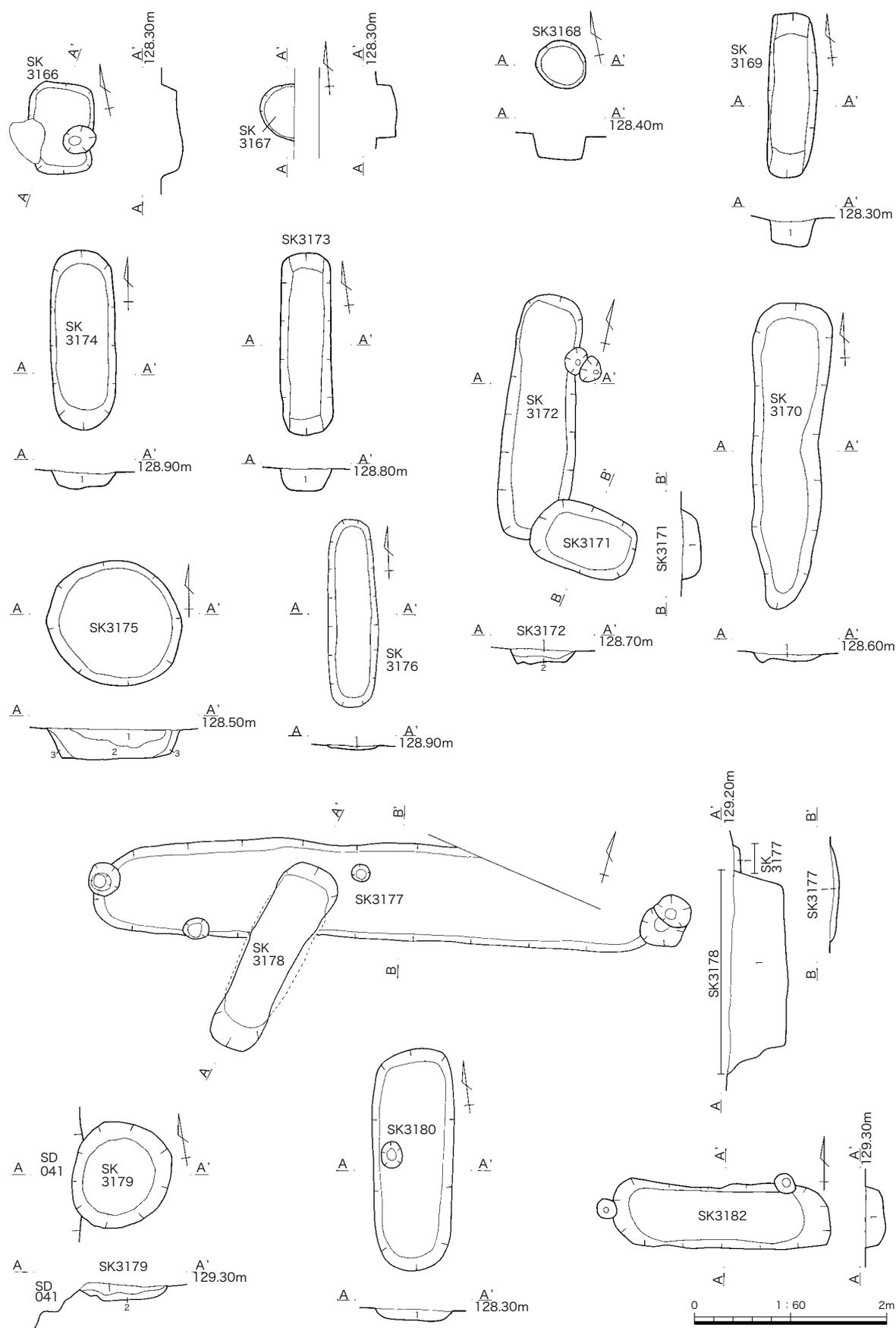
第284図 土坑 (149) SK3085・3087~3097・3099・3100・3116・3163



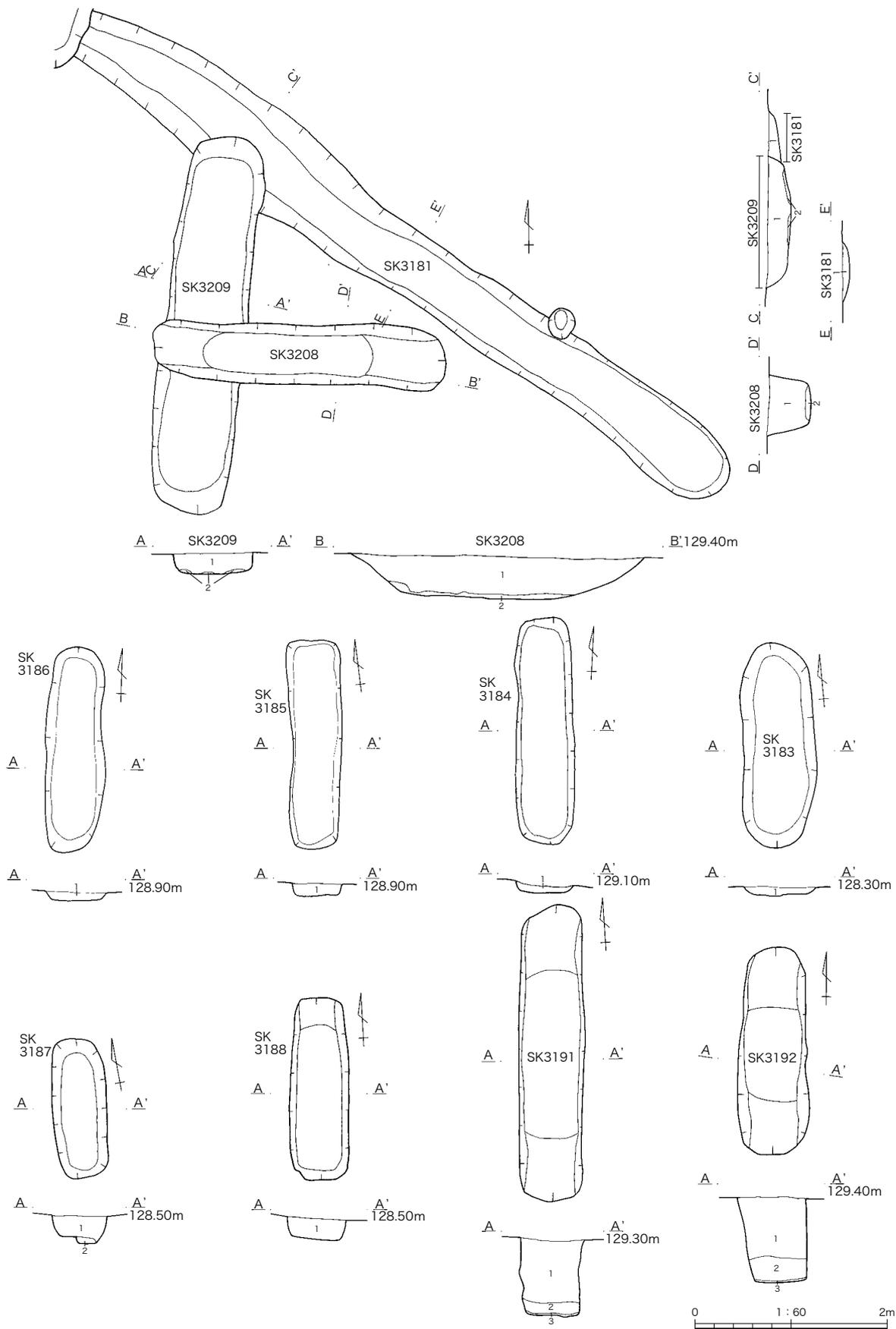
第286図 土坑 (151) SK3119~3127・3130・3131・3133~3138・3150



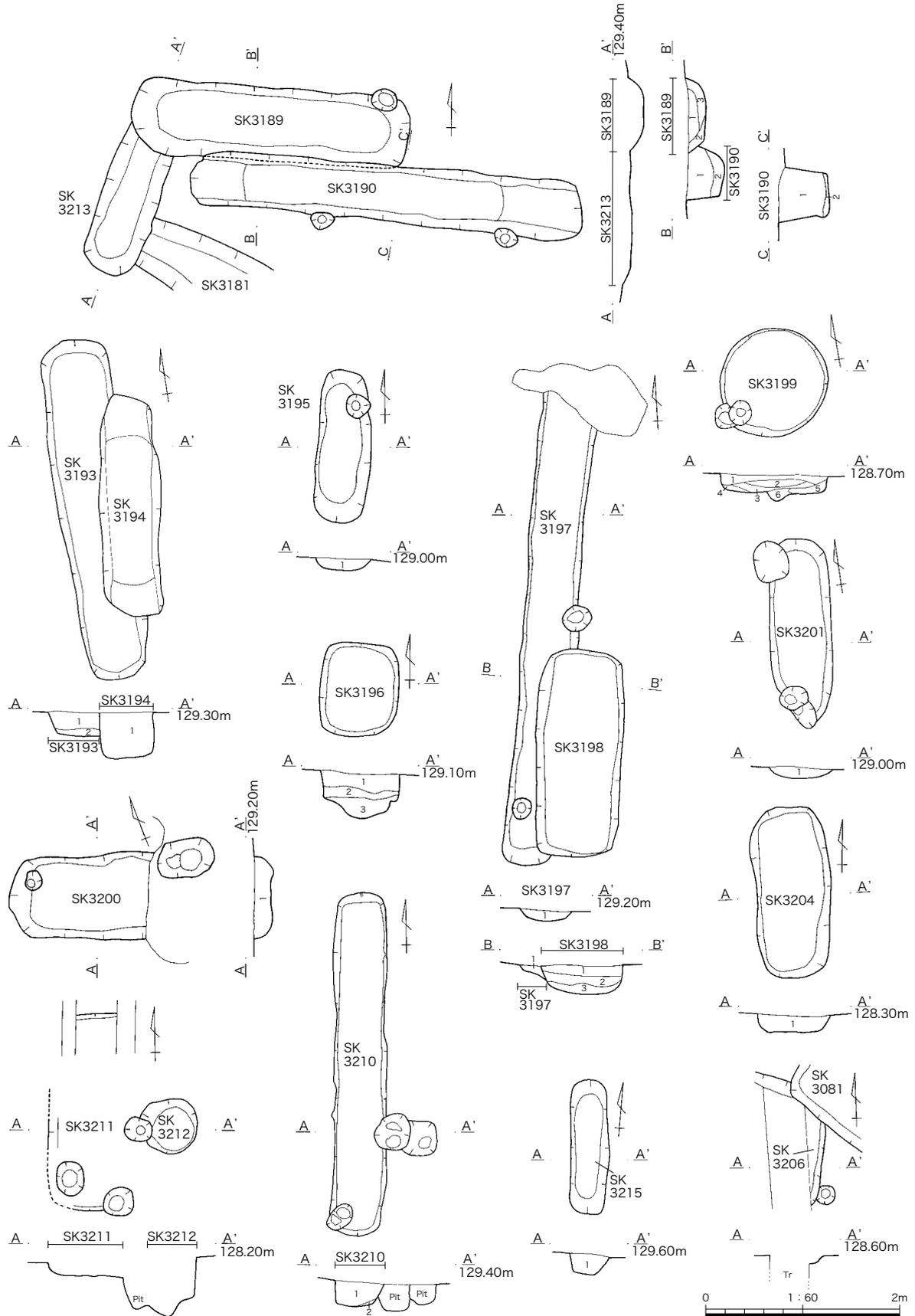
第287圖 土坑 (152) SK3139~3141・3144~3148・3151・3154~3161・3164
3165



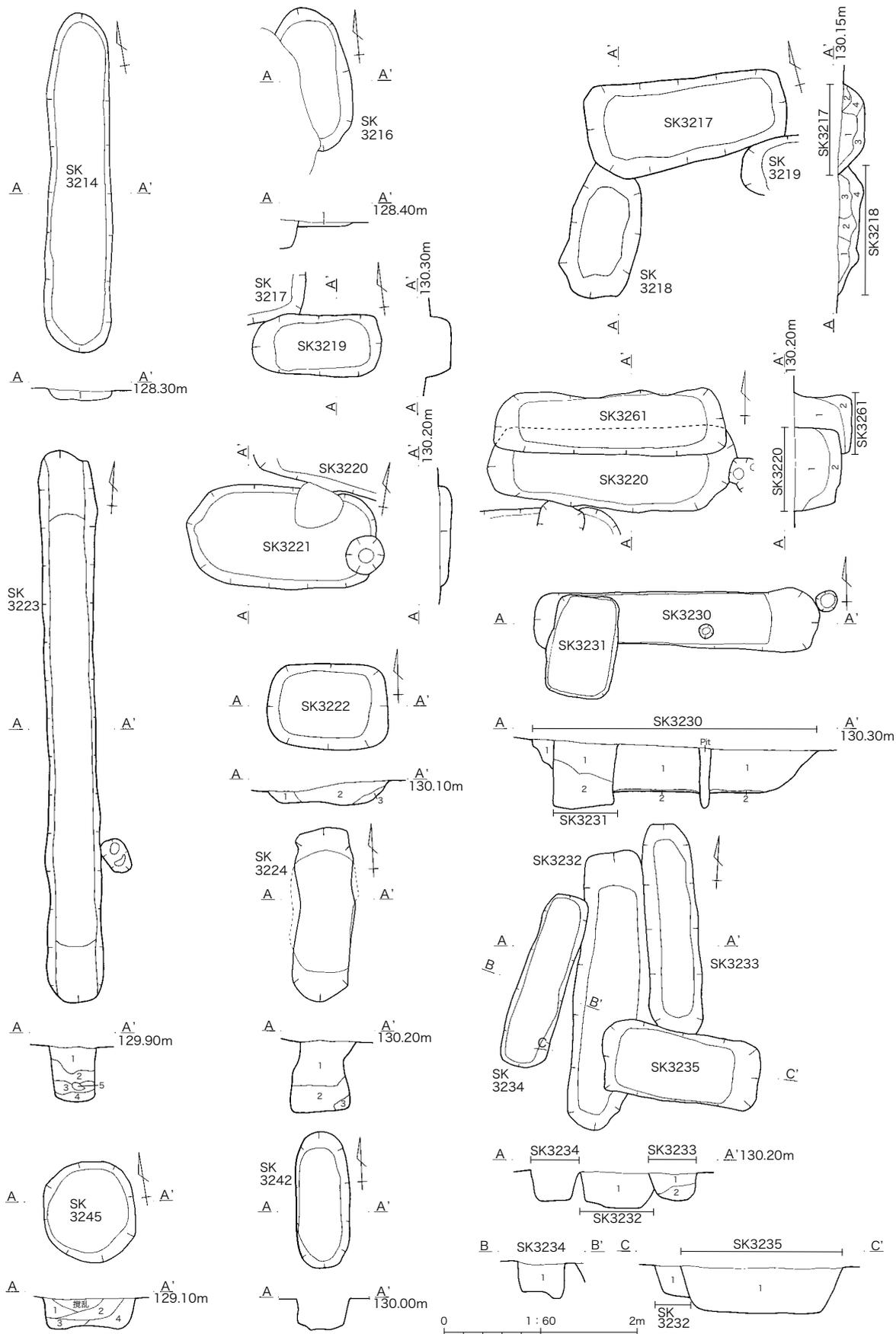
第288図 土坑 (153) SK3166~3180・3182



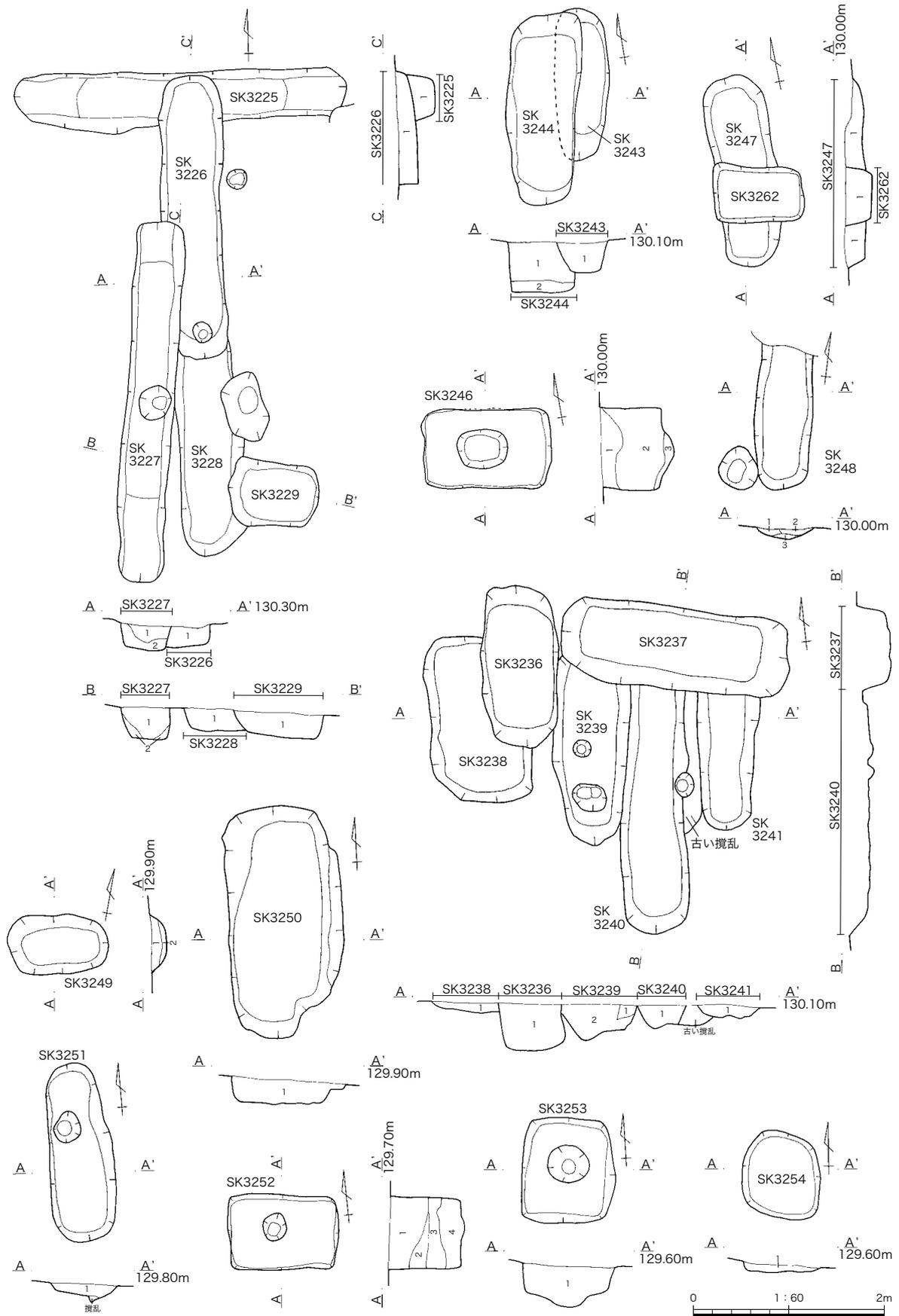
第289図 土坑 (154) SK3181・3183~3188・3191・3192・3208・3209



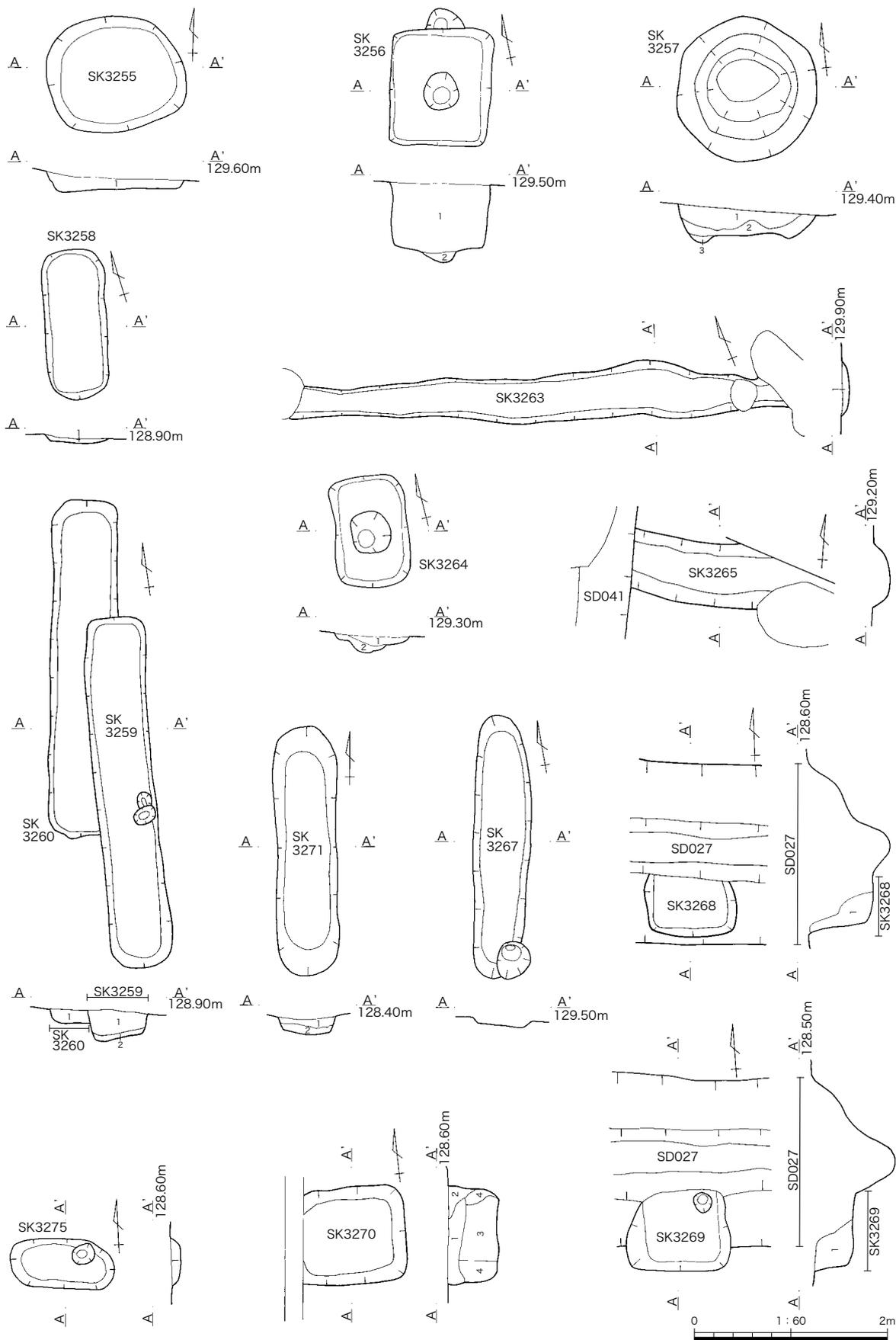
第290図 土坑 (155) SK3189・3190・3193~3201・3204・3206・3210~3213・3215



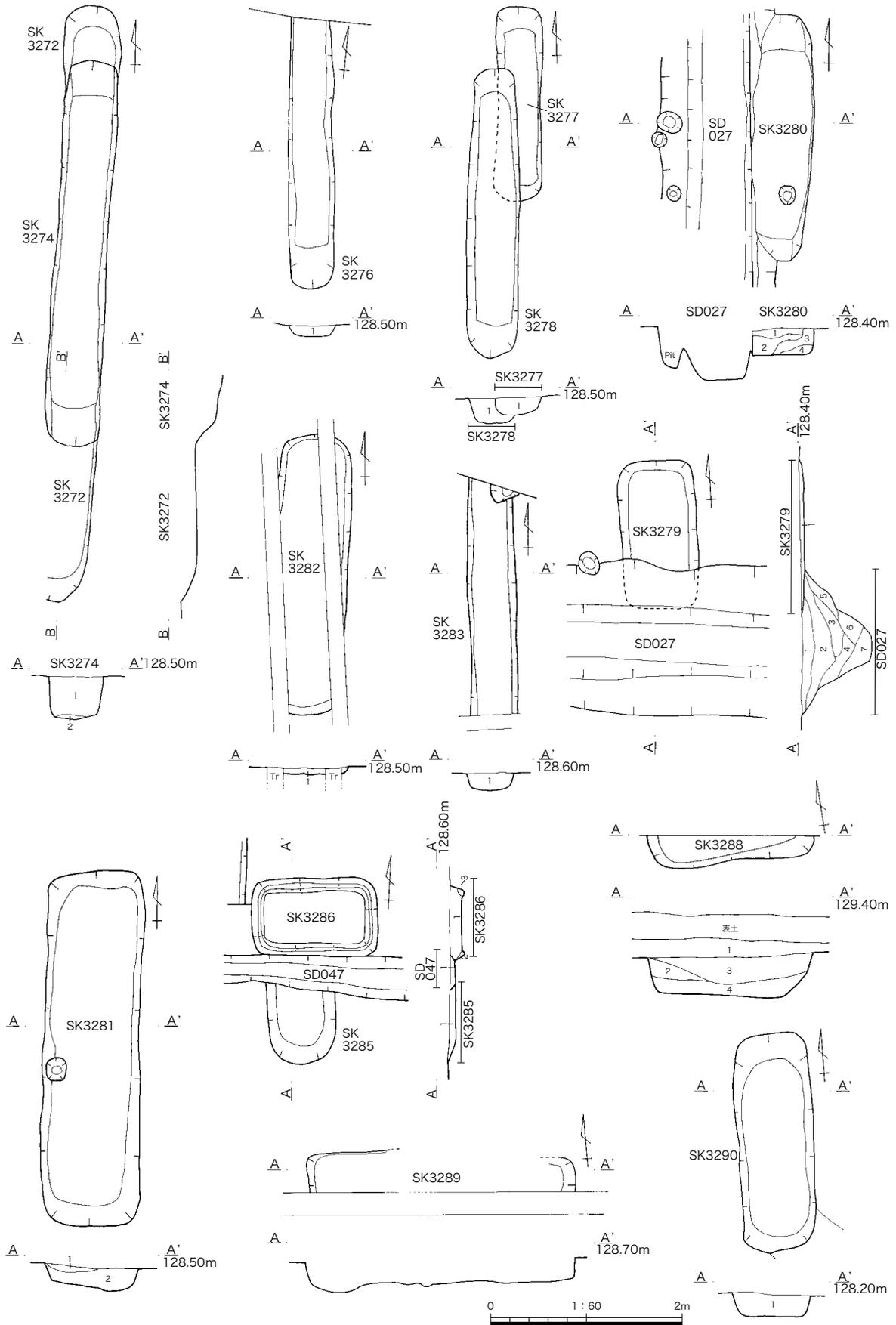
第291圖 土坑 (156) SK3214・3216~3224・3230~3235・3242・3245・3261



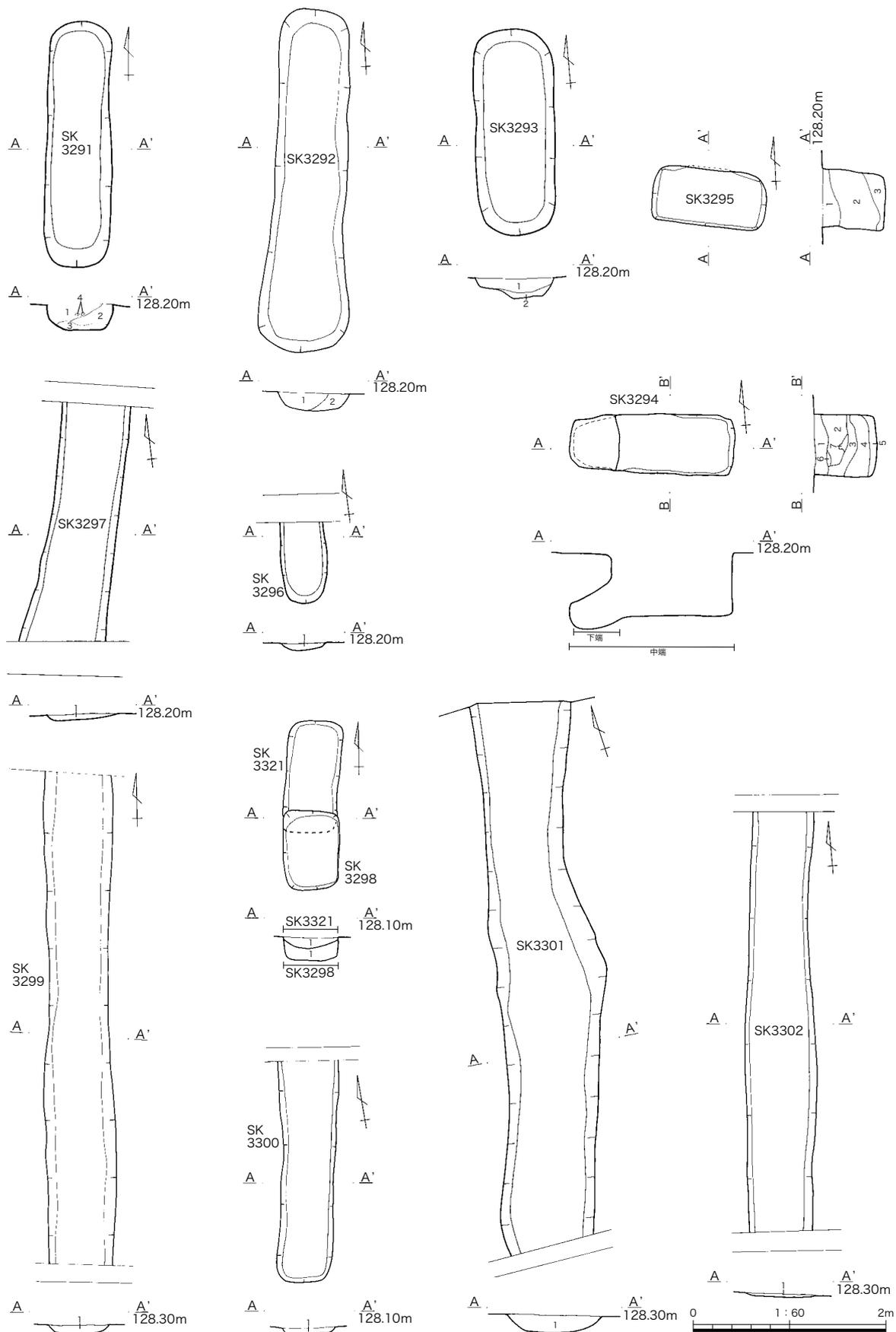
第292図 土坑 (157) SK3225~3229・3236~3241・3243・3244・3246~3254・3262



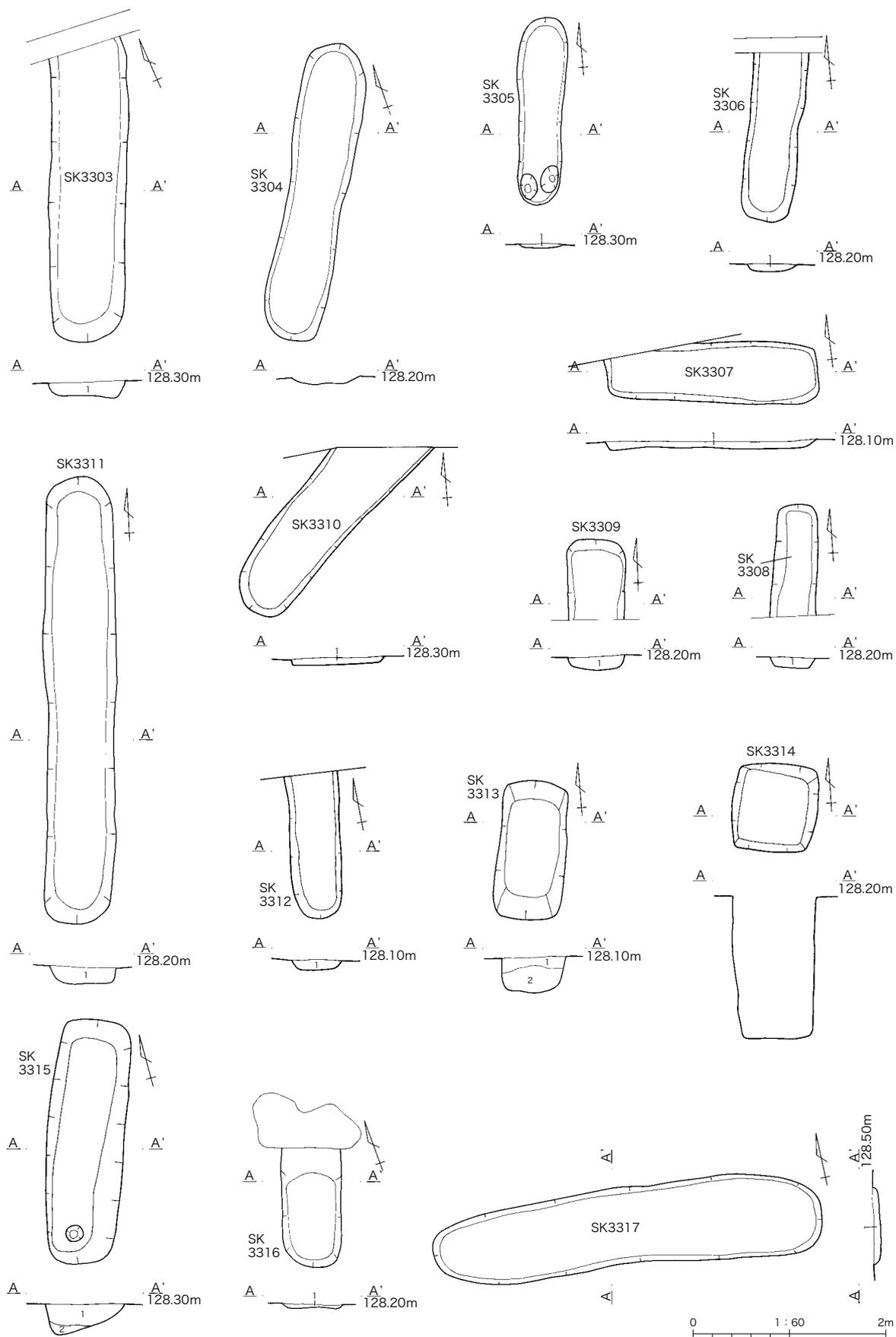
第293圖 土坑 (158) SK3255~3260・3263~3265・3267~3271・3275



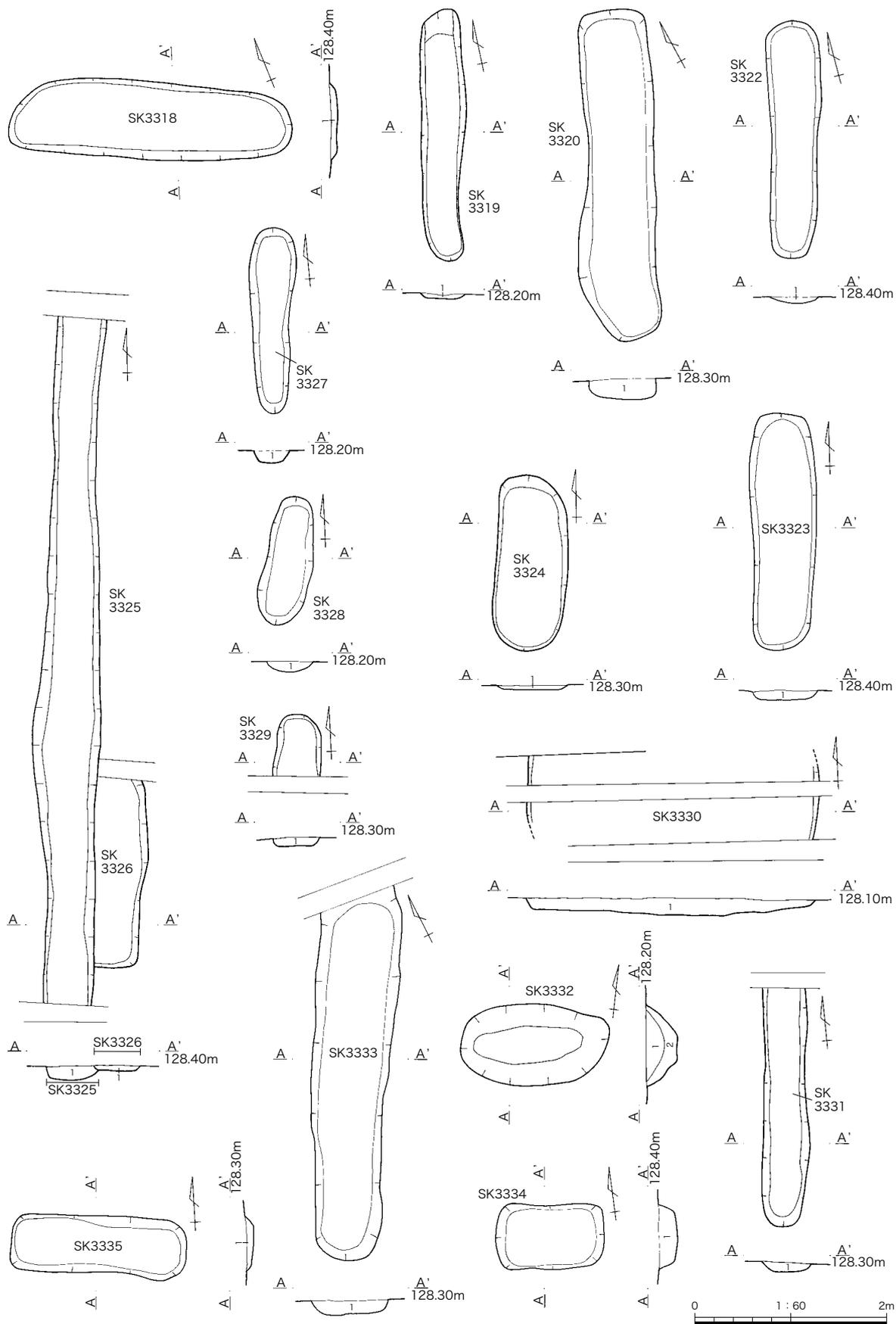
第294図 土坑(159) SK3272・3274・3276~3283・3285・3286・3288~3290



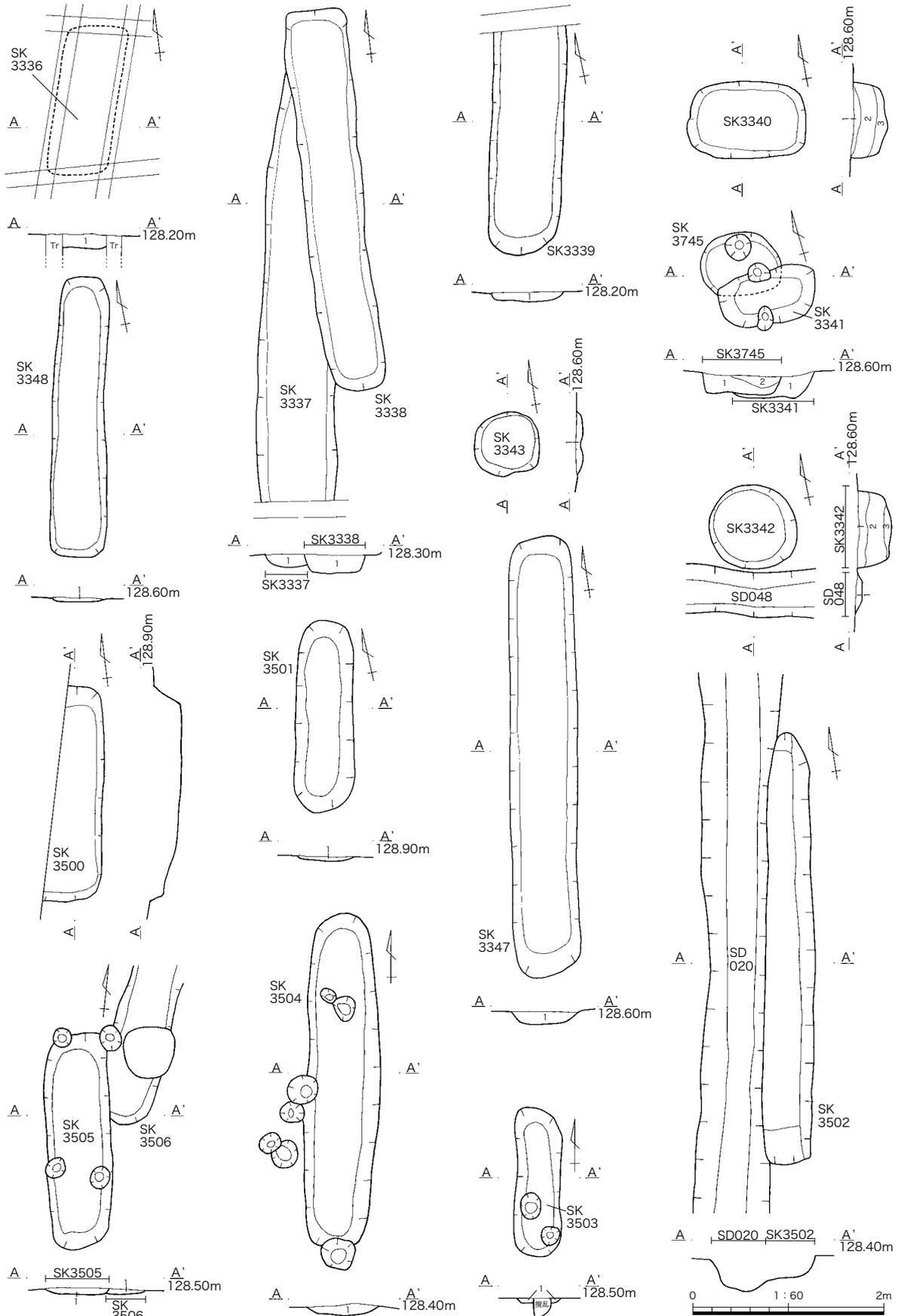
第295圖 土坑 (160) SK3291~3302・3321



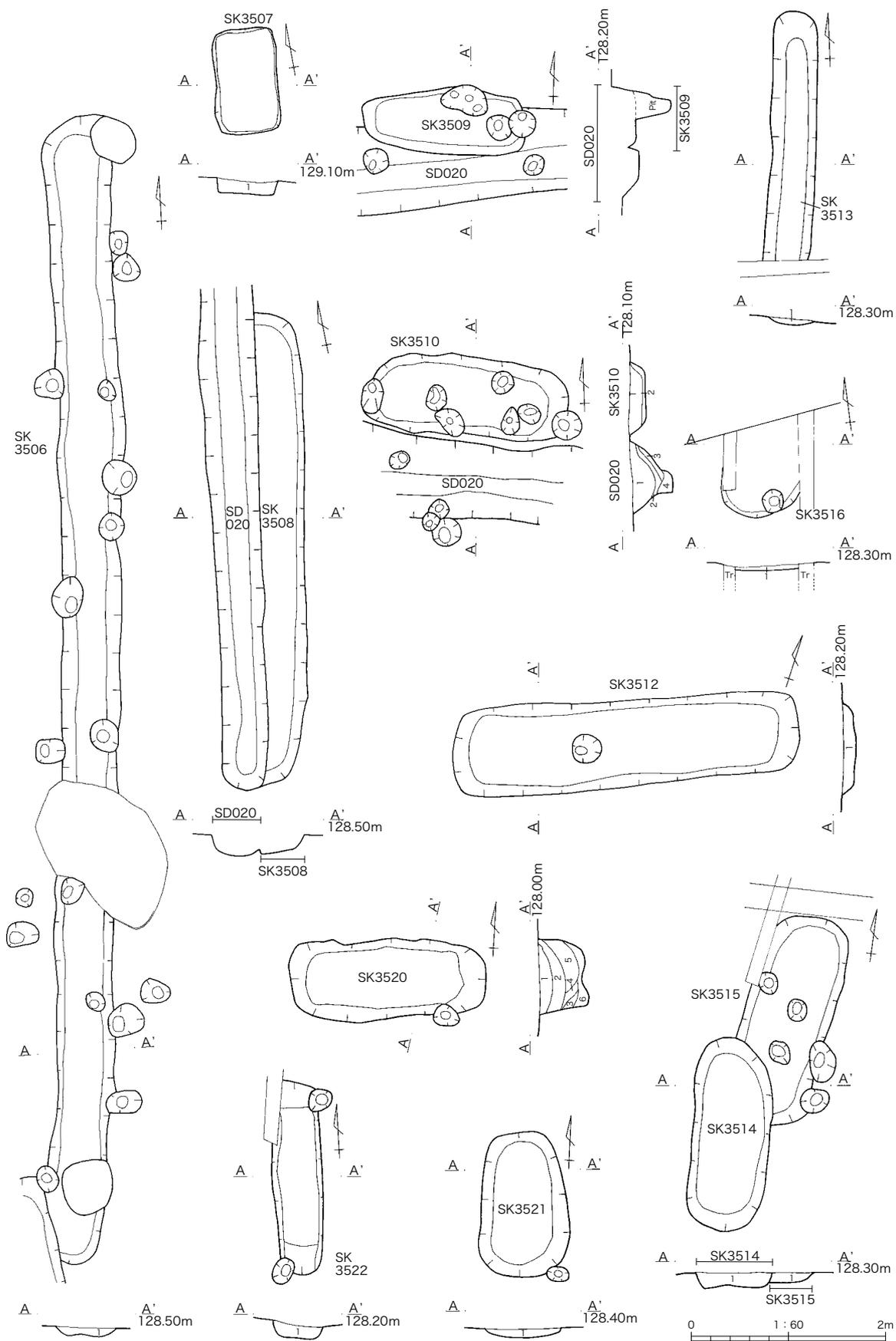
第296図 土坑(161) SK3303~3317



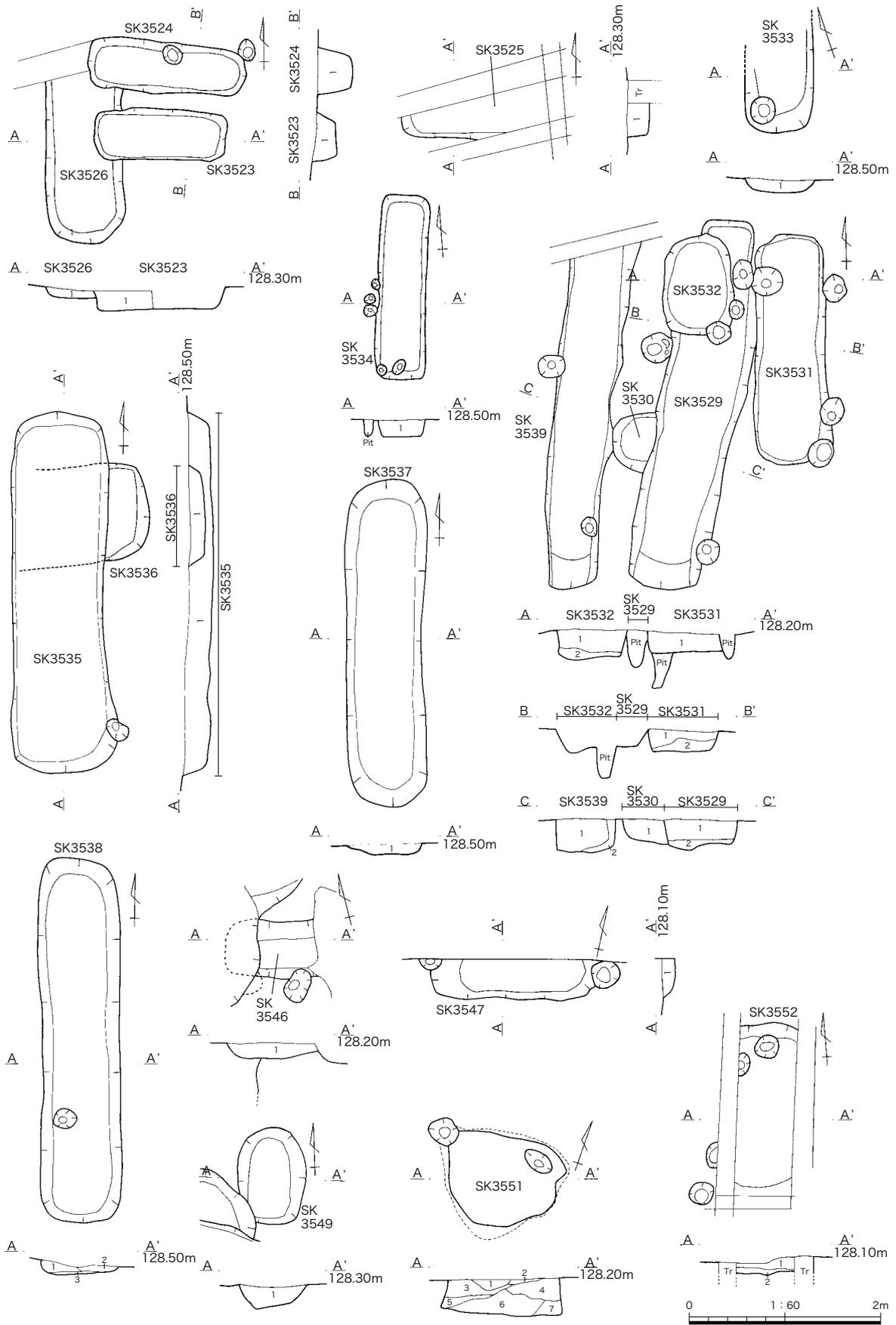
第297圖 土坑 (162) SK3318~3320・3322~3335



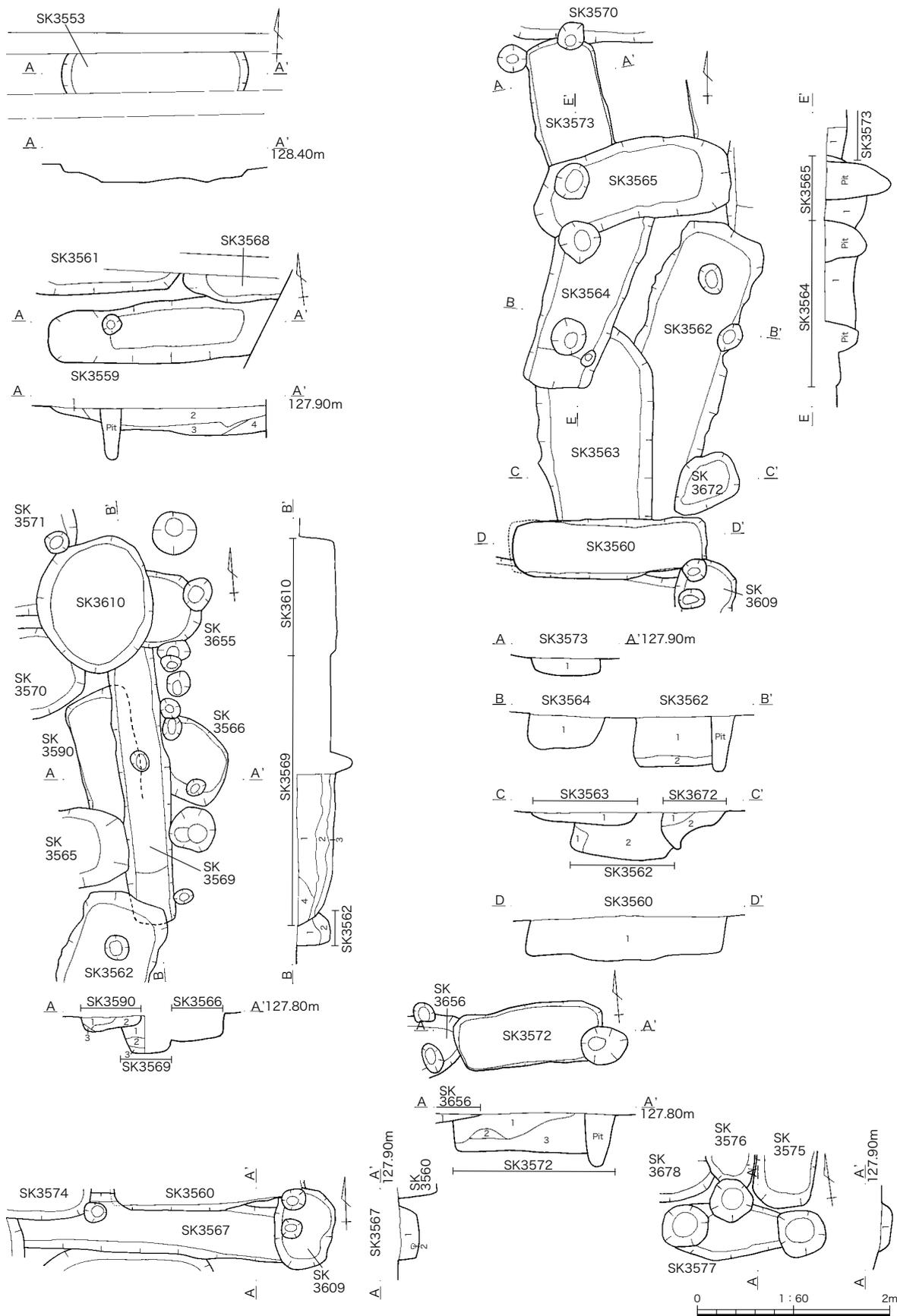
第298図 土坑 (163) SK3336~3343・3347・3348・3500~3506・3745



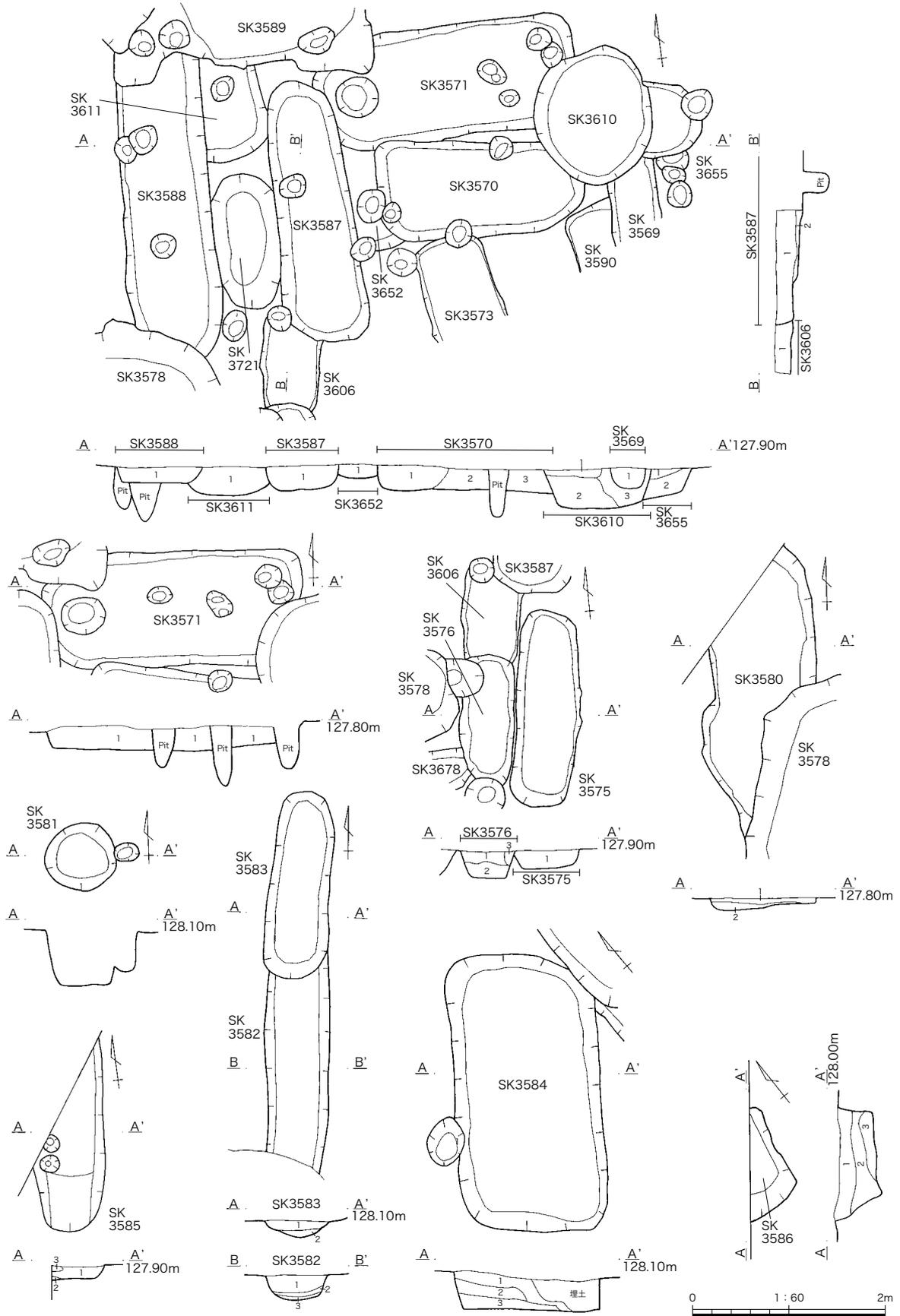
第299圖 土坑 (164) SK3506~3510・3512~3516・3520~3522



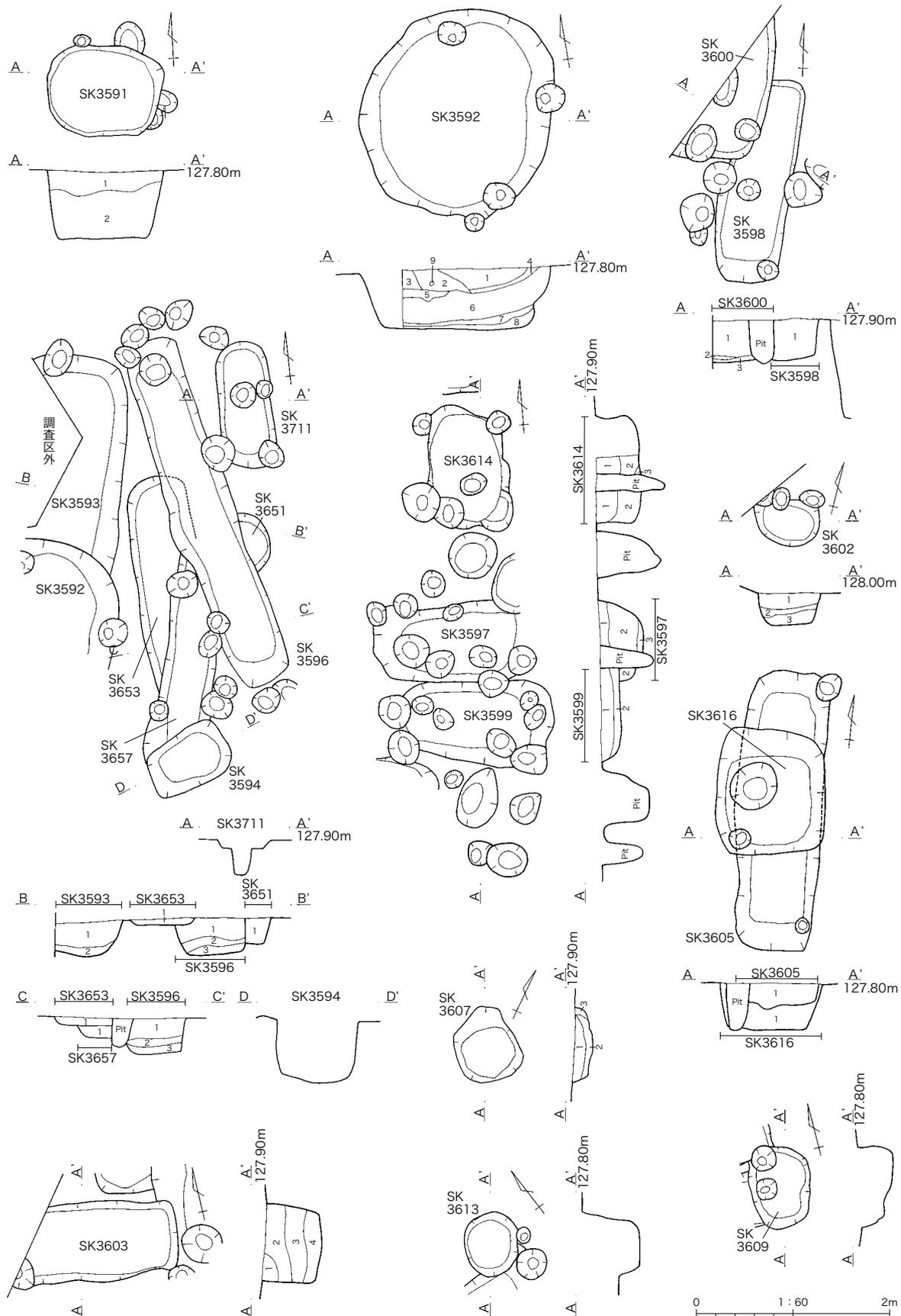
第300図 土坑(165) SK3523~3526・3529~3539・3546・3547・3549・3551・3552



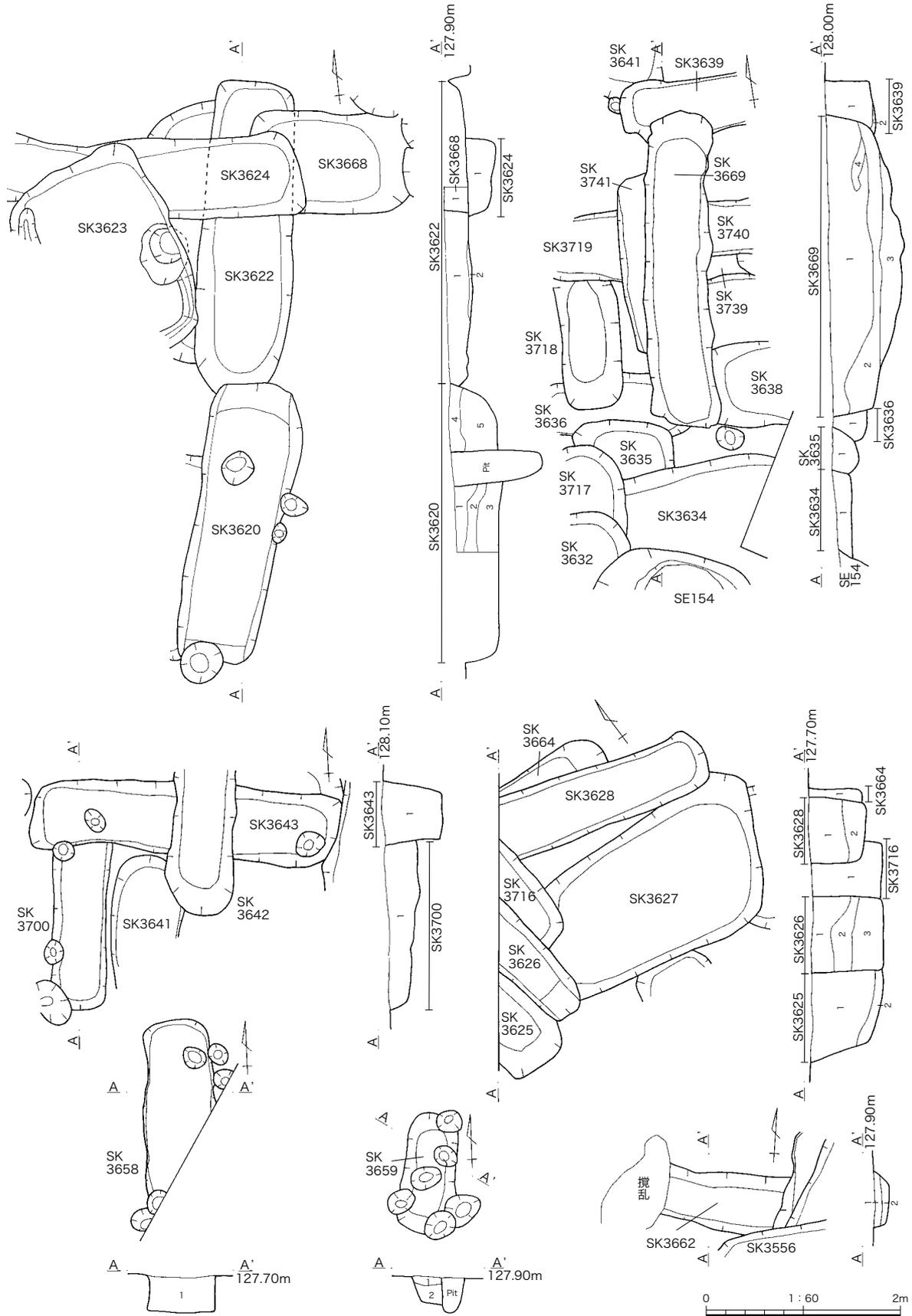
第301図 土坑 (166) SK3553・3559・3560・3562~3567・3569・3572・3573・3577・3590・3610・3656・3672



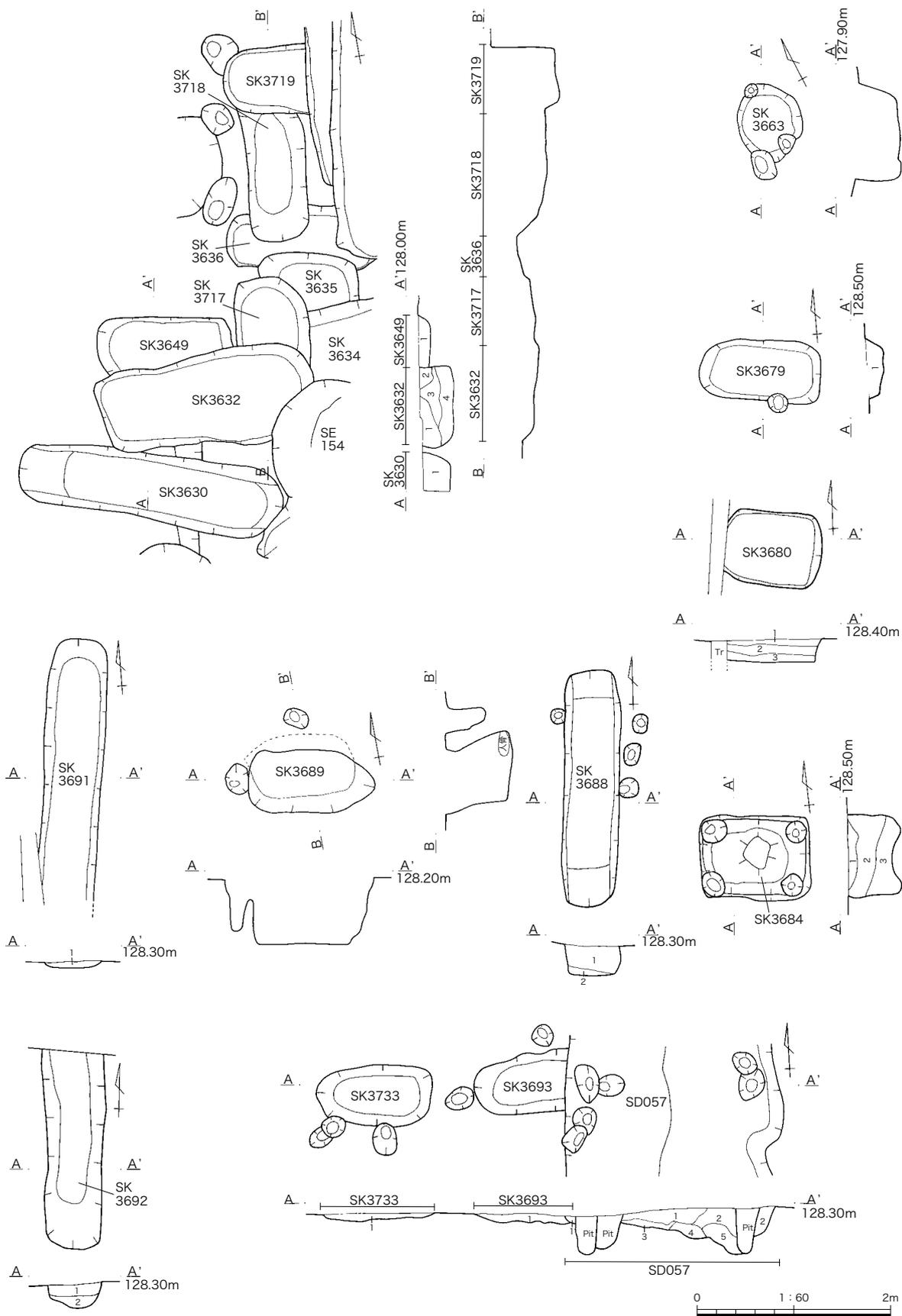
第302図 土坑 (167) SK3569~3571・3575・3576・3580~3588・3606・3610・3611・3652・3655



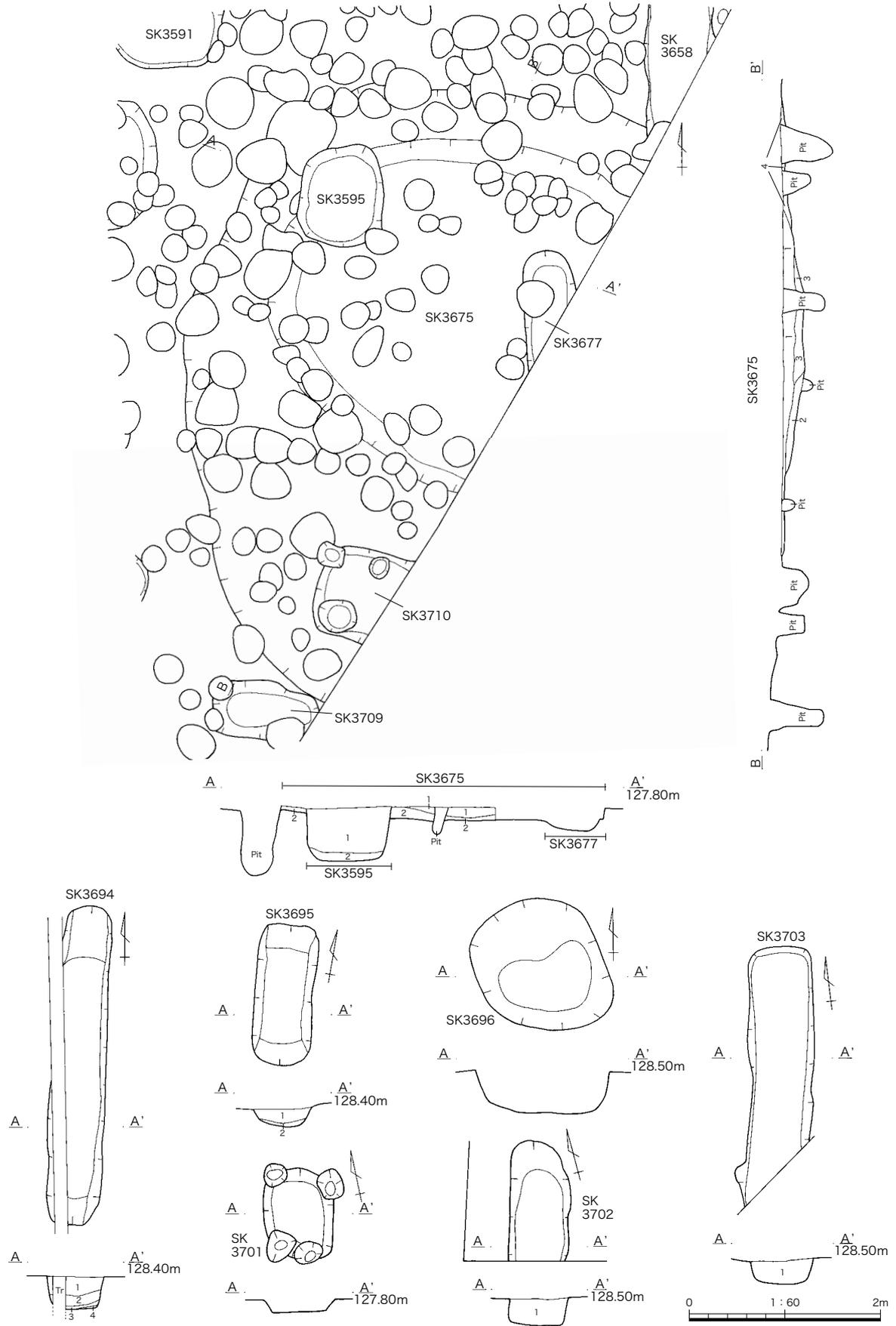
第303図 土坑 (168) SK3591~3594・3596~3600・3602・3603・3605・3607・3609・3613・3614・3616・3651・3653・3657・3711



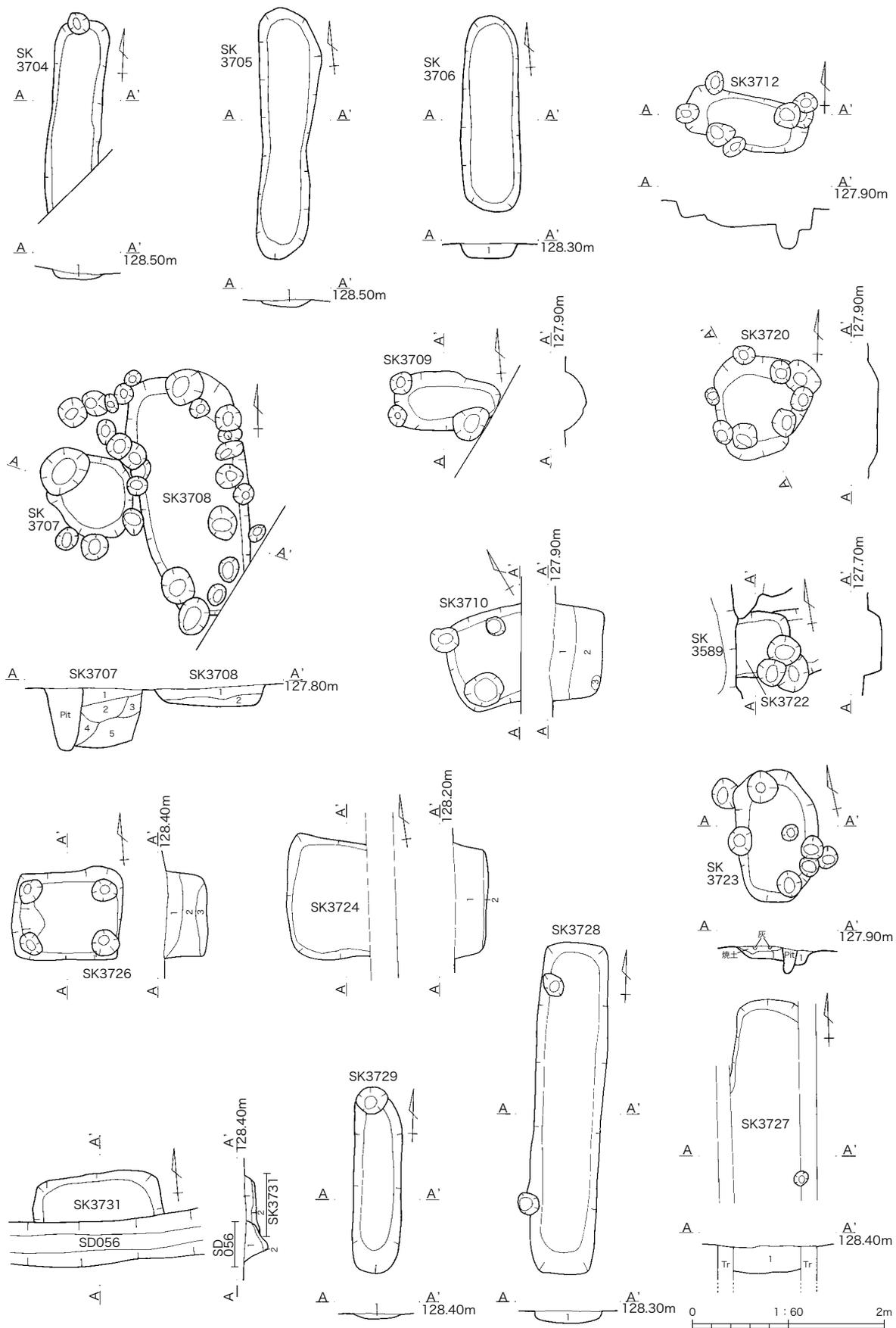
第304図 土坑(169) SK3620・3622・3624~3626・3628・3634~3636・3639・3643・3658・3659・3662・3664・3668・3669・3700・3716



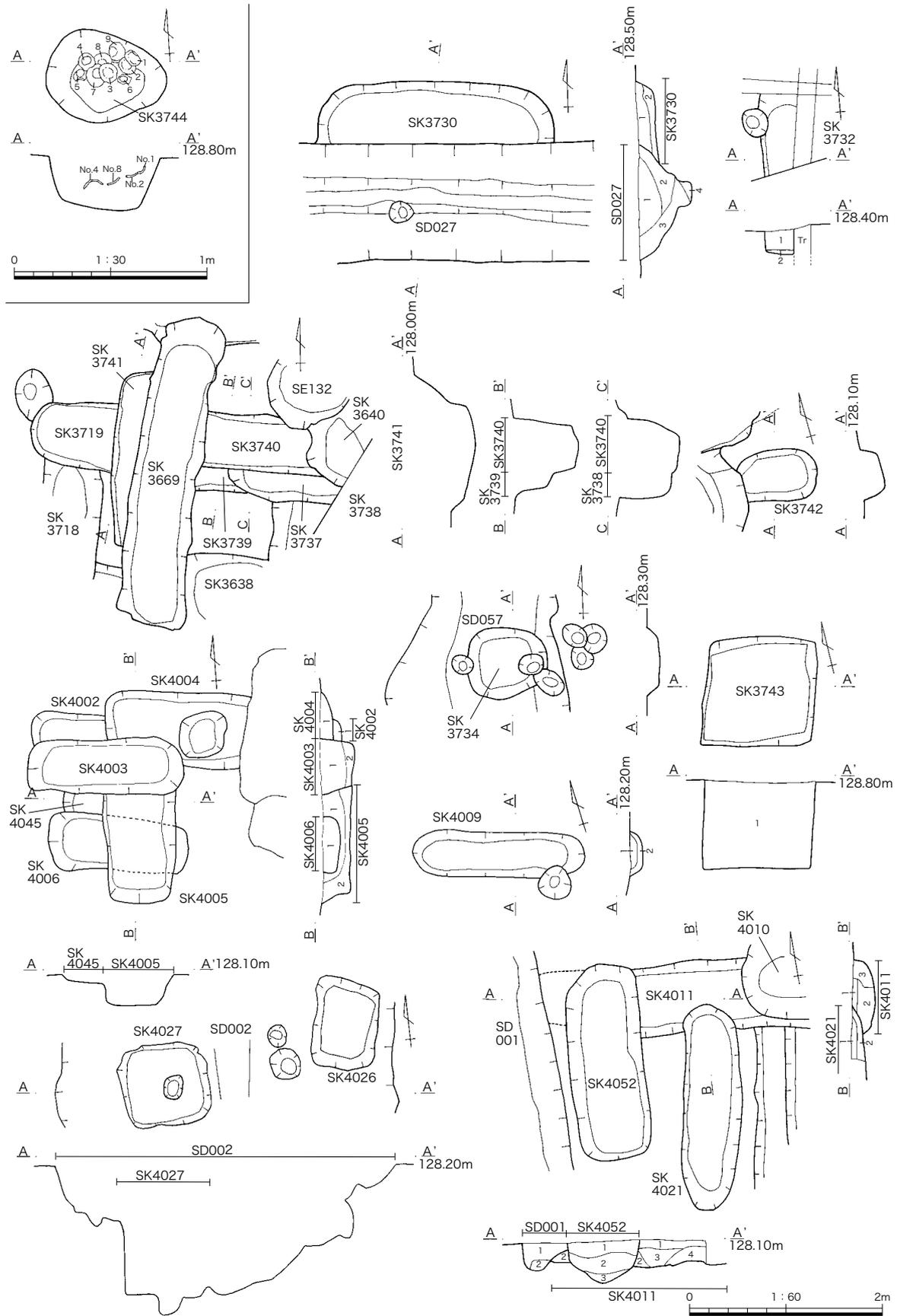
第305圖 土坑 (170) SK3630・3632・3636・3649・3663・3679・3680・3684・3688・3689・3691~3693・3717~3719・3733



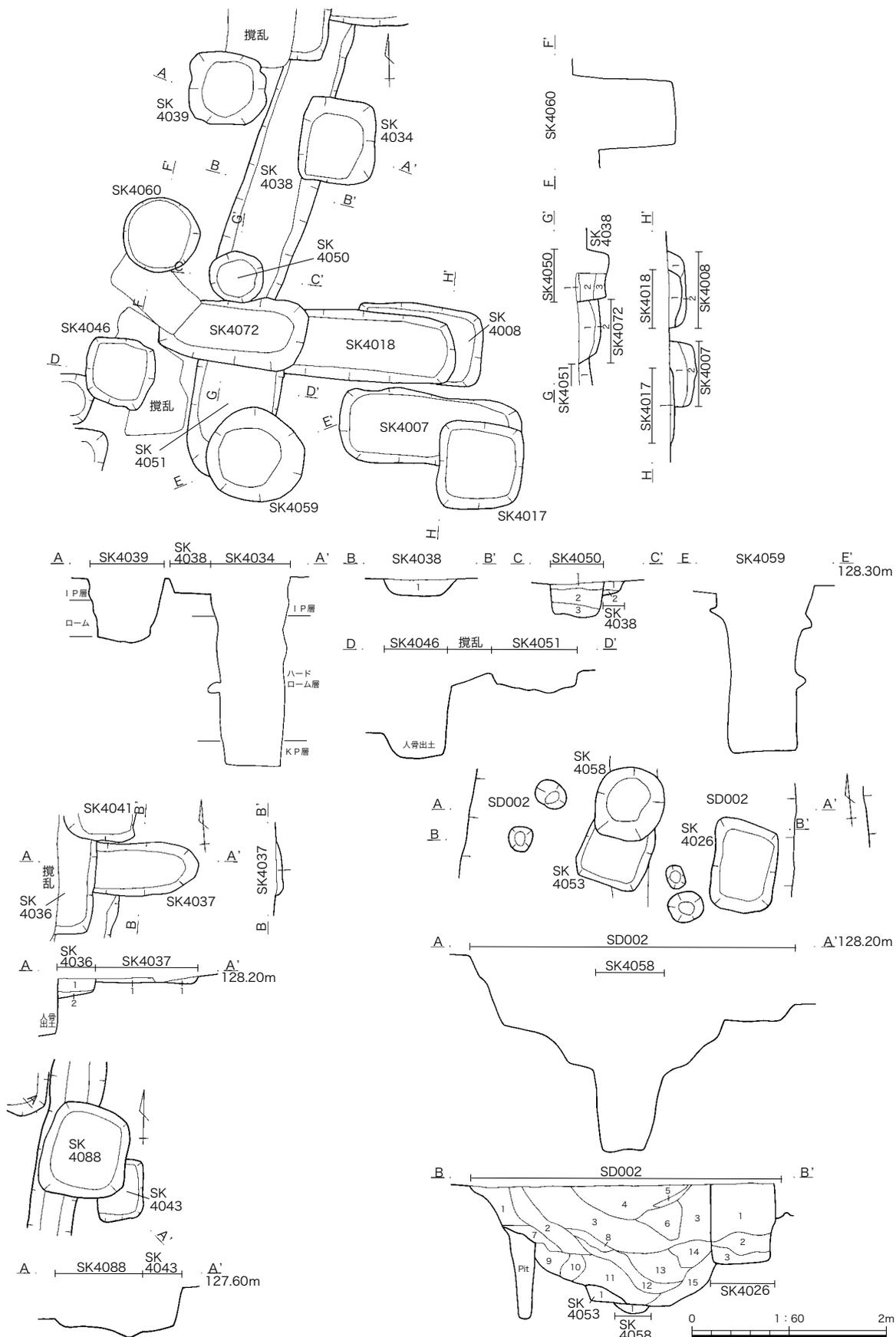
第306図 土坑 (171) SK3595・3675・3677・3694~3696・3701~3703



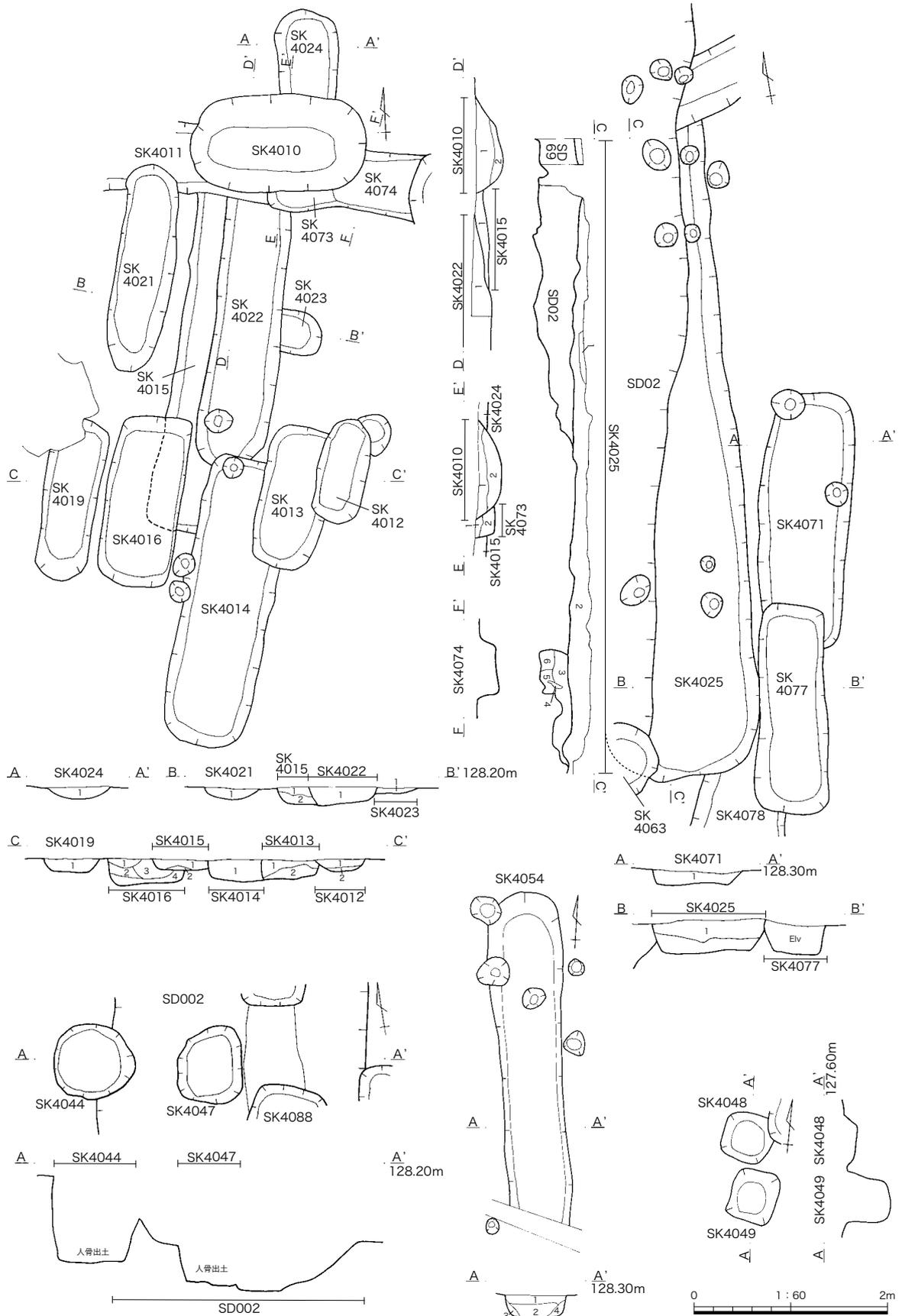
第307図 土坑 (172) SK3704~3710・3712・3720・3722~3724・3726~3729・3731



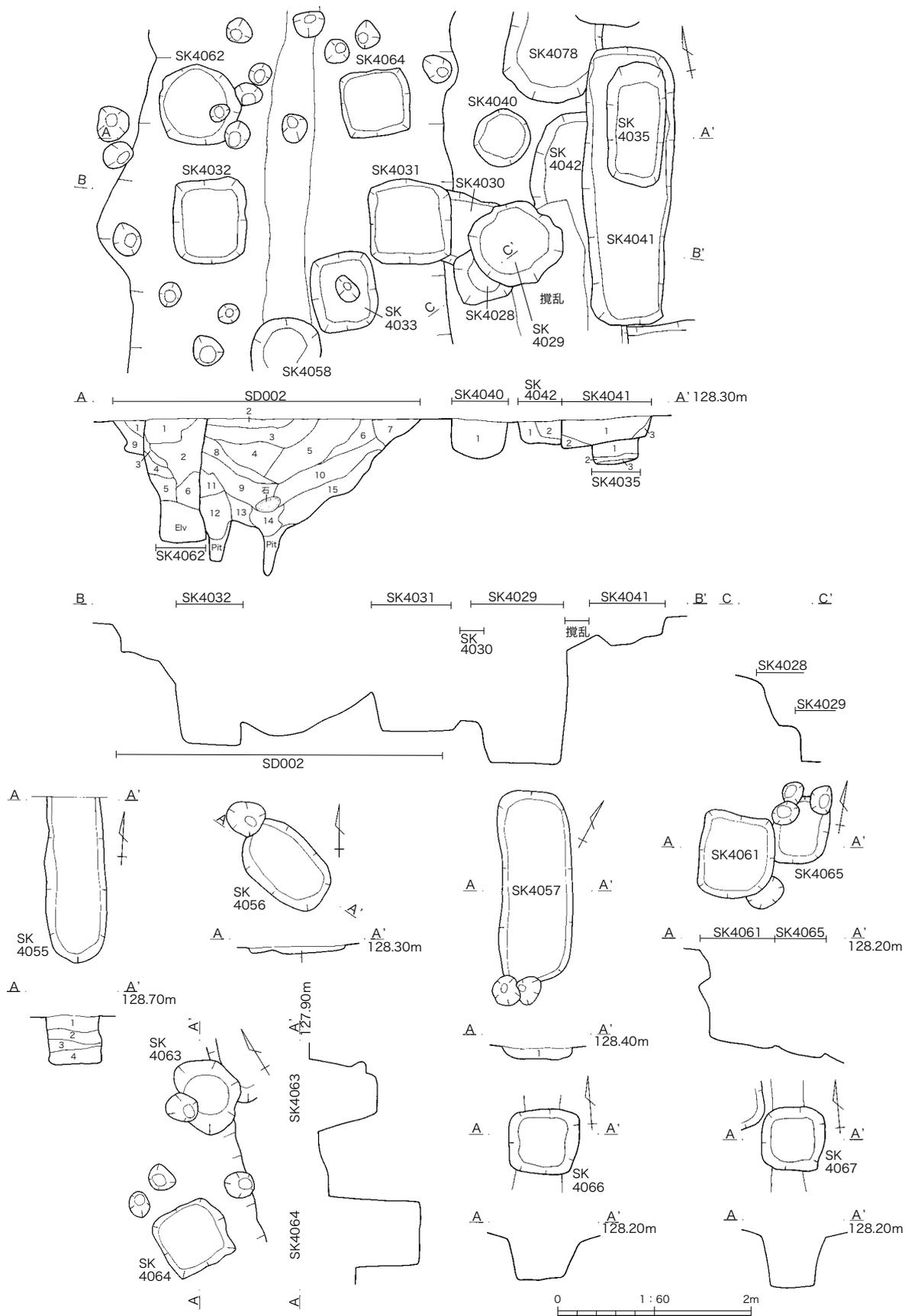
第308図 土坑(173) SK3730・3732・3734・3738~3744・4002~4006・4009・4011・4021・4027・4045・4052



第309図 土坑 (174) SK4007・4008・4017・4018・4026・4034・4036~4039・4043・4046・4050・4051・4053・4058~4060・4072・4088

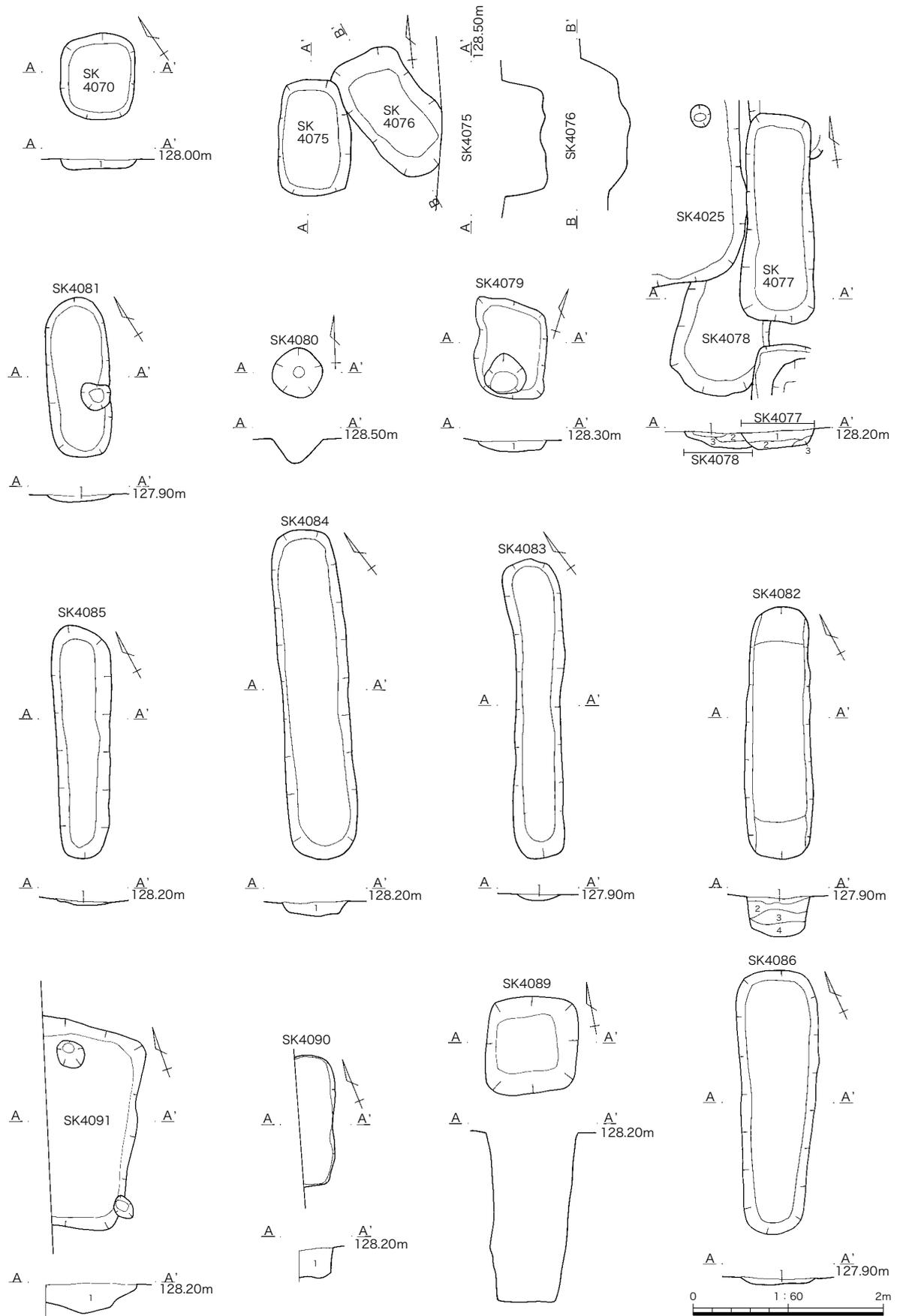


第310図 土坑 (175) SK4010・4012~4016・4019・4021~4025・4044・4047~4049・4054・4071・4073・4074・4077

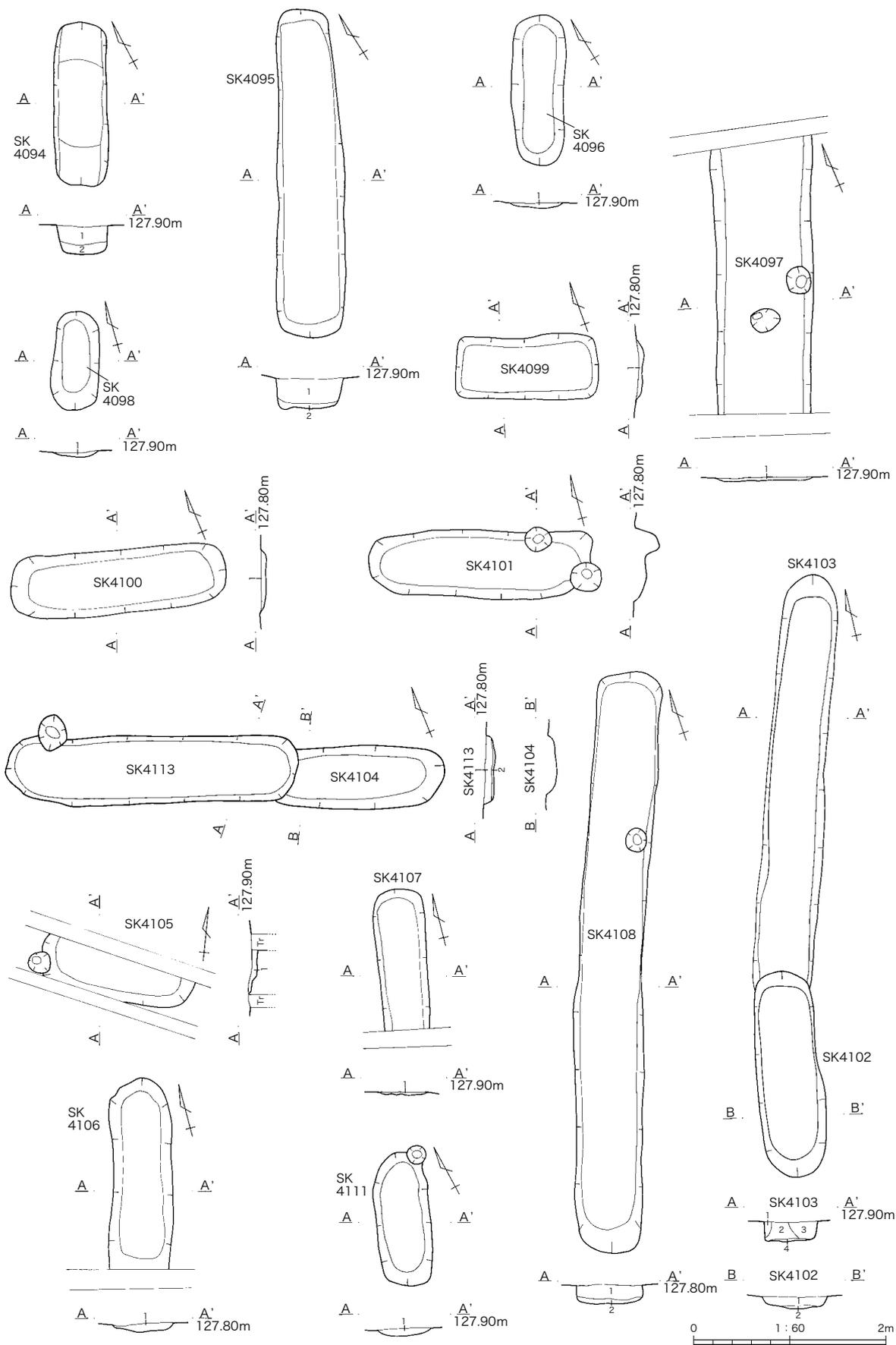


第311図 土坑 (176) SK4028~4033・4035・4040~4042・4055~4057・4061~4067

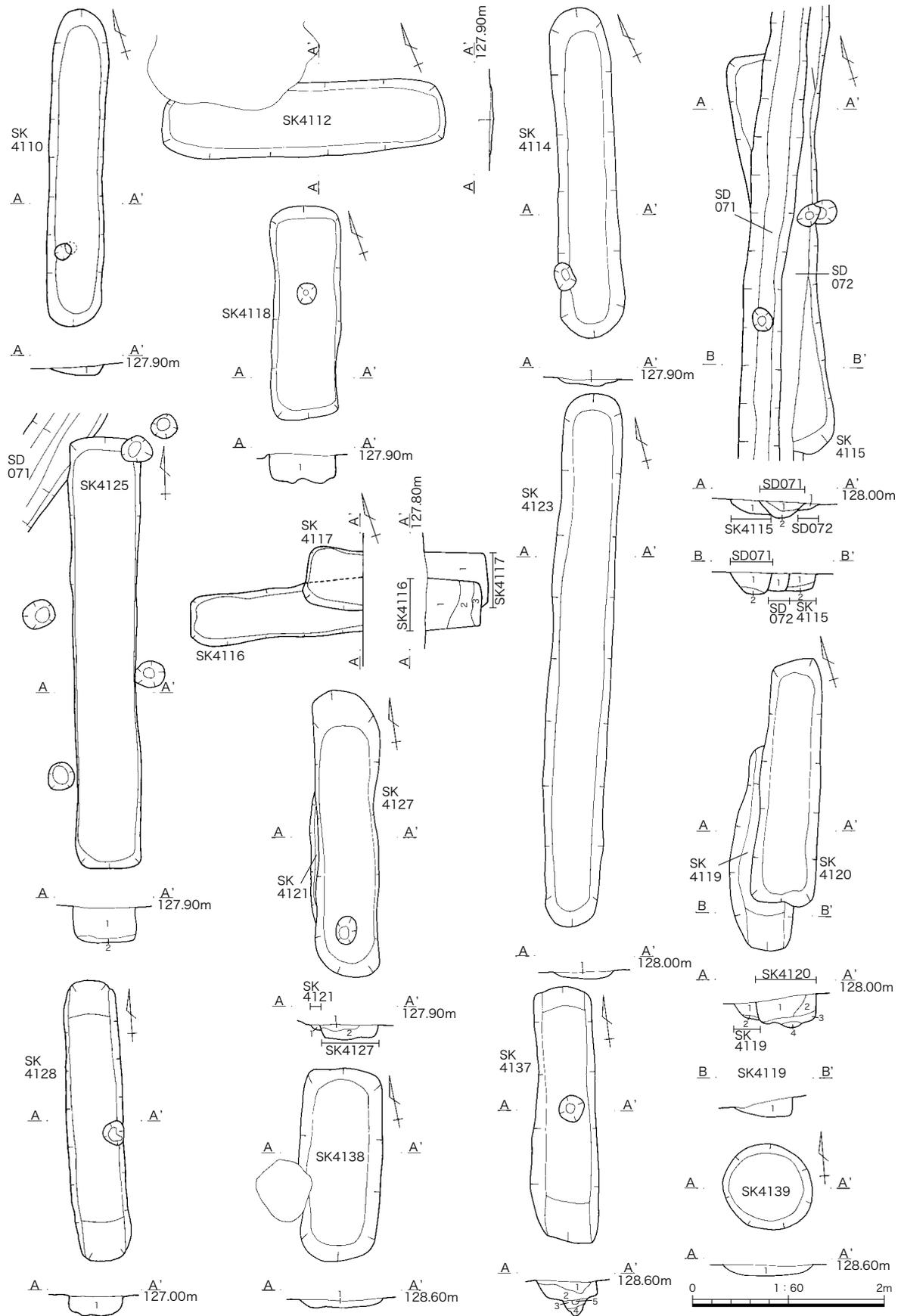
第3章 確認された遺構



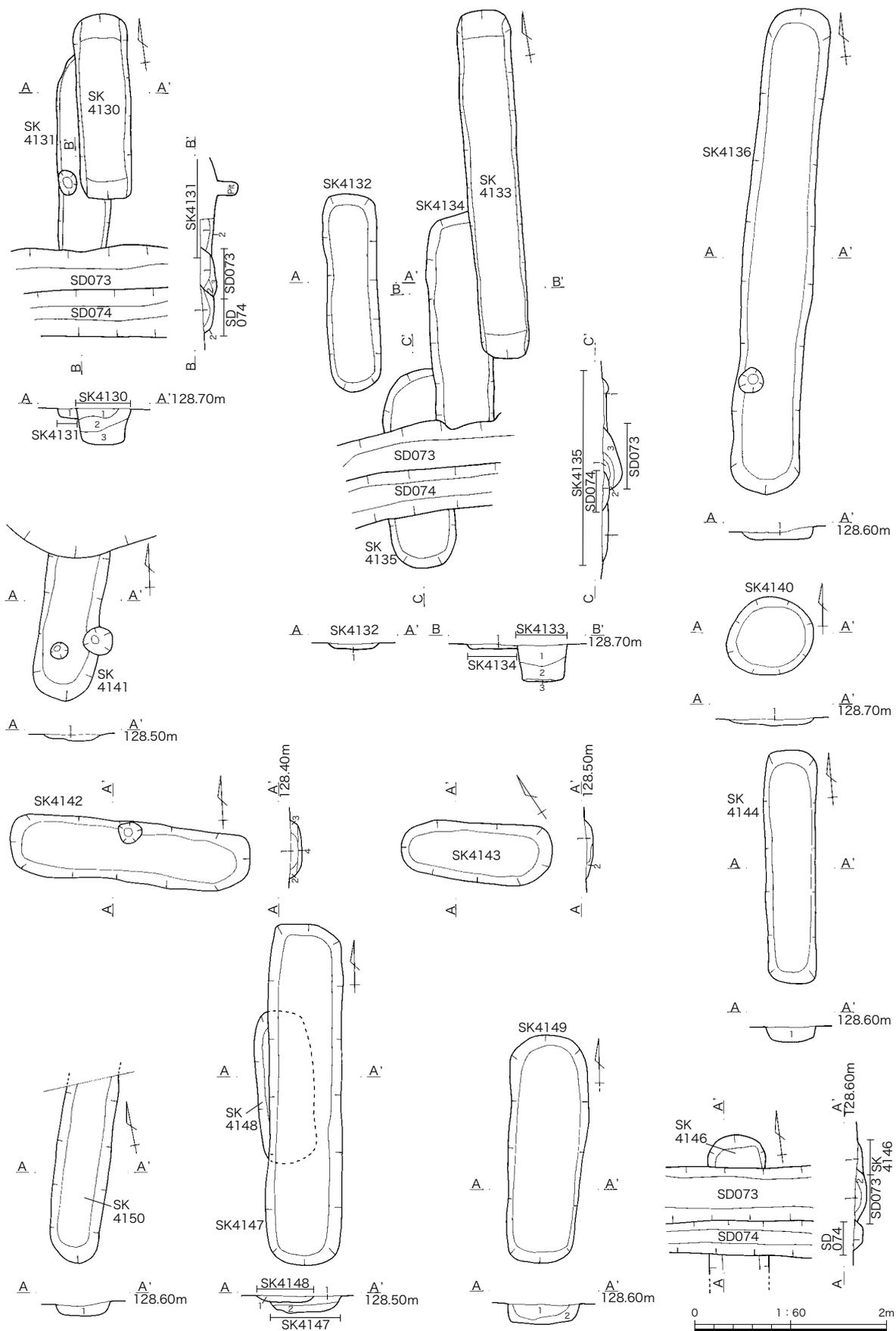
第312図 土坑 (177) SK4070・4075~4086・4089~4091



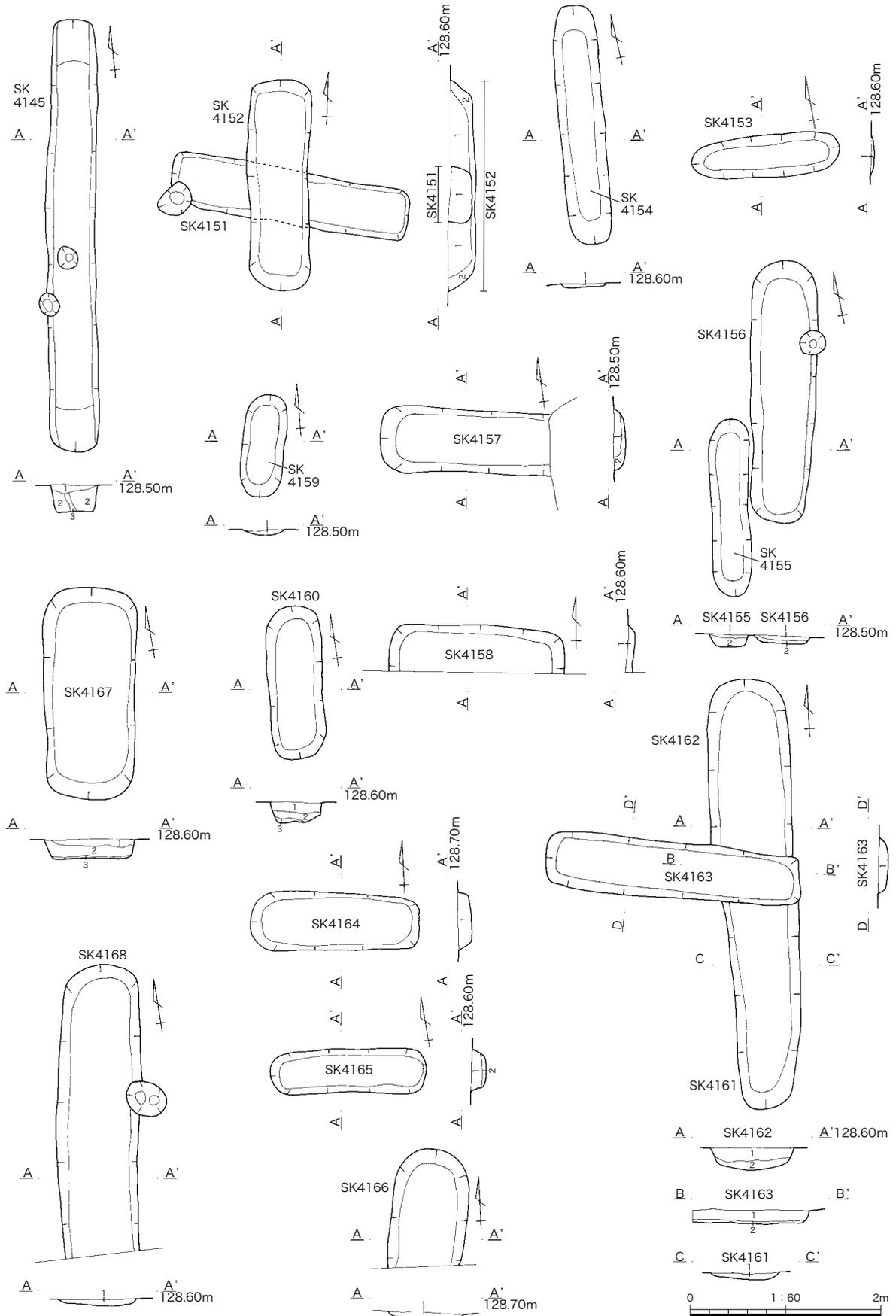
第313圖 土坑 (178) SK4094~4108・4111・4113



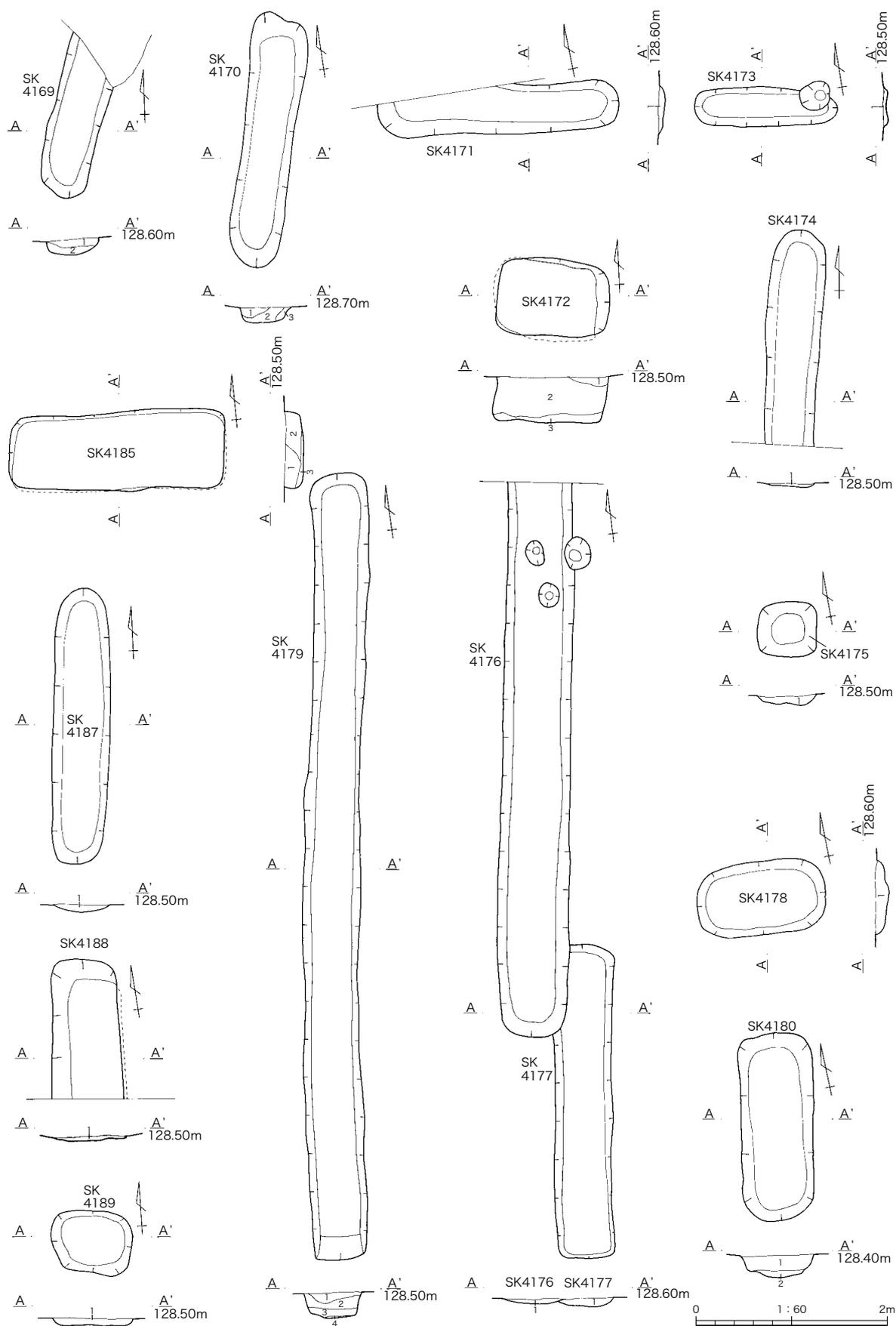
第314図 土坑 (179) SK4110・4112・4114~4121・4123・4125・4127・4128・4137~4139



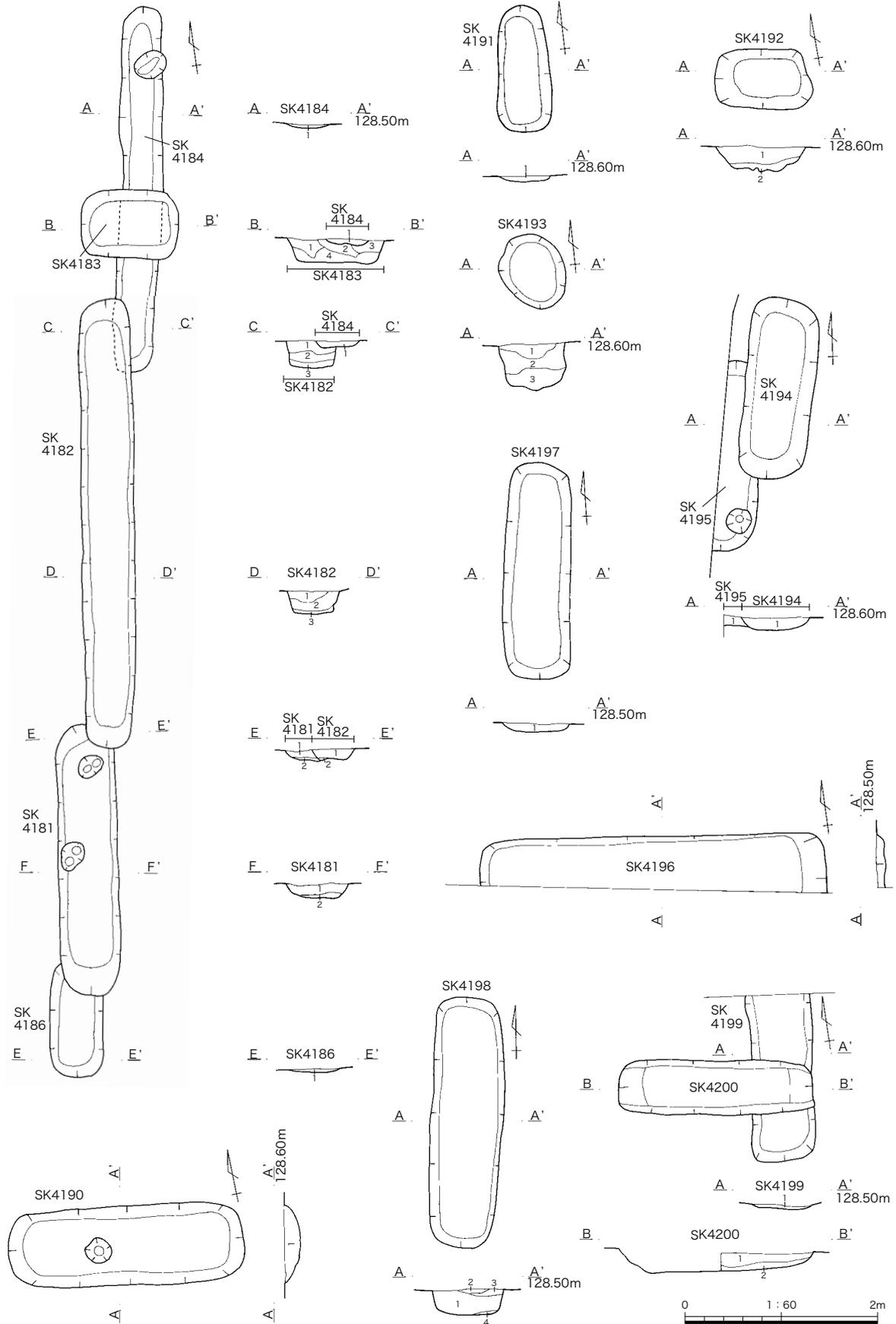
第315圖 土坑 (180) SK4130~4136 · 4140~4144 · 4146~4150



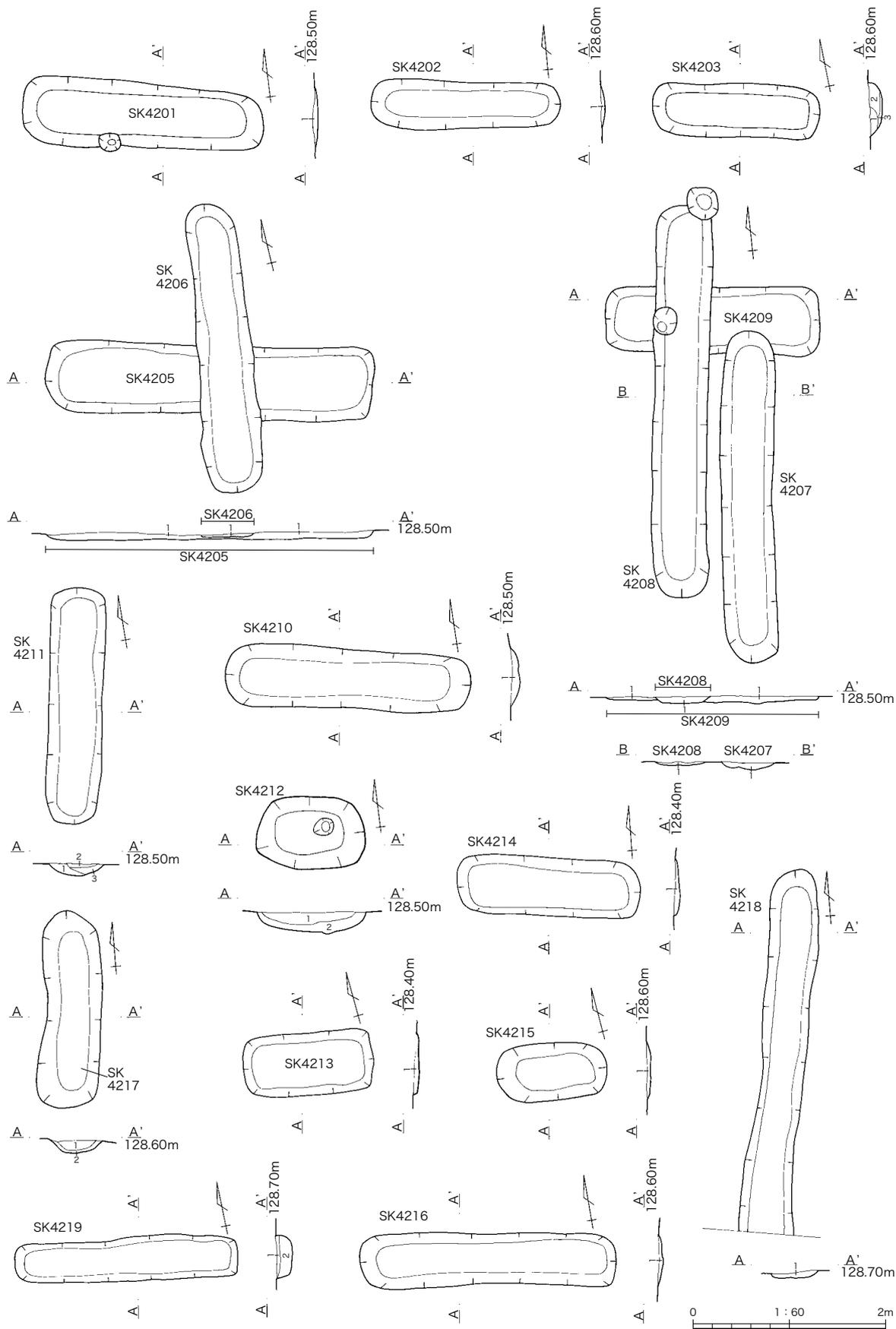
第316図 土坑 (181) SK4145・4151~4168



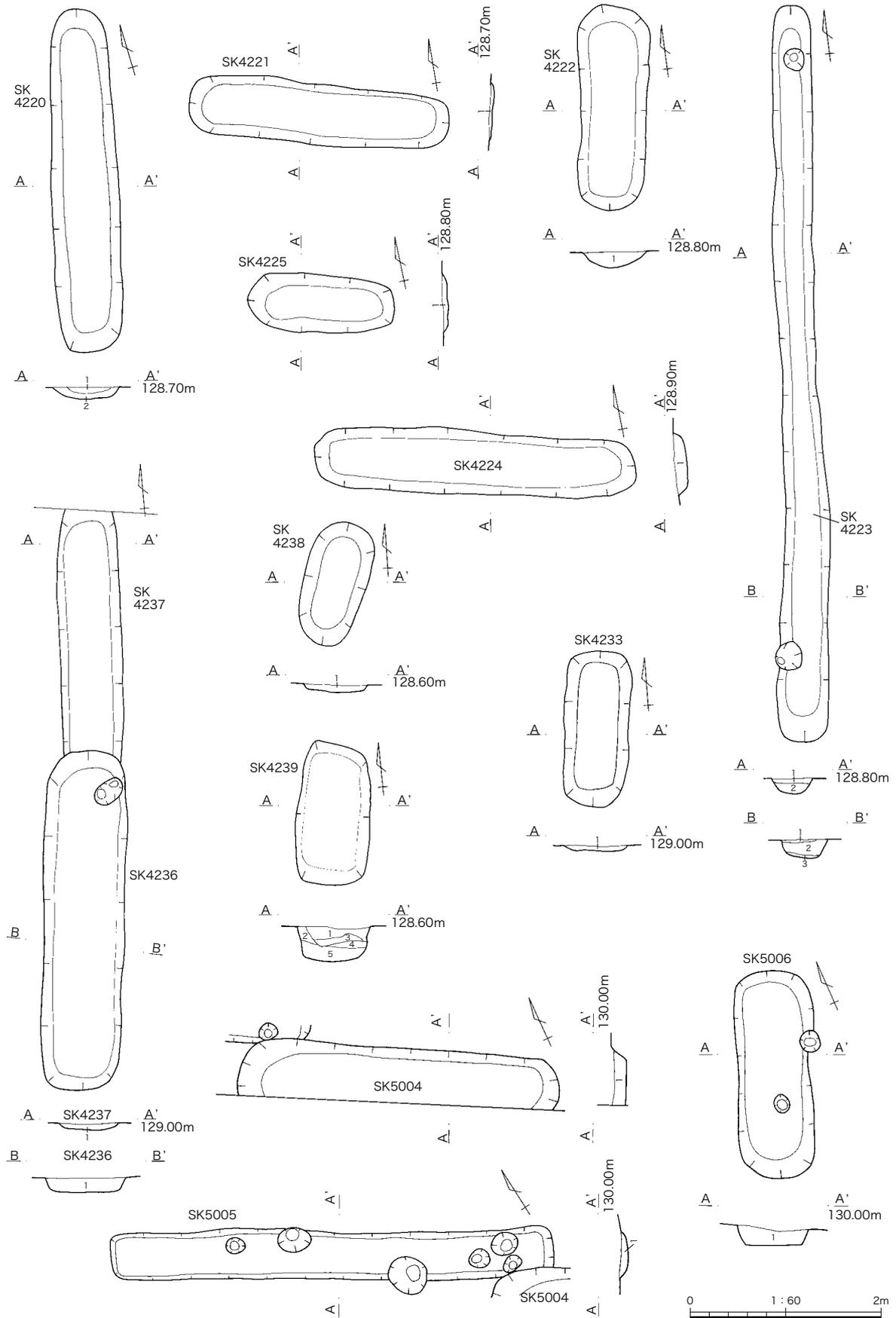
第317図 土坑 (182) SK4169~4180・4185・4187~4189



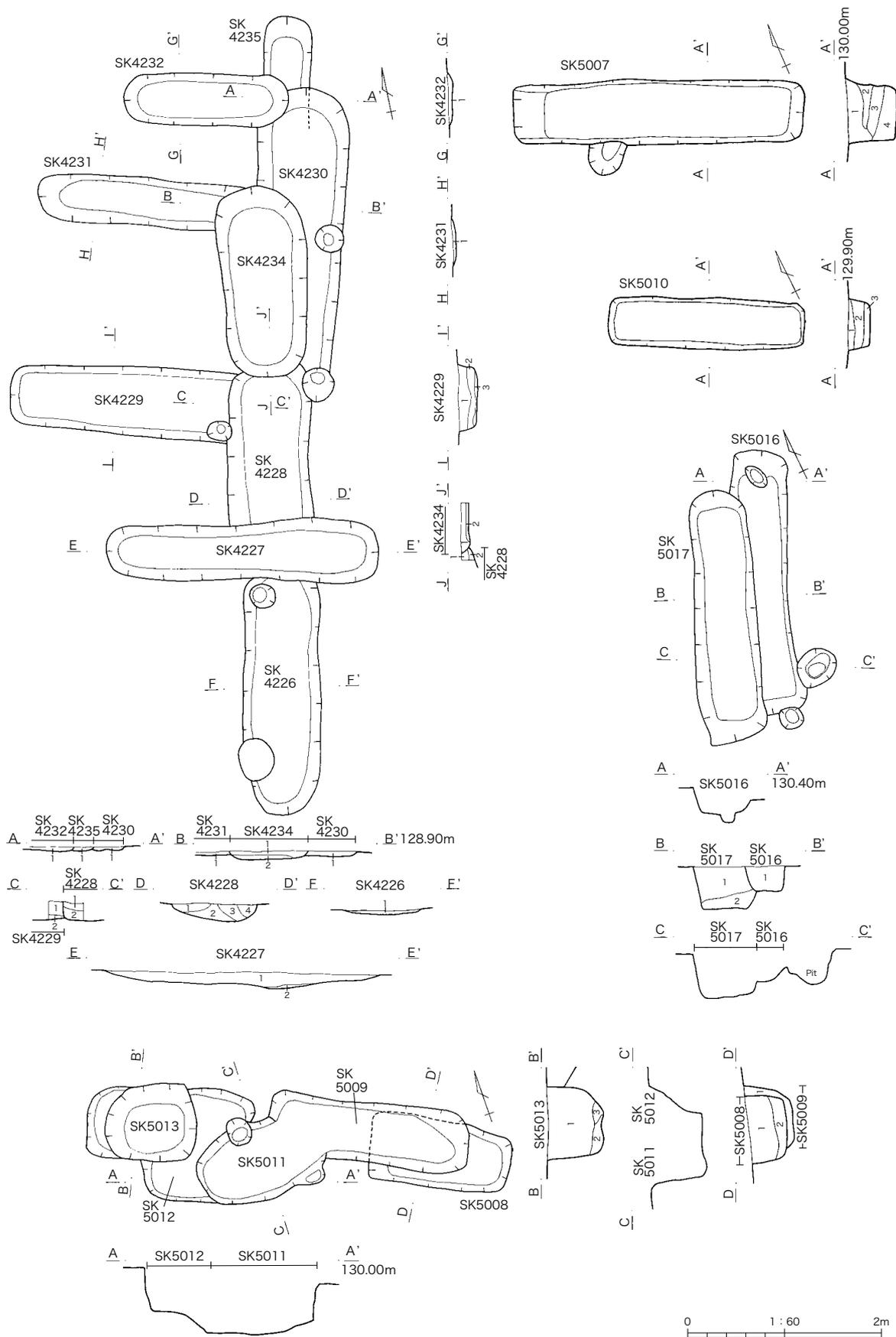
第318図 土坑 (183) SK4181~4184・4186・4190~4200



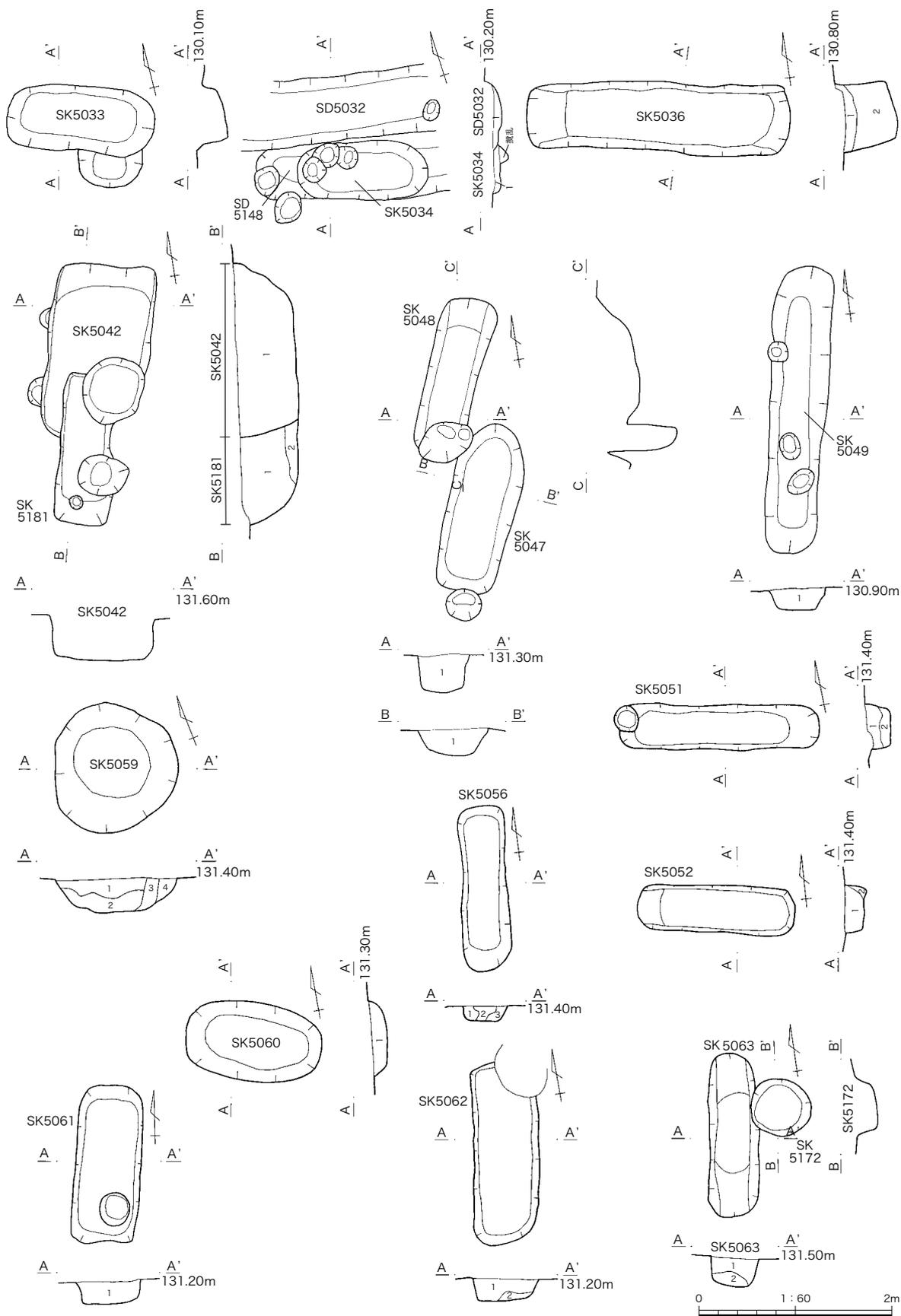
第319圖 土坑 (184) SK4201~4203・4205~4219



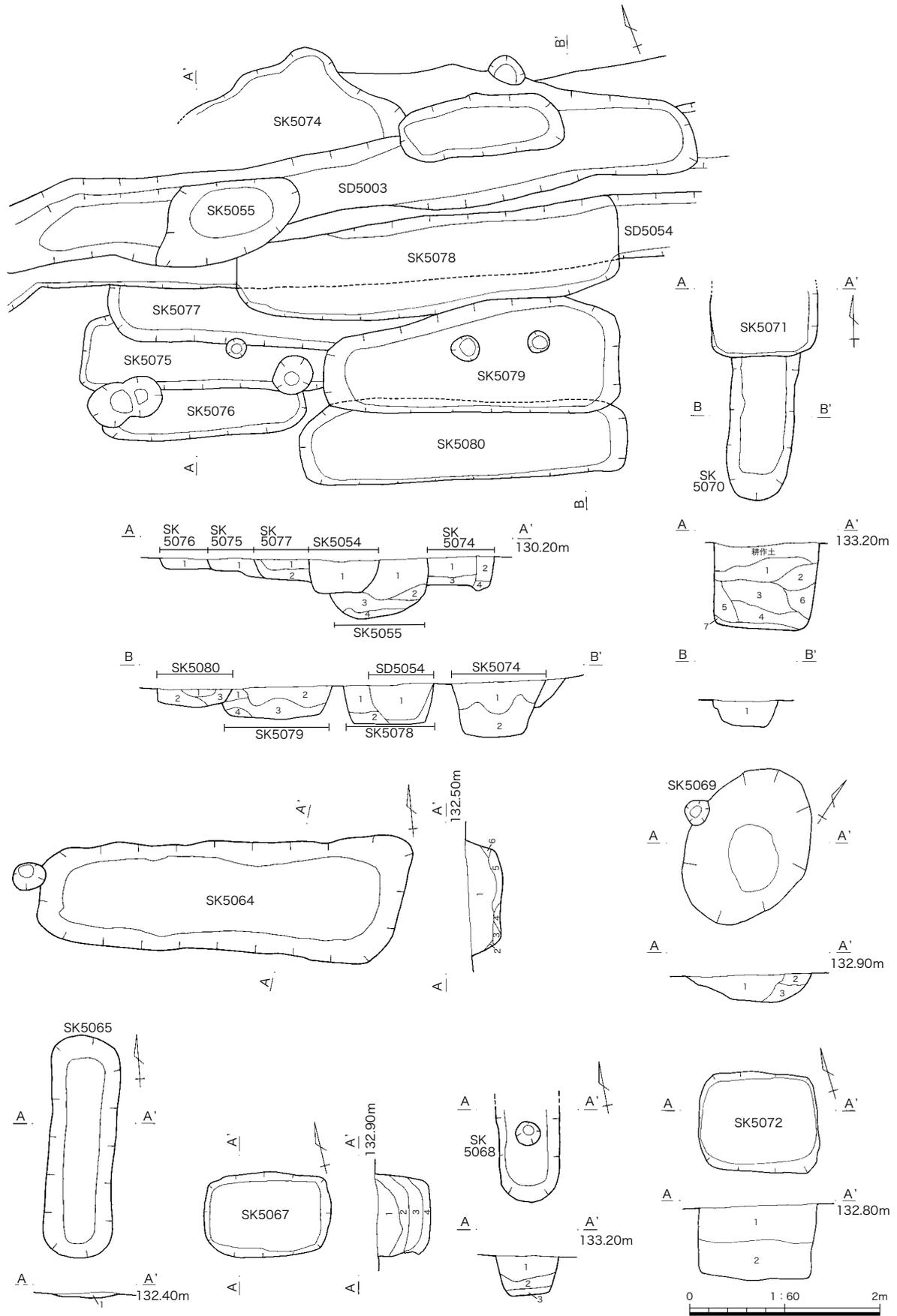
第320図 土坑 (185) SK4220~4225・4233・4236~4239・5004~5006



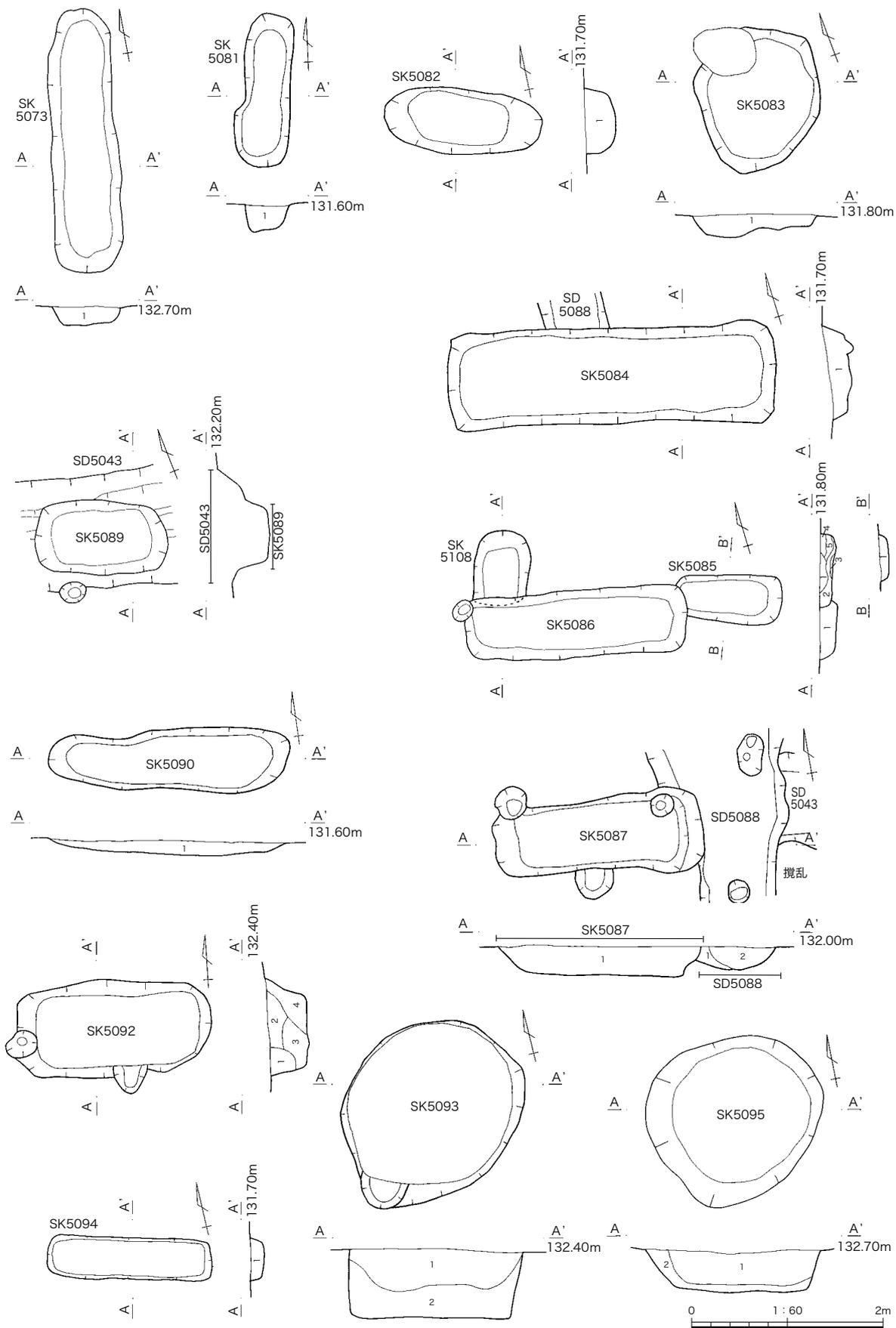
第321圖 土坑 (186) SK4226~4232・4234・4235・5007~5013・5016・5017



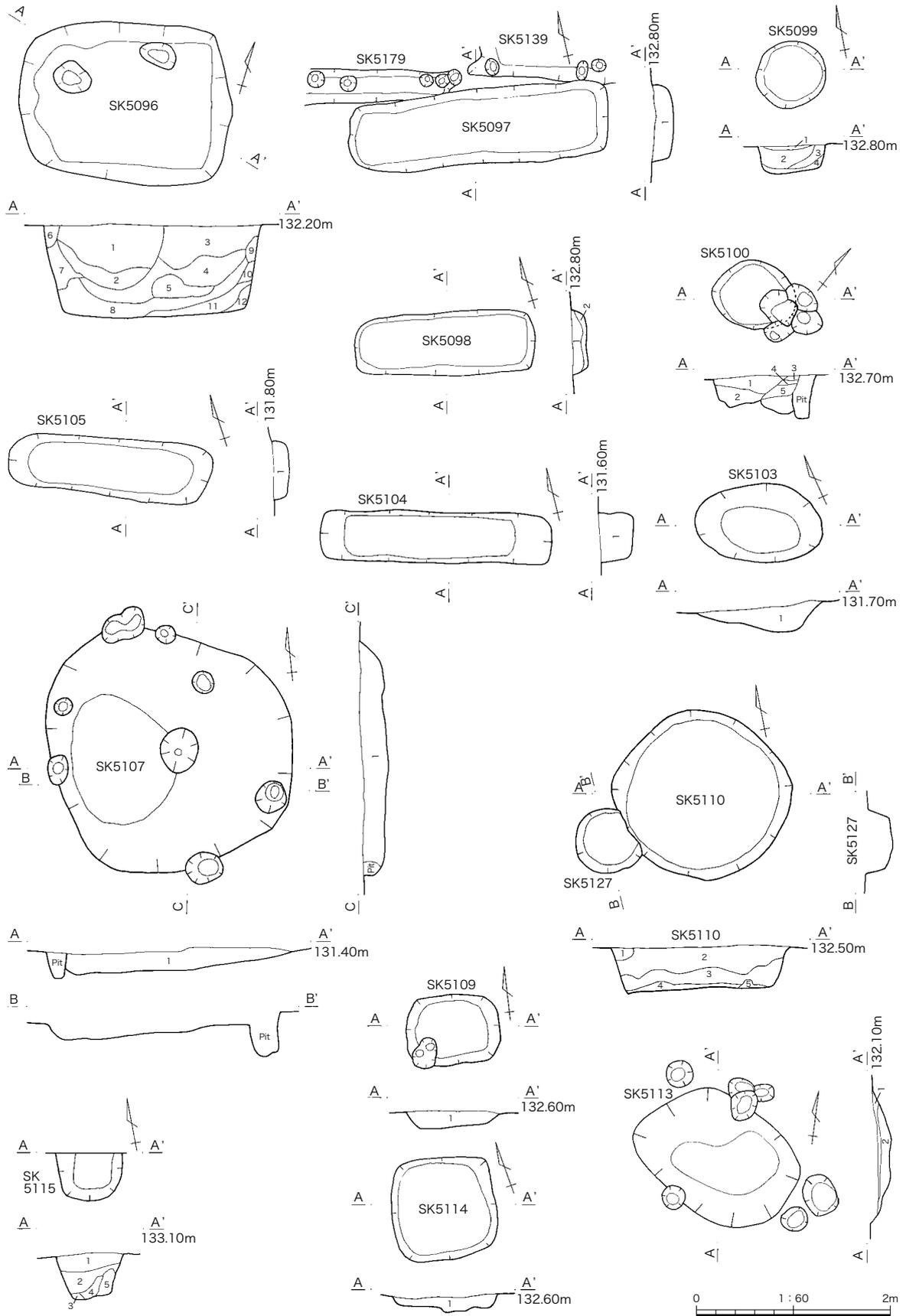
第 323 図 土坑 (188) SK5033・5034・5036・5042・5047~5049・5051・5052・5056・5059~5063・5172・5181



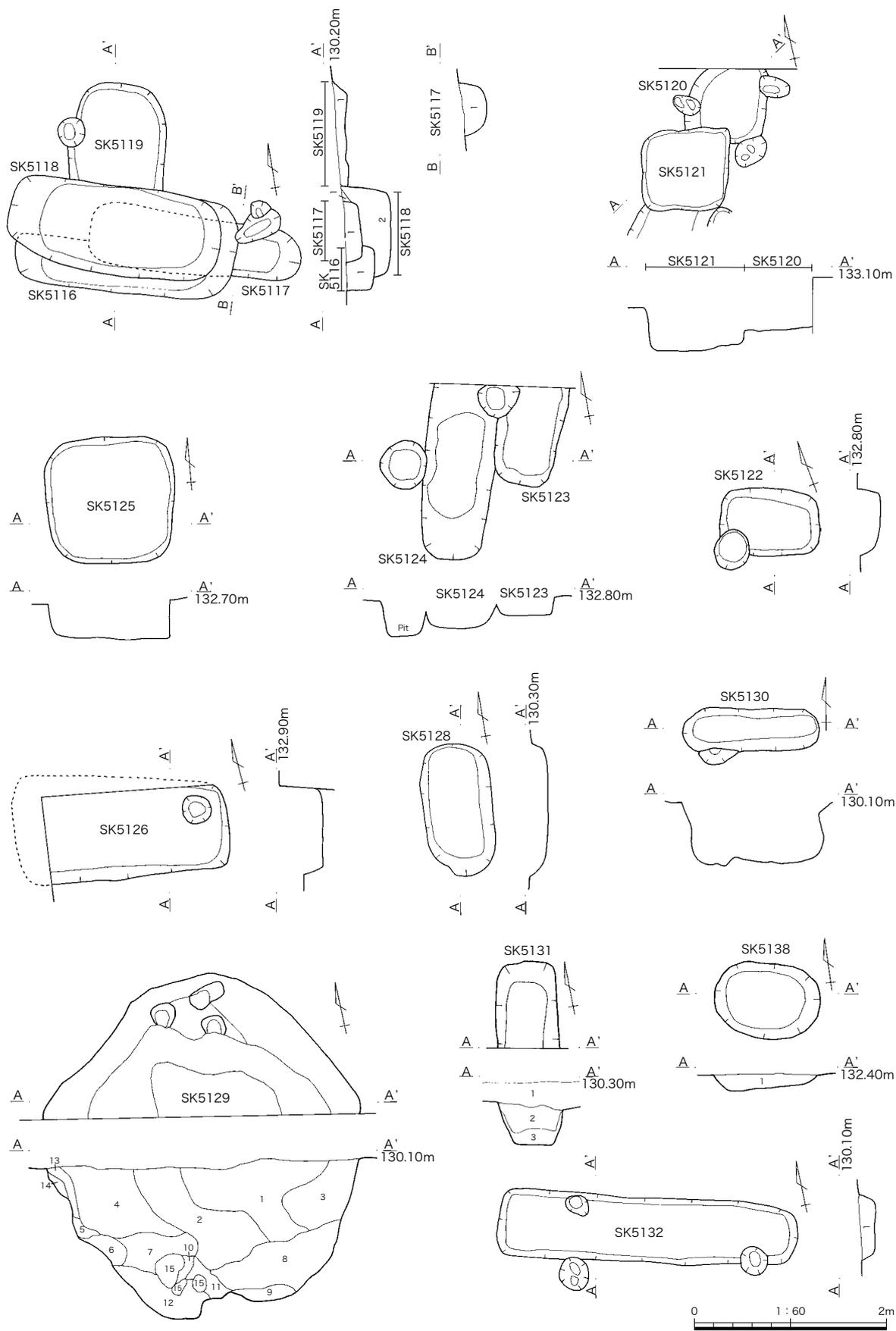
第324図 土坑(189) SK5055・5064・5065・5067~5072・5074~5080



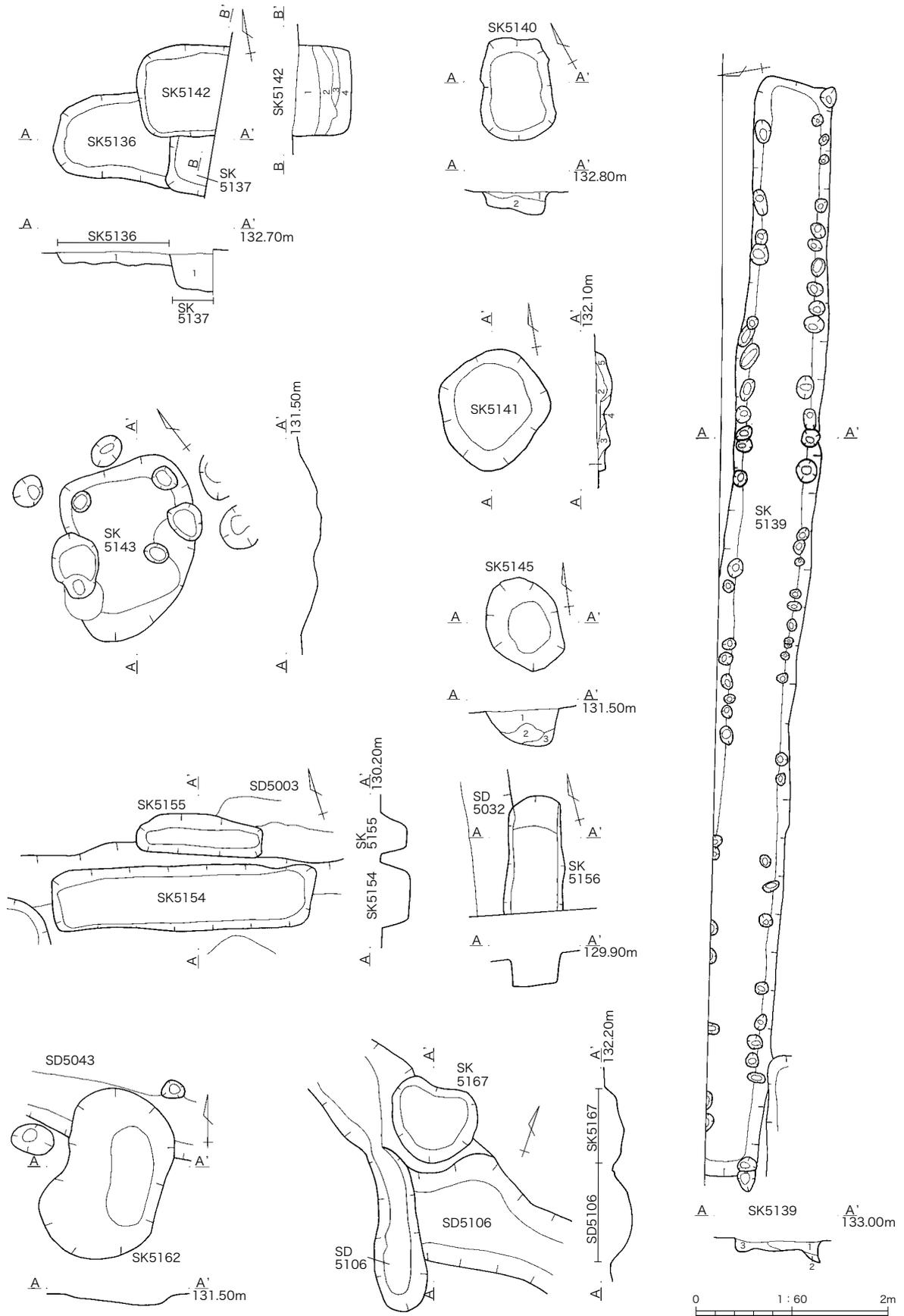
第325圖 土坑 (190) SK5073・5081~5087・5089・5090・5092~5095・5108



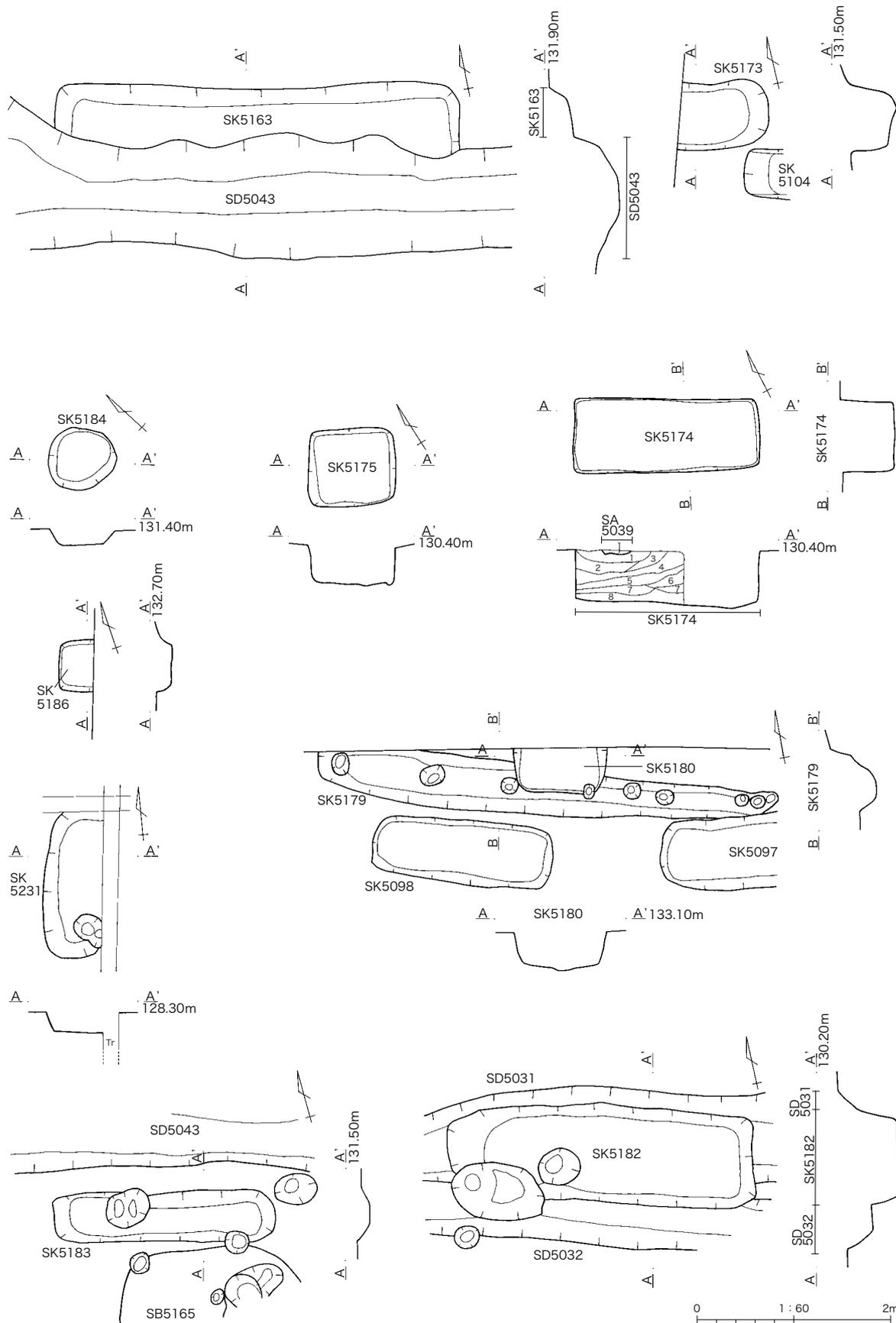
第326図 土坑 (19) SK5096~5100・5103~5105・5107・5109・5110・5113~5115・5127



第 327 图 土坑 (192) SK5116~5126 · 5128~5132 · 5138



第328図 土坑 (193) SK5136・5137・5139~5143・5145・5154~5156・5162・5167



第329図 土坑 (194) SK5163・5173~5175・5179・5180・5182~5184・5186・5231